沼津市文化財調査報告書　第99集

八兵衛洞遺跡（第３次）

第二東名No. 9・10・11・12地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沼津市―５

２０１０

沼津市教育委員会
中日本高速道路株式会社

八兵衛洞遺跡調査区全景

第 3 号溝状遺構の土層断面

第 3 号溝状遺構全景

例　　言

1．本書は沼津市足高字尾上46－５他に所在する八兵衛洞（はちべえぼら）遺跡（二東No.９・10・11・12地点）の発掘調査報告書である。

2．八兵衛洞遺跡（二東No.９～12地点）の発掘調査は、日本道路公団静岡建設局（現 中日本高速道路株式会社東京支社）が建設する第二東海自動車道の建設に先立ち、日本道路公団静岡建設局と沼津市の協議に基づいて沼津市が受託し、平成10年度に「平成10年度 第二東海自動車道埋蔵文化財発掘調査受託事業」として踏査および確認調査を行った後、調査範囲を確定して本調査を行った。

3．本調査は確認調査の結果に基づき実施された。調査期間は次の通りである。

【事業期間】

平成10年４月１日～平成11年３月31日／平成11年４月１日～平成12年３月31日

【現地調査期間】

平成10年10月15日～平成11年３月31日／平成11年４月12日～７月９日

4．発掘調査の関係者は以下のとおりである。

【平成10・11年度関係者】

事業委託者	日本道路公団静岡建設局	局　長	小泉 光政
事業受託者	沼津市	市　長	斎藤　衛
事業主体者	沼津市教育委員会	教育長	五月女 武（H10）
			長澤 靖夫（H11）
事業担当者	沼津市教育委員会	社会教育課（H10）／文化振興課（H11）	
	社会教育課長	杉山　智（H10）	
	文化振興課長	小池 一廣（H11）	
	課長補佐	川村 栄治	主幹兼文化財調査係長　鈴木 裕篤
調査担当者	主幹兼文化財調査係長	鈴木 裕篤	
	臨時嘱託	山田 康雄	

5．整理作業については、平成20年度に遺物の洗浄・註記、現地写真や記録類などの基礎的作業を行い、平成21年度は遺構図の作成、遺物実測、原稿執筆、写真撮影を行って、報告書を刊行した。なお、主要な剥片石器については㈱ラングへの委託業務によって実測図を作成し、石斧・磨石・石皿などについては、作業補助員が実測を行った。また、調査現場で取得した遺構のデジタルデータについては、㈱シン技術コンサルへの委託業務（担当：荒井 洋）によって編集と図版化（紙出力）を行った。

【平成21年度関係者】

事業委託者	中日本高速道路株式会社　横浜支社沼津工事事務所長		中村 武夫（H18）
			高橋 昭一（H19）
事業受託者	沼津市	市　長	栗原 裕康

事業主体者	沼津市教育委員会		教　育　長	工藤 達朗
事業担当者	沼津市教育委員会	文化振興課		
	文化振興課長	上原 正之		
	副　参　事	鈴木 裕篤	課長補佐	後藤　豊
	文化財調査係長	高尾 好之		
	指導主事	杉山 一永	倉地　憲	佐野 貴明
整理担当者	主　　査	池谷 信之		
	主　　事	小崎　晋		
	臨時嘱託	北 佳奈子	矢田 晃代	

6．整理作業は、池谷と北が担当し、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成は、整理補助員の大和田保子、工藤みさ子、笹原伊津子、高木美奈、高林千明、永田香、目黒上子、守屋智子の補助を得て、沼津市文化財センターにて行った。事務処理は、事務補助員 高島千明が担当した。

7．報告書本文の執筆は以下の通りに分担し、編集は池谷と北が行った。

・第Ⅲ章第４節（土器）・第５節、第Ⅳ章第４節、第Ⅴ章黒曜石産地分析、第Ⅵ章　池谷信之
・第Ⅳ章第３節（土器）　小崎　晋
・第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章第１節・第２節・第３節（遺構）・第４節（遺構、石器）、第Ⅳ章第１節・第２節（遺構）第３節（遺構、石器）　北佳奈子
・第Ⅲ章第３節（土器）、第Ⅳ章第２節（土器）　矢田晃代

8．本書に係わる八兵衛洞遺跡の発掘調査資料および出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係（沼津市文化財センター　〒410-0873　沼津市大諏訪46-1　TEL 055-952-0844）で保管している。

凡　　例

層位略号

新期スコリア層	新期SC	栗色土層	KU	富士黒土層	FB	漸移層	ZN
休場層上位	YLU	休場層中位	YLM	休場層下位	YLL	休場層下部黒色帯	BB0
第Ⅰスコリア層	SCⅠ	第Ⅰ黒色帯	BBⅠ	ニセローム層	NL	第Ⅱ黒色帯	BBⅡ
第Ⅱスコリア層	SCⅡ	第Ⅲ黒色帯	BBⅢ	第Ⅲスコリア層黒色帯1	SCⅢb1	第Ⅲスコリア層黒色帯2	SCⅢb2

黒曜石産地略号

黒曜石産地名	略　号	和田　土屋橋南	WDTM	蓼科　冷山	TSTY	箱根　上多賀	HNKT
和田　フヨーライト	WDHY	和田　古峠	WDHT	蓼科　双子山	TSHG	箱根　芦ノ湯	HNAY
和田　鷹山	WDTY	和田　高松沢	WOTM	天城　柏峠	AGKT	神津島　恩馳島	KZOB
和田　小深沢	WDKB	和田　ブドウ沢	WOBD	箱根　畑宿	HNHJ	神津島　砂糠崎	KZSN
和田　土屋橋北	WDTK	和田　牧ヶ沢	WOMS	箱根　鍛冶屋	HNKJ	神津島　砂糠崎X	KZSX
和田　土屋橋西	WDTN	諏訪　星ヶ台	SWHD	箱根　黒岩橋	HNKI	高原山　甘湯沢	THAY

なお、礫群一覧表中の略号と、石器一覧表中の石材略語については、遺物観察表中に示している。

目　　次

例言
第Ⅰ章　調査経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査事業の経過 …… 2
　第３節　整理作業経過 …… 5

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 6
　第１節　遺跡の位置と地理的環境 …… 6
　第２節　周辺遺跡と歴史的環境 …… 11
　第３節　基本土層 …… 15

第Ⅲ章　Ｅ地区（№９～11地点）の調査 …… 18
　第１節　Ｅ地区の概要 …… 18
　第２節　古墳時代以降の遺構と遺物 …… 23
　第３節　弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構と遺物 …… 32
　第４節　縄文時代の遺構と遺物 …… 72
　第５節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 99

第Ⅳ章　Ｄ地区（№12地点）の調査 …… 119
　第１節　Ｄ地区の概要 …… 119
　第２節　古代の遺構と遺物 …… 122
　第３節　縄文時代の遺構と遺物 …… 130
　第４節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 147

第Ⅴ章　自然科学的分析
　１．八兵衛洞遺跡の自然科学分析（１）　パリノ・サーヴェイ株式会社 …… 173
　２．八兵衛洞遺跡の自然科学分析（２）　パリノ・サーヴェイ株式会社 …… 180
　３．蛍光Ｘ線分析法による八兵衛洞遺跡の黒曜石産地推定　　池谷信之 …… 196

第Ⅵ章　調査成果 …… 205

遺物観察表 …… 209
写真図版

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図 …… 7
第２図　周辺地形と遺跡位置関係図 …… 9・10
第３図　周辺遺跡分布図 …… 12
第４図　標準土層 …… 16
第５図　グリッド設定図 …… 19
第６図　調査範囲図 …… 20
第７図　土層セクション図 …… 21・22
第８図　古墳時代以降遺構分布図 …… 25
第９図　第１号溝状遺構実測図 …… 26
第10図　第２号溝状遺構実測図 …… 27
第11図　第18号溝状遺構実測図 …… 28
第12図　第４～13・16・17・19・20号溝状遺構実測図（１） …… 29
第13図　第４～13・16・17・19・20号溝状遺構実測図（２） …… 30
第14図　第４～13・16・17・19・20号溝状遺構実測図（３） …… 31
第15図　弥生時代後期～古墳時代初頭遺構分布図 …… 33・34
第16図　第１号住居址実測図および出土遺物 …… 36
第17図　第２号住居址実測図および出土遺物 …… 37
第18図　第３号住居址実測図および出土遺物 …… 40
第19図　第３号住居址出土遺物 …… 41
第20図　第４号住居址実測図および出土遺物 …… 42
第21図　第５号住居址実測図 …… 43
第22図　第44号土坑実測図 …… 44
第23図　第３号溝状遺構実測図（１） …… 45・46
第24図　第３号溝状遺構実測図（２） …… 47・48
第25図　第３号溝状遺構土坑実測図（１） …… 49
第26図　第３号溝状遺構土坑実測図（２） …… 50
第27図　第３号溝状遺構土坑実測図（３） …… 51
第28図　第３号溝状遺構土坑実測図（４） …… 52
第29図　第３号溝状遺構土坑実測図（５） …… 53
第30図　第３号溝状遺構土坑実測図（６） …… 54
第31図　第３号溝状遺構土坑実測図（７） …… 55
第32図　第３号溝状遺構土坑実測図（８） …… 56
第33図　第３号溝状遺構土坑実測図（９） …… 57
第34図　第３号溝状遺構土坑実測図（10） …… 58
第35図　第３号溝状遺構土坑実測図（11） …… 59

第36図　第３号溝状遺構土坑実測図（12）…… 60
第37図　第３号溝状遺構土坑実測図（13）…… 61
第38図　第３号溝状遺構土坑実測図（14）…… 62
第39図　第３号溝状遺構土坑実測図（15）…… 63
第40図　第３号溝状遺構土坑実測図（16）…… 64
第41図　第３号溝状遺構土坑実測図（17）…… 65
第42図　第３号溝状遺構出土土器（１）…… 68
第43図　第３号溝状遺構出土土器（２）…… 69
第44図　遺構外出土土器 …… 70
第45図　縄文時代遺構分布図 …… 73
第46図　縄文時代土器分布図 …… 74
第47図　縄文時代石器分布図（１）…… 75
第48図　縄文時代石器分布図（２）…… 76
第49図　土坑実測図 …… 78
第50図　集石実測図 …… 80
第51図　遺構外出土土器（１）…… 82
第52図　遺構外出土土器（２）…… 83
第53図　遺構外出土土器（３）…… 84
第54図　遺構外出土土器（４）…… 85
第55図　遺構外出土土器（５）…… 87
第56図　遺構外出土石器（１）…… 89
第57図　遺構外出土石器（２）…… 90
第58図　遺構外出土石器（３）…… 92
第59図　遺構外出土石器（４）…… 93
第60図　遺構外出土石器（５）…… 94
第61図　遺構外出土石器（６）…… 96
第62図　遺構外出土石器（７）…… 97
第63図　遺構外出土石器（８）…… 98
第64図　休場層礫群・配石分布図 …… 100
第65図　第１～３号礫群実測図 …… 101
第66図　休場層石器分布図 …… 102
第67図　第１～６号ブロック実測図 …… 103
第68図　休場層出土石器（１）…… 105
第69図　休場層出土石器（２）…… 107
第70図　休場層出土石器（３）…… 109
第71図　休場層出土石器（４）…… 110
第72図　休場層出土石器（５）…… 111

第73図　休場層出土石器（６）…… 112
第74図　第Ⅱ黒色帯礫群・配石分布図 …… 113
第75図　第１号礫群実測図 …… 113
第76図　第Ⅱ黒色帯石器分布図 …… 115
第77図　第１～３号ブロック実測図 …… 115
第78図　第Ⅱ黒色帯出土石器 …… 116
第79図　第Ⅲスコリア帯黒色帯1礫群・配石分布図 …… 117
第80図　第1号礫群実測図 …… 117
第81図　第Ⅲスコリア帯黒色帯1石器分布図 …… 118
第82図　遺構分布図 …… 120
第83図　土層セクション図 …… 121
第84図　第１号住居址実測図 …… 123
第85図　第１号住居址カマド実測図 …… 124
第86図　第１号住居址遺物分布図 …… 126
第87図　縄文時代土器分布図 …… 128
第88図　縄文時代石器分布図 …… 129
第89図　第１号土坑実測図 …… 130
第90図　遺構外出土土器（１） …… 132
第91図　遺構外出土土器（２） …… 134
第92図　遺構外出土土器（３） …… 136
第93図　遺構外出土石器（１） …… 138
第94図　遺構外出土石器（２） …… 139
第95図　遺構外出土石器（３） …… 141
第96図　遺構外出土石器（４） …… 142
第97図　遺構外出土石器（５） …… 143
第98図　遺構外出土石器（６） …… 144
第99図　遺構外出土石器（７） …… 145
第100図　遺構外出土石器（８） …… 146
第101図　休場層礫群・配石分布図 …… 148
第102図　第１号・第２号礫群実測図 …… 148
第103図　第３号・第４号礫群実測図 …… 149
第104図　休場層石器分布図 …… 150
第105図　休場層出土石器（１） …… 151
第106図　休場層出土石器（２） …… 153
第107図　第Ⅲ黒色帯礫群・配石分布図 …… 155
第108図　第１号・第２号礫群実測図 …… 155
第109図　第Ⅲ黒色帯石器分布図 …… 156

第110図　第１号・第２号ブロック実測図 …… 156
第111図　第３号ブロック実測図 …… 157
第112図　第４号・第５号ブロック実測図 …… 158
第113図　第Ⅲ黒色帯出土石器（１） …… 160
第114図　第Ⅲ黒色帯出土石器（２） …… 161
第115図　第Ⅲ黒色帯出土石器（３） …… 162
第116図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２礫・配石分布図 …… 164
第117図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２石器分布図 …… 165
第118図　第１号・第２号ブロック実測図 …… 166
第119図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（１） …… 168
第120図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（２） …… 169
第121図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（３） …… 171
第122図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（４） …… 172

挿 表 目 次

第１表　周辺遺跡一覧表（１） …… 13
第２表　周辺遺跡一覧表（２） …… 14
第３～６表　SDK土層一覧表（１）～（４） …… 66～67
第７表　土器観察表 …… 71
第８表　第１号住居址出土土器観察表 …… 127
第９表　Ｅ地区休場層礫群・配石一覧表 …… 209
第10・11表　Ｅ地区BBⅡ層礫群・配石一覧表（１）・（２） …… 209
第12表　Ｅ地区SCⅢb1層礫群・配石一覧表 …… 209
第13表　Ｅ地区縄文時代出土石器一覧表 …… 210
第14～16表　Ｅ地区休場層出土石器一覧表（１）～（３） …… 210～211
第17表　Ｅ地区NL層・BBⅡ層出土石器一覧表 …… 212
第18表　Ｅ地区SCⅢb1層出土石器一覧表 …… 212
第19表　Ｄ地区休場層礫群・配石一覧表 …… 212
第20表　Ｄ地区BBⅢ層礫群・配石一覧表 …… 213
第21表　Ｄ地区SCⅢb2層配石一覧表 …… 213
第22表　Ｄ地区縄文時代出土石器一覧表 …… 213
第23表　Ｄ地区休場層出土石器一覧表 …… 214
第24～37表　Ｄ地区BBⅢ層出土石器一覧表（１）～（14） …… 214～221
第38表　Ｄ地区SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（１）～（８） …… 221～224

第Ⅰ章　調査経過

第１節　調査に至る経緯

（１）第二東名自動車道の建設

静岡県内を東西に貫く東名高速道路は昭和44年の開通以来、東京と名古屋を結ぶ大動脈として、日本の産業・経済・文化の発展に大きく貢献し、社会を支えてきた。他の高速道路に比べ利用台数が非常に多く、昨今、実施されている高速料金の値下げがその増大に拍車をかけている。このように、東名高速道路は人々の暮らしに欠かせない道路として定着してきたが、交通の増大がもたらす混雑や、開通後40年の経過に伴う維持補修工事が渋滞を引き起こし、高速性・定時性という高速道路の機能を失いつつある。また、大地震を始め災害・事故などにより東名が不通となった場合、東西交通が分断され、地域生活や日本経済に重大な影響を与えることは避けられない。

こうした状況を打開するための国家的事業として、第二東名自動車道の建設は計画された。第二東名完成後には、時間距離の大幅な短縮はもちろん、人・物・情報のより活発な交流、緊急輸送路としての役割、インターチェンジ周辺地域の発展など、様々な効果が期待されている。

（２）第二東名自動車道建設に伴う発掘調査

第二東名自動車道の建設は、昭和62年９月に国土開発幹線自動車道建設法の一部改正で予定路線となり、平成元年２月27日に国土開発幹線自動車道建設審議会で基本計画が策定された。平成３年12月３日には、静岡県駿東郡長泉町以西の静岡県全域が、基本計画路線から整備路線に格上げされ、平成５年11月19日付けの建設大臣から日本道路公団に対する施工命令をもって、本格的に工事が始められた。静岡県内における第二東名建設の計画が具体的となってきた平成４年度に、御殿場市から引佐町（現浜松市）を担当する日本道路公団静岡建設局より、第二東名本線部分にかかわる埋蔵文化財有無の照会を受けたため分布調査を実施したところ、沼津市域を走る本線上には埋蔵文化財の存在する可能性を持った地点が、39か所あると判明した。

発掘調査の分担は、原則的に本線・SA・PAを県が、工事用道路・代替地・排土処分場は市町が対応するということになった。しかし、平成８年度に本線部分についても調査協力要請があったため、39か所のうち14か所は沼津市が対応することとなった。現地調査の実施にあたり、日本道路公団静岡建設局（局長 小泉光政）、静岡県教育委員会（教育長 杉田豊）、沼津市（市長 斎藤衛）、沼津市教育委員会（教育長 五月女武）が平成10年３月10日付けで「第二東名建設事業に伴う沼津地区埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」（以下「協定書」とする）を取り交わし、日本道路公団静岡建設事務局と沼津市の間で、平成10年４月１日付けで「平成10年度 第二東名建設事業に伴う沼津地区埋蔵文化財発掘調査費用の支払に関する契約書」を締結した。これより第二東名建設事業に伴う沼津市の発掘調査はスタートし、協定書に基づいて工事工程との調整を図りながら調査対象地の選定を行い、年度ごとに契約を締結して現地調査を進めてきた。平成18年度末には、すべての現地調査を終了している。

第２節　発掘調査事業の経過

（１）調査地点の概要

八兵衛洞遺跡は、第二東名高速道路建設予定路線内調査地点のうち、No.９～12地点に当たる。当該地の南では、東芝機械総合グラウンドの建設にあたって昭和53年度に調査が実施されており（第１次調査：第２図Ａ～Ｃ地点）、その結果から、隣接する当該地にも遺跡が及んでいると予測された。また、平成14年度には、特別養護老人ホーム『炉暖の郷』の建設に伴い、Ｃ地点のさらに南でも調査が行われている（第２次調査：Ｃ－２地点）。今回の調査区は、隣接するNo.９～11を一塊とした大きな調査区（以下、Ｅ地区とする）と、谷を挟んだ西の尾根上に位置するNo.12（以下、Ｄ地区とする）の２つに大きく分け、同時並行で調査を進めた。

（２）Ｅ地区の発掘調査経過

本調査に先立ち、資料を収集して遺跡範囲を確定し、本調査の進め方を検討するため、確認調査が行われた。Ｅ地区のうち、農道を挟んだ東側は平成10年の４～６月にかけて、西側は８～９月にかけて調査を行った。２×２ｍのテストピットを20ｍ間隔で設定し、遺構や遺物の広がりを確認したところ、弥生時代後期の住居址や溝状遺構、縄文時代の土坑、旧石器時代の石器ブロックが検出され、これらの時代に属する土器や石器も出土した。

確認調査の結果を受け、日本道路公団静岡建設局と沼津市において平成10年４月１日付けで締結した、「平成10年度 第二東名建設事業に伴う沼津地区埋蔵文化財発掘調査費用の支払に関する契約書」により、10月15日から現地調査を開始した。まず、調査区全体における新期スコリア層から休場層の遺構・遺物の検出を第１段階の目標とした。調査は西側部分から進め、すぐに２本の溝状遺構と９基の土坑を検出した。

さらに調査範囲を東へ広げていくと、調査区中央の尾根東緩斜面で住居址４基が見つかった。この周辺は、耕作による削平を大きく受けて、休場層が露出する部分が多く、住居址は床面の一部が露出した状態であった。10月30日には第１回目の空中写真撮影を実施し、農道より西側の検出状況を記録している。住居址の調査は11月末まで継続して行われたが、土層の削平や撹乱により、プランを把握することは非常に困難であった。第４号住居址では、住居址プランに重複する大形の土坑も検出している。さらに、住居址と同時期の東西に走る大きな溝状遺構（ＳＤ３）を検出した。溝の掘削を進める過程で、それに伴う土坑が次々と発見されたことから、ＳＤＫという名称を付け、東から順に番号を振っていった。また、ＳＤ１と３の周辺を中心に、古墳時代以降に属すると思われる土坑を23基検出している。

11月初旬には、農道より東側の調査に着手した。西側で検出されていたＳＤ３の延長上で同様の溝が見つかり、さらに東へ調査を進める過程で、谷の形状に沿って曲がる細い溝を４本発見した。東端の工事用地の限界までＳＤ３を検出したところで、11月24日に第２回目の空中写真撮影を実施し、ＳＤ３を中心とするＥ地区全体の遺構検出状況を記録している。12月に入り、東側で新たに細い溝状遺構を11本と、古墳時代以降と思われる土坑を27基検出した。ＳＤ３はさらに西へ続くことが想定されたため、12月中旬には調査区の最も西端となる溝延長上の道路まで調査範囲を拡大した。そこで引き続きＳＤ３を調査し、それに伴う土坑と縄文時代の土坑１基を検出している。12月中に

はＥ地区全体における弥生時代後期以降の調査はほぼ終了した。

年が明けて１月からは、西側の西南部で南北に１本、東西に２本、グリッドに沿わせたトレンチを設定し、休場層までの確認を進めた。13日には、自然科学分析を行うため、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託してＳＤ３の覆土サンプルを採集した。21日、第３回目の空中写真撮影を実施し、第Ⅰ文化層にあたる弥生時代以降の状況を記録している。１月末には、住居址部分でトレンチを５本設定し、休場層までの掘り下げを始めた。

２月に入り調査区東側で一部残っていた新期スコリア層の掘削が完了したため、栗色土層・富士黒土層の掘削を始めた。掘削は南東側からグリッドごとに進め、東端部分のほぼ全面を休場層まで掘り下げることにした。すぐに南東端で集石を１基検出し、２月10日、Ｅ地区全体を富士黒土層上面まで掘り下げたところで、第４回目の空中写真撮影を行っている。２月中旬には、西側でトレンチを中心に残存していた休場層の掘削を完了し、さらにトレンチ交点を２×２ｍ幅で掘り下げて、第Ⅲスコリア層の黒色帯まで確認を行った。また、調査区中央尾根の北部にトレンチを４本設定して、休場層までの掘り下げを始めた。

３月初旬、東側のＳＤ３以北では、第Ⅰスコリア層上面までの掘り下げを完了し、北東部で集石１基と土坑２基を検出した。ＳＤ３以南でも第Ⅰスコリア層上面まで掘り下げたところで、南東部に土坑を１基発見している。３月４日に第５回目となる空中写真撮影を行い、３月末には、Ｅ地区全体にわたって新期スコリア層～休場層の掘削を終了することができた。

平成11年度は、東側の第Ⅰスコリア層以下の調査に重点を置き、４月12日から現場での作業を開始した。トレンチを計10本設定し、東端部分は休場層とほぼ同様の範囲を掘削した。その過程で土坑をさらに３基検出し、最終的に中部ローム層中の含雲母グリース状火山灰土層まで掘り下げている。７月９日に現地での調査を終了し、調査面積は延べ10,082㎡に及んだ。

（３）Ｄ地区の発掘調査経過

Ｄ地区の確認調査は、平成10年の５～６月に、Ｅ地区の東側と並行して行われた。調査対象全域に２×２ｍのテストピットを21か所設定して、遺構・遺物の分布状態を調べたところ、栗色土層・休場層・第Ⅰスコリア層・第Ⅰ黒色帯・第Ⅱ黒色帯・第Ⅲスコリア層で文化層を確認した。

調査区の立地条件が悪く、ベルトコンベアや発電機など発掘に必要な資材の搬入作業に約10日程度を費やした。茶畑や檜林の伐採・抜根を行った後、作業員を導入しての現地調査は９月17日から開始し、当初は人力で表土の掘削を行った。同時期に始まったＥ地区側と進行状況を確認し合いながら、作業に支障をきたすことの無いよう、バランスの良い人員配置に配慮した。

南西部では耕作による削平を受けて、すでに休場層が露出しており、石器も散布していた。10月初旬、新期スコリア層の掘削中に、調査区の中央付近で竪穴状の遺構を検出したことから、ベルトを２本設定して掘削を進めた。30日には、第１回目の空中写真撮影を実施して、遺構の検出状況を記録した。11月に入ると、竪穴状遺構南東部分の掘削を行い、調査区全体では栗色土層の掘り下げが終了して、南側を第Ⅰスコリア層直上まで掘り下げる作業に入った。11月中旬、土坑１基を検出し、竪穴状遺構を住居址と確定した。

12月初旬には、住居址の調査を完了し、調査区全体を第Ⅰ黒色帯まで掘り下げたところで、東－

西、南－北方向へ２ｍ幅のトレンチを設定した。トレンチ内は人力で、グリッドは重機を用いて掘削を行い、第Ⅱ～Ⅲ黒色帯についてはすべて人力で掘削した。さらに、遺物が検出されたグリッド周辺は、第Ⅲスコリア層内の黒色帯まで掘り下げている。１月、第Ⅲスコリア層以下の確認トレンチを設定し、21日に第２回目の空中写真撮影を実施した。トレンチの掘削に加え、北側のグリッド全体へ調査範囲を拡大したところ、石器ブロックを検出し、２月中旬には中部ローム層上面まで到達した。２月10日に、第３回目の空中写真撮影を実施している。中部ローム層以下については、トレンチ上に２×２ｍのテストピットを４か所設定し、最終的に含雲母グリース状火山灰土層まで掘り下げたが、遺物は発見できなかった。２月末にはすべての調査を終了し、調査面積は延べ695㎡にのぼった。

遺構・遺物・土層断面などの実測は調査補助員による手実測に加え、光波測距儀も使用して行い、電子野帳に記録した後、沼津市が導入している遺跡管理システムに取り込んでデータベース化している。土層断面の註記は、第二東名関連遺跡内での統一を図るため、色調は第一合成株式会社製の土色計（SCR-１）を用いて測定し、記載は新版標準土色帖に準じている。また遺跡の全景や遺構の検出状況などを把握するため、業務委託としてRCヘリコプターによる空中写真撮影を適宜実施している。

第３節　整理作業経過

第二東名建設事業に伴う発掘調査の整理事業は平成16年度より本格的に着手し、これまで平成16・17年度に石川古墳群（No.34地点）、平成18年度に尾上第１遺跡（No.３地点）、平成19年度に尾壱遺跡（沼津工業団地代替地）、平成20年度に中見代第Ⅰ遺跡（No.６地点）の報告書が刊行されている。整理作業は沼津市教育委員会文化振興課文化財調査係が担当し、市内大諏訪46－１に所在する沼津市文化財センターにて実務を行った。

八兵衛洞遺跡の整理作業は、平成21年４月に開始した。遺物は発掘調査終了後、文化財センター内に保管されていたため、まずは石器を抽出し、器種別に分類するとともに重さを計測した。６月には、土器の接合を開始し、約１か月間接合作業を続けた。接合後は、復元樹脂を用いて接合土器の強化、復元を行っている。接合して器形がある程度判明したものに関しては、株式会社シン技術コンサルに業務委託をして、正射投影撮像装置（SIOS-1000）により等倍で画像を撮影し、実測に使用した。SIOS-1000は、立体物の寸法精度を保ったまま結像され歪みのない、正射投影と呼ばれる方法を用いるため、完全な画像の撮影が可能である。したがって今回の整理作業では、この写真を実測用の下絵として鉛筆による素図を作成し、スキャニングした後、ペンタブレットによるデジタルトレースを行った。また、縄文土器のうち、器形がほぼ判明したものや口縁部など特徴的な部位の破片については、元の器形をある程度復元した実測図を作成し、拓本を貼り込んでいる。破片資料は採拓して、断面の実測を行った。

土器の実測作業は12月末に終了し、次に石器の実測に取りかかった。礫器の実測図は、文化財センター内で撮影したデジタル写真を基に整理補助員の手により作成し、１月に完了した。剥片石器はすべて株式会社ラングに業務委託し、三次元レーザースキャニングを基にしたデジタルトレース図を作成し、そのまま報告書図版として使用している。

石器のうち旧石器時代・縄文時代の黒曜石製石器については、石材の原産地を特定するため、沼津市が平成17年度に導入した島津製作所製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（EDX-900HS）を用い、分析可能なサイズのもの全点に対して蛍光Ｘ線分析を行った。その結果については第Ⅴ章を参照されたい。土器・石器の計測値・材質・器種名や型式名などのデータは、できる限り遺跡管理システムに入力し、保管している。

実測作業と並行して、８月頃から報告書図版の作成、10月には原稿の執筆を開始した。遺構図版作成のためのデータは、現地調査時にデジタルデータとして遺跡管理システムへ取り込んだものと、現地で描き起こした図面をスキャニングして取り込んだものの２種類がある。両者とも必要最低限の編集を加えて整合性を確認した後、図版用の図面とするための編集作業を行い、ページプリンターで印刷した図面を印刷用版下図として使用している。これら編集作業は「整理作業支援業務委託」として、沼津市において本遺跡管理システムを運用・管理している株式会社シン技術コンサルの社員が担当職員の指示に従い実施した。

写真図版については、現地調査時に撮影した遺構・遺物などの記録写真と、整理作業時に撮影した接合・復元された遺物の記録写真を合わせて整理し、写真図版用の版下を作成した。

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

八兵衛洞遺跡の所在する沼津市は、駿河湾に面し、旧国区分でいう駿河と伊豆の境界に市域が及ぶ。北には富士山を背に愛鷹山の諸峰が連なり、南へ向けてなだらかな尾根を広げている。その裾野からさらに南へ下ると、浮島沼によって形成された低湿地帯、黄瀬川が運んだ砂礫を土台とした市街地が展開する。海岸線には千本松原が続き、駿河湾・富士山と合わせた情緒ある景観を見ることができる。

また沼津市は、江戸時代には東海道の宿場町として栄え、東海道線沼津駅が設けられた後は商業都市として発展を遂げてきた歴史を持つ。愛鷹山の丘陵地は、昭和44年の東名高速道路開通を契機に、沼津インターチェンジ周辺で工業用地としての開発が進み、鉄鋼団地･工業団地が形成された。他にも、県営愛鷹運動公園や愛鷹厚生年金休暇センター、静岡県東部運転免許センターといった公共施設が次々と建設され、市域北側の開発は目まぐるしく進んだ。現在は第二東名高速道路の建設や、それに伴うアクセス道路の整備が進み、さらなる交通網の発達、流通・経済の発展が期待されている。

遺跡が立地する愛鷹山は、約40万年前に活動を開始し約10万年前に活動を停止した火山である。東南山麓では、旧石器時代から弥生時代を中心に多くの遺跡が密集しており、箱根山麓・磐田原台地とともに県内有数の旧石器時代の遺跡密集地となっている。愛鷹火山の新期段階の活動では、溶岩流が南南東方向に流下して高山を起点とする扇状の緩斜面が形成された。緩斜面では、小河川やその支谷が複雑に入り込み、独立した丘陵地が至るところに存在している。この丘陵地の比較的開析が進んでいない場所では、南流する小河川との比高差が小さく、起伏も緩やかである。東南山麓ではこうした環境を利用し、旧石器時代から弥生時代を中心とする遺跡が、重複して営まれている。

八兵衛洞遺跡において集落の形成が始まった弥生時代後期は、沼津市域全体でみても遺跡数が急増した時期である。遺跡の展開する地域は大きく２つに分けられ、１つは、浮島沼周辺部から黄瀬川砂礫層の堆積する低位の台地にかけて、もう１つは、本遺跡を含む愛鷹山の丘陵高所である。

八兵衛洞遺跡は、西を西川、東を西久保川に挟まれた細長い尾根上に展開する。尾根上では複雑に小支谷が入り込み、さらにいくつかの細い尾根が作り出されている。西久保川を挟んだ東隣の尾根には、八兵衛洞遺跡と同様の高地性の集落が密集し、その北に旧石器時代から縄文時代の遺跡が集中する足高尾上遺跡群が存在する。

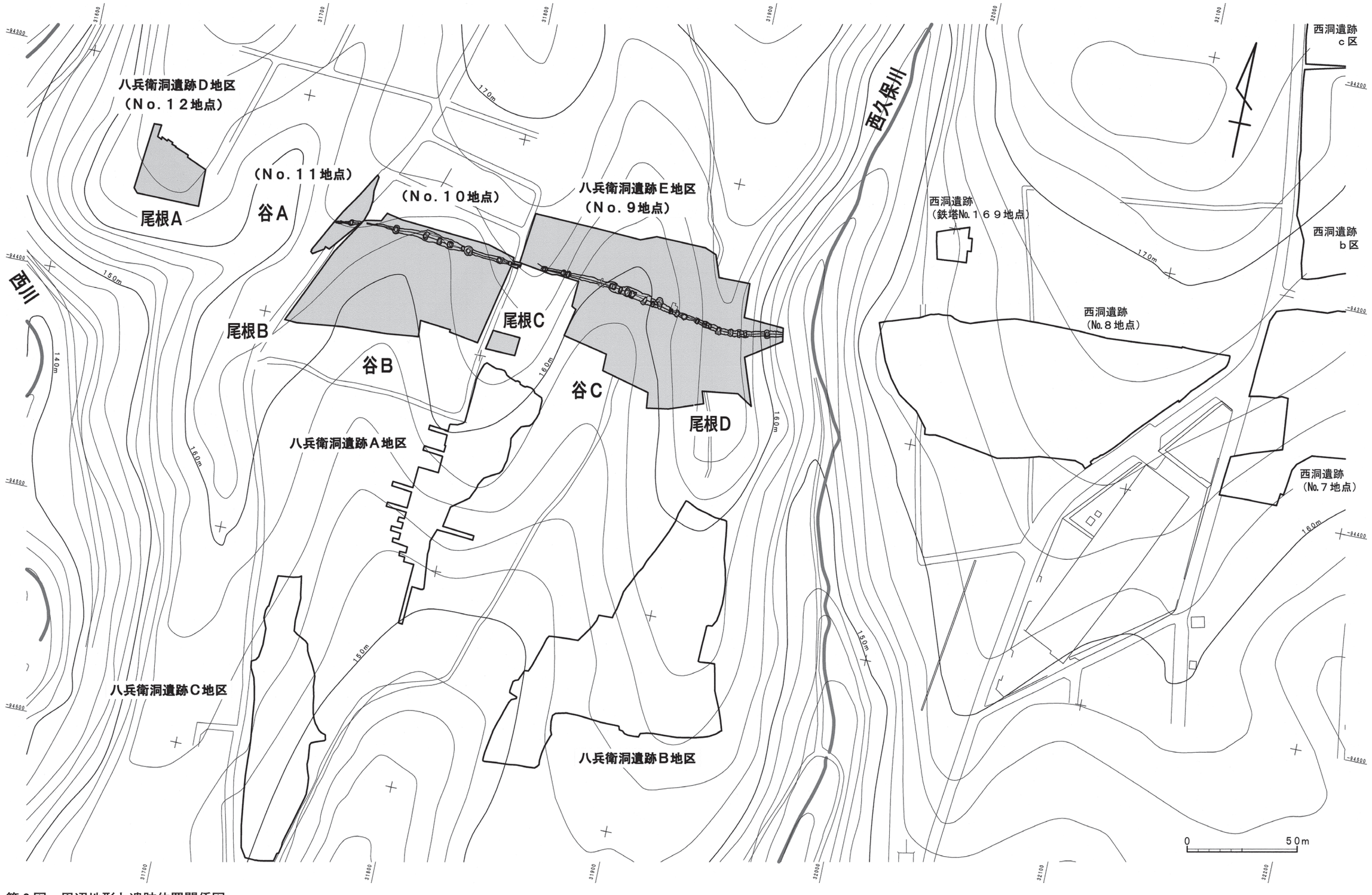
今回調査を行ったＥ地区は標高160m、Ｄ地区は165m付近に位置する。Ｄ地区は、西川の流れる谷とそこから派生する支谷（便宜上、谷Ａとする）に挟まれた、非常に狭い尾根先端に存在する。東西に長いＥ地区は、東側・西側とも南から入り込む谷（便宜上、谷Ｂ・Ｃとする）の影響を受け、調査区の中央部と東西端に細い尾根が作り出されている。八兵衛洞遺跡では、これまで昭和53年度と平成14年度の２回に渡って調査が行われた。昭和53年度は、Ｅ地区より南の尾根上に存在した３つの調査区をそれぞれ単独の遺跡と捉え、Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡として扱った。平成14年度は、調査区がＣ遺跡と同じ尾根上に位置することから、Ｃ−２区とした。これらは、地形の区切りを目安に規定

第１図　遺跡位置図（1/100,000）

した遺跡範囲であるが、本来は同時期に存在した１つの遺跡であり、地形上の制約から結果的にいくつかの地区に分かれた集落である。よって本報告書では、それぞれを１つの地区として扱い、Ａ～Ｃ地区に加え、No.９～11地点を“Ｅ地区”、No.12地点を“Ｄ地区”とした。

第３号溝状遺構調査状況

第１号住居址調査状況



第２図　周辺地形と遺跡位置関係図

第２節　周辺遺跡と歴史的環境

【旧石器時代】

標高200m付近に国指定史跡の休場遺跡があるほか、旧石器時代を代表する遺跡として、足高尾上遺跡群、清水柳北遺跡、その北に位置する尾上イラウネ遺跡が挙げられる。愛鷹山麓における旧石器時代は現在５期に分類されており、１期と２期に相当する古い時期の遺物が出土する遺跡は少数しか存在しなかった。しかし、第二東名高速道路の建設や愛鷹運動公園の建設などに伴い、近年、発掘調査が活発化したことから、資料は増加しつつある。沼津市ではスコリア帯を除く10枚の黒色帯と２枚のローム層のすべてから石器が出土しており、後期旧石器時代初頭から終末までの段階をほぼ網羅している。

【縄文時代】

東南山麓のほとんどの尾根に縄文時代の遺跡が存在し、非常に数が多い。その中心は足高尾上遺跡群で、旧石器時代と重複するかたちで縄文時代の遺構や遺物を検出した。ただし遺跡数は時期によって偏りが見られる。草創期に属するものは非常に少ないが、葛原沢第Ⅳ遺跡では初めて住居址が検出され、それに伴う土器も出土した。続く早期の遺跡数は非常に多く、前期はやや減少し、中期になるとまた増加するが、後期は減少傾向にあり、晩期はほとんど皆無とさえいえる。大規模な集落の代表としては清水柳北遺跡が挙げられ、早期末から前期前半にかけての住居址80基以上を検出した。八兵衛洞遺跡の立地する丘陵上も、複数の遺跡から縄文時代の遺構が検出されている。

【弥生時代】

縄文時代晩期から弥生時代中期までは遺跡数が極端に少なく、際立って増加するのは後期からである。弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて、愛鷹山では標高170m付近を上限とした100～150ｍの高さに、大規模な集落が展開している。これらの高地性集落は、開析作用によって複雑に分派する尾根に広く展開しており、隣接する遺跡との境界は必ずしも明確ではない。また、存在した期間は短く、古墳時代前期までには廃絶してしまう。植出遺跡では住居址348基、中見代第Ⅰ遺跡では住居址39基、北神馬土手遺跡や二本松遺跡、尾上Ⅱ橋遺跡でも住居址や方形周溝墓、掘立柱建物址などが検出されている。八兵衛洞遺跡はこれら高地性集落を代表する遺跡であり、過去の調査では住居址154基、掘立柱建物址８棟、溝状遺構などが見つかっている。

【古墳時代】

初頭以降、集落が平地部へ移動していったことから、愛鷹山麓では集落遺跡の形成が低調となる。しかし、替わって古墳の築造が目立つようになり、八兵衛洞遺跡の立地する丘陵上には、円墳の築造された八兵衛洞屋敷古墳群が形成された。また、市内南部では子ノ神古墳・神明塚古墳・長塚古墳の前方後円墳３基が築かれた。後期になると富士市との境界付近で群集墳が展開し、石川古墳群では170基以上の存在が確認されている。さらに、平成20年度に行われた高尾山穂見神社の発掘調査において辻畑古墳が発見され、大きな注目を浴びた。辻畑古墳は全長約62mに達し、静岡県内で５基目にあたる前方後方墳である。出土した土器の型式から、造築年代は３世紀代後半である可能性が高まっており、今後の分析調査の成果が期待される。

1,000m
0
No.3
No.4
No.5
No.6
No.7
No.9
No.10・11
No.12
No.17
No.20
GR-1
尾-1
沼津ゴルフクラブ
新沼津カントリークラブ
伊良字林
宮本

第３図　周辺遺跡分布図

第１表　周辺遺跡一覧表（１）

図No.	沼津市遺跡No.	遺　跡　名	時　　代	遺構の現状・検出遺構・遺物等	沼津市報告書
1	60	大芝原	縄文	住居址1基・縄文土器（勝坂式・加曽利E式）・石鏃・石匙・石錐・打製石斧・磨製石斧・石棒・石皿	
2	388	井戸川西（二東CR-1）	旧石器・縄文	石器ブロック・礫群・土坑・ナイフ形石器・石核、土坑・縄文土器・石斧	
3	387	井戸川（二東No.20）	縄文	縄文土器（押型文）・石鏃・玉斧	
4	71	元野	縄文	縄文土器（押型文・条痕文）・石鏃・石斧・礫器・植物遺存体・炭化栗	8集
5	389	土橋第Ⅱ（二東No.17）	旧石器・縄文	石器ブロック・ナイフ形石器・削器・細石器、土坑・集石・縄文土器・石鏃・石匙・石斧	
6	109	休場	旧石器・縄文	尖頭器・細石刃・細石核・ナイフ形石器、縄文土器（早期）	
7	308	休場南	旧石器		
8	309	休場下	旧石器	消滅	
9	284	西大曲	旧石器・縄文	ナイフ形石器、縄文土器（茅山下層式・条痕文）	20集
10	95	八兵衛屋敷	縄文・弥生・古墳	竪穴住居址11基・土坑3基・石鏃、弥生土器	92集
11	281	八兵衛洞	縄文・弥生・古墳	縄文土器（押型文・撚糸文）、弥生後期～古墳初頭住居址154基・竪穴状遺構15基・掘立柱建物8基・土坑・溝状遺構・土器溜まり・銅鏃・有頭石錘・土製勾玉	26・84集
12	113	大曲	縄文・弥生	縄文土器（縄文早期）、弥生土器（後期）・土製勾玉	
13	114	尾上Ⅱ橋	旧石器・縄文・弥生・古墳	弥生後期～古墳初頭住居址25基、溝状遺構	76集
14	112	尾上Ⅲ橋	縄文・弥生	縄文土器（縄文早期）、弥生土器（後期）	
15	135	北神馬土手	弥生・古墳	集石1基、弥生後期～古墳初頭住居址140基・掘立柱建物78基・方形周溝墓4基・溝状遺構・畝状遺構・畑状遺構・土坑・弥生土器（後期）	76・82・87集
16	136	二本松	弥生	東名高速道路建設に伴い市教委で一部発掘、住居址・方形周溝墓・竪穴状遺構	
17	137	植出	縄文・弥生・古墳	集石5基・陥穴・縄文土器（草創期～後期）・尖頭器・石鏃・石斧、弥生後期～古墳初頭住居址348基・掘立柱建物58基・方形周溝墓2基・溝状遺構・畝状遺構・畑状遺構・弥生土器（後期）・土製品・勾玉	82・87集 県報74・89集
18	381	植出北（二東No.5）	旧石器・縄文・弥生・古墳	石器ブロック・礫群18基・ナイフ形石器・尖頭器・削器・掻器・彫器、集石6基・縄文土器・石鏃・石匙・石核・石斧・敲石・磨石・石皿、住居址32基・掘立柱建物1基・方形周溝墓1基・溝状遺構52条（大溝含む）・土坑・弥生土器	
19	111	西洞	旧石器・縄文・古墳	BBⅥ層のブロック群・台形様石器・ナイフ形石器・細石核、縄文土器（撚糸文・大浦山式・押型文・沈線文・子母口式・条痕文）・有茎尖頭器・尖頭器	59・69・ 71・78集
		西洞（二東No.7）	旧石器・縄文・弥生・古墳	石器ブロック・礫群・ナイフ形石器・削器、土坑・集石・縄文土器（草創期～中期）・石鏃・尖頭器、住居址・弥生土器	
20	354	中見代Ⅰ	旧石器・縄文・弥生・古墳	台形様石器・ナイフ形石器・局部磨製石斧、陥穴・縄文土器（草創期・押型文・条痕文）、住居址・方形周溝墓・弥生土器（後期）	45集
		中見代Ⅰ（二東No.6）		礫群50基以上・石器ブロック・ナイフ形石器・尖頭器・削器・掻器・石核、縄文土器・石鏃・石匙・磨製石斧・礫斧・玉・磨石・石皿、住居址39基・掘立柱建物址7基・土坑58基・溝状遺構19条・方形周溝墓2基・畝状遺構130基・小穴77基・弥生土器・土製品、住居址20基・掘立柱建物址5基・土坑6基・溝状遺構5条・小穴90基・土師器・須恵器・玉類	97集
21	355	中見代Ⅱ	旧石器・縄文	石器ブロック・礫群・ナイフ形石器・掻器・削器・石錐、縄文土器（表裏縄文・撚糸文・勝坂式・加曽利E式・曽利式）・石鏃・有茎尖頭器	43集
22	356	中見代Ⅲ	旧石器・縄文	石器ブロック・礫群・ナイフ形石器・尖頭器・掻器・細石核、住居址1基・土坑・集石・炉穴・縄文土器（押型文・打越式・花積下層式・諸磯式・勝坂式）	43集
23	353	広合南	旧石器・縄文	礫群	49集
24	138	広合	旧石器・縄文	石器ブロック130基・礫群90基・ナイフ形石器多数、縄文土器（撚糸文・勝坂式・北屋敷式）・有茎尖頭器	41・49・52集

第２表　周辺遺跡一覧表（２）

25	110	葛原沢	旧石器・縄文・古墳・律令	尖頭器・掻器、縄文土器（五領ヶ台式）・石鏃・石匙・磨製石斧、土師器	59集
26	311	葛原沢第Ⅲ	旧石器・縄文	尖頭器、縄文土器（田戸下層式）	
27	357	葛原沢第Ⅳ	旧石器・縄文・古墳	石器ブロック・ナイフ形石器・細石核、草創期住居址1基・同炉址・同配石遺構 ・縄文土器（隆帯文・絡条体圧痕文・表裏縄文・撚糸文・押型文・条痕文・諸磯式・五領ヶ台式）・尖頭器・有茎尖頭器・削器・石鏃・磨石・石皿	77集
28	351	土手上	旧石器・縄文	環状ブロック群・礫群・台形様石器・ナイフ形石器・石核、縄文土器（撚糸文・押型文・子母口式・条痕文・諸磯式）・尖頭器・有茎尖頭器	43・56・63・64・86集
29	352	二ツ洞	旧石器・縄文・古墳・律令	石器ブロック60基・礫群45基・台形様石器・ナイフ形石器、竪穴住居址2基・土坑13基・集石3基・焼土址8基・縄文土器（押型文・条痕文・清水ノ上Ⅱ式・諸磯式・勝坂式・北屋敷式・曽利式）・有茎尖頭器・抉状耳飾、律令住居址2基・土坑2基・土師器・須恵器・灰釉陶器	52・54集
		二ツ洞（二東No.4）	旧石器・縄文・弥生・古墳	石器ブロック・礫群25基・ナイフ形石器・尖頭器、集石8基・縄文土器・石鏃・石核・石斧、弥生後期～古墳初頭住居址32基・掘立柱建物1基・方形周溝墓1基・溝状遺構4条（大溝含む）・畝状遺構29本・土坑・弥生土器	
30	140	拓南	縄文	縄文土器（撚糸文・勝坂式・加曽利E式）・打製石斧・磨製石斧	
31	366	拓南東	旧石器・縄文・古墳	石器ブロック29基・礫群43基・ナイフ形石器・尖頭器・掻器、縄文土器（隆帯文・条痕文・木島式・諸磯式）、古墳住居址1基	65集
32	360	尾上イラウネ北	旧石器・縄文	石器ブロック・礫群・ナイフ形石器・尖頭器、住居址・集石・炉穴・縄文土器（隆帯文・絡条体圧痕文・押型文・条痕文）	53・81集
33	306	尾上イラウネ	旧石器・縄文	礫群45基・配石24基・石器ブロック88基・ナイフ形石器・尖頭器・削器・掻器・彫器・石錐・細石刃・石核・細石核・角錐状石器・楔形石器・台形石器・片刃石斧・石槍・線刻礫、竪穴住居址14基・土坑42基・溝状遺構3条・配石2基・炉穴14基・陥穴5基・集石・草創期前半～後期縄文土器（絡条体圧痕文・撚糸文・押型文・無文・野島式・勝坂式）・石鏃・石匙・打製石斧・磨製石斧・礫斧・敲石・磨石・凹石装飾石製品・土製円盤	23・53集
34	141	尾上第1（二東No.3）	旧石器・縄文・弥生・古墳	石器ブロック6基・礫群17基・ナイフ形石器・尖頭器・削器・細石刃・細石核、縄文土器（押型文・撚糸文・諸磯式・藤内式・加曽利E式・称名寺式）・石鏃・打製石斧・磨製石斧・礫斧・磨石、土坑2基・溝状遺構3条・焼土址4基	90集
35	391	尾上第Ⅱ	旧石器・縄文・弥生・古墳	ナイフ形石器・尖頭器・削器・細石刃・細石核・石核、竪穴住居址11基・土坑5基・縄文土器（野島～茅山下層式）・石鏃・打製石斧・礫斧・磨石	93集
36	346	土手頭	縄文	市教委で一部発掘、縄文土器（木島式・花積下層式）	
37		尾壱（二東アクセス道路）	旧石器・縄文	ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・RF・石核、竪穴状遺構5基・土坑5基・集石2基・炉址3基・縄文土器（表裏縄文・撚糸文・押型文・打越式・木島Ⅱ，Ⅲ式・木島式併行条痕文・諸磯b式・十三菩提式・北白川下層式・勝坂式・曽利Ⅲ，Ⅳ式・加曽利E3，4式・称名寺式・中津式・堀之内式）・石鏃・石錐・石匙・トロトロ石器・抉入石器・石核・打製石斧・磨製石斧・礫斧・石錘・敲石・磨石・石皿・凹石	98集
		尾壱（二東尾－1）	旧石器・縄文・弥生・古墳	礫群18基・石器ブロック・ナイフ形石器・尖頭器・削器・掻器・楔形石器・RF・石核、竪穴住居址6基・土坑65基・集石16基・炉穴1基・焼土址4基・竪穴状遺構1基・縄文土器（早期～後期）・石鏃・石錐・石匙・打製石斧・磨製石斧・礫斧・石錘・磨石・石皿、住居址3基・溝状遺構7条	94集
38	363	清水柳北	旧石器・縄文・古墳	石器ブロック・炉址状遺構・ナイフ形石器・角錐状石器、住居址77基・土坑・集石・炉穴・縄文土器（絡条体圧痕文・沈線文・押型文・条痕文・木島式・花積下層式・清水ノ上Ⅱ式）、弥生後期～古墳初頭住居址1基・方形周溝墓1基	47・48集
		清水柳北（二東アクセス道路）	旧石器・縄文	石器ブロック7基・礫群9基・ナイフ形石器・尖頭器・削器・掻器・彫器・楔形石器・RF・石核、住居址6基・土坑5基・集石12基・炉址15基・縄文土器（撚糸文・押型文・早期後半条痕文・木島Ⅰ～Ⅲ式・木島式併行条痕文・羽状縄文・諸磯a，b式・十三菩提式・北白川下層式・加曽利E式・曽利式・中津式）・石鏃・石錐・石匙・打製石斧・磨製石斧・礫斧・石錘・敲石・磨石・石皿・多孔石	96・98集
39	364	清水柳北古墳群	古墳・律令	円墳・土師器・須恵器、上円下方墳	48集
40	154	清水柳	旧石器・縄文	東名高速道路建設に伴い市教委で一部発掘、ナイフ形石器、縄文土器（押型文・条痕文・絡条体圧痕文・加曽利E式）・石鏃・有茎尖頭器・打製石斧・磨製石斧・磨石	

第３節　基 本 土 層

（１）愛鷹ローム層

愛鷹山東南麓は山頂から派生した尾根が、末端部に近づくにしたがって広く平坦な丘陵地帯を形成し、緩やかな傾斜地には「愛鷹ローム」といわれる火山噴出物が厚く堆積している。約８万年前に開始されたと考えられる「古富士火山」の活動により形成された愛鷹山麓のローム層は、下部ローム層・中部ローム層・上部ローム層という３期に大別される（愛鷹ローム団研 1969）。

約１万１千年前に活動を開始した「新富士火山」は、その初期に大量の溶岩を流出している。その１つが三島溶岩流であり、黄瀬川の谷沿いに下って現在の三島市内まで到達した。また、これと前後してテフラ中のかんらん石の含有率が極端に減少することが知られている。これ以降、富士黒土層など完新世に堆積した火山灰土は腐植化・土壌化の進行が著しいという特徴がある。

遺跡調査は約３万５千年前を下限とする、上部ローム層を中心に行われている。現在のところ考古学的な遺物はすべて上部ローム層から発見されており、ほぼ関東地方の立川ローム層に相当すると考えられている。上部ローム層は腐植化した黒色土とスコリア層とが交互に層を作り出している点に特徴がある。各層の呼称については、市町村の埋蔵文化財調査担当者や愛鷹ローム層の研究者らの間で検討を重ね、考古学および地質学の調査・研究による検証作業を経て統一された。それぞれの層には上から順に番号が付されており、発掘調査の層名はこれに基づいて表記されている。

（２）各層の特徴と出土遺物

以下、愛鷹山麓における上部ローム層の基本的な層準を示し、その特徴を述べる。

第Ⅳスコリア層（SCⅣ）…橙色スコリアから成り、褐色を呈する。

第Ⅶ黒色帯（BBⅦ）…漆黒色を呈した風化埋没土壌層。層厚も30㎝前後と厚く識別しやすい層である。土壌化が進んでいるためか、他の黒色帯に比べて非常に粘性が強い。

第Ⅵ黒色帯（BBⅥ）…スコリアが混ざり、乾くと硬く締まってクラックが入りやすい。中見代第Ⅰ遺跡では石器ブロックが検出され、台形様石器も出土している。

第Ⅴ黒色帯（BBⅤ）…黒味がやや薄く、灰色がかった黒褐色を示し、乾くと硬く締まってクラックが入りやすい。第Ⅲスコリア層以下の他の黒色帯と比べて層厚が薄めである。複数の遺跡から、局部磨製石斧と台形様石器が出土している。

第Ⅳ黒色帯（BBⅣ）…第Ⅴ黒色帯よりも黒味が強い。乾くと硬く締まり脱色する。下部のスコリア層は赤褐色や黒色のスコリアが密集してとても硬いため、調査時の面的な把握が容易である。二ツ洞遺跡で台形様石器を含む石器ブロックが発見されている。

第Ⅲスコリア層（SCⅢ）…５枚のスコリア層（ｓ１～５）と２枚の黒色帯（ｂ１・ｂ２）から構成されている。下部３枚のスコリア層のうち中位の層は、黄褐色で非常に硬く締まっていることから明瞭に識別でき、箱根山西麓と対比する際の鍵となる。その上位には層厚10㎝弱ほどの黒色帯が２層存在する。両層とも他の黒色帯に比べてスコリアを多く含み黒味が弱いが、ｂ２は特にその傾向が強い。土手上遺跡をはじめとして、ｂ２からは二側縁加工のナイフの出土が確認されている。

第Ⅲ黒色帯（BBⅢ）…はっきりとした漆黒色を呈し、非常に目立つ層である。複数の遺跡で小形のナイフ形石器を主体とする石器群が出土し、礫群も見つかっている。

第Ⅱスコリア層（SCⅡ）…暗橙色を呈し、大粒の橙色スコリアから成る。

第Ⅱ黒色帯（BBⅡ）…黒褐色を呈し、よく締まっている。下部には比較的大粒の橙色スコリアが多く含まれ、上部に向けて漸移的に減少するため、第Ⅱスコリア層との明瞭な区分が困難である。

ニセローム層（NL）…黄褐色を呈し、離れるとローム層のように見えるためこのように呼ばれるが、実際には風化したスコリアと火山ガラスから成る層である。姶良丹沢火山灰（AT）がパッチ状に含まれている。清水柳北遺跡以外では、まとまった石器群は発見されていない。

第Ⅰ黒色帯（BBⅠ）…黒色を呈し、乾くとブロック状に割れる。下半では比較的黒味が強くスコリアが少ないが、上半では風化の進んだ細かいスコリアが多い。休場層に次いで石器の出土例が多く、下底からは彫器が特徴的に出土してくる。

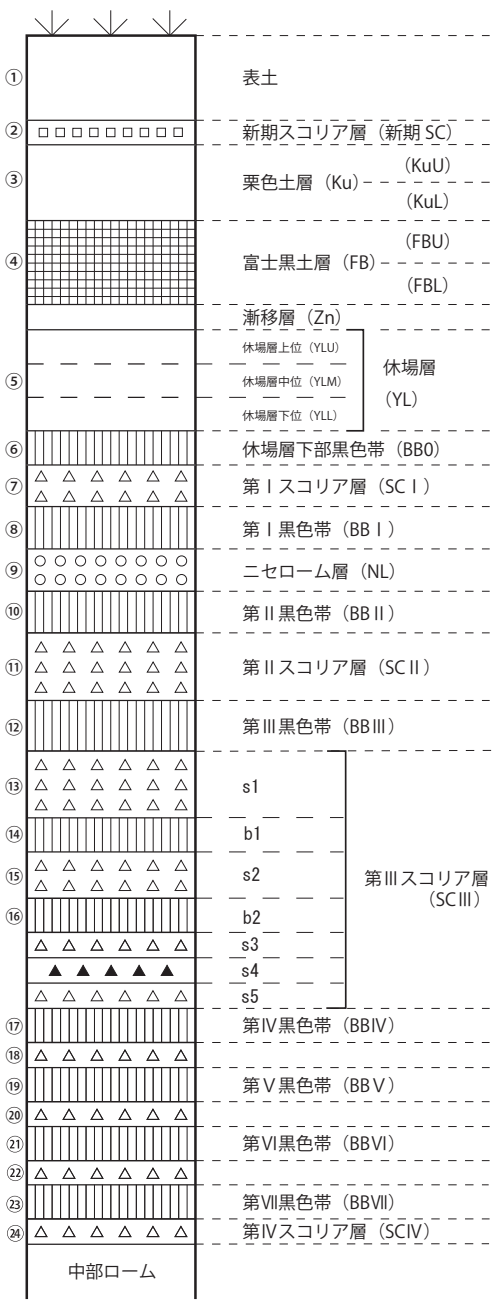
第Ⅰスコリア層（SCⅠ）…橙色のスコリアから成るが、中位付近には黒褐色の部分が認められる。

休場層下部黒色帯（BB0）…以前は「YLLB」という名称であったが、現在は「BB0」に変更されている。暗褐色を呈し、赤褐色・橙色のスコリアを比較的多く含む。下部からは角錐状石器を伴う石器群が出土する。

休場層（YL）…粘性の強いローム層で通常50～60㎝の層厚を持ち、箱根山西麓では１ｍ以上に達する。その特徴から、上位（YLU）・中位（YLM）・下位（YLL）の３層に細分され、愛鷹山麓の旧石器時代では最も石器の出土例が多い層である。下位はスコリアを多く含むため、赤味がかなり強く硬い。中位・上位に比べると遺物量は少ない傾向にある。中位はやや黒ずんだ黄褐色を呈し、スコリアが少量混入する。上位は３層の中で最も鮮やかな黄褐色を呈し粘性が強い。

漸移層（Zn）…やや黒ずんだ黄褐色を呈する。休場層との境界が明確ではなく、漸移的に変質する。遺物は少ないが、縄文時代・旧石器時代の遺物が稀に含まれる。

富士黒土層（FB）…黒色を呈し、粘性があるが休場層ほどではない。縄文時代草創期から前期の遺物が含まれている。葛原沢第Ⅳ遺跡や西洞遺跡などの埋没谷では、中位からやや下位にかけて、



第４図　標準土層

黄褐色土を基にしたスコリアを多量に含む層（FBsc）が存在した。この層は縄文時代草創期の隆帯文土器や押圧縄文土器の包含層となっており、その直上からは草創期の表裏縄文土器が出土している。さらに上位には、鬼界アカホヤ火山灰を含む。

栗色土層（KU）…黄褐色のローム層に似た色調を示すが、休場ローム層よりもやや暗く、上位では粒子が粗くて粘性に乏しい。富士黒土層から栗色土層への変化は漸移的であり、乾燥すると下部が黒ずむことからその境が曖昧になる。上部にはカワゴ平パミスと呼ばれる細かな白色の軽石粒が含まれている。層中には縄文時代前期から晩期の遺物が含まれ、足高尾上遺跡群では最下部から縄文時代前期初頭の土器が、中位から中期の土器が出土することが確認されている。

新期スコリア層（新期SC）…暗黄褐色を呈し、褐色のスコリアが密集している。弥生時代から古墳時代の遺物が含まれ、その遺構の覆土となる。愛鷹山麓の条件の整った場所では、さらに砂沢ラピリや黒ボク土などが堆積していることもある。

第Ⅲ章　E地区（No.９～11地点）の調査

第１節　E地区の概要

（１）地形と環境

E地区は西を西川、東を西久保川に挟まれた細長い尾根上のうち、西久保川寄りに位置する。尾根上は、小支谷が入り込むことでさらにいくつかの細尾根に分断され、複雑な地形を作り出している。E地区の南には、以前調査が行われたA～C地区が存在し、現在は東芝機械株式会社沼津事務所の総合グラウンドとなっている。東西に長いE地区は、南から貫入する２つの支谷（谷B・C）先端上にまたがり、D地区との間を分断する谷Aを加えた３つの支谷と、西川・西久保川の流れる谷により、調査区の中央部および東西端部には、狭い尾根がつくり出されている（第２図）。

（２）層序

E地区は調査以前、東側に茶畑、西側に茶畑・檜林・田畑が広がっていたことから、檜の根による撹乱や耕作による削平を大きく受けていた。そのため富士黒土層以上の残存状況は非常に悪く、また分層が困難な場合も多かった。しかし、下位の層に関しては、東側で第Ⅳスコリア層まで確認を行い、EW１と２・３の交点では、２×２mのピットを設けて、中部ローム層以下の含雲母グリース状火山灰土（Gr）まで掘削した。また、EW３では採集した土層試料について自然科学分析を実施し、層序の検証および、一般的な愛鷹ローム層との比較を行った。その結果も踏まえ、以下に各層の特徴を記載する。

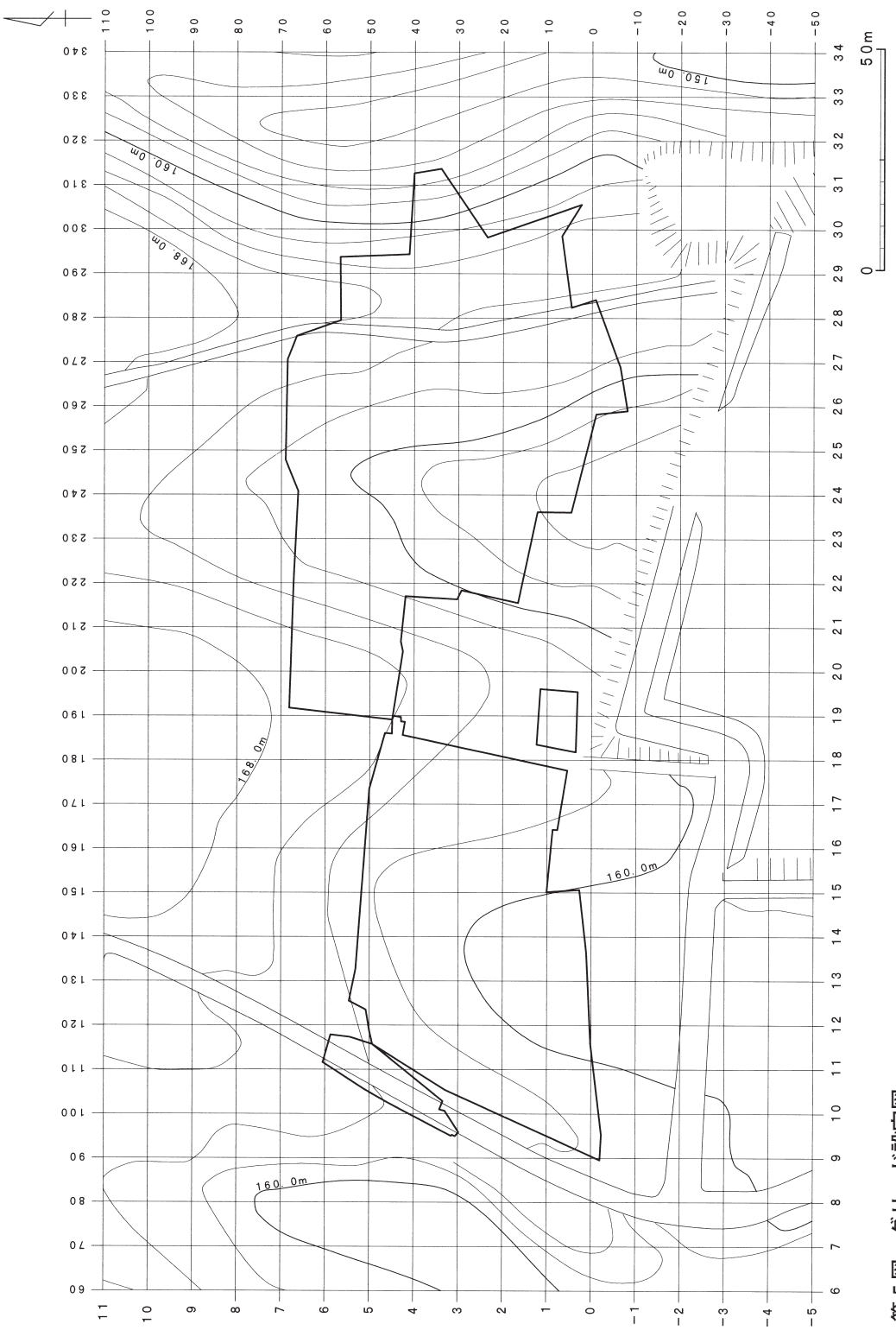
２層の新期スコリア層は、大きく削平を受けていたものの、残存している部分では50㎝前後の堆積が確認できた。KgPに由来する火山ガラスが濃集している。

３・４層にあたる栗色土層と富士黒土層は、比較的厚い堆積が認められた部分でも、混在して漸移的に変化している状態が多く見受けられ、区分は困難であった。縄文時代早期～後期の遺物を含んでいる。

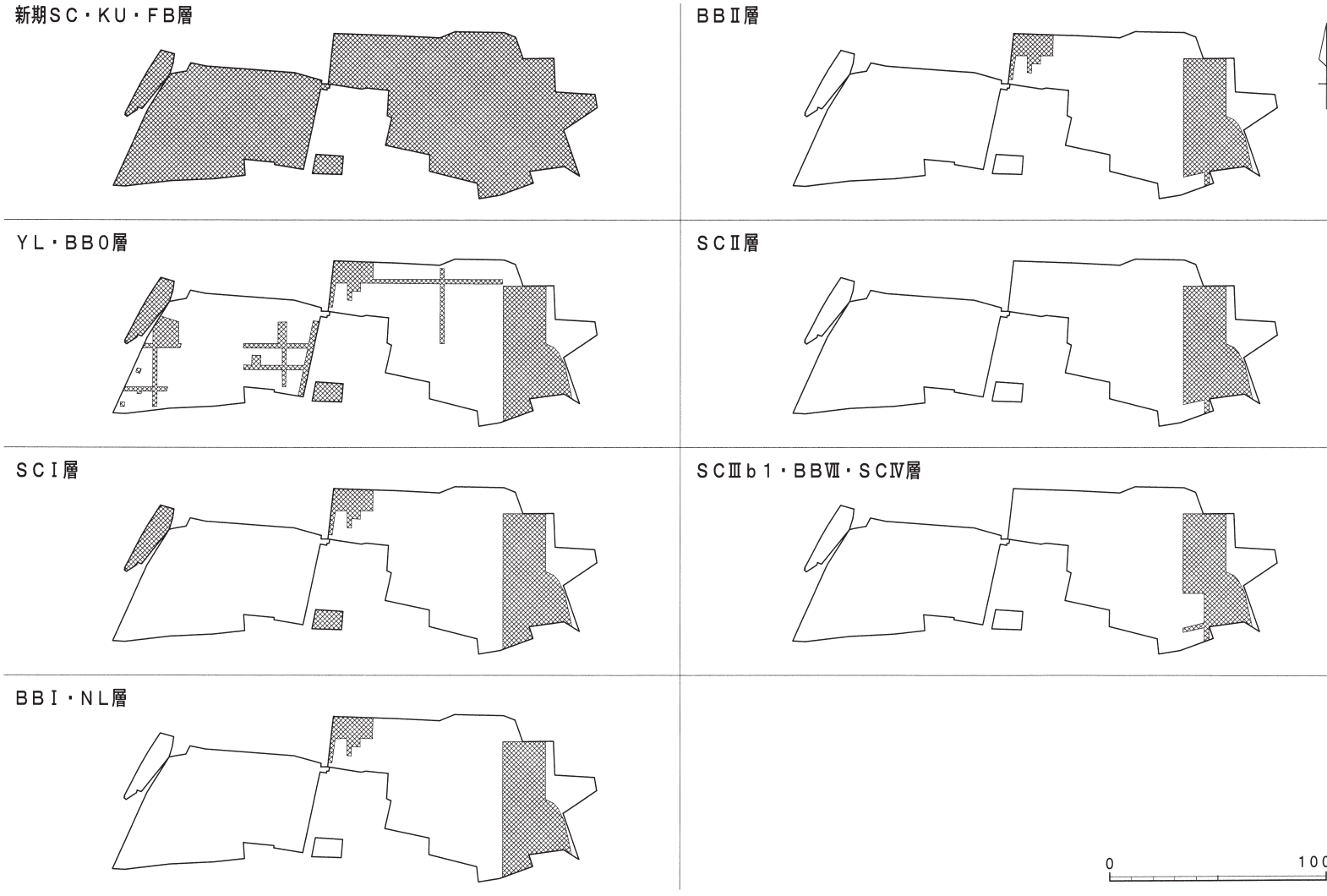
５層の休場層は総じて標準よりも薄く、比較的堆積状況が良好な部分で50㎝前後を測ったが、セクションでは３層に分層することができなかった。ただし、調査区東端で休場層の掘削を行った際には、上位～下位を確認できた部分があり、それぞれに遺物を検出している。

６層の休場層下部黒色帯以下は、愛鷹山東南山麓の一般的な層準に従って推移しており、６～11・14・23層（BB０～SCⅡ・SCⅢb1・BBⅦ）を調査対象とした（第６図）。特に第Ⅰ～Ⅶ黒色帯までの黒色帯は比較的明瞭に認められ、ニセローム層でAT由来の火山ガラスが検出されている。中部ローム層以下の確認を行ったピットでは、表土下４m付近でペアスコリアが、表土下約５m付近でGrのブロック状堆積物が認められた。

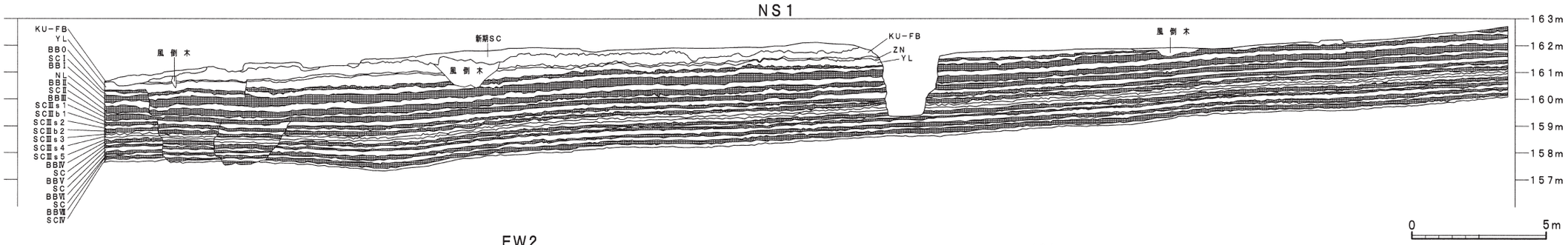
また、EW６セクションを始め、再堆積層と思われる土層が含まれている場合があり、一部の第Ⅰ黒色帯より上位のローム層では、標準的な愛鷹ローム層のとの対比が不可能な地点も存在した。自然科学分析の結果を考慮すると、これらは休場層を主体とするローム層最上部の土層を供給元として、削剥、撹乱とその後の再堆積により形成された土層であると考えられる。

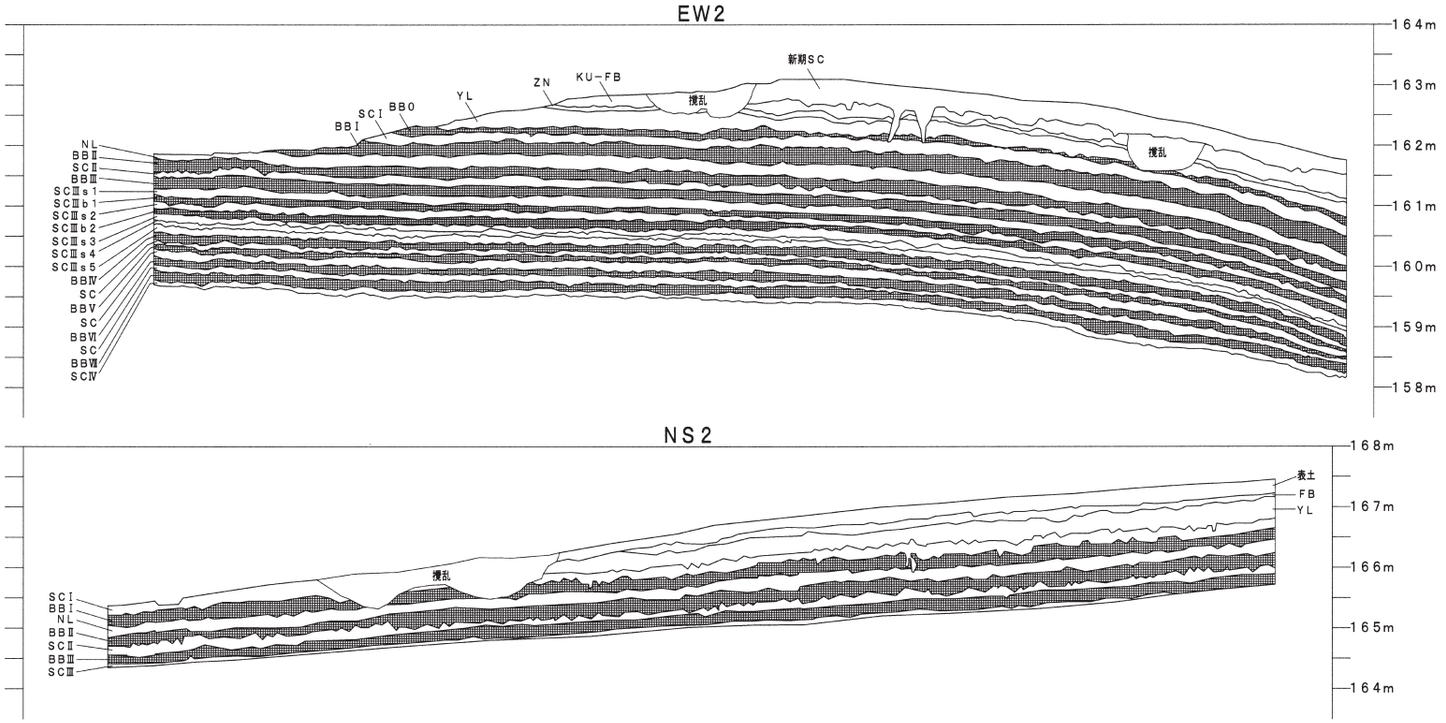

110
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
-10
-20
-30
-40
-50
340
330
320
310
300
290
280
270
260
250
240
230
220
210
200
190
180
170
160
150
140
130
120
110
100
90
80
70
60
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
-1
-2
-3
-4
-5
34
33
32
31
30
29
28
27
26
25
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
150.0m
160.0m
168.0m
188.0m
160.0m
160.0m
50m
0

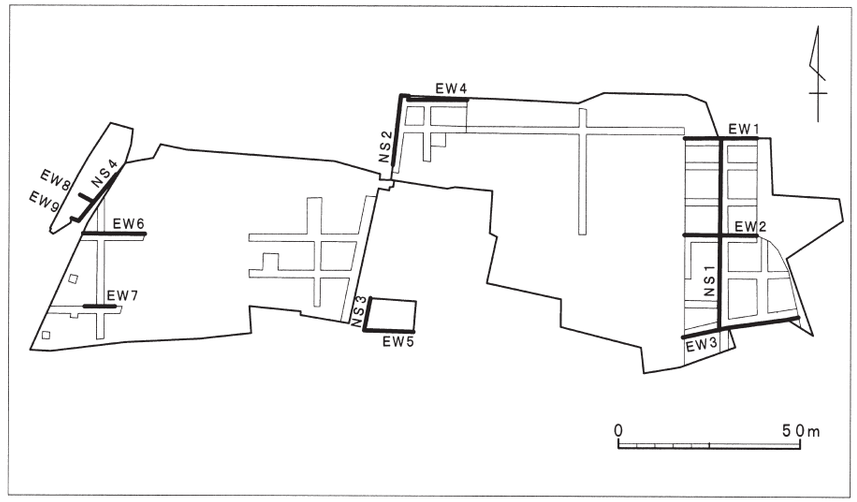
第５図　グリッド設定図

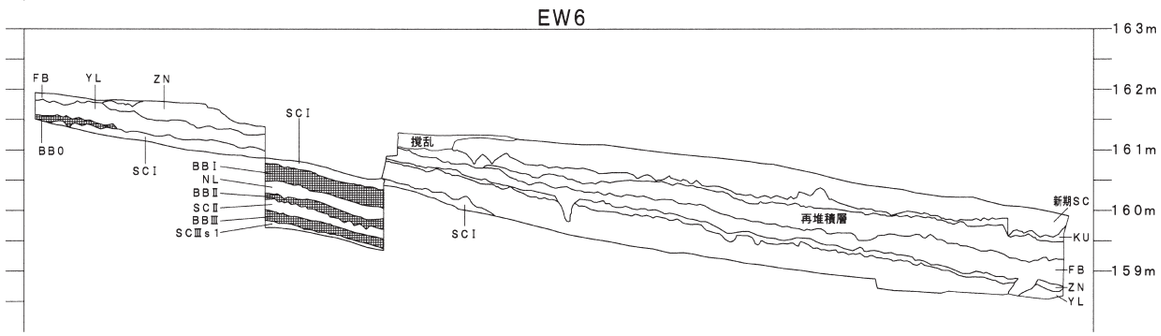

新期SC・KU・FB層
BBⅡ層
YL・BB0層
SCⅡ層
SCⅠ層
SCⅢb1・BBⅦ・SCⅣ層
BBⅠ・NL層
0
100m

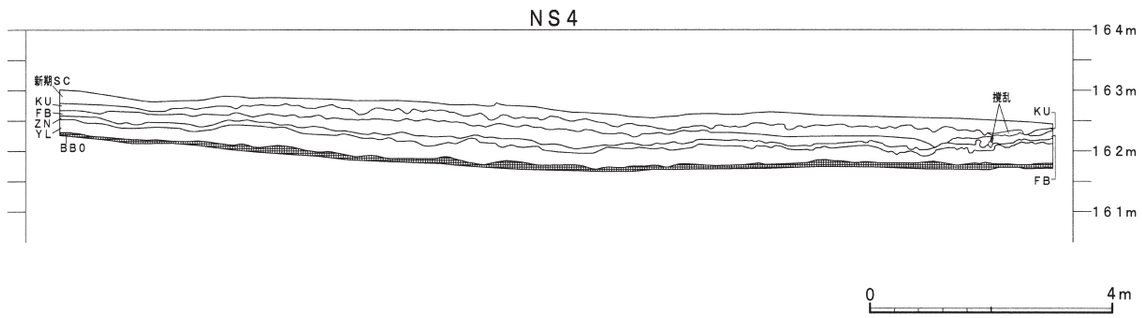
第6図　調査範囲図











第7図　土層セクション図

第２節　古墳時代以降の遺構と遺物

（１）遺構（第８図）

古墳時代以降に属する遺構としては、溝状遺構17本と土坑59基が検出され、両遺構とも谷Ｂ・Ｃ上に集まっている。溝状遺構は谷の地形に沿うように走り、その周辺と北側に土坑が広がっている。いずれも、非常に黒味の強い黒ボク土が落ち込んでいたことから、明瞭に捉えることができた。しかし、遺物を始め、時期を特定するための判断材料が乏しいため、古墳時代以降という大きな捉え方しかできなかった。よって、個別の詳細な記述は省略し、調査区内における分布状況を中心とした記述にとどめる。

①溝状遺構

第１号・第２号溝状遺構（第９・10図）

ＳＤ１・２は、谷Ｂの緩斜面上に位置し、新期スコリア層上面で検出された。２本の溝は南から貫入する谷Ｂの先端部に向かって南－北東方向へ伸びており、ＳＤ１は谷の形状に沿うようなかたちで、緩やかな曲線を描いている。ＳＤ２の北東先端には、溝と垂直に交わるように５基のピットが東西方向へ並ぶ。どちらの溝も、南側が調査区外となってしまっているが、本来は谷の中心部へ向かってさらに伸びていたものと考えられる。

ＳＤ１・２ともに60㎝前後の幅を保ち、広い部分では100㎝以上、狭い部分では30㎝を下回る。底部はＵ字形または舟底形を呈し、ＳＤ２では、最も深いところで260㎝に達した。底部に小穴は確認されていない。

第18号溝状遺構（第11図）

ＳＤ18は谷Ｃの東側斜面上に位置し、新期スコリア層で検出された。溝は162.5ｍ付近の等高線に沿うように、北西から南東方向へ走っている。現状で見る限り、谷Ｃ部に構築された一連の溝とは繋がりを持たない、単独の溝であると考えられる。溝幅は100㎝を越えるが、溝全体が西へ傾いているため、東側は堀り込みが非常に浅く、低くなっている西側は150㎝以上の深さを測る。セクションＡ－Ａ’では、掘り直した形跡が見られる。

第４～13・16・17・19・20号溝状遺構（第12～14図）

ＳＤ４～13・16・17・19・20は、谷Ｃの緩斜面上に位置し、新期スコリア層上面で検出された。溝は谷部を囲うＳＤ４・10・11と、囲われた区域を南北に分断するＳＤ９を中心に構成されている。ＳＤ４・10・11は元々同一の溝と思われ、谷の縁を巡るように曲線的に掘られている。溝は途中で切れてしまっているが、谷の傾斜に合わせてさらに南へと下り、調査区外に続いていくと考えられる。ＳＤ９はＳＤ４・10・11で囲われた区域内を南北に分断するように東西へ走っている。それ以外は、他の溝から樹枝状に枝分かれするものと、現状どの溝とも繋がらず単独で存在しているものの２種類が存在する。ＳＤ５・６・７はＳＤ４、ＳＤ12・13はＳＤ11、ＳＤ16はＳＤ５とそれぞれ樹枝状に繋がっている。ＳＤ８・17・19・20は溝の途中部分を一部検出するに留まったが、他の溝と繋がる可能性が高いと思われる。特に太いＳＤ４と９では、溝幅は90㎝以上を測り、100㎝を越える部分もある。断面は全体にＵ字形または舟底形を呈するものが多く、40㎝前後の深さを保つ。また、これら一連の溝の最も外側を回るＳＤ４では、改修の跡が明瞭に認められた。改修後の堀り

込みは総じて浅く、当初の溝がほとんど埋没した段階で掘り直している様子が見られる。底部に小穴は確認されていない。

これら現地での調査に加え、ＳＤ４・５・６ではＢ－Ｂ'セクションで覆土を採集し、自然科学分析を実施した。その結果によると、覆土ではカワゴ平パミス（KgP）に由来する火山ガラスが検出され、含まれている重鉱物は周囲の黒ボク土層と類似した組成を示していた。したがって、ＳＤ４～６の覆土は、KgPを含む新期スコリア層以上の黒ボク土が主に流入しているものと考えられる。また、時期の特定に至るものではないが、試料全点に大淵スコリア（Obs）が認められたことから、Obsの降下年代とされるＢ.Ｐ.1400年ないし、それ以降に埋積され始めたということはいえる。さらに、底部の覆土を対象に珪藻分析を行った結果、いずれも陸生珪藻が優占しており、溝底部が埋没した時期、溝には水が溜まっておらず、乾燥した状況であったと考えられる。これらの結果は、類似した検出状況を示す他の溝状遺構にも、概ね当てはまるであろう。

②土坑

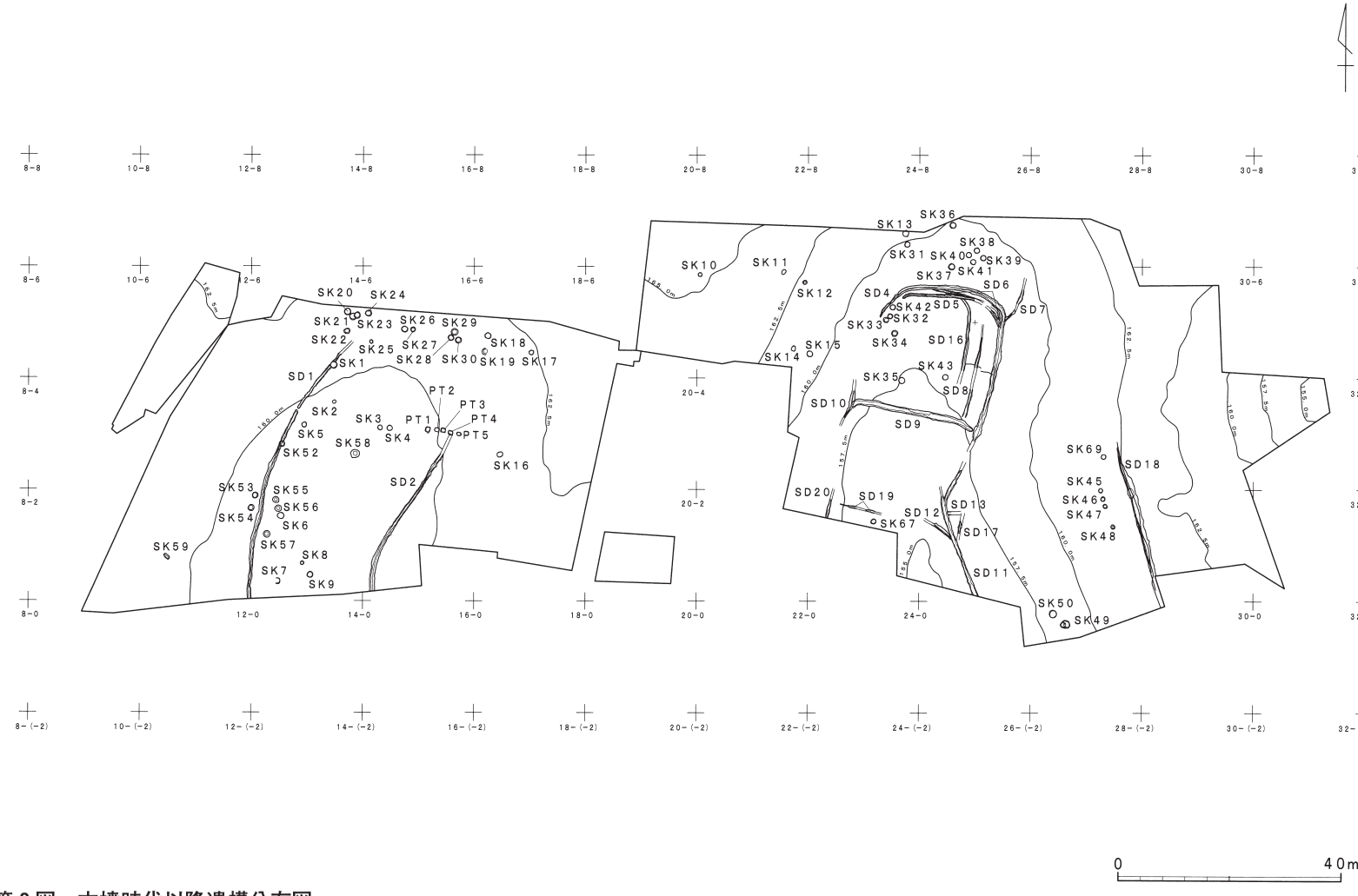
土坑は農道を挟んだ東側で27基、西側で32基が検出された。東側は谷Ｃ部付近にまとまっており、特に溝で囲まれた区域内とその北側に集中している。西側でもやはり谷Ｂ部付近を中心にまとまっており、ＳＤ１の周囲と北側に多い。各土坑は互いの距離が近く、数基単位で構築されている様子が見られる。

規模や形状はいずれも似通っており、幅100～200㎝前後できれいな円形を呈するものがほとんどである。堀り込みは総じて浅く、20㎝に満たないものも多い。

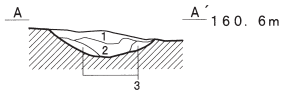
これら土坑のうちＳＫ６では、溝状遺構と同様の自然科学分析を行っている。その結果によると、覆土からはKgPの火山ガラスが検出され、含まれている重鉱物は、遺構外の土層と類似した組成であった。したがって、ＳＫ６の覆土は、KgPを含む新期スコリア層より上位の黒ボク土層が主に流入しているものと考えられる。また、溝状遺構と同様に試料全点でObsが認められた。

（２）遺物

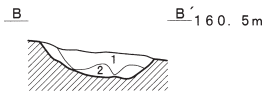
各溝状遺構や土坑からは、少量の土器片や石器類が検出された。しかし、いずれも古墳時代の土器や縄文時代の石器類が流入したものであり、溝状遺構の時期を決定付けるものではなかった。



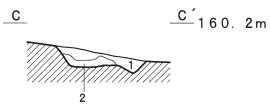
第8図　古墳時代以降遺構分布図



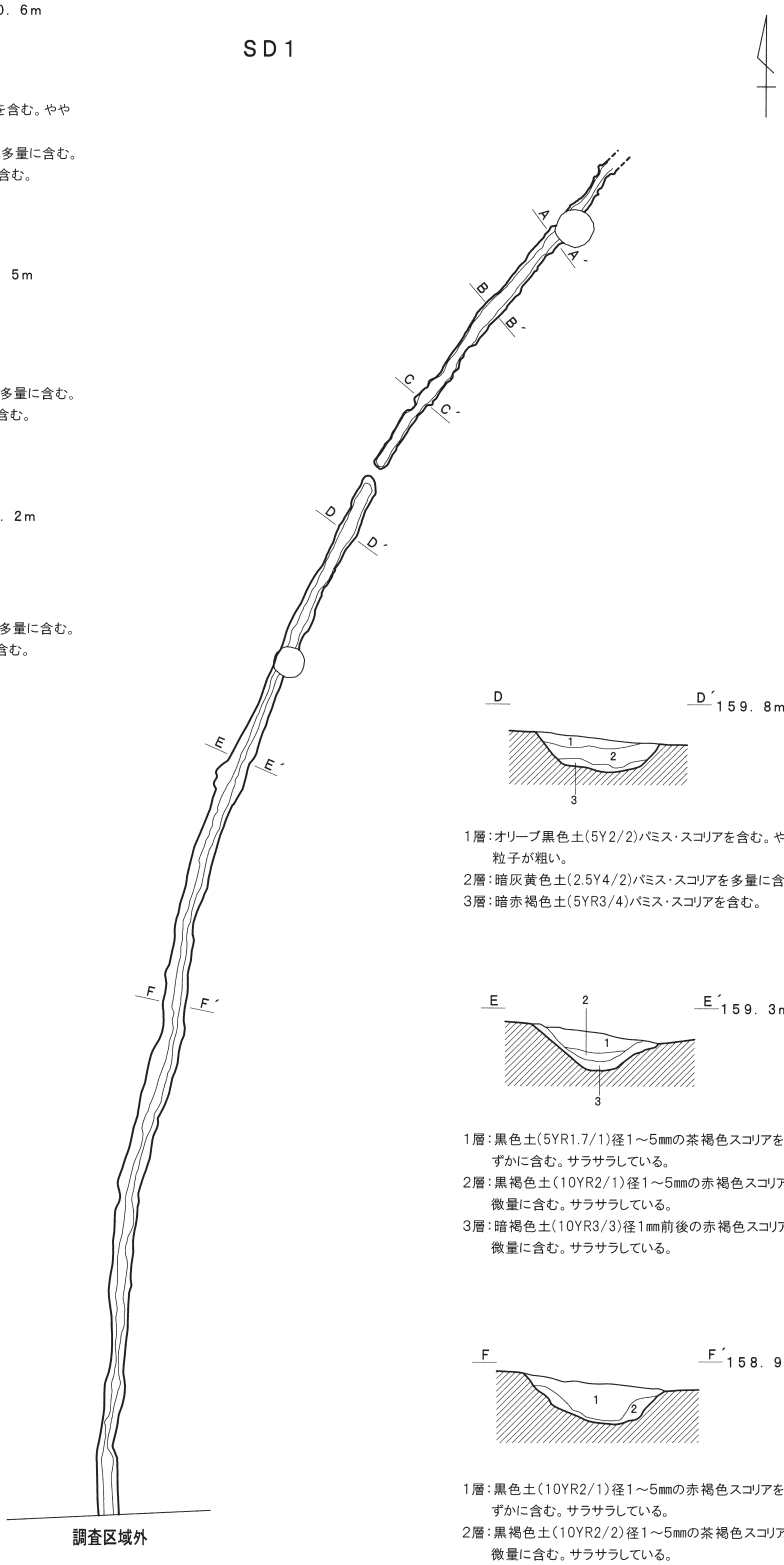
1層：オリーブ黒色土(5Y2/2)パミス・スコリアを含む。やや粒子が粗い。
2層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)パミス・スコリアを多量に含む。
3層：暗赤褐色土(5YR3/4)パミス・スコリアを含む。



1層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)パミス・スコリアを多量に含む。
2層：暗赤褐色土(5YR3/4)パミス・スコリアを含む。



1層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)パミス・スコリアを多量に含む。
2層：暗赤褐色土(5YR3/4)パミス・スコリアを含む。

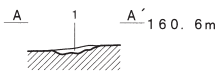


1層：オリーブ黒色土(5Y2/2)パミス・スコリアを含む。やや粒子が粗い。
2層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)パミス・スコリアを多量に含む。
3層：暗赤褐色土(5YR3/4)パミス・スコリアを含む。

1層：黒色土(5YR1.7/1)径1～5㎜の茶褐色スコリアをわずかに含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(10YR2/1)径1～5㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
3層：暗褐色土(10YR3/3)径1㎜前後の赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。

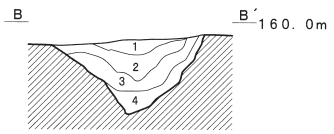
1層：黒色土(10YR2/1)径1～5㎜の赤褐色スコリアをわずかに含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(10YR2/2)径1～5㎜の茶褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。

第9図　第1号溝状遺構実測図

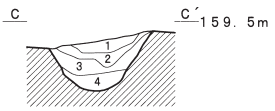


1層：褐色土(7.5YR4/4)パミス・スコリアを多量に含む。

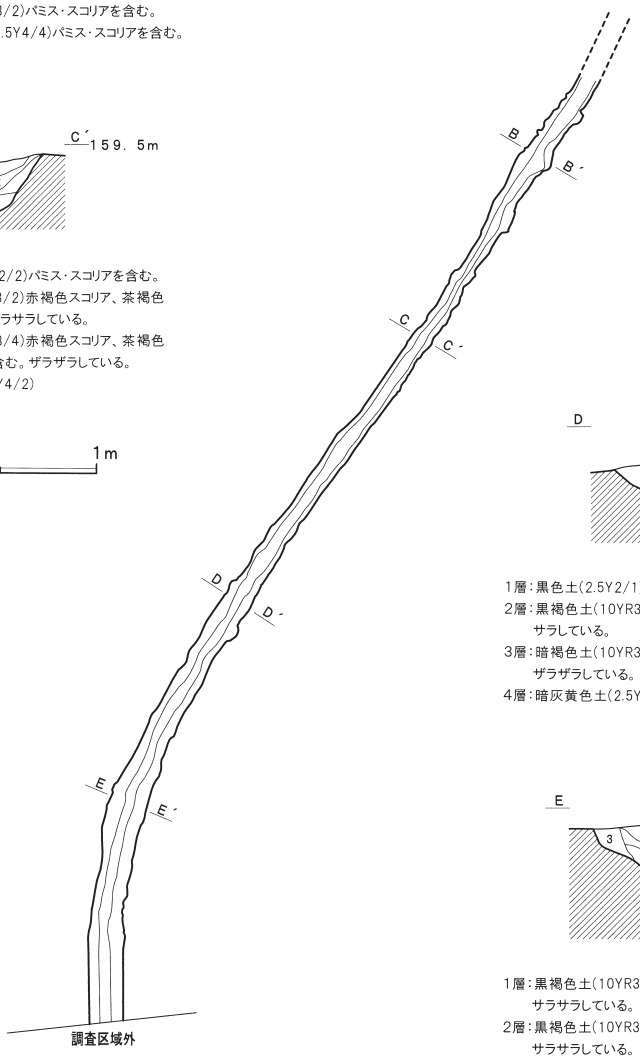
SD2

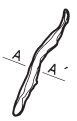


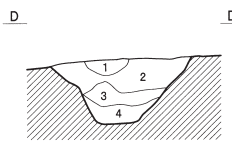
1層：オリーブ黒色土(5Y2/2)パミス・スコリアを含む。
2層：黒褐色土(2.5Y3/2)パミス・スコリアを含む。
3層：黒褐色土(10YR3/2)パミス・スコリアを含む。
4層：オリーブ褐色土(2.5Y4/4)パミス・スコリアを含む。



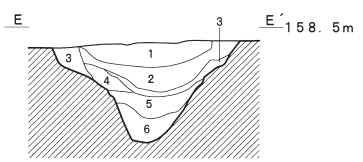
1層：黒褐色土(7.5YR2/2)パミス・スコリアを含む。
2層：黒褐色土(10YR3/2)赤褐色スコリア、茶褐色スコリアを含む。サラサラしている。
3層：暗褐色土(10YR3/4)赤褐色スコリア、茶褐色スコリアを微量に含む。ザラザラしている。
4層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)





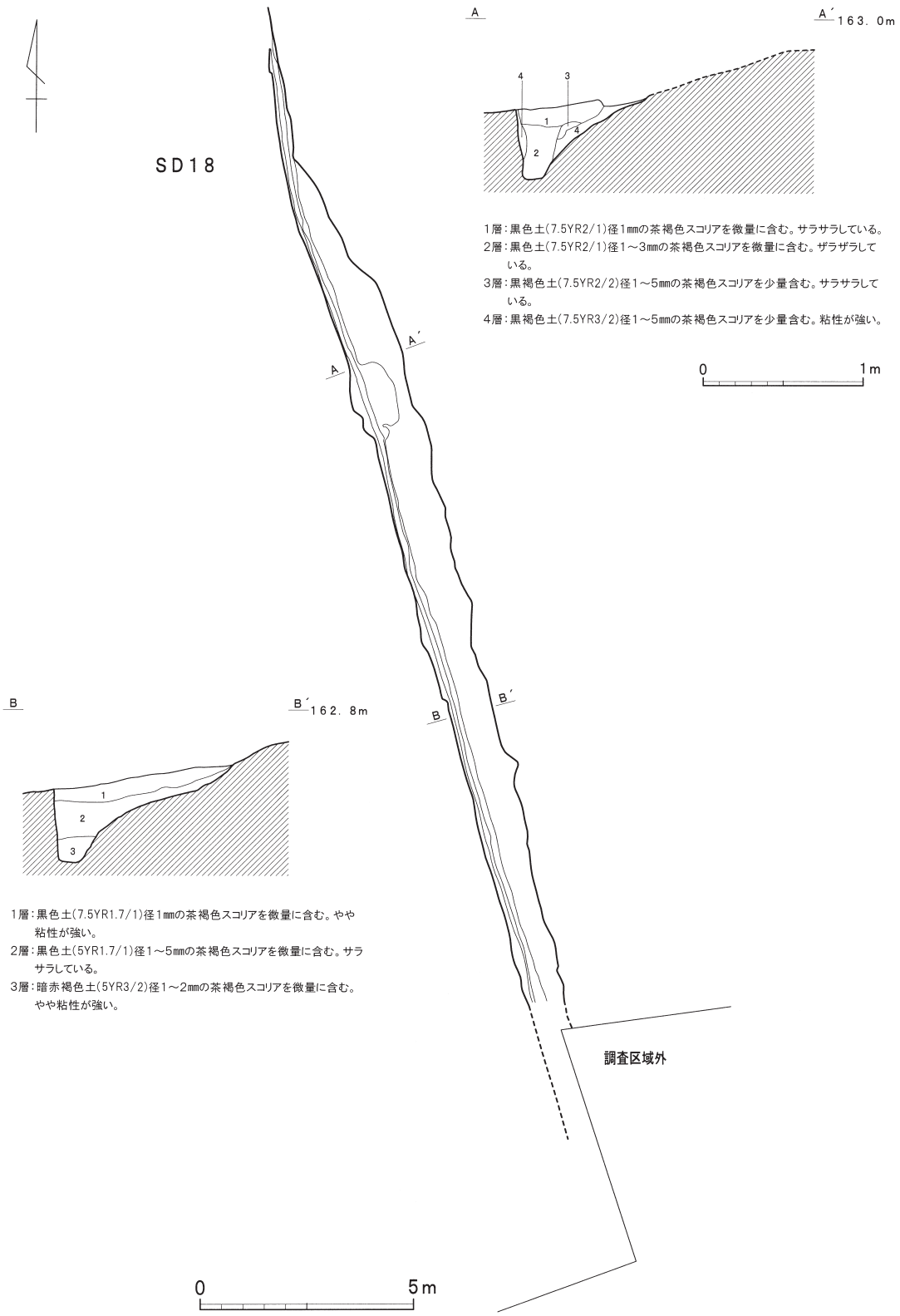


1層：黒色土(2.5Y2/1)パミス・スコリアを含む。
2層：黒褐色土(10YR3/2)赤褐色スコリア、茶褐色スコリアを含む。サラサラしている。
3層：暗褐色土(10YR3/4)赤褐色スコリア、茶褐色スコリアを微量に含む。ザラザラしている。
4層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)

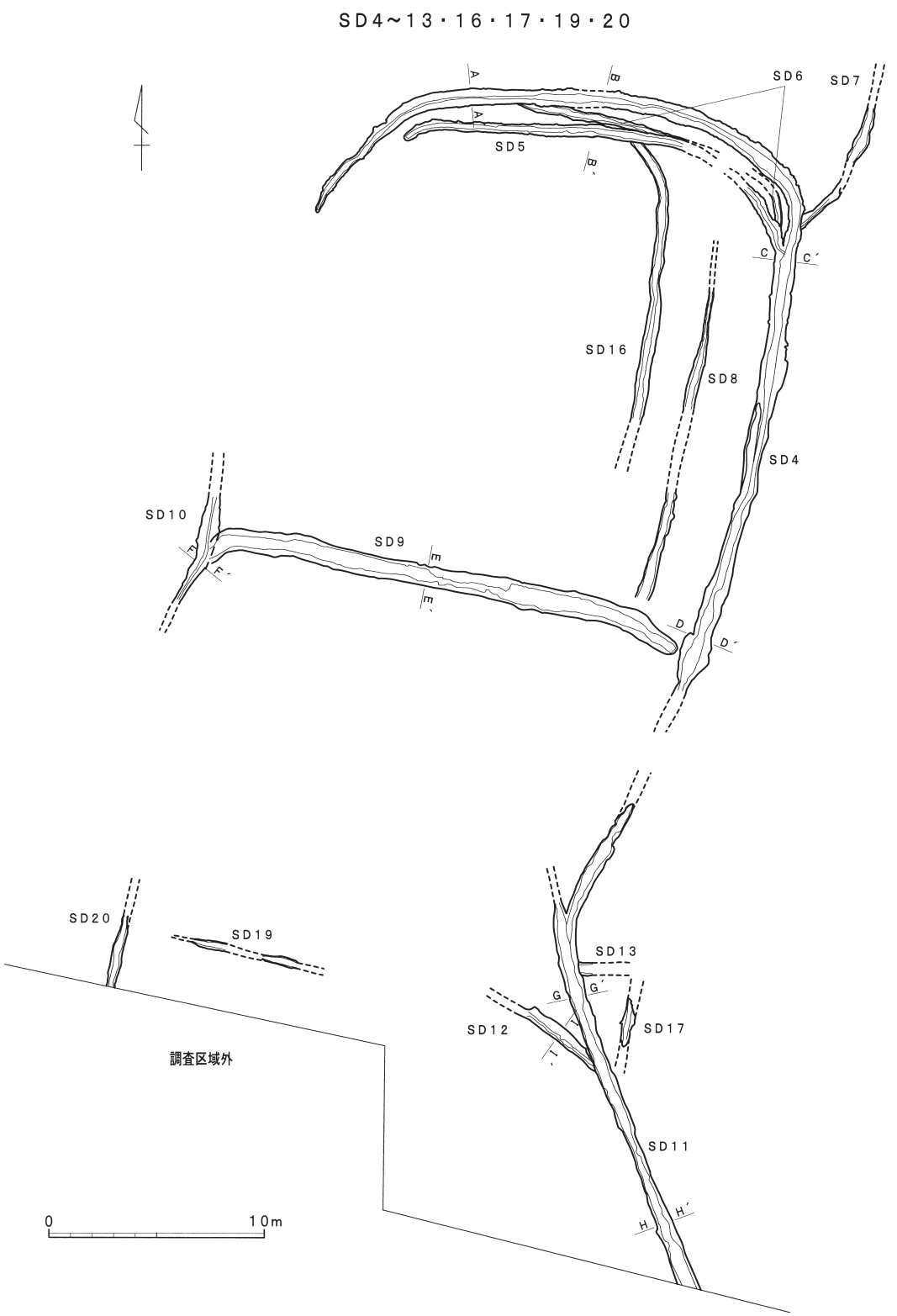


1層：黒褐色土(10YR3/2)赤褐色スコリア、茶褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(10YR3/2)赤褐色スコリア、茶褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
3層：暗褐色土(10YR3/4)赤褐色スコリア、茶褐色スコリアを微量に含む。ザラザラしている。
4層：黒褐色土(7.5YR2/2)
5層：暗褐色土(7.5YR3/4)
6層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)

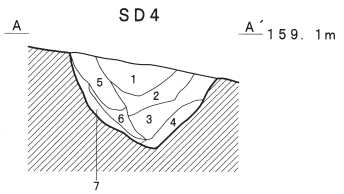
第10図　第２号溝状遺構実測図



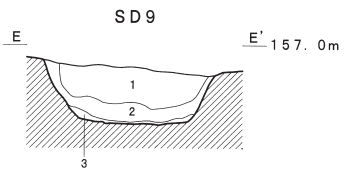
第11図　第18号溝状遺構実測図



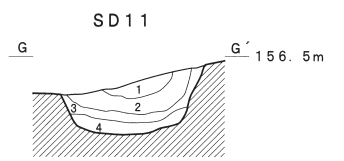
第12図　第４～13・16・17・19・20号溝状遺構実測図（１）



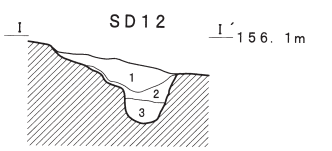
1層：黒褐色土(2.5YR2/1)径1㎜の褐色スコリアを微量に含む。ザラザラしている。
2層：黒色土(5YR2/2)径1～3㎜の褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
3層：黒褐色土(2.5YR3/2)径1～3㎜の褐色スコリア、径1㎜未満の白色パミスを微量に含む。やや粘性が強い。
4層：暗褐色土(7.5YR2/3)径1㎜の白色パミスを微量に含む。やや粘性が強い。
5層：黒褐色土(7.5YR2/2)径1～5㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
6層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1㎜前後の褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
7層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3㎜の褐色スコリアを微量に含む。ザラザラしている。



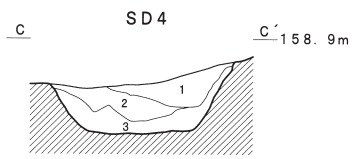
1層：青黒色土(10BG)径数㎜のパミスとスコリアを多量に含む。
2層：1層と褐色土がブロック状に混在する。
3層：褐色土に対し、青黒色土がブロック状に混入する。



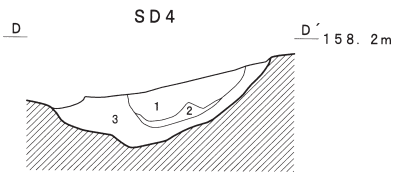
1層：オリーブ黒色土(5Y3/1)径3㎜程度のパミスとスコリアを含む。
2層：暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)径3㎜程度のパミスとスコリアを多量に含む。
3層：灰オリーブ色土(5Y4/2)スコリアを少量、パミスを多量に含む。
4層：暗オリーブ褐色土(5Y4/3)パミスとスコリアをほとんど含まない。



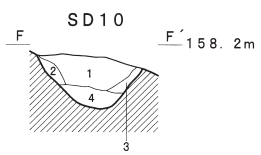
1層：暗緑灰色土(10GY3/1)パミスとスコリアを多量に含む。
2層：暗オリーブ褐色土(2.5Y4/3)1層がブロック状に混入する。
3層：青黒色土(10BG2/1)



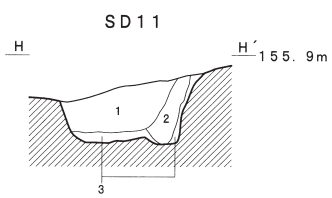
1層：黒色土(7.5YR1.7/1)径1～4㎜の茶褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
2層：暗褐色土(7.5YR2/3)径1～7㎜の茶褐色スコリアをわずかに含む。やや粘性が強い。
3層：暗褐色土(7.5YR2/3)径1㎜の茶褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。



1層：黒色土(7.5YR1.7/1)径1～3㎜の赤褐色スコリアと炭化物をわずかに含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(7.5YR2/2)径1～2㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
3層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～5㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。

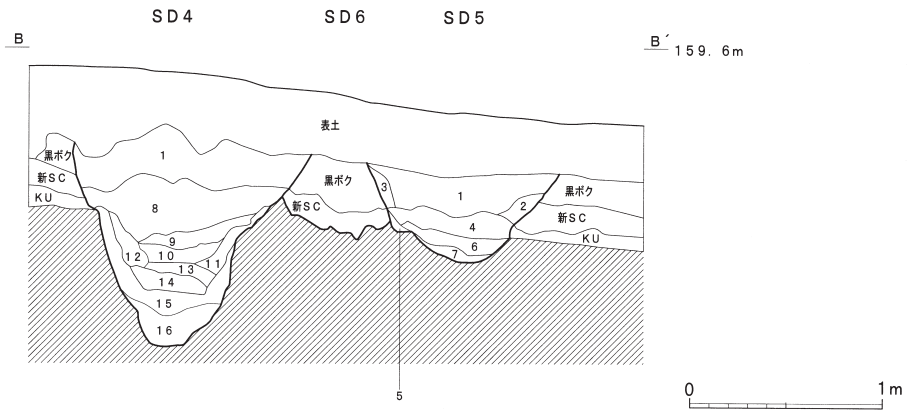


1層：オリーブ黒色土(5Y3/1)径5㎜程度のパミスとスコリアを含む。
2層：褐色土(7.5YR4/3)
3層：オリーブ黒色土(7.5Y2/2)1層と新期スコリアが混在する。
4層：オリーブ褐色土(2.5Y4/3)



1層：オリーブ黒色土(5Y2/2)径2㎜程度のパミスとスコリアを多量に含む。
2層：黒色土(10Y2/1)径2㎜程度のパミスとスコリアを多量に含む。
3層：暗灰黄色土(2.5Y4/2)パミスとスコリアをほとんど含まない。

第13図　第4～13・16・17・19・20号溝状遺構実測図（2）



1層：黒色土(5Y2/1)パミス・スコリアを多量に含む。
2層：黒色土(10Y2/1)パミス・スコリアを多量に含む。
3層：オリーブ黒色土(7.5Y2/2)パミス・スコリアを多量に含む。
4層：オリーブ黒色土(7.5Y3/1)パミス・スコリアを多量に含み、特に橙色スコリアが目立つ。
5層：オリーブ黒色土(7.5Y3/2)パミス・オリーブ黒スコリアを多量に含む。
6層：オリーブ黒色土(7.5Y3/2)パミス・スコリアを多量に含む。
7層：新期スコリアと4層が混在する。
8層：黒色土(10Y2/1)パミス・スコリアを含む。
9層：黒色土(2.5YR1/2)パミス・スコリアを含む。
10層：黒色土(5Y2/1)褐色スコリアを含む。
11層：黒褐色土(7.5YR2/2)径1～3㎜の褐色スコリアを含む。やや粘性が強い。
12層：黒褐色土(10YR2/2)径1～3㎜の褐色スコリアを含む。
13層：黒褐色土(7.5YR3/2)橙色スコリアを含み、ザラザラしている。
14層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～5㎜の橙色スコリアを含む。
15層：暗褐色土(7.5YR3/4)橙色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
16層：黒褐色土(5YR3/1)径1～3㎜のスコリアを含む。ザラザラしている。

第14図　第4～13・16・17・19・20号溝状遺構実測図（3）

第3節　弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構と遺物

（1）遺構と遺物の分布状況

①遺構（第15図）

弥生時代後期～古墳時代初頭に属する遺構としては、住居址5基・土坑1基・溝状遺構1本が検出された。最も特筆すべきは、調査区を東西に貫く大きな溝（ＳＤ3）である。溝は尾根を挟みながら谷Ｂと谷Ｃにまたがっており、地形に沿って迂回することなく東西へ直線的に走っている。さらにこの溝で注目されるのは、溝上に土坑が並んでいる点である。検出された土坑は30基を数え、その規模も非常に大きい。このような特徴を持つ溝状遺構は全国的にも例がなく、愛鷹山東南山麓の高地性集落に特有の存在である可能性も考えられる。住居址と土坑はすべて、谷Ｂ東の緩斜面から尾根にかけて広がっている。住居址・土坑ともに溝状遺構以南に位置しており、以北ではこの時期に属する遺構は検出されていない。

また、八兵衛洞遺跡から450m程東にあり、同じ第二東名建設事業に伴って発掘が行われた、植出北遺跡（No.5地点）と二ッ洞遺跡（No.4地点）でも、規模や形状の非常に似通った溝が発見された。八兵衛洞遺跡Ｅ地区東の谷で一端途切れた溝は、断続しながらいくつもの尾根と谷を越え、植出北遺跡の尾根上に再び姿を現すものと考えられる。その延長は1㎞以上に及ぶが、愛鷹南麓に展開する複数の集落遺跡のほぼ北端を貫いている。全国的に見ても類例が皆無であるため、その性格を断定するには資料が不足しているが、検出状況や自然科学分析の結果を総合しながら現時点での見解をまとめ、今後の検討材料を提示したい。

②遺物

出土遺物は全体として非常に少なく、土器が出土したのみであった。その大半は住居址と第3号溝状遺構からの出土で、遺構外から出土した土器のうち図化できたものはほとんど存在しない。土器はすべて弥生時代後期に属する壺と甕で、完形に近く状態の良い土器は皆無に等しい。

住居址から出土した土器は、点数も多くはなく、口縁部から胴部上半、もしくは底部から胴部下半までしか残存していないものがほとんどで、完形のものは無かった。これは、住居の立ち上がりが低く、覆土が浅いことが影響していると考えられる。しかし、同じように第二東名自動車道の建設に伴って発掘調査が行われた二ッ洞遺跡（No.4地点）と植出北遺跡（No.5地点）では、各住居址から多量の土器が出土しており、八兵衛洞遺跡とは様相が異なっている。

遺跡内で最もこの時期の土器が集中していたのは、第3号溝状遺構である。ただし、全体の傾向と同様に、残存状況は決して良いとはいえず、壺の口縁部や底部、甕の上半部を中心に出土している。住居址の北、谷Ｂの先端から尾根にかかる部分でややまとまって出土する傾向にあり、付属する土坑からはごく少量しか出土しなかった。土器の出土した深さを見ると、溝の底部から浮いた状態で覆土中に存在していたことから、溝覆土の埋積がある程度進んだ状態で、遺棄されたものと考えられる。

第15図　弥生時代後期～古墳時代初頭遺構分布図

（2）遺構

①住居址

谷Bの東側緩斜面から尾根にかけて5基が検出された。住居址付近は、茶畑の耕作による削平を大きく受けていることから、新期スコリア層の残存している部分が非常に少なく、表土直下が休場層となっている部分もある。このような状況に加え、深耕や檜林が密生していたことによる撹乱の影響で壁の立ち上がりを把握できない部分が多かった。また、床面も消失している部分が多く、住居址全体のプランは不明確なものが多い。しかし、残存する床面の広がりや柱穴の位置、比較的良好に残存していた掘り方などを元におおよそのプランを捉えることはできた。出土遺物は非常に少ない。

第1号住居址（第16図）

【調査経過】

谷B東側の緩斜面上に位置する。ＳＢ1付近は耕作による削平が大きく、栗色土層の上部が露出していた。10月中旬に検出された時点で、すでに東側の一部床面が見える状態であったため、10月末頃にかけては床面の検出を中心に進めた。床面記録後は、遺物柱を残したまま掘り下げていき、長軸・短軸方向に設定した2本のセクションベルトで土層の観察をした。最終的に堀り方まで掘り下げて柱穴の位置を確定し、11月末に空中写真撮影で完掘状況を記録している。

【覆土】

1層：褐色土（10YR4/4）パミス・褐色スコリアを多量に含む。
2層：褐色土（7.5YR4/6）パミス・スコリアを多量に含み、径10㎜程度の炭化物を少量含む。
3層：黒褐色土（10YR3/2）炭化物を多量に含み、黒色化している。
4層：褐色土（10YR4/4）パミス・橙色スコリアを多量に含み、よく締まっている。
5層：休場層～休場層下部黒色帯のブロックが混在する。

【形状】

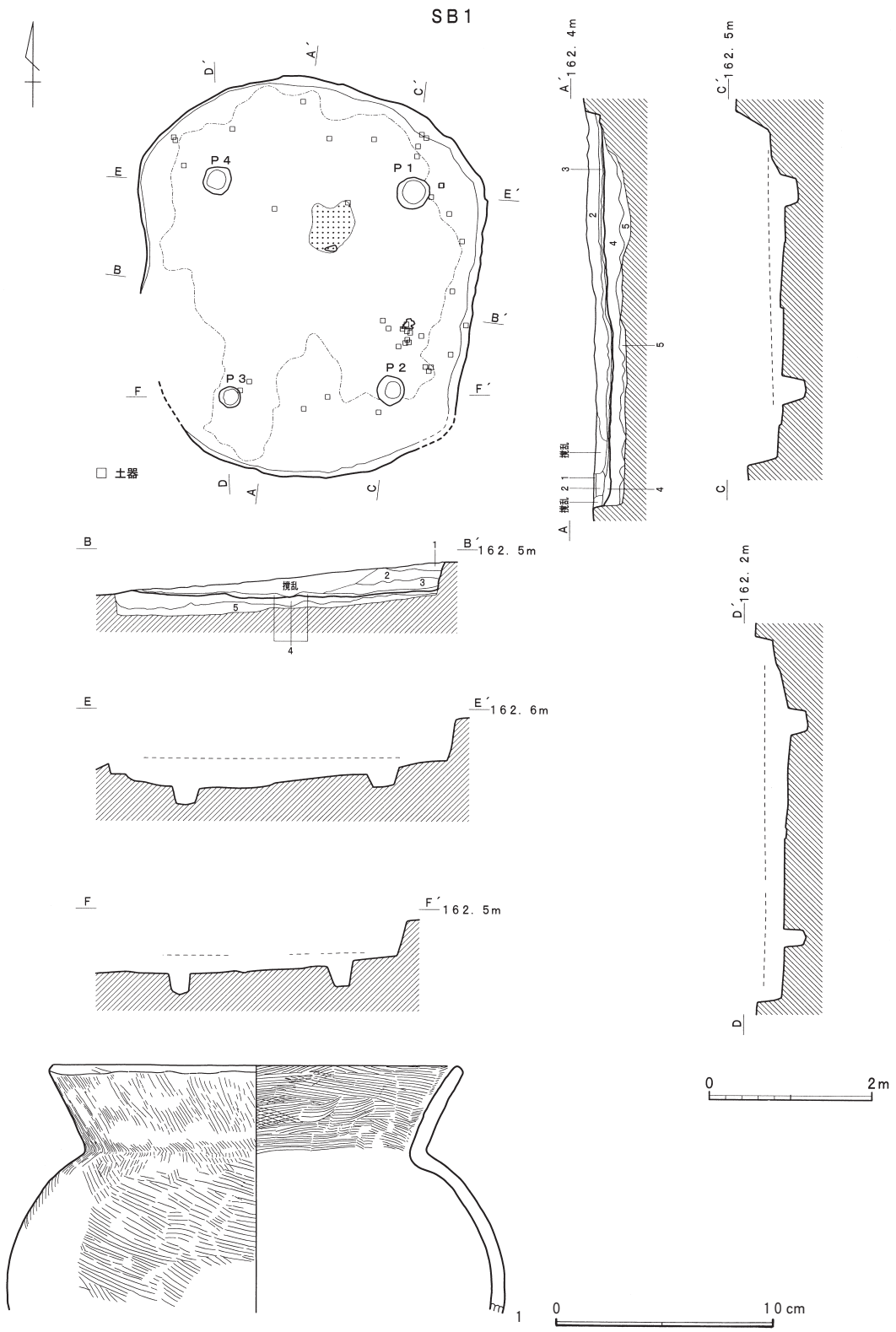
撹乱により一部プランが消失しているが、貼床が明瞭に認められたため、プランをほぼ捉えることができた。平面形は隅丸方形に近く、長軸4.92m、短軸4.12m。主軸は等高線と沿うように、ほぼ北を向く。

【床・壁】

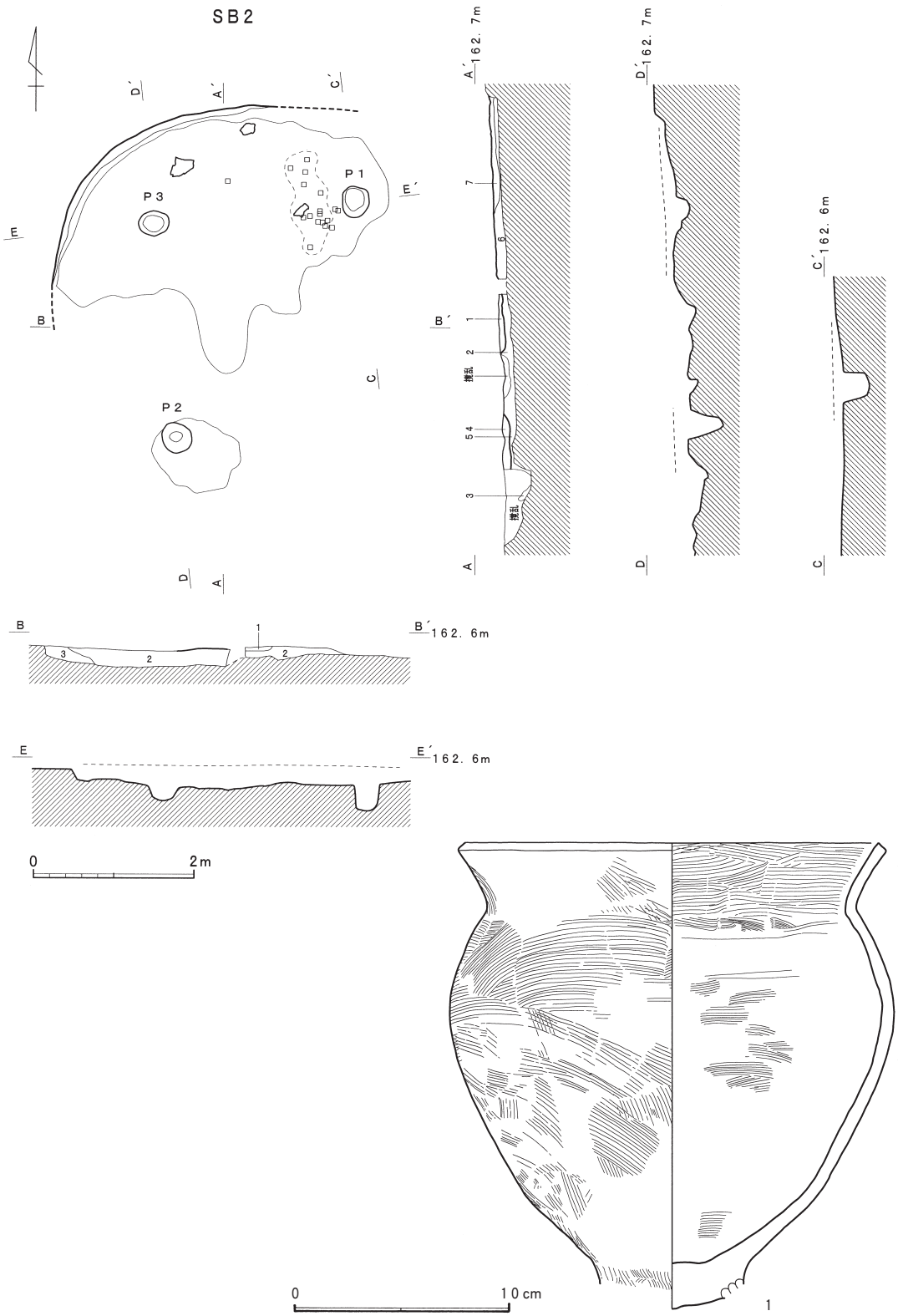
床面は北側を中心に検出され、南側は柱穴の周辺のみ残っていた。床直上付近に当たる覆土3層は、黒味の強い色調を呈していることから、有機質が多量に含まれていたと考えられる。壁の立ち上がりは東壁で高く、最大34㎝を測るが、西側ではほとんど確認できなかった。

【柱穴】

直径25～40㎝の柱穴が四隅で4基検出された。平面形はほぼ円形で、深さは貼床面から36～58㎝を測る。堀り方地山で確認されており、堀り方を精査して正確な位置を確定した。貼床面は平坦だが、堀り方が地形に合わせて西へ傾いているため、貼床面からの深さはＰ1・Ｐ2よりＰ3・Ｐ4の方が若干深い。



第16図　第１号住居址実測図および出土遺物



第17図　第２号住居址実測図および出土遺物

【炉】

中央やや北寄りで、70㎝程の範囲に渡り薄く焼土が広がっていたためこの範囲を炉址としたが、下部に堀り込みは確認できなかった。

【出土遺物】（第16図１）

弥生時代後期の土器がほぼ全面で出土したが、図示できるものは１点であった。南東側の床面付近で台付甕が出土している。口縁部から胴部上半までが残存している。口縁部内面に横位のハケメ、口縁部外面に縦位のハケメが認められ、胴部内面にはハケ調整後ヨコナデが施されている。

第２号住居址（第17図）

【調査経過】

調査区中央付近、谷Ｂ東の尾根上で検出された。住居址東側のプランが調査範囲外に及んでしまうことから、北東隅の柱穴が確認できる範囲まで調査区を拡大した。ＳＢ２付近はやはり耕作による削平が大きく、休場層の上部が露出していた。ＳＢ１・３・４とともに検出された10月中旬には、北西部の床面が一部露出した状態であった。10月末頃まで床面の検出を進め、その範囲を記録した。土層観察用のベルトは長軸・短軸方向へ十字に設定し、北東部分で出土した台付甕１個体分を始めとする遺物柱を残したまま、掘り下げを進めた。堀り方まで下げて柱穴の位置を確認した後、11月末に空中写真撮影で完掘状況を記録している。

【覆土】

１層：暗褐色土（7.5YR3/4）径１～２㎜の茶褐色スコリアを微量に含み、床土にあたる。１～６層までは比較的粒径が大きく粘性が少ないため、「さらさら」とした印象がある。

２層：褐色土（7.5YR3/4）径１～２㎜の茶褐色スコリアを微量に含む。

３層：暗褐色土（7.5YR3/4）径１㎜前後の赤褐色スコリアを微量に含む。

４層：暗褐色土（7.5YR3/4）径１～３㎜前後の赤褐色スコリアを少量含む。床土に当たる。

５層：暗褐色土（7.5YR3/4）径１～５㎜程度の赤褐色スコリアを微量に含む。

６層：暗褐色土（10YR3/4）径１㎜未満の褐色スコリアを微量に含む。

７層：褐色土（7.5YR4/4）径１～３㎜前後の赤褐色スコリアを少量含む。１～６層よりもさらに粒径が大きく、「ざらざら」という印象がある。

【形状】

東側が調査区外に渡っているため、全体のプランを検出することはできなかった。また南側は、檜の根による撹乱および耕作による削平を受けて消失している。検出された壁の立ち上がりや柱穴の位置、他住居址の形状を参考にすると、平面形は隅丸方形に近いと考えられる。

【床・壁】

壁の立ち上がりが一部残っていた北西部から北東部にかけて、および南西隅の柱穴周辺で床面が確認された。壁の立ち上がりは、最大でも７㎝と非常に低く、ほとんど検出できていない。

【柱穴】

掘り方まで掘り下げたところで、直径38～46㎝の柱穴を３基確認した。平面形はほぼ円形で、床面から最大64㎝の深さを測る。

【炉】

検出されていない。

【出土遺物】（第17図１）

弥生時代後期の台付甕が東側の床面直上で出土している。口縁部から胴部が残存しており、脚部のみが欠損している。口縁部は外傾して立ち上がり、胴部は胴部上半に最大径を有し、内湾する。口縁部内面と胴部外面に横位のハケメ、口縁部外面に斜め方向のハケメが認められ、胴部内面にはハケ調整後にヨコナデが施されている。

第３号住居址（第18図）

【調査経過】

谷Ｂ東の緩斜面上､調査区の南寄りで検出された。やはり住居址付近は削平を大きく受けており、富士黒土層が露出していた。10月中旬に検出された時点で、北東部から南東部にかけて一部床面が露出する状態であった。10月末頃までは、ＳＢ１・２・４と平行して床面の検出を中心に進め、その後は、遺物柱を残したまま掘り方まで掘り下げて、住居址の四隅を繋ぐように設定した２本のベルトで土層を観察した。掘り方で柱穴の位置を確定し、11月末に空中写真撮影で完掘状況を記録している。

【覆土】

１層：褐色土（10YR4/4）パミスとスコリアを含み、炭化物を少量含む。

２層：赤黒色土（2.5YR2/1）径５～10㎜程度のパミス・スコリア・炭化物を多量に含む。

３層：暗褐色土（10YR3/4）径１～７㎜の茶褐色スコリアを少量含み、径１㎜程度の白色パミスを全体に含む。他層に比べて粒径が大きく､「さらさら」とした印象がある。

４層：暗褐色土（7.5YR3/3）径１～４㎜の茶褐色スコリアと径１㎜の白色パミスを含む。よく締まっている。

５層：暗褐色土（10YR3/3）パミスを微量に含む。

６層：暗褐色土（7.5YR3/4）よく締まった床土。

７層：暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）休場層下部黒色帯に相当する。

【形状】

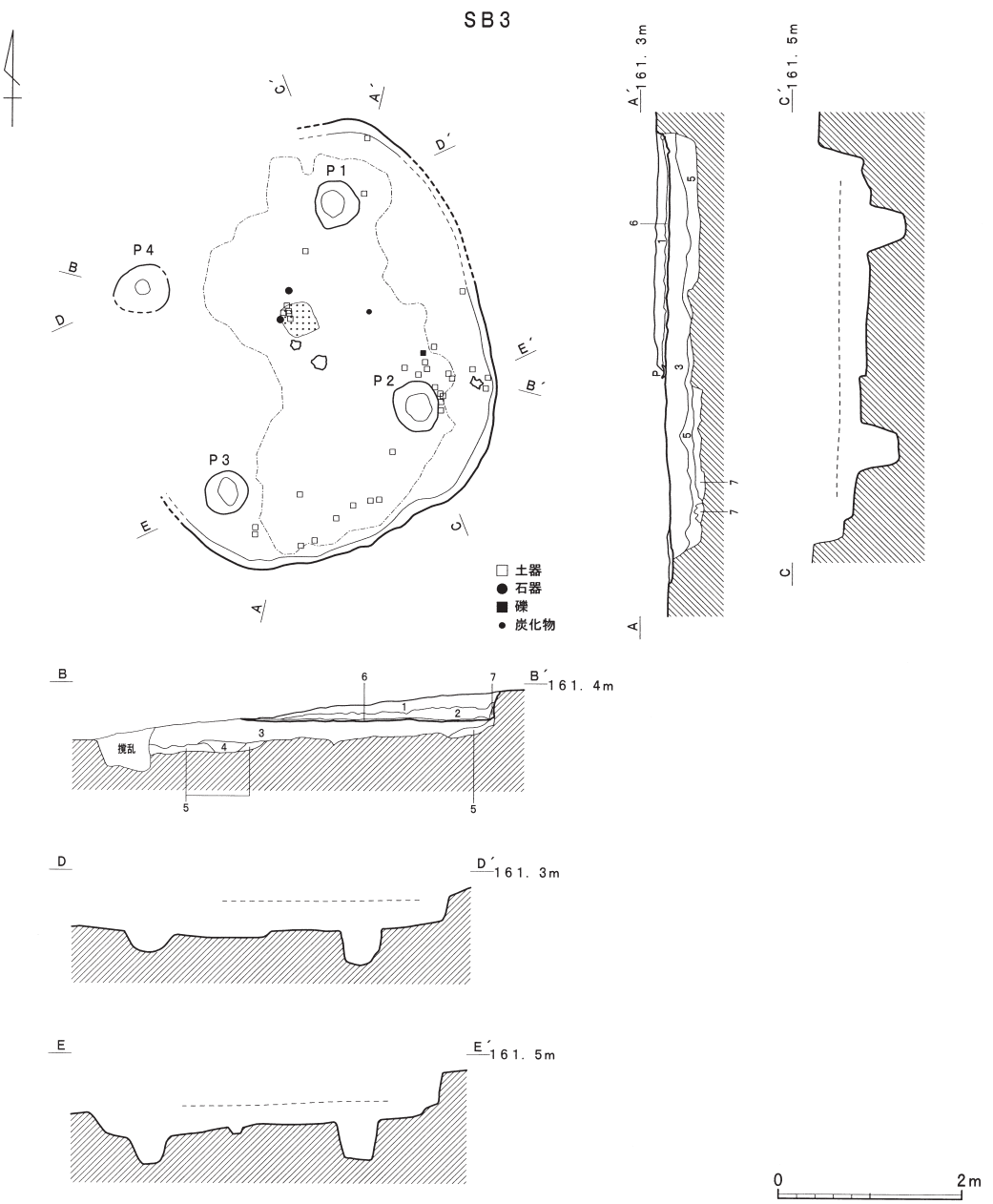
西側は耕作による撹乱や削平で大部分が失われており、プランは不明確である。しかし、残存する壁の立ち上がりや柱穴の位置から、平面形は隅丸方形に近いと考えられる。長軸は現状から５ｍ程度に達すると想定される。

【床・壁】

床面は中央の焼土周辺から南北へ細長く残っていた。床直上の２層では、有機質が多量に含まれているため黒色化している。掘り方は西側へ緩やかに傾斜しているが床面は平坦で、明瞭な床面を確認することができた。壁高は南東隅で25～33㎝を測り、その他の部分ではほとんど立ち上がりが無い。

【柱穴】

直径47～63㎝の柱穴が４基検出された。平面形は円形や楕円形状を呈し、他の住居址に比べて大



第18図　第３号住居址実測図および出土遺物

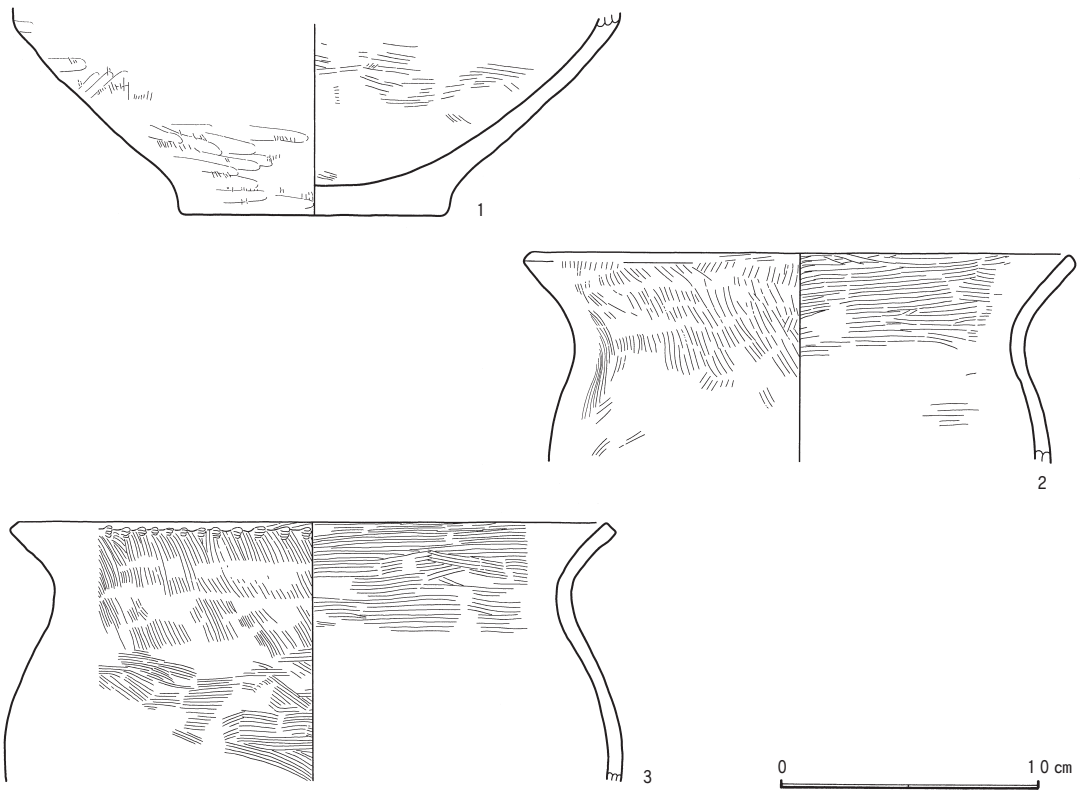
形である。深さも貼床面から50～70㎝と深い。

【炉】

中央部に40㎝程度の範囲で薄く焼土が広がっており、ここを炉址と考えたが、下部に堀り込みは確認されていない。

【出土遺物】（第19図１～３）

弥生時代後期の土器が住居址中央から東側にかけての床面付近から３点出土している。１はやや



第19図　第3号住居址出土遺物

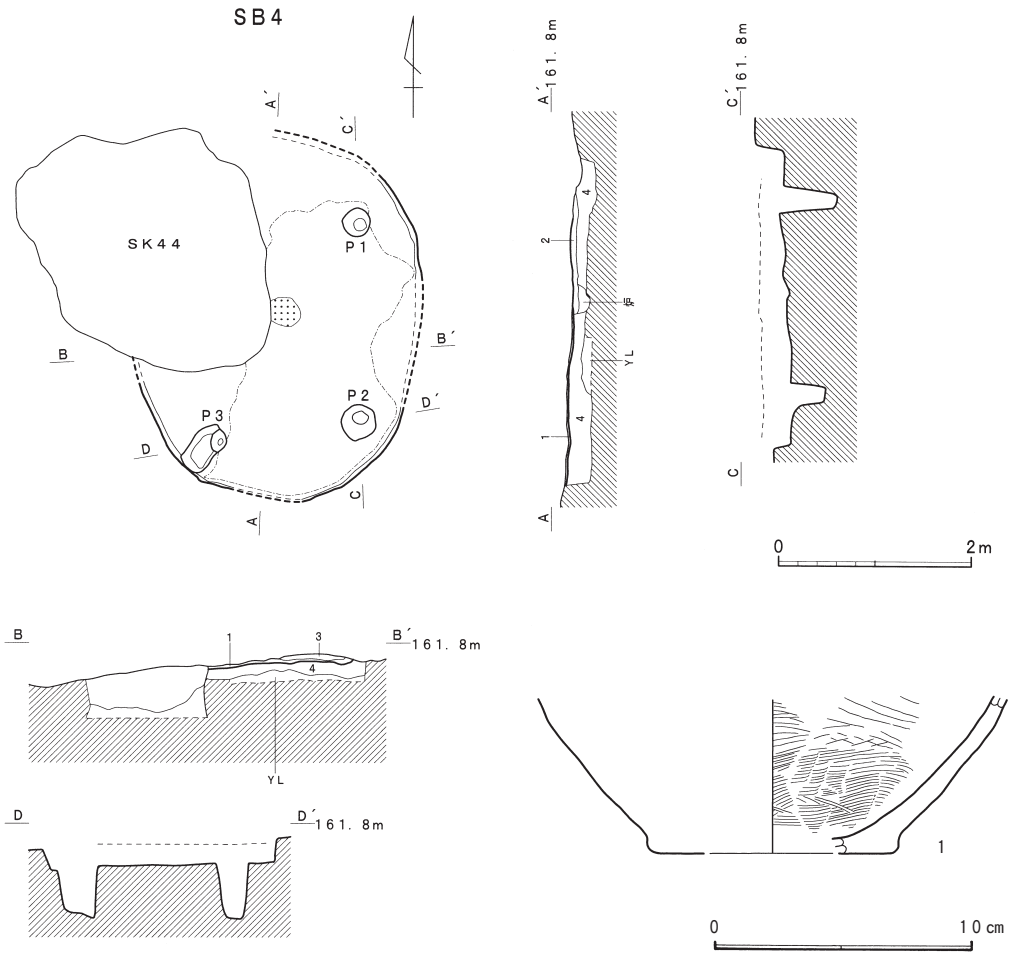
床面から浮いているもの、床面直上から出土しているものであり、2・3は床面直上で出土しているものである。

1は壺である。胴部下半から底部までが残存している。胴部外面に横位のヘラミガキが施されており、胴部内面にハケメが認められる。2・3は台付甕である。ともに口縁部から胴部上半まで残存し、内面は横位のハケメが施されている。2の外面は縦位のハケメ、3の口縁部外面は縦位、胴部外面は横位のハケメが認められる。3は口縁端部に刻み目を有する。

第4号住居址（第20図）

【調査経過】

谷B東の緩斜面上、調査区の南端に位置する。他住居址と同様に、大きく削平されているため、周囲では休場層上部が露呈していた。10月中旬に検出された時点で、一部、床面と思われる部分が見えていたが、プランが捉えにくかったため、当初は土坑の可能性も視野に入れて調査を進めていた。しかし､北西部に明瞭な新期スコリア層の落ち込みが見え､その落ち込みが当初のプランを切って構築されてたため、住居址と土坑が重複していることが明らかになった。その後は土坑を第44号土坑とし、住居址は床面の検出を進めた。さらに掘り方まで掘り進め、長軸・短軸方向へ設定した2本のベルトで土層を観察した。柱穴の位置を掘り方で確定し、11月末には空中写真撮影で完掘状況を記録している。



第20図　第４号住居址実測図および出土遺物

【覆土】

１層：暗灰黄色土（2.5Y4/2）スコリア・パミスを多量に含む。非常によく締まった床土。

２層：暗灰黄色土（2.5Y4/2）

３層：にぶい黄褐色土（10YR4/3）スコリア・パミス・炭化物を含む。

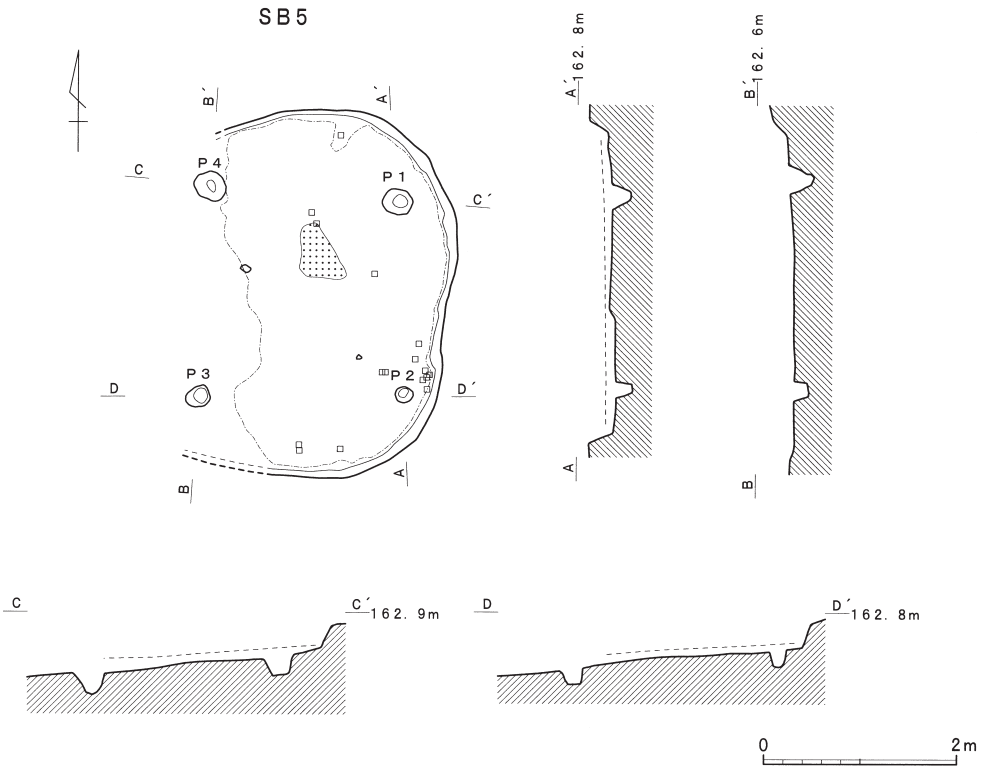
４層：暗オリーブ色土（5Y4/3）橙色スコリア・パミスを多量に含む。

【形状】

北西部分が土坑によって大きく削り取られ、他にも撹乱で消失している部分があるため、プランは不明確である。床面の広がりや柱穴の位置から、平面形は楕円形に近い形状を呈すると考えられる。

【床・壁】

東側の床面は、大部分がＳＫ44によって削られているため、南側から北東隅の柱穴にかけてしか床面を検出することはできなかったが、貼床はよく硬化しており、その範囲は明瞭である。壁の立ち上がりは、ほとんど確認できない。



第21図　第５号住居址実測図

【柱穴】

直径30～53㎝の柱穴を３基検出している。平面形はほぼ円形に近いが、Ｐ３は細長い楕円形状を呈し、北東隅に直径25㎝程の小穴を伴う。深さは貼床面から最大78㎝と深い。

【炉】

不整の楕円形状を呈し、浅く掘り込まれた炉址が、中央部から検出されている。

【出土遺物】（第20図１）

弥生時代後期の壺が炉址から出土している。胴部下半から底部まで残存している。内面にハケメが施されている。

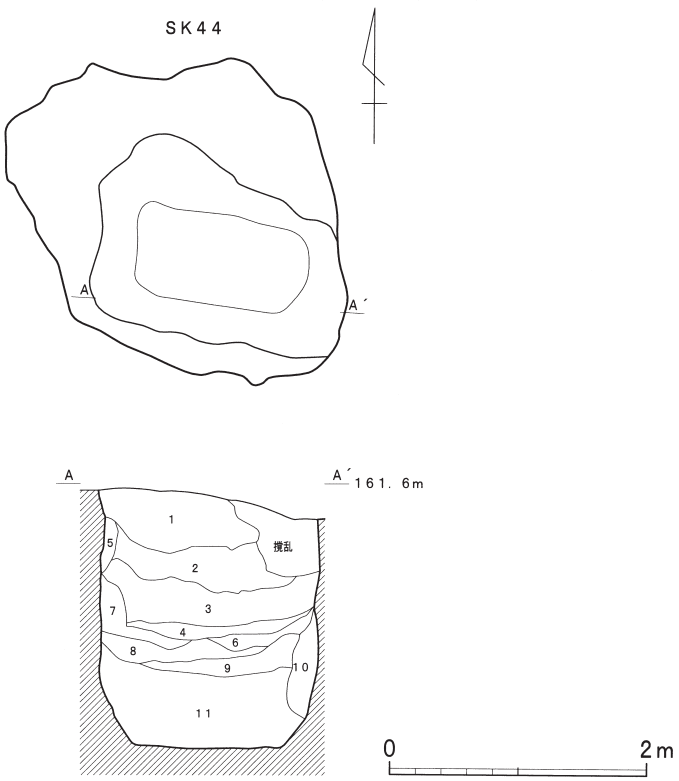
第５号住居址（第21図）

【調査経過】

谷Ｂ東の緩斜面上、ＳＤ３のすぐ南側に位置している。ＳＢ５の周辺は、農道より西側の調査を進める中で、後半段階になって着手したため、ＳＢ１～４よりかなり遅れて12月末頃の検出となった。本住居址からＳＤ３にかけての一帯は、他の住居址付近のように大きく削平されることなく、新期スコリア層が残存していた。床面を検出した後は、さらに掘り進めて掘り方で柱穴の位置を確定し、２月前半には完掘している。なお、本住居址についてもセクションベルトを残して土層観察を行っているが、実測データが失われたため、土層の堆積状況は不明となってしまった。

【形状】

西側プランが削平を受け失われているが、床面の広がりや柱穴の位置、検出できた壁の立ち上がりから、おおよそのプランを捉えることはできる。現状は不整形を呈しており、長軸3.85m、短軸は3.20m程度と想定される。等高線とほぼ平行になるように、主軸を北へ向ける。



第22図　第44号土坑実測図

【床・壁】

壁が残る東側から西の柱穴手前まで、床面が確認された。壁の立ち上がりは、東側で12～19㎝を測る。

【柱穴】

直径18～34㎝の柱穴を４基検出した。深さは床面から最大38㎝を測る。

【炉】

中央やや北寄りで、約67㎝の範囲に渡り焼土の分布を検出したことから、ここを炉址と考えた。しかし、下部に堀り込みは確認できなかった。

【出土遺物】

覆土中から、ハケメの施された弥生後期の甕が出土しているが、図示できるものはなかった。

②土坑

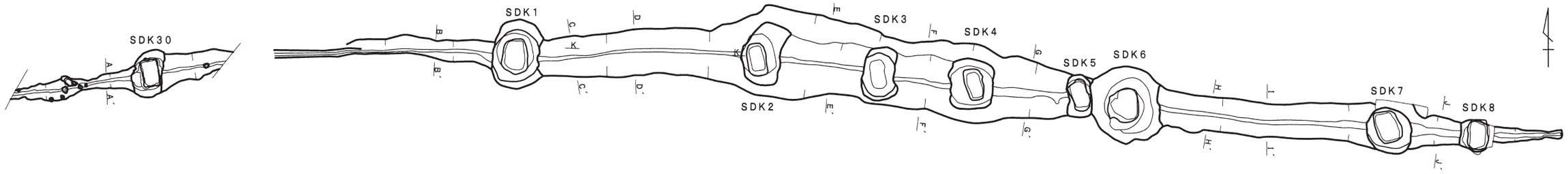
ＳＤ３に付属する土坑は、溝状遺構についての検討を行った③項で取り扱い、ここでは単独の土坑について記述する。

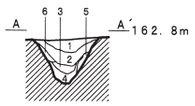
第44号土坑（第22図）

谷Ｂ東の緩斜面上、調査区南端の休場層で検出された。ＳＢ４の北西角を切って構築され、その範囲は中央炉址付近にまで及ぶ。住居址に重複する土坑と確定してからは、ＳＢ４と同時並行で調査が進められた。

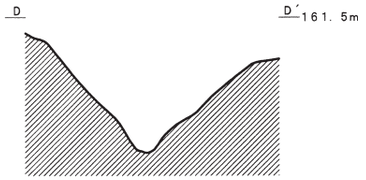
平面形は不整形で、断面は下部の少し膨らんだ筒形をしている。規模は現状で最大径3.1m、深さは2.0mに達した。底面は隅丸長方形を呈し、平坦に整えられているが、小穴は認められなかった。規模や形状はＳＤ３に伴う土坑と非常に似通っているが、時期はより新しくなるものと考えられる。

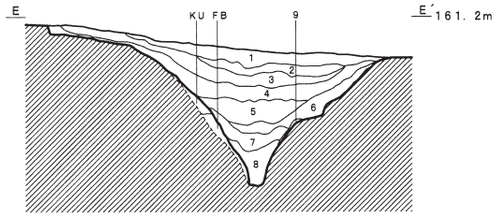
ＳＫ44の覆土を観察すると、上層は粘性に乏しい黒褐色土が堆積し、下層は粘性が強く、休場層や第Ⅱ黒色帯のブロックが混入していた。また、上層を中心に白色で発砲がやや良好な軽石が認め



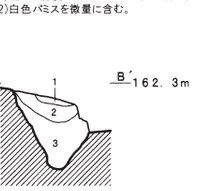


1層：黒褐色土(10YR2/2)径1～4㎜の褐色スコリアをわずかに含み、パミスを微量に含む。ザラザラしている。
2層：黒褐色土(10YR2/3)径1～5㎜の橙色スコリア、パミスを微量に含む。よくしまり、ザラザラしている。
3層：黒褐色土(10YR2/3)径1～7㎜の橙色スコリア、パミスを微量に含む。よくしまり、ザラザラしている。
4層：褐灰色土(10YR5/1)径 10 ㎜前後の黒色帯ブロックを微量に含む。
5層：黒褐色土(10YR2/3)径7㎜前後の橙色スコリアを少量含む。
6層：黒褐色土(10YR2/2)白色パミスを微量に含む。

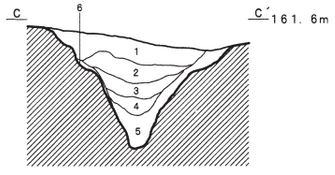




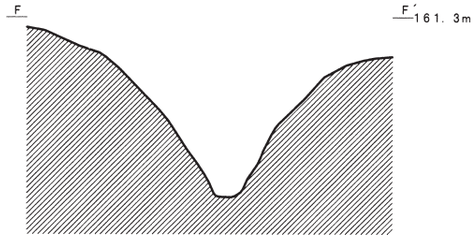
1層：黒褐色土(7.5YR3/1)径1～5㎜の赤褐色スコリア、径1～3㎜の黄褐色スコリア、径2㎜以下の炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
2層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～6㎜の赤褐色スコリアと、径1～3㎜の炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
3層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～7㎜の赤褐色スコリアと、径1～8㎜の炭化物を微量に含む。サラサラしている。
4層：暗褐色土(10YR3/4)径1～9㎜の赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～15 ㎜の炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
5層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～15 ㎜の赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～4 ㎜の炭化物を微量に含む。YL・BBⅠ・SCⅠがブロック状に入り、やや粘性が強い。
6層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～6㎜の赤褐色スコリア、径1～3㎜の炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
7層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～3㎜の赤褐色スコリア、径1～6㎜の黄褐色スコリア、径1～3㎜の炭化物を微量に含む。粘性が強い。
8層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～3㎜の赤褐色スコリア、径1～4㎜の炭化物を微量に含む。粘性が強い。
9層：暗褐色土(7.5YR3/3)径3㎜以下の赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。

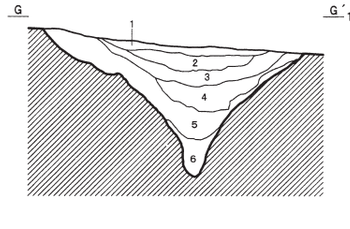


1層：黒褐色土(10YR3/2)径1～4㎜の赤褐色スコリア、径2㎜以下の茶褐色スコリア、径1㎜前後の炭化物を微量に含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(10YR3/2)径1～6㎜の赤褐色スコリア、径1～5㎜の茶褐色スコリア、径3㎜以下の炭化物を微量に含む。サラサラしている。
3層：暗褐色土(10YR3/4)径1～4㎜の赤褐色スコリア、径1～7㎜の茶褐色スコリア、径2㎜以下の炭化物を微量に含む。ザラザラしている。

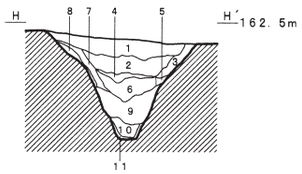


1層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～4㎜の赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。サラサラしている。
2層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～6㎜の赤褐色スコリア、径2㎜前後の炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
3層：黒褐色土(7.5YR3/1)径1～12 ㎜の赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径2㎜以下の炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
4層：褐色土(7.5YR4/4)径1～4㎜の赤褐色スコリア、径1～3㎜の炭化物を微量に含む。YLのブロックが混在し、やや粘性が強い。
5層：暗褐色土(10YR3/4)径1～6㎜の赤褐色スコリアと径1～7㎜の炭化物をわずかに含む。ザラザラしている。
6層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～5㎜の赤褐色スコリア、径1㎜の炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。

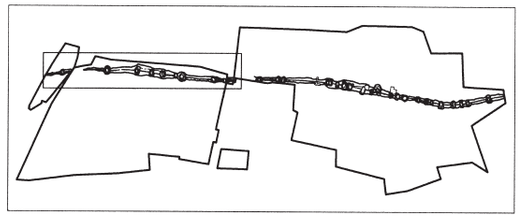


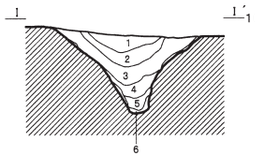


1層：暗褐色土(7.5YR3/3) 径1～8㎜の赤褐色スコリアをわずかに含み、径1㎜以下の炭化物を微量に含む。サラサラしている。
2層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～7㎜の赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径2㎜以下の炭化物と、BBⅠ・SCⅡ・SCⅢのブロックを含む。サラサラしている。
3層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～16 ㎜の赤褐色スコリアをわずかに含み、径1～3㎜の炭化物とBBⅡのブロックを含む。サラサラしている。
4層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～7㎜の赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径2㎜以下の炭化物、YL・BBⅠ・NLのブロックを含む。やや粘性が強い。
5層：暗褐色土(10YR3/4)径1～4㎜の赤褐色スコリア、径1～5㎜の黄色スコリア、径1～3㎜の炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
6層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～4㎜の赤褐色スコリア、径2㎜以下の炭化物を微量に含む。サラサラしている。

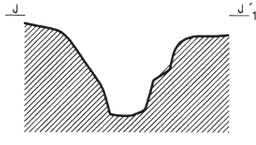


1層：黒褐色土(7.5YR2/2)径1～10 ㎜の赤褐色スコリア、白色パミス、カーボン粒を微量に含む。ザラザラしている。
2層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1㎜前後の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
3層：黒褐色土(7.5YR2/2)径1～3㎜の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
4層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～3㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
5層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1㎜未満の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
6層：暗褐色土(7.5YR3/4)径 10 ㎜前後の赤褐色スコリアと径 25 ㎜程度のカーボン粒を含む。やや粘性が強い。
7層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～5㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
8層：黒褐色土(10YR2/3)径1～3㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
9層：黒褐色土(10YR2/3)径1～3㎜の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
10 層：黒褐色土(10YR2/3)径3㎜前後の赤褐色スコリアを含む。粘性が強い。
11 層：暗褐色土(10YR3/4)粘性が強い。

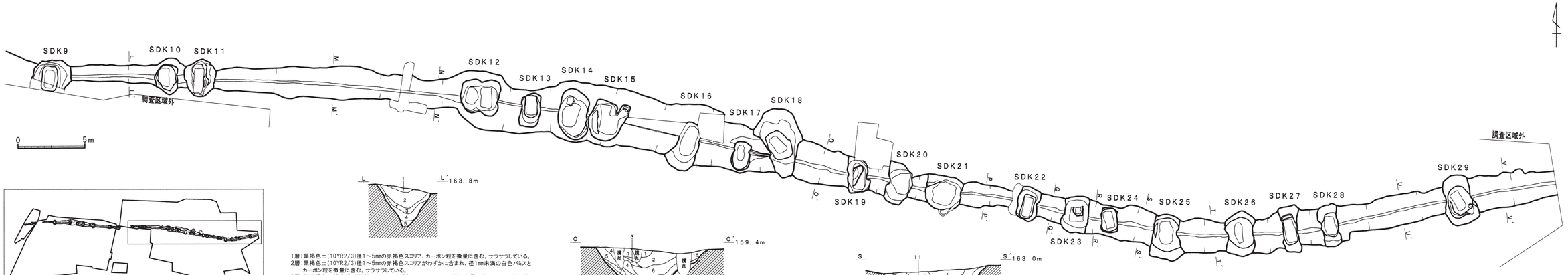


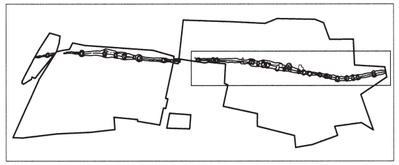


1層：暗赤褐色土(5YR3/2)径1～3㎜の茶褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
2層：暗赤褐色土(5YR3/2)径1～7㎜の茶褐色スコリアを少量含み、白色粒を微量に含む。サラサラしている。
3層：暗赤褐色土(5YR3/2)径1～5㎜の茶褐色スコリア、白色粒、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
4層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～3㎜の茶褐色スコリアとカーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
5層：暗赤褐色土(2.5YR3/2)径1～3㎜の茶褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
6層：褐色土(7.5YR4/4)径1㎜の茶褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。

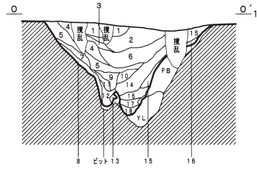


第23図　第３号溝状遺構実測図（１）

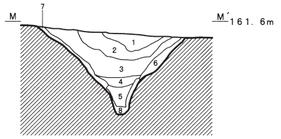




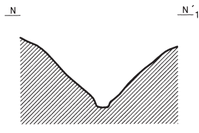
1層：黒褐色土(10YR2/3)径1～5mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(10YR2/3)径1～5mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1mm未満の白色パミスとカーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
3層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～3mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
4層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～5mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
5層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～3mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。

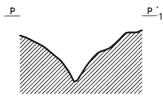


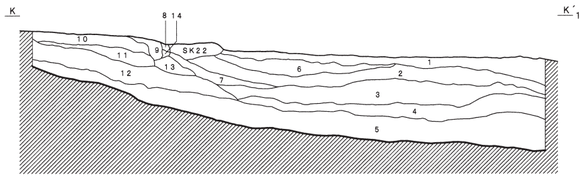
1層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
2層：褐色土(7.5YR4/4)径1～5mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
3層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
4層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～4mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。 ザラザラしている。
5層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～2mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。サラサラしている。
6層：暗褐色土(10YR2/2)径1～7mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
7層：暗褐色土(10YR3/4)径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。
8層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
9層：褐色土(7.5YR4/4)径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
10層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～4mmの赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
11層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～2mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性は弱い。
12層：暗褐色土(10YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
13層：褐色土(7.5YR4/4)径1mmの赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
14層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～6mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
15層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～4mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性は弱い。
16層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。サラサラしている。
17層：暗褐色土(10YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
18層：褐色土(7.5YR4/3)径1～2mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。



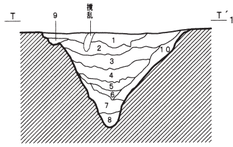
1層：黒色土(7.5YR1.7/1)径1～3mmの茶褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(7.5YR2/2)径1～5mmの茶褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
3層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～5mmの茶褐色スコリア、径1mmの白色パミスを微量に含む。わずかにローム状のブロックが認められる。
4層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～4mmの茶褐色スコリア、白色パミス、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
5層：暗赤褐色土(5YR3/2)径1～3mmの茶褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性が強い。
6層：暗赤褐色土(5YR3/2)径1～2mmの茶褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
7層：暗赤褐色土(5YR3/2)径1mmの茶褐色スコリア、炭化物を微量に含む。サラサラしている。
8層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～2mmの茶褐色スコリアを微量に含む。粘性が非常に強い。

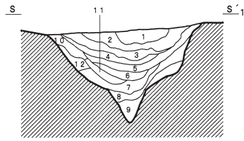




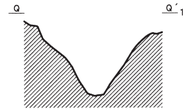


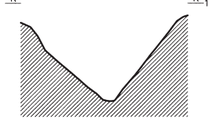
1層：黒色土(7.5YR1.7/1)径1～7mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1mm未満の白色パミス、カーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
2層：黒褐色土(10YR2/2)径1～7mmの赤褐色スコリア、白色パミス、カーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
3層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～3mmの赤褐色スコリアを含む。やや粘性が強い。
4層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～5mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
5層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～10 mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、カーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
6層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～3mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、白色パミスとカーボン粒を微量に含む。
以下、10 層までサラサラとした層が続く。
7層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～7mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、白色パミスとカーボン粒を含む。
8層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～2mmの赤褐色スコリア、径1mm未満の白色パミスを微量に含む。
9層：黒色土(7.5YR2/1)径1～3mmの赤褐色スコリア、白色パミス、カーボン粒を微量に含む。
10層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～5mmの赤褐色スコリア、パミスを微量に含む。
11層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～8mmの赤褐色スコリア、径1mm未満の白色パミスを微量に含む。やや粘性が強い。
12層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～10 mmの赤褐色スコリア、BB Ⅰ・NL・SC Ⅱのブロックをわずかに含む。やや粘性が強い。
13層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径2～5mmの赤褐色スコリア、径1mm未満の白色パミスを微量に含む。やや粘性が強い。
14層：黒褐色土(7.5YR2/2)径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含む。ザラザラしている。

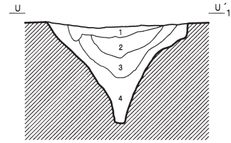




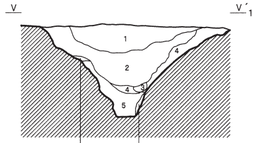
1層：黒色土(7.5YR1.7/1)径1～6mmの赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
2層：極暗褐色土(7.5YR2/3)径1～8mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、炭化物を微量に含む。サラサラしている。
3層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～4mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
4層：暗褐色土(10YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～2mmの炭化物を微量に含む。サラサラしている。
5層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
6層：黒褐色土(7.5YR3/2)径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
7層：黒褐色土(10YR2/3)径1～12 mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径1～4mmの炭化物を微量に含む。サラサラしている。
8層：暗褐色土(10YR3/4)径1～10 mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
9層：暗褐色土(10YR3/4)径1～6mmの赤褐色スコリアと径1～15 mmの炭化物をわずかに含む。やや粘性が強い。
10層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。サラサラしている。
11層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～12 mmの赤褐色スコリアが微量に含まれ、径1～3mmの炭化物をわずかに含む。サラサラしている。
12層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～10 mmの炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。







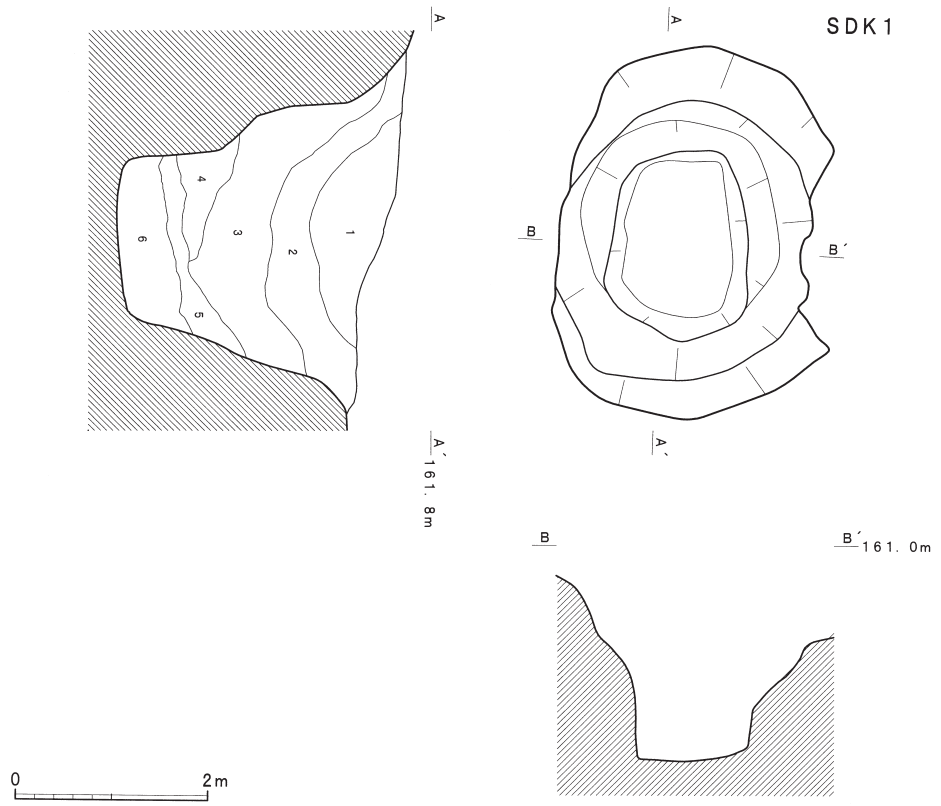
1層：黒色土(5YR1.7/1)径1～5mm前後の茶褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
2層：暗褐色土(7.5YR3/3)径3mm前後の赤褐色スコリア、径2mm前後のカーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
3層：暗赤褐色土(5YR3/2)径1～3mmの赤褐色スコリア、径2～5mmのカーボン粒を微量に含む。やや粘性が強い。
4層：暗褐色土(7.5YR3/3)径1～5mm前後の赤褐色スコリア、径2mm前後のカーボン粒を微量に含む。やや粘性強い。



1層：暗褐色土(10YR3/4)径1～5mm未満の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
2層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。
3層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1mm未満の赤褐色スコリアを微量に含む。3層以下はやや粘性が強い。
4層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1mm前後の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。
5層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3mm前後の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。
6層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～5mm前後の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。
7層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含む。

1層：黒褐色土(10YR2/2)径1～3mmの茶褐色スコリア、径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含む。ザラザラしている。
2層：黒褐色土(10YR2/3)径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
3層：黒褐色土(10YR3/2)径1～4mmの赤褐色スコリア、径 110 mm前後の黄褐色のロームブロックを微量に含む。
4層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～6mmの赤褐色スコリアと炭化物をわずかに含む。やや粘性が強い。
5層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～5mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、炭化物を微量に含む。粘性が強い。
6層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含み、径1～7mmの炭化物をわずかに含む。やや粘性が強い。
7層：褐色土(7.5YR4/3)径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
8層：暗褐色土(7.5YR3/4)径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～10 mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
9層：暗褐色土(10YR3/4)径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
10層：褐色土(7.5YR4/4)径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～6mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。

第24図　第３号溝状遺構実測図（２）



第25図　第３号溝状遺構土坑実測図（１）

られた。これは、天城山カワゴ平火口から噴出した天城カワゴ平パミス（KgP）に由来するものと考えられる。他にも、肉眼では確認できないが、KgPに由来すると思われる無色透明の火山ガラスが検出されている。本土坑では覆土を採集し、パリノ・サーヴェイ株式会社による自然科学分析を行った。その結果、含有物の組成が周囲の黒ボク土層と類似していたことから、土坑にはKgPを含む、新期スコリア層以上の黒ボク土層が主に流入しているものと考えられる。

【覆土】

1層：暗褐色土（7.5YR3/3）径１～５㎜の褐色スコリア、径１㎜未満の白色パミス、炭化物を微量に含む。「ざらざら」とした印象がある。

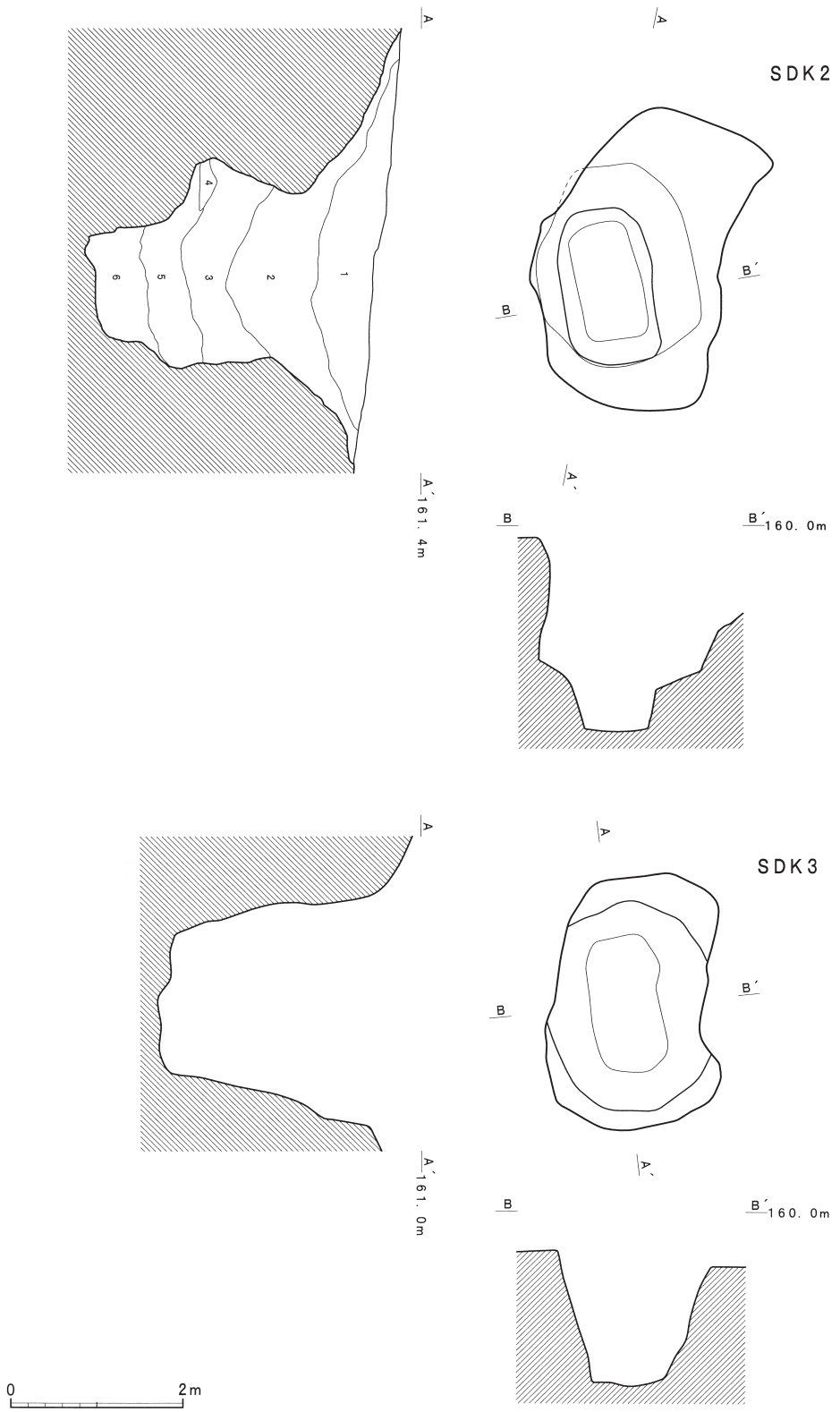
2層：暗赤褐色土（2.5YR3/2）径１～５㎜の褐色スコリア、径１㎜未満の白色パミス、炭化物を微量に含む。やや「ざらざら」している印象がある。

3層：暗赤褐色土（2.5YR3/2）径１～５㎜の褐色スコリア、径１㎜未満の白色パミス、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。

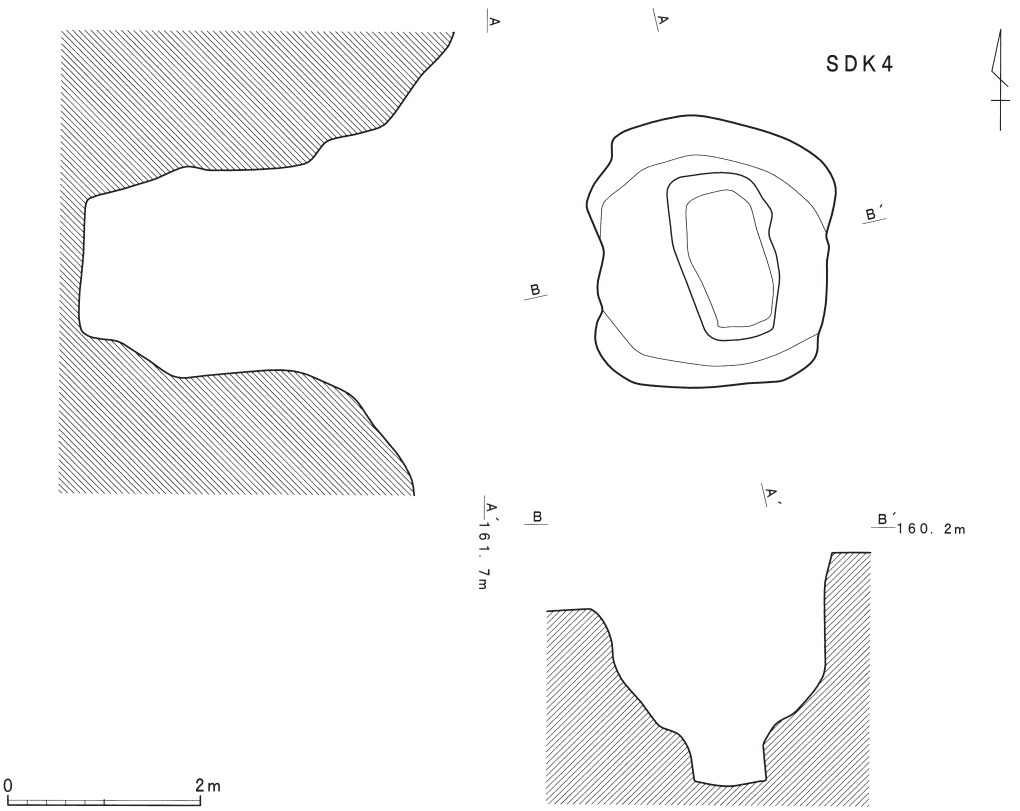
4層：黒褐色土（7.5YR3/2）径１～５㎜の褐色スコリア、径１㎜未満の白色パミス、炭化物を微量に含む。休場層に相当する。

5層：褐色土（7.5YR4/3）径３㎜前後の褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。

6層：暗赤褐色土（5YR3/2）径１～５㎜の褐色スコリア、径１㎜未満の白色パミス、炭化物を



第26図　第３号溝状遺構土坑実測図（２）



第27図　第3号溝状遺構土坑実測図（3）

微量に含む。やや粘性が強い。

7層：黒褐色土：(5YR3/1）径1～5㎜の赤褐色スコリア、白色パミス、炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。

8層：暗赤褐色土（5YR3/2）径2㎜前後の褐色スコリアを少量と、炭化物を含む。

9層：黒褐色土（5YR2/2）径3㎜前後の褐色スコリア、炭化物が微量に含まれ、第Ⅱ黒色帯のブロックを含む。

10層：暗褐色土（7.5YR3/3）径1～5㎜の褐色スコリアを少量含む。粘性が強い。

11層：暗赤褐色土（5YR3/2）径2㎜前後の褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。

【出土遺物】

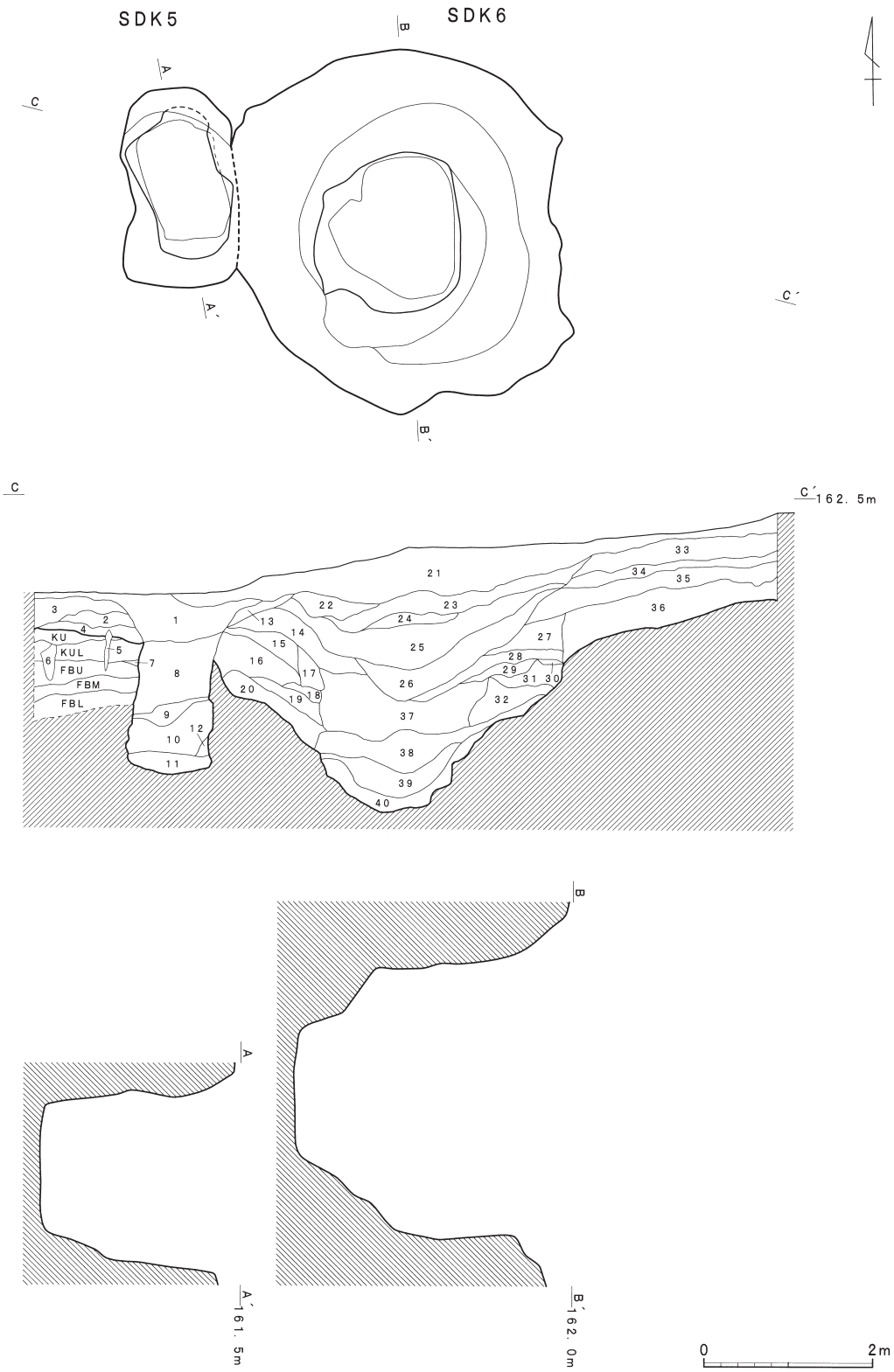
弥生時代後期の壺を中心に多数の土器片が出土しており、折り返し口縁などが見られるが、図示できるものはなかった。

③溝状遺構

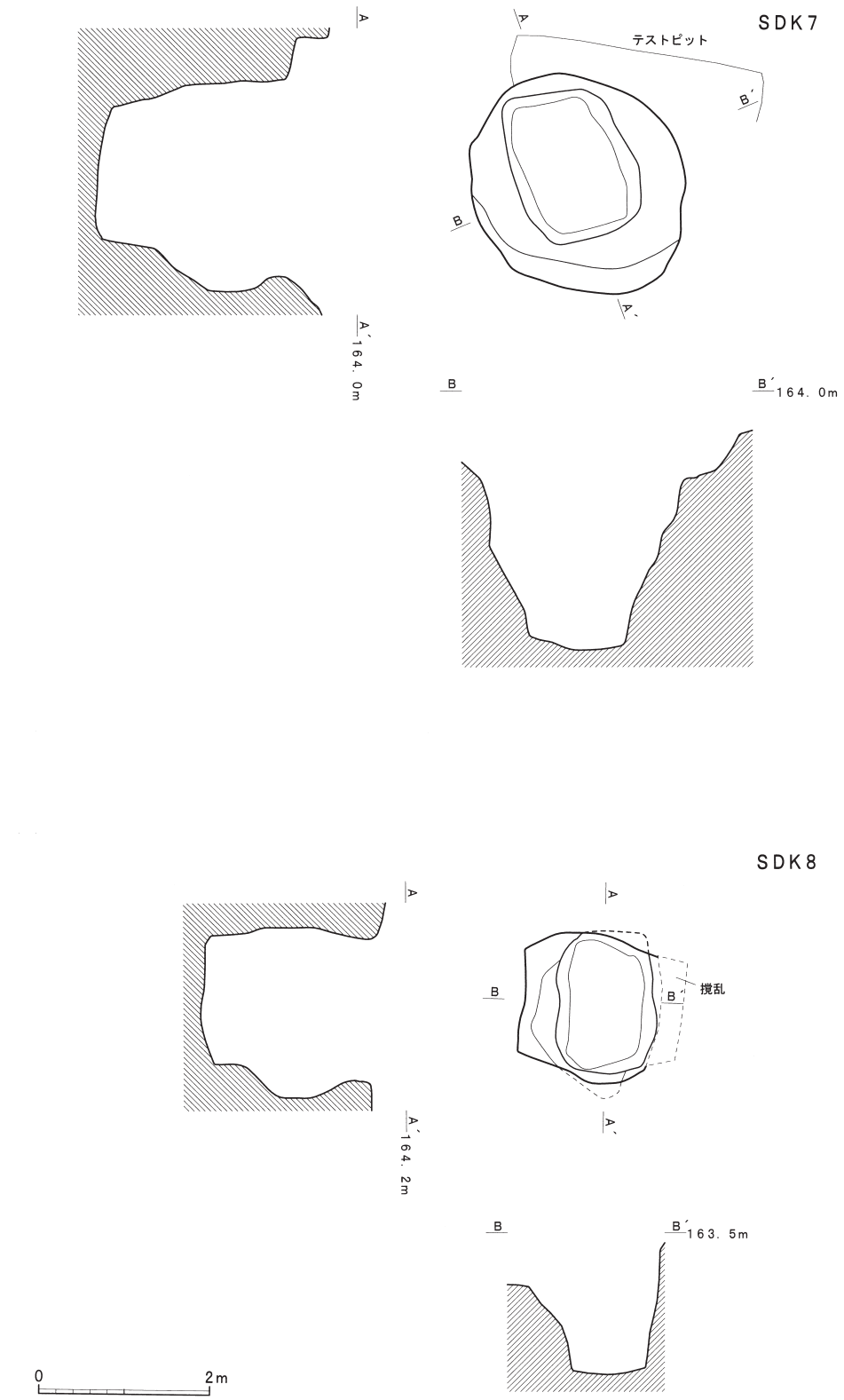
第3号溝状遺構（第23・24図）

【調査過程】

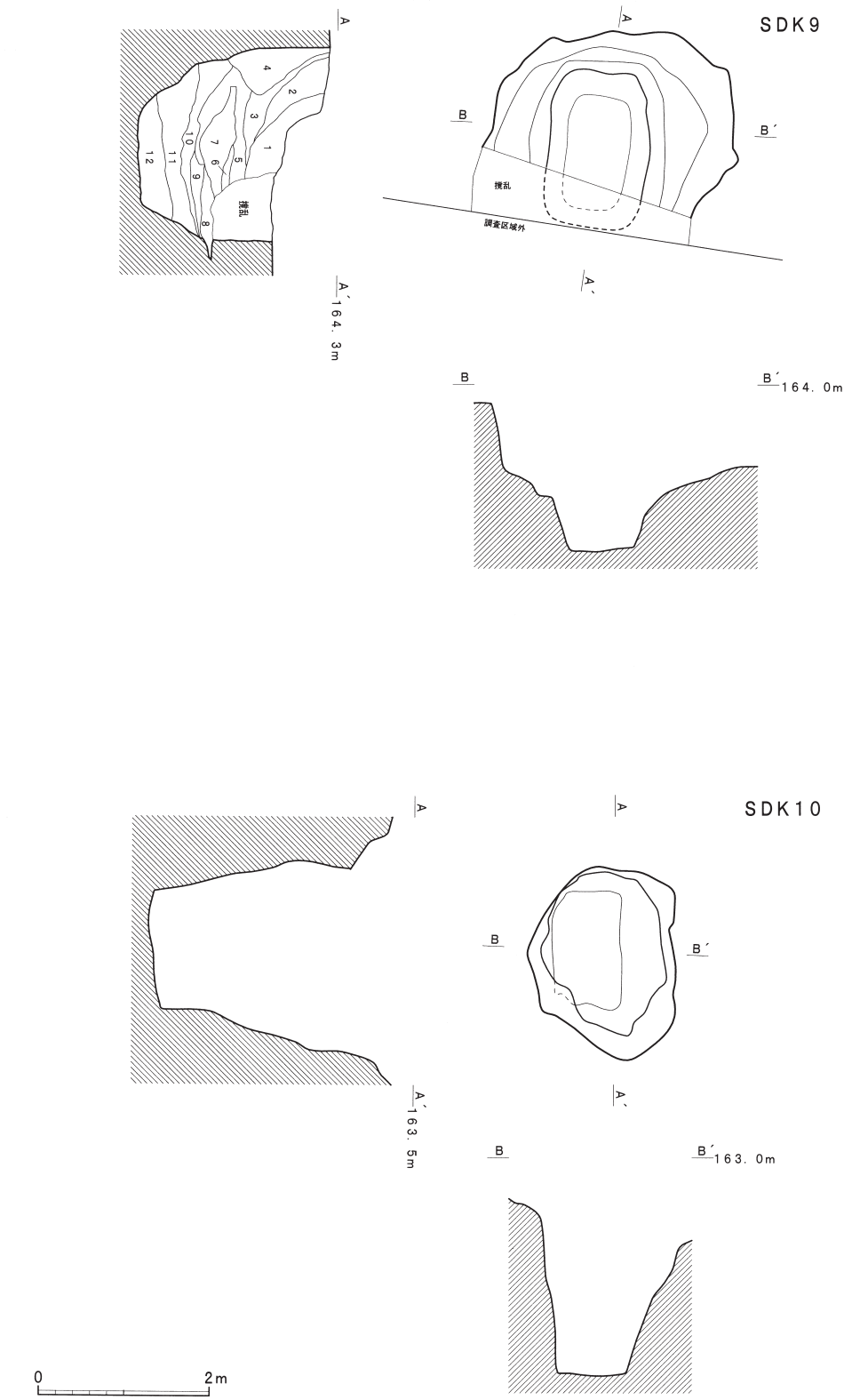
10月中旬頃、谷B北端の新期スコリア層で溝状遺構の一部を検出し、掘削を開始した。同時に、溝に伴う土坑の検出も行いながら東へ調査を進めたところ、中央の駐車場下を抜けてさらに農道よ



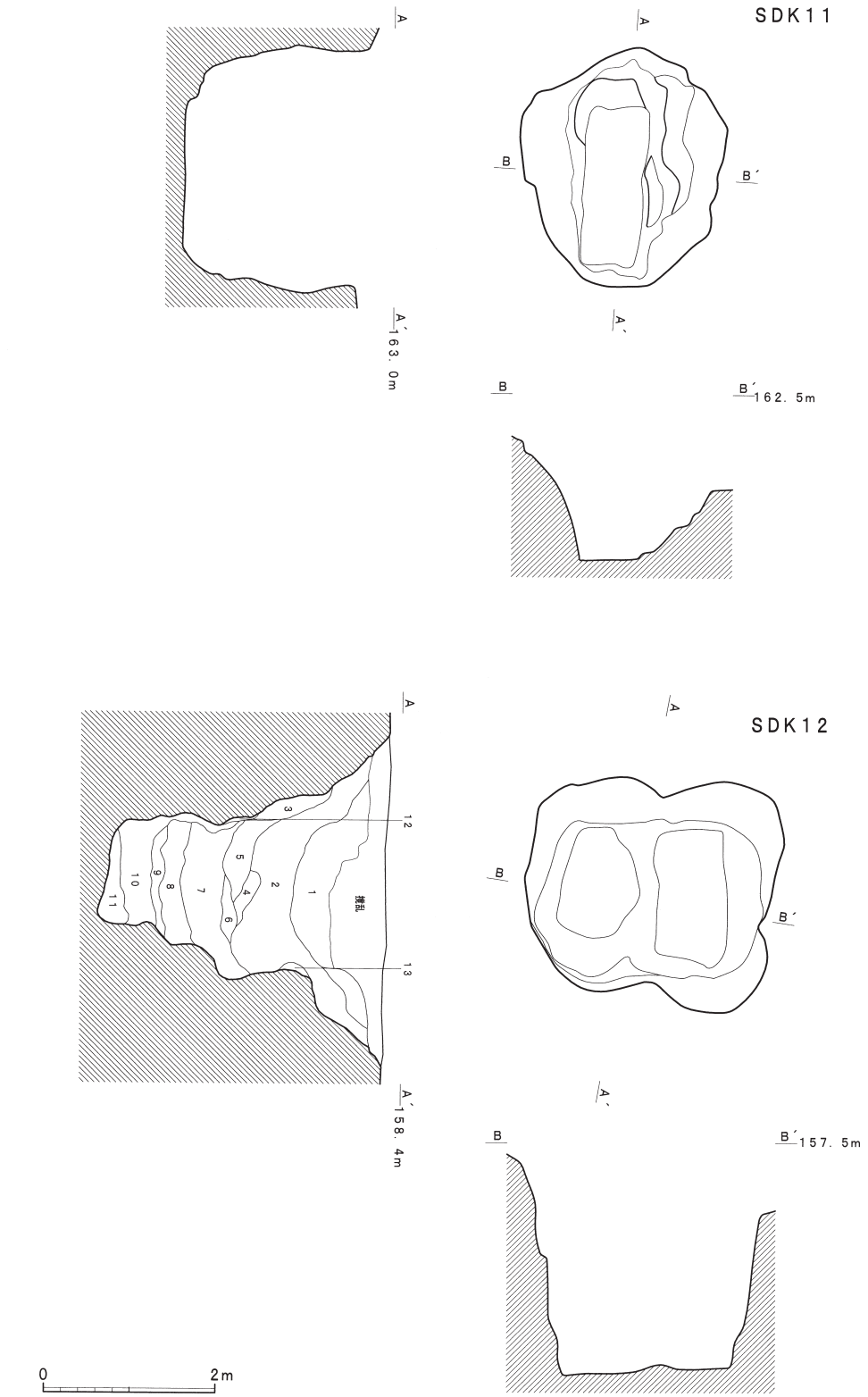
第28図　第３号溝状遺構土坑実測図（４）



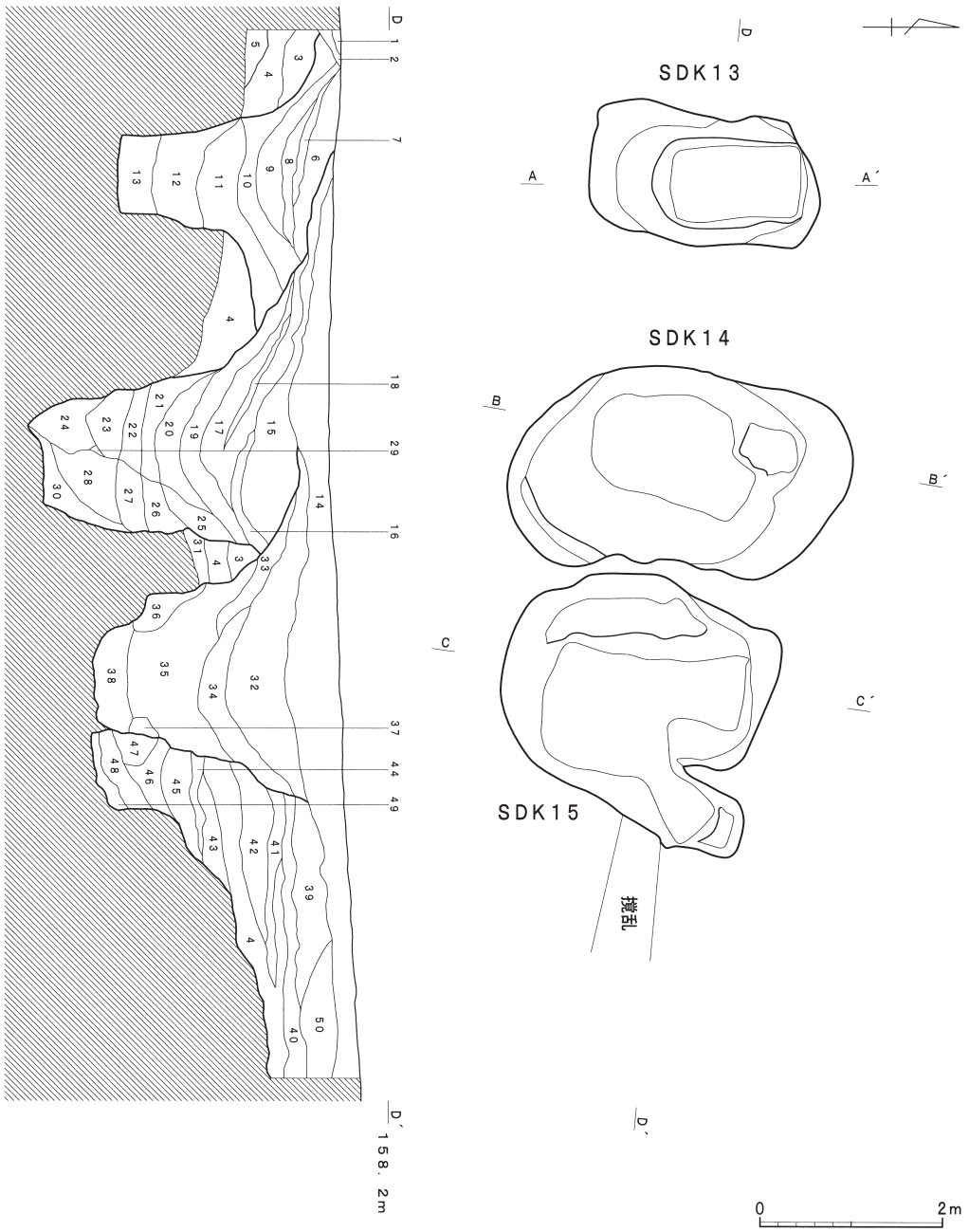
第29図　第3号溝状遺構土坑実測図（5）



第30図　第３号溝状遺構土坑実測図（６）

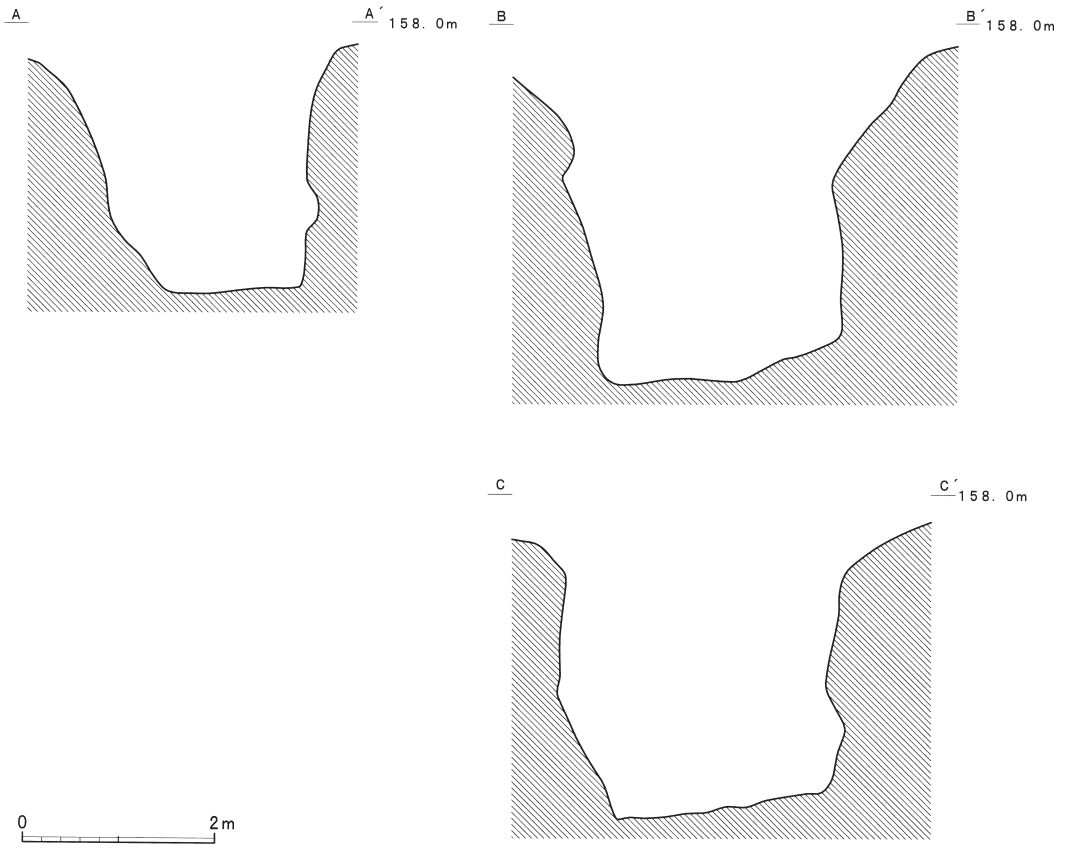


第31図　第３号溝状遺構土坑実測図（７）



第32図　第３号溝状遺構土坑実測図（８）

り東へ続くことが判明した。11月に入ると、東側の溝状遺構全体像がほぼ明らかとなり、溝に伴う土坑も16基を数えた。工事用地の東側限界まで検出したところで、全体の検出状況を空中写真撮影で記録した。以降は掘削に集中し、実測は工事計画の都合に合わせ、東端斜面から始めることとなった。12月中旬には、西端をさらに道路上まで拡張し、溝の続きと30基目の土坑を発見している。１月13日には、パリノ・サーヴェイ株式会社が来訪し、溝覆土のサンプルを採集した。１月20日にす



第33図　第３号溝状遺構土坑実測図（９）

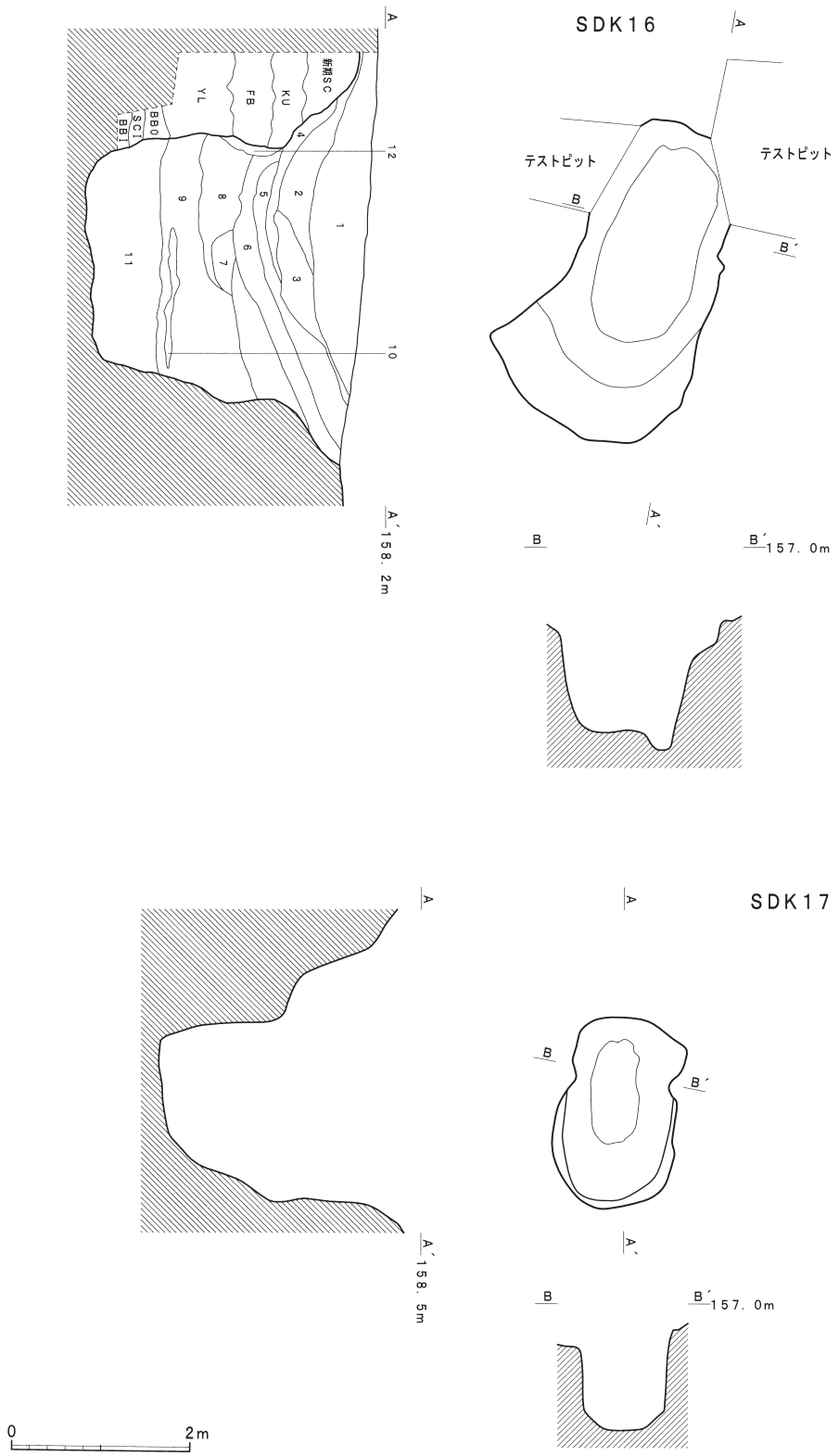
べての掘削を終了し、空中写真撮影で記録をしている。

【溝の概要】

溝は調査区西端から東端まで、調査区内を東西に貫いている。西側から追っていくと、西端は工場建設時の造成により削平されているが、谷に届いていたものと推測され、谷Ｂの北端を走る。中央の尾根上で一端途切れるものの、元来は一続きであり、さらに谷Ｃ部を通って東端の谷まで続く。溝は谷Ｂ・Ｃという２つの谷を結び、尾根と谷の上を東西へ走っているため、地形によって高低の変化が激しい。

ＳＤ３の今回の調査区内における延長は、211ｍに達する。幅は1.5～2.5m程度を保つが、谷付近では特に広く、５ｍを測る部分もある。深さは1.5～２ｍを中心としている。断面はＶ字状を呈し、底部に向かって鋭角に掘り込まれている。

また、南北方向へ20か所以上のセクションを切り、土層の観察を行った。その詳細については、実測図とともに記載をしている。溝覆土上層の中心は、周囲の黒ボク土に由来する、「さらさら」、もしくは「ざらざら」とした黒褐色土である。中層から下層にかけては、粘性が強く、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲスコリア層、ニセローム層、第Ⅰ黒色帯、休場層のブロックの混在が見られる。したがって下層付近は、埋没する際に愛鷹ローム上部由来の土層が流入したものと思われる。また、堆積状況を観



第34図　第３号溝状遺構土坑実測図（10）

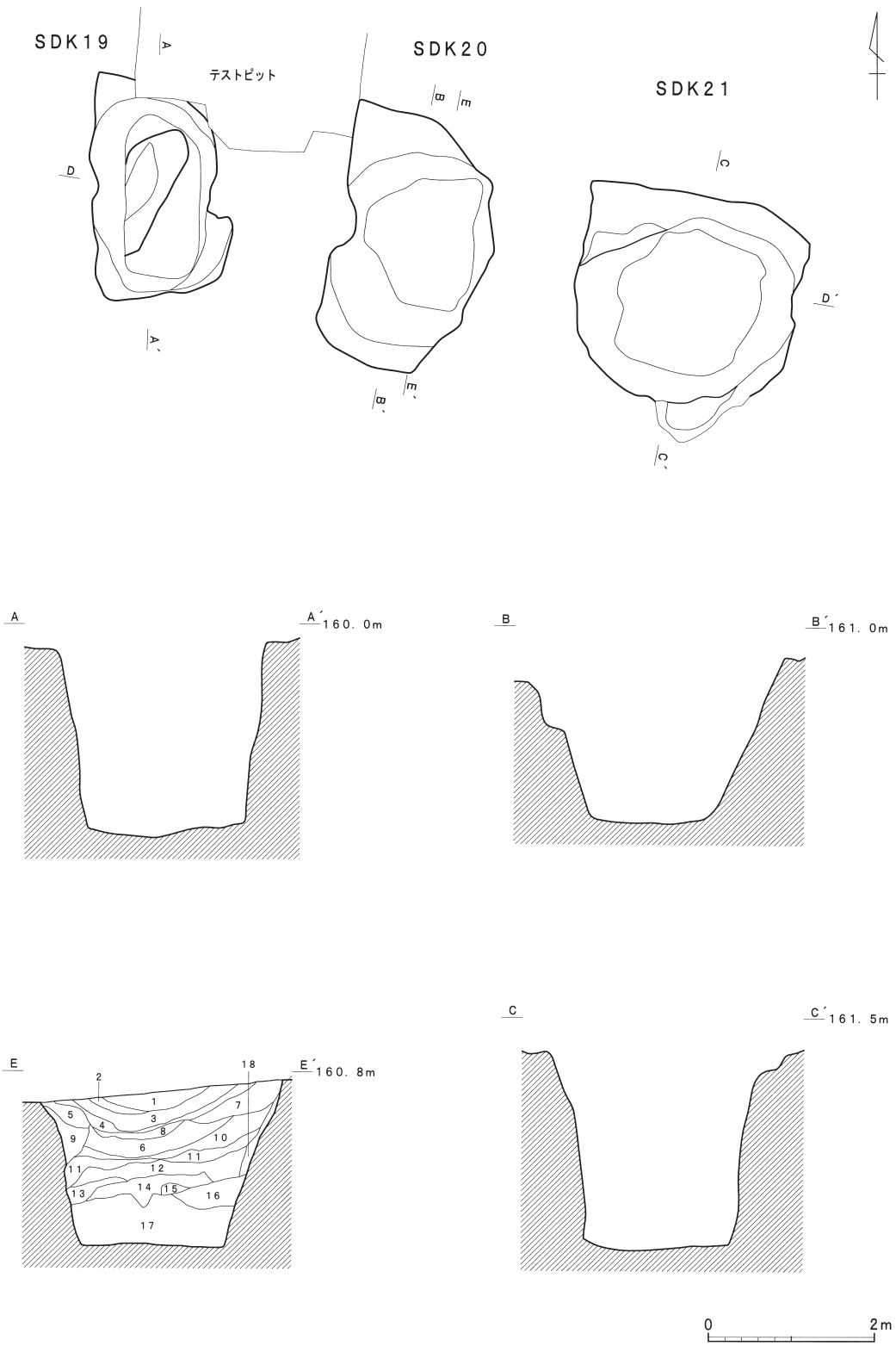
第35図　第３号溝状遺構土坑実測図（11）

察すると、ほとんどの部分で改修の跡が認められた。当初の溝がある程度埋没した段階で、覆土の一部が掘り直されているが、改修後の堀り込みは概ね浅く、粗な印象がある。

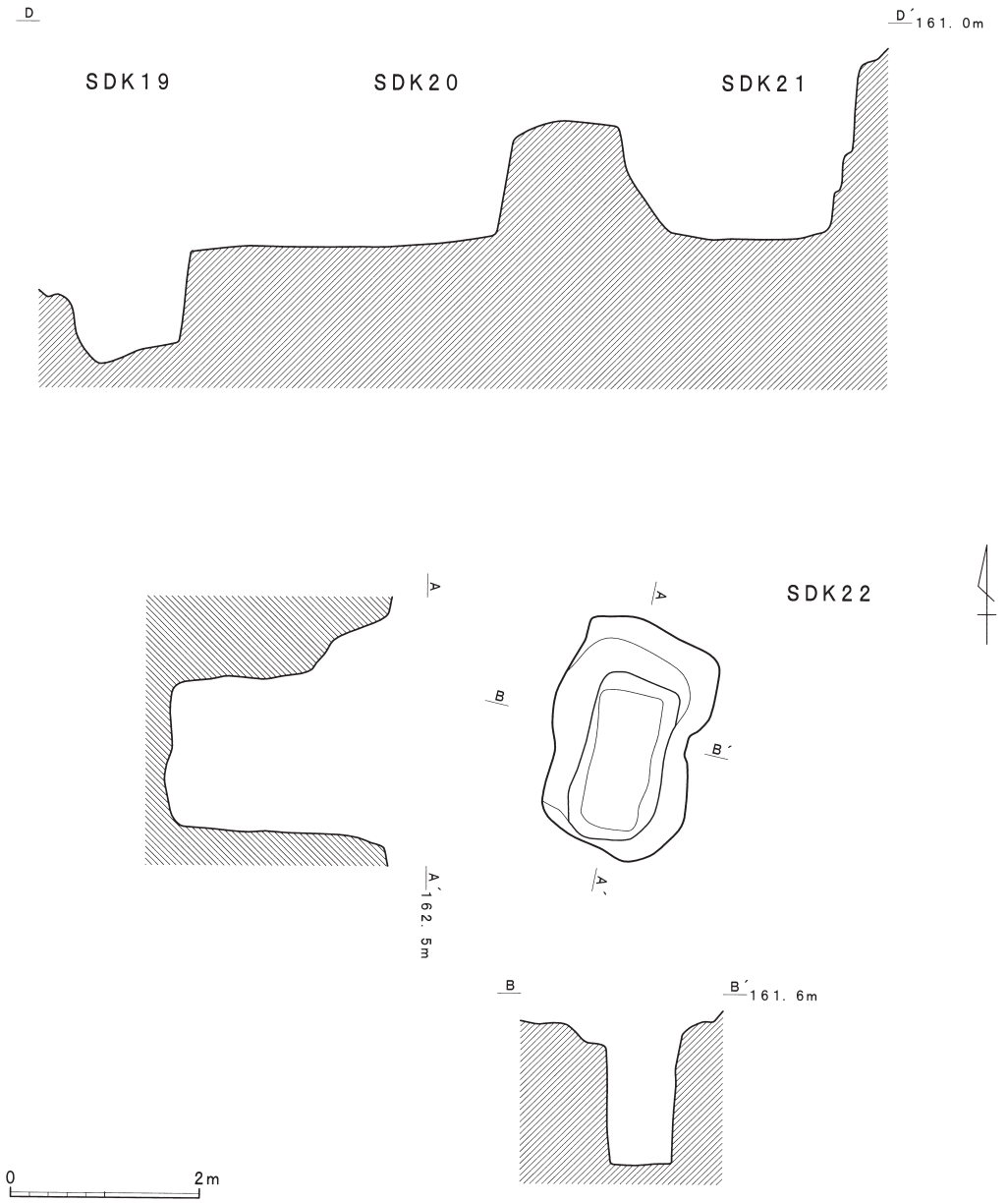
【溝状遺構に伴う土坑】（第25～41図）

この溝の最大の特徴として挙げられるのが､土坑を伴う点である。多少のばらつきはあるものの、全体的に規模の大きな土坑が並び、検出数は計30基を数える。これら大形の土坑は、単独の土坑と区別を付けるため、“ＳＤＫ”と表記することとした。

径は２ｍ後半～３ｍ後半が中心で、最大4.6ｍを測る。深さは2.5ｍ前後に達するものが多く、３ｍを越えるものが数基存在する。また、下部の溝が走る方向とほぼ垂直に交わるよう、主軸を南北方向へ向けるものが大勢を占める。平面形はほとんどが不整形となっているが、ある程度形状を保



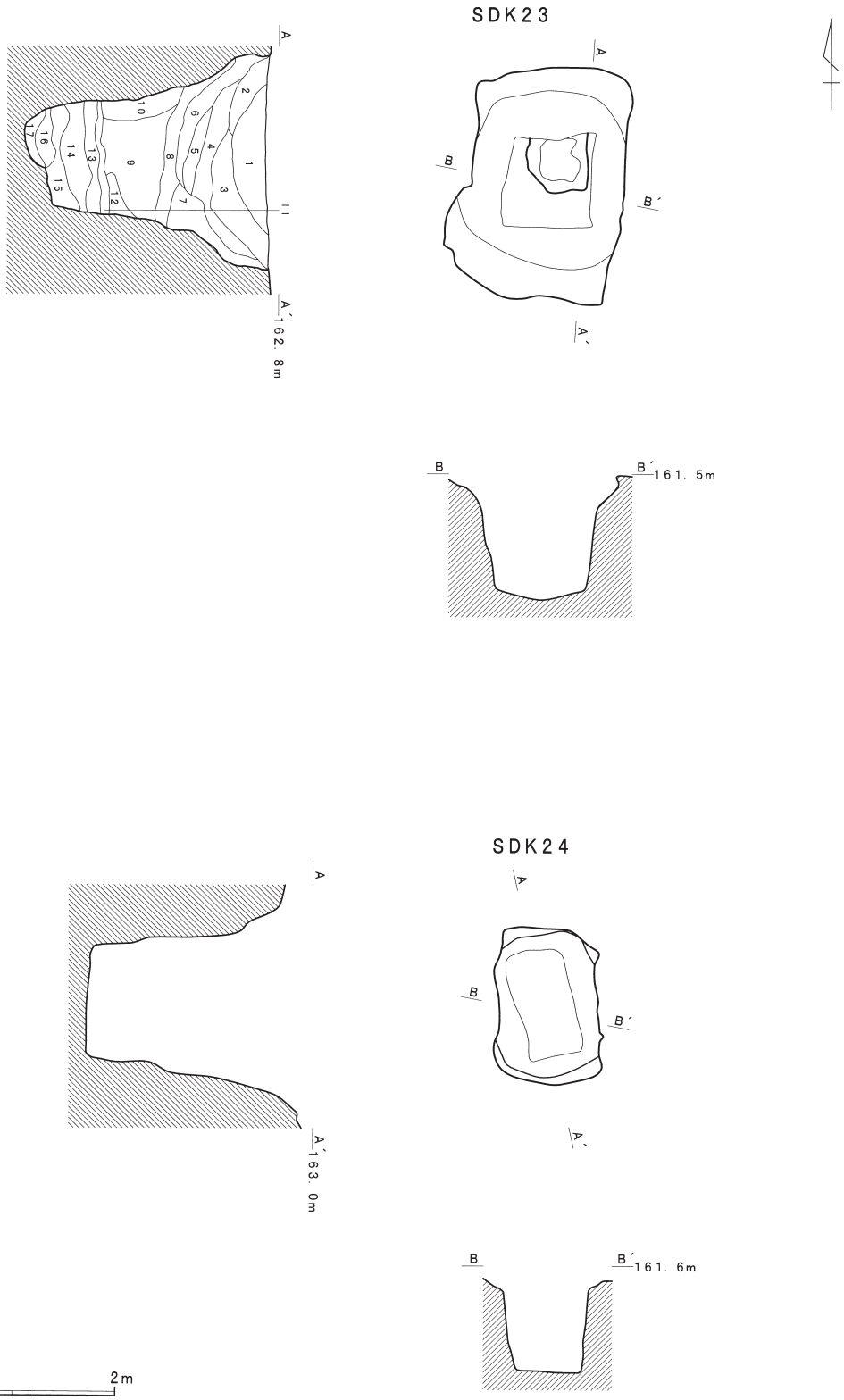
第36図　第3号溝状遺構土坑実測図（12）



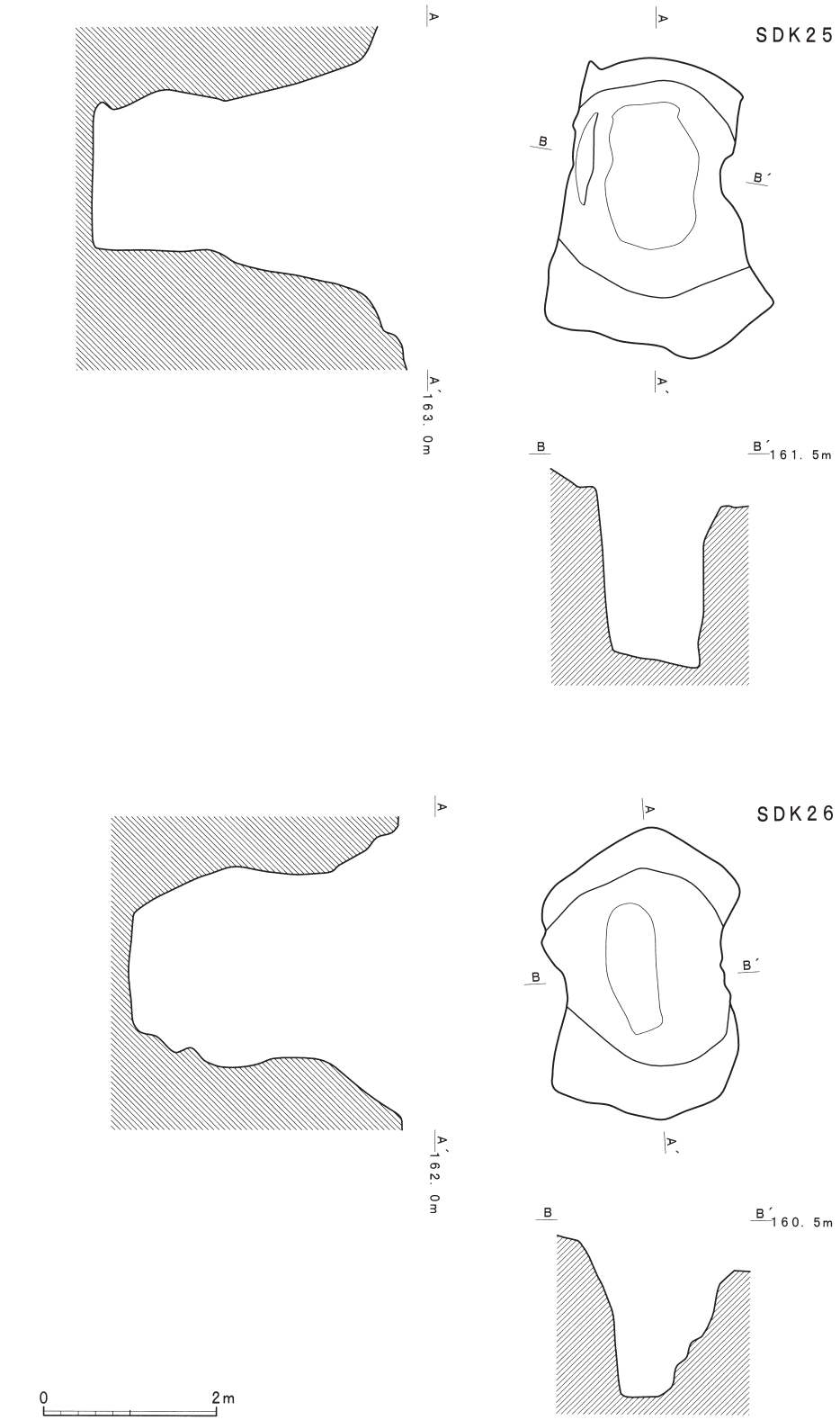
第37図　第３号溝状遺構土坑実測図（13）

持している土坑を見ると、円形、もしくは楕円形を呈していたものと想定される。断面は筒形に近いＵ字状を呈しており、途中にステップ状の段差が見られる場合もあった。底面は長方形を呈し、平坦に整えられているが、小穴は見つかっていない。

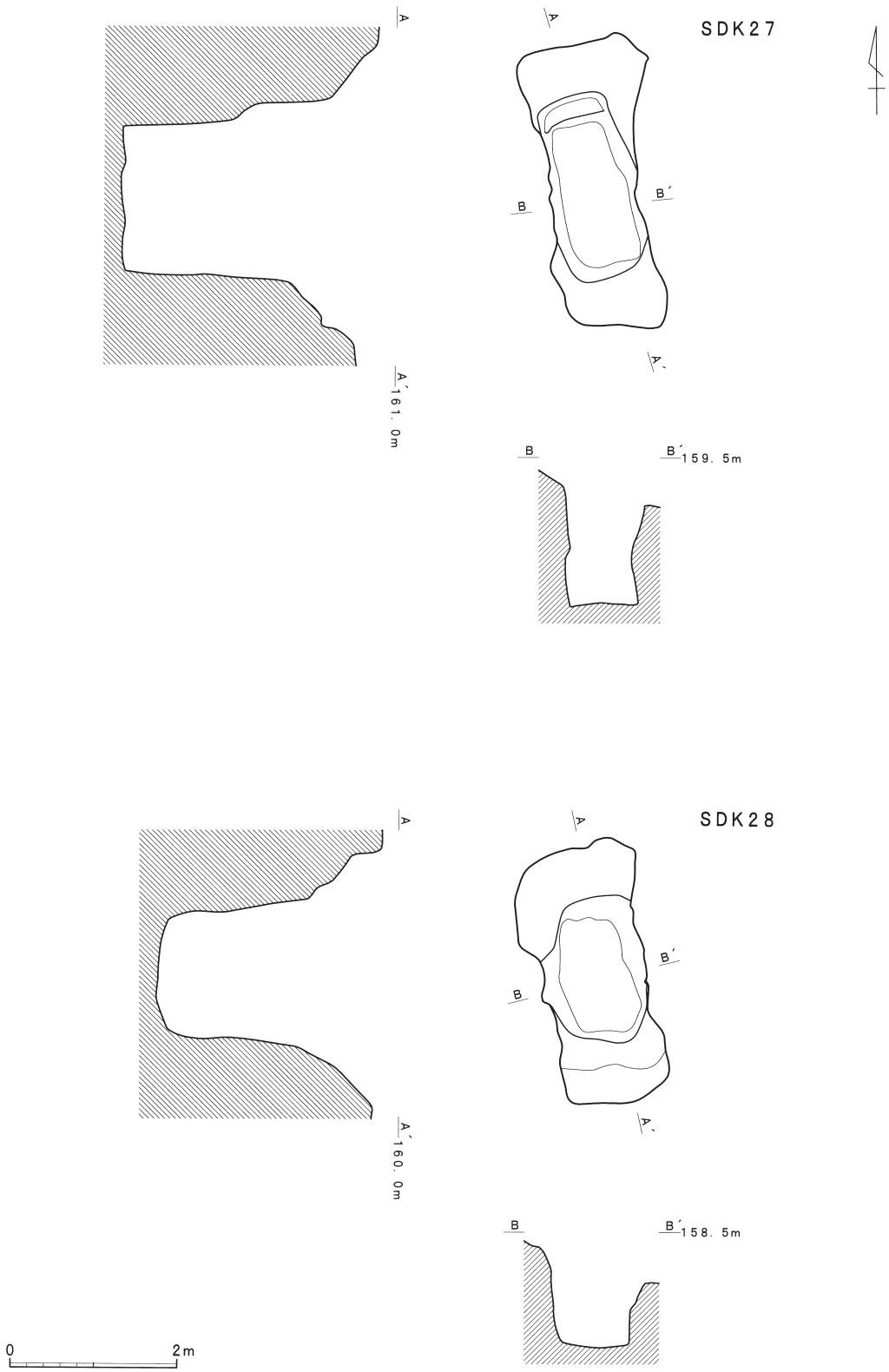
土坑の断面を観察すると、各土坑ともほぼ似通った様相を示していた。中～上位層には、「さらさら」とした黒褐色土が厚く堆積し、下位層は粘性が強く、中部ローム層、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ黒色帯、ニセローム層、第Ⅰスコリア層、休場層等のブロックが混在している。また、覆土の自然科学分析を行ったＳＤＫ12では、下位層からＡＴに由来する火山ガラスが多量に検出されている。したがっ



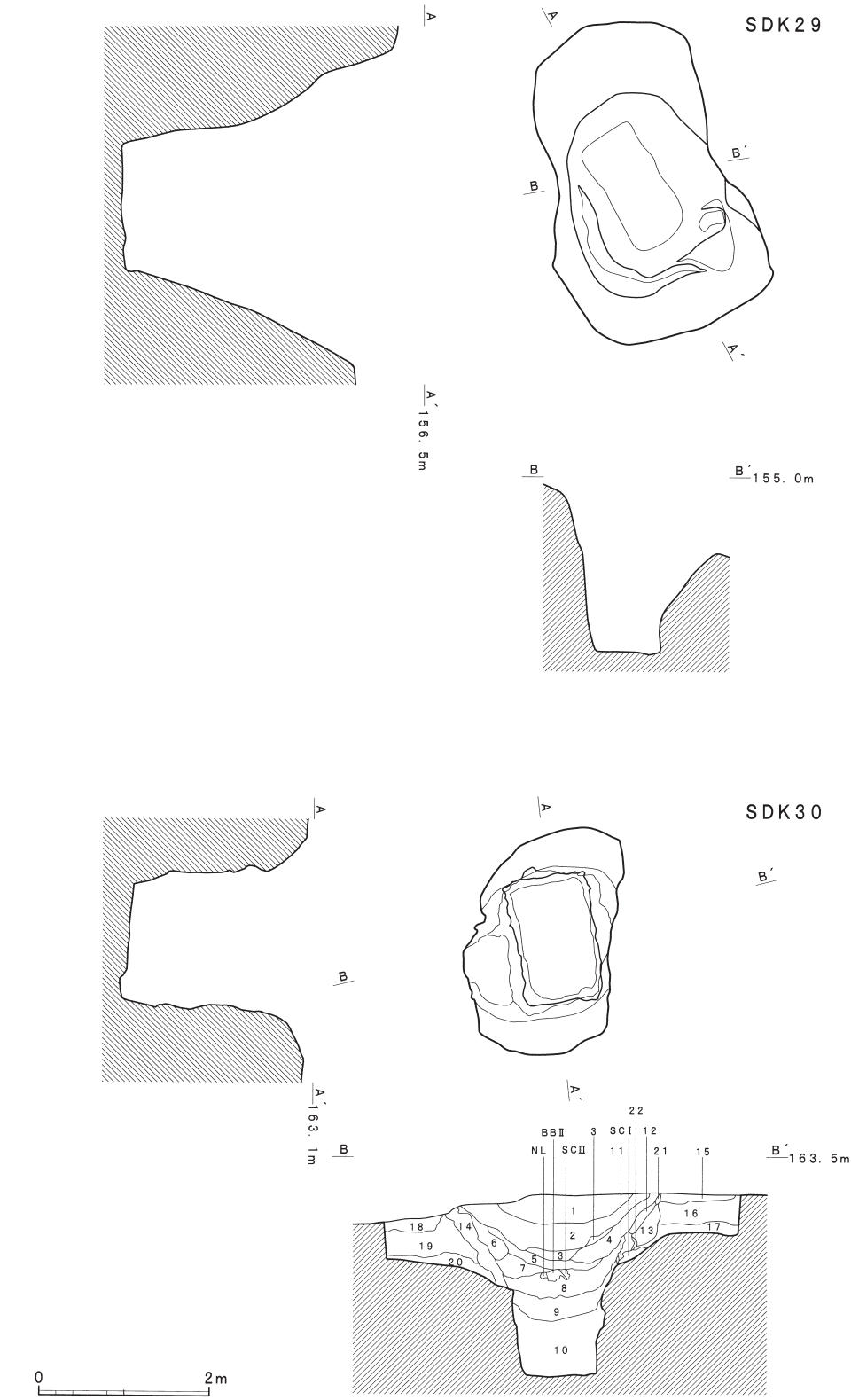
第38図　第3号溝状遺構土坑実測図（14）



第39図　第３号溝状遺構土坑実測図（15）



第40図　第3号溝状遺構土坑実測図（16）



第41図　第３号溝状遺構土坑実測図（17）

第3表　SDK土層一覧表（1）

図版No.	土坑名	層位	層名	色調	土層の特徴
第25図	SDK1	1	黒褐色土	10YR2/2	径1～11mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径1～4mmの黄色スコリア、径3mm以下の炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		2	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径1～4mmの黄色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		3	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～15mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径1～4mmの黄色スコリア、径1～12mmの炭化物を微量に含む。YLのブロックが混在し、やや粘性がある。
		4	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～8mmの赤褐色スコリア、径3mm以下の黄色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。YLブロックが混在し、やや粘性がある。
		5	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～18mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物をわずかに含む。粘性が強い。
		6	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～10mmの赤褐色スコリア、径1～15mmの炭化物を含む。YLブロックが混在し、粘性が強い。
第26図	SDK2	1	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～10mmの赤褐色スコリア、径1～6mmの茶褐色スコリアを微量に含む。
		2	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～4mmの茶褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		3	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～7mmの茶褐色スコリア、径1～7mmの炭化物を微量に含む。 FB・YLのブロックが混在し、やや粘性がある。
		4	褐色土	7.5YR4/4	径2mm以下の赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
		5	暗褐色土	10YR3/3	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1mm以下の茶褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		6	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～10mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
第28図	SDK 5・6	1	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～4mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		2	暗褐色土	10YR3/2	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		3	黒褐色土	7.5YR3/1	径1～12mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径2mm以下の炭化物を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		4	暗褐色土	10YR3/3	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの黄色スコリア、径2mm以下の 炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		5	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		6	黒褐色土	10YR3/2	径3mm以下の赤褐色スコリア、径2mm以下の炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		7	暗褐色土	7.5YR3/4	径1mm以下の赤褐色スコリア、径2mm以下の炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		8	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～10mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径1～3mmの炭化物を微量に含む。YLが混在する。
		9	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。 粘性が強い。
		10	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～12mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		11	褐色土	7.5YR4/4	径1～7mmの赤褐色スコリア、径3mm以下の炭化物を含み、粘性が強い。YLが混在。
		12	褐色土	7.5YR4/4	径1mm以下の赤褐色スコリア、径3mm以下の炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		13	暗褐色土	10YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1mm以下の炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		14	暗褐色土	10YR3/4	径1～4mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		15	暗褐色土	10YR3/4	径1～6mmの赤褐色スコリア、径2mm以下の炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		16	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～7mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を含む。YLブロックが混在する。
		17	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～8mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		18	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		19	褐色土	7.5YR4/3	径1～4mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。YLブロックが混在。
		20	褐色土	7.5YR4/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物を含む。YLブロックが混在する。
		21	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～11mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径1～3mmの炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		22	褐色土	7.5YR4/3	径1～15mmの赤褐色スコリア、径4mm以下の黄色スコリア、径3mm以下の炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
		23	暗褐色土	10YR3/3	径1～7mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～6mmの黄色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		24	暗褐色土	10YR3/4	径1～15mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		25	暗褐色土	10YR3/3	径1～8mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～10mmの茶褐色スコリア、径1～20mmの炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		26	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～5mmの赤褐色スコリア、黄色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		27	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～13mmの炭化物を微量に含む。サラサラしている。
		28	暗褐色土	10YR3/4	径1～10mmの赤褐色スコリア、径2mm以下の炭化物を微量に含む。YLブロックが混在し、ザラザラとした印象がある。
		29	褐色土	7.5YR4/4	径1～4mmの赤褐色スコリアを微量に含む。YLブロックが混在する。
		30	暗褐色土	7.5YR3/4	径2mm以下の赤褐色スコリア、径1mm以下の炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		31	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～9mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。

第4表　SDK土層一覧表（2）

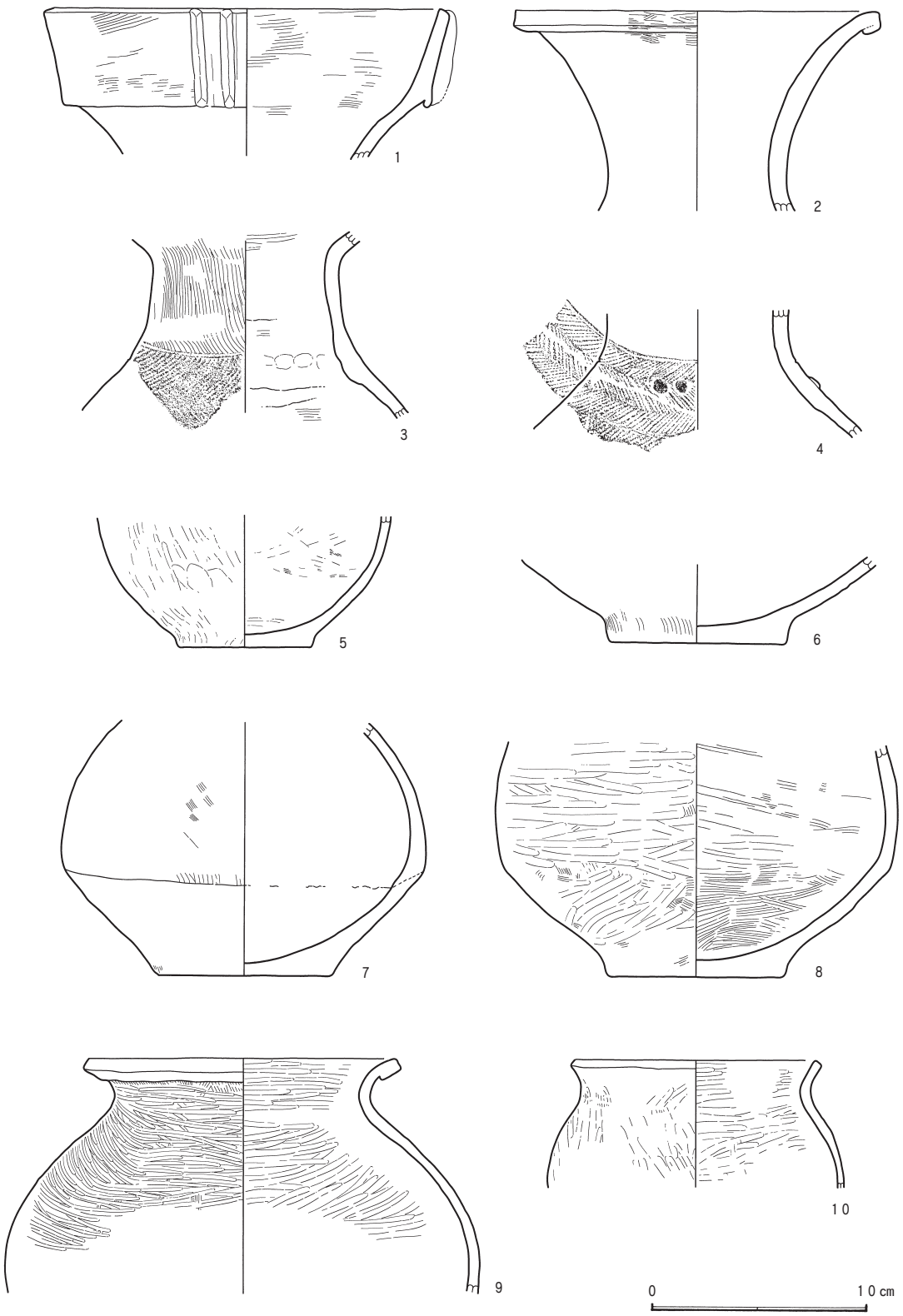
図版No.	土坑名	層位	層名	色調	土層の特徴
第28図	SDK 5・6	32	暗褐色土	7.5YR3/3	径3mm以下の赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		33	褐色土	10YR4/4	径1～11mmの赤褐色スコリア、径5mm以下の茶褐色スコリア、径2mm以下の炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		34	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～5mmの赤褐色スコリアを微量に含む。YL・SCⅠ・BBⅠのブロックが混在する。
		35	褐色土	7.5YR4/4	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。
		36	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～3mmの茶褐色スコリア、径2mm以下の炭化物を微量に含む。やや粘性が強い。
		37	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～6mmの炭化物を微量に含む。YLブロックが混在。
		38	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～8mmの炭化物を微量に含む。 YLブロックが混在。
		39	褐色土	7.5YR4/4	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。YLブロックが混在。
		40	褐色土	7.5YR4/4	径1～13mmの赤褐色スコリア、径3mm以下の炭化物を含む。
第30図	SDK9	1	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～6mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～6mmの黄色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		2	黒褐色土	7.5YR3/2	径4～6mmの赤褐色スコリア、径1～2mmの炭化物を微量に含む。サラサラしている。
		3	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～2mmの炭化物を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		4	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
		5	暗褐色土	10YR3/3	径1～11mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～4mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		6	暗褐色土	7.5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、径2mm前後の炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		7	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～15mmの赤褐色スコリアを少量含み、径1～4mmの炭化物を微量に含む。NL・BBⅡ・BBⅢのブロックが混在する。やや粘性がある。
		8	褐色土	7.5YR4/3	径2mm前後の赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。粘性がある。
		9	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物をに含む。粘性がある。
		10	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～10mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～5mmの炭化物を微量に含む。NL・BBⅡ・BBⅢのブロックが混在する。粘性がある。
		11	黒褐色土	10YR2/3	径1～12mmの赤褐色スコリア、径1～7mmの炭化物をわずかに含む。粘性がある。
		12	黒褐色土	10YR2/3	径1～8mmの赤褐色スコリア、径2mm前後の炭化物を微量に含む。粘性が強い。
第31図	SDK12	1	黒褐色土	7.5YR1.7/1	径1～5mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。サラサラとした印象がある。
		2	黒褐色土	7.5YR1.7/1	径1～5mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		3	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～5mmの赤褐色スコリアを微量に含む。
		4	極暗褐色土	7.5YR2/3	径3mm未満の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		5	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～3mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、カーボン粒を微量に含む。
		6	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。
		7	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～16mmの赤褐色スコリア、径3mm前後のカーボン粒を含む。やや粘性がある。
		8	極暗褐色土	7.5YR2/3	径5mm前後の茶褐色スコリア、径10mmのカーボン粒を微量に含む。やや粘性がある。
		9	黒褐色土	7.5YR3/2	径1mm前後の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		10	黒褐色土	7.5YR2/2	やや粘性がある。
		11	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～3mm前後の黒褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
		12	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1mm前後の赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラしている。
		13	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1mm前後の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。サラサラとした印象がある。
第32・33図	SDK 13・14 15	1	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		2	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物、黄褐色のロームブロックを微量に含む。サラサラとした印象がある。
		3	褐色土	7.5YR4/4	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		4	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～5mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～5mmの炭化物を微量に含む。サラサラしている。
		5	暗褐色土	10YR3/4	径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。（ZN～YLに相当）
		6	褐色土	7.5YR4/4	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		7	暗褐色土	10YR3/4	径1～7mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
		8	暗褐色土	10YR3/4	径1～5mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1mm前後の炭化物を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		9	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～7mmの炭化物をわずかに含む。ザラザラしている。
		10	褐色土	7.5YR4/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～25mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
		11	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～10mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、YL・BBⅠのブロックを含む。
		12	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリアと、YL・BBⅠのブロックを含む。やや粘性がある。
		13	褐色土	7.5YR4/4	径2mm以下の赤褐色スコリア、径12mm以下の炭化物を微量に含む。粘性が強い。

第５表　ＳＤＫ土層一覧表（３）

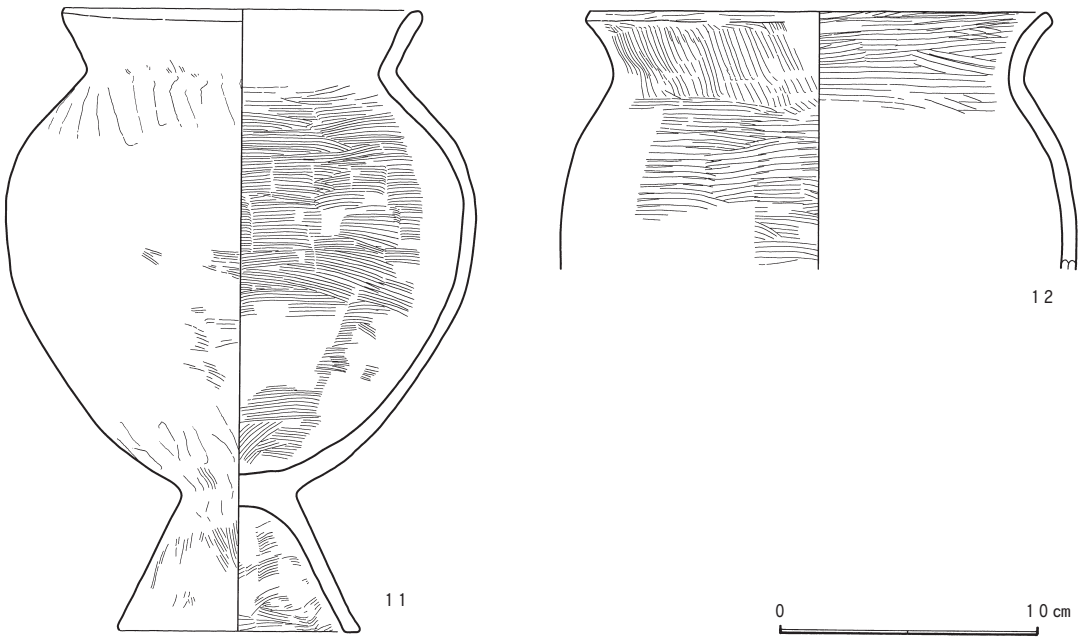
図版No.	土坑名	層位	層　名	色　調	土層の特徴
第32・33図	SDK 13・14 15	14	黒色土	7.5YR1.7/1	径1～8mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、微量の炭化物を含む。
		15	暗褐色土	10YR3/3	径1～10mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		16	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～12mmの赤褐色スコリア、径1～6mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		17	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～30mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		18	褐色土	7.5YR4/3	径1～5mmの赤褐色スコリアが微量に含み、炭化物を少量含む。やや粘性がある。
		19	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～15mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		20	暗褐色土	10YR3/4	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～65mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		21	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		22	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		23	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～20mmの炭化物をわずかに含む。粘性が強い。
		24	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物をわずかに含む。粘性が強い。
		25	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～13mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		26	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		27	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～4mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		28	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		29	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		30	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～8mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。
		31	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～2mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
		32	黒色土	7.5YR1.7/1	径1～8mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～3mmの炭化物を微量に含む。
		33	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～6mmの赤褐色スコリア、径1～7mmの炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
		34	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～10mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		35	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～9mmの赤褐色スコリア、径1～15mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		36	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～4mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		37	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～2mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		38	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmに赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		39	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～8mmの赤褐色スコリア、径3mm以下の炭化物を微量に含む。
		40	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～10mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～4mmの炭化物を微量に含む。
		41	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～7mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物をわずかに含む。
		42	褐色土	7.5YR4/4	径1～9mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～15mmの炭化物を微量に含む。
		43	暗褐色土	10YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		44	暗褐色土	7.5YR3/3	径2mm以下の赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		45	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～3mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		46	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～5mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		47	暗褐色土	10YR3/4	径1～5mmの赤褐色スコリア、径3mm以下の炭化物を微量に含む。ザラザラしている。
		48	暗赤褐色土	5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～10mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		49	暗褐色土	7.5YR3/3	径1mm以下の赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
		50	褐色土	7.5YR4/4	径1～15mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～5mmの炭化物を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
第34図	SDK16	1	黒色土	7.5YR1.7/1	径1～3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。ザラザラとした印象がある。
		2	黒褐色土	10YR2/2	径1～7mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		3	黒褐色土	10YR2/2	径1～5mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		4	黒褐色土	10YR2/3	径1～10mmの赤褐色スコリアを微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		5	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～7mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		6	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		7	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		8	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～2mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		9	暗褐色土	10YR3/4	径1～6mmの赤褐色スコリアを微量に含み、炭化物を多量に含む。粘性が強い。
		10	褐色土	7.5YR4/4	径1mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		11	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
		12	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
第36図	SDK 20	1	黒褐色土	10YR2/3	径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラとした印象がある。
		2	暗褐色土	10YR3/3	径1～4mmの赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラとした印象がある。
		3	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～5mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		4	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～4mmの赤褐色スコリアが微量に含まれ、炭化物を少量含む。やや粘性がある。
		5	褐色土	7.5YR4/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性が強い。

第６表　ＳＤＫ土層一覧表（４）

図版No.	土坑名	層位	層　名	色　調	土層の特徴
第36図	SDK 20	6	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～6mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		7	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～5mmの赤褐色スコリアが微量に含まれ、炭化物を少量含む。ザラザラしている。
		8	暗褐色土	10YR3/4	径1～5mmの赤褐色スコリアをわずかに含み、炭化物を多量に含む。やや粘性がある。
		9	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～2mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		10	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～5mmの赤褐色スコリアがわずかに含まれ、径1～6mmの炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		11	暗褐色土	7.5YR3/4	径1～3mmの赤褐色スコリアを微量に含み、炭化物を多量に含む。やや粘性がある。
		12	暗褐色土	10YR3/4	径1～7mmの赤褐色スコリアを微量に含み、炭化物を多量に含む。やや粘性がある。
		13	暗褐色土	10YR3/4	径1～2mmの赤褐色スコリアを微量に含み、炭化物を多量に含む。やや粘性がある。
		14	褐色土	7.5YR4/4	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1～20mmの炭化物を含む。中部ローム層のブロックが目立つ。
		15	暗褐色土	10YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリアが微量に含まれ、炭化物を多量に含む。粘性が強い。
		16	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～3mmの赤褐色スコリア、大きい粒子の炭化物を微量に含む。粘性が強い。
		17	暗褐色土	7.5YR3/3	径1～7mmの赤褐色スコリア、径3～80mmの黄褐色ロームブロックが 微量に含まれ、径1～45mm前後の炭化物を多量に含む。
		18	暗褐色土	10YR3/4	径1～4mmの赤褐色スコリアが微量に含まれ、炭化物を少量含む。粘性が強い。
第38図	SDK23	1	黒褐色土	10YR3/2	径1～3mmの赤褐色スコリア、径1mm未満の白色パミスを含む。サラサラしている。
		2	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～5mmの赤褐色スコリアを微量に含む。サラサラとした印象がある。
		3	黒褐色土	10YR2/2	径2～10mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。サラサラとした印象がある。
		4	黒褐色土	10YR2/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、炭化物を微量に含む。やや粘性がある。
		5	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～8mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性がある。
		6	黒褐色土	5YR2/2	径5mmの赤褐色スコリアを微量に含み、カーボン粒を少量含む。サラサラしている。
		7	極暗褐色土	7.5YR2/3	径2mmの茶褐色スコリア、径5mm未満のカーボン粒を微量に含む。サラサラしている。
		8	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～10mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。サラサラとした印象がある。
		9	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～5mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。
		10	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。やや粘性がある。
		11	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～5mmの赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性がある。
		12	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1mm前後の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性がある。
		13	極暗褐色土	7.5YR2/3	径3mm前後の赤褐色スコリア、カーボン粒を微量に含む。やや粘性がある。
		14	極暗褐色土	7.5YR2/3	径5mm未満の赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		15	極暗褐色土	7.5YR2/3	径1～5mmの赤褐色スコリアを微量に含む。やや粘性がある。
		16	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～20mmの茶褐色スコリアをわずかに含む。粘性が強い。
		17	黒色土	7.5YR1.7/1	径5mm前後の茶褐色スコリアを微量に含む。粘性が強い。
第41図	SDK30	1	黒色土	10YR1.7/1	径1～5mmの橙色スコリアがわずかに含まれ、白色パミスを微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		2	黒色土	7.5YR2/1	径1～7mmの橙色スコリア、パミスをわずかに含む。良く締まり、ザラザラしている。
		3	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～7mmの橙色スコリア、パミスをわずかに含む。良く締まり、ザラザラしている。
		4	黒褐色土	7.5YR2/2	径5mm前後のカーボン粒を微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		5	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～7mmの橙色スコリア、パミスがわずかに含まれ、径10～30mmの黒色帯ブロックを微量に含む。良く締まり、ザラザラとした印象がある。
		6	黒褐色土	7.5YR2/2	径10～40mmの暗黒色帯ブロック、NLブロックを微量に含む。ザラザラしている。
		7	黒褐色土	7.5YR2/2	径10mm前後の暗黒色帯ブロックを微量に含む。ザラザラとした印象がある。
		8	黒褐色土	7.5YR2/2	大形の暗黒色帯ブロック、スコリアを含む。やや締まっており、ザラザラしている。
		9	黒褐色土	10YR2/2	径10～70mmの暗黒色帯ブロックを微量に含む。やや締まっている。
		10	黒褐色土	7.5YR2/2	径10～20mmの暗黒色帯ブロック、NLブロックを微量に含む。
		11	黒褐色土	7.5YR3/2	径1mm前後のスコリアとパミスを微量に含む。良く締まり、ザラザラしている。
		12	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～10mmの橙色スコリア、パミスを微量に含む。良く締まり、ザラザラしている。
		13	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～4mmの褐色スコリア、パミスを微量に含む。良く締まり、ザラザラしている。
		14	黒褐色土	10YR2/3	13層と類似する。
		15	黒褐色土	7.5YR2/2	径1～4mmの褐色スコリア、パミスをわずかに含む。
		16	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～5mmの橙色スコリア、パミスをわずかに含む。
		17	黒褐色土	7.5YR3/2	径1～7mmの橙色スコリア、パミスを微量に含む。
		18	黒褐色土	10YR2/3	15層と類似する。良く締まり、ザラザラとした印象がある。
		19	黒褐色土	7.5YR3/2	16層と類似する。良く締まり、ザラザラとした印象がある。
		20	黒褐色土	10YR2/3	17層と類似する。良く締まり、ザラザラとした印象がある。
		21	黒褐色土	10YR2/2	
		22	黒褐色土	7.5YR2/2	



第42図　第３号溝状遺構出土土器（１）



第43図　第３号溝状遺構出土土器（２）

て、下層には埋積される際にＡＴを含む愛鷹ローム上部の土層が流入したものと推察される。

さらに、土坑が埋没する過程で再び改修されているものや、位置が変更されているものが存在した。ＳＤＫ６や13は、当初の土坑が埋没した段階で、再び浅いＵ字またはＶ字状の溝に掘り直している。ＳＤＫ14と15も改修の形跡が明瞭に見られ、最上部の層は土坑と溝を広く覆っていることから、ＳＤ３と土坑が廃棄され、ある程度時間が経過した後に堆積したものと想定される。30基の配置は間隔もまばらで不規則に並んでいるが、これは当初の土坑に途中で新設された土坑が加わった結果である。例えば、ＳＤＫ13～15は土層断面の切り合いの観察から、ＳＤＫ13→ＳＤＫ14→ＳＤＫ15と番号順に構築されていることがわかった。土坑の規模や位置関係も考慮すると、当初は大形の土坑がある程度、等間隔に並んでいたが、その後の改修により小さく不整形で規模も不統一な土坑が増設され、配置に粗密が生じたものと考えられる。

【出土遺物】（第42・43図１～12）

弥生時代後期後半～古墳時代初頭の土器が出土している。

１～９は壺である。１・２は口縁部が残存する。１は複合口縁壺で、二本の隆帯を貼り付けている。２は折り返し口縁壺である。３・４は頸部が残存する。３は縦位のハケメが施され、沈線により画された縄文を有する。４は沈線で画された羽状縄文が施され、その上方に円形浮文を有する。５・６は胴部下半から底部まで残存する。５は内面に横位、外面に縦位のヘラミガキが施されている。６は底部外面に一部ハケメが認められる。７・８は胴部上半から底部が残存する。ともに胴下位に稜を持ち、稜の内面に接合痕が認められる。７の内面底部は明確な手法は不明だが、平滑に調整されている。９は口縁部から胴部まで残存し、口縁部は折り返し口縁である。口縁部外面にはハケメ

第44図　遺構外出土土器

調整後ヘラミガキを施している部分も見られる。

10～12は台付甕である。10は口縁部から胴部上半まで残存する。外面には縦位のヘラミガキ、内面には横位のヘラミガキが認められる。11は口縁部から脚部まで残存し、胴部上位に最大径を持つ。12は口縁部から胴部上半まで残存し、内外面ともハケメが認められる。

（3）遺構外出土土器（第44図1）

調査区内の表採など遺構外で遺物が出土しており、弥生時代後期の台付甕が1点確認されている。口縁部から胴部下半まで残存する。胴部上半に最大径を持ち、やや長胴を呈する。内外面に横位のハケメが施されており、火の影響を受けて一部剥落している。

第7表　土器観察表

図版No.	器種	出土地点	遺物No.	口径 器高 底径	色調 残存部位	形態の特徴	手法の特徴	X座標 Y座標 Z座標
第16図1	台付甕	SB1 床・覆土	77・81・187	18.6 (11.2) —	明褐色 (7.5YR5/6) 口縁部～胴部上半	口縁部は外傾して立ち上がったのちやや外反する。頸部に明瞭な屈曲を持ち、胴部は内湾する。	口縁部内面・外面ハケメ 胴部内面ハケメ後ヨコナデ	170.802 23.767 162.035
第17図1	台付甕	SB2床	14・16～20 23～27 29～31	19.2 (21.6) —	にぶい赤褐色 (5YR4/4) 口縁部～胴部	口縁部は外傾して立ち上がる。胴部は内湾する。胴部上半に最大径を有する。	口縁部内面・外面ハケメ 胴部内面ハケメ後ヨコナデ 煤付着	180.452 19.559 162.496
第19図1	壺	SB3 床・覆土	35・55・56	— (7.9) 10.2	にぶい赤褐色 (2.5YR4/4) 胴部下半～底部	平底の底部から胴部は内湾して立ち上がる。	内面ハケメ 外面ヘラミガキ 煤付着	160.715 17.740 161.018
第19図2	台付甕	SB3床	36・37	(21.0) (8.1) —	明褐色 (7.5YR5/6) 口縁部～胴部上半	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は内湾する。	内外面ハケメ	160.563 18.954 160.996
第19図3	台付甕	SB3床	34・133	(23.0) (10.0) —	明褐色 (2.5YR5/6) 口縁部～胴部上半	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は内湾する。	口縁部内面・外面ハケメ	160.453 17.940 161.006
第20図1	壺	SB4炉址	—	(12.9) (28.1) 8.6	明赤褐色 (5YR5/6) 胴部下半～底部	平底と思われる底部から胴部は外反して立ち上がる。	内面ハケメ	— — —
第42図1	壺	SD3覆土	—	(18.0) (6.8) —	明赤褐色 (5YR5/6) 口縁部	口縁部は複合口縁で下部が肥厚する。外傾した後、直線状に立ち上がり、二本の隆帯を貼り付けている。	内面ハケメ後ヘラミガキ	— — —
第42図2	壺	SD3覆土	—	(26.9) (9.3) —	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 口縁部	口縁部は折り返し口縁で、外反して立ち上がる。	外面ヘラミガキ	— — —
第42図3	壺	SD3覆土	—	— (8.0) —	明赤褐色 (5YR5/6) 頸部	頸部は直線状に立ち上がり、口縁部で外反する。胴部は内湾して開く。	内面接合痕 頸部外面ハケメ 胴部外面縄文	— — —
第42図4	壺	SD3覆土	—	— (5.4) —	にぶい褐色 (7.5YR5/4) 頸部	頸部は直線状に立ち上がり、胴部は外傾して開く。	内面接合痕 頸部外面羽状縄文 円形浮文	— — —
第42図5	壺	SD3覆土	6・7・86 88・89	— (6.3) 6.2	にぶい橙色 (7.5YR6/4) 胴部下半～底部	平底の底部から胴部は内湾して立ち上がる。	内外面ヘラミガキ	177.152 44.061 162.913
第42図6	壺	SD3覆土	300・303 304	— (3.8) 6.1	明赤褐色 (5YR5/6) 胴部下半～底部	平底の底部から胴部は内湾して立ち上がる。	底部外面一部ハケメ	245.246 36.205 157.568
第42図7	壺	SD3覆土	—	— (11.8) 7.9	にぶい褐色 (7.5YR5/4) 胴部上半～底部	平底の底部から胴部はやや外傾して立ち上がり、胴部下半に明瞭な稜をもって内湾する。	稜内面に接合痕あり 底部外面・稜付近に一部ハケメ 煤付着	— — —
第42図8	壺	SD3覆土	—	(13.4) 11.1 7.6	橙色 (7.5YR6/6) 胴部上半～底部	平底の底部から胴部は内湾して立ち上がり、胴部下半に弱い稜をもって内湾する。	内面ハケメ 稜内面に接合痕あり 外面ヘラミガキ、煤付着	— — —
第42図9	壺	SD3覆土	—	14.3 (10.9) —	にぶい赤褐色 (5YR4/4) 口縁部～胴部	口縁部は折り返し口縁で外反して立ち上がる。胴部は内湾する。	内外面ヘラミガキ 口縁部外面一部ハケメ後ヘラミガキ	— — —
第42図10	小型甕	SD3覆土	34・79 81・83	(11.2) (6.0) —	にぶい橙色 (7.5YR6/4) 口縁部～胴部上半	口縁部はやや外反して立ち上がる。胴部は内湾する。	内外面ヘラミガキ	173.564 44.678 162.424
第43図11	台付甕	SD3覆土	—	13.8 24.0 9.3	褐色 (7.5YR4/3) 口縁部～脚部	口縁部は外傾して立ち上がり、端部でやや外反する。胴部上半に最大径を有する。脚部はハの字状に開く。	口縁部内外面ヨコナデ 胴部・脚部内外面ハケメ 胴部外面下位一部ヘラケズリ、煤付着	— — —
第43図12	台付甕	SD3覆土	—	(17.7) (10.0) —	灰黄褐色 (10YR4/2) 口縁部～胴部上半	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は内湾する。	内外面ハケメ	— — —
第44図1	台付甕	表採	101～104 110・117 120・167 168・172	(26.6) (23.3) —	にぶい褐色 (7.5YR5/4) 口縁部～胴部下半	口縁部はやや外反して立ち上がる。胴部は内湾し、胴部上半に最大径を有する。	内外面ハケメ 煤付着	136.638 9.317 157.918

第４節　縄文時代の遺構と遺物

（１）遺構と遺物の分布状況

①遺構（第45図）

縄文時代に属する遺構としては、土坑７基と集石２基が検出された。谷Ｂ東側の尾根にかかる斜面で検出された第71号土坑以外は、ほとんどが谷Ｃ東側の尾根上にまとまっている。この尾根は南北に細長く、Ｅ地区にかかる部分でいったん括れ、さらに南へ下った先端部には第１次調査Ｂ地区が展開する。ここには縄文時代早期の押型文土器が比較的まとまって出土しており、縄文時代に属する遺物・遺構のほとんどは、谷Ｃ東側の尾根上に存在することになる。

土坑のうち、比較的堀り込みが浅いものは、尾根上のわずかな平坦面に並び、土坑を挟むように南北両端に集石が構築されていた。第51号土坑は底部に小穴が認められることから陥穴であると考えられる。また、第65号土坑・第71号土坑も堀り込みの形状や規模から、陥穴の機能を果たした可能性が高い。これらは他の土坑とは異なり、尾根から谷にかかる斜面に構築されており、飲水やヌタ場を求めて谷に移動する動物を狙ったものと考えられる。

しかし、すべての遺構でまったく遺物が検出されず、遺構の時期を特定することは難しかった。また、検出された遺構数が非常に少ないため、八兵衛洞遺跡のこれまでに調査が行われた地区と同様に、縄文時代の居住活動の具体的な姿を復元することは難しい。

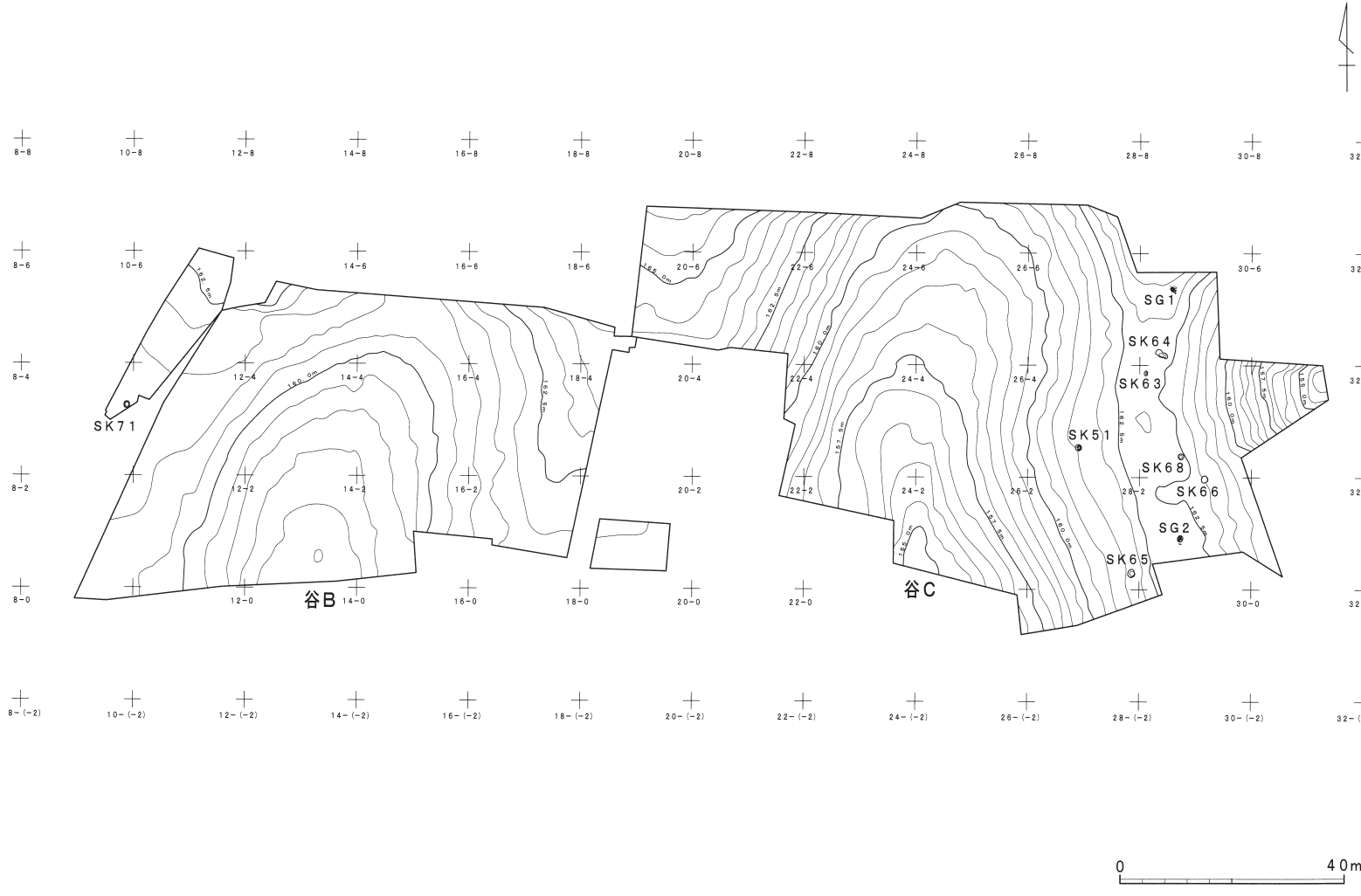
②遺物（第46～48図）

八兵衛洞遺跡でこれまでに行われた調査においても、縄文時代遺物の分布は尾根上を中心とした限定的なものであった。第１次調査のＡ地区からごくわずかな縄文時代中期の土器と石器、Ｂ地区からは格子目文を中心とした密接施文の押型文土器と撚糸文土器、さらにそれに伴う石器が出土している。

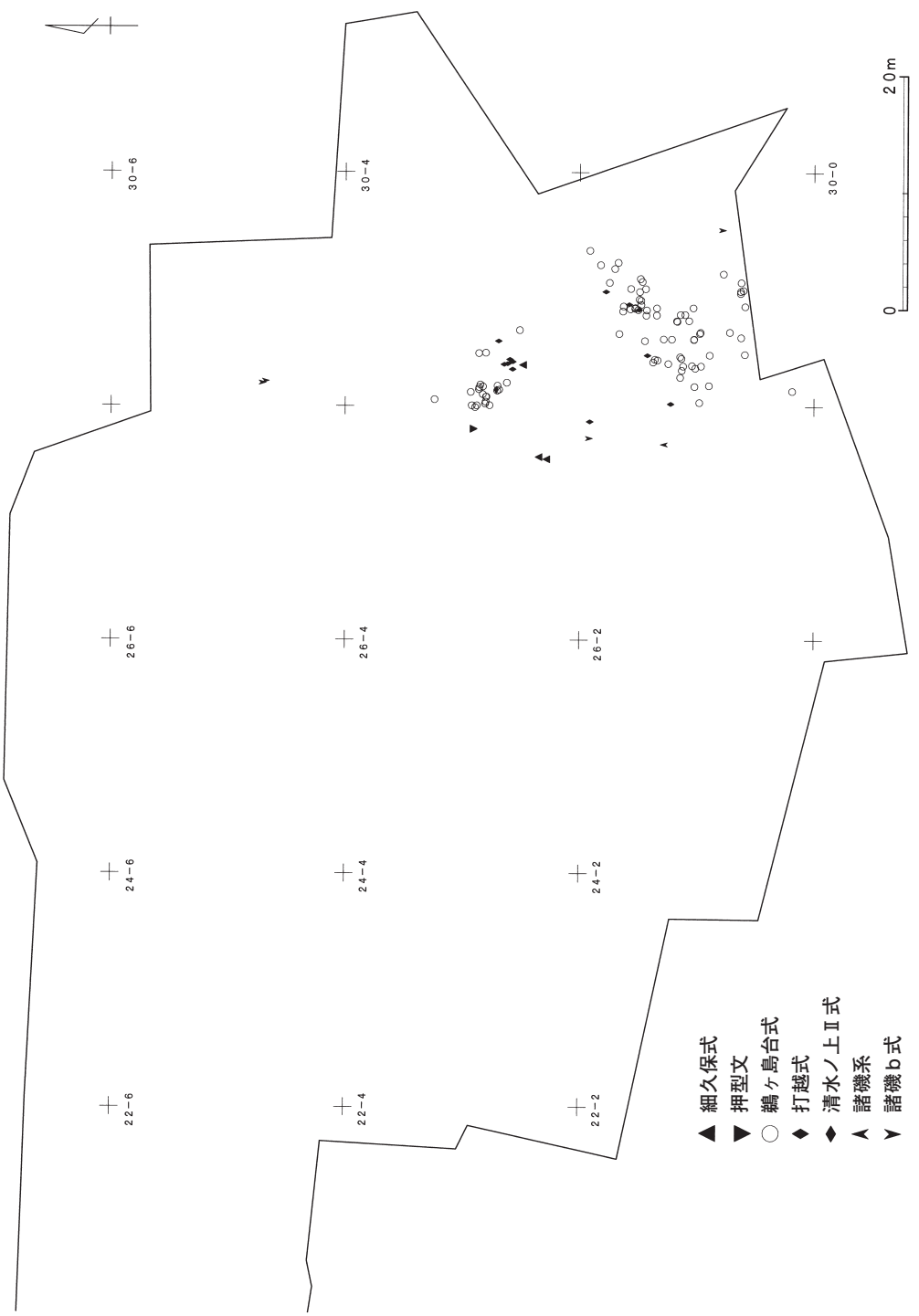
No.９～11地点における遺構の分布は、谷Ｃ東側の尾根上にほぼ限定されていた。当然のこととはいえ、遺物の分布もこの部分が中心となっている。しかし石器については、谷Ｂ西側の斜面から尾根にかけての部分にも分布している。

谷Ｃ東側の尾根の南側から調査区境界にかかる部分では、第Ⅱ群土器（鵜ヶ島台式）が他の時期の土器をほとんど交えずに出土している（第46図）。ここからは第２号集石（ＳＧ２）が検出されており、鵜ヶ島台式段階に集石を介在させた消費活動が行われていたものと考えられる。また同じ尾根のほぼ中央部分からも、第Ⅱ群土器（鵜ヶ島台式）のほか、第Ⅰ群土器（押型文土器、時期の限定できるものについては「細久保式」として別に表記した。）、第Ⅲ群土器（打越式土器）が比較的まとまって出土している。

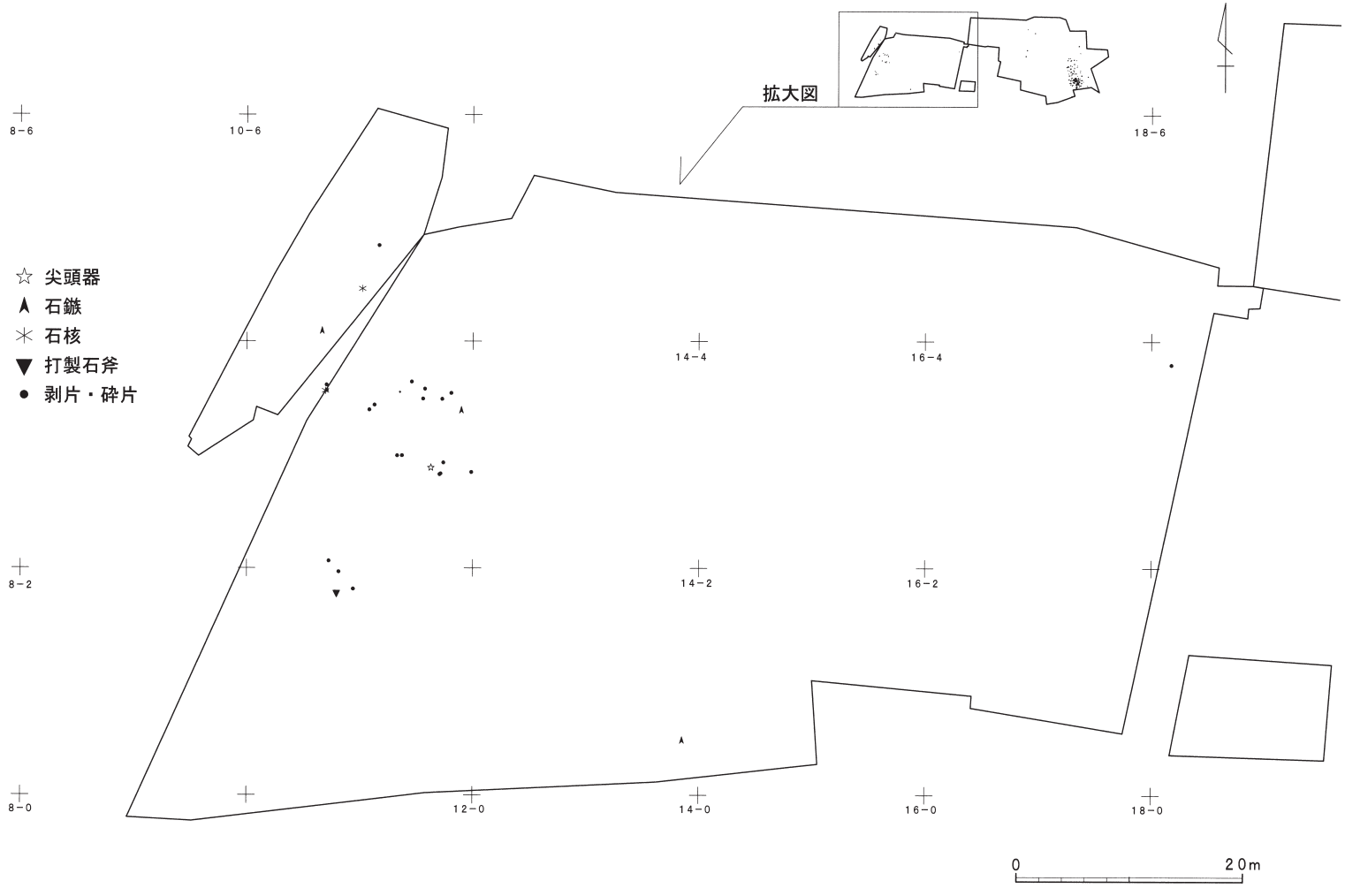
石器についても、谷Ｃ東側尾根の南側に分布の中心が認められた（第48図）。ここでは製品としての石器以外にも、石核・剥片・砕片がやや集中しており、石器製作が行われていたものと考えられる。これに対して谷Ｂ西側斜面から尾根にかけての石器分布は比較的散漫であり、その器種も限られている。尾根上には調査区が及んでいないので、推測の域を出ないが、斜面地で行われた限定的な消費活動の一端を示している可能性もあろう。



第45図　縄文時代遺構分布図



第46図　縄文時代土器分布図



第47図　縄文時代石器分布図（1）

第48図　縄文時代石器分布図（2）

（2）遺構

①土坑

調査区全体を通して土坑は67基確認されているが、縄文時代に属するものはそのうちの７基である。谷Ｃ東の尾根上では、耕作による削平・撹乱を大きく受けた影響で休場層以上の残存状況が非常に悪かったことから、第Ⅰスコリア層以下での検出となった。したがって、結果的に壁高が低くなってしまったものが多い。

第51号土坑（第49図）

谷Ｃ東側の緩斜面に位置する。検出層位は第Ⅰ黒色帯、平面形は円形である。長径115㎝、短径113㎝、深さ97㎝を測り、底部に６基の小穴が確認できた。小穴の幅は12～30㎝ほどで、深さは20㎝前後である。底面は平坦に整えられており、堀り込みの深さや形状から陥穴の機能を持っていたことが想定される。

【覆土】

１層：極暗褐色土（7.5YR2/3）径１～５㎜前後の赤褐色スコリアを微量に含み、「さらさら」という印象がある。富士黒土層に類似する。

２層：極暗褐色土（7.5YR2/3）径１～３㎜前後の赤褐色スコリアを微量に含み、やや粘性が強い。休場層に類似する。

３層：極暗褐色土（7.5YR2/3）径１～５㎜前後の茶褐色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。

４層：黒褐色土（10YR2/3）径１㎜前後の茶褐色スコリアを含む。やや粘性が強い。

５層：黒褐色土（10YR2/3）径２㎜前後の茶褐色スコリアを含む。やや粘性が強い。

第63号土坑（第49図）

谷Ｃ東側の細尾根上で検出された。検出層位は第Ⅰスコリア層、平面形は南北に長い楕円形で、長軸を北東－南西方向に向ける。長径85㎝、短径65㎝を測り、深さは13㎝と非常に浅く、皿状を呈する。

【覆土】

１層：黒褐色土（2.5Y3/2）

２層：暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）橙色スコリアを微量に含む。

第64号土坑（第49図）

谷Ｃ東側の細尾根上で検出され、ＳＫ63のすぐ北東に位置する。検出層位は第Ⅰスコリア層で、平面形は不整形となっており、長軸を北西－南東方向へ向ける。深さは22㎝で浅い皿状を呈し、東の谷方向へ傾いている。

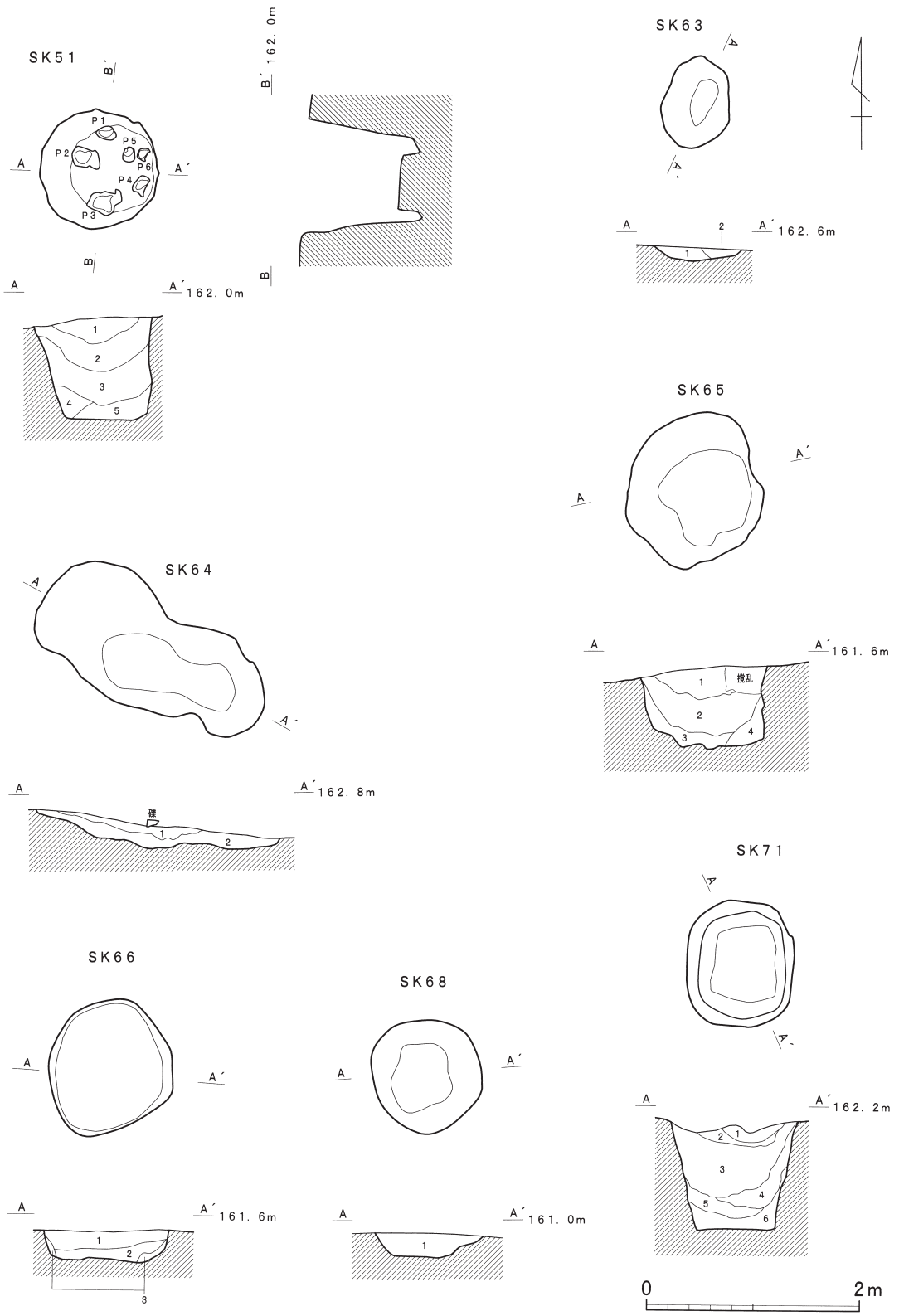
【覆土】

１層：灰黄褐色土（10YR4/2）橙色スコリアを微量に含む。やや粘性が強い。

２層：暗灰黄色土（2.5Y4/2）

第65号土坑（第49図）

谷Ｃ東側の緩斜面南端に位置する。検出層位は第Ⅰスコリア層、平面形は不整形である。長径151㎝、短径121㎝、深さ78㎝。長軸を南北方向へ向ける。


SK51
SK63
SK64
SK65
SK66
SK68
SK71
162.0m
162.6m
162.8m
161.6m
161.0m
162.2m
撹乱
0
2m

第49図　土坑実測図

【覆土】

1層：暗灰黄色土（2.5Y4/2）径6㎜程度の黄色スコリアを微量に含む。富士黒土層に相当する。

2層：灰オリーブ色土（5Y5/3）休場層に相当する。

3層：オリーブ黒色土（5Y3/2）第Ⅰスコリア層の崩落土や休場層などが混在する。

4層：暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）第Ⅰスコリア層・休場層などが混在する。

第66号土坑（第49図）

谷C東側尾根の東緩斜面上に位置する。検出層位は第Ⅰスコリア層、平面形はほぼ円形である。長径134㎝、短径120㎝、深さ30㎝。長軸を南北方向へ向ける。

【覆土】

1層：暗灰黄色土（2.5Y4/2）富士黒土層に相当する。

2層：黄褐色土（2.5Y5/3）休場層の崩落土。

3層：黒褐色土（2.5Y3/2）第Ⅰスコリア層の崩落土。

第68号土坑（第49図）

谷C東側の細尾根上、SK66の北西で検出された。第Ⅰスコリア層掘削中に確認していたが、その時点では木痕と判断しており、第Ⅱスコリア層上面まで掘り下げたところで円形になったため、土坑とした。平面形は円形を呈し、長軸を南北方向へ向ける。長径109㎝、短径104㎝、深さ24㎝。

【覆土】

1層：オリーブ褐色土（2.5Y4/6）ニセローム層、第Ⅱ黒色帯などのブロックを含む。

第71号土坑（第49図）

土坑の中で唯一、調査区西端の谷A東側緩斜面で検出された。検出層位は休場層で、平面形は隅丸長方形に近い。長径121㎝、短径110㎝、深さ104㎝で、長軸を南北方向へ向ける。小穴は確認できなかったが、底部は平坦に整えられており、堀り込みの深さや形状からも陥穴の機能を持っていたことが考えられる。

【覆土】

1層：黒褐色土（7.5YR3/2）径1～3㎜の橙色スコリア、白色パミス、径1～2㎜の炭化物を微量に含む。硬く締まっている。

2層：黒褐色土（7.5YR3/2）径1～3㎜の橙色スコリア、炭化物を微量に含む。硬く締まっている。

3層：暗褐色土（7.5YR3/3）径1～4㎜の褐色スコリア、パミス、休場ローム粒を微量に含む。粘性が強い。

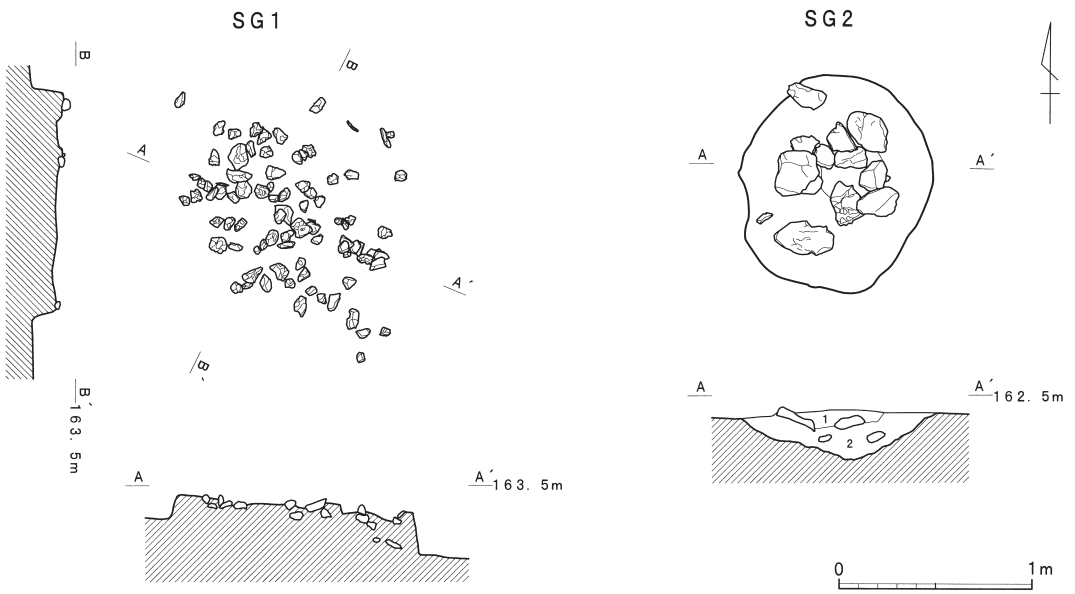
4層：黒褐色土（10YR2/3）径1～15㎜の黒色帯ブロックを微量に含む。粘性が強い。

5層：暗褐色土（7.5YR3/4）黒色土粒を少量含み、スコリアを微量に含む。粘性は弱く、やや粒子が粗い。

6層：黒褐色土（10YR2/2）第Ⅰスコリア層のブロックを少量含む。やや粒子が粗い。

②集石

集石は2基検出され、いずれも谷C東側の細尾根上に位置していた。うち1基は、下部に土坑を



第50図　集石実測図

伴う。使用されている石材は、付近の愛鷹山山体を構成し、周辺の小河川で得ることができる比較的軟質な安山岩を主体としている。また、愛鷹山東南山麓東方を南流する桃沢川の源流部に岩体として存在し、板状に節理する性質のあるデイサイトが１割前後の割合で含まれていた。

第１号集石（第50図）

谷Ｃ東側の細尾根上で、調査区の北端に位置する。検出層位は第Ⅰスコリア層で、直径170㎝程の範囲内に集中する小規模な集石である。下部に土坑は確認できず、垂直方向の重なりもほぼ見られない。礫以外の遺物は検出されていない。

礫の総数は147個、総重量は21,342g。礫は全体的に小ぶりで、最大でも15㎝程度しかない。安山岩を用いた拳大以下の角礫が中心だが、全体の３分の１は平板状を呈し、デイサイトが少数用いられていた。６割程度に赤変が認められ、割面まで赤化したものが目立つ。

第２号集石（第50図）

ＳＧ１と同じ尾根上の、調査区南端に位置する。検出層位は富士黒土層で、下部に土坑を伴っていた。礫以外の遺物は検出されていない。

土坑は長径114㎝、短径101㎝、深さ27㎝で、平面形は楕円形に近い。垂直方向への重なりはほとんど認められず、密に集中する様子は見られない。

礫の総数は17個、総重量は22,945g。集石を構成している礫の数は少ないが、径20㎝以上の大形のものが多く、その多くが平板状を呈している。デイサイト１点を除き、残りはすべて安山岩を用いている。ほとんどの礫に赤変が認められるが、煤・タールの付着は確認できなかった。

【覆土】

１層：黒褐色土（7.5YR2/2）パミス・スコリアを多量に含む。

２層：黒褐色土（7.5YR3/2）パミス・スコリアをほとんど含まない。

（3）遺構外出土土器

出土土器のなかで中心となるのは早期後半土器の鵜ヶ島台式土器であり、これ以外には早期前葉の押型文土器、早期末葉の打越式土器、前期後葉の諸磯ｂ式土器、中期前葉の井戸尻式土器、中期末葉の加曽利Ｅ４式・曽利Ⅴ式が出土している。以下に群別の概要を示す。

第Ⅰ群土器：早期前葉土器（押型文土器）

第Ⅱ群土器：早期後半土器（鵜ヶ島台式土器）

第Ⅲ群土器：早期末葉～前期初頭土器（打越式土器・清水ノ上Ⅱ式土器）

第Ⅳ群土器：前期後葉土器（諸磯ｂ式土器）

第Ⅴ群土器：中期前葉土器（井戸尻式土器）

第Ⅵ群土器：中期末葉土器

第Ⅰ群土器（第51図１～５）

縄文時代早期の押型文土器を本群とするが、出土しているのは横位密接施文を基調とするものに限定される。

第51図１・２は複合鋸歯文と格子目文が横位に密接施文されている。第51図１では口縁部に矢羽根状の押型文ないし沈線紋が加わる。第51図３は格子目文のみが観察されるが、その圧痕や胎土等から第51図２と同一個体と考えられる。第51図４はかなり細長い楕円文が斜位と横位に交差して施文されている。

第Ⅰ群土器は以下の早期後半土器などに比べ、やや薄手で硬質な印象があり、特に第51図１～３は、胎土に比較的粒径の大きな長石・石英と金色の雲母が目立っている。

第Ⅱ群土器（第51図６～第54図14）

縄文時代早期後半の鵜ヶ島台式土器を本群とする。文様の特徴からさらにａ～ｃ類に分類し、これらに伴なう条痕文のみが施文された土器をｄ類とした。

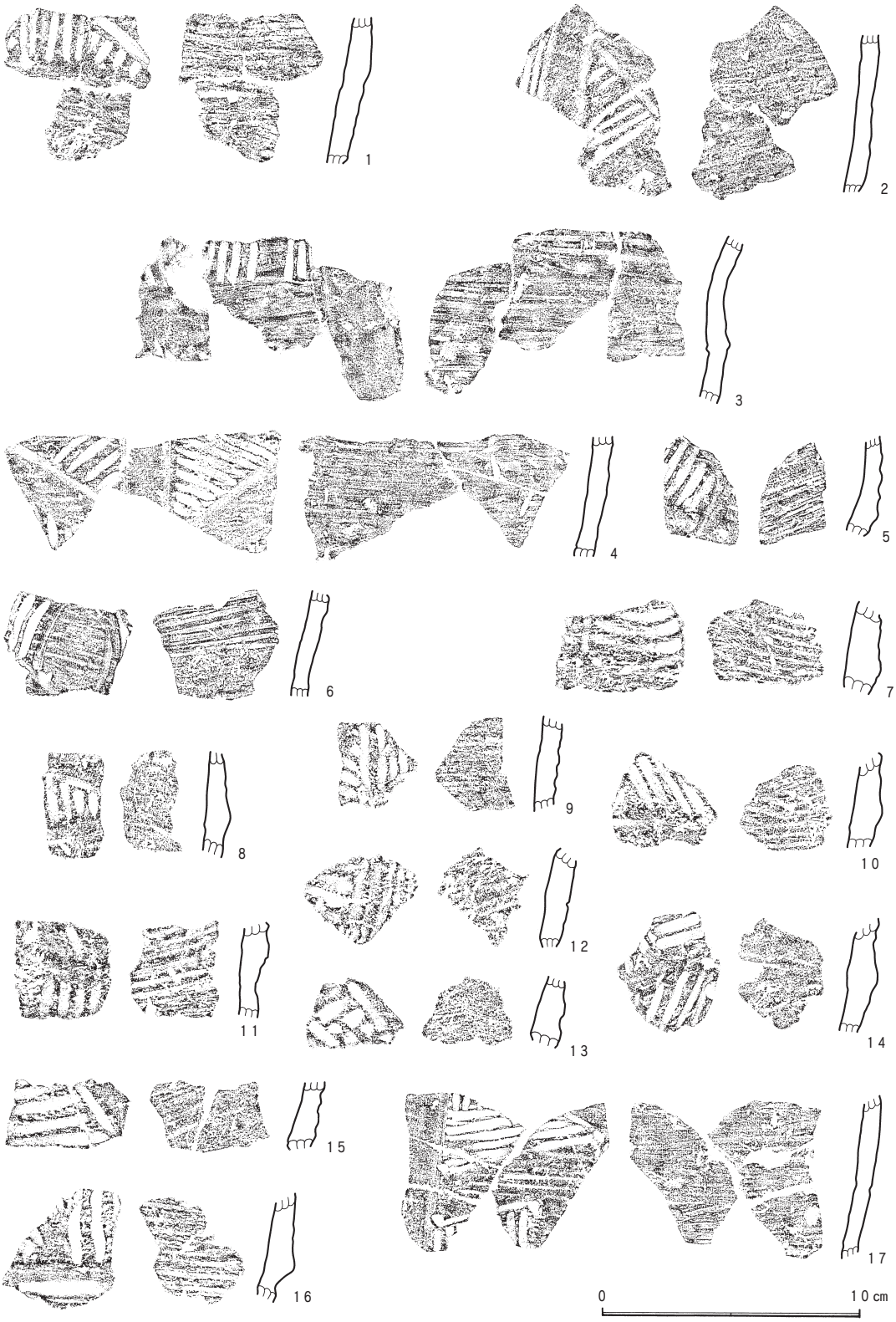
第Ⅱ群ａ類（第51図６～第53図１）

鵜ヶ島台式土器のうち、施文が比較的太い沈線のみで行われるもの。いずれも器面の内外面のほぼ全体に条痕が認められる。第51図６・７のように沈線下に条痕が認められる例があることから、口縁部においてもいったん条痕が施された後に、沈線文が加えられているものと考えられる。口縁から胴部上半まで残存している第51図８では、最も屈曲する部分に横位に無文部分が設けられ、これを境として口縁部文様帯が上下に分帯されている。

胎土には繊維のほか、不透明白色の岩片が含まれるものが多い。また金色の雲母（黒雲母が酸化して金色の金属光沢を帯びたもの）を含むものはない。

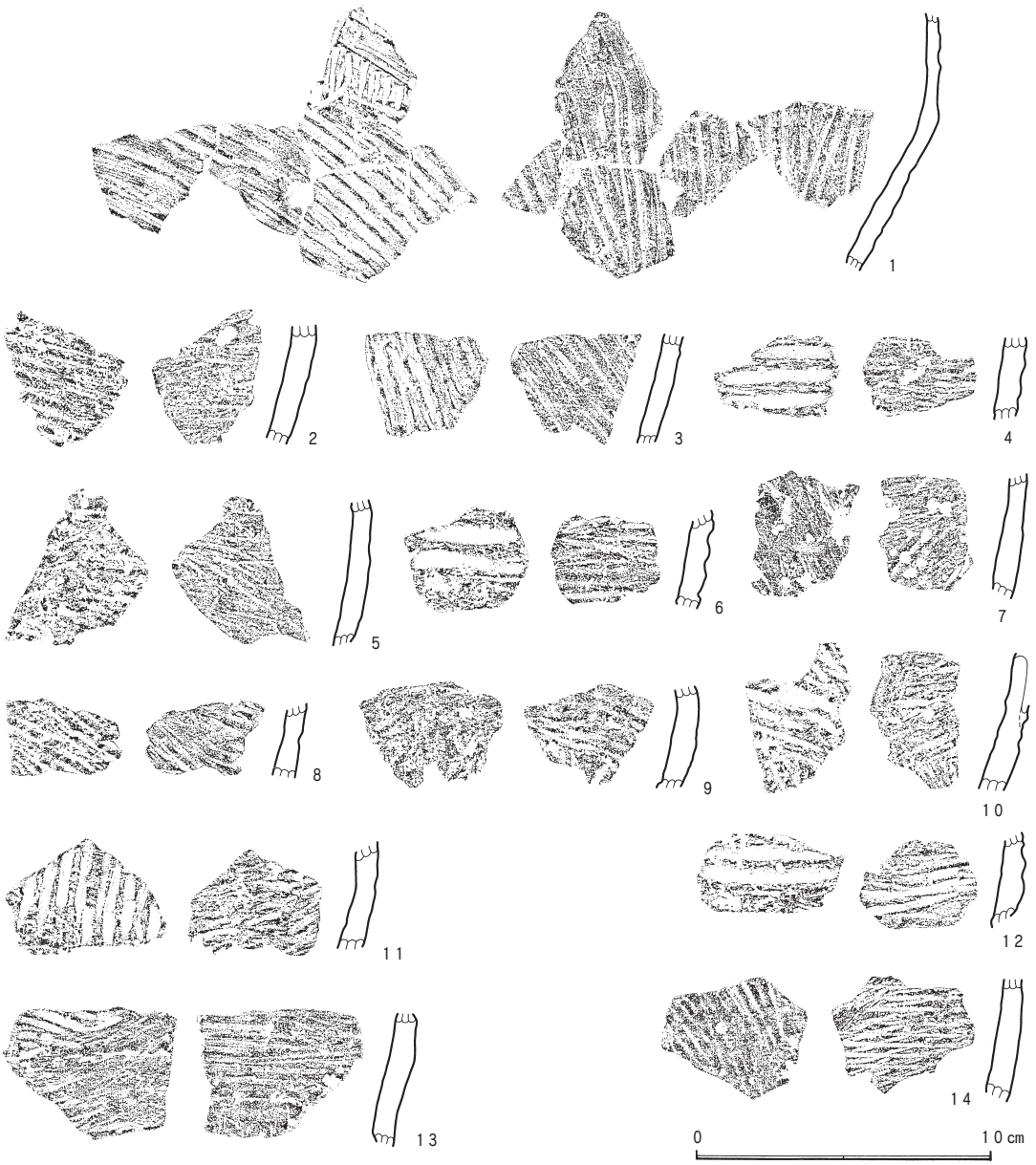
第51図10では縦位の沈線の後に、横位の沈線が密接して施されている。第51図11の上端内側には粘土帯の整形痕が認められる。第52図３・４は本類中ではやや器厚が薄く、硬質な印象がある。胎土に含まれる鉱物・岩片も比較的少ない。第52図６には条痕が残され、その上から弧状の沈線が加えられている。第52図16は口縁肥厚部の下に沈線が横位に引かれ、屈曲がより強調されている。

第51図　遺構外出土土器（1）



第52図　遺構外出土土器（2）

第53図　遺構外出土土器（3）



第54図　遺構外出土土器（4）

第Ⅱ群b類（第53図2・3）

鵜ヶ島台式土器のうち、太い沈線と細い沈線が併用して施文が行われるもの。鵜ヶ島台式の特徴である刺突は、第Ⅱ群a類では沈線の末端ないし交差部分に限られていたが、本類では沈線の途中にも加えられている。また、刺突じたいの形状も半截竹管による半円形へと変化している。第53図2の胎土は第Ⅱ群a類に比べると繊維が少ないが、その代わりに砂粒が非常に多く含まれている。裏面の条痕も第Ⅱ群a類より浅くなっている。

第Ⅱ群ｃ類（第53図４～第54図１）

鵜ヶ島台式土器のうち、微隆起線と沈線によって施文が行われるもの。第Ⅱ群ａ類・ｂ類に比べて器厚はかなり薄く、硬質な印象がある。胎土には少量ながら繊維の痕跡が認められる。第Ⅱ群ａ類・ｂ類では不透明白色の岩片が目立ち、金色の雲母は認められなかったが、本類には径１㎜以下の金色の雲母が目立つ。また長石ないし石英と思われる半透明白色の砂粒も含まれている。

横位・斜位あるいは弧状の微隆起線を交差させることによって、施文域を割り付け、その中に沈線紋が加えられている。またこれらの文様の下位に条痕が認められる部分があり、施文に先立って条痕が加えられたと考えられる。器外面の条痕はほぼ横位であるが、内面側の条痕は縦位にしかも比較的浅く施文されている。金色の雲母を含むことが本類の特徴であるが、第53図６・７・８・10・11・12・第54図１には銀色の金属光沢を帯びる雲母が認められ、白雲母である可能性が高い。

第Ⅱ群ｄ類（第54図２～14）

第Ⅱ群に伴う土器で胴部以下の条痕のみが施文されたもの、あるいは、口縁部でも明確な文様が加えられていないものを本群とした。

第54図３は表裏の条痕の特徴や胎土などからｃ類の胴部である可能性が高い。条痕が太く深い第54図４・６・10・12はａ類の胴部であると考えられる。

第Ⅲ群土器（第55図１～11）

縄文時代早期末葉～前期初頭土器を第Ⅲ群とした。早期末葉の打越式土器に比定されるものを第Ⅲ群ａ類、前期初頭の清水ノ上Ⅱ式土器に比定されるものを第Ⅲ群ｂ類としたが、出土点数は少なく、ａ類とｂ類の間には時間的間隙もある。

第Ⅲ群ａ類（第55図１～10）

打越式は貝殻の腹縁付近を用いた施文を特徴としているが、本遺跡から出土したものは、腹縁が単純に刺突されたものであり、押し引きや捻りが加えられたものは認められない。口縁部からは貝殻文の施文される部分に向けて、これも貝殻を用いたと思われる条線が縦位に引かれる例（第55図１・３・５・７）がある。胎土には不透明白色の岩片を比較的多く含むもの（第55図１・２・３・５・７）と、肉眼では砂粒がほとんど認められないもの（第55図６・８）がある。いずれも金色の雲母は認められず、わずかに繊維を含む。

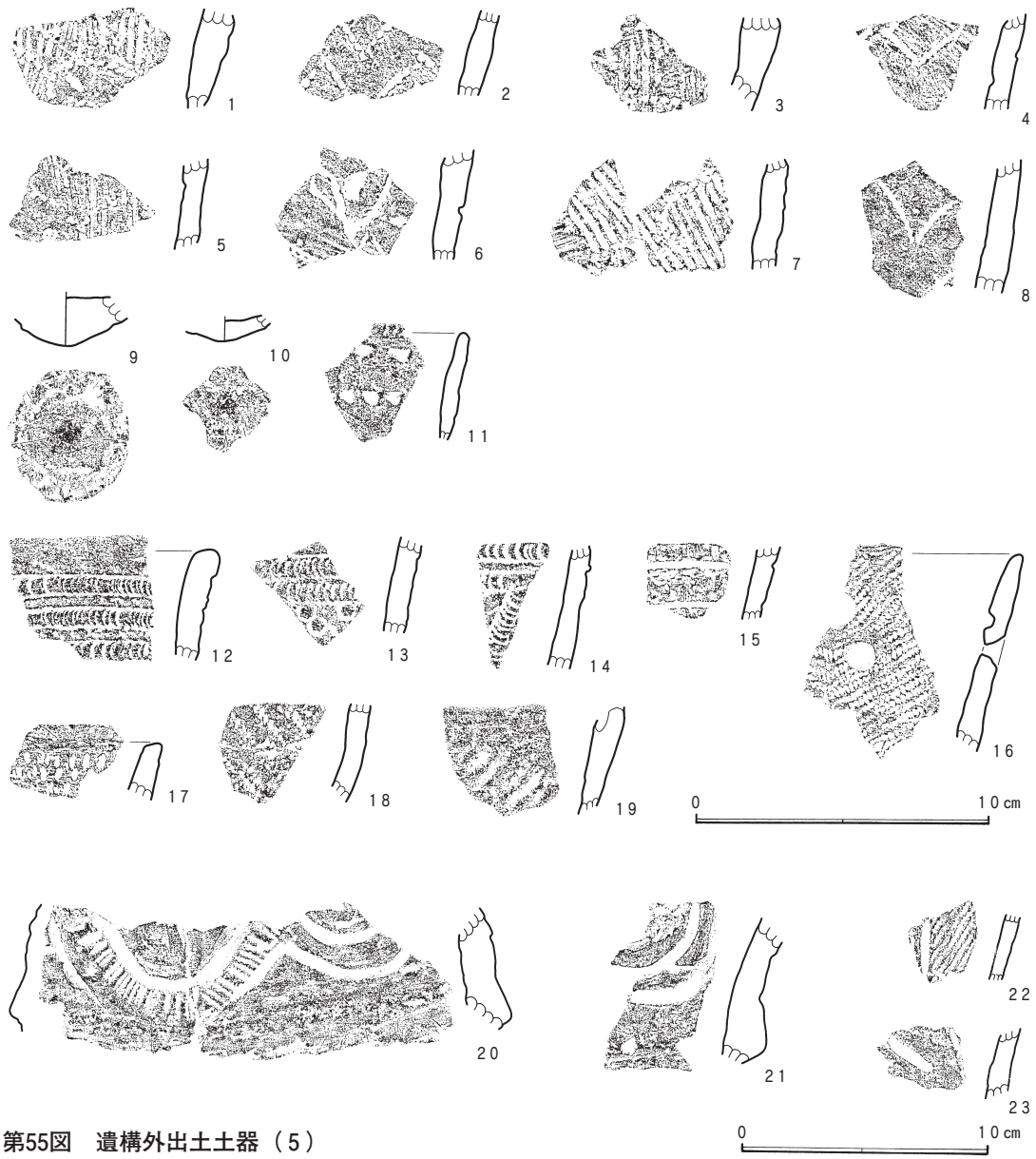
第55図９・10は尖底部である。本遺跡出土土器でこうした形状の尖底となるのは第Ⅰ群土器と第Ⅲ群ａ類土器であるが、胎土の特徴などから本類に含めた。

第Ⅲ群ｂ類（第55図11）

清水ノ上Ⅱ式土器に比定されるものを本類としたが、１点が出土しているのみである。第55図11は先端のやや尖った棒状の工具による刺突が横位に展開している。薄手硬質なつくりであり、胎土には石英と思われる半透明白色の砂粒を含み、繊維は認められない。

第Ⅳ群土器（第55図12～19）

縄文時代前期後葉土器を第Ⅳ群としたが、出土しているのは諸磯ｂ式土器ないしその並行土器のみである。第55図12･13は同一個体と思われ、胎土に半透明白色の砂粒と金色の雲母を多量に含む。口縁部に連続爪形文を横位に数条配置し、以下には円形の刺突文が加わる。さらに胴部には縄文が



第55図　遺構外出土土器（5）

施されていると思われる。第55図14は第55図12・13とよく似た胎土で、同様の爪形文が施されている。第55図15は縄文地に横位の単沈線が加えられている。肉眼では金色の雲母は確認できない。

第55図16～19は諸磯ｂ式に伴う縄文施文の土器である。第55図16はLRの縄文が横位施文されている。半透明白色の砂粒を含むが金色の雲母は認められない。第55図17は複節（LRL）と思われる縄文が横位施文されている。半透明白色の砂粒が含まれるが、あまり多くはない。第55図18は第55図12・13と同様の胎土である。条間が開いており、附加条の可能性もある。第55図19はLRの縄文が横位施文されている。やはり胎土には半透明白色の砂粒が多く含まれている。

第Ⅴ群土器（第55図20・21）

縄文時代中期前葉土器を第Ⅴ群としたが、出土しているのは井戸尻Ⅲ式のみである。第55図20・21は同一個体と考えられ、ともに底部付近の屈曲部分である。器表に隆帯を加えたうえで、刻みや彫刻的な手法によって、高低差のある文様配置がなされている。

第Ⅵ群土器（第55図22・23）

縄文時代中期末葉土器を第Ⅵ群とした。第55図22はやや薄手のつくりで、金色の雲母と半透明白色の砂粒を大量に含んでいる。縦位区画内にRL縄文が縦位施文され、沈線外は磨り消されている。第55図23にも金色の雲母と半透明白色の砂粒が含まれ、器面は平滑に整えられている。

（4）遺構外出土石器

尖頭器（第56図1～3）

3点が出土し、すべて図示した。3点ともにガラス質黒色安山岩を石材とする柳葉形の尖頭器である。3は先端部以下を欠損しているため、全体の形状を把握することはできないが、他2点と同様に柳葉形を呈すると考えられる。1は幅広の剥離によって整形されているが、背面右側縁では細かくやや急傾斜な剥離が行われている。また、上半部は薄く、中央から基部付近はやや厚くなっている。2・3は1に比べて細身で、薄く整形される。

有茎尖頭器（第56図4・5）

2点が出土し、すべて図示した。4はF.ホルンフェルスを石材とし、細身で棒状の器形をとる。風化によって逆刺部分の形状が目立たなくなってしまったため、茎の作り出しはあまり明瞭ではないが、全体に丁寧な剥離を加え、非常に小型の尖頭器としている。5はガラス質黒色安山岩を石材とし、両面からの丁寧な剥離によって整形される。比較的はっきりとした逆刺を持つため、茎の作り出しは非常に明瞭である。背面では先端から基部へ稜線が貫き、この稜線上を頂点に器体が厚くなっているため、断面はきれいな山形を呈している。先端部を欠損する。

薄型尖頭器（第56図6）

上記の尖頭器・有茎尖頭器と同様、草創期に比定されると考えられるため、ここに記載する。試掘の段階で1点のみ出土したものを図示したが、出土位置は不明である。層状に剥がれる珪質頁岩を石材とし、器体は非常に薄く平らである。表裏とも、大部分に節理面ないし礫面が残り、縁辺に粗い鋸歯状の剥離が施されている。

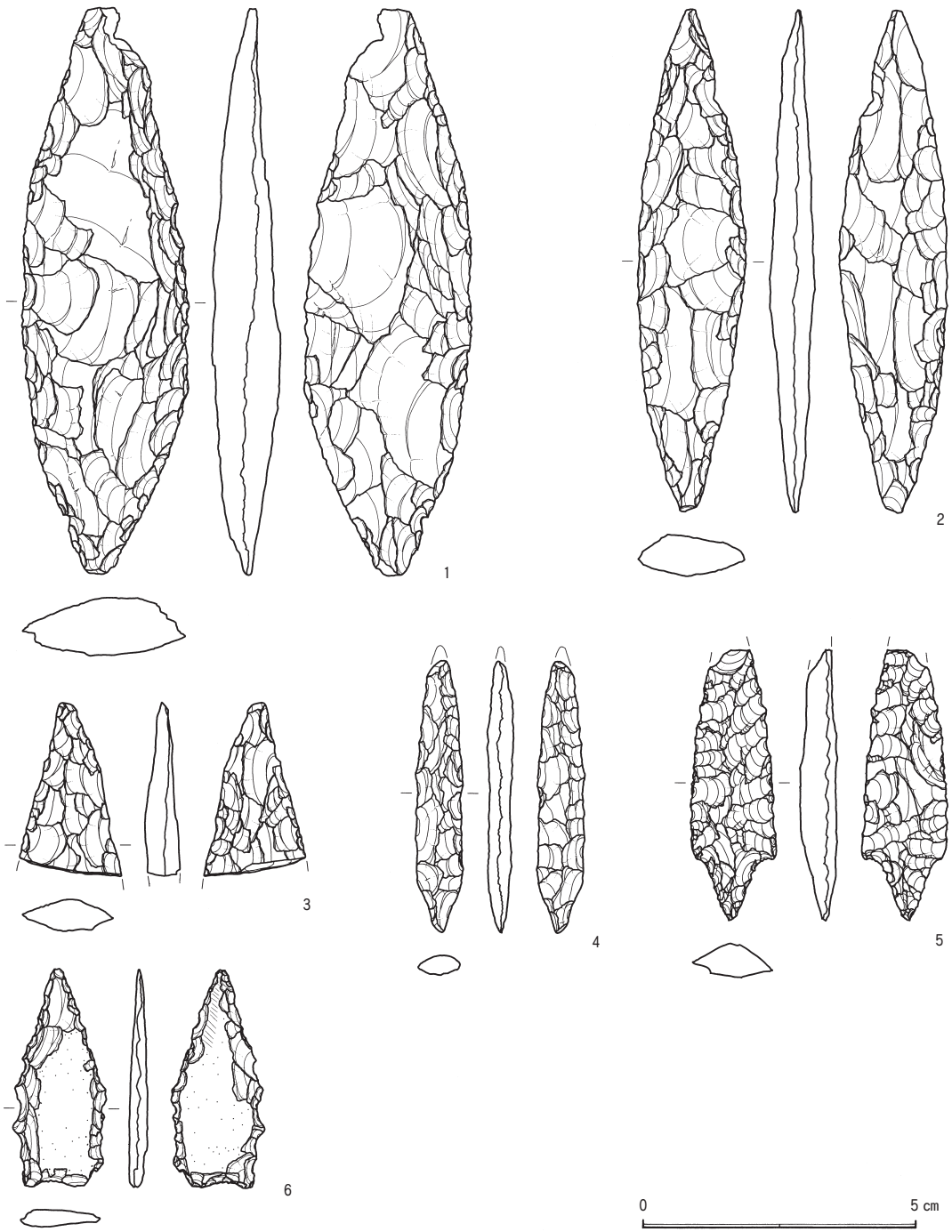
石鏃（第57図7～17）

欠損資料を含め12点が出土し、11点を図示した。基部の形状に着目し、4類に分類を行った。Ⅰ類は凹基石鏃で、基部の抉りが全長の1/3以上に及ぶものをａ類、基部の抉りが全長の1/3未満のものをｂ類と細分した。Ⅱ類は平基石鏃、Ⅲ類は有茎石鏃とし、欠損などにより上記に分類できなかったものをⅣ類とした。

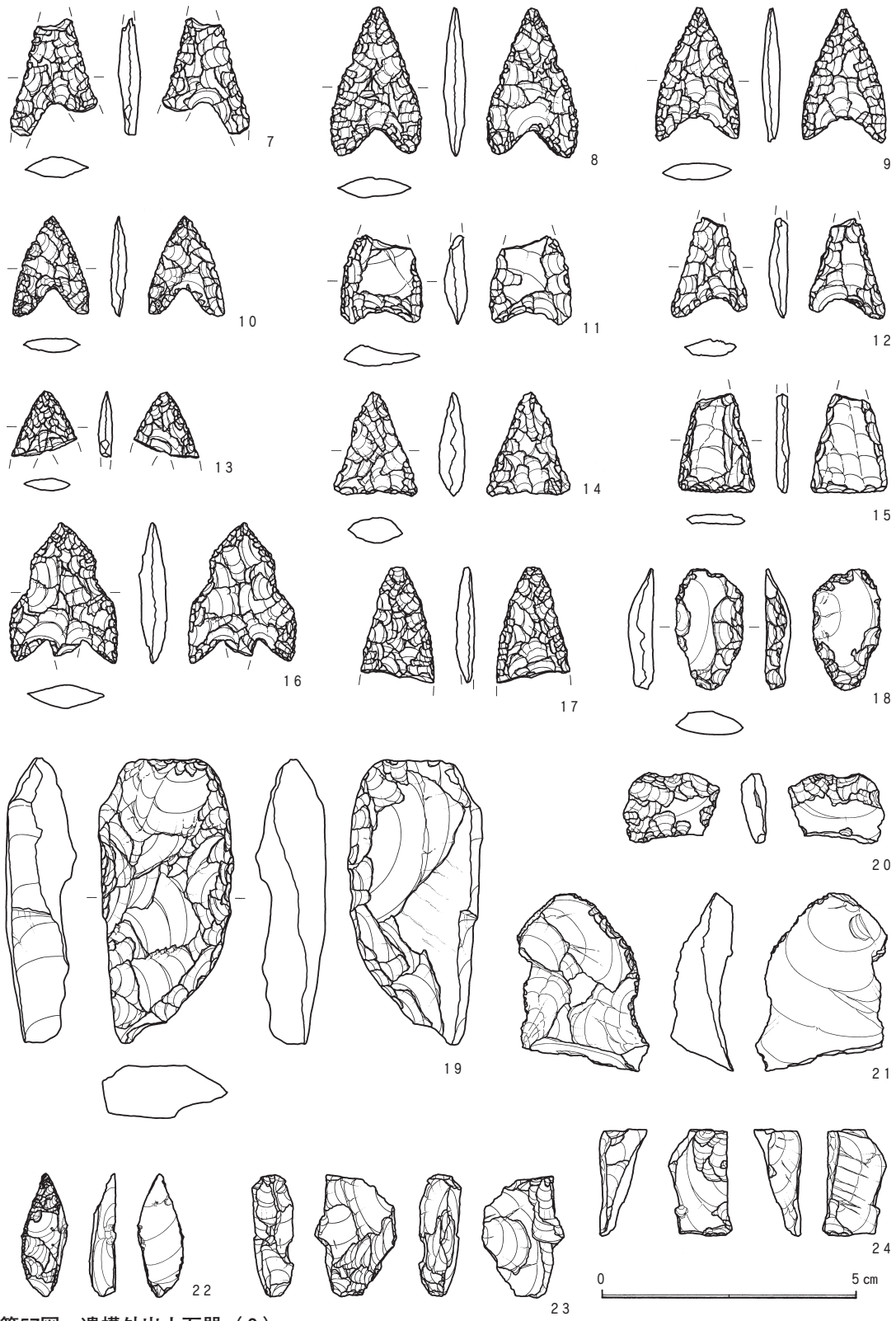
Ⅰ類ａ（第57図7）　基部の抉りが、全長の1/3以上に及ぶもの。

本類に分類されるのは、1点のみである。側縁は直線的で、鋸歯状に調整加工が施されている。先端部および脚部を欠損する。

Ⅰ類ｂ（第57図8～13）　基部の抉りが、全長の1/3未満のもの。



第56図　遺構外出土石器（1）



第57図　遺構外出土石器（2）

本類には6点が含まれ、すべて図示した。使用されている石材は、黒曜石・チャート・ガラス質黒色安山岩がそれぞれ2点ずつとなっている。基部の抉りは、三角形状と弧状になるものの2種類が存在し、側縁は8～11のように曲線を描くものと、12・13のように直線に近いものがある。特に、黒曜石とチャートを石材とするものには細かい調整加工が施されており、側縁は鋸歯状となる。

Ⅱ類（第57図14・15） 基部が平坦なもの。

黒曜石とガラス質黒色安山岩を石材とする2点が出土している。14は他の石鏃に比べて比較的厚みがあるが、逆に15は薄く平らで、剥離調整は粗い。

Ⅲ類（第57図16） 基部が有茎となるもの。

黒曜石を石材とする1点のみが出土している。茎部を欠損するものの、細かな鋸歯状となる調整加工によって丁寧に器形が作り出されている。先端付近が膨らみ、側縁でいったん括れた後に深く抉られた脚部に移行する、いわゆる「飛行機鏃」である。

Ⅳ類（第57図17） 上記に分類できなかったもの。

下部を欠損しているため、基部の形状が判断できず、上記に分類することができなかった。

削器（第57図18・19）

2点が出土し、すべて図示した。18は黒曜石を石材とし、横長剥片の打瘤部分を刃部として用いている。腹背面とも側縁から下端にかけて剥離調整が見られるが、背面右側縁から打瘤の膨らみを減らすように、やや急傾斜な剥離が加えられている。19はF.ホルンフェルスを石材とし、左側縁には階段状の剥離とも節理とも判断がつかない平坦な部分が残される。この平坦面を打面として、器厚を減じるように剥離が加えられている。

ＲＦ（第57図20～22）

3点が出土し、すべて図示した。20は黒曜石を石材とした薄い剥片を素材としている。下部を欠損しているため、全体の形状や長さは不明であるが、欠損部分からも剥離が加えられ、背面のほぼ全周、および腹面上部に剥離調整が認められる。21は粘板岩を石材とし、背面右側縁に細かい調整が行われている。背面中央と上部・下部には節理面が残る。下部は切り落とされているが、上部には素材の打瘤と打瘤裂痕が明瞭に残されている。22は黒曜石を石材とした縦長剥片を素材とし、先の尖った木葉形を呈する。腹面はほぼ全体に1次剥離面が残されており、背面上部から左側縁にかけての細かい調整で器形が整えられているが、右側縁は切断面が残されている。

楔形石器（第57図23・24）

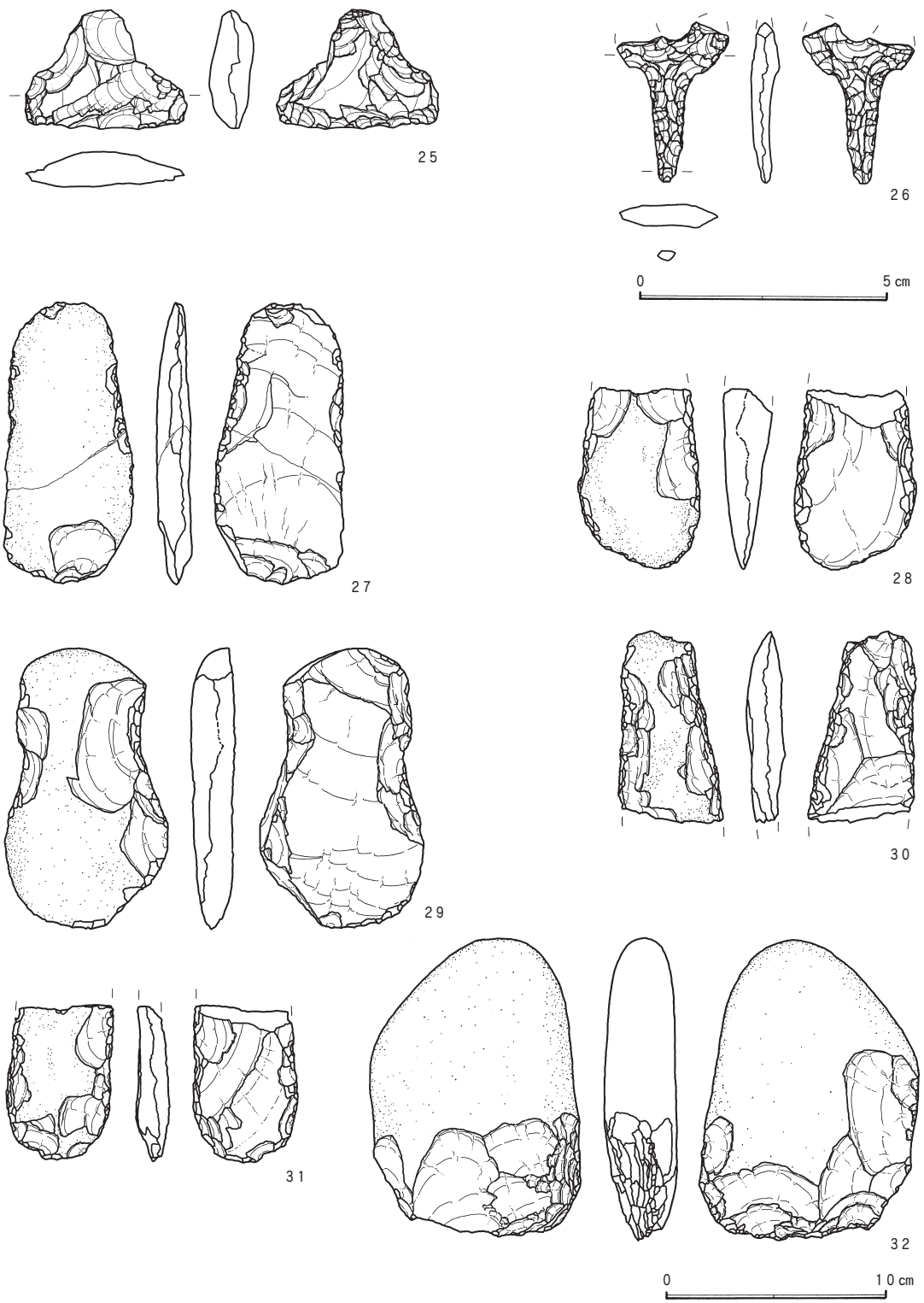
2点が出土し、すべて図示した。2点ともに黒曜石を石材とした横長剥片を素材とし、上方に平坦面を持つ。23は左側面に対向する剥離が認められる。24は下端が潰れた形状を示す。

石匙（第58図25）

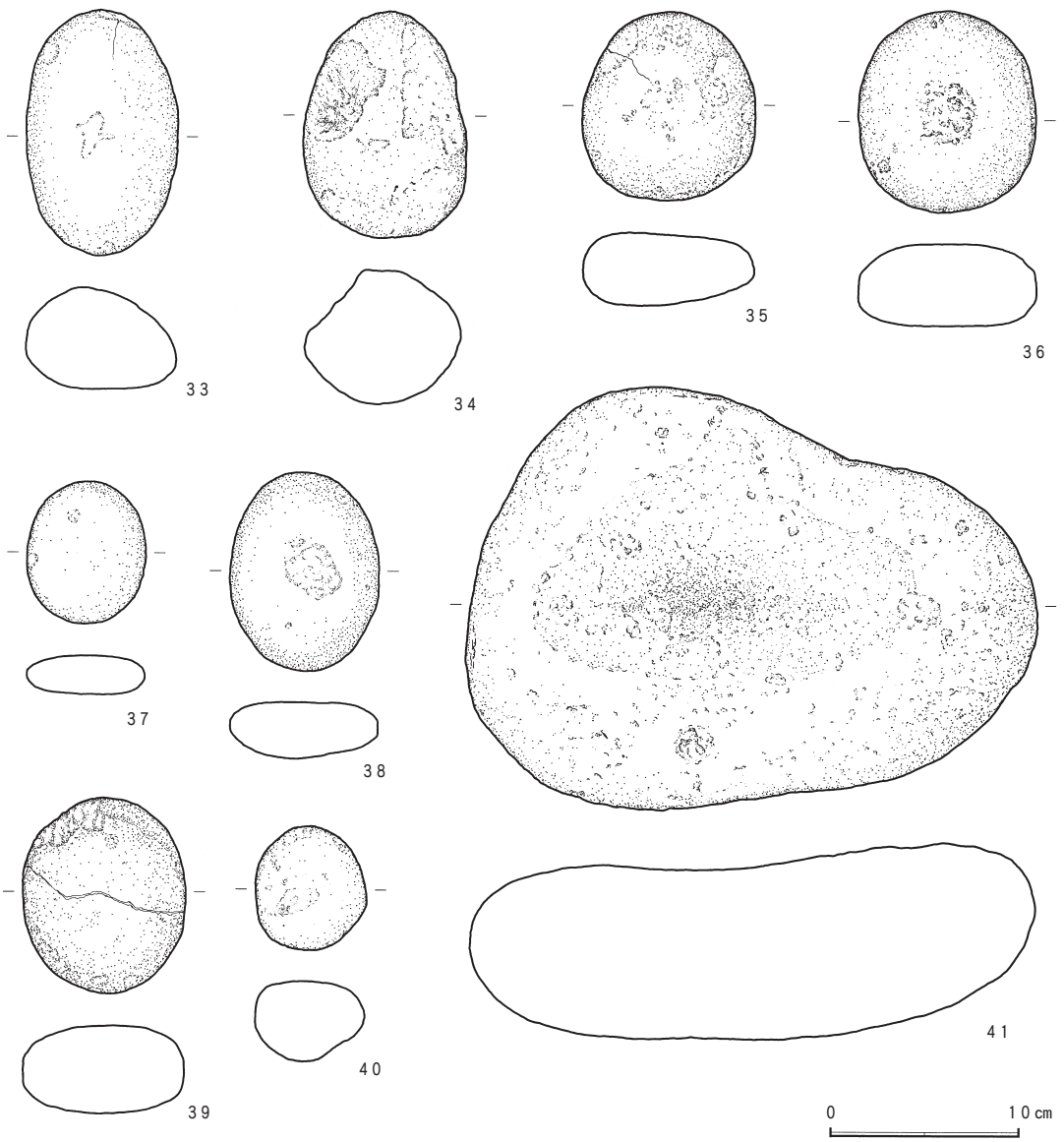
ガラス質黒色安山岩を石材とする、横形で小形のものが1点出土した。背面中央が膨らみ、断面は緩やかな山形となる。つまみ部分は両面から剥離が加えられ、上端には素材の打面となった礫面が認められる。

石錐（第58図26）

凝灰岩を石材とする1点が出土している。つまみ状の頭部を持ち、錐部は細長い。つまみ部分は、



第58図　遺構外出土石器（3）

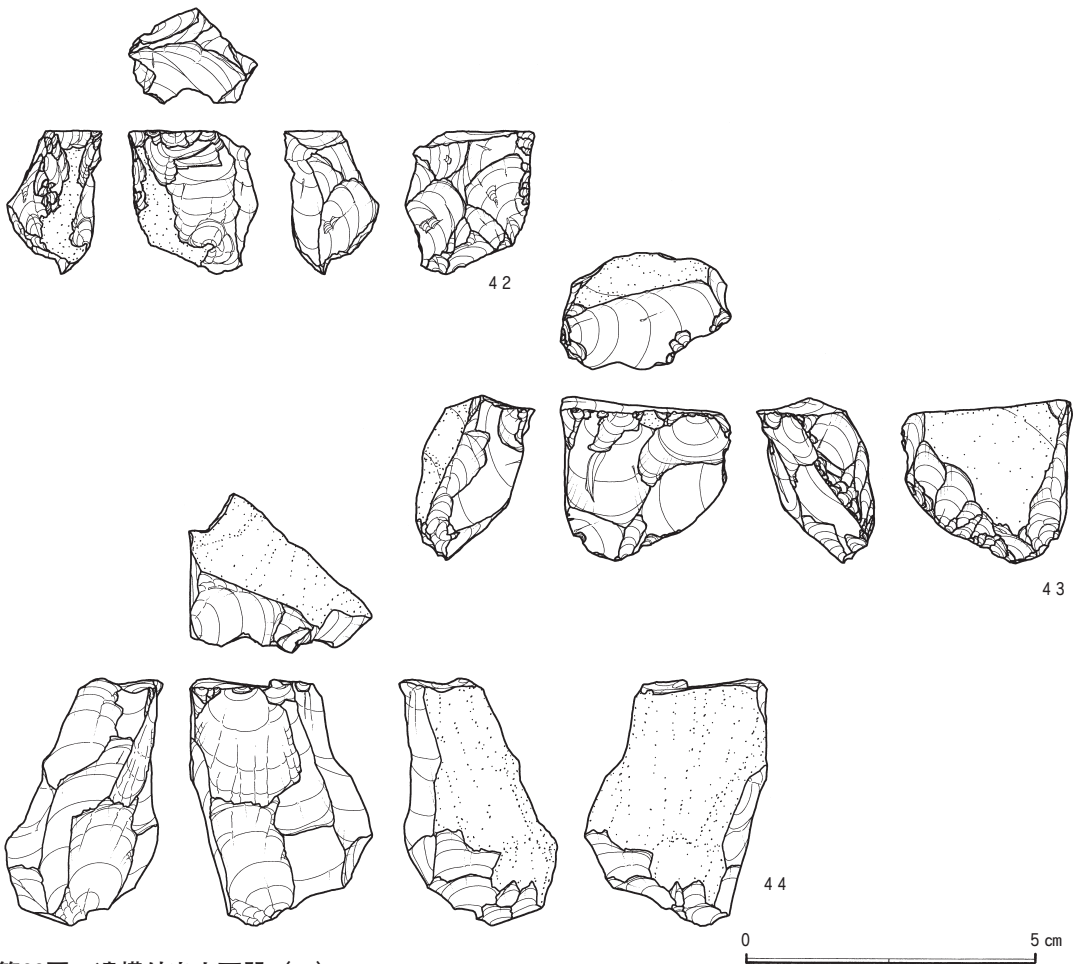


第59図　遺構外出土石器（4）

上部を欠損するものの、二股に分かれることから、石錐全体がY字状を呈すると考えられる。両面の全体に及ぶ丁寧な調整加工により、器形が整えられている。

打製石斧（第58図27～31）

破損品も含め8点が出土し、うち5点を図示している。すべて砂岩を石材としており、平面形状は撥形（27・28・30・31）と分銅形（29）を呈するものに分かれる。28と31は基部、30は刃部を欠損しているが、現在の形状を見ると、基部に比べて刃部の幅が広くなると想定できることから、撥形を呈すると考えられる。27～29は円礫から得た剥片を素材とし、背面に礫面、腹面に1次剥離面を多く残す。27は腹面の両側縁に浅い加工が施され、刃部の左端を欠損する。背面のほとんどを占



第60図　遺構外出土石器（5）

める礫面は、そのまま基部と刃部になっている。28は刃部が左右非対称で、右側が少し短くなっている。29は側縁に粗い加工を施して器形を整え、腹面右側縁にはやや急傾斜の剥離が加えられる。

打製礫斧（第58図32）

砂岩を石材とする1点が出土している。扁平な円礫をそのまま素材として用い、表裏に広く礫面を残す。刃部の剥離は幅広で比較的深く、背面の右側縁には特に細かく調整加工が施されている。腹面はやや急傾斜な剥離を行い、右端は破損している。

磨石（第59図33～40）

9点が出土し、うち8点を図示した。すべて一般的な、楕円形もしくは円形の平面形状を呈する。石材は安山岩を主体とするが、38は石英閃緑岩を用いている。33・34は、出土した中では大形で厚みがあり、35～38は扁平である。39は敲打時の衝撃により、一部破損している。

石皿（第59図41）

安山岩を石材とする1点が出土した。扁平な円礫をそのまま使用している。

石核（第60図42～第63図53）

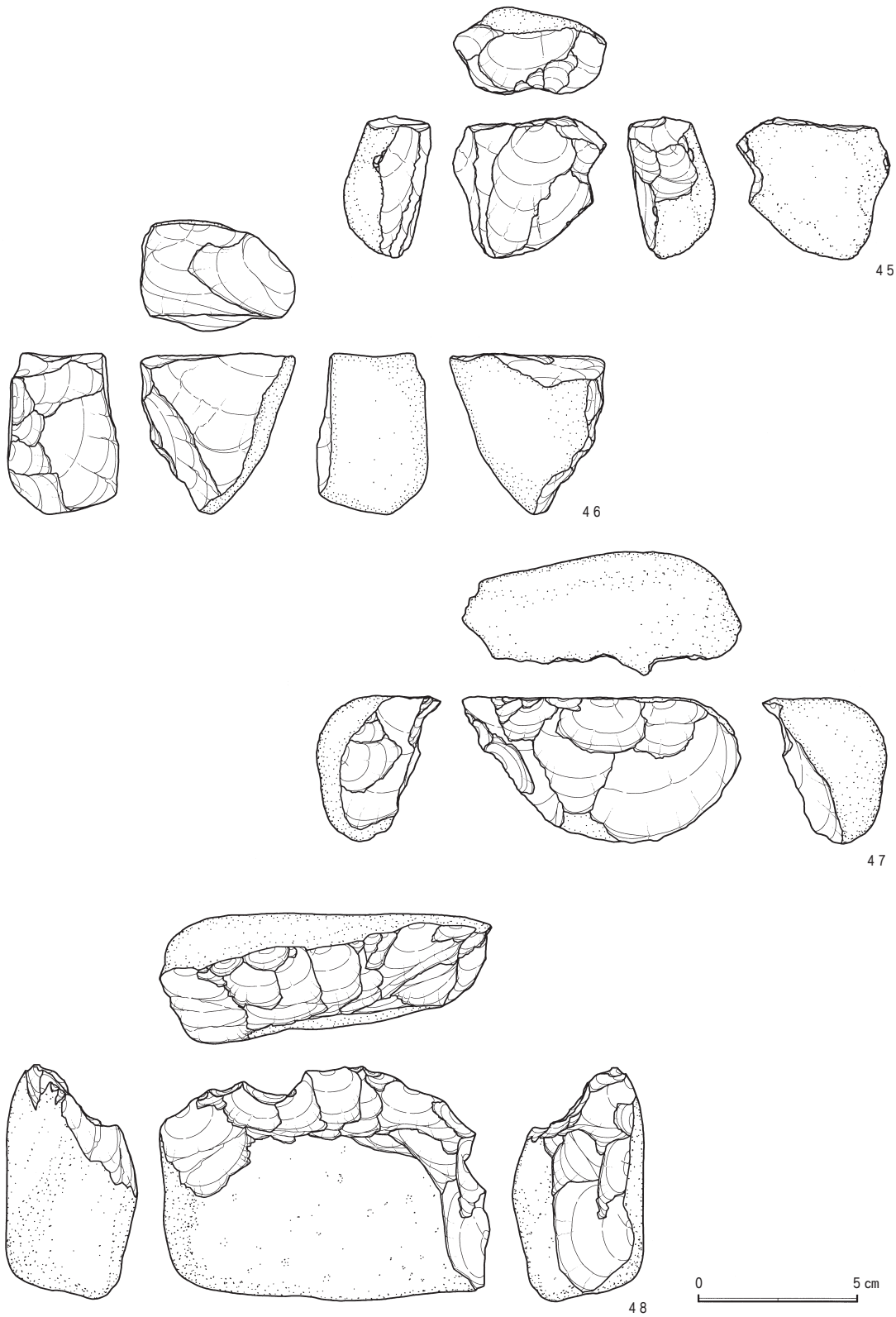
12点が出土し、すべて図示した。石材はF.ホルンフェルスが多く、円礫面を打面とするものが多い。2類に分類を行い、Ⅰ類は剥離によって平坦な打面が設けられているもの、Ⅱ類は礫面を打面とするものとした。

Ⅰ類（第60図42～第61図46）　平坦な打面が設けられているもの。

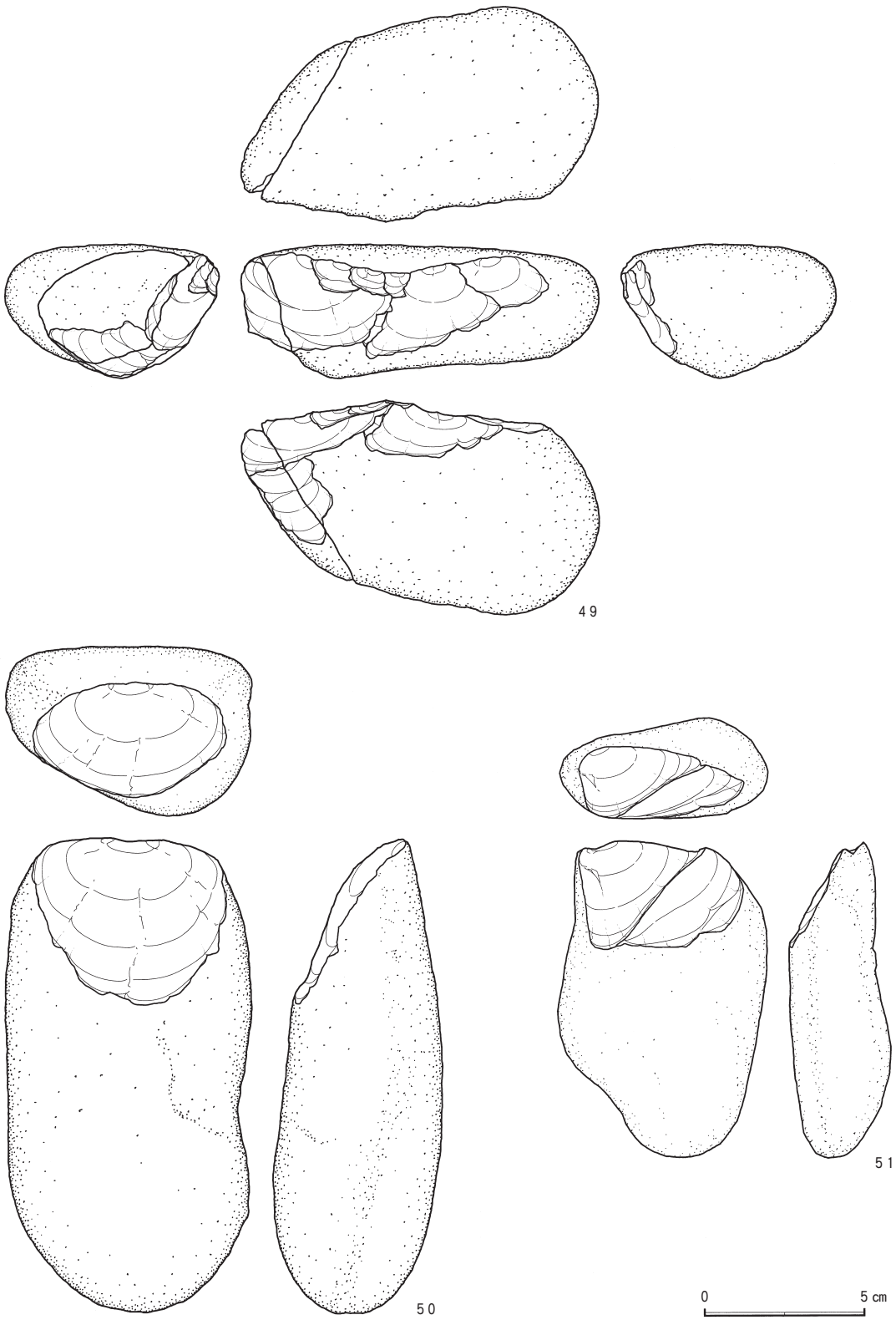
本類には5点が含まれる。比較的小形で、剥離によって整えられた平坦な打面を有している。第60図42は左側面で細かい剥離が行われている。43は作業面を横切るように打面が設けられ、打面には2か所のパンチ痕が認められる。背面の大半は節理面で構成されているが、左側には連続した微細な剥離が認められ、他の器種に転用された可能性もある。44も背面の大半は節理面で、正面に対向する剥離面が認められる。第61図46は平坦な打面を有するものの、そこから有効な素材剥片は得られておらず、むしろ平坦な礫面部分から左側面に複数の剥離が行われている。42と43は黒曜石、44はガラス質黒色安山岩、45と46はF.ホルンフェルスを石材とする。

Ⅱ類（第61図47～第63図53）　礫面を打面とするもの。

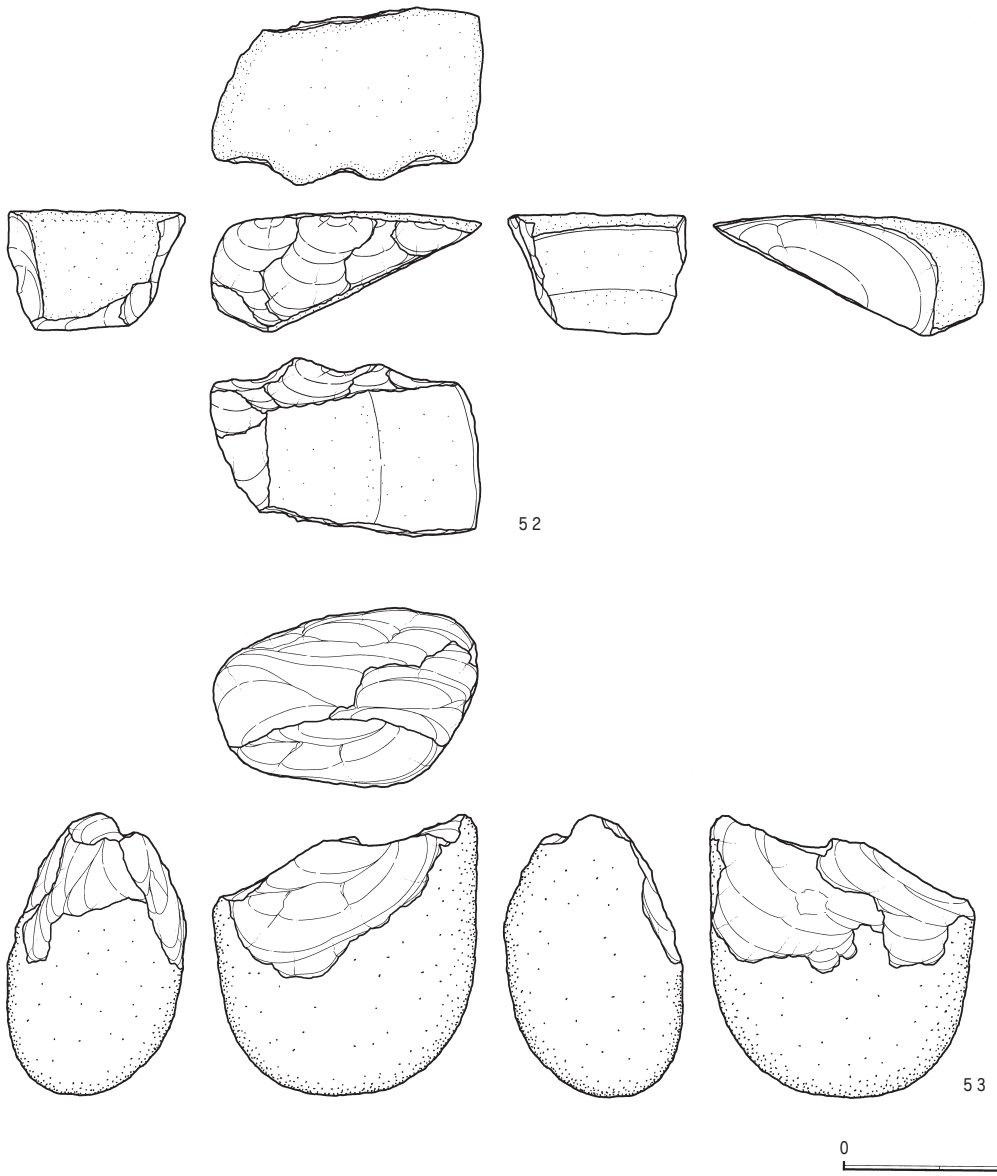
本類には7点が含まれ、すべてF.ホルンフェルスを石材とする。礫の平坦な面から剥離を行うもの（47～49・52）と、礫の端部から剥離を行うもの（50・51・53）に分けられる。第61図48は礫斧に似た形状を呈する。第62図49は扁平な円礫を横長に、50・51は縦長に用いて、幅広の剥片を剥離している。第63図52は下端から右側面にかけて広い節理面を有するが、節理面が剥離を切っている部分はない。53は表裏に大きく剥離が及んでいる。



第61図　遺構外出土石器（6）



第62図　遺構外出土石器（7）



第63図　遺構外出土石器（8）

第5節　旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代に属する遺構と遺物は、尾根Bと尾根Dに分布していた。これらの礫・配石・石器は、出土層位・水平分布・垂直分布を検討し、休場層、第Ⅱ黒色帯、第Ⅲスコリア帯黒色帯1を生活面とする文化層として認識した。

（1）休場層の遺構と遺物の分布状況（第64・66図）

休場層の礫群・配石・石器は、西久保川に面した尾根Dと西川に隣接する尾根Bに分布しており、礫群3基30点、配石8基8点、単独礫63点からなる総計101点の礫と6か所のブロックが検出された。石器と礫は尾根Dでブロックや礫群を形成していたが、尾根Bでは拡散的な分布を示していた。

①遺構

a．礫群

礫群は尾根Dに位置し、西側の谷Cを臨む緩斜面に分布する。これらの礫群はブロックに重複しており、30点の構成礫が拡散的に分布していた。3基の総重量は9,961g、1個の平均重量は332gである。礫の状態は、完形礫が10点（33%）であるのに比べ、破損礫が20点（67%）と多い。

第1号礫群（第65図）

尾根Dの27－1グリッドに位置する。構成礫は11点で、長軸約2.3m、短軸約1.9mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高161.25～161.47mにかけて約22cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高161.35m付近に礫の底面を置いている。総重量は4,975g、平均重量は452.3gである。構成礫は、完形赤変礫3点、完形非赤変礫3点、割面非赤変破損礫4点、礫面非赤変破損礫1点である。礫群内の接合関係は1例認められた。

第2号礫群（第65図）

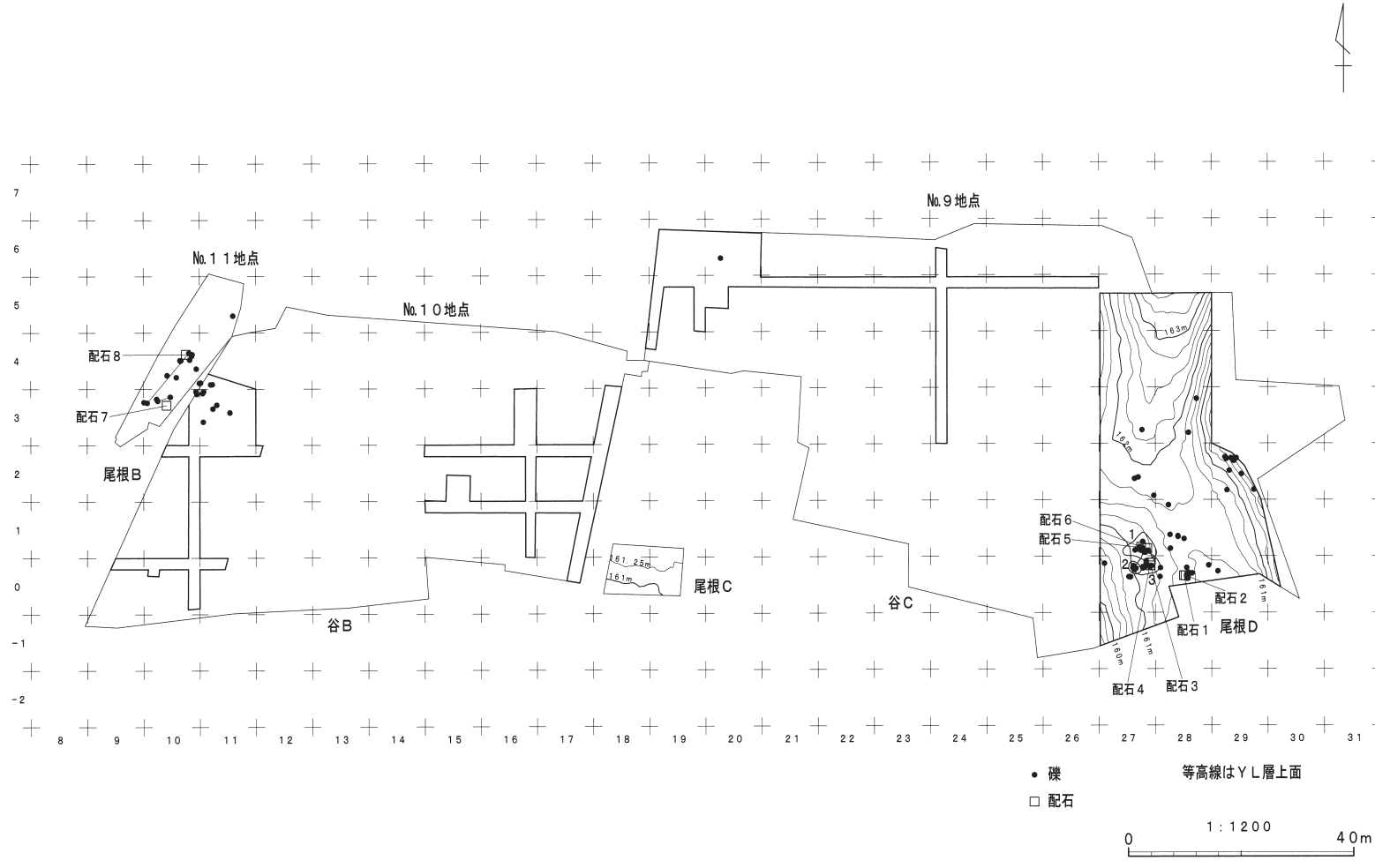
尾根Dの27－0グリッドに位置する。構成礫は6点で、長軸約0.6m、短軸約0.4mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高161.26～161.28mにかけて約2cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高161.27m付近に礫の底面を置いている。総重量は2,053g、平均重量は342.2gである。構成礫は、完形赤変礫2点、割面赤変破損礫1点、割面非赤変破損礫3点である。第3号礫群との接合関係が1例認められた。

第3号礫群（第65図）

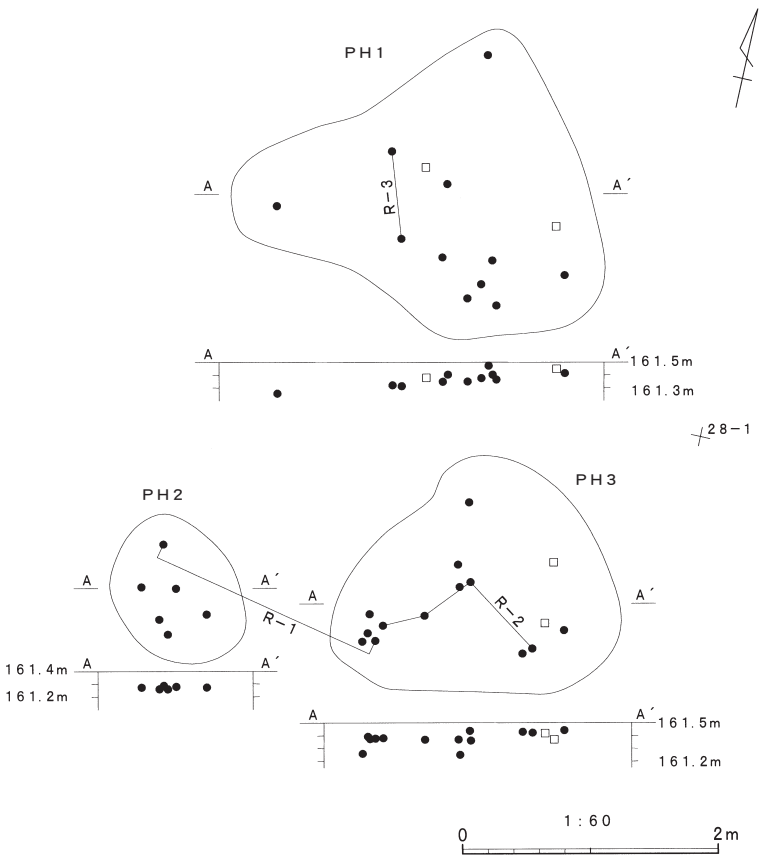
尾根Dの27－0グリッドに位置する。構成礫は13点で、長軸約1.6m、短軸約1.2mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高161.24～161.44mにかけて約20cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高161.37m付近に礫の底面を置いている。総重量は2,932g、平均重量は225.5gである。構成礫は、完形赤変礫1点、完形非赤変礫1点、割面赤変破損礫5点、割面非赤変破損礫2点、礫面非赤変破損礫4点である。接合関係は、礫群内で1例と、第2号礫群と接合した1例の計2例が認められた。

b．配石

休場層では8基8個からなる配石が検出された。これらは出土礫の中で900g以上のものを配石として分類したものである（竹内 1994）。配石は尾根Dに第1～6号配石、尾根Bに第7・8号配石が分布する。出土層位は休場層中位が4基、休場層上位が2基、休場層が2基である。



第64図　休場層礫群・配石分布図



第65図　第１～３号礫群実測図

配石８基の総重量は15,777g、１基の平均重量は1,972gである。配石の状態は完形赤変礫３点、完形非赤変礫３点、割面赤変破損礫１点、割面非赤変破損礫１点であり、完形礫が75％を占める。赤変礫は48％、非赤変礫は52％である。石材はすべて安山岩であった。

ｃ．ブロック

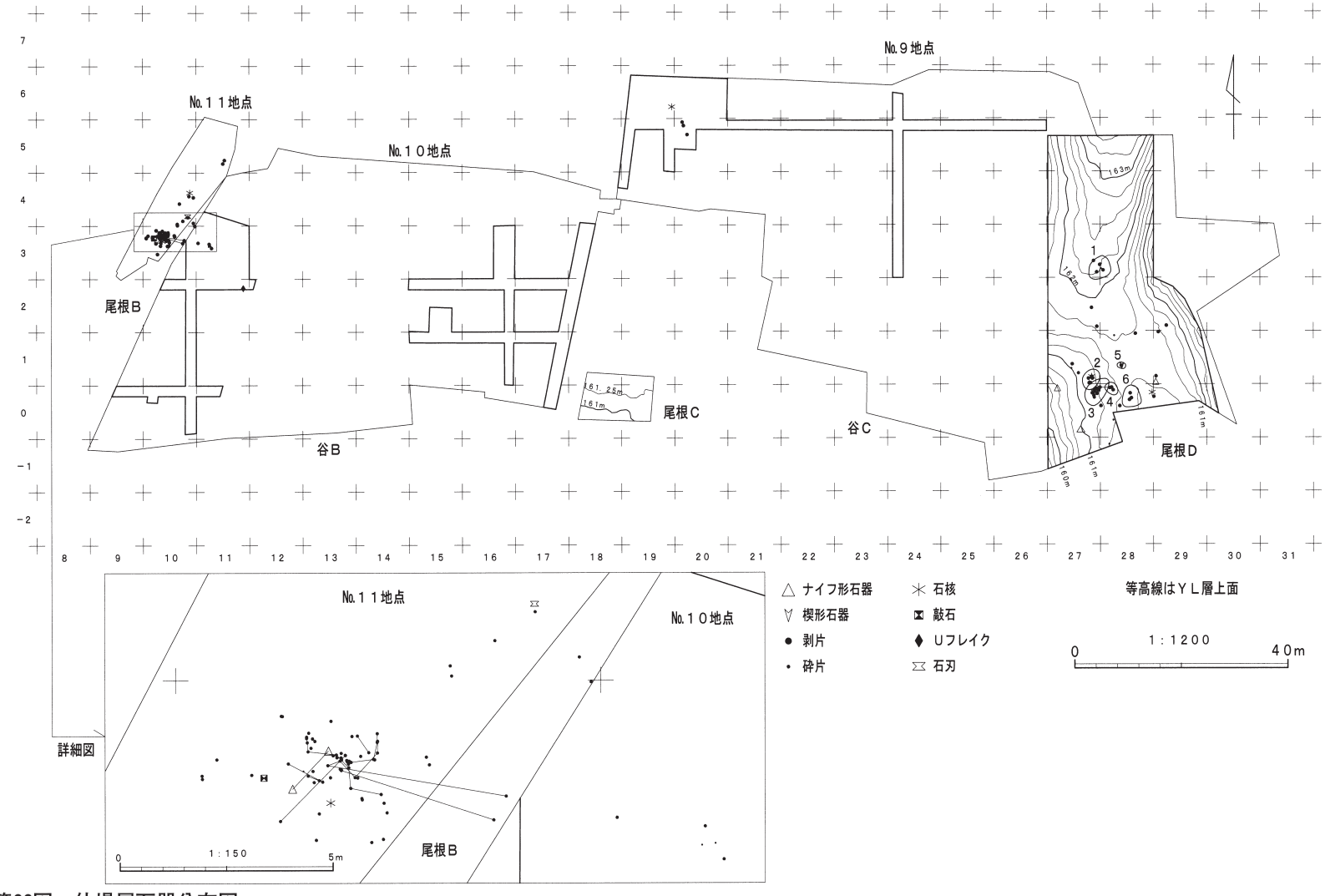
休場層検出の遺物は、６か所のブロックから検出された36点と単独出土の127点、合計163点の石器群によって構成されている。ブロックは尾根Ｄに位置し、西側の谷Ｃを臨む緩斜面に分布する。一方、尾根Ｂでは石器が散在しており、ブロックの認定が困難であった。

第１号ブロック（第67図）

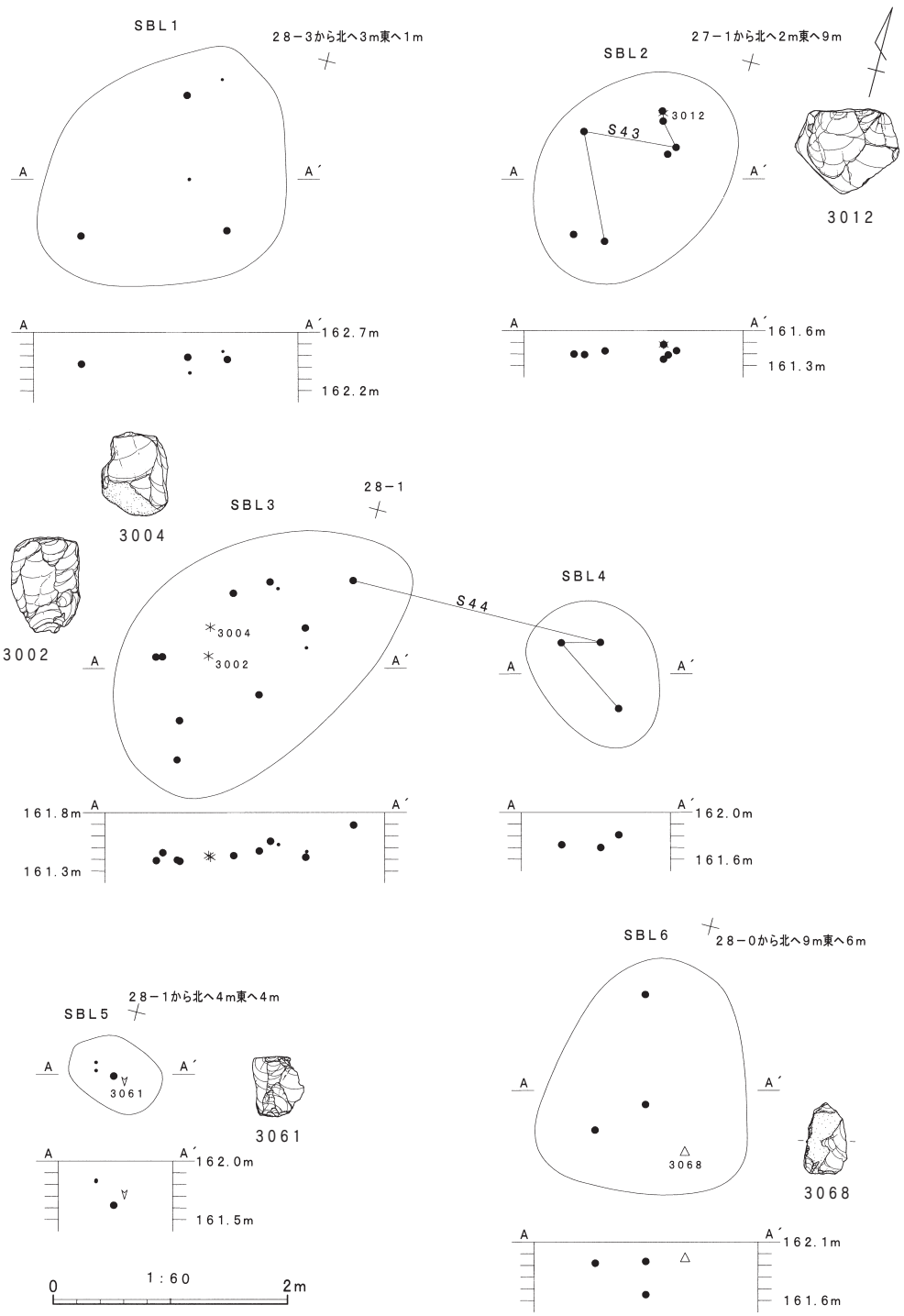
尾根Ｄの27～28－3グリッドで確認したブロックである。南側には18ｍの距離を隔てて第５号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約1.8ｍ、短軸約1.1ｍである。石器類は、標高162.35～162.48ｍにかけて約13㎝のレベル差が生じていた。確認された石器群は、剥片・砕片４点の合計４点である。

第２号ブロック（第67図）

尾根Ｄの27－1グリッドで確認したブロックである。南側には1.4ｍの距離を隔てて第３号ブロッ



第66図　休場層石器分布図



第67図　第１～６号ブロック実測図

クが検出されている。ブロックの規模は、長軸約1.3m、短軸約0.7mである。石器類は、標高161.35～161.48mにかけて約13cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、石核１点、剥片・砕片７点の合計８点である。

第３号ブロック（第67図）

尾根Ｄの27－0グリッドで確認したブロックである。東側には1.5mの距離を隔てて第４号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約2.2m、短軸約0.9mである。石器類は、標高161.38～161.69mにかけて約31cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、石核２点、剥片・砕片11点の合計13点である。

第４号ブロック（第67図）

尾根Ｄの28－0グリッドで確認したブロックである。北東側には4.5mの距離を隔てて第５号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約0.7m、短軸約0.3m。石器類は、標高161.70～161.80mにかけて約10cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は剥片・砕片３点である。

第５号ブロック（第67図）

尾根Ｄの28－1グリッドで確認したブロックである。南側には5.2mの距離を隔てて第６号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約0.3m、短軸約0.2mである。石器類は、標高161.62～161.83mにかけて約21cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、楔形石器１点、剥片・砕片３点の合計４点である。

第６号ブロック（第67図）

尾根Ｄの28－0グリッドで確認したブロックである。西側には3.2mの距離を隔てて第４号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約1.2m、短軸約0.8mである。石器類は、標高161.65～161.97mにかけて約32cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、ナイフ形石器１点、剥片・砕片３点の合計４点である。

②遺物

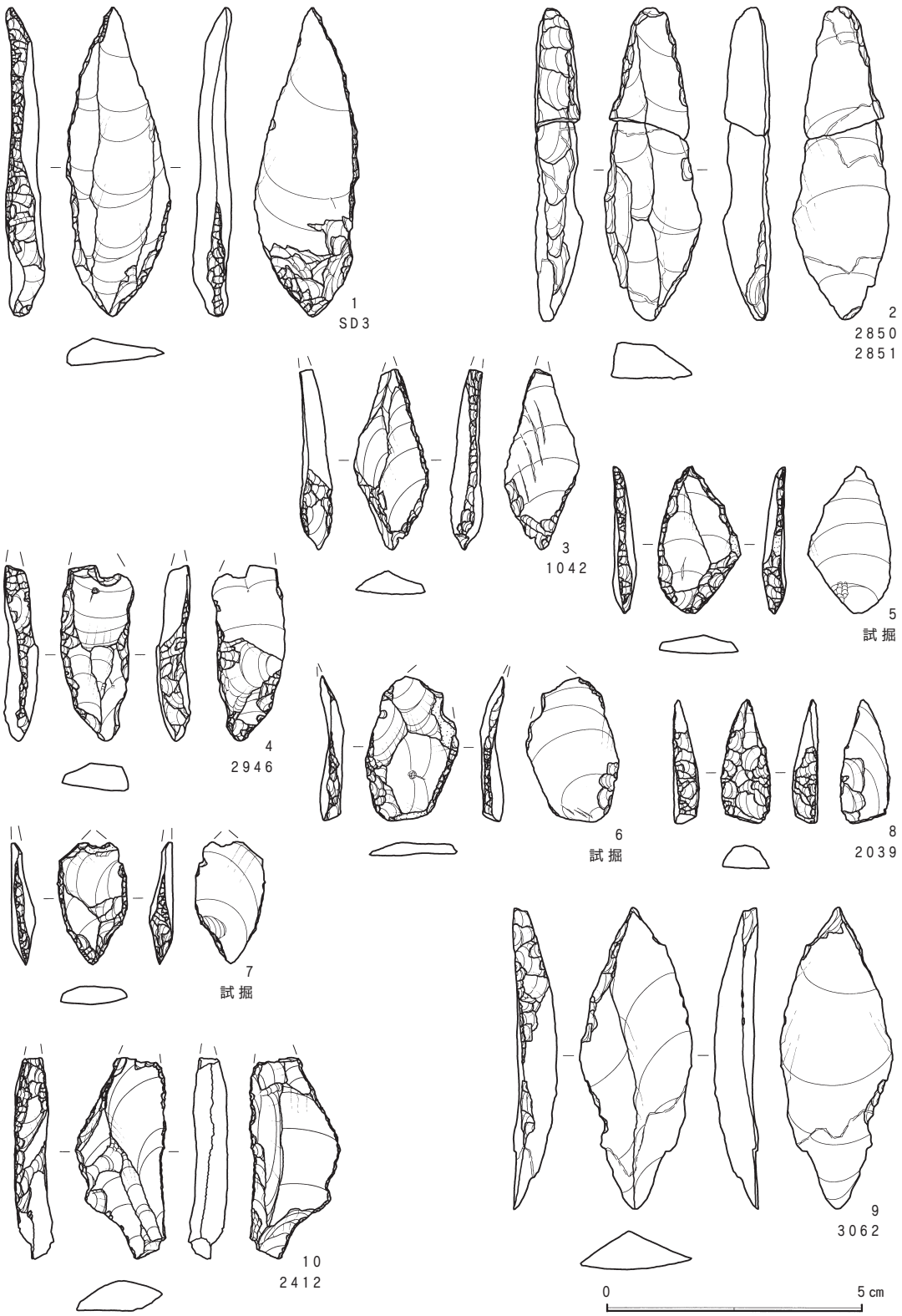
休場層出土の遺物は、尾根Ｄのブロックから検出された36点と尾根Ｂを含む単独出土の127点の合計163点の石器群によって構成されている。石器群の内訳は、ナイフ形石器12点、尖頭器１点、楔形石器１点、敲石１点、石核７点、剥片・砕片141点であった。本文化層を構成する石器群の中で多く確認されたのはナイフ形石器であり、使用痕のある剥片と剥片・砕片を除く他の器種は10点未満しか検出されていない。

ナイフ形石器（第68図１～第69図12）

ナイフ形石器は二側縁加工のものをⅠ類、一側縁加工のものをⅡ類に大別した。

Ⅰ類ａ（第68図１・２）　二側縁加工のもののなかで、最大長が５cm以上（欠損品は復元値）の比較的大形のもの。

第68図２は調査前に先端部を欠損している。１は6.0cm、２は6.1cm以上の大きさを示しており、ナイフ形石器のなかでも大形である。これらは、刃部を除く両側縁にブランティングによる調整を加え、刃部と接する部分に鋭い先端を作出したものである。ブランティングは主要剥離面側から加えられ、鋭い先端部を形成している。素材を構成している剥離痕は、剥離面、主要剥離面ともに同



第68図　休場層出土石器（1）

じ方向からの剥離痕によって構成されるもの（１）と、180度剥離方向が違う剥離痕が形成されるもの（２）がある。このような素材剥片のあり方から、素材となった石刃の生産技術の中には、180度の打面転移を行う工程と、剥離方向を一定させている工程が存在するものと思われる。

素材剥片の利用方法は、素材打面側にナイフ形石器の先端部が作成されるもの（１）がある。

Ⅰ類ｂ（第68図３・４）　二側縁加工のもののなかで、最大長が３㎝以上５㎝以下のもの。

２点が確認された。第68図３は3.5㎝、４は3.4㎝である。これらは刃部を除く両側縁にブランティングによる調整を加え、刃部と接する部分に先端を作出したものである。ブランティングは主要剥離面側から行われているものが多い。ブランティング加工以外に施されている調整には、基部の主要剥離面に加えられた面的な剥離がある（４）。素材を構成している剥離痕は、剥離面、主要剥離面ともに同じ方向からの剥離痕によって構成されるもの（３）と、180度剥離方向が違う剥離痕が形成されるもの（４）があった。

Ⅰ類ｃ（第68図５～８）　二側縁加工のもののなかで、最大長が３㎝未満のもの。

最も大きいものは第68図５の2.9㎝、最小は７の2.3㎝である。これらは刃部を除く両側縁にブランティングによる調整を加え、刃部と接する部分に先端を作出したものである。ブランティングは主要剥離面側から行われたものが多い。５は剥離面、主要剥離面ともに同じ方向の剥離痕によって素材の剥離面が構成されている。このような剥片素材のあり方から、本類の二側縁加工のナイフ形石器は石刃を素材とし、この石刃は単設打面をもつ石核から剥離された可能性が高いことがわかる。これ以外の６・７には、主要剥離面とは90度剥離方向が違う剥離面が形成されており、この素材剥片には90度の打面転移が行われている。８は横長剥片を素材とし、打面部と端部に主要剥離面側からのブランティングによる調整を加えている。

Ⅱ類（第68図９～第69図11）　一側縁加工のもの。

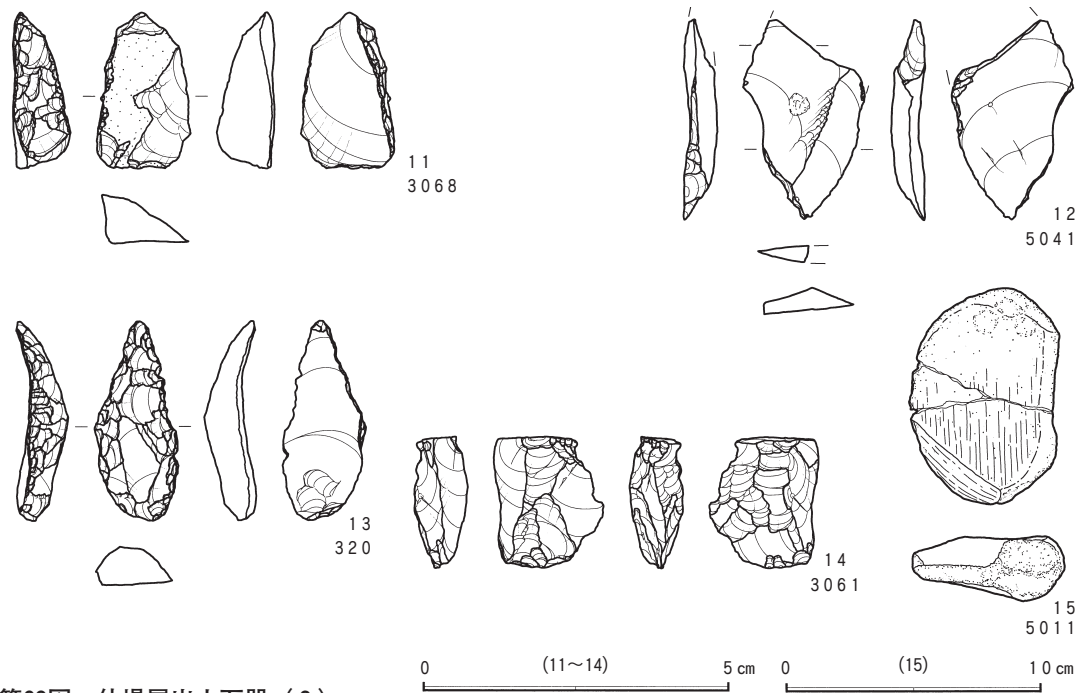
素材剥片を斜めに横断するような調整を加えたものや、一側縁の半分ほどに調整を施したものなど、調整の仕方や頻度によって分類した。

第68図９～第69図11は、素材に対して斜めに調整を施し、先端部を作出している。調整は先端部のみに加えられている。９は素材に石刃を用い、5.9㎝の大きさを示す。素材剥片の剥離面には主要剥離面と180度剥離方向が異なる剥離痕が存在することから、石刃は相対する二方向の工程により作出されている。10は素材に縦長剥片を用い、3.9㎝の大きさを示す。剥離面には90度剥離方向が異なる剥離面が形成されており、この素材剥片には90度の打面転移が行われていたことが推定される。ブランティングは剥離面側から施される。11は素材に縦長剥片を用い、2.5㎝の大きさを示す。素材剥片は剥離面と主要剥離面ともに同じ方向の剥離痕によって構成されたもので、単設打面をもつ石核から剥離された可能性が高いものである。

ナイフ形石器の折損品（第69図12）

第69図12は基部片で、器体の中央から折損している。ブランティング加工は主要剥離面側から行われており、剥片と接合する接合資料である。素材は縦長剥片で主要剥離面と剥離面ともに同一方向の剥離痕が認められることから、単設打面をもつ石核から剥離された可能性が高い。

尖頭器（第69図13）



第69図　休場層出土石器（2）

縦長剥片を素材とした周辺加工の尖頭器で、調整にブランティング加工が用いられるもの。第69図13は縦長剥片を縦位に用い、主要剥離面側から周辺部に加工した尖頭器である。調整はブランティング加工を施す。ナイフ形石器の調整状態と大差なく、左側縁のように急傾斜な状態に調整される部分もある。先端部は鋭く整形され、左右はほぼ対称な形に整形される。基端に打面を残す。素材となる縦長剥片の剥離痕は剥離面と主要剥離面が同一方向となっており、限定された方向が保持された剥離によって作出されたものと推定される。

楔形石器（第69図14）

第69図14は厚手の剥片を素材とし、器体に対して両極で剥片剥離が生じているものである。打面部は線状に潰れ、縁辺に小さな剥離が重複して存在し、階段状剥離となっている。

敲石（第69図15）

第69図15は扁平な円礫を素材とする敲石で、上端部と下端部に打痕が認められる。

石核（第70図16～第71図22）

Ⅰ類は両設打面石核、Ⅱ類は単設打面石核、Ⅲ類はサイコロ状を呈する石核に大別した。

Ⅰ類（第70図16）　両設打面のもの。

剥片の剥離方向が180度異なるもので、石核の打面が180度転移する。第70図16は正左右裏の4面を剥離作業面としたもので、上下方向からの打面から剥離された対向する剥離痕で占められている。

Ⅱ類（第70図17・18）　単設打面のもの。

剥片の剥離方向が一方向に限定される。第70図17は正左右の3面を剥離作業面としたものである。上方向からの打面から剥離された剥離痕で占められている。18も正左右の3面を剥離作業面とした

ものである。やはり、上方向からの打面から剥離された剥離痕で占められている。

Ⅲ類（第71図19～22）　サイコロ状を呈するもの。

剥片剥離作業が二方向以上に観察される。第71図19～22は３～４面の剥離作業面をもち、二方向以上に剥離作業が観察される。

【接合資料】（第72図23～第73図27）

接合資料は５点を確認した。第72図23は打面を共有する剥片の接合である。円礫を素材とする石核から同一方向に剥片剥離作業を行っている。24も打面を共有する剥片の接合である。剥片には円礫面が残る。第73図25はナイフ形石器と剥片の接合である。円礫面を残す石核から打面調整を施し、剥片剥離作業を行っている。26は円礫面が残る剥片が節理面で接合している。27は石核と剥片の接合である。剥片には円礫面が残る。

③まとめ

本文化層は、ナイフ形石器を主体とする文化層で、これにわずかな量の尖頭器、楔形石器、敲石、石核などの各器種が伴うナイフ形石器石器群である。その組成中に尖頭器が含まれることから、ナイフ形石器を主体とする石器群の中でも後出のものと思われる。ナイフ形石器は二側縁加工と一側縁加工の諸形態が認められたものの、量的にやや乏しい傾向にあった。

石材組成は、第一石材がＦ.ホルンフェルス112点（71％）、2,174.3g（87％）であり、出土点数・重量ともに比率が高い。この他、第二石材が珪質頁岩16点（10％）、190.0g（８％）、第三石材がガラス質黒色安山岩９点（６％）、111.4g（４％）、第四石材が黒曜石20点（13％）、26.4g（１％）である。

石器石材は、ナイフ形石器12点の内、黒曜石が７点と多く、ガラス質黒色安山岩２点、Ｆ.ホルンフェルス２点となっている。一方、石核石材はＦ.ホルンフェルス６点、ガラス質黒色安山岩１点とＦ.ホルンフェルスの占める割合が高く、剥片もＦ.ホルンフェルス96点（1,155.0g）、珪質頁岩16点（190.0g）、ガラス質黒色安山岩４点（17.6g）とＦ.ホルンフェルスが多い傾向にある。これらのことから、Ｆ.ホルンフェルスの石核と剥片は遺跡に残される傾向が高い石材といえる。一方、黒曜石は石核と剥片が遺跡内に残らない傾向が高い石材と推定される。

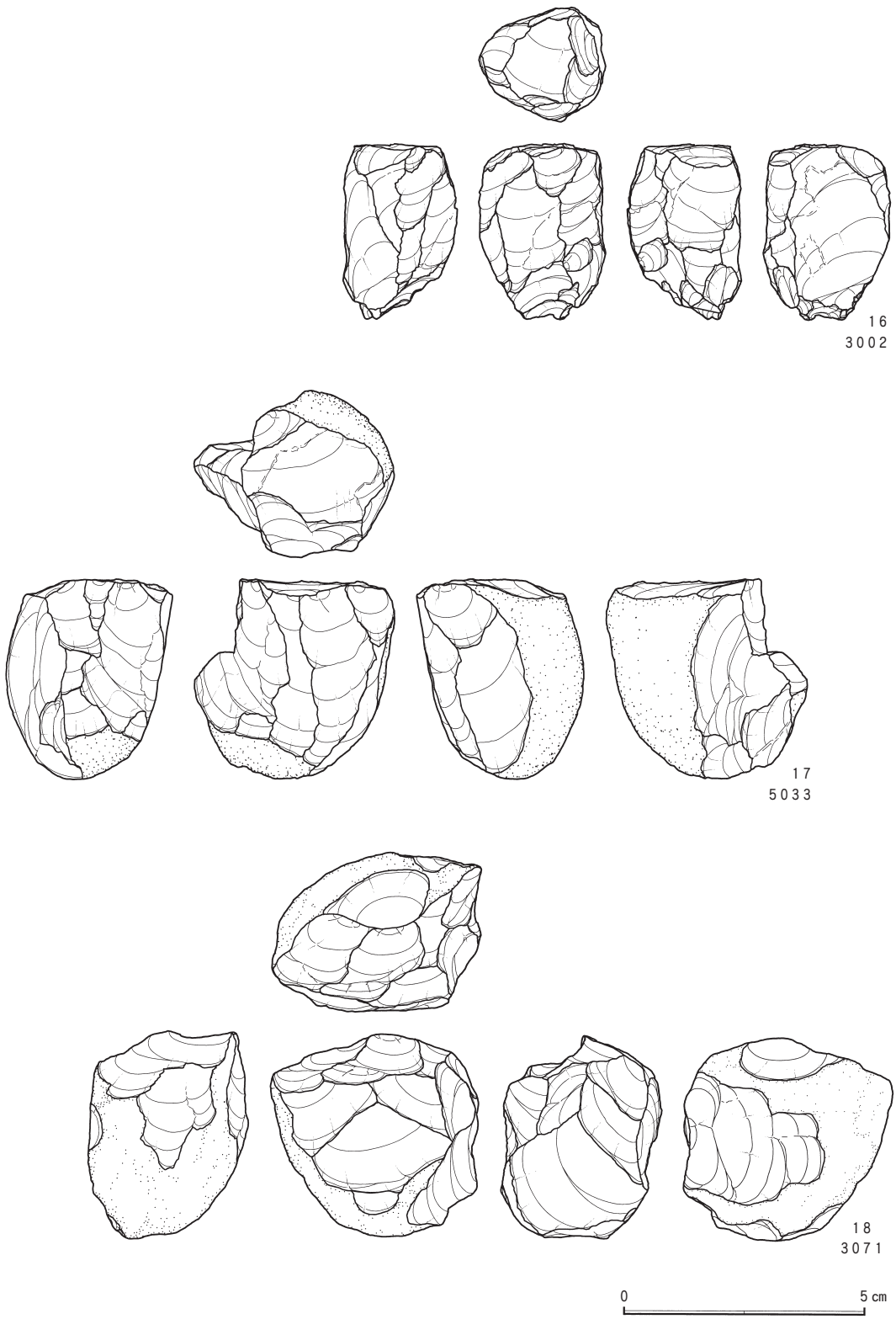
剥片剥離技術は、接合資料の観察から石刃や縦長剥片を目的としていたと思われる。そして、石器類の多くが石刃や縦長剥片を素材としていることから、石刃技法を技術基盤としてこれらの剥片類を生産していると考えられる。石刃・剥片の観察では、剥片剥離方向を一定方向にしたもの、対向する二方向から剥片剥離を行う180度の打面転移技術をもつもの、90度の打面転移を行うもの、礫素材の石核に粗い打面形成と剥片剥離を行うものが認められた。

（２）第Ⅱ黒色帯の遺構と遺物の分布状況（第74・76図）

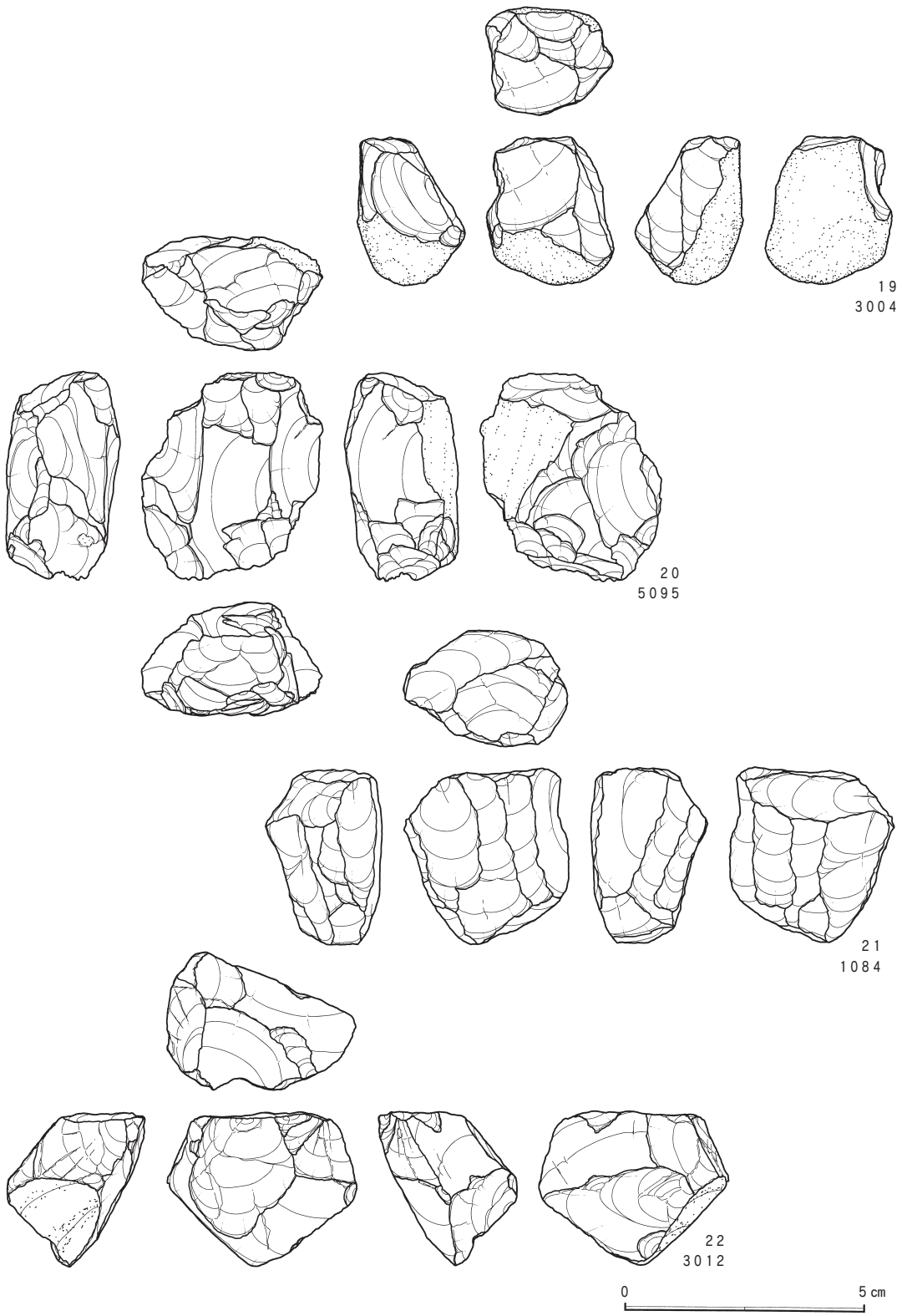
第Ⅱ黒色帯の遺構と遺物は、西久保川に面した尾根Ｄに礫・配石・石器が分布しており、礫群１基４点、配石15基15点、単独礫12点からなる総計31点の礫と３か所のブロックが検出された。礫群と配石は尾根Ｄ南側に散在しており、休場層とは異なる分布を示していた。

①遺構

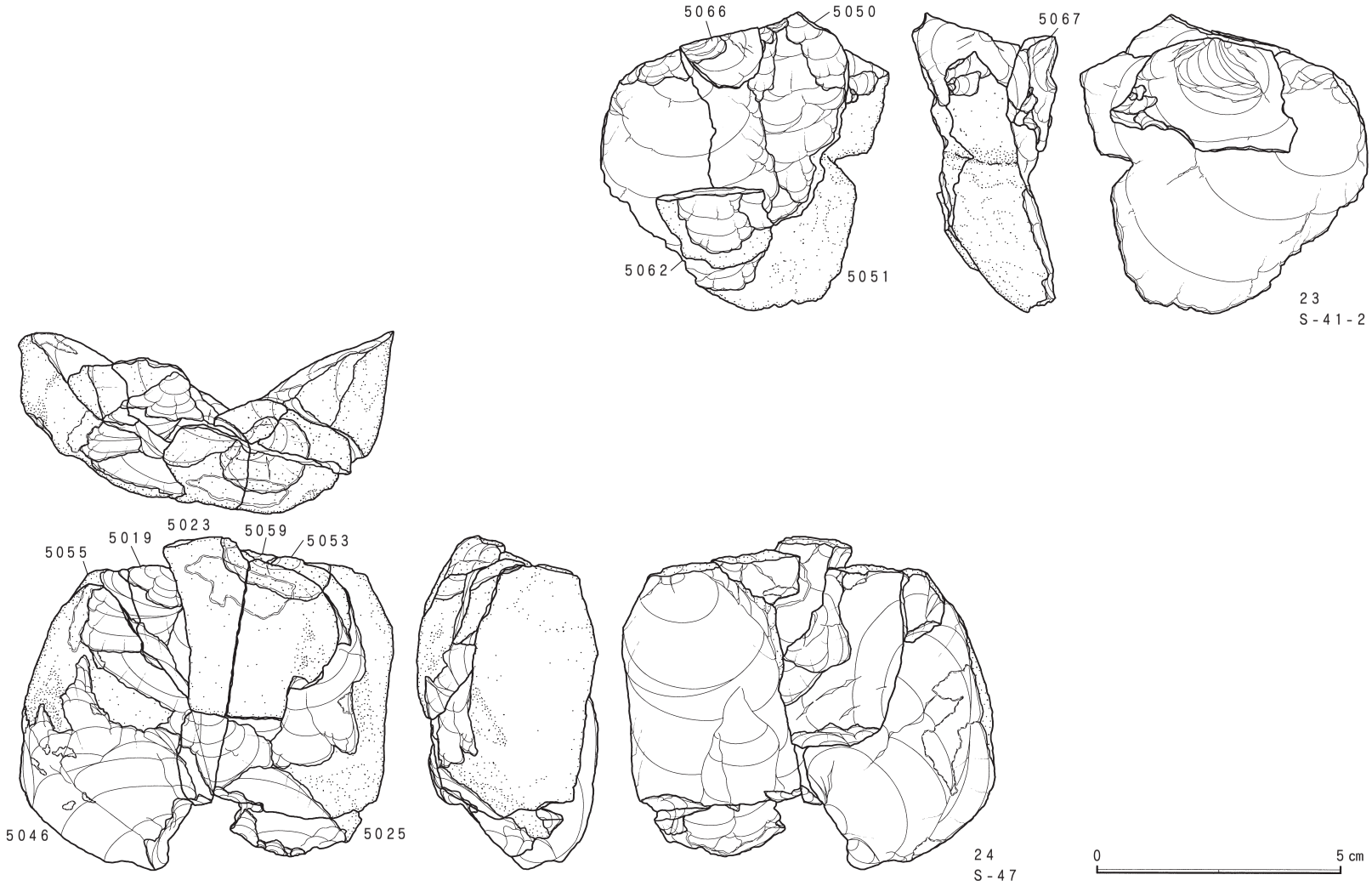
ａ．礫群



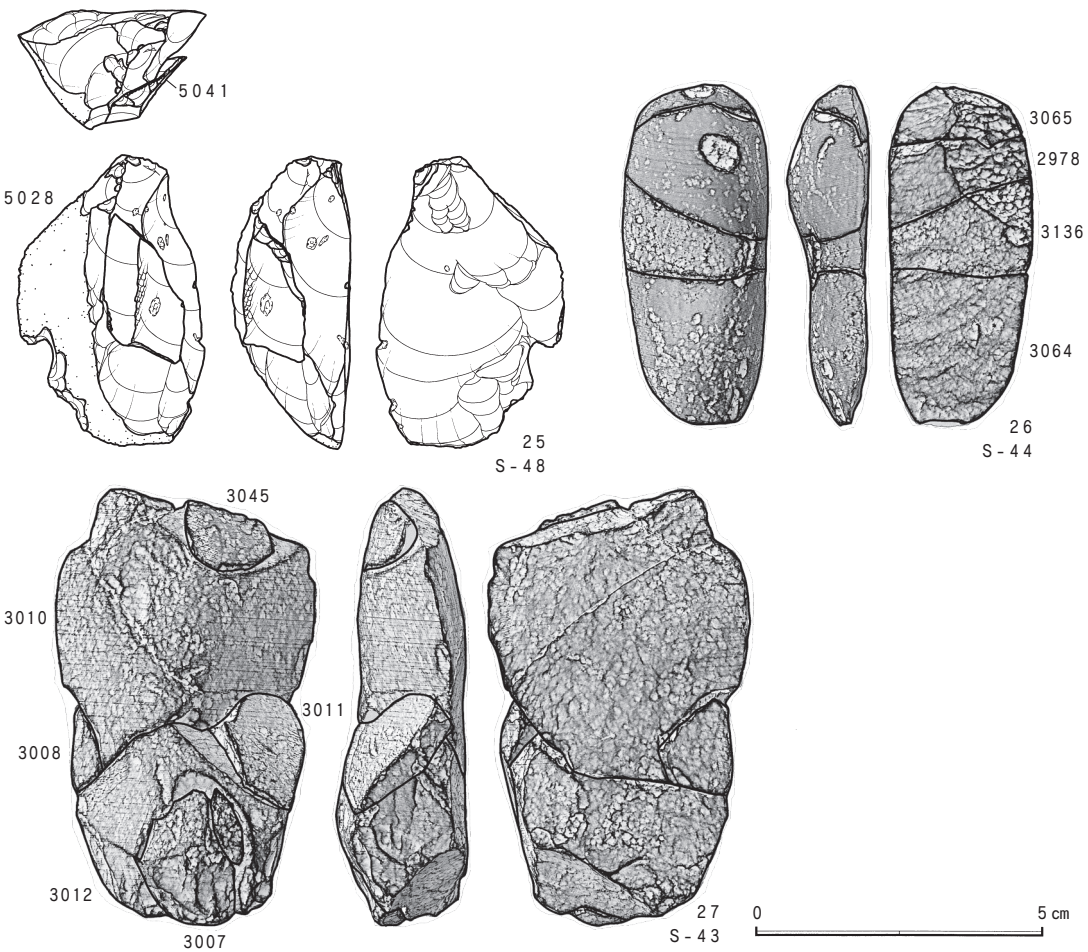
第70図　休場層出土石器（3）



第71図　休場層出土石器（4）



第72図　休場層出土石器（5）



第73図　休場層出土石器（6）

礫群１基４点、単独礫12点からなる総計16点の礫が検出され、礫群は拡散的な分布を示している。

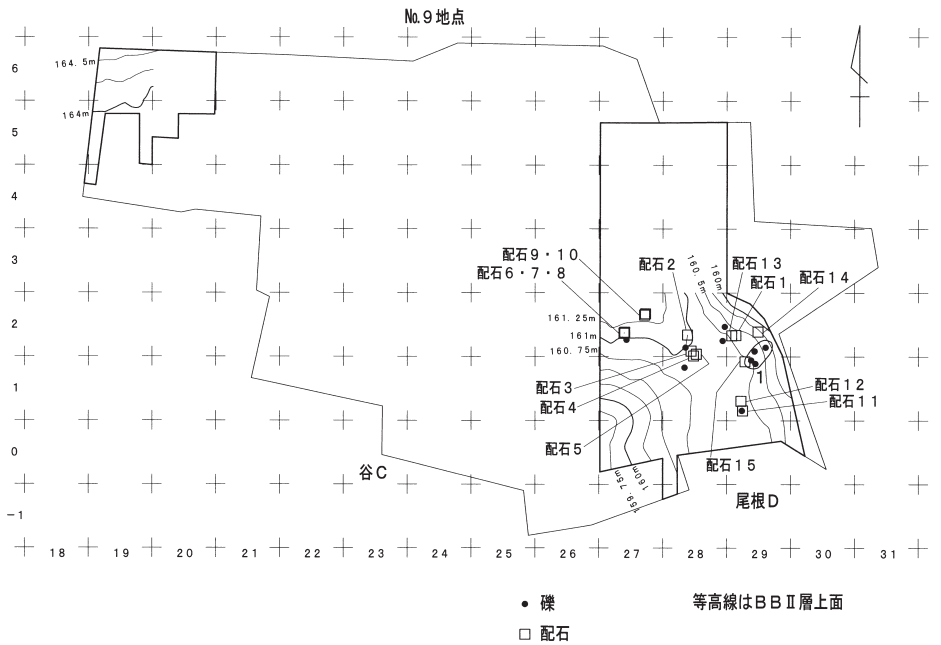
第１号礫群（第75図）

尾根Ｄの29－1～2グリッドに位置する。構成礫は４点で、長軸約3.0m、短軸約1.0mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高161.55～161.74mにかけて約19㎝の分布幅を形成しており、大部分の礫は標高161.63m付近に礫の底面を置いている。総重量は1,126g、平均重量は281.5gである。構成礫は、完形赤変礫１点、完形非赤変礫１点、割面非赤変破損礫１点、礫面非赤変破損礫１点である。接合関係は無かった。

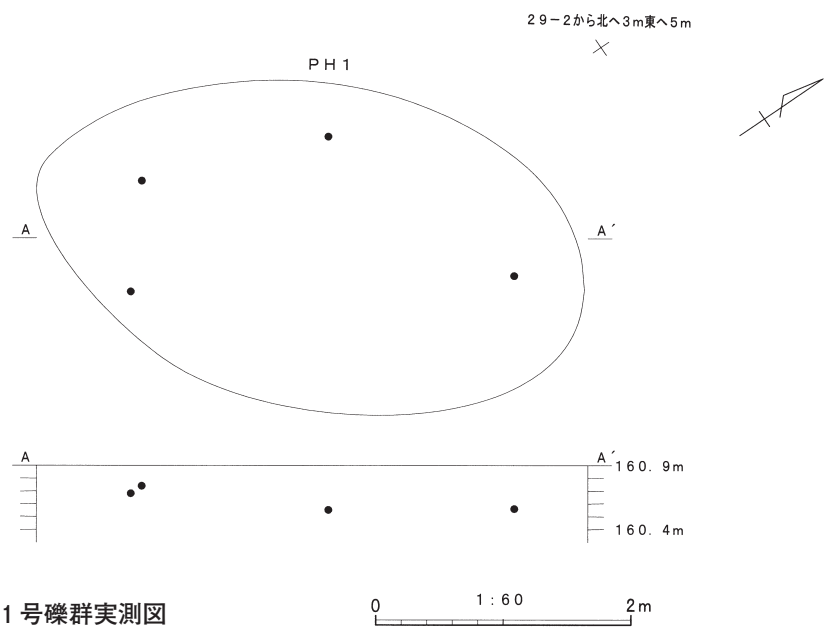
ｂ．配石

第Ⅱ黒色帯では15基15個からなる配石が検出された。配石は尾根Ｄに第１～15号配石が分布する。出土層位は第Ⅱ黒色帯上層が14基と多く、第Ⅰ黒色帯が１基である。

配石15基の総重量は35,384g、１基の平均重量は2,359gである。構成礫は完形赤変礫４点、完形非赤変礫２点、割面非赤変破損礫２点、礫面非赤変破損礫７点であり、破損礫が60％を占める。赤変



第74図　第Ⅱ黒色帯礫群・配石分布図



第75図　第１号礫群実測図

礫は27％、非赤変礫は73％である。石材はすべて安山岩であった。

ｃ．ブロック

第１号ブロック（第77図）

尾根Ｄの27－2グリッドで確認したブロックである。東側には９mの距離を隔てて第２号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約1.2m、短軸約0.3m。石器類は、標高161.11～

161.23mにかけて約12cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、剥片・砕片4点である。

第2号ブロック（第77図）

尾根Dの28－1～2グリッドで確認したブロックである。南東側には3mの距離を隔てて第3号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約2.3m、短軸約1.5mである。石器類は、標高161.09～161.30mにかけて約21cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、使用痕剥片1点、剥片・砕片4点の合計5点である。

第3号ブロック（第77図）

尾根Dの28－1グリッドで確認したブロックである。北西側には3mの距離を隔てて第2号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約1.2m、短軸約0.7m。石器類は、標高160.99～161.17mにかけて約18cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、剥片・砕片6点である。

②遺物

第Ⅱ黒色帯出土の遺物は、3か所のブロックから検出された15点と単独出土の15点の、合計30点の石器群によって構成されている。出土量は少量で、ナイフ形石器1点、掻器1点、石核1点、ＲＦ1点、剥片・砕片26点が出土しているにすぎない。

ナイフ形石器（第78図1）

二側縁加工のナイフ形石器である。第78図1は全長1.85cmで、刃部を除く両側縁にブランティングによる調整を加え、刃部と接する部分に鋭い先端を作出したものである。ブランティングは主要剥離面側から行われる。主要剥離面とは90度剥離方向が違う剥離面が形成されており、この素材剥片には90度の打面転移が行われていることがわかる。このような剥片素材のあり方から、この二側縁加工のナイフ形石器は不定形剥片を素材とし、剥片は90度の打面転移を行う石核から作出された可能性が高い。刃部には使用痕と思われる微細な剥離痕が観察される。

掻器（第78図2）

第78図2は縦長剥片を素材として、打面側に刃部が形成されている。刃部の調整はすべて主要剥離面側から行われる。

ＲＦ（第78図3）

第78図3は厚手の石刃を素材として、左側縁に主要剥離面側から二次加工を施した剥片である。

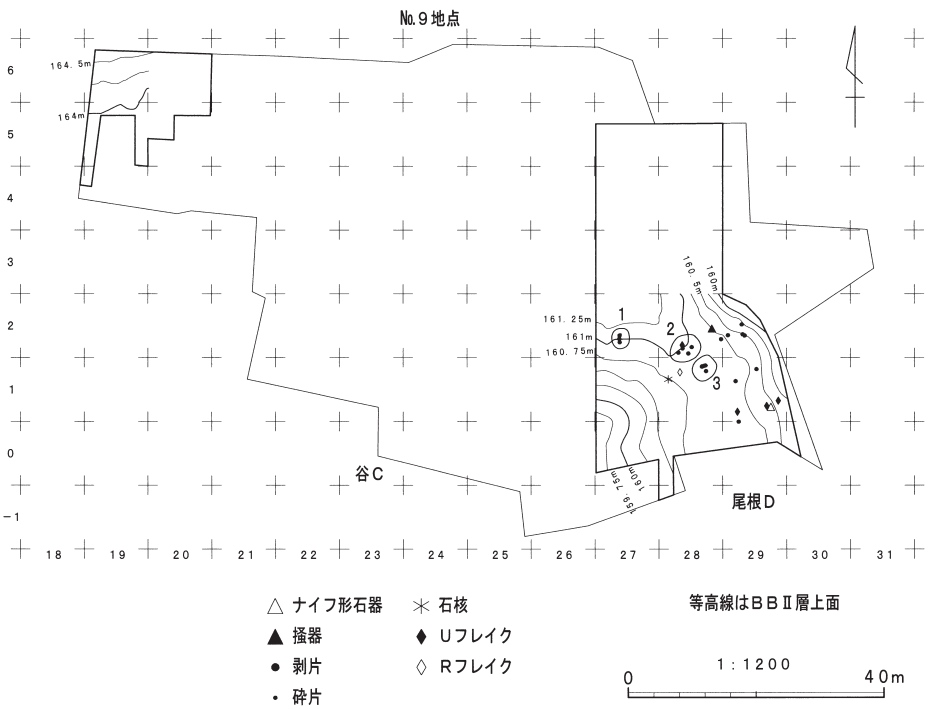
石核（第78図4）

第78図4は厚手の剥片を素材とする石核で、剥離作業面は正面となる。剥片の剥離方向が180度異なるもので、石核の打面が180度転移する。

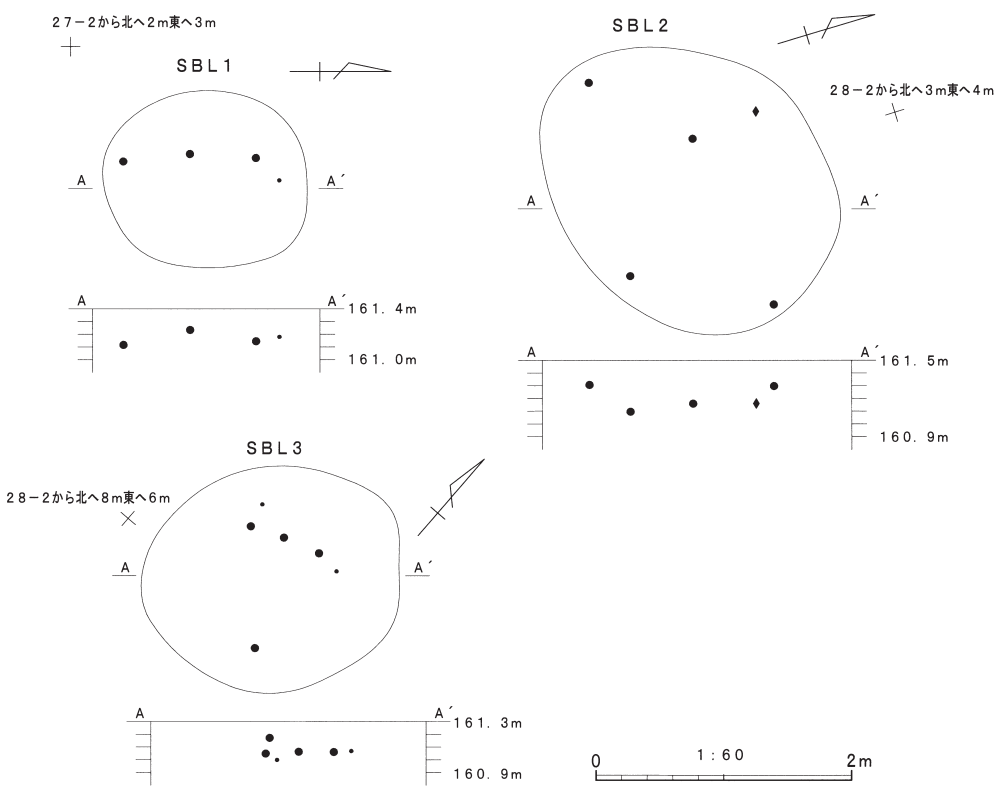
③まとめ

第Ⅱ黒色帯の文化層は、3か所のブロックから検出された15点と単独出土の15点の、合計30点の石器群で構成される文化層である。石器組成は断片的ではあるが、小形のナイフ形石器と大形石刃を組成する文化層で、石核と使用痕剥片が伴うナイフ形石器石器群である。ナイフ形石器はごく小形で、二側縁加工が認められた。

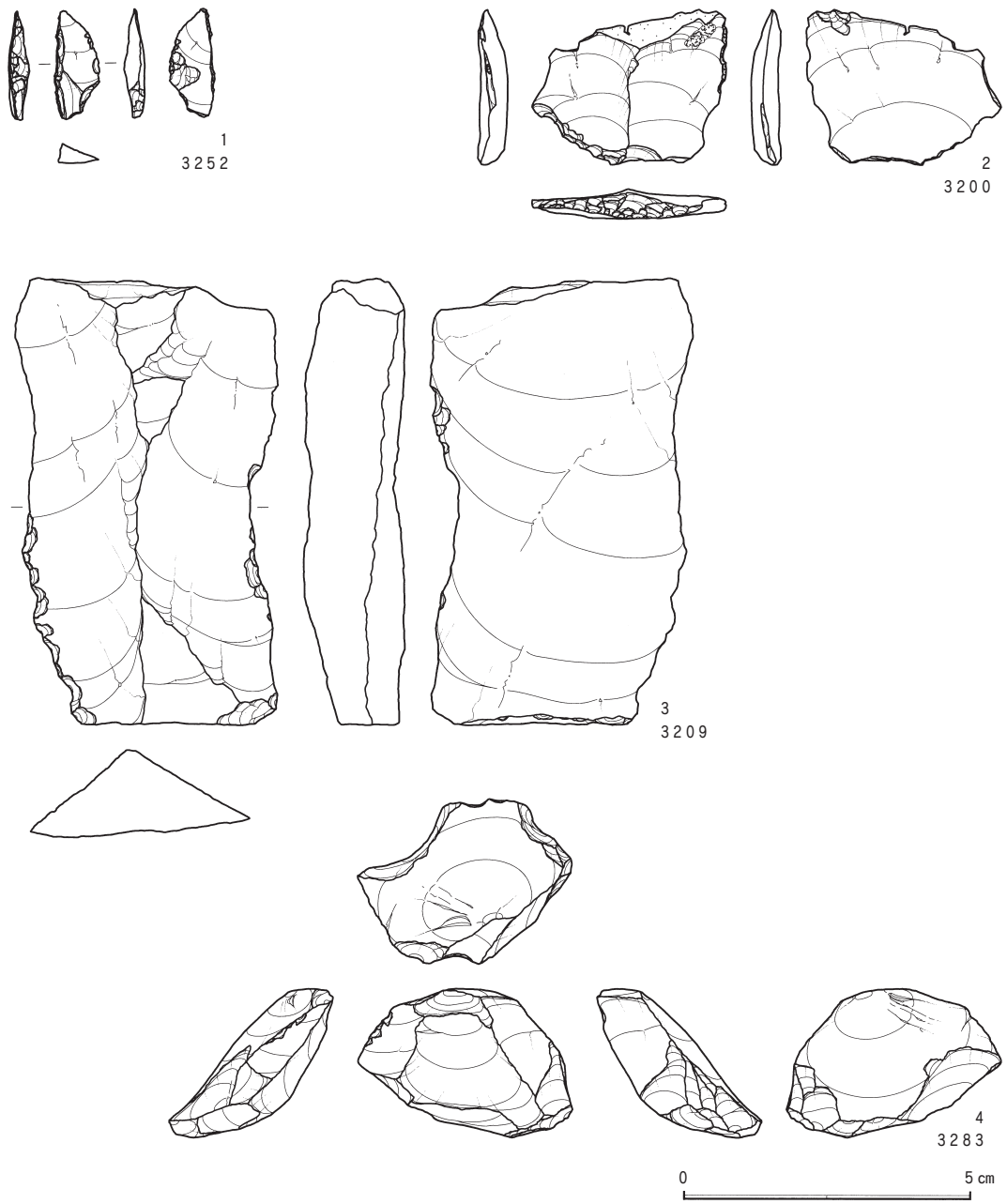
石材組成は、第一石材がＦ.ホルンフェルス14点（47％）、164.7g（45％）、第二石材がガラス質黒色安山岩6点（20％）、160.0g（43％）、第三石材が黒曜石10点（33％）、44.0g（12％）である。



第76図　第Ⅱ黒色帯石器分布図



第77図　第1～3号ブロック実測図



第78図　第Ⅱ黒色帯出土石器

石器石材は、ナイフ形石器が黒曜石１点、ＲＦがガラス質黒色安山岩１点となっている。

剥片剥離技術は、Ｆ.ホルンフェルス製の石刃や縦長剥片素材の掻器から石刃技法の存在がうかがえる。そして、石刃・剥片の観察では、剥片剥離方向を一定方向にしたもの、対向する二方向から剥片剥離を行う180度の打面転移技術をもつもの、90度の打面転移を行うものが認められた。

（３）第Ⅲスコリア帯黒色帯１の遺構と遺物の分布状況（第79・81図）

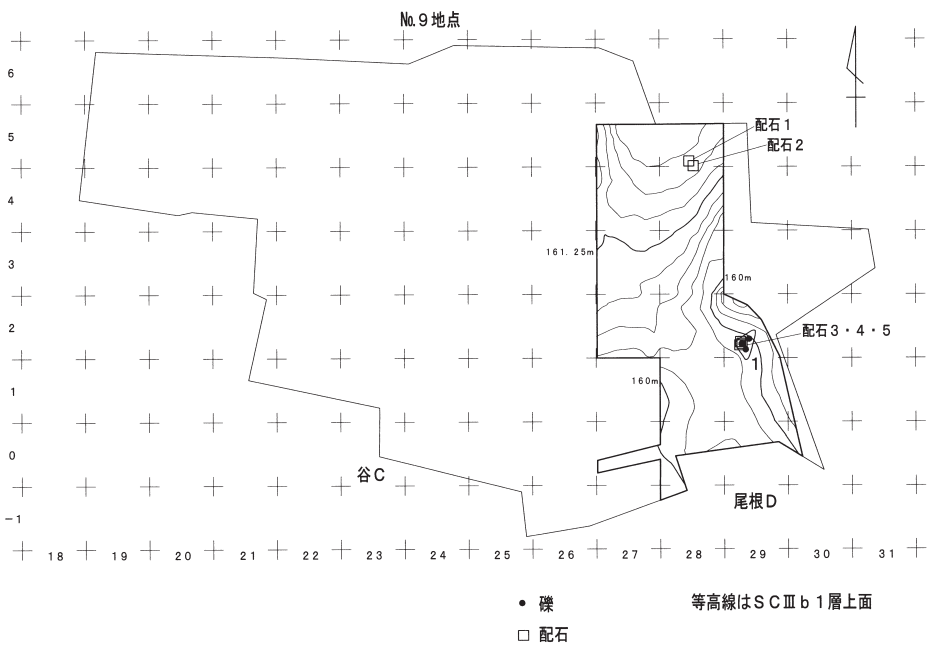
第Ⅲスコリア帯黒色帯１の遺構と遺物は、西久保川に面した尾根Ｄに礫・配石・石器が分布しており、礫群１基４点、配石５基５点からなる総計９点の礫と、単独出土の２点の石器群が検出された。礫群と配石は２か所に集中していた。

①遺構

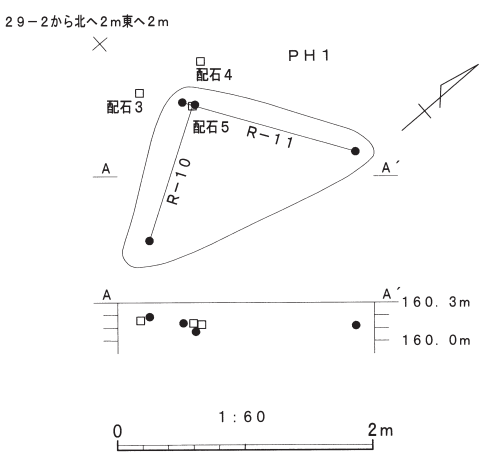
ａ．礫群

礫群１基が尾根Ｄ中央付近に位置し、東側の西久保川を臨む緩斜面に分布する。礫群は拡散的な分布を示しており、構成礫は赤変していない破損礫であった。

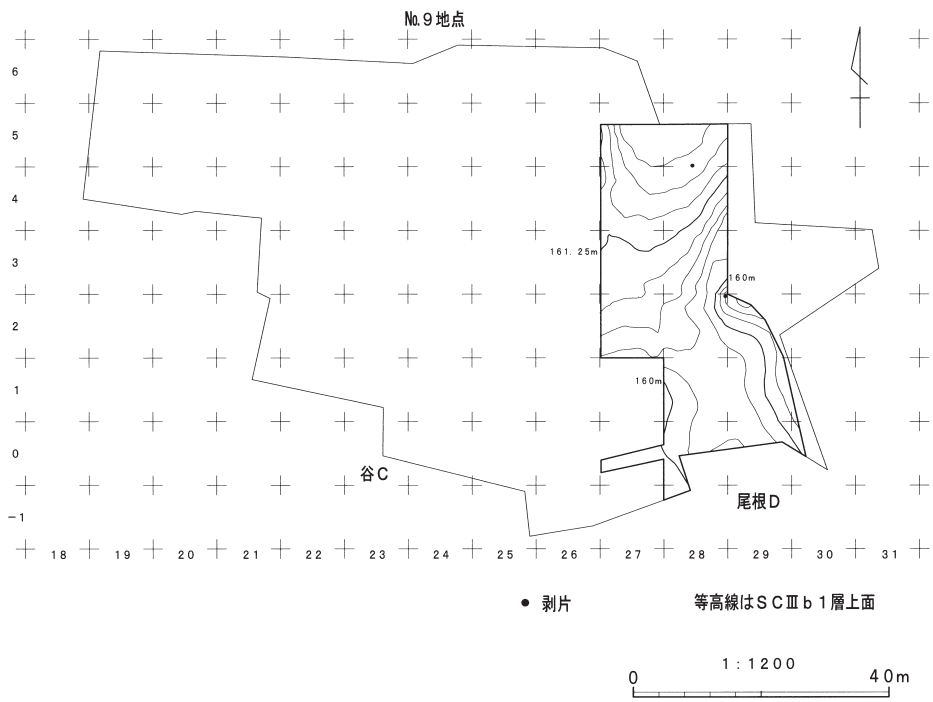
第１号礫群（第80図）



第79図　第Ⅲスコリア帯黒色帯１礫群・配石分布図



第80図　第１号礫群実測図



第81図　第Ⅲスコリア帯黒色帯1石器分布図

尾根Dの29－2グリッドに位置する。構成礫は4点で、長軸約1.8m、短軸約0.8mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高160.07～160.18mにかけて約11cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高161.12m付近に礫の底面を置いている。総重量は2,137g、平均重量は534.3gである。構成礫は、礫面非赤変破損礫4点（2,137g）である。石材は安山岩2点（974g）、デイサイト2点（1,163g）である。

b．配石

5基5個からなる配石が検出された。配石は尾根Dに第1～5号配石が分布する。出土層位はすべて第Ⅲスコリア帯黒色帯1である。

配石5基の総重量は18,765g、1基の平均重量は3,753gである。完形赤変礫2点、完形非赤変礫2点、礫面非赤変破損礫1点であり、完形礫が80％を占める。赤変礫は40％、非赤変礫は60％である。石材は安山岩4点、デイサイト1点であった。

②遺物

第Ⅲスコリア帯黒色帯1出土の遺物は、単独出土の2点の石器群によって構成されている。石器は剥片2点が出土しているにすぎない。

2点の剥片は、1点は黒曜石製で長さ1.8cm、幅1.8cm、厚さ0.4cm、重さ1.4g、もう1点はF.ホルンフェルス製で長さ1.2cm、幅1.1cm、厚さ0.2cm、重さ0.3gである。

第Ⅳ章　D地区（No. 12地点）の調査

第１節　D地区の概要

（１）地形と環境

D地区は、西久保川と西川に挟まれたいくつかの細長い尾根上のうち、西川が流れる谷の東側尾根（尾根A）に立地する。八兵衛洞遺跡内では最も西側に位置し、東隣のほぼ同じ標高にはE地区が広がっている。調査区の立地する尾根Aは、西側の比高差20mほどの谷と、そこから派生しE地区との間に貫入する支谷（谷A）とに挟まれることで形成されている。D地区はその尾根先端に展開し、西側は谷の影響を受けて少し急傾斜となっているが、大部分には北から南へ下る緩やかな馬の背状尾根が広がる。

（２）層序

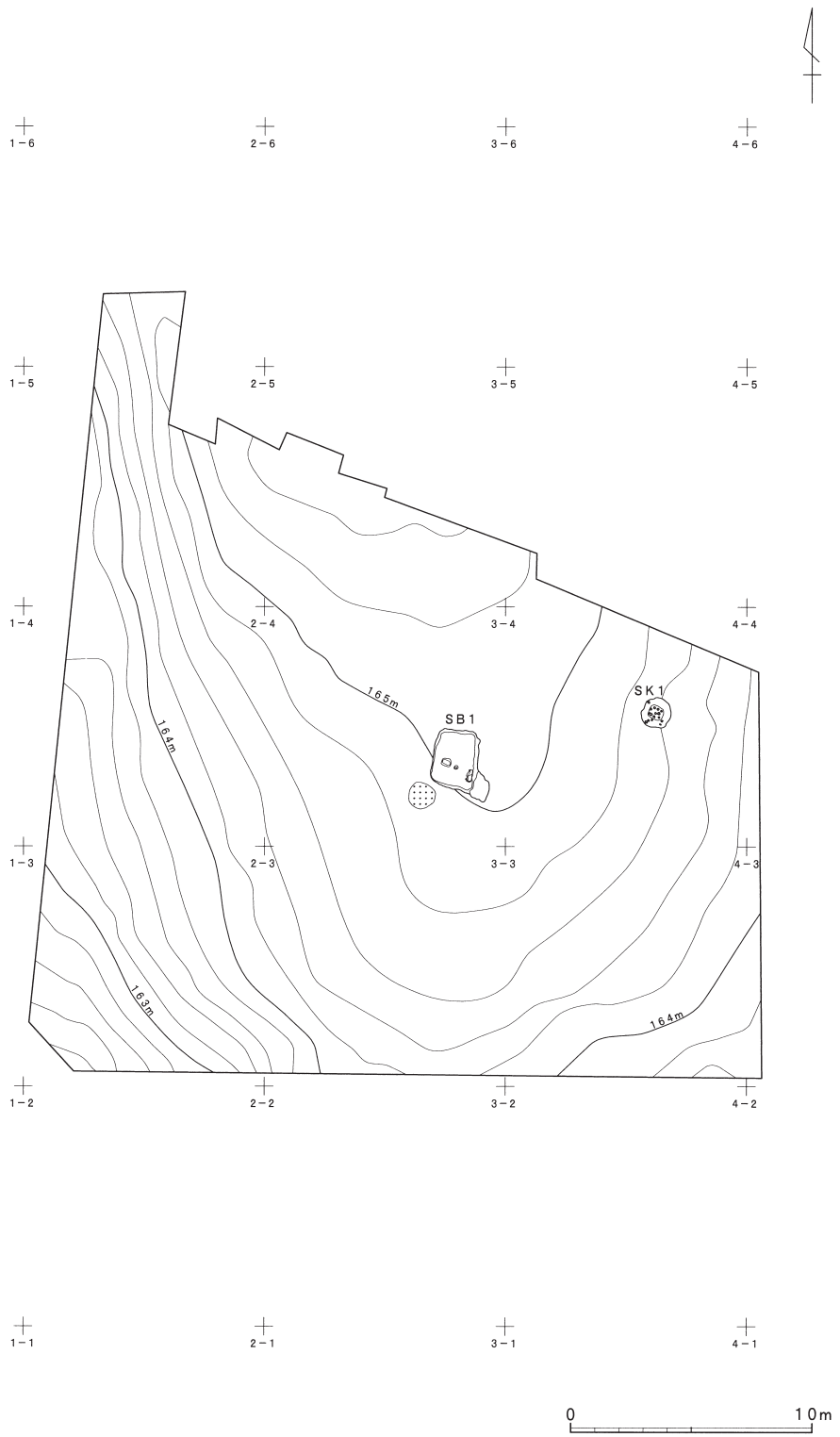
調査区全体の掘り下げは第Ⅲ黒色帯上面までとし、以下はトレンチで確認を行いながら、その周辺部を少しずつ拡張して調査を進めた。確認トレンチはグリッドに沿って東西と南北に１本ずつ設定し、それぞれ南壁と西壁で土層セクションの実測を行っている。さらには、トレンチ内に２×２mのテストピットを４か所設け、中部ローム層以下の含雲母グリース状火山灰土（Gr）まで掘削を行った。調査以前、D地区には茶畑が広がっていたことから、撹乱や削平を受けている部分があり、第Ⅰ黒色帯より上層は堆積状況があまり良好ではない傾向にあるものの、概ね一般的な愛鷹ローム層と同様の層序となっている。以下、D地区における各土層の特徴を記載する。

新期スコリア層は、比較的堆積状況が良く、特に調査区中央付近では40㎝前後の層厚を保っている。層中にカワゴ平パミス（KgP）を含む。

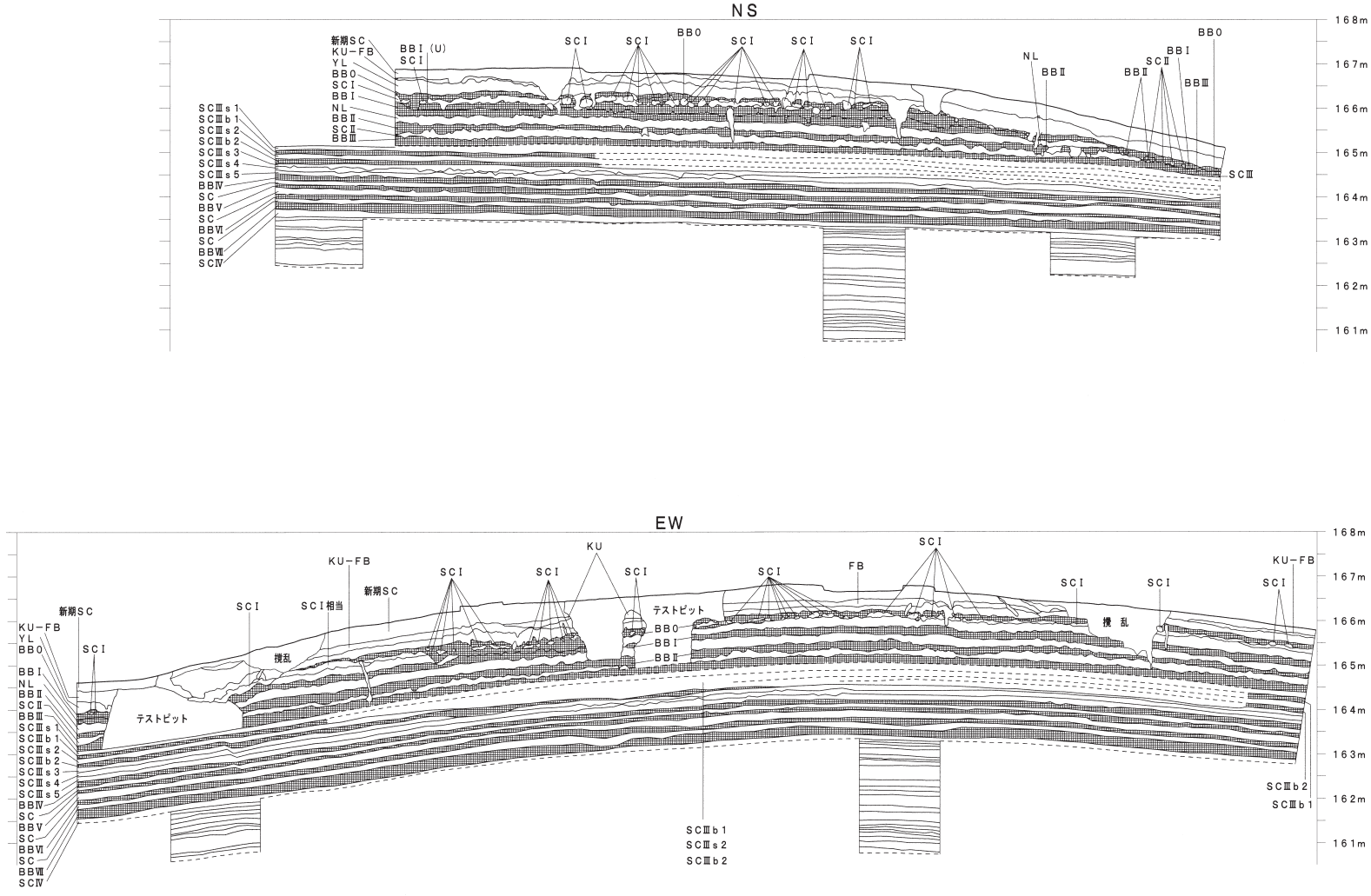
３・４層にあたる栗色土層と富士黒土層は残存状況が悪く、堆積が認められた部分でも、両層が混在して漸移的に変化している場合が多いため、セクションの観察では明確に分層することが困難であった。縄文時代早期～後期の遺物を含んでいる。

５層の休場層は総じて愛鷹山麓の標準的な層厚よりも薄く、比較的厚い部分でも40㎝に満たないことから、上位～下位の３層に分層することはできなかった。よって、遺物を取り上げる際は、すべて休場層として一括し取り扱っている。

６層の休場層下部黒色帯以下は、愛鷹山東南山麓の一般的な層準に従って推移しており、６・７・10～12・14・16層（BB０～SCⅠ・BBⅡ～Ⅲ・SCⅢb1・SCⅢb2）を調査対象とした。ただし、７層の第Ⅰスコリア層は堆積状態が非常に悪く、ブロック状に散在して層を成さない。また、南北セクションの第Ⅰ黒色帯と考えられる層は上半部の黒味が薄く、２層に分層できる状態であった。そのため、上半部の層を“BBⅠ（U）”と表記している（第83図）。


1－6
2－6
3－6
4－6
1－5
2－5
3－5
4－5
1－4
2－4
3－4
4－4
1－3
2－3
3－3
4－3
1－2
2－2
3－2
4－2
1－1
2－1
3－1
4－1
165m
164m
163m
164m
SB1
SK1
0
10m

第82図　遺構分布図



第83図　土層セクション図

第２節　古代の遺構と遺物

（１）遺構と遺物の分布状況（第82図）

古代に属する遺構として、住居址１基が検出された。住居址は調査区内で最も平坦で安定した、中央付近に位置している。出土した土器から、住居址の年代は９世紀中頃と考えられるが、同時期に存在した可能性のある遺構は他に全く検出されていない。八兵衛洞遺跡全体で見ても同時期に属する遺構は確認されていないことから、この時期の八兵衛洞遺跡一帯では、本地区の住居址１基だけが営まれていたことになる。また、住居址のすぐ南西には、焼土が2.4ｍの範囲に渡り広がっていた。住居は、検出状況により火災住居と認められることから、この焼土も火災に係わっている可能性がある。

遺物の分布を見ると、住居址内から坏と甕が出土しているのみで、遺構外からこの時期に属する遺物は検出されていない。

（２）遺構

第１号住居址（第84～86図）

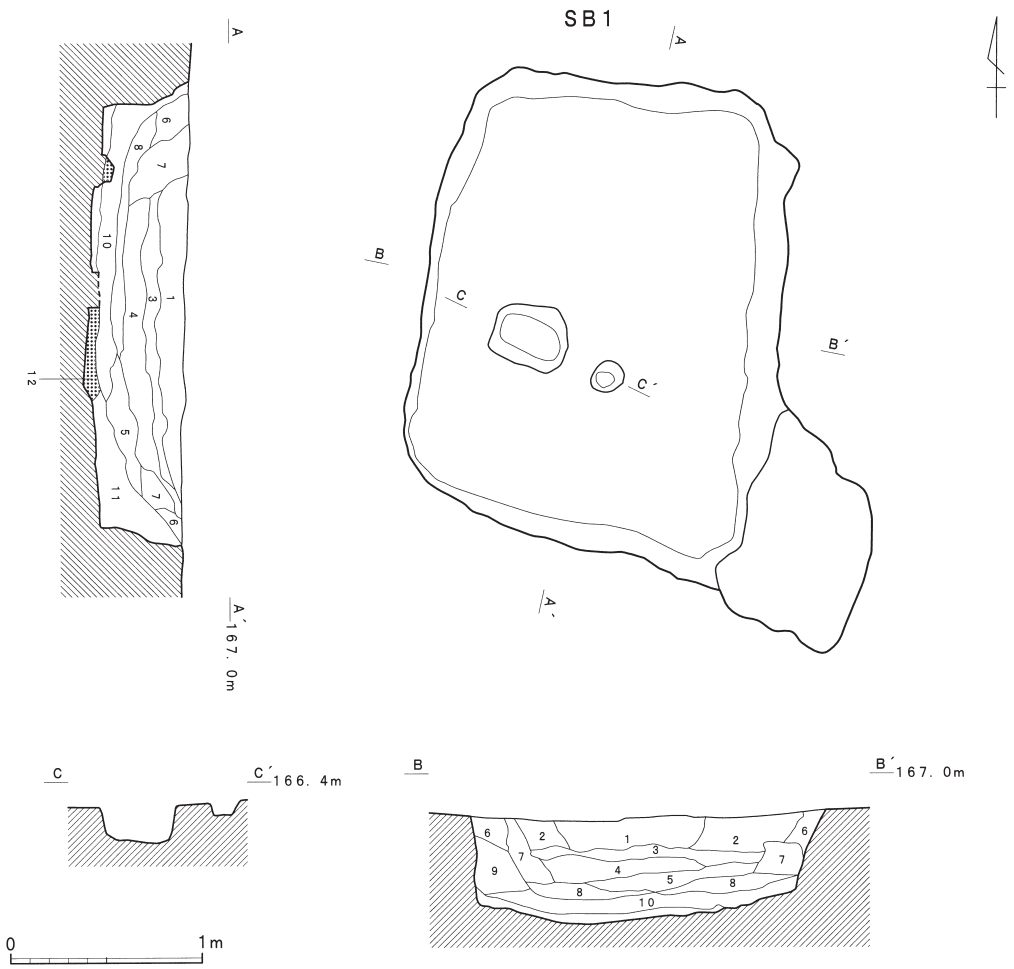
【調査経過】

調査区のほぼ中央、標高165ｍの等高線上に位置し、北から広がる馬の背状尾根の緩斜面上に構築されている。10月下旬に栗色土層を掘り下げていた際、非常に目立つ黒褐色土が落ち込んでいたことから、容易に発見することができた。東南隅の張り出し部分には手を付けず、まずは住居址本体のプランに十字のベルトを設定し、掘削を進めた。大形の礫などが覆土中に散在していたことから、それらを含む遺物柱はそのまま残して掘り下げた。途中、南東コーナー付近でカマドの構築材と考えられる石組みが､本来の姿に近い状態を保ったまま検出され､その北隣で完形の坏が見つかった。また、床面に到達する直前の覆土中では炭化材が複数、残存することが明らかとなったため、カマドの石組みと、炭化材を含む覆土中の遺物の出土状況を、10月30日の第１回空中写真撮影で記録した。

11月に入り、南東隅の張り出し部分の調査に着手した。張り出し部分は、カマドの石組み延長上から南東に若干ずれているものの、カマドの煙道部に当たると考え、張り出し部先端から石組み中央部を通るセクションと、それに交差する２本のセクションを切り、内部の状況を観察した。カマドの実測が終了した後は遺物を取り上げ、床面の検出を進めた。床面全体を精査した際には、中央付近で土坑と小穴を確認している。12月１日に全体プランの実測を行い、調査を終了した。

【覆土】

１層：緑黒色土（7.5GY2/1）スコリア・パミスを含む。
２層：黒褐色土（10YR2/2）スコリア・パミスを含む。
３層：暗褐色土（10YR3/3）多量のスコリア・パミスを含む。
４層：黒褐色土（10YR2/3）多量のスコリア・パミスを含む。
５層：黒褐色土（2.5Y3/2）スコリア・パミスをほとんど含まない。
６層：暗灰黄色土（2.5Y4/2）非常によく締まっている。
７層：灰オリーブ色土（5Y4/2）



第84図　第１号住居址実測図

８層：オリーブ褐色土（2.5Y4/4）やや粒子が粗く、細かい。

９層：黒褐色土（2.5Y3/1）スコリア・パミスを含み、よく締まっている。

10層：暗褐色土（10YR3/4）ローム質で休場層に近い。床面直上に堆積する埋土および崩落土で、複数の炭化材や焼土を含む。

11層：褐色土（7.5YR4/4）ローム質で、10層と同様に床面直上に堆積し、炭化材を含む。崩落土か。

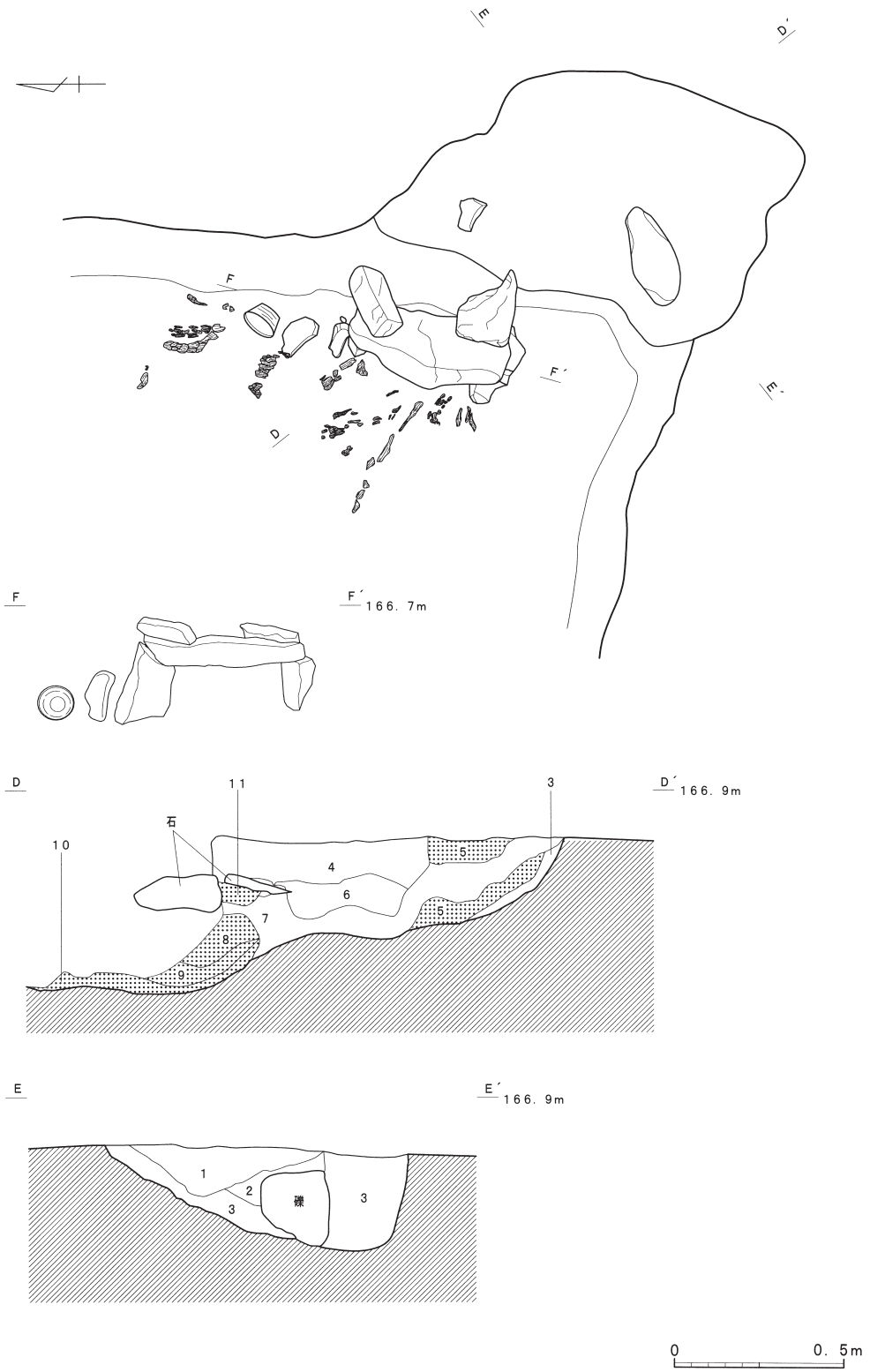
12層：暗灰黄色土（2.5YR4/2）焼土および炭化物層。

【形状】

平面形プランは南北に長い隅丸長方形で、主軸を北東－南西方向へ向ける。長軸2.45m、短軸1.88mと、非常に小型である。

【床・壁】

床面は10層直下、セクション図の最下部層と考えられ、貼床は認められなかった。焼土・炭化物



第85図　第１号住居址カマド実測図

を多量に含む12層が部分的に確認できる。床面からは遺物がほとんど検出されず、直上のローム質土層中に礫や炭化材が集中している。

壁の立ち上がりは、床面から約50㎝を測る。カマドの北側では東壁の掘り方に沿うようなかたちで、完形の坏が検出された。

【柱穴・土坑】

住居址中央のやや南寄りで、土坑と小穴がそれぞれ１基検出された。土坑は長径40㎝、短径35㎝、深さ20㎝程度で、焼土をわずかに含んでいる。用途は不明であるが、貯蔵穴とするには堀り込みが浅い。小穴は17㎝程度の幅しかなく、深さも約８㎝と浅い。２基はカマドの方へ向かって一列に並び、土坑は長軸も同様の方向へ向けている。

【カマド】（第85図）

カマドは東壁の南東隅寄りに構築されている。構築材としての石組みが認められ、天井石と左右袖の芯となる袖石が、ほぼ原型を留めたかたちで検出された。周囲にはおそらく粘土質の土が貼られていたものと考えられるが、流出してしまっているため詳しい状況は不明である。

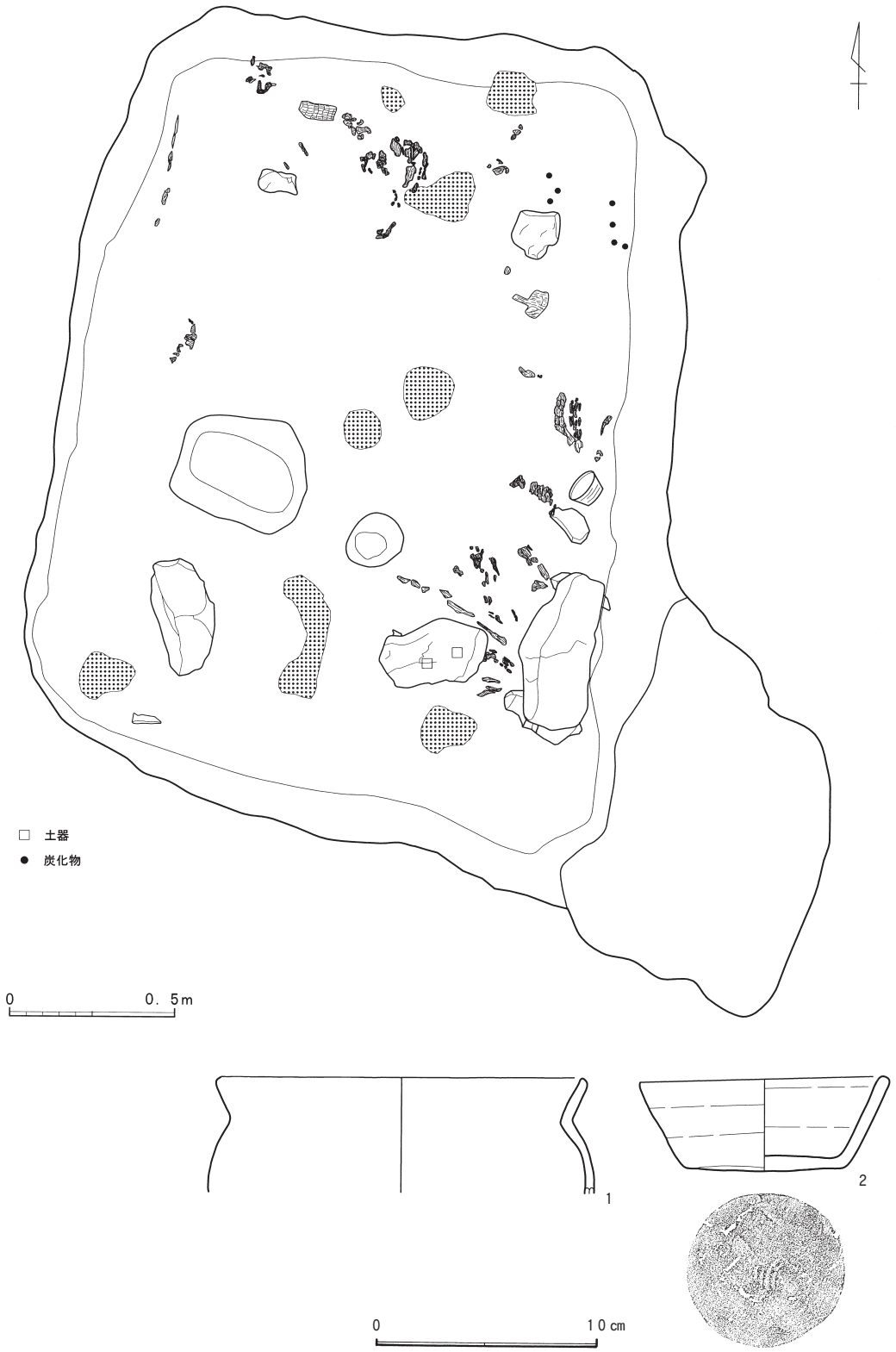
天井石は長さ43.5㎝、幅24㎝、厚さ14.5㎝で、重さ21.7kgを測る。左右の袖石は長さ20㎝前後の平板状を呈し、広い面を内側に向けて縦位に設置されている。天井石に比べて袖石の方が少し幅広であり、両袖石の中央に揃えるようにして、天井石を高架している。また、天井石は左袖側の方が厚く加重がかかるため、左袖石はそれに見合った大きめの石を用い、天井石と接する上面は平らに整えるなど、天井石を水平に保つ工夫が成されている。３点とも、付近の愛鷹山山体を構成し、周辺の小河川で得ることができる比較的軟質な安山岩を使用し、面取り成形の跡が見受けられる。天井石の上に同じ安山岩の礫２点が乗っていたが、カマドの構造と関係しているかは不明である。ただし、右袖上の礫は丁寧な面取り成形の跡が認められ、直方体に近い形をしていることから、支脚であったかもしれない。

カマド全体の構造を見ると、カマドの掘り方は地山を堀り込んで、南東方向へ伸びていた。石組みから張り出し部先端を切ったセクションを観察すると、天井石のやや前方から下部、その奥の壁を少し掘り込んだ部分まで焼土が堆積しており、焚口から燃焼部に当たると考えられる。張り出し部分の先端付近には多量の焼土が堆積し、ローム質土を上下で挟み込んでいる。ローム質土は、燃焼部から細く伸び、焼土の間を抜けるように堆積していることから、この部分が煙道であった可能性が高い。よって、南東隅の張り出し部分は、その主軸が石組みの延長上からややずれるものの、煙道部に当たると考えられる。

現状から想定されるカマドの規模としては、左右袖石の位置を参考にすると袖幅約60㎝、燃焼部は幅30㎝、燃焼部と煙道端部の比高差は45㎝程度で、煙道部は壁面から外側へ100㎝ほど伸びている。カマドの形態としては、天井石が壁面に接するように設置され、燃焼部が壁面よりほぼ内側に位置し、袖が竪穴内部に構築されるとともに、煙道部は南東方向へ大きく曲がりながら、壁面より外へ伸びている。

〈カマド覆土〉

１層：極暗褐色土（7.5YR2/3）オリーブ褐色土がブロック状に混在する。



第86図　第１号住居址遺物分布図

2層：極暗褐色土（7.5YR2/3）

3層：黒色土（10YR2/1）黒色土とオリーブ褐色土がブロック状に混在する。

4層：暗褐色土（7.5YR3/3）スコリア・パミスを多量に含む。やや粒子が粗い。

5層：にぶい赤褐色土（5YR4/4）焼土を最も多量に含む。

6層：オリーブ褐色土（2.5Y4/4）栗色土層に類似する。

7層：褐色土（10YR4/6）休場層に類似する。

8層：暗褐色土（10YR3/3）微細な炭化物を多量に含む。

9層：赤褐色土（5YR4/6）径10～25㎜の炭化物をわずかに含む、焼土層。

10層：暗褐色土（10YR3/3）微細な炭化物と焼土粒を含む。焚口部および火床に当たる。

11層：暗褐色土（10YR3/3）微細な炭化物を含む。

【火災の痕跡】

本住居址は、覆土中に多くの炭化材や炭化物、焼土ブロックが確認されたことから、火災住居と考えられる。炭化材の分布を見ると、中央付近では全く材が残らず、北から東壁際を中心に散在している。床面からの出土はほとんどなく、壁に近いものほど床面から離れた位置で検出される傾向がある。板状または角柱状を呈するものは、壁の構築材や柱材の可能性が想定される。

炭化材のうち、住居建築材と思われる36点については、自然科学分析を行っている。その結果、材の中心は針葉樹で、特にヒノキ属が多く検出された。他には、コナラ・クリ・シキミ・ヒイラギ・イボタノキ属といった広葉樹材も検出されている。そのうちコナラは、カマド前に集中しており、その分布がカマド内部にまで及んでいることから、火災住居ではなくカマドの使用に関係する炭化材であるかもしれない。

また、炭化材が検出されたローム質土層中では、7か所に渡って焼土が分布していた。これらの焼土は、住居址のほぼ長軸上に点在しており、火災に伴うものと考えられる。

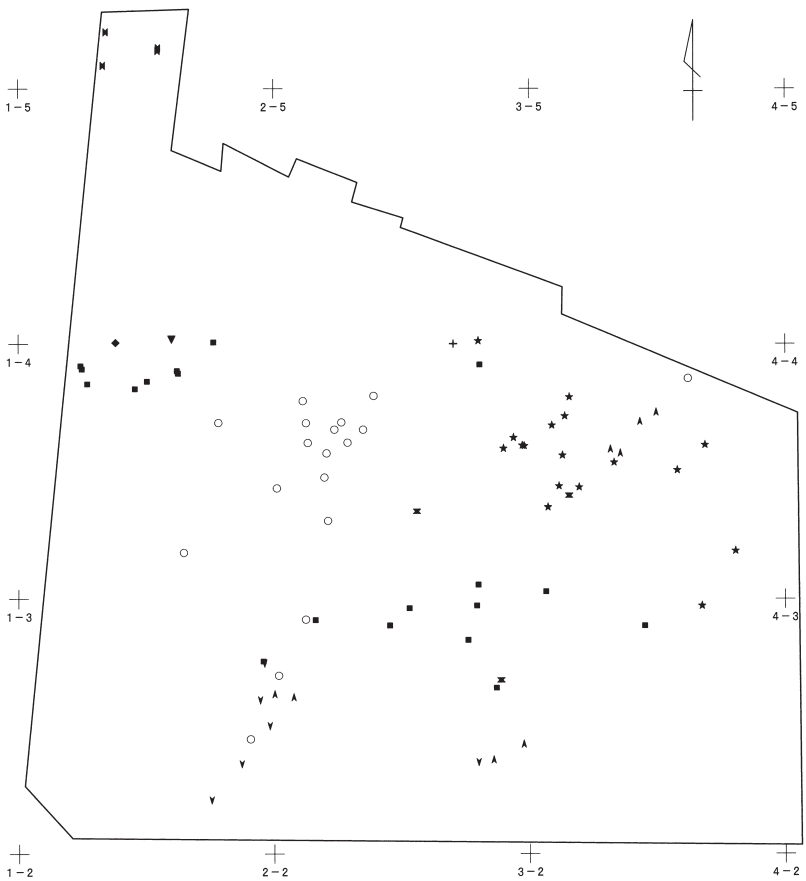
【出土遺物】（第86図1・2）

平安時代、9世紀中頃の土器が出土している。

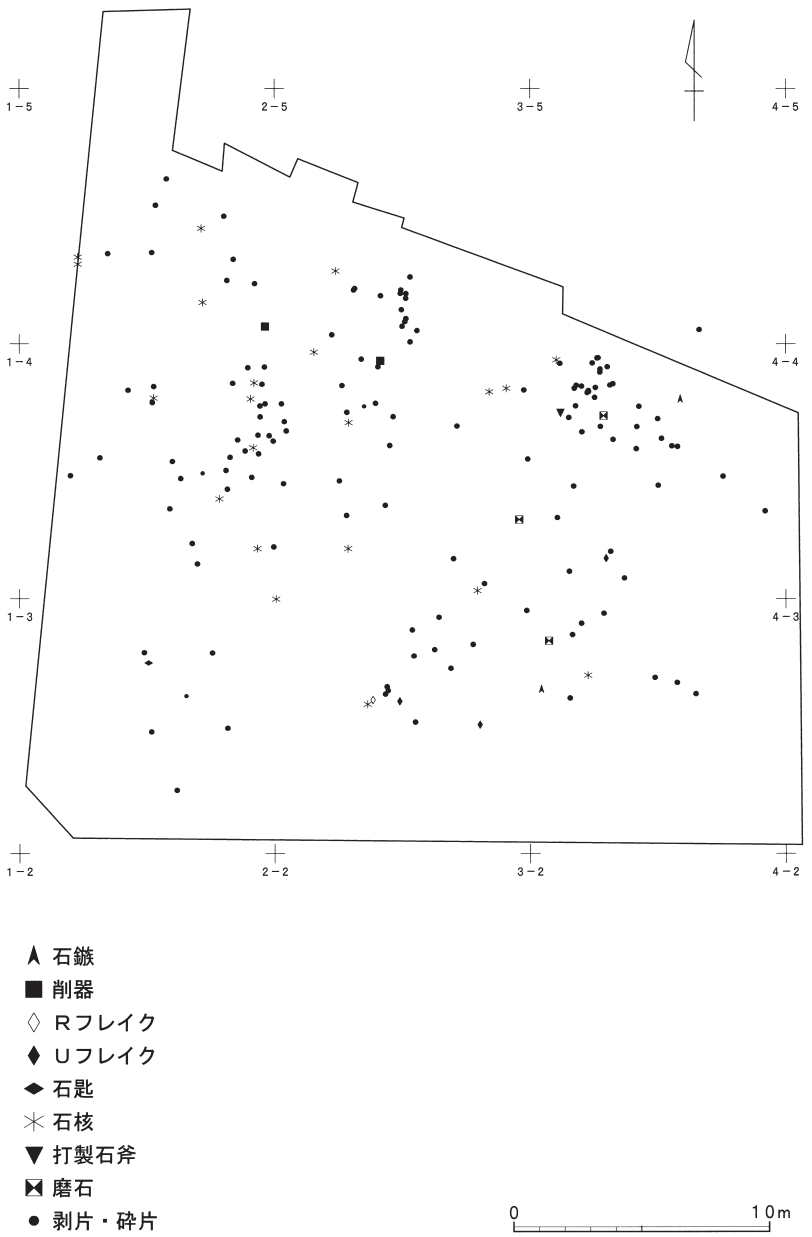
1は甕で、住居址南側の床面付近から出土し、口縁部から胴部上半が残存する。口縁部内外面にヨコナデが施されている。2はカマド北側の東壁際で発見された右ロクロ成形の坏で、完形である。底部に糸切り痕が残る。体部下位にヘラの痕が二本見られるが、ロクロの痕と平行ではないため、ヘラミガキとは考えにくい。

第8表　第1号住居址出土土器観察表

図版No.	器種	出土地点	遺物No.	口径 器高 底径	色調·残存部位	形態の特徴	手法の特徴	X座標 Y座標 Z座標
第86図1	台付甕	SB1覆土	2091 2092	(16.3) (5.2) —	褐色 (7.5YR4/3) 口縁部～胴部上半	口縁部は外傾して立ち上がり、端部に一部内側に折り返しているところがある。胴部は内湾して開く。	口縁部内外面ヨコナデ 煤付着	28.108 32.933 166.344
第86図2	坏	SB1覆土	—	11.0 4.2 7.1	褐色 (7.5YR4/3) 完形	平底の底部から体部は外傾して立ち上がる。	右ロクロ成形、底部糸切り後ヘラケズリ、煤付着 体部下位に二本のヘラの痕が見られる。	— — —



第87図　縄文時代土器分布図



第88図　縄文時代石器分布図

第３節　縄文時代の遺構と遺物

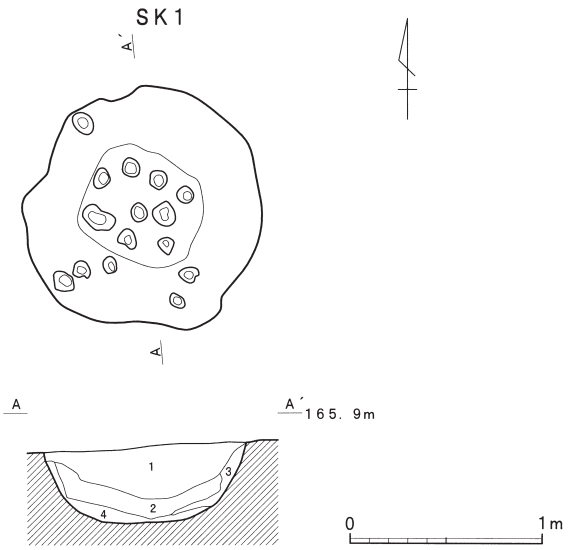
（１）遺構と遺物の分布状況（第82・87・88図）

縄文時代に属する遺構としては、土坑１基が検出されたのみであった。土坑は、調査区中央に北から南へ向かって広がる馬の背状尾根の東側緩斜面上に位置しており、尾根の中心付近では特に遺構が検出されることはなかった。

（２）遺構

第１号土坑（第89図）

調査区北東隅の、馬の背状尾根東側緩斜面上に位置する。検出層位は休場層下部黒色帯で、平面形は円形に近い。長径130㎝、短径124㎝、深さ40㎝を測る。底面は平坦に整えられており、小穴15基が確認された。小穴は幅・深さとも10㎝前後で、底面から側面にかけて散在している。休場層以上の堆積状態が悪いうえ、遺構の覆土が休場層を中心としていたことから発見が遅れ、立ち上がりは非常に浅いものとなってしまった。しかし、その形状から、陥穴の機能を持っていた可能性が考えられる。



第89図　第１号土坑実測図

【覆土】

１層：オリーブ色土（5Y5/4）径10～50㎜の褐色スコリアを含む。休場層中位に相当すると思われる。

２層：暗オリーブ色土(5Y4/4)径10～50㎜の褐色スコリアを含む。ローム質で、多少黒味が強い。

３層：オリーブ褐色土（2.5Y4/6）崩落土。休場層と休場層下部黒色帯が混在する。

４層：暗灰黄色土（2.5Y4/2）崩落土。ローム質で、第Ⅰスコリア層と第Ⅰ黒色帯がブロック状に混入する。

（３）遺構外出土土器

出土土器のなかで中心となるのは、早期末葉土器の入海式土器であり、これに加え、前期後葉の諸磯ｂ式土器・同ｃ式土器・北白川下層Ⅱｂ式土器、中期前葉の新道式土器などが出土している。No.９～11地点とは内容が異なるため、別の分類基準を設定して記述した。以下に群別の概要を記す。

第Ⅰ群土器：早期末葉～前期初頭土器（入海Ⅰ、Ⅱ式土器・石山式土器・木島式土器）

第Ⅱ群土器：前期後葉土器（諸磯ｂ式土器・諸磯ｃ式土器・北白川下層Ⅱｂ式土器）

第Ⅲ群土器：中期前葉土器（新道式土器）

第Ⅳ群土器：中期末～後期初頭土器

第Ⅰ群土器（第90図１～第91図12）

縄文時代早期末葉～前期初頭の土器を第Ⅰ群とした。早期末葉における東海系土器である入海式

土器をａ類とし、土器の特徴から３種に分類した。さらに、入海式に後続する型式である石山式土器に比定されるものをｂ類、型式等が不明なものをｃ類、前期初頭の東海系土器である木島式土器に比定されるものをｄ類とした。

第Ⅰ群ａ類１（第90図１・２・５・６・８）

入海Ⅰ式土器に比定されるものを本類とした。口縁部文様帯に、断面がかまぼこ状の隆帯を横位方向のみに数条貼付し、その上に連続した押圧を加えている。第90図１は口縁部の破片であり、口端部に押圧を加え、口縁部文様帯には幅７㎜程度の隆帯が横位方向に４条貼付されており、隆帯上には連続した押圧が加えられている。２は口縁部文様帯の一部と胴部の破片であり、１と同様の隆帯が貼付されるが、胴部は無文である。５・６・８は胴部の破片であり無文である。すべての土器片の内面には貝殻条痕の痕跡が全体的に残るものの、あまり明瞭ではない。

いずれも器厚は７㎜程度で、にぶい黄橙色の色調を示し、胎土には繊維や白色・灰色の砂粒を含む。焼成は良好で、比較的硬質である。

第Ⅰ群ａ類２（第90図３・４・７・９）

入海Ⅱ式土器に比定されるものを本類とした。平坦化した隆帯を横位方向と斜位方向に組み合わせて貼付し、その上に連続した刻みを加えている。第90図３・４は波状口縁部の一部であり、横位の隆帯の下に斜位の隆帯が貼付されている。７・９は胴部の破片である。

内面には一部で貝殻条痕の痕跡が残る。器厚は６～８㎜程度で、にぶい褐色の色調を示している。胎土には多量の繊維や白色・橙色の砂粒、微細な粒子を含んでおり、比較的硬質である。

第Ⅰ群ａ類３（第91図１・２）

入海式が在地化したと思われるものを本類とした。第91図１は器面に横位の隆帯を貼付し、隆帯上には棒状工具によって連続した押圧が加えられている。文様構成は第１・２種と類似しているものの、褐色の色調を呈し、胎土には若干の繊維と微細な粒子を含んだ軟質の土器である。２は隆帯が貼付されていないものの胎土の特徴が１と類似している。

第Ⅰ群ｂ類（第91図３）

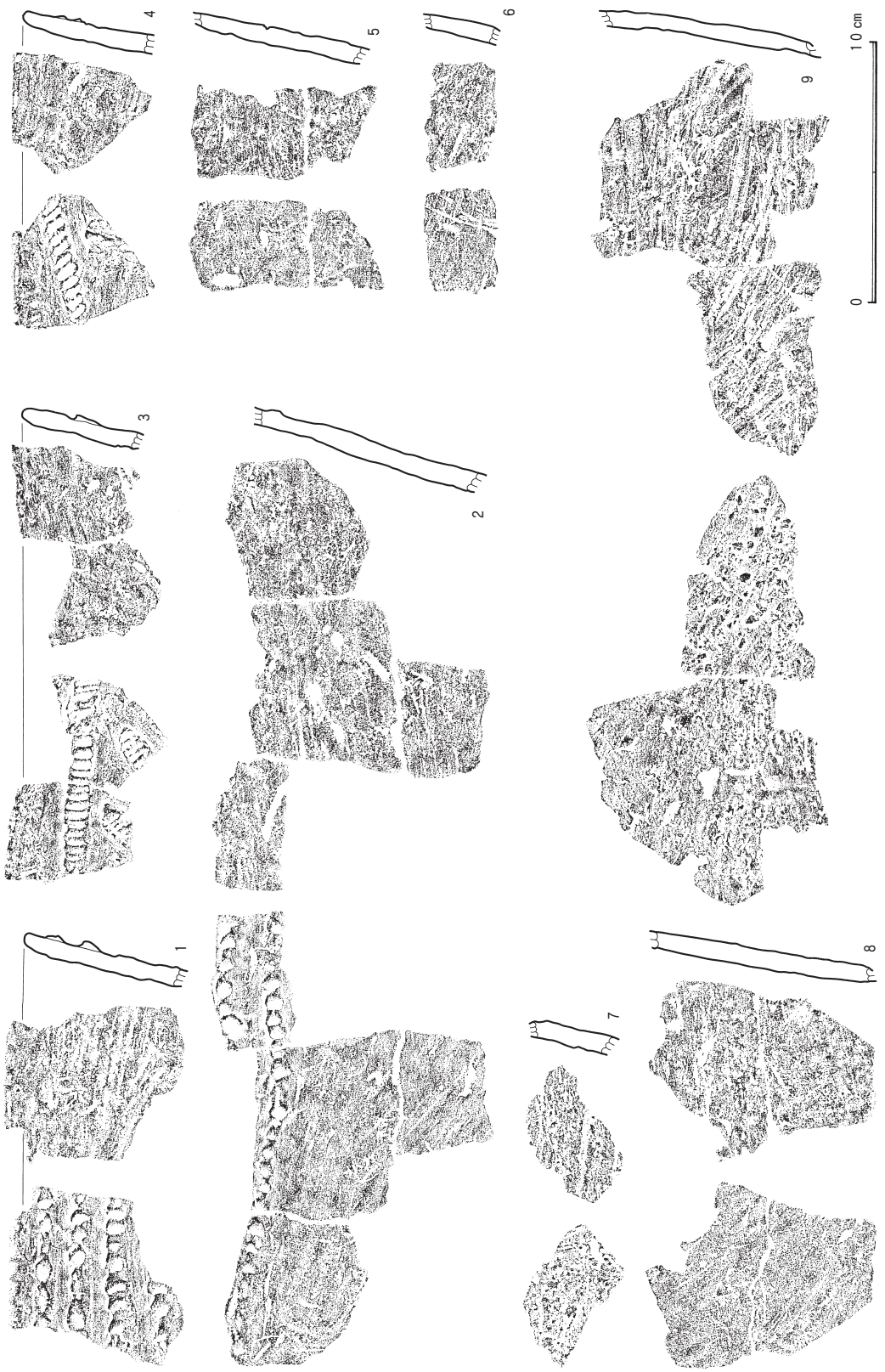
入海Ⅱ式に後続する型式である石山式土器を本類とした。１点のみ出土している。出土した石山式は、幅５㎜ほどの刺突が口縁に沿って連続して施文されている。にぶい褐色の色調を示しており、胎土には繊維を含む。器厚は７㎜程度である。

第Ⅰ群ｃ類（第91図４～９）

早期末葉に属すると思われるものの、型式等が不明であるものを本類に一括した。第91図４・５・７・８は器厚が13～17㎜と比較的厚手の土器で、無文である。胎土には繊維や微細な白色粒子、やや大粒の砂粒を含んでおり、外面は明褐色の色調を呈している。６は器厚が８㎜程度で、明赤褐色の色調を呈しており、胎土には白色や橙色の粒子、わずかであるものの金色の雲母片を含んでいる。９は小平底（乳房状）の形状となる底部であり、器面の一部にはＬＲの縄文が施文されている。胎土には多量の繊維が含まれており、外面は黄褐色の色調を示す。

第Ⅰ群ｄ類（第91図10～12）

前期初頭の東海系土器である木島式土器に比定されるものを本類とした。第91図10～12はいずれ



第90図　遺構外出土土器（1）

も器厚が４㎜程度と極めて薄く、にぶい黄橙色の色調を呈しており、器面には縦位や斜位に細線が施文されている。

第Ⅱ群土器（第91図13～第92図９）

縄文時代前期後葉の土器を第Ⅱ群とした。諸磯ｂ式土器に比定されるものをａ類、諸磯ｃ式土器に比定されるものをｂ類、諸磯式土器と考えられるが型式等が明確に判断できないものをｃ類、関西系土器である北白川下層Ⅱｂ式をｄ類とした。

第Ⅱ群ａ類（第91図13～21）

諸磯ｂ式土器に相当するものを本類とした。第91図13～17は口縁部を大きく内側に屈曲させ、器面には２本１単位の沈線を曲線的に描くことで木の葉状の文様を描いているものである。沈線に挟まれた部分には連続した刻みが施文されている。15～17では文様最下部に斜め方向のやや大ぶりな連続した刺突が施文されており、口縁部と胴部を分ける部分と推測される。にぶい褐色やにぶい黄褐色の色調を示し、胎土には微細な白色粒子や金色の雲母を含んでいる。

18～21はＬＲの縄文を横回転に施文し、その上に浅い平行沈線を施文しているものである。にぶい黄褐色の色調を呈しており、胎土には微細な白色粒子や金色の雲母を含む。13～17の器厚が10㎜以下であるのに対し、18～21は10㎜以上であり、施文される文様や胎土の特徴が異なっていることから、これらは別個体である可能性が高い。

第Ⅱ群ｂ類（第92図１・２）

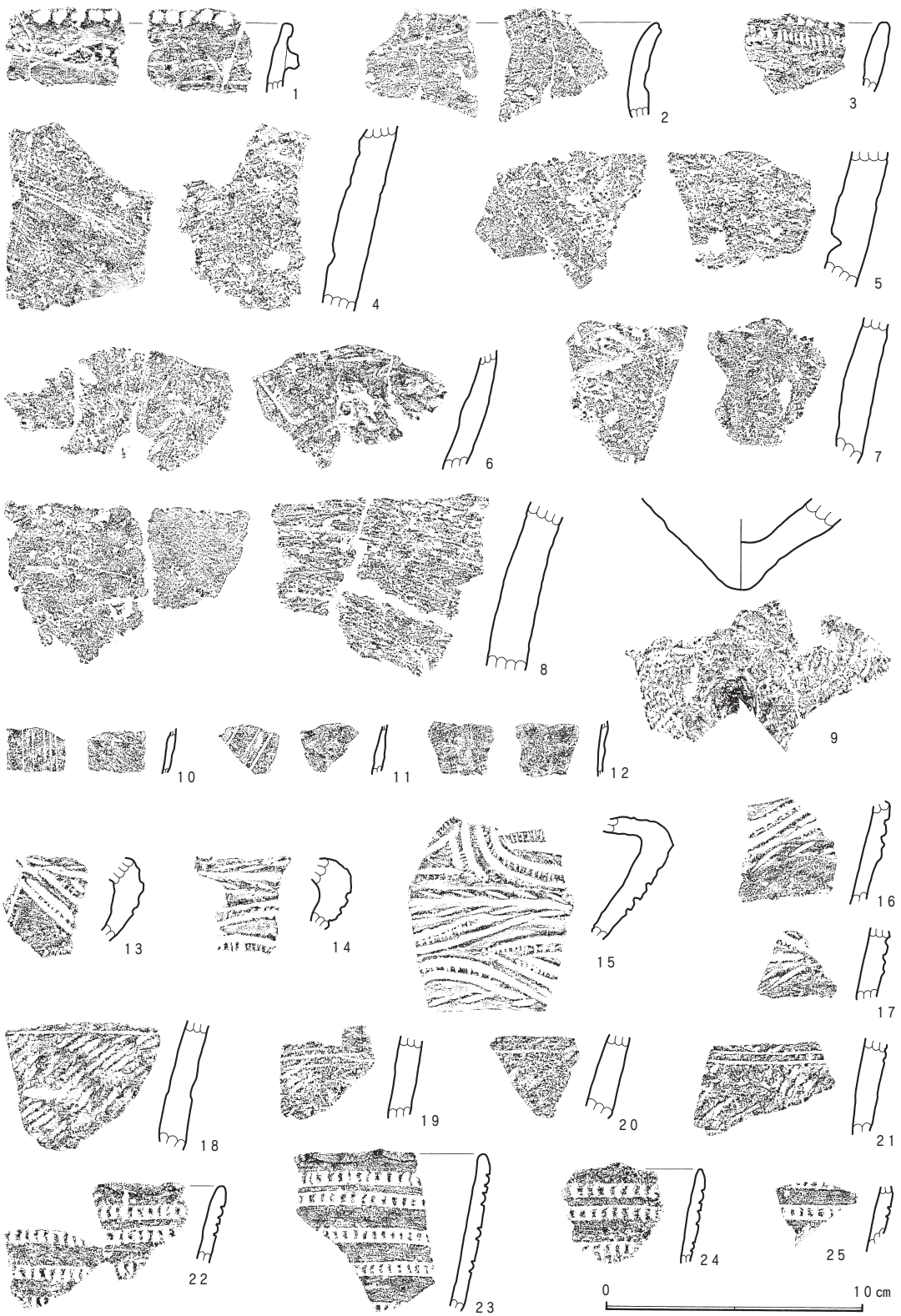
諸磯ｃ式土器に比定されるものを本類とした。第92図１は器面に半裁竹管による平行沈線を互い違いに施文している。胎土には微細な白色や橙色の砂粒、金色の雲母を含んでおり、明黄褐色の色調を呈している。２は縦位ないし斜位に半裁竹管による沈線を描いているもので、胎土は１と類似しているものの、色調はにぶい黄褐色を呈している。

第Ⅱ群ｃ類（第92図３～９）

型式等が明確に判断できないものの、土器の特徴から諸磯式土器と考えられるものを本類とした。第92図３は口縁部の破片であり、器面にＲＬの縄文を横回転に施文し、その上から一部にＬＲの縄文を横回転に施文することで羽状縄文のような効果が生じている。４～６は器面にＬＲやＲＬの縄文を横回転で施文しているものである。ただし５は磨滅が激しい。いずれも胎土に微細な白色・灰色・橙色の砂粒や金色の雲母を含み、にぶい褐色の色調を呈しており、同一個体である可能性がある。７～９は底部の破片であり、器面の文様がほとんど確認できなかったものの、９の底部に木葉痕が確認できる。いずれも胎土に微細な白色・灰色・橙色の砂粒や金色の雲母を含み、色調が明赤褐色を示しているが、底部から胴部への立ち上がりが異なり、７と８は同一個体の可能性があるものの、９は別個体と考えられる。

第Ⅱ群ｄ類（第91図22～25）

関西系土器である北白川下層Ⅱｂ式土器を本類とした。器厚が５～６㎜程度と薄く、器面には半裁竹管が数条に渡って横位方向に押し引かれている。口端部には複数の小さい三角形の突起を作っている。器面は浅黄色の色調を示しており、胎土には黒色や灰色の粒子や微細な金色の雲母、長石を含んでいる。



第91図　遺構外出土土器（２）

第Ⅲ群土器（第92図10～19）

縄文時代中期前葉の新道式土器を第Ⅲ群とした。第92図10は胴部の破片であり、隆帯で区画が作られている。区画内には隆帯に沿って幅広の角押文が施文され、さらにその中に三角押文が施文されている。その下部には同様の方形の隆帯区画と渦巻状の文様の一部が施文されている。11は10にあった渦巻状の文様の一部であり、隆帯が曲線的に貼付され、その両脇に幅広の角押文が施文され、さらにその外側に三角押文が施文されている。また渦巻状の文様部分の右側には、横位と縦位の３条１単位の三角押文が施文されている。色調はにぶい褐色を示しており、胎土には微細な金色の雲母や白色・黒色の粒子を含んでいる。

12・13は細い隆帯で複数の三角形区画文を作り、その中に三角押文を充填している。また区画どうしの接点には、捻り餅状の突起が貼付されている。これらの下部には半裁竹管による数条の平行沈線が施文され、その下にＲＬの縄文が施文される。また平行沈線と縄文施文部分の間には、刺突具による連続した印刻が施文されている。14～17はこの一部であり、半裁竹管による平行沈線や印刻、縄文が施文されている。これらは褐色や明褐色の色調を示しており、胎土には多量の白色砂粒や少量の微細な金色の雲母を含んでいる。18は文様が12～17に類似するものの異なる点が見られるもので、幅９㎜程度の横位隆帯が貼付され、その上部に横位２条の三角押文、その下には平行沈線が施文されているものである。また外面には被熱した際に付着したと思われる黒色の部分がある。胎土の特徴は12～17と類似する。

19は口縁の破片であり、口縁部は途中で垂直に立ち上がるように曲がっている。文様は口端部直下に11㎜ほどの間隔を置いてから、横位４条の三角押文が施文され、屈曲部には横位の隆帯上に指頭による連続した押圧が施文されている。黄褐色の色調を示し、胎土には微細な白色砂粒や金色の雲母を含んでおり、前述の10～18とは色調などで大きな違いがある。

第Ⅳ群土器（第92図20～28）

縄文時代中期末～後期初頭に存在する、縄文がやや間隔を空けて縦位に施文れさるものを本群とした。ＲＬの縄文が横回転されており、第92図20では縦方向に指などでナデることで縄文が消され、縦位の帯縄文のような文様となっている。いずれもにぶい褐色の色調を呈しており、胎土には灰色や黒色の砂粒を含み、気泡状の小孔が認められる。

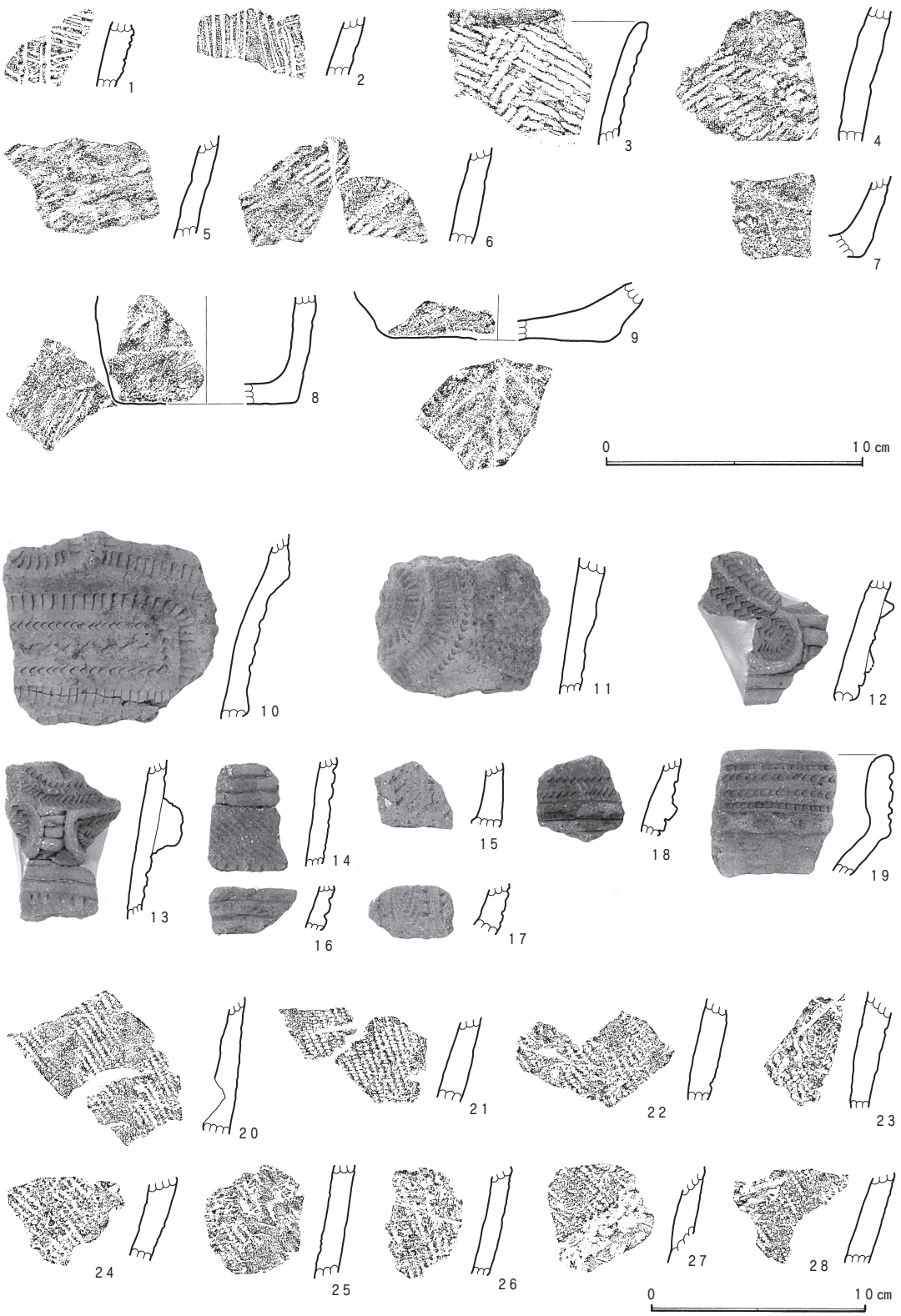
（４）遺構外出土石器

石鏃（第93図１～４）

黒曜石を石材とした４点が出土し、すべてを図示した。１～３は凹基石鏃で、いずれも抉りの深さは全身の1/3に満たない。側縁は曲線を描くものと、直線に近いものとの両方が認められ、１は鋸歯状に調整されている。３は背面両側縁方向へやや急傾斜な剥離が加えられており、先端から脚部にかけての稜が非常に明瞭である。４は有茎石鏃で、先端部を欠損する。側縁はやや粗い鋸歯状となっている。

削器（第93図５・６）

２点が出土し、ともに図示した。５は扁平な凝灰岩を素材とし、１次剥離面の残る腹面以外は、礫面がほとんど残されている。使用による階段状剥離により下端の状態は不明であるが、素材となっ



第92図　遺構外出土土器（3）

た礫の形状を大幅に留めていると考えられる。腹面を薄く剥離し、左側縁に調整加工を加えて刃部としている。6は砂岩を石材とした、薄い剥片を素材とする。背面右側縁および、腹面右側縁に剥離調整を行って刃部を設けており、腹面上部は急傾斜な剥離となっている。また、斜めに切り取られた下端部にも、調整が施される。

ＲＦ（第93図７）

珪質頁岩を石材とする１点が出土した。本来は石核の打面調整剥片であり、左側縁に細かい加工を加えて利用している。

石匙（第93図８）

Ｆ.ホルンフェルスを石材とする１点が出土した。横形で薄い剥片を素材とする。つまみ部分は太く、両面から調整加工が施される。腹面はほぼ全体に１次剥離面が残されており、つまみ上部には素材の打面が残されている。

打製石斧（第94図９）

砂岩製の円礫から得た剥片を素材とする１点が出土している。形状はいわゆる短冊形を示し、腹面全周と背面の側縁に施された剥離調整によって、器形が整えられる。背面中央に残る素材の礫面は、そのまま基部と刃部になっている。

打製礫斧（第94図10～12）

３点が出土し、すべて図示した。３点ともに円礫をそのまま素材として使用し、10・11は砂岩、12はＦ.ホルンフェルスを石材としている。10は薄く扁平で、両面の大部分に素材の礫面を残す。背面の端部に調整加工を施し､斜めに刃部を設けている。11と12は片面の下部に幅広の剥離を加え、刃縁には使用に伴う微細な剥離と磨滅が認められる｡11の右側縁の剥離は破損に伴う可能性が高い。

石錘（第94図13）

砂岩製の扁平な円礫を素材とする１点が出土した。長軸方向の上下端に両面から剥離が行われ、抉入部が設けられている。短軸方向の一端にも小さい切れ込みのようなものが認められるが、中央よりやや上の位置に存在することや、縁辺に敲打痕が見られることから、敲打した際の破損とも考えられる。

磨石（第94図14～17）

５点が出土し、うち４点を図示した。全体的に小形で、砂岩を石材とする15以外は、すべて安山岩が用いられている。平面形状は、14・15・17が円形、16が楕円形状を呈する。円形の中でも15は比較的扁平で、17は非常に厚みがあって球形に近い。16は明瞭な磨面が認められる。

敲石（第94図18）

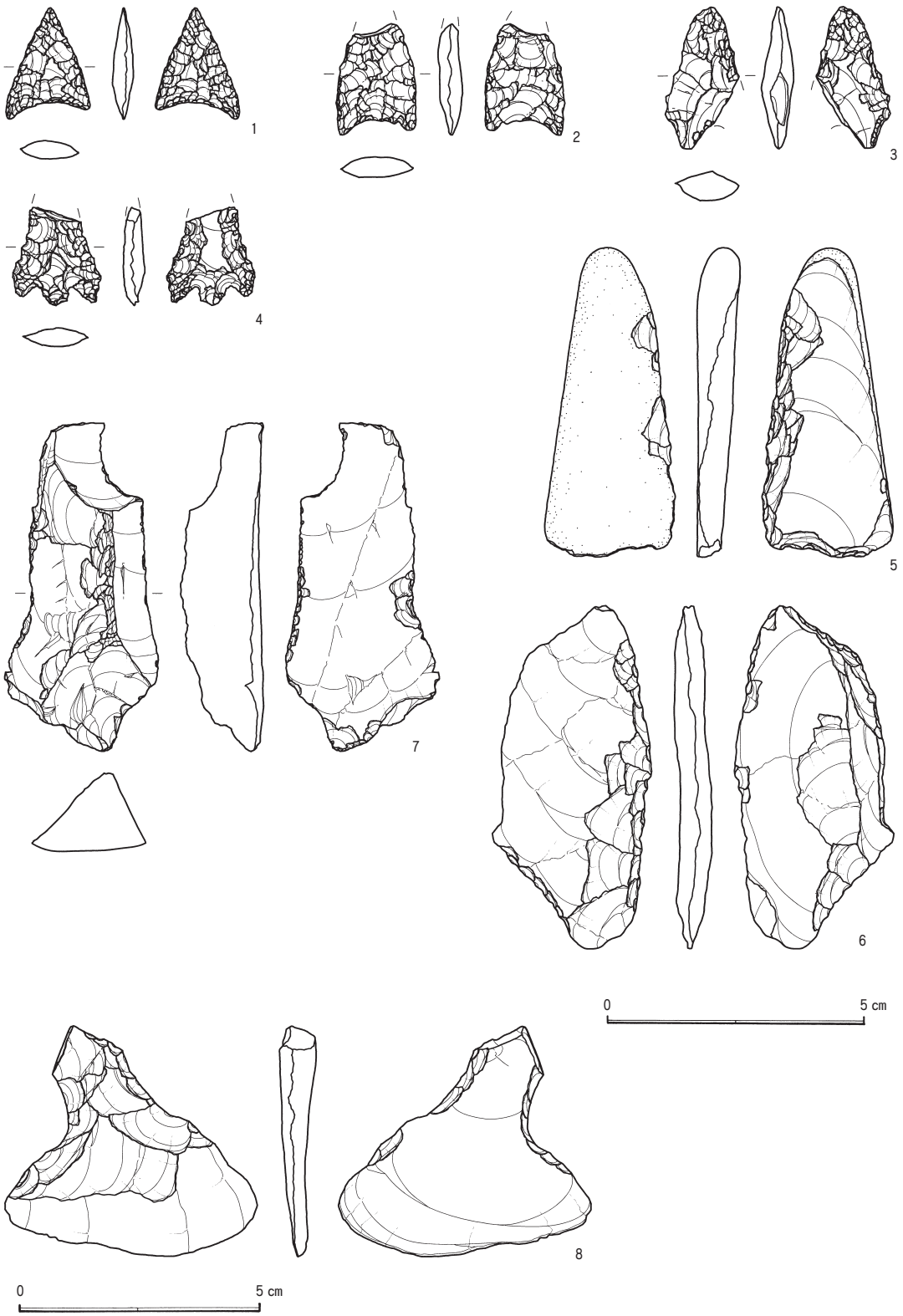
安山岩を石材とする１点が出土した。棒状で断面は山形を呈する。下端は破損に近い敲打痕が認められ、上端にもわずかな磨滅が認められる。

石皿（第94図19）

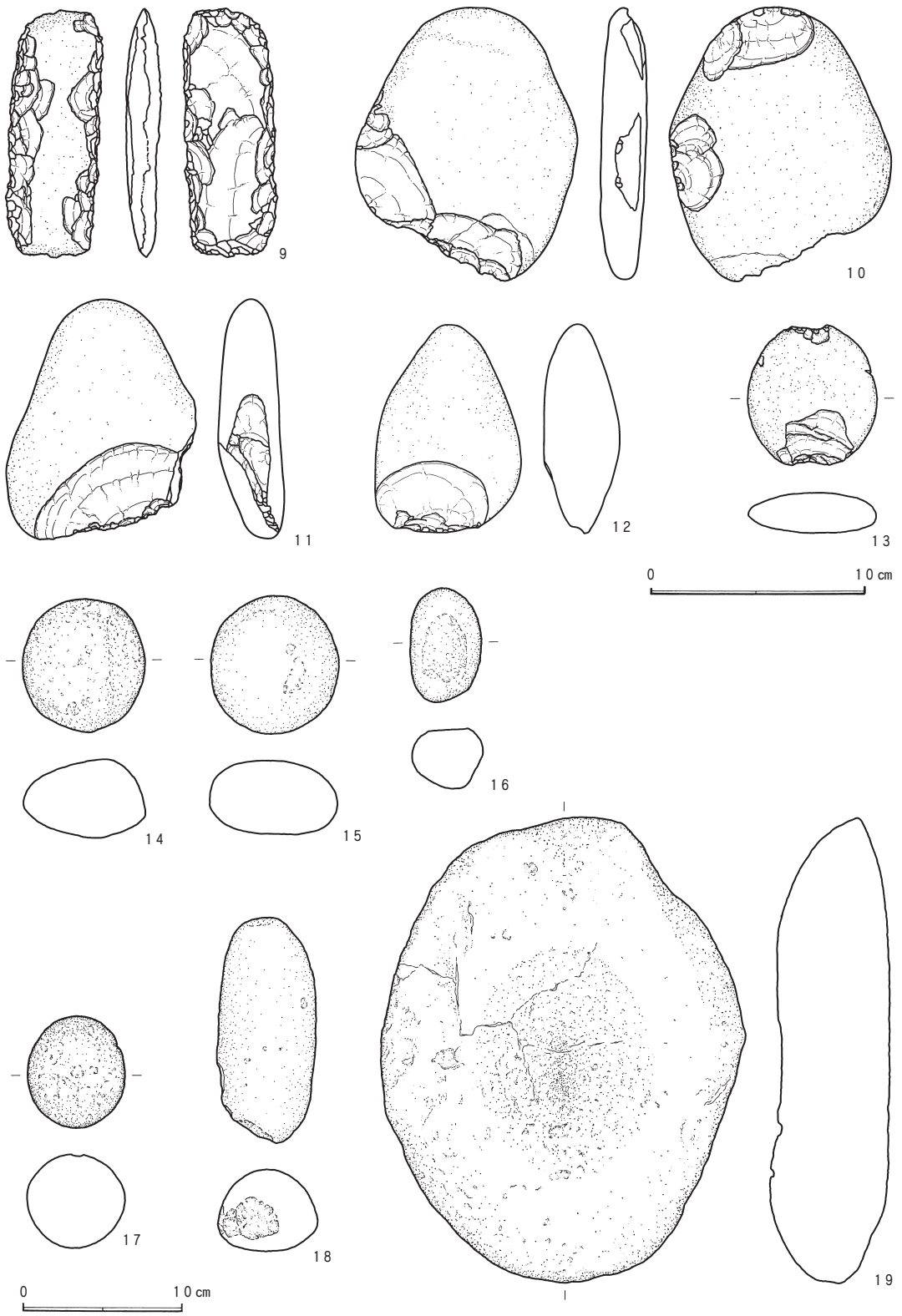
１点が出土した。安山岩を石材とする扁平な円礫をそのまま使用している。

石核（第95図20～第100図40）

22点が出土し、そのうちの21点を図示した。石材としてはＦ.ホルンフェルスが多いが、これを



第93図　遺構外出土石器（1）



第94図　遺構外出土石器（2）

用いた剥片石器は石匙（第93図８）のみである。石器の素材としての剥片ではなく、剥片じたいを得ることが主たる目的であった可能性が高い。以下、４類に分類を行い、Ⅰ類は船底形の細石刃核、Ⅱ類は単設の打面を有するもの、Ⅲ類は複数の打面を有するもの、Ⅳ類は礫面を打面とするものととした。

Ⅰ類（第95図20～22・第96図23・24）　船底形の細石刃核。

原礫に対して横口方向に横切るような剥離によって打面が設けられ、船底形の形状を示す「船野型細石刃核」を本類とした。同型式の細石刃核は、愛鷹山麓では休場層上位から富士黒土層下位にかけて包含されており、休場層上位から出土する「野岳・休場型細石刃核」よりも層位的にはわずかに上位となる可能性がある。また本遺跡では５点すべてが富士黒土層ないし栗色土層からの出土であることから、縄文時代の遺物として扱った。なお、これに伴う細石刃は検出されていない。

愛鷹山麓における船野型細石刃核の主要な石材は、Ｆ.ホルンフェルスであり、これに流紋岩が加わる。本遺跡から出土した５点もすべてがＦ.ホルンフェルス製であった。

第95図20は打面を作出する剥離の後、石核打面から側面に向けて幅広の剥離を行うことによって、石核の形状が整えられている。作業面には下端部に収斂するような剥離が認められる。21には打面を作出する剥離が円礫面から行われている。22には細石刃を剥離した痕跡は認められないが、打面の特徴と形状から本類に含めた。第96図23からも細石刃は剥離されていないが、側面に加えられた剥離は上部の打面よりも後出である。24の打面の一部は原石の節理面が利用されている。

Ⅱ類（第96図25・第97図28）　第Ⅰ類以外で、単設の打面をもつもの。

本類には２点が含まれる。第96図25は裏面上部に節理面が残り、この面を切って打面が設定されている。作業面に細かい縦長の剥離が残されているが、連続して行われたとは考えられないため、縄文時代の石器として取り扱った。第97図28は裏面に礫面をもつ剥片素材を切断して打面とし、１回限定の剥片剥離を行っている。

Ⅲ類（第96図26・第97図27・29～31・第98図32・33）　複数の打面をもつもの。

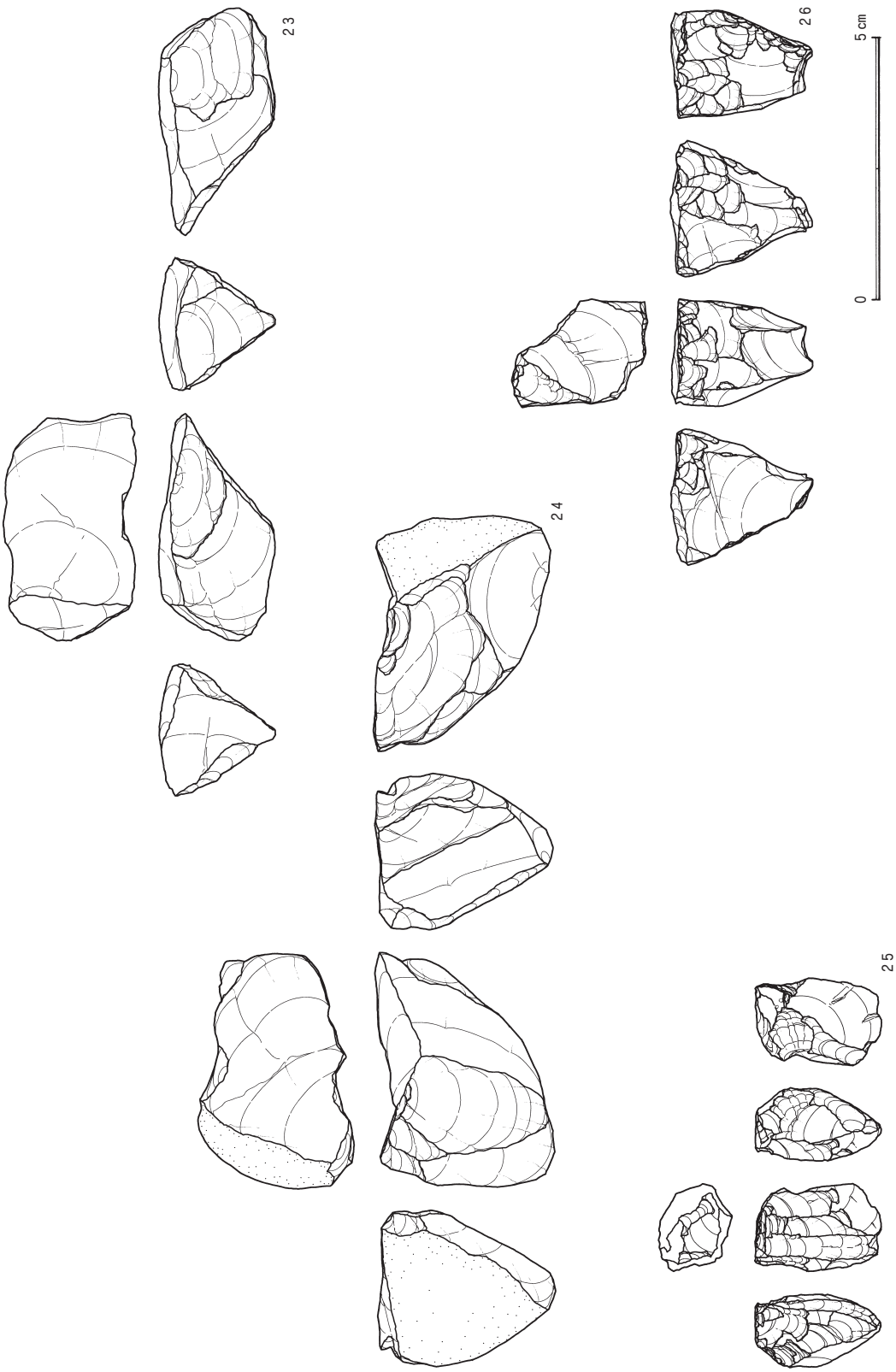
本類には７点が分類される。Ｆ.ホルンフェルス以外に、珪質頁岩（26）、黒曜石（27）が含まれる。打面転移は180度方向ではなく90度方向に行われていることが多く、その結果、形態はサイコロ状となるものが多い。

第97図29は裏面側に縦長の剥離が加えられているが、それ以外は幅広ないし横長の剥離面で構成されている。30は打面転移を繰り返しながら、打瘤部分が肥厚した剥片が剥離されている。第97図31・第98図32・33は下部に礫面が残る。32の打面は風化が激しく、リングの観察ができない部分があった。33は最終的に上端の打面から幅広な剥離が行われているが、側面には平坦な礫面を打面とした剥離が認められる。

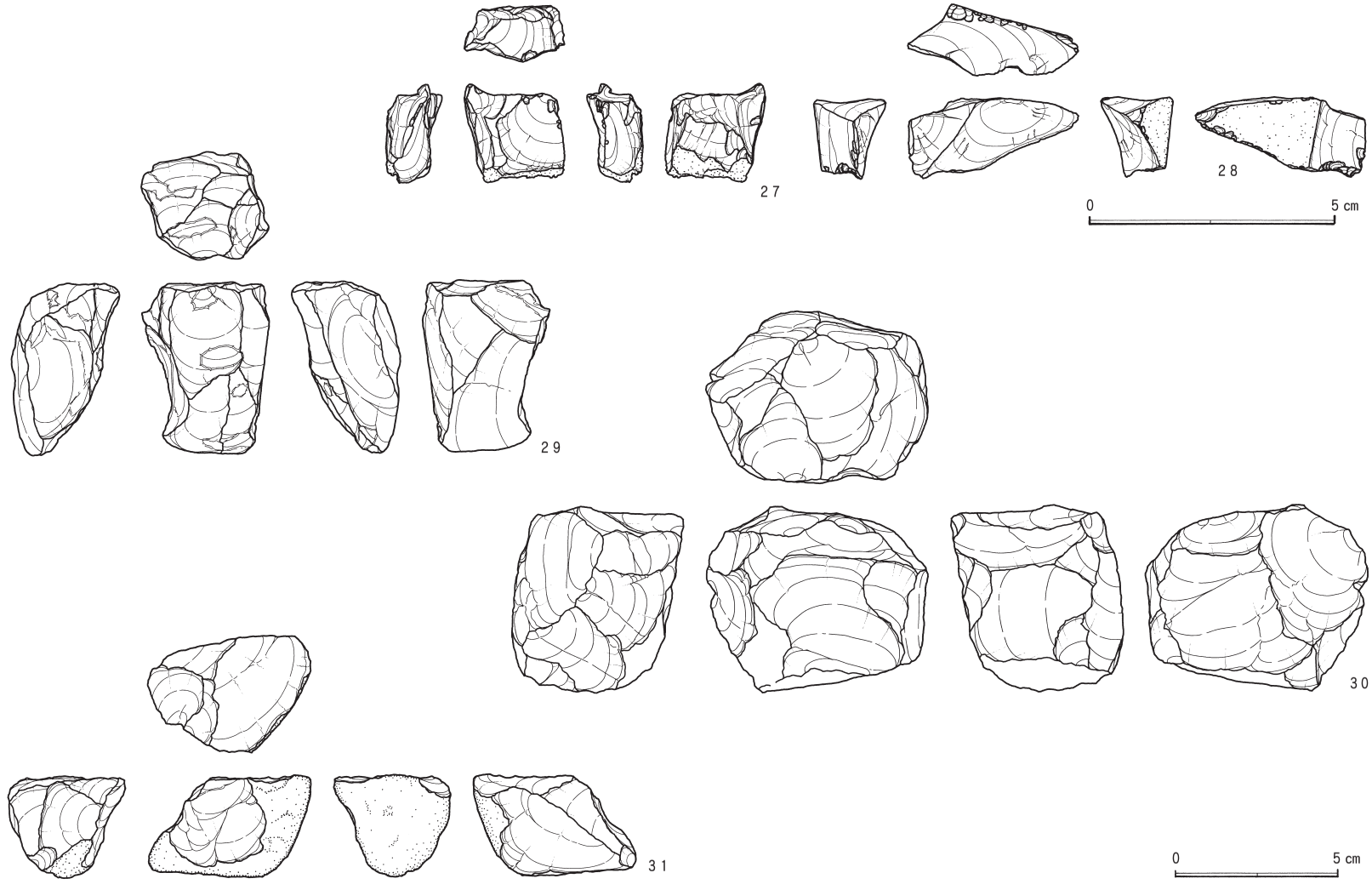
Ⅳ類（第98図34・第99図35～37・第100図38～40）　礫面を打面とするもの。

打面となる礫面と剥離の角度が鈍角となるもの（34～37）と、鋭角となるもの（38～40）がある。

第95図　遺構外出土石器（3）

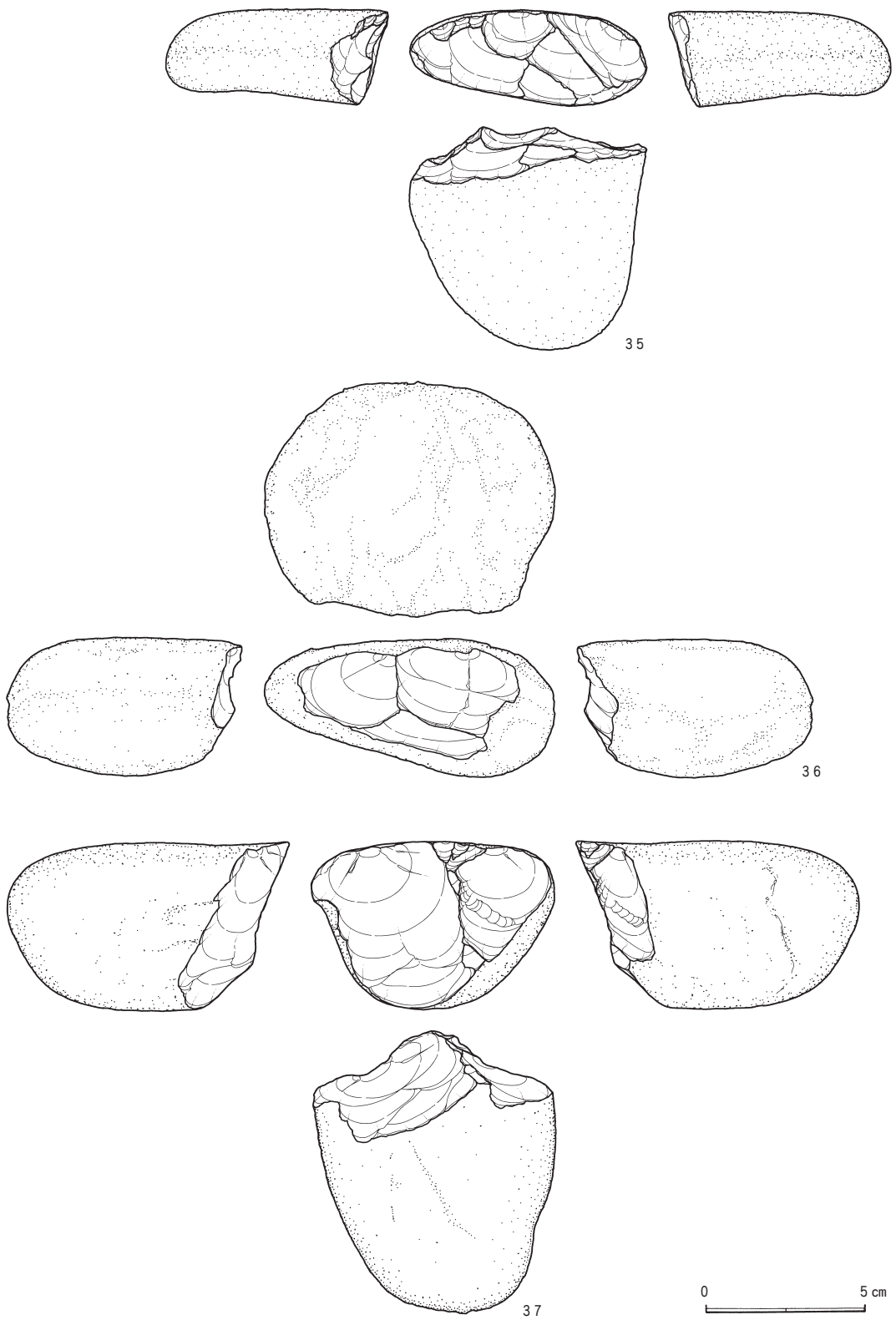


第96図　遺構外出土石器（4）

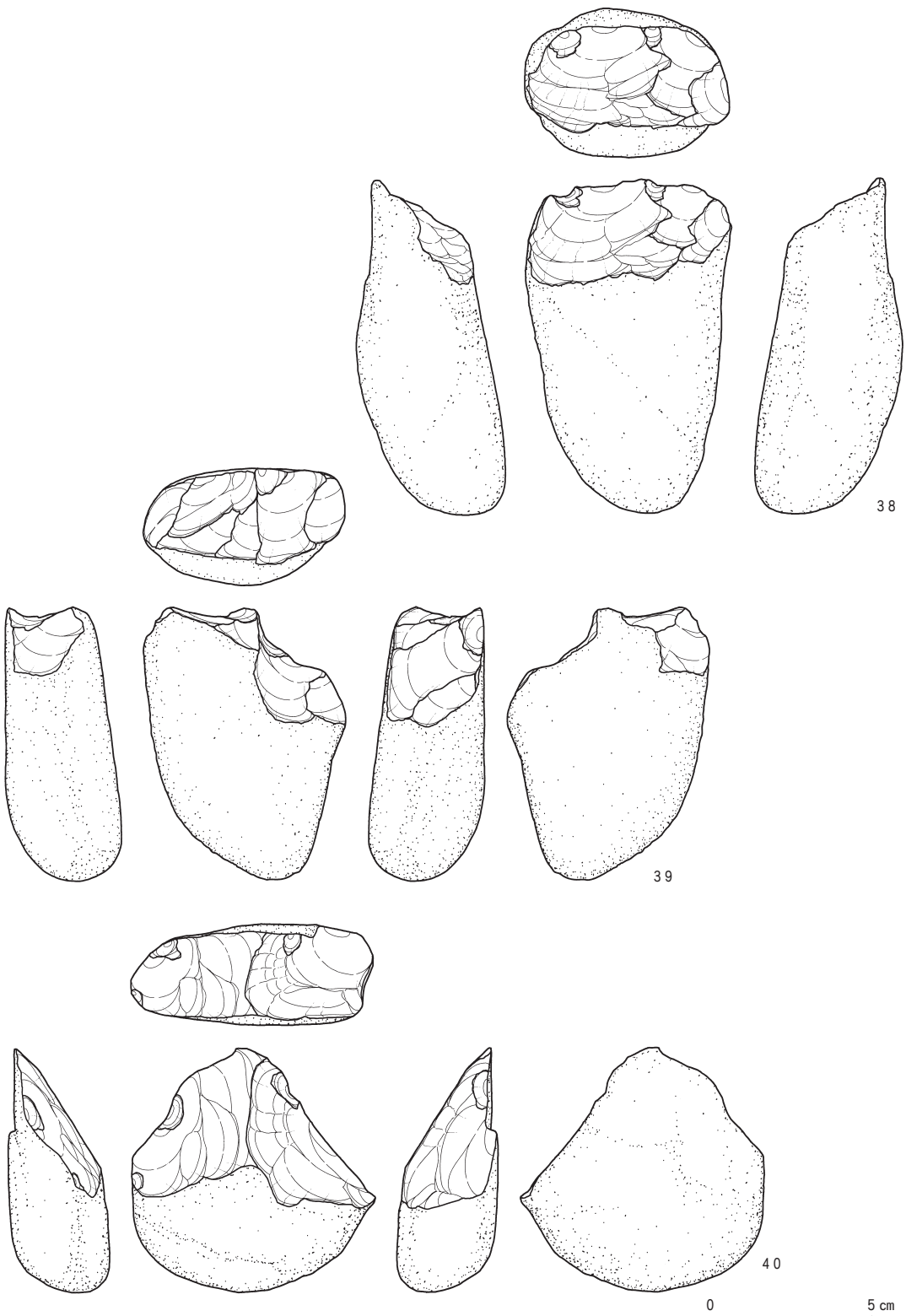


第97図　遺構外出土石器（5）

第98図　遺構外出土石器（6）



第99図　遺構外出土石器（7）



第100図　遺構外出土石器（8）

第４節　旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代に属する遺構と遺物は、西川に面した尾根Ａに分布していた。これらの礫群・配石・石器は、出土層位・水平分布・垂直分布を検討し、休場層、第Ⅲ黒色帯、第Ⅲスコリア帯黒色帯２を生活面とする文化層として認識した。

（１）休場層の遺構と遺物の分布状況（第101・104図）

休場層の遺構と遺物は、尾根Ａの西川に面した緩斜面に礫・配石・石器が分布しており、礫群４基46点、配石７基７点、単独礫46点からなる総計99点の礫が検出された。礫は尾根Ａの中央部と西側の緩斜面で礫群を形成していたが、石器はブロックを形成していなかった。

①遺構

ａ．礫群

礫群は尾根Ａに位置し、西側の西川を臨む緩斜面に分布する。これらの礫群は散在する石器類に重複しており、46点の構成礫が拡散的に分布していた。礫群４基の総重量は7,532g、１個の平均重量は163.7gである。礫の状態は、完形礫19点（41％）に比べ、破損礫27点（59％）が多い。

第１号礫群（第102図）

尾根Ａの２－３グリッドに位置する。構成礫は11点で、長軸約1.6m、短軸約1.5mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高166.25～166.51mにかけて約26cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高166.45m付近に礫の底面を置いている。総重量は2,095g、平均重量は190.5gである。構成礫は、完形赤変礫１点、完形非赤変礫４点、礫面非赤変破損礫６点である。礫群内の接合関係は認められない。

第２号礫群（第102図）

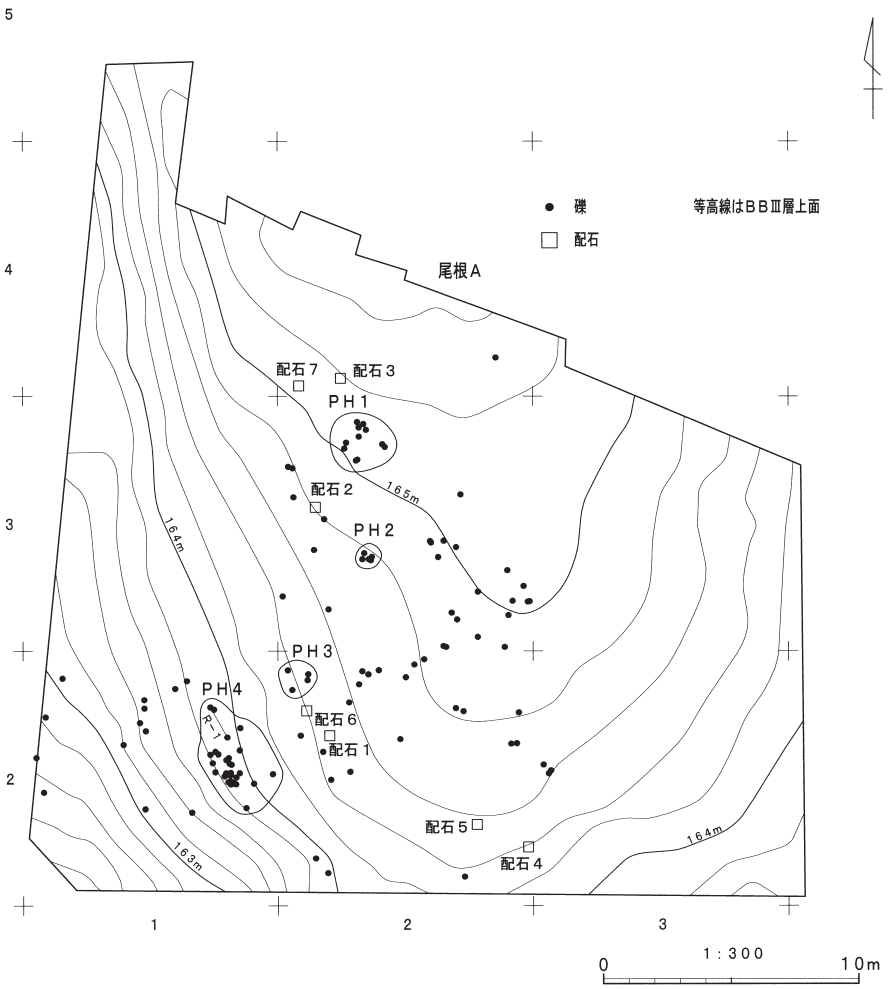
尾根Ａの２－３グリッドに位置する。構成礫は５点で、長軸約0.4m、短軸約0.3mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高166.28～166.36mにかけて約８cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高166.31m付近に礫の底面を置いている。総重量は944g、平均重量は188.8gである。構成礫は、完形赤変礫１点、完形非赤変礫１点、割面非赤変破損礫１点、礫面非赤変破損礫２点である。礫群内の接合関係は認められない。

第３号礫群（第103図）

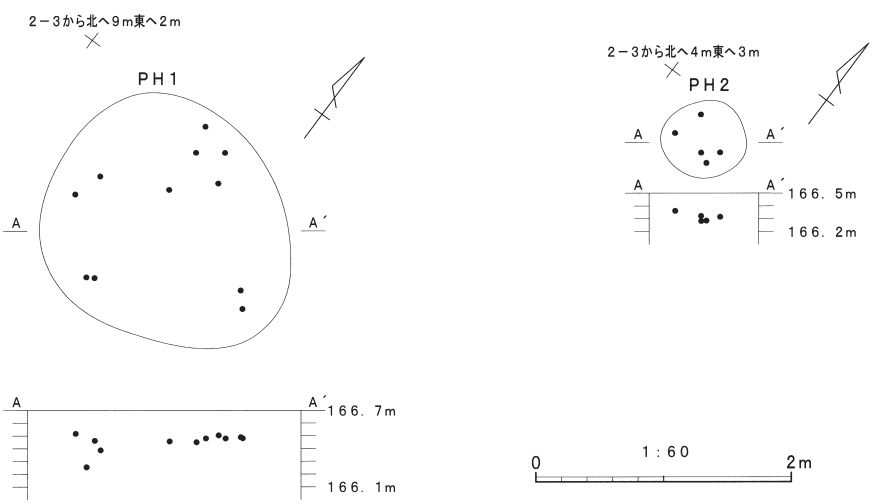
尾根Ａの２－２グリッドに位置する。構成礫は４点で、長軸約0.9m、短軸約0.8mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高165.66～165.88mにかけて約22cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高165.77m付近に礫の底面を置いている。総重量は640g、平均重量は160.0gである。構成礫は、完形赤変礫１点、完形非赤変礫１点、割面非赤変破損礫１点、礫面非赤変破損礫１点である。礫群内の接合関係は認められなかった。

第４号礫群（第103図）

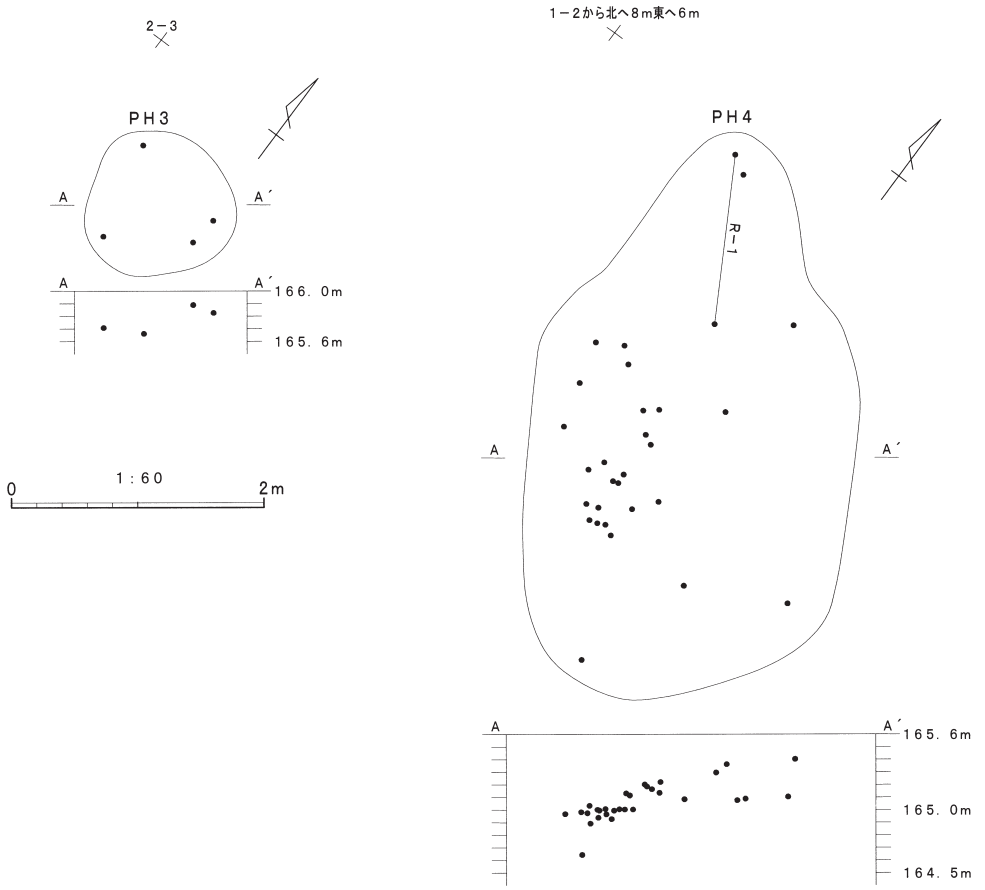
尾根Ａの１－２グリッドに位置する。構成礫は26点で、長軸約4.2m、短軸約2.0mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高164.89～165.40mにかけて約51cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高165.08m付近に礫の底面を置いている。総重量は3,853g、平均重量は148.2gである。構成礫は、完形赤変礫４点、完形非赤変礫６点、割面非赤変破損礫１点、礫面非赤変破損礫14点で



第101図　休場層礫群・配石分布図



第102図　第１号・第２号礫群実測図



第103図　第３号・第４号礫群実測図

ある。礫群内の接合関係は１例認められた。

ｂ．配石

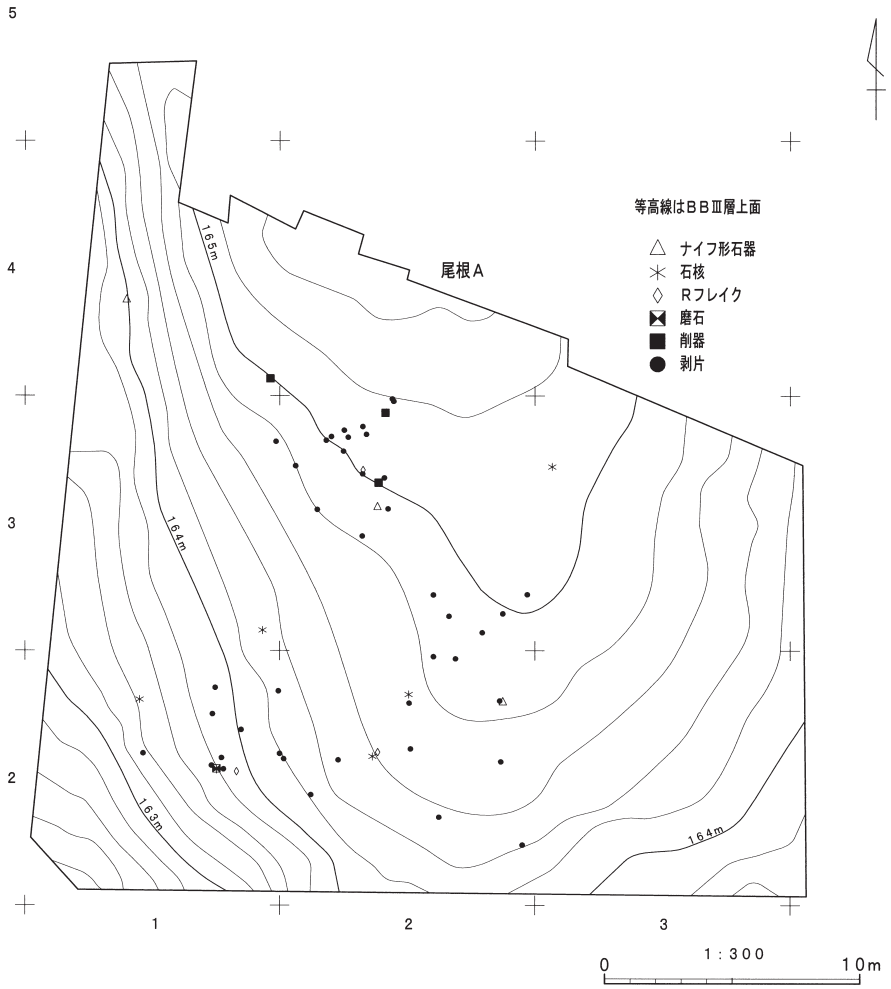
休場層では７基７個からなる配石が検出された。配石は尾根Ａに第１～７号配石が分布する。出土層位は休場層が６基、第０黒色帯が１基である。

配石７基の総重量は12,655g、１基の平均重量は1,808gである。配石の状態は完形赤変礫２点、完形非赤変礫３点、割面赤変破損礫２点であり、完形礫が72％を占める。赤変礫の29％に比べ、非赤変礫が71％と多い。

②遺物

休場層出土の遺物は、尾根Ａの単独出土の57点の石器群によって構成されている。石器群の内訳は、ナイフ形石器３点、削器３点、磨石１点、石核５点、ＲＦ３点、剥片・砕片42点であった。本文化層を構成する石器群の中で確認された示準的石器はナイフ形石器であり、剥片・砕片を除く他の器種は10点未満しか検出されていない。このような状況から、本文化層はナイフ形石器を主体とする石器群と推定される。

ナイフ形石器（第105図１・２）

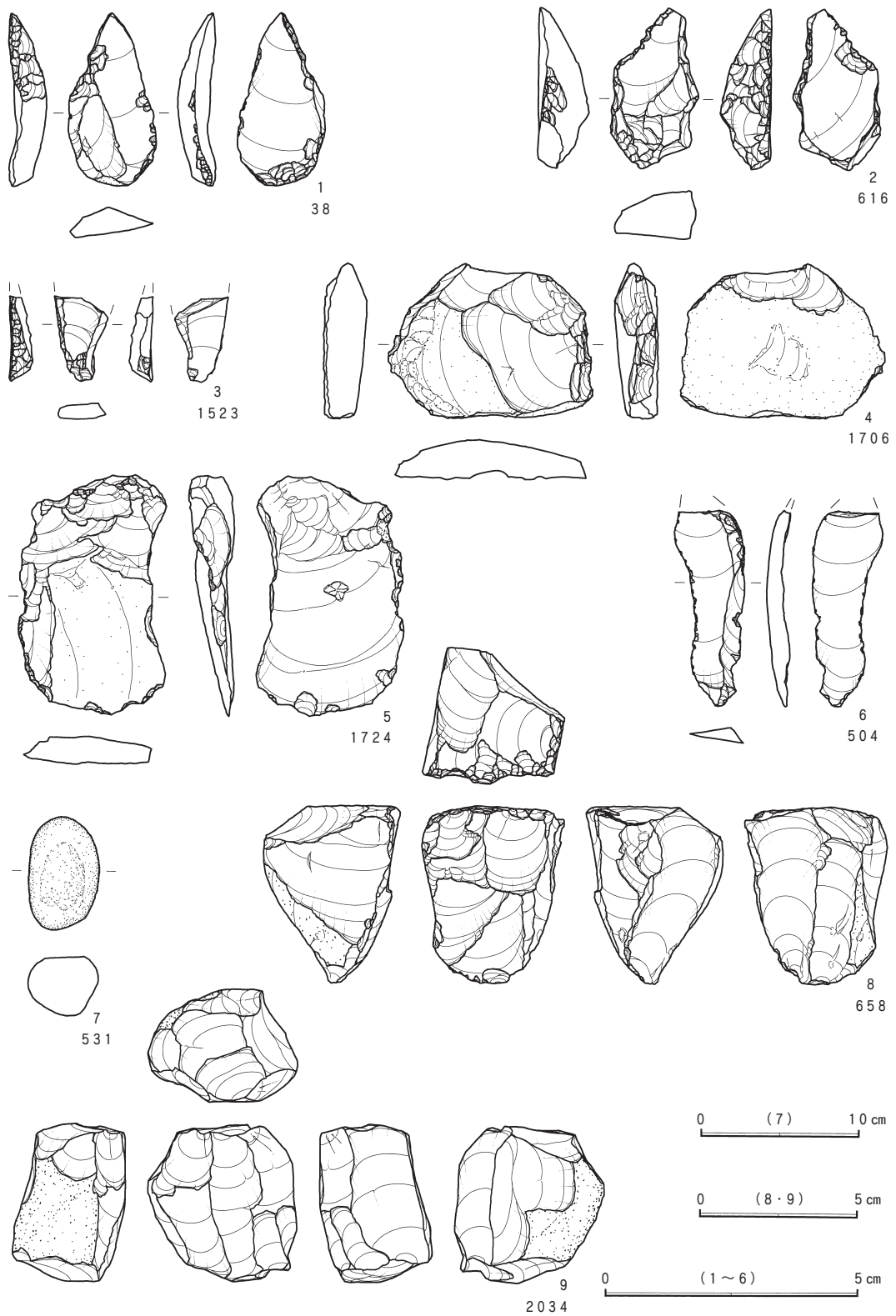


第104図　休場層石器分布図

二側縁加工のナイフ形石器のなかでも、最大長が３㎝以上５㎝以下のものが２点確認された。第105図１の最大長は3.4㎝、２は3.2㎝である。これらは刃部を除く両側縁にブランティングによる調整を加え、刃部と接する部分に鋭い先端を作出したものである。ブランティングは主要剥離面側から行われているものが多い。ブランティング加工以外に施されている調整は、基部の主要剥離面に面的な調整を加えている（１）。素材を構成している剥離痕は、剥離面、主要剥離面ともに同じ方向からの剥離痕によって構成されるもの（１・２）であった。素材剥片は剥離面と主要剥離面ともに同じ方向の剥離痕によって構成されたもので、単設打面をもつ石核から剥離された可能性が高いものである。素材は１が石刃、２が縦長剥片である。

ナイフ形石器の折損品（第105図３）

第105図３は基部片である。発掘調査時に、器体の中央から折損している。ブランティング加工は主要剥離面側から行われている。素材は縦長剥片で、主要剥離面と剥離面ともに同一方向の剥離痕が認められることから、単設打面石核から剥離された可能性が高い。



第105図　休場層出土石器（1）

削器（第105図４）

第105図４は表裏面に自然面が残る幅広厚手の剥片を素材とする削器である。刃部は裏面側からブランティング状の調整剥離を施している。

ＲＦ（第105図５・６）

第105図５は自然面が残る縦長剥片を素材とし、両側縁に粗い二次加工を施している。素材となる剥片は、主要剥離面と剥離面ともに同一方向の剥離痕が認められることから、単設打面石核から剥離された可能性が高い。６は縦長剥片を素材として右側縁に二次加工を施す。

磨石（第105図７）

第105図７は拳より小さめの安山岩の円礫を素材とする磨石である。表面を中心に磨り面が観察できる。

石核（第105図８～第106図12）

Ⅰ類は両設打面石核、Ⅱ類は単設打面石核、Ⅲ類は円礫に数回の剥離が加えられた石核素材と思われるものに大別した。

Ⅰ類（第105図８・９）　両設打面のもの。

剥片の剥離方向が180度異なるもので、石核の打面が180度転移する。剥離作業面は、第105図８が正右裏、９が正右である。剥離作業面には対向する方向の剥離痕が観察できる。８と９の裏面には礫面が残る。

Ⅱ類（第106図10・11）　単設打面のもの。

剥片の剥離方向が一方向に限定される。第106図10は正面を剥離作業面とし、打面は簡素な単剥離打面である。左右裏面に円礫面を残す。11は剥片剥離作業面を正面とし、一定の方向からの剥離痕が観察できる。

Ⅲ類（第106図12）　円礫に数回の剥離が加えられた石核素材と思われるもの。

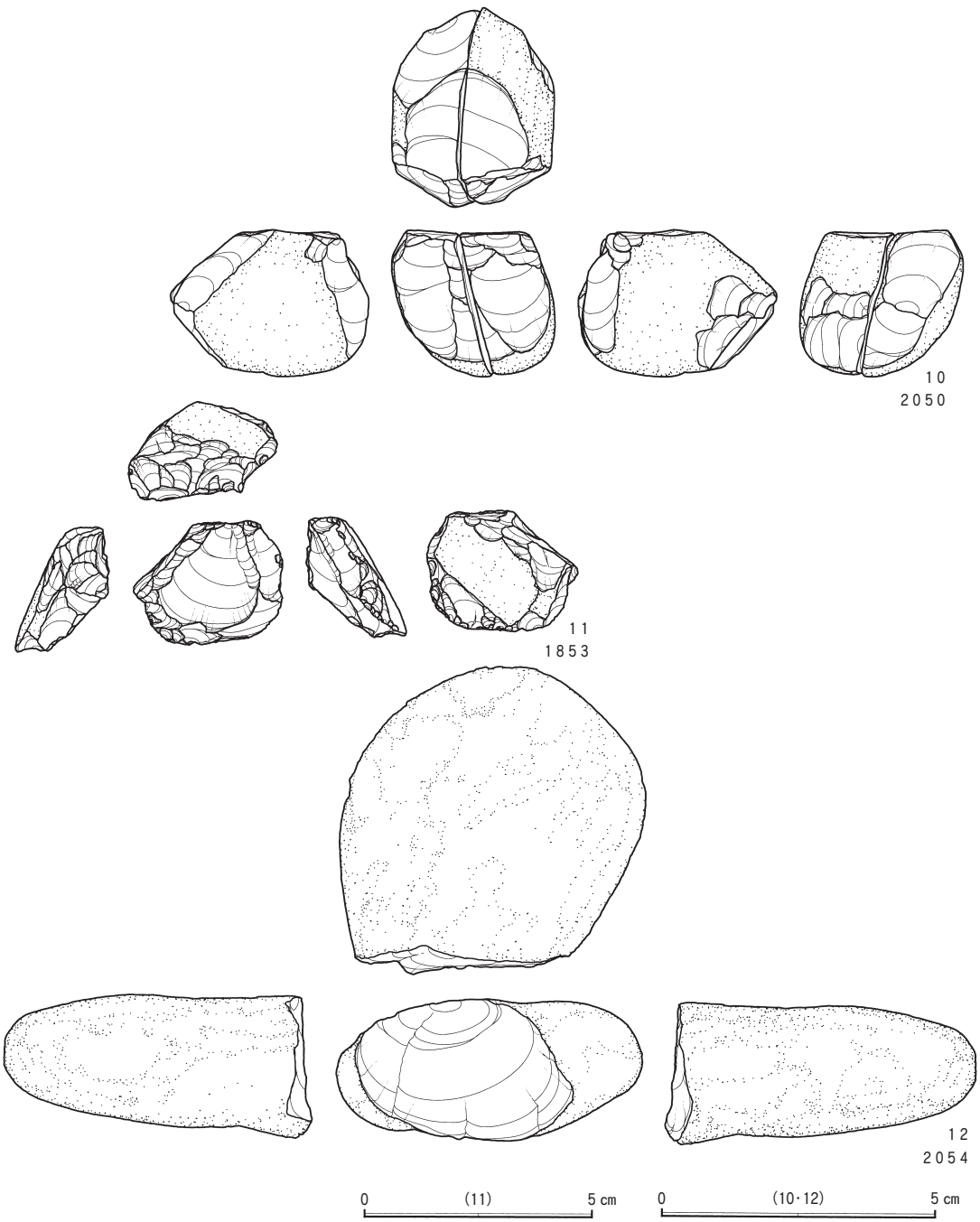
石核より素材礫に近い状態である。第106図12は扁平な礫の表面に数回の剥離を加えただけのものであり、打面部は自然面である。

③まとめ

本文化層は、ナイフ形石器を主体とする文化層で、これにわずかな量の削器、二次加工剥片、磨石、石核等の各器種が伴うナイフ形石器石器群である。ナイフ形石器は二側縁加工が認められたものの、量的に乏しい傾向にあった。

石材組成は、第一石材がＦ.ホルンフェルス26点（46％）、1,289.7g（86％）であり、出土点数・重量ともに比率が高い。この他、第二石材が黒曜石24点（43％）、119.9g（８％）、第三石材がガラス質黒色安山岩３点（５％）、40.3g（３％）である。

石器石材は、ナイフ形石器３点、削器１点、ＲＦ２点は黒曜石となっている。一方、石核石材はＦ.ホルンフェルス３点、黒曜石２点とややＦ.ホルンフェルスが占める割合が高い。剥片はＦ.ホルンフェルス23点（563.4g）、黒曜石16点（52.0g）とＦ.ホルンフェルスが多い傾向にある。これらのことから、Ｆ.ホルンフェルスの剥片は遺跡に残される傾向が高い石材と言える。一方、黒曜石は剥片が遺跡内に残らない傾向が高い石材と推定される。



第106図　休場層出土石器（２）

剥片剥離技術は、石器類の多くが石刃や縦長剥片を素材としていることから、石刃技法を技術基盤としてこれらの剥片類を生産していると考えられる。石核の観察では、剥片剥離方向を一定方向にしたもの、対向する二方向から剥片剥離を行う180度の打面転移技術をもつもの、礫素材の石核に粗い打面形成と剥片剥離を行うものが認められた。

（2）第Ⅲ黒色帯の遺構と遺物の分布状況（第107・109図）

第Ⅲ黒色帯の遺構と遺物は、西川に面した尾根Aに礫・配石・石器が分布しており、礫群2基11点、配石1基1点、単独礫2点からなる総計14点の礫と、5か所のブロックが検出された。

①遺構

a．礫群

礫群は尾根Aに位置し、西側の西川を臨む緩斜面に分布する。これらの礫群は散在する石器類に重複しており、11点の構成礫が散漫に分布していた。礫群2基の総重量は716g、1個の平均重量は65.1gである。礫の状態は、完形礫3点（27%）に比べ、破損礫8点（73%）が多い。

第1号礫群（第108図）

尾根A の2－3グリッドに位置する。構成礫は7点で、長軸約1.9m、短軸約1.1mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高164.98～165.05mにかけて約7㎝の分布幅を形成しており、大部分の礫は標高165.01m付近に礫の底面を置いている。総重量は188g、平均重量は26.9gである。構成礫は、完形非赤変礫1点、割面非赤変破損礫1点、礫面非赤変破損礫5点である。接合関係は無かった。

第2号礫群（第108図）

尾根A の2－2グリッドに位置する。構成礫は4点で、長軸約1.9m、短軸約0.4mの範囲に分布する礫群である。垂直分布は標高164.79～164.87mにかけて約8㎝の分布幅を形成しており、大部分の礫は標高164.83m付近に礫の底面を置いている。総重量は528g、平均重量は132.0gである。構成礫は、完形非赤変礫2点、割面非赤変破損礫2点である。礫群内の接合関係が1例認められた。

b．配石

第Ⅲ黒色帯では1基1個からなる配石が検出された。配石は尾根Aほぼ中央の2－3グリッド、第1号礫群に近接して分布する。出土層位は第Ⅲ黒色帯で、1基の重量は1,359gである。配石の状態は完形の非赤変礫1点であり、石材は安山岩であった。

c．ブロック

第1号ブロック（第110図）

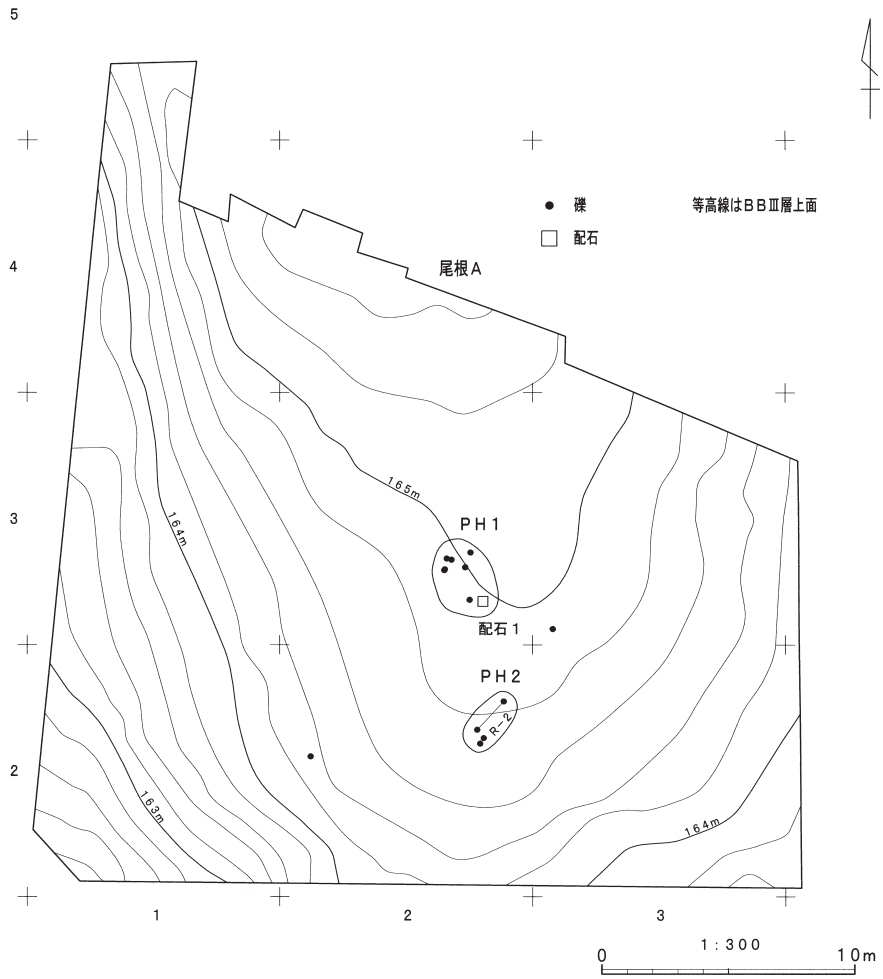
尾根A の2－4グリッドで確認したブロックである。南東側には1mの距離を隔てて第2号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約1.8m、短軸約1.3mである。石器類は、標高165.20～165.37mにかけて約17㎝のレベル差が生じていた。確認された石器群は、敲石1点、剥片・砕片11点である。

第2号ブロック（第110図）

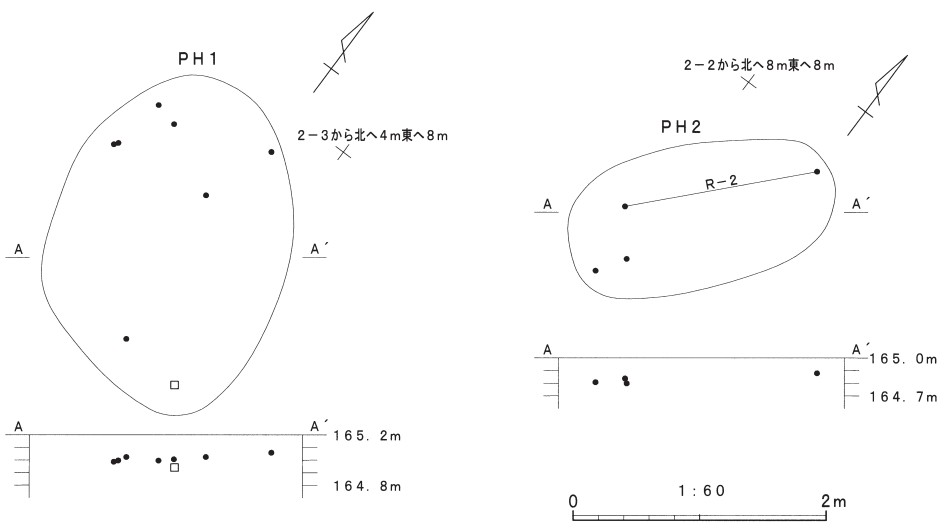
尾根A の2－3・4グリッドで確認したブロックである。南西側には0.8mの距離を隔てて第3号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約2.9m、短軸約1.5mである。石器類は、標高165.13～165.39mにかけて約26㎝のレベル差が生じていた。確認された石器群は、石核1点、剥片・砕片12点である。

第3号ブロック（第111図）

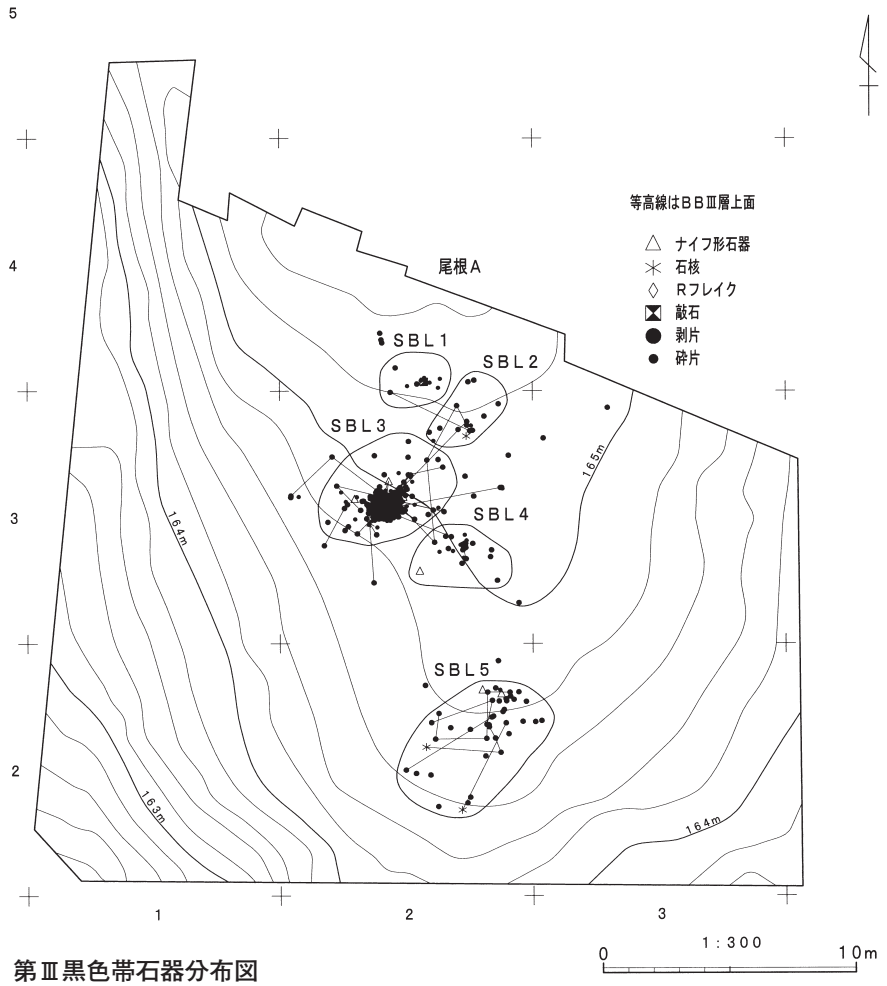
尾根A の2－3グリッドで確認したブロックである。南東側には0.8mの距離を隔てて第4号ブ



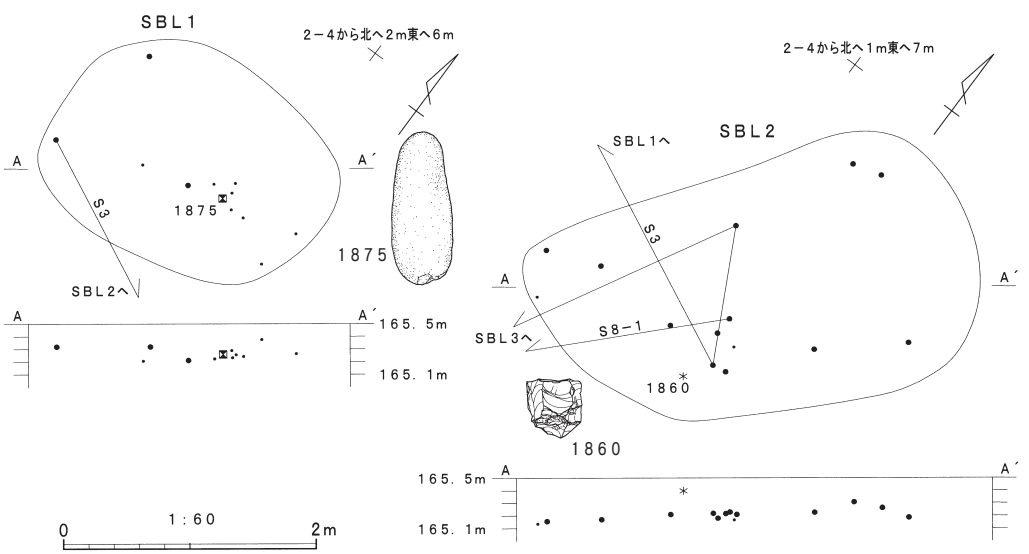
第107図　第Ⅲ黒色帯礫群・配石分布図



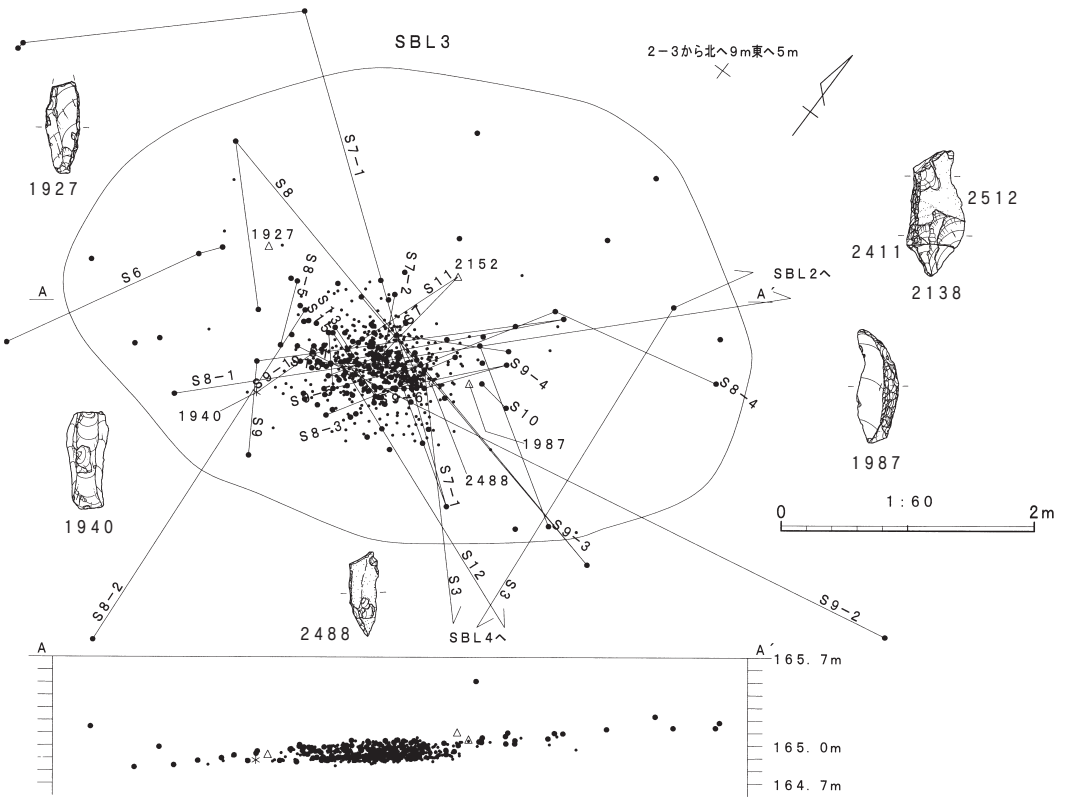
第108図　第１号・第２号礫群実測図



第109図　第Ⅲ黒色帯石器分布図



第110図　第１号・第２号ブロック実測図



第111図　第３号ブロック実測図

ロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約5.0m、短軸約3.0mである。石器類は、標高164.82～165.50mにかけて約68cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、ナイフ形石器３点、石核１点、剥片・砕片616点である。

第４号ブロック（第112図）

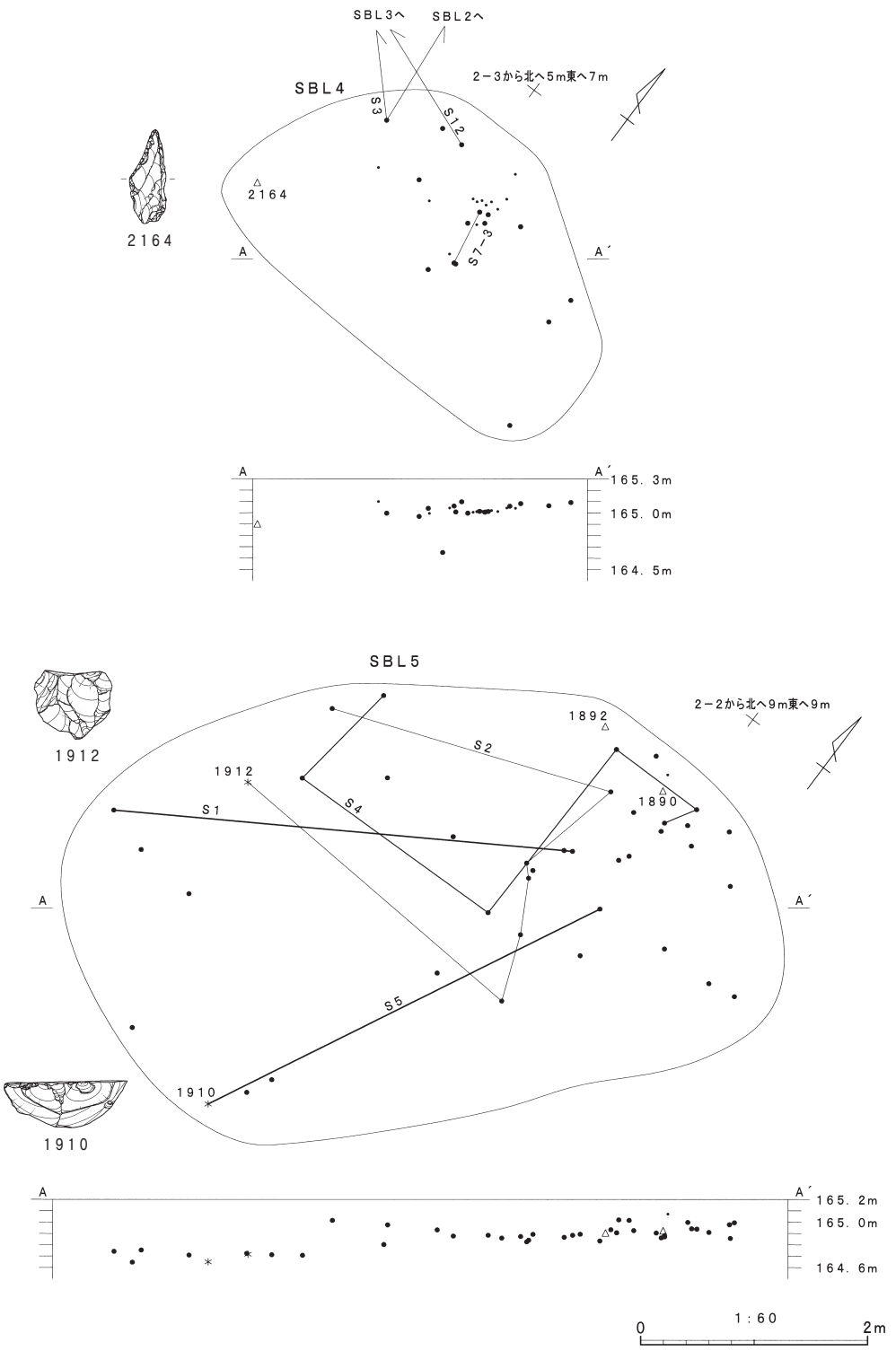
尾根Ａの２－３グリッドで確認したブロックである。南側には４mの距離を隔てて第５号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約3.1m、短軸約1.7mである。石器類は、標高164.65～165.10mにかけて約45cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、ナイフ形石器１点、剥片・砕片27点である。

第５号ブロック（第112図）

尾根Ａの２－２グリッドで確認したブロックである。北側には４mの距離を隔てて第４号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約5.7m、短軸約3.8mである。石器類は、標高164.64～165.07mにかけて約43cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、ナイフ形石器２点、石核２点、剥片・砕片39点である。

②遺物

第Ⅲ黒色帯出土の遺物は、５か所のブロックから検出された716点と単独出土の25点、合計741点の石器群によって構成されている。出土した石器は、ナイフ形石器７点、敲石１点、石核４点、Ｒ



第112図　第４号・第５号ブロック実測図

Ｆ１点、剥片・砕片728点であった。

ナイフ形石器（第113図１～７）

ナイフ形石器は二側縁加工のものをⅠ類、一側縁加工のものをⅡ類に大別した。

Ⅰ類（第113図１・２）　二側縁加工のもの。

５㎝以下３㎝以上の中形の大きさで、２点が確認された。黒曜石の石刃・縦長剥片を素材とし、一側縁のほぼ全縁に調整を施し、もう一方の側縁側に調整を到達させることによって先端部を形成しているものである。基部の整形は、一側縁だけの調整で終了しているもの（第113図２）と基端に素材剥片の打面が残置されているもの（１）がある。ブランティングは、主要剥離面側から剥離される例が多いが、器厚が厚い１では剥離面側からの調整が加えられており、調整方向を限定することなくブランティングが形成されていることがわかる。素材剥片の利用状態は、１・２とも素材の打面側に基部が形成されている。ブランティング以外の調整は、１の主要剥離面側に打瘤を除去するための平坦剥離が施される。これら２点のナイフ形石器は、主要剥離面と剥離面を構成している剥離痕の剥離方向が同一のもので占められており、一定した剥離方向を持つ剥片剥離工程の中で生産された石刃・縦長剥片が素材となっている。

Ⅱ類（第113図３～７）　一側縁加工のもの。

３㎝以上５㎝以下の中形の大きさで、５点が確認された。これらは一側縁のほぼ全側縁に調整を加えて、刃部と接する部分に先端部を作出するもの（第113図３・４）と一側縁の半分に調整を加えたもの（５～７）がある。ブランティングは主に主要剥離面側から施されるが、４や５の素材剥片のように器厚の厚いものは主要剥離面側と剥離面側から施されている。ブランティング以外に施される調整は、主要剥離面側の基部に面的な加工を施しているもの（４・５）がある。これら５点のナイフ形石器は剥離面、主要剥離面ともに同じ方向からの剥離痕によって構成されたものであった。このような素材剥片の在り方から、一側縁加工のナイフ形石器は石刃・縦長剥片を素材とし、単設打面をもつ石核から剥離された可能性の高いことがわかる。なお、１と３は発掘調査時に刃部を欠損している。

ＲＦ（第113図８）

第113図８は縦長剥片を素材として、左側縁に主要剥離面側からブランティング状の二次加工を施し、刃部との交点に鋭い先端部を作出している。

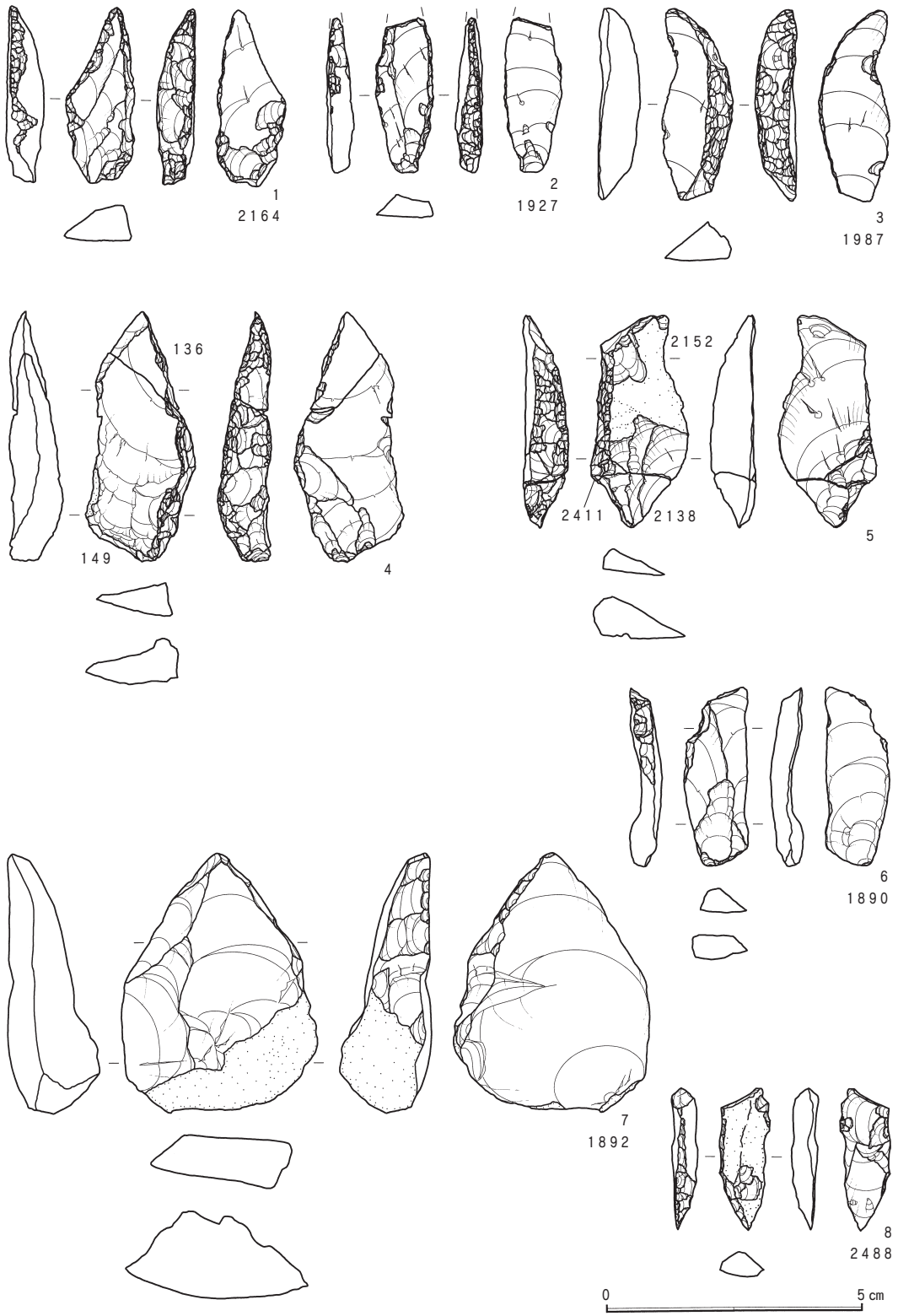
敲石（第114図９）

第114図９は安山岩製の敲石で、下端部に敲打による潰れが観察できる。

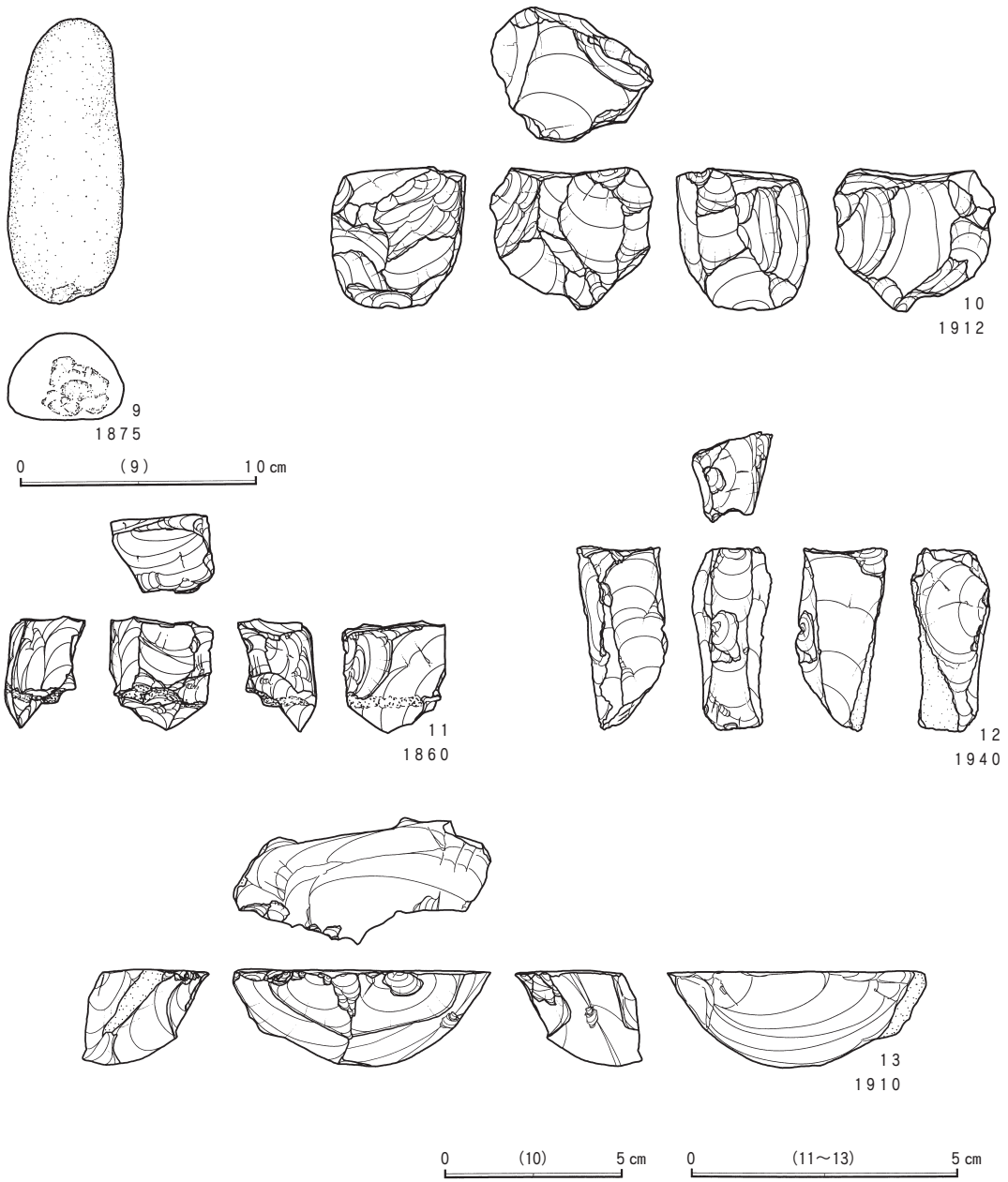
石核（第114図10～13）

石核は４点確認した。このうち、明確な剥片剥離作業を行っているものは、サイコロ状を呈する第114図10である。11～13は明確な剥片剥離作業が行われたものではなく、石核素材に数回の剥離を加えたものである。10は剥片剥離作業面を正左右裏として、剥片剥離作業が二方向以上に観察される。11～13は厚手の剥片を素材とする石核で、剥離作業面は正面である。素材の切断面（11・12）や節理面（13）を打面として数回の剥片剥離作業を行っている。

【接合資料】（第115図14～21）

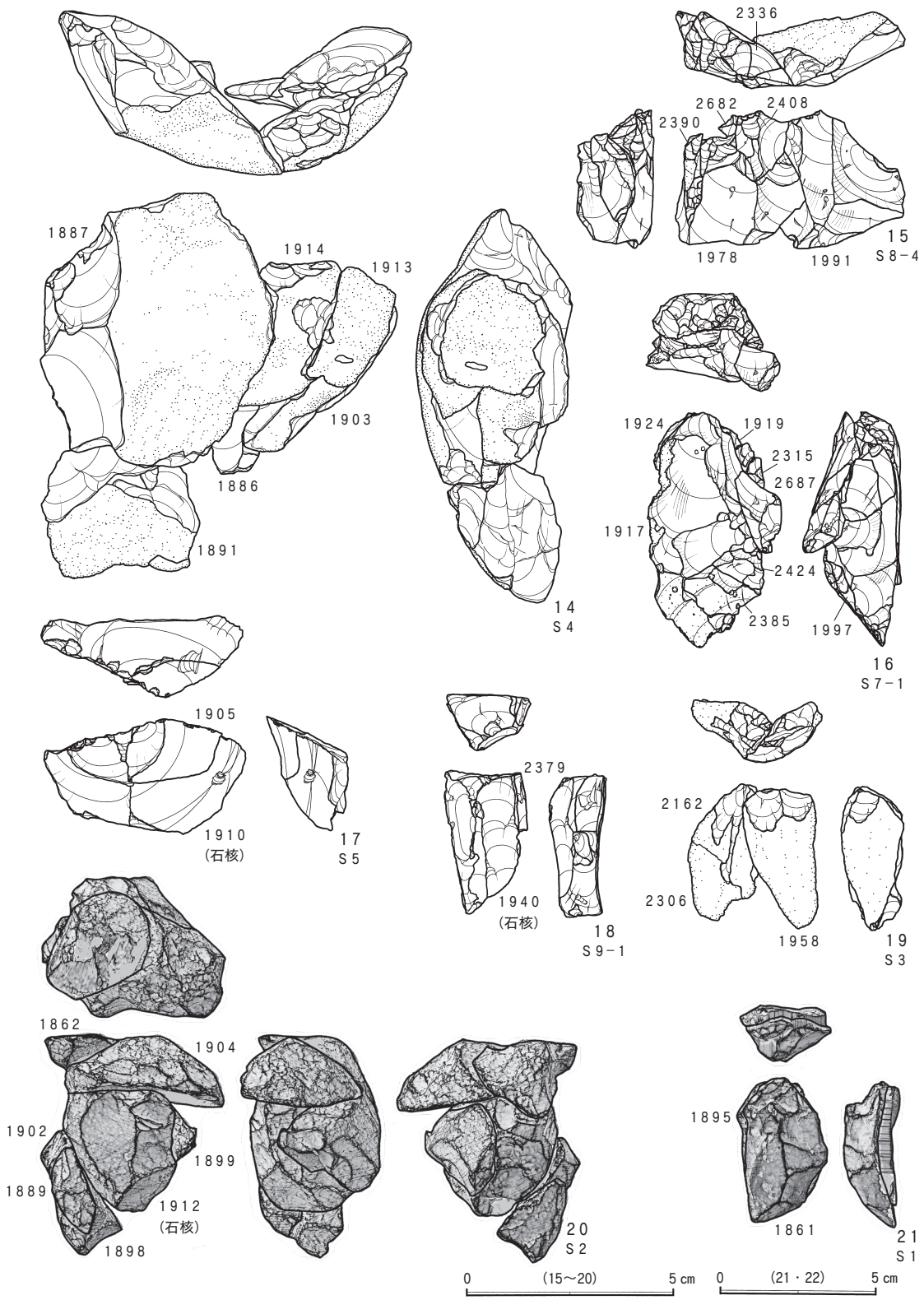


第113図　第Ⅲ黒色帯出土石器（1）



第114図　第Ⅲ黒色帯出土石器（2）

第115図14はＦ.ホルンフェルス製の剥片６点の接合である。接合状態を観察すると、石核素材の礫面を除去して剥片剥離作業を行ったことがわかる。剥離過程は、上方の複剥離打面から剥離された1887･1891から始まり、約１cmの打面調整を施した後、1913→1914→1903→1886へ進行している。15は剥片６点の接合である。接合状態を見ると、角礫面を打面とする石核から連続的に剥片剥離作業を行っていたことがわかる。剥離過程は2408・2390→1978→1991であり、2336・2682は1978の二次加工である。16は礫面を有する剥片８点の接合である。接合状態を見ると、角礫の端部に交互剥



第115図　第Ⅲ黒色帯出土石器（3）

離を施しながら、剥片剥離作業を行っていることがわかる。剥離過程は、2687→2424→2385→1997→1917→2315→1919→1924である。

17は鉄石英の石核１点（第114図13）と剥片１点の接合である。接合状態を見ると、節理面を打面とする剥片が接合している。剥離面を観察すると、節理面を打面として同一方向の剥離を２回行っていることがわかる。18は角礫面を有する板状の剥片を素材とする石核１点（第114図12）と、剥片１点の接合である。接合状態を見ると、切断面を打面として2379を剥離していることがわかる。剥離面を観察すると、正面の剥離作業面には下設の打面からの剥離痕が観察されることから、180度の打面転移を行いながら剥片剥離工程が進行している。19は円礫面を有する剥片２点の接合である。接合状態を見ると、単設打面石核から連続的に剥離されていたことがわかる。剥離過程は1958→2162・2306である。

20はＦ.ホルンフェルス製の石核１点（第114図10）と剥片６点の接合資料である。接合状況を見ると、まず上方の打面に打面調整を施して左側面と正面で剥片剥離作業を行っている。次に、斜めに傾いた下方の打面から左側面で剥片剥離作業を行っている。最後に、90度の打面転移をして背面で剥離作業を行っている。剥片の剥離過程は、1862→1904→1898→1902→1889→1899である。これらのことから、上設打面から下設打面に180度打面転移し、さらに90度打面転移して、剥片剥離作業が進行していることがわかる。21は剥片２点の接合である。接合状態を観察すると、同一の打面から剥離された剥片が接合しており、石核からの連続的な剥片剥離作業を示している。

③まとめ

第Ⅲ黒色帯の文化層は、５か所のブロックから検出された716点と単独出土の25点、合計741点の石器群で構成される文化層である。石器組成は断片的ではあるが、中形のナイフ形石器を組成する文化層で、敲石と石核が伴うナイフ形石器石器群である。ナイフ形石器は、中形の一側縁加工を主体として二側縁加工も認められた。

石材組成は、第一石材が黒曜石684点（92％）、331.0g（24％）であり、第二石材がＦ.ホルンフェルス45点（６％）、726.1g（52％）、第三石材が赤玉石７点（0.9％）10.8g（0.8％）である。

石器石材は、ナイフ形石器が黒曜石４点、Ｆ.ホルンフェルス２点、赤玉石１点で、ＲＦが黒曜石１点、石核が黒曜石２点、赤色チャート１点、Ｆ.ホルンフェルス１点となっている。

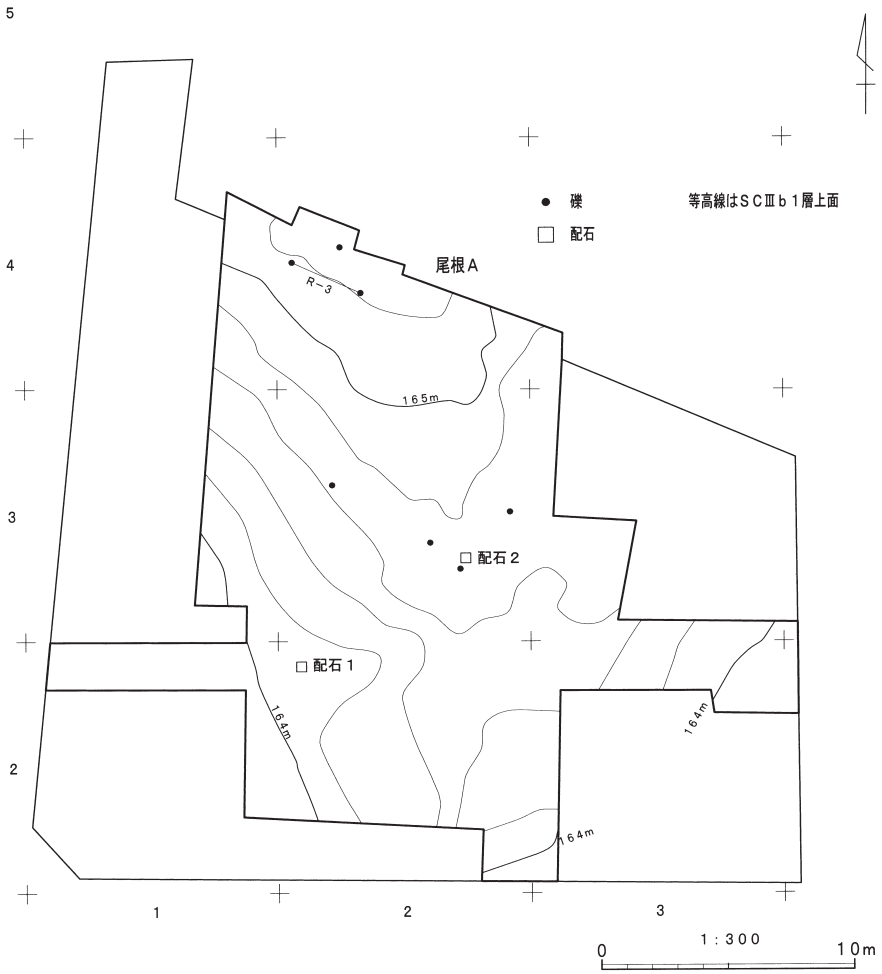
剥片剥離技術は、黒曜石製・Ｆ.ホルンフェルス製ナイフ形石器の素材となる石刃や縦長剥片から石刃技法の存在がうかがえる。そして、石刃・剥片の観察では、剥片剥離方向を一定方向にしたものが認められた。接合資料では、Ｆ.ホルンフェルス製の石核で両設打面石核から縦長剥片を作出している。以上のことから、本文化層では、剥片剥離方向を一定にした剥片剥離工程を有する石刃技法と180度の打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業を行う剥片剥離工程が認められた。

（３）第Ⅲスコリア帯黒色帯２の遺構と遺物の分布状況（第116・117図）

第Ⅲスコリア帯黒色帯２の遺構と遺物は、西川に面した尾根Ａに礫・配石・石器が分布していた。石器は２か所に集中していたが、礫と配石は散在していた。

①遺構

ａ．配石



第116図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２礫・配石分布図

第Ⅲスコリア帯黒色帯２では、２基２個からなる配石が検出された。配石は尾根Ａの西側に第１号配石、中央に第２号配石が分布する。出土層位は第Ⅲスコリア帯黒色帯２である。

配石２基の総重量は6,515g、１基の平均重量は3,258gである。配石の状態は、完形の非赤変礫１点、礫面非赤変破損礫１点であり、これらは安山岩製の非赤変礫である。

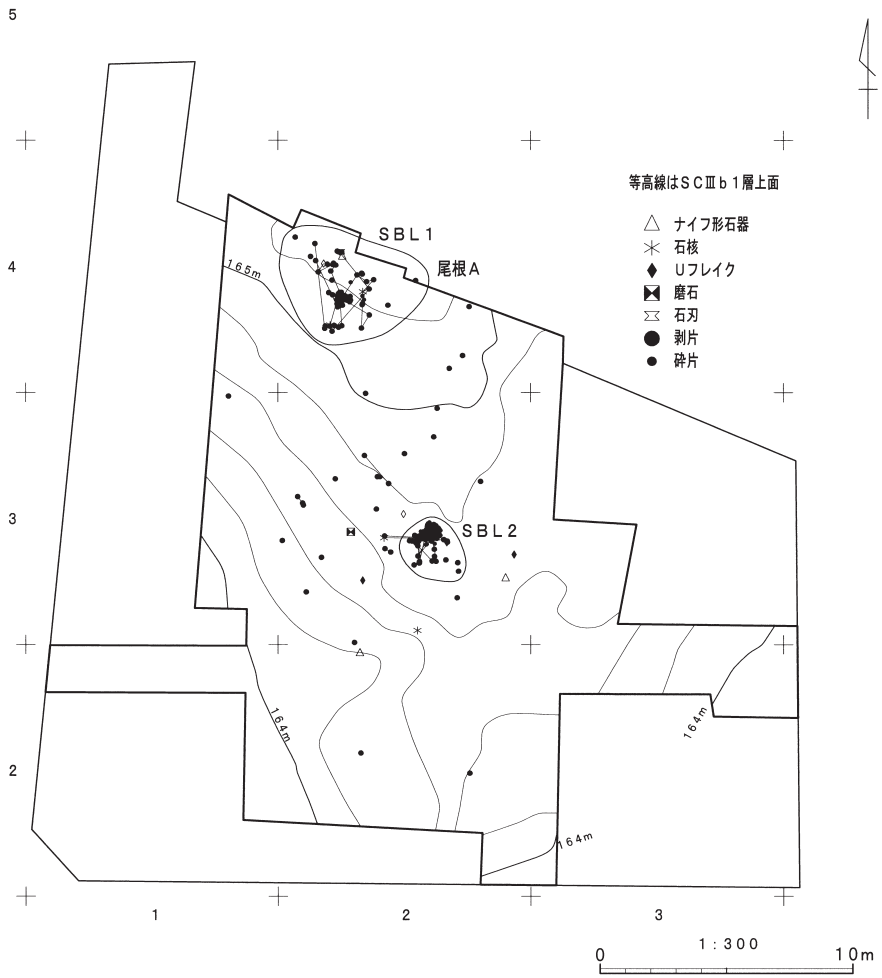
ｂ．ブロック

第１号ブロック（第118図）

尾根Ａの２－４グリッドで確認したブロックである。南東側には８ｍの距離を隔てて第２号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約5.0m、短軸約3.0mである。石器類は、標高164.94～165.33mにかけて約39㎝のレベル差が生じていた。確認された石器群は、ナイフ形石器１点、石核２点、石刃１点、ＲＦ１点、剥片・砕片77点である。

第２号ブロック（第118図）

尾根Ａの２－３グリッドで確認したブロックである。北側には８ｍの距離を隔てて第１号ブロッ



第117図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２石器分布図

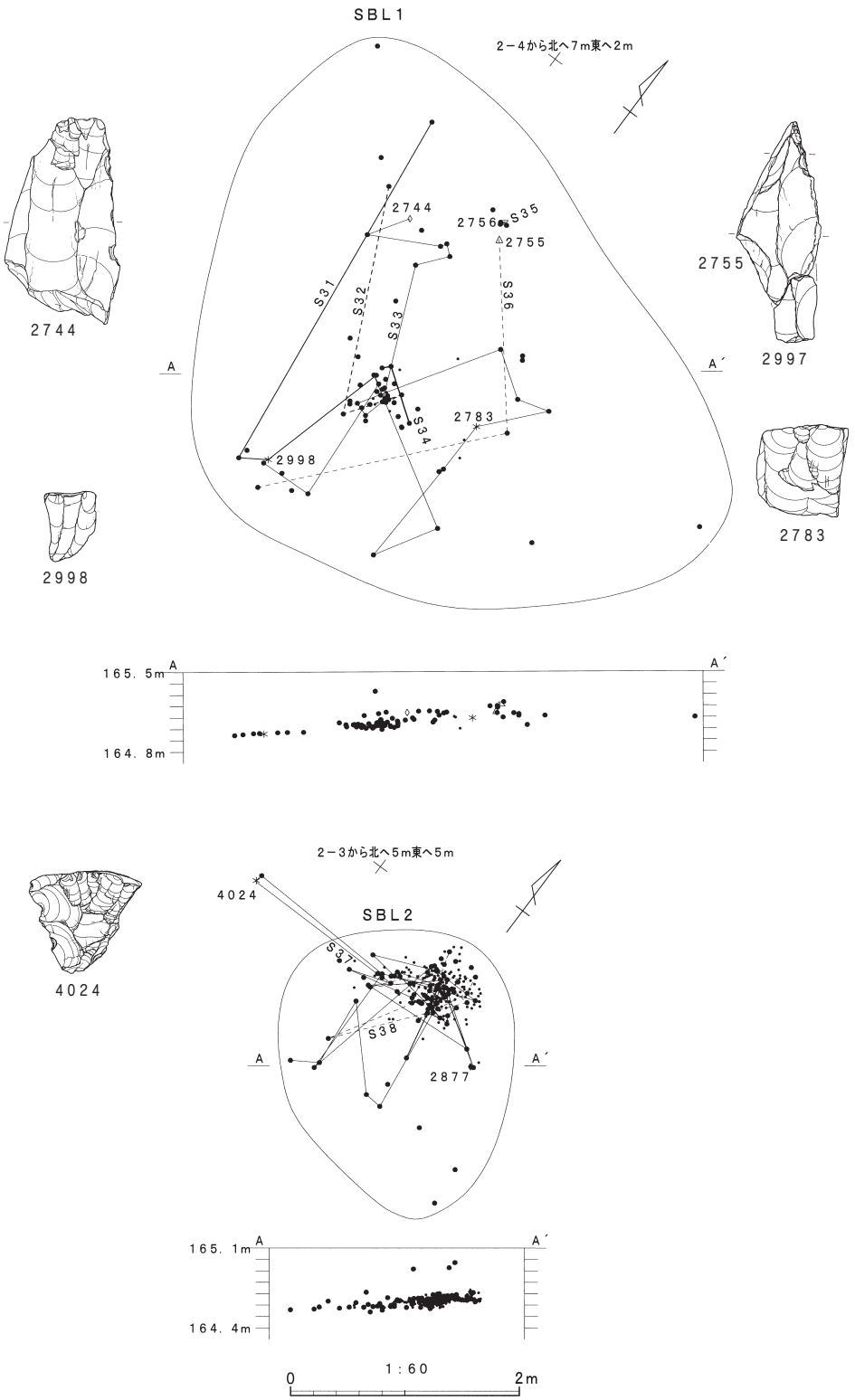
クが検出されている。ブロックの規模は、長軸約2.3m、短軸約1.8mである。石器類は、標高164.54～164.97mにかけて約43cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は、ＵＦ１点、剥片・砕片241点である。

②遺物

第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土の遺物は、２か所のブロックから検出された324点と単独出土の40点、合計364点の石器群によって構成されている。出土した石器は、ナイフ形石器２点、石核４点、ＲＦ２点、ＵＦ３点、石刃１点、磨石１点、剥片・砕片351点である。

ナイフ形石器（第119図１・２）

一側縁加工のものが出土している。第119図１は長さが５cm以上ある大形のものである。大形の縦長剥片を素材として先端部右側にブランティング加工を施してナイフ形石器としている。整形は主要剥離面側から施しており、剥離面側には行われていない。素材の利用方法は、素材石刃の打面側にナイフ形石器の基部を形成している。素材となった縦長剥片には、主要剥離面と180度剥離方



第118図　第１号・第２号ブロック実測図

向が異なった剥離痕が観察されることから、この縦長剥片が上下両端に打面を設置した両設打面石核から作出されていることが判断される。２は調査時に先端部と基部左側を欠損するが、最大長を復元すると５㎝以上を示している。Ｆ.ホルンフェルス製の石刃を素材とし、右側縁のほぼ全体にブランティング加工を施している。基部は尖った形状に整えている。整形に施される調整はブランティングで、すべて主要剥離面側から施される。素材の利用方法は、素材石刃の打面側にナイフ形石器の先端部を形成している。

ＲＦ（第119図３・４）

第119図３は厚手の石刃の鋭い右側縁に刃こぼれが認められるもので、剥離面側にのみ認められる。４は厚手の縦長剥片の鋭い両側縁に刃こぼれが認められるもので、剥離面と主要剥離面両側に認められる。これらの素材剥片は比較的大形の肉厚な剥片で、鋭い縁辺を持つ。

磨石（第119図５）

第119図５は扁平な円礫に磨り面と敲打痕が認められ、磨石と敲石の双方の機能を有していたと考えられる。

石核（第120図６～９）

Ⅰ類は両設打面石核、Ⅱ類は単設打面石核に大別した。

Ⅰ類（第120図６～８）　両設打面のもの。

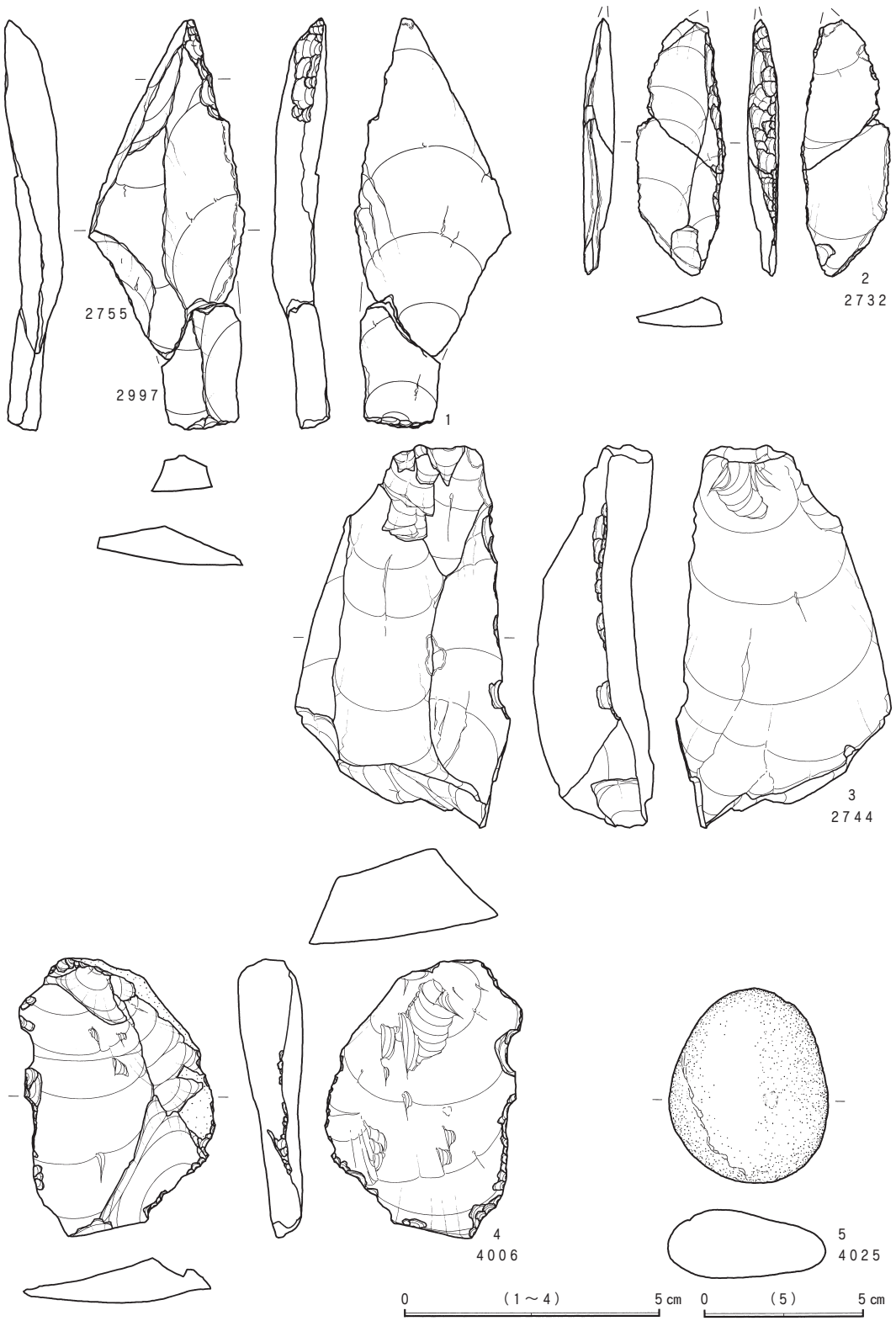
剥片剥離方向が180度異なるもので、石核の打面が180度転移する。第120図６は正面の剥離作業面に対向する方向から剥離された剥離痕が観察できる。上面の打面は打面調整を施している。７は剥片剥離工程の中に180度の打面転移技術を持つもので、上設打面は単剥離打面、下設打面は複剥離打面である。８は剥離作業面が打面を除く４面に形成されているが、主体的に剥片剥離作業を行っていたのは正面であり、上設打面からの剥離で形成された剥離痕が多い。上下の両設打面は細かい打面調整が施されている。作出された剥片は、剥離作業面の剥離痕の観察から、定形的な石刃を作出していたと思われる。

Ⅱ類（第120図９）　単設打面のもの。

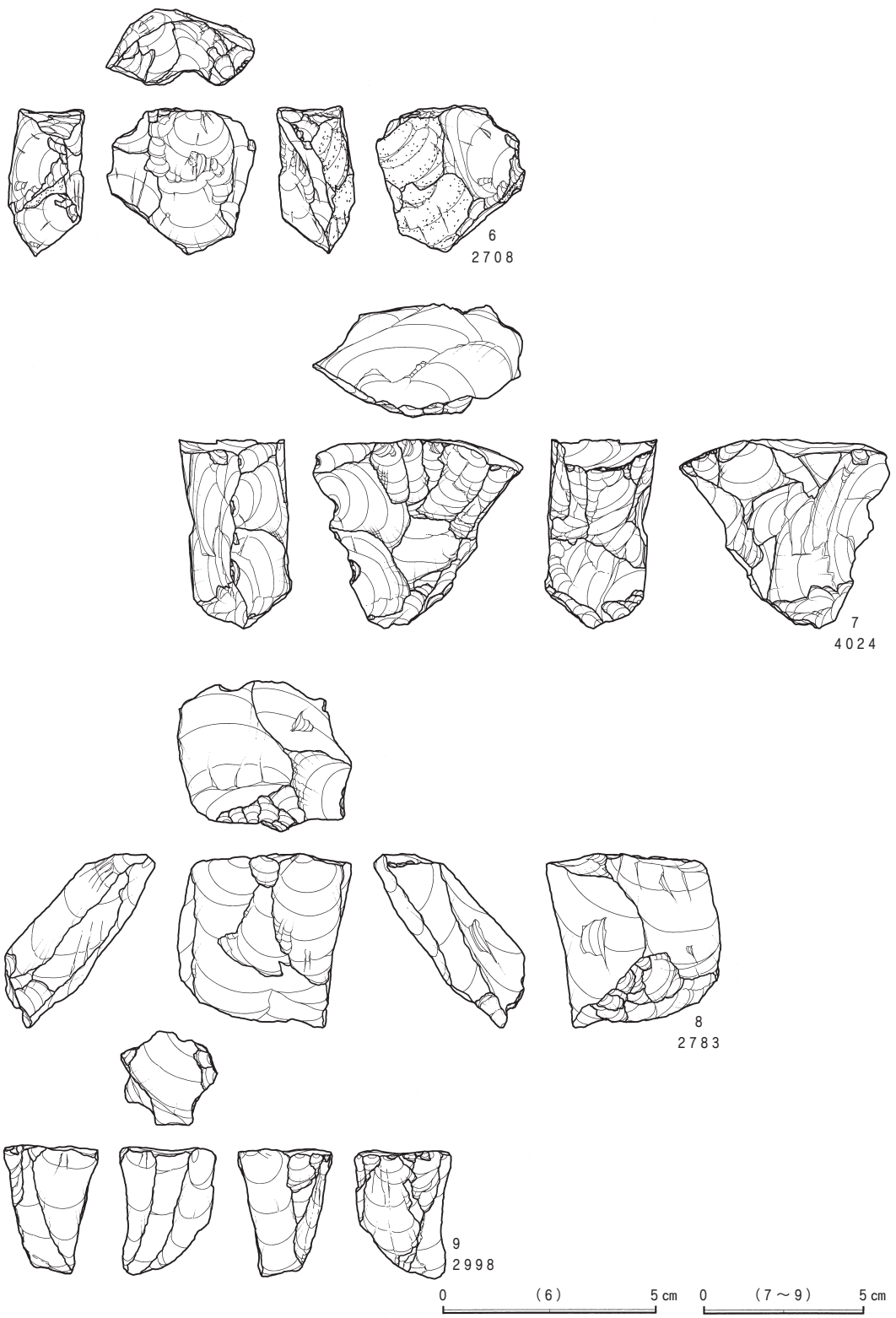
剥片の剥離方向が一方向に限定される。第120図９は石核調整を除く剥片剥離方向が同一の方向だけに限られる単設打面石核である。打面は複剥離打面で剥離作業面に頭部調整を行っている。剥片剥離作業面は正左右裏に認められる。剥離作業面の観察では、定形的な石刃を作出していたと思われる。

【接合資料】（第121図10～第122図17）

第121図10は石核１点（第120図８）と石刃・剥片・砕片19点の接合で、これらの接合状態が10である。接合状態は、石核に上設打面の調整剥片11点と下設打面の調整剥片３点、右側面と正面の剥離作業面の石刃・剥片５点が接合している。剥片の剥離過程は、まず上設打面の調整剥離が施される（2990→2746→2776→2747→2748→2779→2749→2994→2765→2784）。次に、上設打面からの剥片剥離作業を行う（2780→2999）。さらに、下設打面の調整剥離を施す（2785→2768→2766）。下設打面からの剥片剥離作業の後、上設打面からの剥片剥離作業を行う（2786→2745→2744）。最後に上設打面の打面調整を行う（2982）であった。剥離面の観察では、下設打面の調整剥離の後、下設



第119図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（１）



第120図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（２）

打面から右側面を剥離作業面とする剥片剥離作業の剥離痕が残っている。

第121図11～15・第122図17は石刃・剥片・砕片の接合である。接合状態は、石核からの連続的な剥離を示している。剥離面の観察では、単設打面石核からの連続的な剥離を示しているものが多い（11～13）。11は石刃２点の接合である。剥片の剥離過程は2713→2716である。剥離面の観察では、角礫素材の単設打面石核から2713を剥離した後、約0.7㎝の打面調整を施し、数回の剥離作業を行うなかで2716を剥離したものである。12は石刃・剥片５点の接合である。剥片の剥離過程は、2971→2937･2837→2930→3048である。13は石刃・剥片３点の接合である。剥片の剥離過程は、2934･2814→2926である。14は剥片２点の接合である。剥片の剥離過程は、2816→2853である。

15は剥片４点の接合である。接合状態は石核素材の円礫から礫面を除去する段階を示している。剥片の剥離過程は、2986→4004･2771→2743である。第122図17は石核１点と剥片２点の接合である。接合状態は石核素材の円礫から礫面を除去する段階と剥片剥離作業を示している。剥片の剥離過程は、2741→2993である。16は石核１点（第120図７）と剥片・砕片37点の接合で、これらの接合状態が16である。接合状態は、石核の下設打面に調整剥片４点、正面・左側面・裏面の剥離作業面に剥片･砕片32点が接合している。剥片の剥離過程は、上設打面からの剥片剥離作業から始まる（2800→2789→2977→2801→2924→3002→3005→2796→2792）。次に、下設打面の調整剥離を施し、剥片剥離作業を行う（2916→2807→2978→2806→3003→2804→2789→2790→3004→2798→3044→2896→4026→3008→2793→2791）。さらに、下設打面の調整剥離（2979）、剥片剥離作業（3049→2803）、下設打面の調整剥離（2875→2799→4022）を繰り返し、90度打面転移して裏面を打面とする剥片剥離作業を行う（2895→2805→2802→3007）。

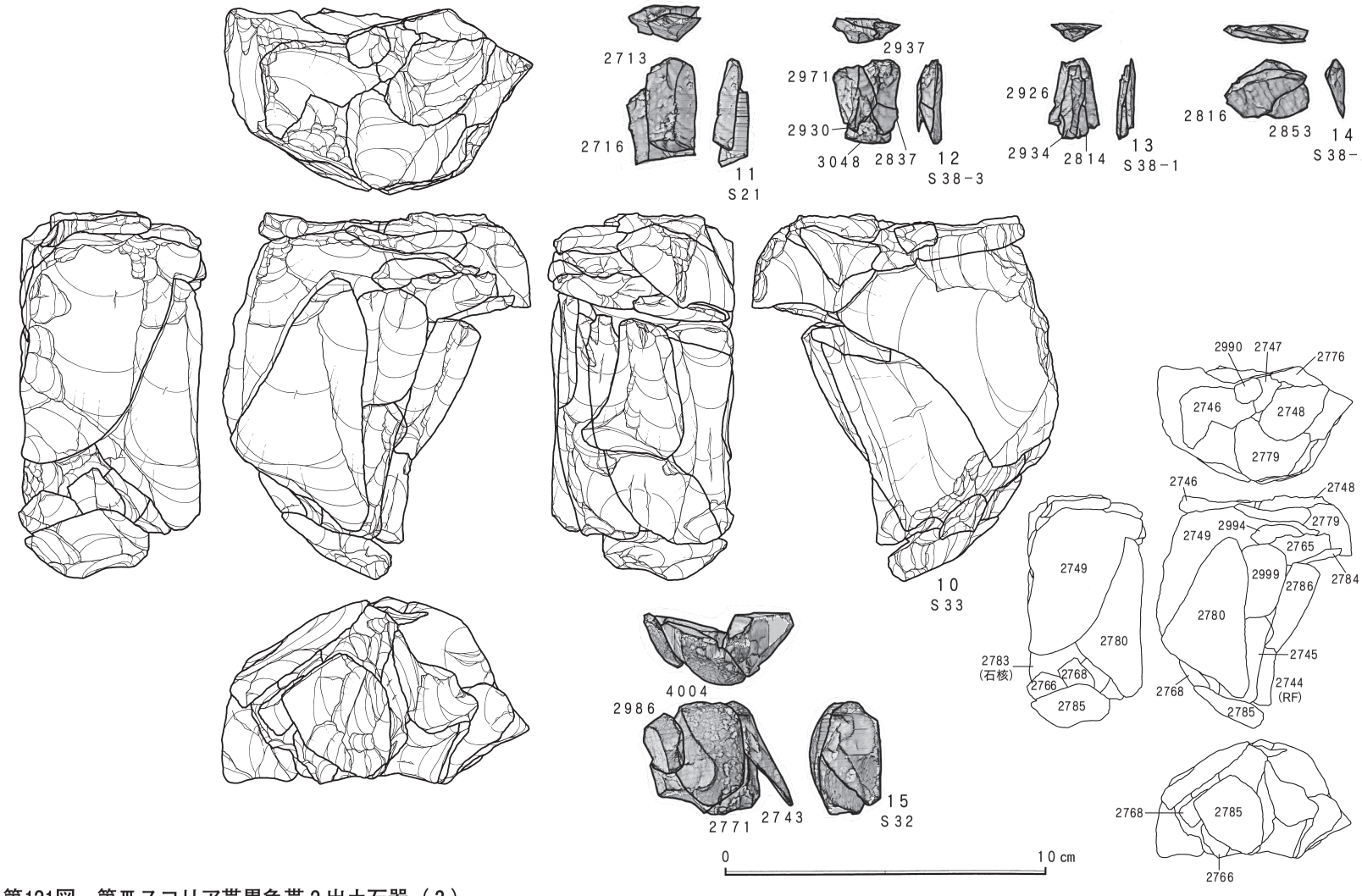
③まとめ

本文化層は、ナイフ形石器２点に石核、二次加工剥片、使用痕剥片、石刃、磨石などがわずかに伴う石器群である。ナイフ形石器を含めて量的に乏しく、断片的な内容であった。ナイフ形石器は、一側縁加工のナイフ形石器の製品が認められ、二側縁加工のナイフ形石器が認められなかった。これらは８㎝の大形のものを含み、石刃を素材としている。その他の石器のうち、二次加工剥片や使用痕剥片は石刃や縦長剥片を素材としている。

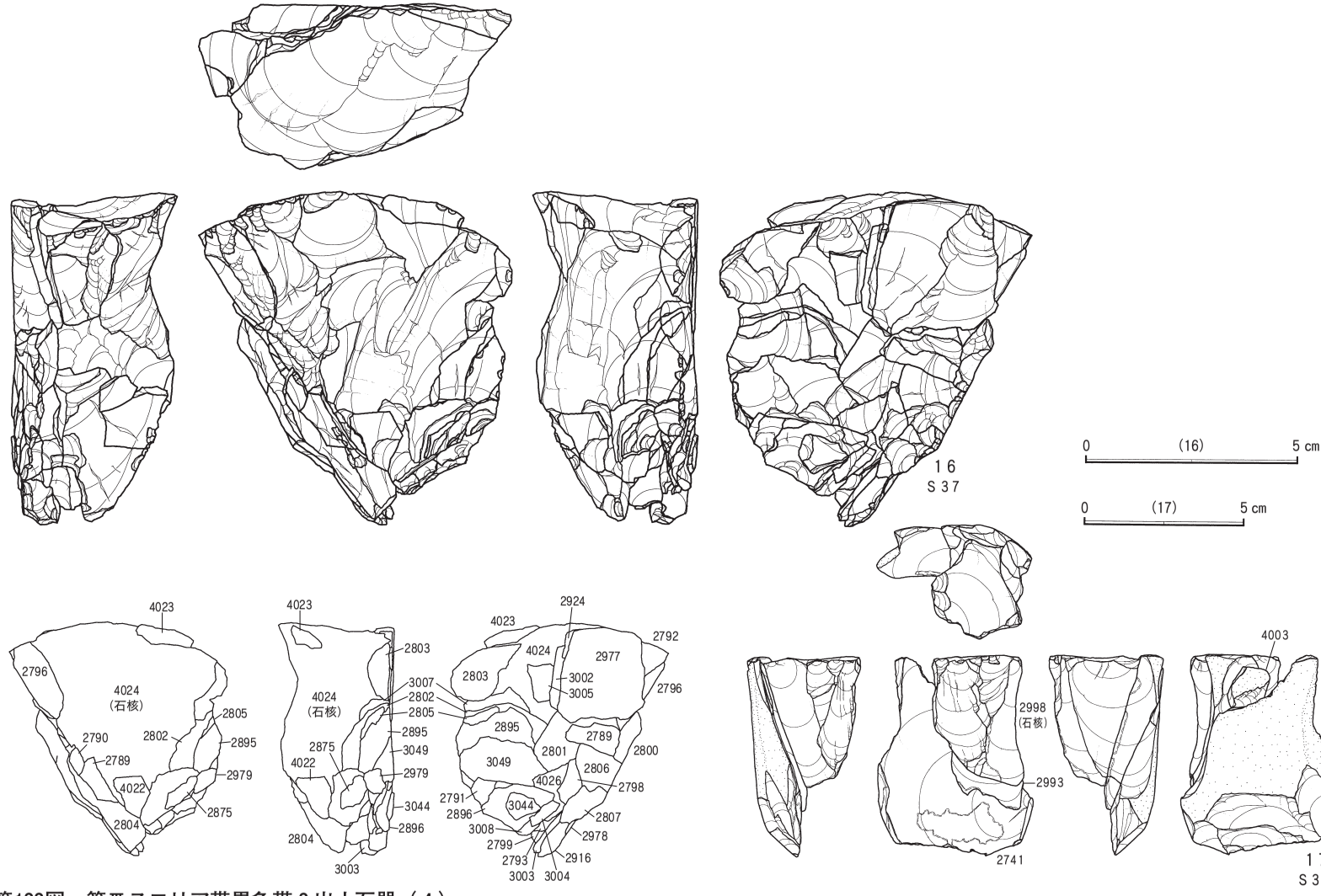
石材組成は、第一石材が黒曜石217点（60％）、第二石材がＦ.ホルンフェルス101点（28％）、第三石材が珪質頁岩43点（12％）である。重量では、Ｆ.ホルンフェルス818.5g（69％）、黒曜石179.1g（15％）、珪質頁岩190.6g（16％）となり、黒曜石とＦ.ホルンフェルスが逆転する。

石器石材は、ナイフ形石器２点がＦ.ホルンフェルス製であり、石核石材はＦ.ホルンフェルス２点、黒曜石１点、珪質頁岩１点である。剥片類は、黒曜石212点（125.5g）、Ｆ.ホルンフェルス95点（592.5g）珪質頁岩42点（67.6g）であり、黒曜石は小形で軽い剥片類が数多く残されていた。

剥片剥離技術について、ナイフ形石器や二次加工剥片等の素材となる石刃・剥片には、主要剥離面と同一方向の剥離によって剥離面が形成されている単設打面石核より剥離されたものと、180度剥離方向が異なる剥離が加えられているものがある。接合資料は、単設打面石核と剥片の接合例や両設打面石核と石刃･剥片の接合例があり、打面調整が頻繁に行われていたことがわかる。したがって、本文化層では技術基盤として石刃技法が用いられていたことが理解される。



第121図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（３）



第122図　第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（４）

第Ⅴ章　自然科学的分析

1．八兵衛洞遺跡の自然科学分析（1）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

愛鷹山南麓に位置する八兵衛洞遺跡では、いわゆる愛鷹ローム層の良好な土層断面が得られており、中部ローム層上部と考えられる層準で配石と考えられる遺構が検出されている。愛鷹ローム層の層序については、愛鷹ローム団研グループ（1969）が記載して以来、基本的にはこれが踏襲されているが、近年の遺跡発掘調査に伴う土層断面調査の増加により、テフラ層や暗色帯などはより詳細に分層されるようになった。本報告では、八兵衛洞遺跡で作成された愛鷹ローム層について、由井（1995）に示されている愛鷹ローム層の層序を基準とし、その各層における重鉱物組成および火山ガラスの産状を明らかにし、層序を検証する。本報告は、愛鷹ローム層の鉱物組成による基本層序という基礎資料を作成し、検出された配石遺構の層準を確認するものである。また今回の成果は、今後、愛鷹山南麓あるいは箱根火山西麓におけるローム層の層序対比を行う場合に有効な対比指標になり得る。

（1）試料

試料は、八兵衛洞遺跡調査区内のＥＷ３地点（№９地点）に設定された土層断面より採取された試料番号１～106までの106点である。試料は、表土層直下のローム層から厚さ５㎝で連続に採取し、後述する含雲母グリース状火山灰の層位付近まで、表土から約５ｍに及ぶ層位のローム層から採取されたものである。

現地所見では、色調の暗い暗色帯とスコリアまたは軽石の濃集する層準、および細粒の火山灰ブロックなどを基準として分層をおこなった。現地での分層は図１に示す通りであるが、これに由井（1995）の層序との対比を併記した。対比した土層のうち、特にBBⅠ～BBⅦまでの暗色帯は比較的明瞭に認められた。それらの暗色帯に挟まれるテフラ層の中ではSCⅡや黄白色の岩片を含むとされているSCⅢ－5などが識別でき、また中部ローム層上部の指標テフラとされているペアスコリアが認められた。さらに分析結果で後述するATとGrの２枚の細粒テフラも最大の厚さ数㎝程度のブロック状堆積物として土層断面中に認められた。

なお、愛鷹ローム層の標準層序では、BBⅠより上位にはSCⅠのテフラ層とBB０の暗色帯、そして休場ローム層（YL）となるが、ＥＷ３地点ではいずれも明瞭ではない。これについては、分析結果を踏まえて後述する。以上の状況を柱状図にして図１に示す。

（2）分析方法および試料の選択

一般に、地層の対比には指標テフラを鍵層として用いる方法が有効である。しかし、南関東のローム層、特に武蔵野台地や相模野台地のローム層などは、地層断面中に肉眼で認められるテフラに乏しい。このような指標テフラに乏しいローム層の対比には、指標テフラの降灰層準に加えて重鉱物組成の層位的変化をあわせて指標とすることが有効である。当社では、これまでにこれら台地の各地におけるローム層の分析を行っており、標準層位に対応した重鉱物組成の変化を見出している。

愛鷹山南麓のローム層は、上記の各台地のローム層に比べれば肉眼で認められるテフラ層は多いが、それでも場所によってはテフラ層として認識できないこともある。このような地点においては、重鉱物組成により層序対比を検証することができる。前述のように八兵衛洞遺跡ＥＷ３地点でも一部のテフラ層は明瞭ではないことから、重鉱物分析を行い、層序を検証する。

また、南関東では重要な指標テフラとしてUG（後述）とATがあるが、どちらもローム層中では肉眼で認められることは少なく、土壌中に混交するこれらのテフラに由来する火山ガラスの産状を調べることで、降灰層準を推定している。愛鷹山南麓でもATは肉眼で認められないことがしばしばあり、UGについては肉眼で認められた例はほとんどない。本地点でも、それぞれのテフラが検出されると考えられる層準について火山ガラス比分析を行い、それらの降灰層準を推定し、これを対比指標とする。

ここでは重鉱物分析には、試料番号１～106までの全層位にわたって１点おき、あるいは各層１点ずつになるように選択した55点を分析し、火山ガラス比分析には、全試料の火山ガラスの有無を確認したうえで、火山ガラスの含まれる試料25点を選択した。選択した試料は、表１･図１に示す。分析の処理過程を以下に述べる。

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4㎜－1/8㎜の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96）により重液分離、重鉱物と軽鉱物分中に含まれた火山ガラスを偏光顕微鏡下にて同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「不明」とした。また火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡持つ塊状、軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。火山ガラス比分析は、軽鉱物分中における火山ガラスを計数するものである。

（３）結果

①重鉱物分析

試料番号１から試料番号106までの全層位にわたって、カンラン石が最も多く、60～80％を占める。次に多いのは斜方輝石と単斜輝石の両輝石であり、10～20％程度である。他に角閃石と不透明鉱物が含まれるが、これらはいずれも微量しか含まれない。層位的な重鉱物組成の特徴は、カンラン石、斜方輝石、単斜輝石の３つの鉱物の量比により以下のように記載される。

BBⅠより上位のローム層：カンラン石は60～70％であり、両輝石は斜方輝石が多く、単斜輝石は微量である。ただし試料番号13では、カンラン石が80％近くを占め、斜方輝石と単斜輝石とは同量程度である。また、上半部では微量の角閃石が含まれ、下半部ではカンラン石の多くがイディングサイトに酸化変質している。

BBⅠおよびその下位のローム層：カンラン石はほぼ80％あり、今回分析を行ったなかでは最もカンラン石の量比の高い層位である。カンラン石以外では、斜方輝石が少量あり、単斜輝石と不透明鉱物は微量かほとんど含まれない。

BBⅡ・SCⅡ：カンラン石は70～80％あり、斜方輝石が20％程度ある。単斜輝石と不透明鉱物は微量かほとんど含まれない。

BBⅢ：カンラン石は約60％であり、今回分析を行ったなかでは下記のSCⅢ－5に次いで少ない。これに対して斜方輝石が30％以上あり、今回分析を行ったなかでは最も高い量比である。他に微量の単斜輝石と不透明鉱物が含まれる。

SCⅢ－1～SCⅢ－4：上部ではカンラン石が80％であり、少量の両輝石を伴うが、中～下部ではカンラン石は60～70％であり、斜方輝石が20～30％を占め、10％程度の単斜輝石を伴う組成である。

SCⅢ－5：カンラン石は約60％未満であり、今回分析を行ったなかでは最も少ない。これに対して斜方輝石が20％以上あり、単斜輝石も10％程度ある。

BBⅣ～BBⅥ直上のローム層：カンラン石は60～70％であり、斜方輝石は20％程度ある。微量の単斜輝石を伴う。カンラン石の多くは、イディングサイトに変質している。

BBⅥ～BBⅦ上部：カンラン石は80～90％であり、他に少量の斜方輝石と微量の単斜輝石を伴う。カンラン石の多くは、イディングサイトに変質している。

BBⅦ下部と直下のローム層：カンラン石は60～70％であり、斜方輝石が20％程度を占め、10％程度の単斜輝石を伴う組成である。

BBⅦ下部直下のローム層～ペアスコリアより上位のローム層：カンラン石は80～90％であり、斜方輝石と単斜輝石をそれぞれ10％程度伴う。上部ではカンラン石の多くは、イディングサイトに変質している。

ペアスコリア：カンラン石は70～80％、斜方輝石は10％程度であり、単斜輝石は20％程度ある。斜方輝石より単斜輝石の方が多い組成は、今回の分析のなかではこの層位だけである。

ペアスコリアより下位のローム層：カンラン石は70～80％、斜方輝石は10～20％、単斜輝石は５～10％という範囲で、各鉱物とも層位によって細かな増減がある。そのなかで、Grの直上にあるスコリア層の層位では、両輝石がどちらも10％程度であることが特徴である。

②火山ガラス比分析

BBⅠより上位のローム層：極めて微量のバブル型と微量の中間型、および少量の軽石型が混在し、特に濃集層準は認められない。ただし、試料番号７にはバブル型がやや多い。バブル型火山ガラスの中には褐色を帯びたものも認められる。

中間型および軽石型の火山ガラスは、産出層位と形態および当社による愛鷹山南麓～箱根火山西麓におけるいくつかの分析例から、立川ローム層最上部ガラス質火山灰（UG：山崎 1978）に由来する可能性がある。また、バブル型火山ガラスのうち褐色を帯びたものは、鬼界アカホヤ火山灰（K－Ah：町田・新井 1978）に由来し、無色透明のものは同テフラおよび後述するATに由来する。なお、UGの降灰年代は約1.2万年前、K－Ahのそれは約6300年前とされている（町田・新井 1992）。

BBⅠ～BBⅡ最上部：無色透明のバブル型火山ガラスが濃集する。これは産出層位と形態から姶良Tn火山灰（AT：町田・新井 1976）に由来する。最濃集層準は試料番号27～28であり、土層断面で認められたブロック状堆積物の層位とほぼ一致する。ATの降灰年代は2.2～2.5万年前とされている（町田・新井 1992）。

表１　ＥＷ３地点の重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	黒雲母	その他	合計
1	159	32	7	3	0	13	36	250	2	9	16	0	223	250
3	156	38	5	4	0	17	30	250	4	5	15	0	226	250
5	141	34	6	7	0	7	55	250	3	4	15	0	228	250
7	149	41	12	0	0	20	28	250	17	8	16	0	209	250
9	155	42	3	8	1	11	30	250	3	3	0	0	244	250
11	176	38	6	9	1	5	15	250	2	9	18	0	221	250
13	191	17	11	1	0	8	22	250	3	12	18	0	217	250
15	166	41	6	3	1	10	23	250	5	10	26	0	209	250
17	156	50	9	2	0	10	23	250	4	7	39	0	200	250
18	162	47	3	1	0	12	25	250	3	11	28	0	208	250
20	209	20	2	1	0	2	16	250	57	0	0	0	193	250
22	216	13	1	1	0	1	18	250	88	0	1	0	161	250
24	214	15	1	3	0	2	15	250	159	0	1	0	90	250
26	211	22	6	1	0	3	7	250	207	0	0	0	43	250
28	200	30	5	2	0	6	7	250	225	0	0	0	25	250
30	185	57	0	0	0	1	7	250	20	1	1	0	228	250
32	194	43	5	0	0	4	4	250	2	0	0	0	248	250
34	188	43	7	0	0	2	10	250	—	—	—	—	—	—
36	150	82	10	1	0	3	4	250	—	—	—	—	—	—
38	202	27	14	0	0	1	6	250	—	—	—	—	—	—
40	200	32	2	0	0	1	15	250	—	—	—	—	—	—
42	148	63	16	0	0	3	20	250	—	—	—	—	—	—
44	170	49	7	0	0	1	23	250	—	—	—	—	—	—
47	157	62	19	0	0	3	9	250	0	4	2	0	244	250
49	142	60	28	0	0	2	18	250	0	4	2	0	244	250
50	174	51	9	0	0	3	13	250	0	3	1	0	246	250
52	173	60	3	0	0	4	10	250	—	—	—	—	—	—
54	153	49	20	0	0	2	26	250	—	—	—	—	—	—
56	170	64	7	0	0	1	8	250	—	—	—	—	—	—
58	173	51	11	0	0	8	7	250	—	—	—	—	—	—
60	212	22	10	0	0	3	3	250	—	—	—	—	—	—
62	204	24	4	0	0	1	17	250	—	—	—	—	—	—
64	203	25	10	0	0	0	12	250	—	—	—	—	—	—
66	164	43	15	1	0	2	25	250	—	—	—	—	—	—
68	161	42	24	1	0	7	15	250	—	—	—	—	—	—
70	181	36	27	2	0	1	3	250	—	—	—	—	—	—
72	201	16	23	2	0	3	5	250	—	—	—	—	—	—
74	208	17	17	0	0	3	5	250	—	—	—	—	—	—
76	212	16	20	2	0	0	0	250	—	—	—	—	—	—
78	191	22	30	0	0	2	5	250	—	—	—	—	—	—
80	202	20	19	0	0	3	6	250	—	—	—	—	—	—
81	193	15	35	1	0	2	4	250	—	—	—	—	—	—
82	185	19	43	0	0	1	2	250	—	—	—	—	—	—
83	176	21	44	3	0	1	5	250	—	—	—	—	—	—
85	174	13	54	0	0	3	6	250	—	—	—	—	—	—
87	182	37	26	1	0	1	3	250	—	—	—	—	—	—
90	178	46	12	1	0	6	7	250	—	—	—	—	—	—
92	210	25	6	0	0	3	6	250	—	—	—	—	—	—
94	200	23	15	0	0	6	6	250	0	1	1	0	248	250
95	172	29	26	0	0	7	16	250	0	0	2	0	248	250
96	183	26	18	2	0	5	16	250	1	0	1	0	248	250
98	195	26	11	0	0	1	17	250	0	0	3	17	230	250
101	197	36	9	2	0	2	4	250	0	3	2	0	245	250
103	180	34	18	0	0	1	17	250	—	—	—	—	—	—
106	203	21	15	0	0	6	5	250	—	—	—	—	—	—

SCⅢ－5付近：微量の中間型火山ガラスが認められた。おそらくSCⅢ－5テフラに由来すると考えられる。

Gr付近：試料番号98の軽鉱物分の中に少量の黒雲母が認められた。これにより、試料番号98の層準の細粒火山灰のブロックは、含雲母グリース状火山灰（Gr：愛鷹ローム団研グループ 1969）に対比される。また、Gr付近の層位には微量の軽石型火山ガラスが認められたが、これはGrに由来するものかも知れない。

（4）考察

①BBⅠより上位のローム層について

前述のように、ＥＷ３地点におけるBBⅠより上位のローム層では、標準土層にあるSCⅠ、BB０そして休場ローム層の下部、中部、上部の各層位との対比が不明である。この層位は分析により、UGの火山ガラスが拡散していることがわかったが、それはBBⅠ直上にまでほとんど量的には変わらずに散っている。ATとの層位関係を考えれば、このようなUGの火山ガラスの産状は、それを含むローム層がUG降灰後に攪乱再堆積により形成された土層であることを示唆している。さらに、BBⅠとその上位のローム層とでATの火山ガラスの量比が急激に減少していることから、両層間の形成に不連続のあった可能性が高い。

BBⅠ上位のローム層が攪乱再堆積した時期については、この層中にK－Ahの火山ガラスが含まれることから、K－Ah降灰以降である可能性がある。したがって、再堆積のもととなった土層は、YLを主体とするローム層最上部およびK－Ah以下の黒ボク土層最下部であったと考えられる。

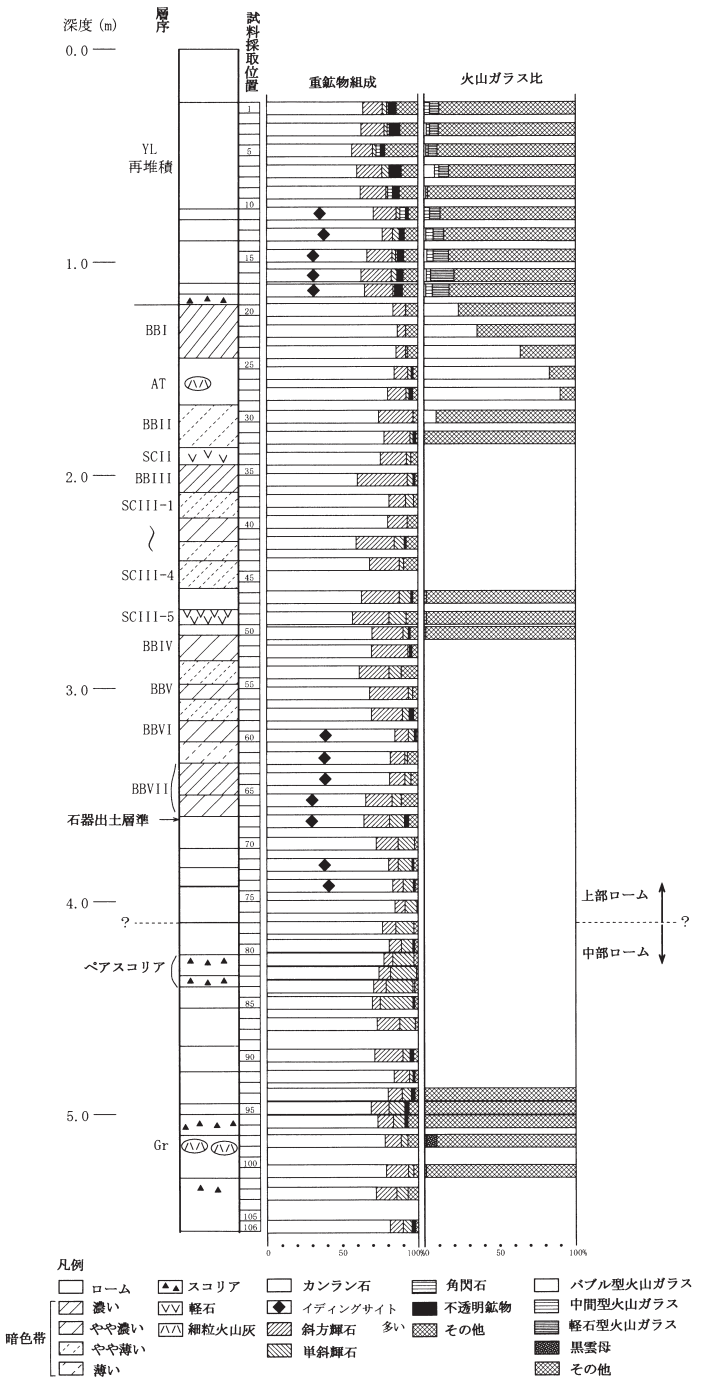


図１　ＥＷ３地点の重鉱物組成および火山ガラス比

②ローム層の成因について

ローム層（ここではいわゆる関東ローム層のような細粒の火山砕屑物を母材とする土壌を指すも

のとして用いる）の成因については、小噴火による降下火山灰の累積したもの（例えば、町田1964など）と考えられることが多かったが、一方で、地表に堆積した火山灰に由来する細粒の砕屑物が風によって移動し、それが再び地上に累積したものとする説も主張されている。この説は、中村（1970）により提示され、早川（1986）、早川・由井（1989）、早川（1990）などにおいて火山学および火山灰編年学上の種々の観察事実を根拠として述べられている。その後、鈴木（1995）は、過去５万年間に堆積した火山灰土の層厚が１ｍを上まわる地域では、ローム層はやはり成層構造を残さない程度の小規模な噴火堆積物が累積してできたと述べている。

愛鷹山南麓は上記の鈴木のいう地域に相当し、今回対象とした土層断面でもSCⅡをはじめとするスコリア層が多数確認されていることから、愛鷹ローム層の形成に富士山の噴火堆積物が大きく寄与していることは否定できない。しかし、今回の重鉱物分析や火山ガラス比分析結果を見ると、スコリア層とスコリア層との間のローム層については、鈴木がいうような小規模噴火堆積物の累積が成因の主体であるとも言い切れない。今回の重鉱物組成の層位的な変化は、どの層位でも層位的な厚さ20～50㎝の範囲では同様の組成を示し、その単位が積み重なっている。この重鉱物組成の層位的な単位は、おそらく噴火による一次テフラ層とその後のテフラに由来する砕屑物の再堆積という状況を示唆していると考えられる。すなわち、上述の中村以下のいう成因である。これがより顕著なのは、富士山のテフラではないがATの火山ガラスの産状である。その土層中における火山ガラスの含量は、降灰層準から上位に向かって緩やかに減少している。これは、明らかに地表に降灰したATが、その後も再堆積を繰り返していることを示唆している。したがって、今回の分析結果を見る限り、愛鷹ローム層は富士テフラの降下堆積とその再堆積ということが繰り返されて形成されたと考えられる。

さて、ローム層の中の暗色帯は褐色の部分に比べて腐植含量が高く、かつ腐植化が進んでいることが確かめられている（例えば、加藤（1960）、黒部（1963）、加藤（1964）、松井・黒部（1965）、パリノ・サーヴェイ株式会社（1996）など）が、これはすなわち腐植の集積という条件の変化を反映した層であり、母材の質（鉱物組成で代表される）の変化だけではないそれ以外の多くの要因により形成されたと考えられる。したがって、母材の堆積後の局地的な土壌条件（例えば母材となる砕屑物の堆積速度、気温や乾湿などの気候条件、植生など）により、暗色帯の形成は左右される。現時点では、愛鷹ローム層の暗色帯の形成において、具体的にどのような土壌条件であったのかはわからない。これについては今後土壌学的な性質を調べることも必要である。

③各層の年代について

今回の土層断面において年代を直接示すのはATである。ATの降灰年代は前述の通りであるが、最近の様々なATにかかわる年代測定例（例えば、松本ほか（1987）や池田ほか（1995）など）によれば、2.4～2.5万年前頃と考えた方がよい。一方、ATに次いで年代指標となるのがGrである。このテフラについての年代測定例はないが、層序学的にはこれまで約３万年前頃の降灰年代が考えられてきた。しかし、これも上杉（1993）に示された富士山東麓の富士テフラの編年におけるGrの層位からは、約3.5万～４万年前ぐらいの年代として考えられている。

これらの年代観に従えば、BBⅡからペアスコリアまでの層位は、およそ2.5万年前から3.5万年前

までの約１万年間の堆積層であるといえる。その間の個々のスコリア層の噴出年代については、記載の進んでいる富士山東麓地域との対比が必要であり、現時点では詳細な報告例はない。

引用文献

愛鷹ローム団研グループ 1969「愛鷹山麓のローム層－東名高速道路工事現場を中心として－」『第四紀研究』 8 pp.10－21

早川由起夫 1986「火山灰土の成因と堆積速度」『1986年度春季大会日本火山学会講演』 予稿集 pp.34

早川由起夫 1990「堆積物から知る過去の火山噴火」『火山第２集34 火山学の基礎研究特集号』 pp.S121－S130

早川由起夫 1995「日本に広く分布するローム層の特徴とその成因」『火山』 40 pp.177－190

早川由起夫・由井将雄 1989「草津白根火山の噴火史」『第四紀研究』 28 pp.1－17

池田晃子・奥野充・中村俊夫・小林哲夫 1995「南九州姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器14Ｃ年代」『第四紀研究』 34 pp.377－379

加藤芳朗　1960「黒ボク土壌中の植物起源粒子について」『土肥誌』 30 pp.549－552

加藤芳朗　1964「腐植に富む土壌（「黒ボク」土壌）の生成に関する問題点」『第四紀研究』 3 pp.212－222

近藤錬三・佐瀬隆 1986「植物珪酸体分析、その特性と応用」『第四紀研究』 25 pp.31－64

黒部隆　1963「立川ローム層の腐植に関する生成学的研究」『土肥誌』 34 pp.182－184・pp.203－204

町田洋　1964「Tephrochronologyによる富士火山とその周辺地域の発達史－第四紀末期について－（その１）（その２）」『地学雑誌』 73 pp.293－308・pp.337－350

町田洋・新井房夫 1976「広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－」『科学』 46 pp.339－347

町田洋・新井房夫 1978「南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰」『第四紀研究』 17 pp.143－163

町田洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス』 276p 東京大学出版会（町田・新井 1976）

松井健・黒部隆 1965「関東ロームの土壌学的性質 Ⅶ埋没土 関東ローム－その起源と性状－」 pp.265－268

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史郎 1987「姶良Tn火山灰（AT）の14Ｃ年代」『第四紀研究』 26 pp.79－83

中村一明　1970「ローム層の堆積と噴火活動」『軽石学雑誌』 3 pp.1－7

パリノ・サーヴェイ株式会社 1996「ローム層中の暗色帯の成因について」『富士見台Ⅰ 都立中野富士高校内埋蔵文化財発掘調査報告書』 pp.191－198 都立学校遺跡調査会

鈴木毅彦　1995「いわゆる火山灰土（ローム）の成因に関する一考察－中部-関東に分布流する火山灰土の層厚分布－」『火山』 40 pp.167－176

山崎晴雄　1978「立川断層とその第四紀後期の運動」『第四紀研究』 16 pp.231－246

由井将雄　1995「愛鷹火山と箱根火山の形成と愛鷹ローム層」『静岡県考古学会シンポジウムⅣ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』 予稿集 pp.360－362 静岡県考古学会

2．八兵衛洞遺跡の自然科学分析（2）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

八兵衛洞遺跡調査区内のＥＷ３地点（№９地点）の土層断面では、重鉱物組成と火山ガラスの産状による愛鷹ローム層の層序を検証することができた。その際に、ローム層の最上部は削剥とその後の再堆積により形成された土層であることが分析結果より明らかとなり、その層位に関する層序を検討することができなかった。本報告では、八兵衛洞遺跡で検出されたＳＤＫ16土坑の断面の北側に認められた比較的良好な堆積状況の愛鷹ローム層最上部についてＥＷ３地点と同様の分析を行い、その層序を検討する。

また本報告では、調査区北部で検出された溝と土坑の構築時期および性格や埋積状況の推定を目的として、それら遺構の覆土の分析を行う。対象とする溝は、幅が３～４ｍあり、確認された長さだけでも200ｍ以上に及び、調査区北部の谷部から尾根にかけて東西に伸びている。この溝の中には多数の土坑が構築されており、不規則な間隔を空けて配列している。これまでに類例が認められたことはなく、発掘調査ではその用途・機能を推定できるような手がかりは得られていない。ここでは、覆土中に含まれる珪藻化石（水域環境の指標となる）と植物珪酸体（イネ科植物の状況）の産状および動物体や植物体の痕跡となるリン酸、カルシウム、腐植の各成分の含量を調べることにより課題に迫る。

さらに、Ｄ地区（No.12地点）で検出された９世紀中頃とされる焼失住居址から出土した炭化材の樹種同定も行い、当該期の住居構築材に関する用材について考察を述べる。

（1）愛鷹ローム層最上部の層序

①試料

試料は、ＳＤ３に伴う土坑のうちＳＤＫ16が構築されている地山北側の断面において、厚さ５㎝で連続に試料番号１～58までの58点が採取された。

現地所見では、最上位の試料番号１～５はＳＤＫ16の覆土であり、試料番号16～32が新期スコリア層（新SC）、栗色土層（Ku）や富士黒土層（FB）などを含むいわゆる黒ボク土に分層され、試料番号35～48が休場層（YL）、それより下位に暗色帯やスコリア層が分層され、試料の最下位は第Ⅰ黒色帯（BBⅠ）とされている。試料の採取位置と分層の詳細を図１に示す。

分析には、土坑の覆土を除く各層の中部より１点ずつ採取した試料番号12（新SC）、19（Ku）、26（FBU）、30（FBL）、36（YLS）、41（YLH）、46（YLH）、50（BB０）、54（SCⅠ）、57（BBⅠ）の計10点が用いられた。

②分析方法

分析方法は、ＥＷ３地点と同様の重鉱物分析および火山ガラス比分析を行う。分析の処理過程を以下に述べる。

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4㎜－1/8㎜の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96）により重液分離、重鉱物と軽鉱物分中に含まれた火山ガラスを

表１　ＳＤＫ16北側の重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
12	68	110	8	16	34	14	250	7	12	84	147	250
19	207	22	5	1	11	4	250	40	8	26	176	250
26	222	16	5	0	6	1	250	28	3	3	216	250
30	227	14	7	0	0	2	250	4	5	0	241	250
36	224	6	11	0	6	3	250	3	2	0	245	250
41	216	15	14	1	4	0	250	10	3	0	237	250
46	219	23	3	1	3	1	250	6	2	0	242	250
50	221	23	1	0	3	2	250	10	4	1	235	250
54	109	100	19	0	6	16	250	8	1	0	241	250
57	228	15	2	0	5	0	250	6	0	0	244	250

偏光顕微鏡下にて同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「不明」とした。また火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡持つ塊状、軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。火山ガラス比分析は、軽鉱物分中における火山ガラスを計数するものである。

③結果

ａ．重鉱物分析

新期スコリア層の試料番号12では斜方輝石が最も多く、中量のカンラン石と少量の不透明鉱物、角閃石、単斜輝石が含まれる。栗色土層から第０黒色帯までは、カンラン石が非常に多く90％近くを占め、他に少量の斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物を伴う組成である。そのうち富士黒土層から休場層までの層位では、カンラン石の多くがイディングサイト化している。

第Ⅰスコリア層では、カンラン石と斜方輝石が同量程度で少量の単斜輝石と不透明鉱物を伴い、その下位の第Ⅰ黒色帯では、栗色土層とほぼ同様のイディングサイト化していないカンラン石が非常に多い組成を示す。

ｂ．火山ガラス比分析

栗色土層および富士黒土層上部にバブル型火山ガラスの濃集が認められ、新期スコリア層に軽石型火山ガラスの濃集が認められる。バブル型火山ガラスの多くは無色透明であるが、少量の褐色を呈するものも混在する。また、軽石型火山ガラスの中には、引き伸ばされた発泡の繊維束状のものも認められる。

これらのうちバブル型火山ガラスは、その産出層準と色調から、約6300年前に九州南方の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（Ｋ－Ａｈ：町田・新井 1978）に由来し、軽石型火山ガラスは形態の特徴と産出層準および濃集層準において重鉱物組成に斜方輝石が多く、角閃石が含まれることなどから、約2800～2900年前に伊豆天城山カワゴ平火口から噴出した天城カワゴ平テフラ（Ｋｇ：町田ほか 1984）に由来する。

④考察

土坑覆土層直下の新期スコリア層とされた層準は、Kgの火山ガラスの濃集が認められることか

ら縄文時代晩期頃の年代が推定される。（由井 1995）には、新期スコリア層に相当する層位に、Kgとほぼ同じ頃に富士山より噴出した富士砂沢スコリア（F－Zn）が記載されている。今回のKgの産状はこの記載とも調和する。なお、今回の分析により、愛鷹ローム層の分布地域においてKgの産状が不良な場所であっても、斜方輝石の多い重鉱物組成により新期スコリア層は認定できると考えられる。

栗色土層は、今回の分析によりK－Ahの降灰層準を含むことと、下位の富士黒土層がこれまでの調査例により縄文時代早期の包含層とされていることから、ほぼ縄文時代前期頃の土層であることが推定される。栗色土層の重鉱物組成は、下位の富士黒土層から第０黒色帯までの重鉱物組成と類似するが、イディングサイトの産状で区別できる可能性がある。

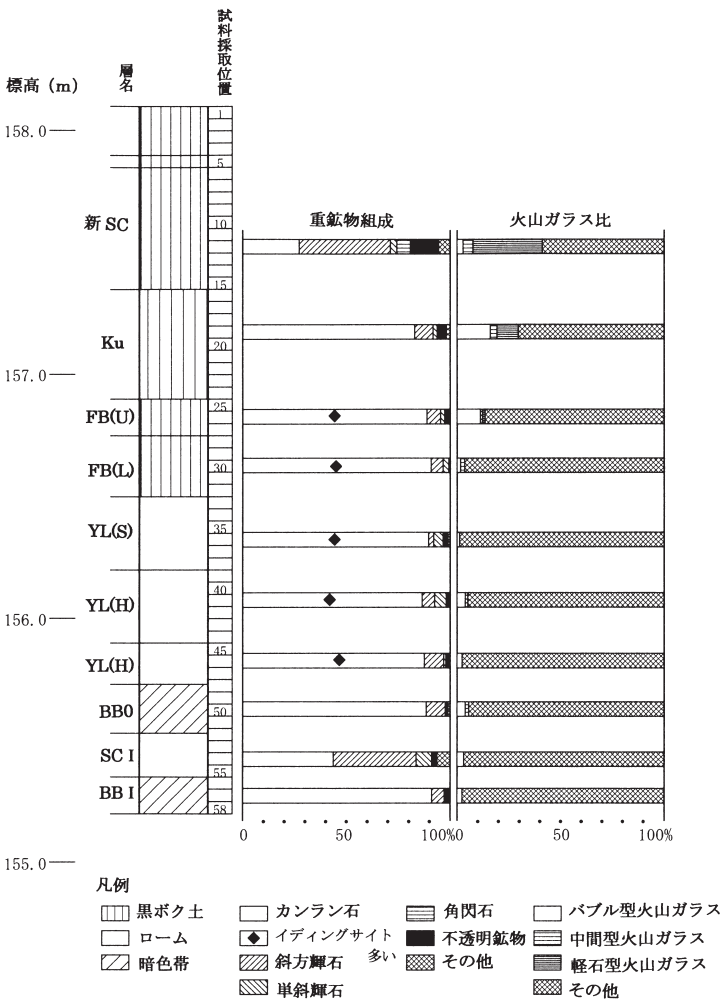


図１　ＳＤＫ16北側地点の重鉱物組成および火山ガラス比

富士黒土層から第０黒色帯までは、重鉱物組成による層位の認定が難しい。当社における箱根火山西麓から愛鷹山南麓地域のローム層の分析では、休場層上部付近に火山ガラス質テフラである立川ローム層最上部ガラス質火山灰（UG：山崎 1978）が認められることがある。ＥＷ３地点の分析でも第Ⅰ黒色帯上位の再堆積ローム層中にこれに由来する火山ガラスを認めている。本地点では、UGに由来する中間型火山ガラスが微量しか認められないことから、その降灰層準を推定することはできない。したがって、今回の結果では重鉱物組成と火山ガラス比ともに、休場層を特徴付けることはできなかったといえる。

第０黒色帯から第Ⅰスコリア層および第Ⅰ黒色帯にかけての層位では、第Ⅰスコリア層で斜方輝石が多くなる重鉱物組成が層序対比の指標となる。これは、愛鷹ローム層の最上部における有効な指標になる可能性がある。

ところで、ＥＷ３地点の第Ⅰ黒色帯より上位の土層の重鉱物組成および火山ガラス比と、今回の第Ⅰ黒色帯から新期スコリア層までのそれらとを比較すると、その違いは明らかである。すなわち、ＥＷ３地点の報告で述べた、最上部は再堆積層であるという所見は、今回の分析によって確かめられたといえる。

（２）溝および土坑の性格

①試料

分析の対象とした遺構は、溝のＳＤ３とその溝の中に並ぶＳＤＫ13～15の３基の土坑である。３基の土坑は、ＳＤ３の調査区中央部よりやや東側の部分に西から東へ向かってＳＤＫ13～15の順に並んでいる。ＳＤＫ14とＳＤＫ15では切り合い関係のある２基の土坑が重なって検出されており、それぞれ古い方がＳＤＫ14－１、ＳＤＫ15－１とされ、新しい方がＳＤＫ14－２、ＳＤＫ15－２とされている。またＳＤＫ15の４ｍほど東には、上述のＳＤＫ16が位置する。

試料は、各土坑断面において分層された覆土の各層から１点ずつ採取された。それぞれ覆土の最上部を試料番号１として底部直上の覆土層まで採取されている。各土坑の試料は次の通りである。ＳＤＫ13は試料番号１～８、ＳＤＫ14－１は試料番号１～６、ＳＤＫ14－２は試料番号１～10、ＳＤＫ15－１は試料番号１～21、ＳＤＫ15－２は試料番号１～15である。さらに、ＳＤＫ14とＳＤＫ15との間に認められたＳＤ３の覆土と溝底を構成する地山最上部の土層からも、試料番号１～４が採取されている。試料番号１～３はＳＤ３の覆土であり、試料番号４は地山である。なお、今回は比較対照試料として上述のＳＤＫ16北側の試料を用いた。

以上述べた試料のうち、珪藻分析では土坑底部の試料を中心にＳＤＫ13の試料番号８、ＳＤＫ14－１の試料番号５・６、ＳＤＫ14－２の試料番号10、ＳＤＫ15－１の試料番号１・15・21、ＳＤＫ15－２の試料番号15およびＳＤ３の試料番号３・４の計10点を選択し、植物珪酸体分析および土壌理化学分析では、土坑覆土の上部と底部の比較を考慮して、各土坑およびＳＤ３より計32点の試料を選択し、さらに両分析法においては比較対照試料のＳＤＫ16北側試料から12点の試料を選択した。選択した試料名は、各分析結果表に表示する。

②分析方法

ａ．珪藻分析

試料を湿重で７g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、（K. Krammer and Lange-Bertalot 1986・1988・1991a・1991b）、（K. Krammer 1992）などを用いる。

同定結果は、海水～汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、そのなかの各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能力についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。堆積環境の解析にあたって、淡水生種については（安藤 1990）、陸生珪藻については

（伊藤・堀内 1991）、汚濁耐性については、（Asai, K. & Watanabe, T. 1995）、生活型などについては（VOS, P.C. & DE WOLF, H. 1993）の環境指標種を参考とする。

b．植物珪酸体分析

試料中の植物珪酸体は、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70w、250KHz、１分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステイト、比重2.4）の順に物理・化学処理を行って分離・濃集する。これを検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、ブリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、（近藤・佐瀬 1986）の分類に基づいて同定・計数する。

c．土壌理化学分析

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行った（土壌養分測定法委員会 1981）。以下に各項目の操作工程を示す。

１）リン酸、カルシウム

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00㎜の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、始めに硝酸（HNO_3）約５mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5㎎/g）とカルシウム含量（CaO㎎/g）を求める。

２）腐植含量

風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5㎜ϕのふるいを全通させる（微粉砕試料）。

微粉砕試料0.100～0.500gを100㎎三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Ｎクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2Ｎ硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org－C乾土％）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（％）を算出する。

③結果

a．珪藻分析

結果を表２に示す。ＳＤＫ14－２の試料番号10を除き、珪藻化石の産出は59個体以下と非常に少なかった。ＳＤＫ13の試料番号８は、無化石である。ＳＤＫ14－１の試料番号５・６は、少ないながらも*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、*Pinnularia borealis*など陸上の好気的環境に生育

表２　ＳＤ３およびＳＤ３内各土坑の珪藻分析結果

種　類	生態性			環境指標種	SD3		SDK13	SDK14-1		SDK14-2	SDK15-1			SDK15-2
	塩分	pH	流水		3	4	8	5	6	10	1	15	21	15
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—
Caloneis angustivalva Petit	Ogh-unk	unk	unk	RI	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
Caloneis bacillum (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
Caloneis hyalina Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	—	—	—	—	2	—	—	—	—
Eunotia exigua (Breb.) Grunow	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	—	—	—	—	—	6	—	—	1	—
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	—	—	—	—	-	—	—	—	—
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	—	—	—	1	—	3	—	—	1	—
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	2	1	—	1	4	14	2	—	10	—
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—
Navicula contenta fo. biceps (Arnott) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	4	1	—	1	—	9	—	—	3	—
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	—	—	—	—	—	-	—	—	2	—
Navicula ignota var. palustris (Hust.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	—	—	—	—	—	-	—	—	1	—
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	22	4	—	2	4	34	3	—	18	2
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		—	1	—	—	—	-	—	—	—	—
Navicula saxophila Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—
Neidium alpiunm Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	—	—	—	—	1	2	—	—	1	—
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
Orthoseira roeseana (Rabh.) O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	6	—	—	—	—	7	—	—	2	—
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	3	—	1	1	14	1	—	10	—
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	—	—	—	—	—	1	—	—	4	—
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	al-il	ind	RB,S	—	—	—	1	—	1	—	—	3	—
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	2	—	—	—	—	1	—	—	2	—
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					41	10	0	7	10	111	6	0	59	2
珪藻化石総数					41	10	0	7	10	111	6	0	59	2

凡例

H.R. ： 塩分濃度に対する適応性
Ogh-ind: 貧塩不定性種
Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種
Ogh-unk: 貧塩不明種

pH ： 水素イオン濃度に対する適応性
al-il: 好アルカリ性種
ind: pH 不定性種
ac-il: 好酸性種
ac-bi: 真酸性種
unk: pH 不明種

C.R. ： 流水に対する適応性
l-ph: 好止水性種
ind: 流水不定性種
r-ph: 好流水性種
unk: 流水不明種

環境指標種群
P： 高層湿原指標種（安藤 1990）
S： 好汚濁性種， U： 広域適応性種， T： 好清水性種（以上は Asai, K. & Watanabe, T. 1986）
R： 陸生珪藻（RA：A 群， RB：B 群， RI 群， 伊藤・堀口 1991）

し、水域からはほとんど認められない耐乾性の高い陸生珪藻Ａ群（伊藤・堀内 1991）が産出する。ＳＤＫ14－２の試料番号10は、少ないながらも100個体以上の珪藻化石を含む。産出種の特徴は、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、*Navicula contenta fo.biceps*、*Orthoseira roeseana*、*Pinnularia borea1is*などの陸生珪藻Ａ群が多産する。ＳＤＫ15－１は、試料番号１・21から珪藻化石が産出するが、いずれも*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、*Pinnularia borealis*などの陸生珪藻に限定される傾向がある。ＳＤＫ15－２の試料番号15は、陸生珪藻Ａ群の*Navicula mutica*が２個体産出する。

ＳＤ３の試料番号３・４もこれまでと同様に、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、*Navicula contenta fo. biceps*、*Pinnularia borealis*などの陸生珪藻に限定される傾向がある。

ｂ．植物珪酸体分析

結果を表３・４と図２・３に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態の悪いものが多く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、それぞれの産状を述べる。

〈ＳＤＫ16北側〉

植物珪酸体は各試料から検出されるが、試料番号46・50・54で検出個数が少ない。ローム層から黒ボク土層にかけての試料では概して同様な産状を示す。すなわち、タケ亜科の産出が目立ち、ウシクサ族やイチゴツナギ亜科などが認められる。ただし、YLSの試料番号36や新SCの試料番号８ではウシクサ族ススキ属が増加する。

また、試料番号23～36と試料番号２では樹木起源珪酸体の第Ⅳグループ（近藤・ピアスン 1981）も検出される。第Ⅳグループは網目状の棟を持つ紡錘形を呈するもので、ブナ科シイ属、ツツジ科、モクレン科などの葉部に形成される。

表３　ＳＤ16北側の植物珪酸体分析結果

種類＼試料番号	2	8	14	18	23	26	30	36	41	46	50	54	57
イネ科葉部短細胞珪酸体													
タケ亜科ネザサ節	—	—	7	5	6	5	—	3	—	—	—	—	2
タケ亜科	171	202	204	198	21	186	201	99	192	64	50	38	184
ウシクサ族ススキ属	—	8	5	1	2	1	11	31	—	—	—	—	12
イチゴツナギ亜科	—	1	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	2
不明キビ型	8	10	16	8	3	5	5	29	5	2	4	2	7
不明ヒゲシバ型	9	18	29	17	20	25	21	25	5	3	3	2	5
不明ダンチク型	17	7	20	12	7	4	10	15	6	1	2	1	4
イネ科葉身機動細胞珪酸体													
タケ亜科ネザサ節	—	—	5	7	8	18	6	3	—	—	—	—	5
タケ亜科	95	83	103	120	151	121	94	75	97	15	37	6	93
ウシクサ族	2	11	3	2	5	4	3	32	—	—	—	—	2
不明	17	12	9	4	4	2	6	30	6	—	3	—	4
合　計													
イネ科葉部短細胞珪酸体	205	246	281	241	59	226	248	207	208	70	59	43	216
イネ科葉身機動細胞珪酸体	114	106	120	133	168	145	109	140	103	15	40	6	104
総　計	319	352	401	374	227	371	357	347	311	85	99	49	320
その他													
樹木起源（Ⅳグループ）	3	—	—	—	3	5	12	8	—	—	—	—	—

表４　ＳＤ３およびＳＤ３内各土坑の植物珪酸体分析結果

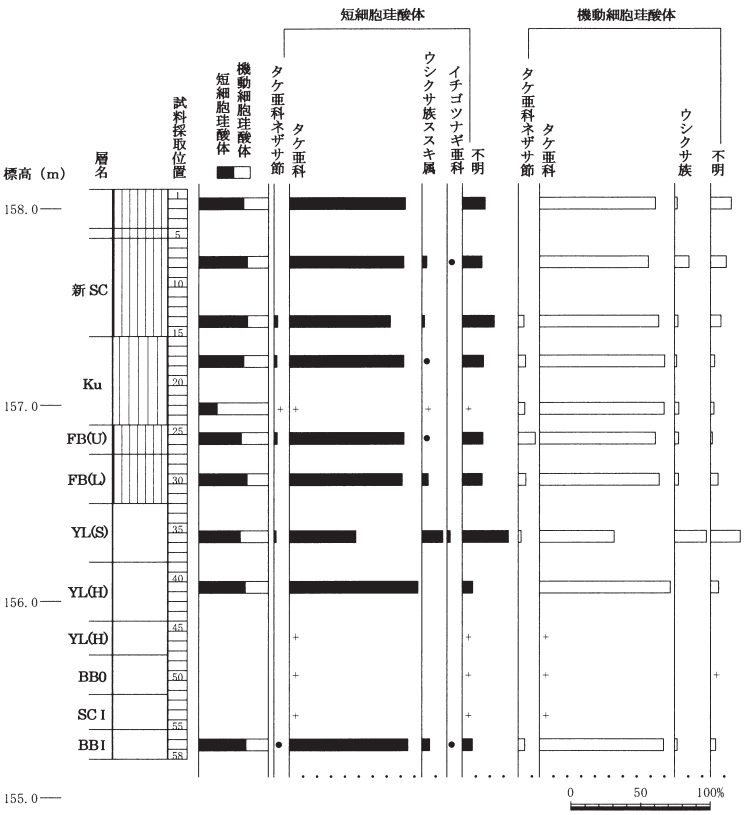
種類＼試料番号	SD3				SDK13				SDK14-1			SDK14-2					SDK15-1										SDK15-2					
	1	2	3	4	1	3	5	8	2	5	6	1	4	6	9	10	1	2	5	7	10	11	13	15	18	21	3	6	8	10	13	15
イネ科葉部短細胞珪酸体																																
タケ亜科ネザサ節	9	8	9	2	5	4	—	2	6	3	—	5	2	4	3	2	8	5	—	8	—	7	2	2	3	—	6	8	6	—	3	3
タケ亜科	197	172	207	218	195	190	157	161	188	191	207	209	161	135	161	191	187	184	189	180	181	193	171	179	176	204	103	99	202	194	183	214
ウシクサ族ススキ属	12	3	4			3	8	8	6	7	4	6	5	6	14	7	7	14	8	3	3	5	28	7	3	5	39	75	17	15	3	2
イチゴツナギ亜科	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	—	—	—	—	—	1	1	—	1	2	2	1	1	5	—	—	—	—	2	—
不明キビ型	11	13	15	7	7	9	8	20	14	9	2	12	16	13	13	5	17	15	8	2	18	10	18	9	12	2	43	32	15	7	7	4
不明ヒゲシバ型	8	10	17	13	19	25	30	20	18	11	1	20	24	48	23	13	17	30	20	18	17	35	25	14	24	13	47	26	14	19	22	10
不明ダンチク型	4	11	8	6	16	24	25	19	12	3	3	9	15	21	12	9	16	7	8	11	22	11	13	7	14	4	34	11	7	6	11	3
イネ科葉身機動細胞珪酸体																																
タケ亜科ネザサ節	8	11	14	4	8	7	4	2	5	6	—	8	3	6	6	5	7	4	4	14	3	10	4	3	2	—	8	8	11	7	5	7
タケ亜科	82	77	121	91	97	85	95	82	85	93	92	93	79	65	73	97	98	96	92	92	104	105	89	95	115	109	60	87	114	96	98	91
ウシクサ族	10	9	7	6	4	20	8	6	12	7	7	5	7	11	8	6	4	2	3	8	2	1	10	6	1	3	17	15	10	6	4	—
不明	11	49	5	17	8	32	36	15	20	23	16	16	24	35	20	8	16	10	7	17	6	4	4	8	5	19	68	41	43	2	12	4
合　計																																
イネ科葉部短細胞珪酸体	241	217	260	246	242	255	228	230	246	224	217	263	223	227	226	227	252	256	234	222	242	263	259	219	233	233	272	251	261	241	231	236
イネ科葉身機動細胞珪酸体	111	146	147	118	117	144	143	105	122	129	115	122	113	117	107	116	125	112	106	131	115	120	107	112	123	131	153	151	178	111	119	102
総　計	352	363	407	364	359	399	371	335	368	353	332	385	336	344	333	343	377	368	340	353	357	383	366	331	356	364	425	402	439	352	350	338
その他																																
樹木起源（Ⅳグループ）	5	1	10	—	—	5	4	2	7	3	—	—	3	7	8	4	2	3	4	8	—	—	5	—	—	—	7	3	4	2	5	2

〈ＳＤＫ13〉

底部の試料番号18から上位の試料番号１まで、ほぼ同様な産状である。すなわち、タケ亜科の産出が目立ち、ウシクサ族やイチゴツナギ亜科などが認められる。ただし、試料番号３ではウシクサ族の機動細胞珪酸体が増加する。また試料番号１を除いて、樹木起源珪酸体の第Ⅳグループもわずかに検出される。

〈ＳＤＫ14－１・ＳＤＫ14－２〉

いずれの土坑も、底部から上位にかけて同様な産状が見られる。すなわち、タケ亜科の産出が目立ち、ウシクサ族やイチゴツナギ亜科などが認められる。また、ＳＤＫ14－１の試料番号６やＳＤＫ14－２の試料番号１・４を除いて、樹木起源珪酸体の第Ⅳグループもわずかに検出される。



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、＋はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個未満の試料で検出された種類を示す。

図２　ＳＤ16北側の植物珪酸体群集の層位分布

〈ＳＤＫ15－１・ＳＤＫ15－２〉

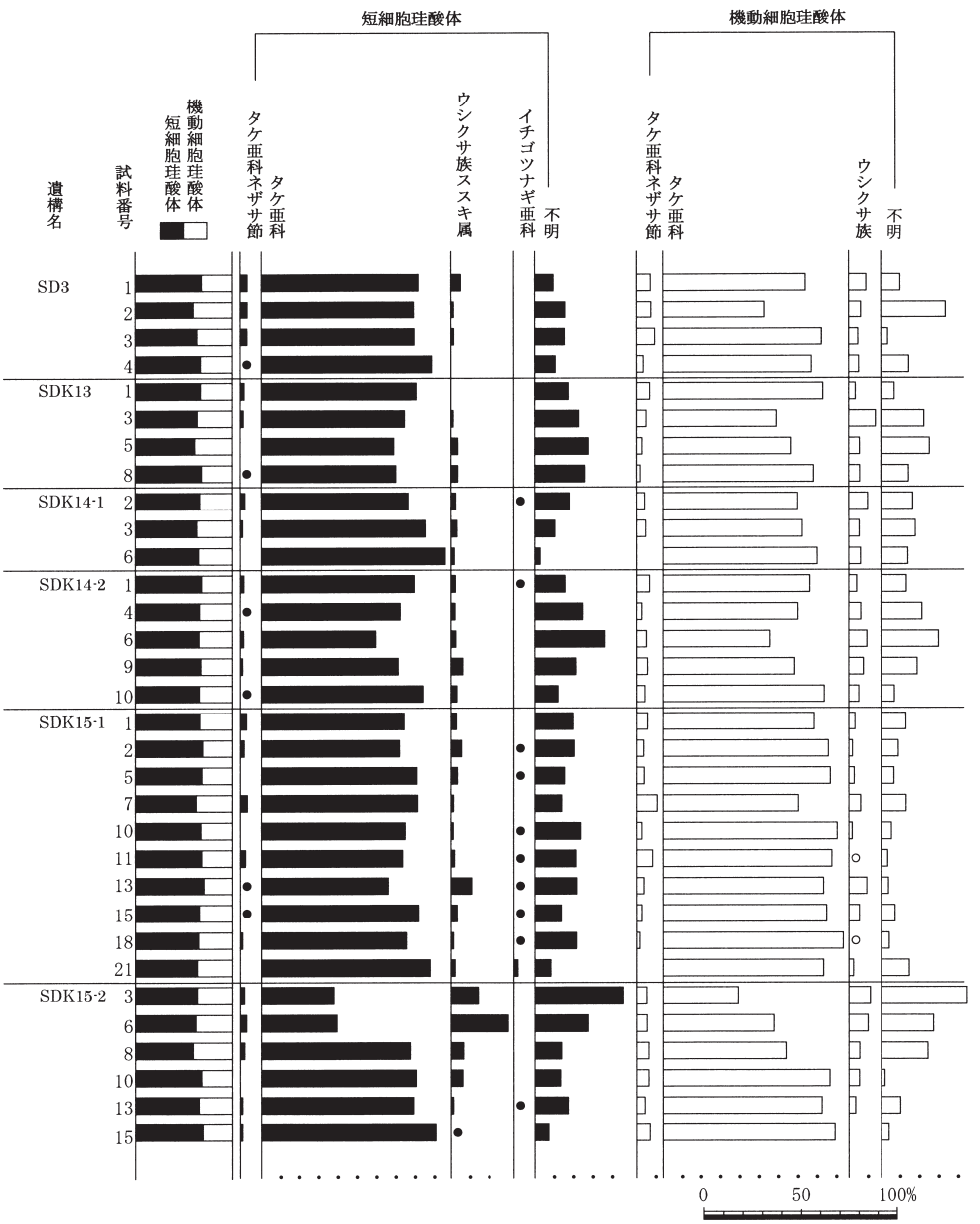
いずれの土坑も、底部から上位で同様な産状が見られ、タケ亜科の産出が目立ち、ウシクサ族やイチゴツナギ亜科などが認められる。ただし、ＳＤＫ15－１の試料番号13やＳＤＫ15－２の試料番号３・６では、ウシクサ族（ススキ属を含む）の機動細胞珪酸体が増加する。また、ＳＤＫ15－１の下位試料を除いて、樹木起源珪酸体の第Ⅳグループもわずかに検出される。

〈ＳＤ３〉

下部のYLS再堆積とされる試料番号４から上位の試料番号１までタケ亜科の産出が目立ち、ウシクサ族やイチゴツナギ亜科などが認められる。ただし、上位試料ではウシクサ族がわずかに増加する傾向が見られる。また試料番号４を除いて、樹木起源珪酸体の第Ⅳグループもわずかに検出される。

ｃ．土壌理化学分析

分析結果を表５に示した。対象とした試料の土性はSiCL（シルト質埴壌土）～LiC（重埴土）と様々であるが、基本的には細粒質であり、火山灰土壌の特徴を有す。また土色は10YR1.7/1～3/3と黒



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、● ○は１％未満の種類で検出された種類を示す。

図３　ＳＤ３およびＳＤ３内各土坑の植物珪酸体群集の層位分布

色から暗褐色を呈し、累積土壌に特徴的な腐植の集積形態を示しており、連続的な有機物の供給が行われたことが推察される。分析結果では腐植含量は試料全体で2.60～16.69％と変動が大きいものの、平均5.96％（標準偏差2.62％）の腐植含量であり、基本的には土色の黒色度と対応した関係にある。

リン酸含量については試料全体で1.54～3.92P_2O_5mg/gの範囲にあり、平均2.76P_2O_5mg/g（標準偏

差0.43P_2O_5mg/g）のリン酸含量であり、大きくは腐植含量の推移と類似した増減を示す傾向にある。ただし、ＳＤＫ14－２の試料番号９・10やＳＤＫ15－１の試料番号15・18・21については、腐植の含有量に対して与えられたリン酸含量がやや高い傾向が認められる。

一方、カルシウム含量については1.58～6.95CaOmg/gの範囲にあり、リン酸含量と比較してやや変動が大きい傾向が見られたが、土壌中に含まれるカルシウムの総量を考慮すれば、全体的に低い傾向にあると考えられる。

④考察

ＳＤ３は発掘調査の状況から、弥生時代後期～古墳時代初頭頃の構築年代が考えられているが、詳細な年代は確かめられていない。今回の分析では、ＳＤＫ16北側断面においてＳＤＫ16がKgを含む新期スコリア層を掘り込んでいることが確かめられたことにより、縄文時代晩期の約2800年前頃を遡るものではないが、上記発掘調査所見の年代に関連するような資料は得ることができなかった。今後の類例の検出により、年代資料の得られることを期待したい。

表５　ＳＤ16北側、ＳＤ３およびＳＤ３内各土坑の土壌理化学分析結果

地点名	試料番号	土性	土色	腐植含量(%)	P2O5(mg/g)	CaO(mg/g)
SDK16北側	2	CL	10YR1.7/1 黒	15.69	3.41	2.20
	8	SiCL	10YR3/2 黒褐	5.92	2.52	3.66
	14	SiCL	10YR3/1 黒褐	5.69	2.47	2.33
	18	SiCL	10YR3/1 黒褐	6.34	2.40	2.08
	23	SiCL	10YR3/1 黒褐	6.55	2.49	2.40
	26	SiCL	10YR3/1 黒褐	5.90	2.76	2.55
	30	SiCL	10YR3/1 黒褐	6.27	2.93	2.66
	36	SiCL	10YR3/2 黒褐	2.60	2.63	1.71
	41	SiCL	10YR3/3 暗褐	3.25	2.81	1.58
	46	SiCL	10YR2/2 黒褐	4.51	2.51	2.00
	50	SiCL	10YR2/2 黒褐	4.67	2.12	1.64
	54	SiCL	10YR3/2 黒褐	3.25	1.54	1.76
	57	SiCL	10YR1.7/1 黒	9.48	2.09	2.53
SD3	1	SiCL	10YR3/2 黒褐	5.79	2.79	3.61
	2	SiCL	10YR3/2 黒褐	5.09	2.96	4.94
	3	SiCL	10YR3/2 黒褐	4.80	2.81	5.38
	4	SiCL	10YR3/2 黒褐	5.11	2.76	3.36
SDK13	1	SiCL	10YR3/2 黒褐	3.99	2.24	1.62
	3	SiCL	10YR2/2 黒褐	6.64	2.56	2.88
	5	SiCL	10YR2/2 黒褐	6.24	2.63	3.42
	8	SiCL	10YR3/2 黒褐	3.85	2.49	2.02
SDK14-1	2	SiCL	10YR3/2 黒褐	4.90	2.96	4.64
	5	SCL	10YR2/2 黒褐	4.25	2.77	2.85
	6	SCL	10YR2/2 黒褐	3.74	2.42	1.99
SDK14-2	1	SiCL	10YR2/2 黒褐	6.31	2.73	2.76
	4	CL	10YR3/2 黒褐	4.17	2.33	2.55
	6	SiCL	10YR3/2 黒褐	4.80	2.46	3.05
	9	SiCL	10YR3/1 黒褐	6.01	3.34	4.69
	10	SiCL	10YR3/1 黒褐	5.31	3.15	2.66
SDK15-1	1	CL	10YR3/1 黒褐	8.33	2.91	2.76
	2	SiCL	10YR2/3 黒褐	6.29	2.54	2.11
	5	CL	10YR3/2 黒褐	4.72	2.07	2.16
	7	CL	10YR3/3 暗褐	5.16	2.95	3.96
	10	SiCL	10YR3/1 黒褐	6.96	2.99	4.46
	11	SiCL	10YR3/2 黒褐	5.94	2.94	3.02
	13	SiCL	10YR3/2 黒褐	5.47	3.13	3.42
	15	SiCL	10YR3/2 黒褐	5.13	3.23	3.16
	18	SiCL	10YR2/1 黒	6,28	3.47	3.46
	21	SiCL	10YR2/1 黒	6.23	3.40	3.00
SDK15-2	3	CL	10YR1.7/1 黒	16.69	3.92	4.45
	6	LiC	10YR2/1 黒	9.14	3.15	6.95
	8	CL	10YR3/2 黒褐	5.47	2.77	5.31
	10	CL	10YR3/2 黒褐	5.09	2.67	4.15
	13	SCL	10YR3/2 黒褐	4.98	2.98	4.34
	15	SiCL	10YR3/2 黒褐	4.99	2.91	3.70

注. (1)土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修 1967)による。
(2)土性:土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編 1984)の野外土性による。
SiCL…シルト質埴壌土(粘土 15～25%、シルト 45～85%、砂 0～40%)
CL…埴壌土(粘土 15～25%、シルト 20～45%、砂 3～65%)
LiC…軽埴土(粘土 25～45%、シルト 0～45%、砂 10～55%)

溝と土坑の性格について今回行った各分析結果からは、それぞれ以下のような考察ができる。珪藻分析では、いずれの遺構も珪藻化石の産出は少なく、その産出種は陸上の好気的環境に耐性のあ

る陸生珪藻に限定される傾向がある。これらの珪藻化石は、覆土の由来となっている遺構周囲の富士黒土層以上の黒ボク土層にもともと含まれていたものが多いとは考えられるが、それを考慮しても今回のような産状から､溝や土坑の機能時に滞水していたような状況を想定することはできない。

植物珪酸体分析では、ＳＤＫ16北側の試料との比較から土坑の覆土が遺構周囲の黒ボク土層に由来していることがわかる。また、各土坑の底直上の試料では珪化組織片を認めることはできなかったことから、植物体を利用したしゃへい物や逆茂木などが土坑内にあった可能性は低い。なお、ＳＤＫ16北側における富士黒土層以上の植物珪酸体の産状は、同層以上の形成時期には周辺がタケ亜科やススキ属などのイネ科植物が生育する、開けた草地であったことを示唆する。さらに、ＳＤＫ15－２の試料番号３が採取された覆土層は、土坑および溝を広く覆っていることから、ＳＤ３やその中の土坑の廃棄後にある程度時間が経過した後に堆積したと考えられるが、この覆土層でも植物珪酸体の産状はＳＤＫ16北側の黒ボク土層と変わらない。すなわち、遺構構築以前から遺構構築後を通じて、八兵衛洞遺跡周辺には草地が分布していた可能性がある。

土壌理化学分析結果からは、次のようにいえる。土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen 1983、Bolt・Bruggenwert 1980、川崎ほか 1991、天野ほか 1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5㎎/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P_2O_5㎎/g（川崎ほか 1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では、骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P_2O_5㎎/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通１～50CaO㎎/g（藤貫 1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きいことから、ここでは補助的なものとして結果を示した。

各土抗覆土の分析結果をこのリン酸、カルシウムの天然賦存量と比較した場合、カルシウム含量に関してはすべての試料において天然賦存量の範囲内にある。リン酸含量については大部分の試料が天然賦存量の範囲内にあるものの、ＳＤＫ14－２やＳＤＫ15－１の一部の試料において3.0P_2O_5㎎/gを超えるものが認められる。ただし、これらのリン酸含量の高い試料では、骨を構成する成分であるリン酸と対を成すカルシウムの含量にそれほど大きな変化が見られないこと、およびリン酸含量の高い試料で腐植含量の高い傾向が認められることから、上記試料における天然賦存量を超えるリン酸は、動物などの遺体痕跡を示唆するものではなく、主として多量の植物遺体に由来するものと推察される。

以上の各結果をまとめると、１）遺構は縄文時代晩期以降に構築された、２）遺構の周りには草地が広がっていた、３）遺構内には水は溜まっていなかった、４）遺構内に動物遺体（人間の遺体も含む）が置かれていた可能性は低い、の４点が指摘できる。この段階で溝および土坑の性格を推定することはできないが、溝は水路ではなく、土坑は墓坑である可能性が低いといえるのではないだろうか。今後は、遺構断面試料の軟Ｘ線写真撮影による溝や土坑の壁面および覆土の微細な構造解析などにより、さらに検討を重ねたい。

（３）焼失住居の構築材について

①試料

試料は、９世紀中頃の住居址（№12地点ＳＢ１）から出土した、住居構築材と考えられる炭化材36点である。

②方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

③結果

樹種同定結果を表６に示す。炭化材のなかには、保存状態が悪く、種類の同定に至らないものもあった。それらの試料については、観察できた範囲での結果を記し、木材組織が観察できなかった場合には不明とした。その他の炭化材は、針葉樹１種類（ヒノキ属）と広葉樹５種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・シキミ・イボタノキ属・ヒイラギ）に同定された。解剖学的特徴などを以下に記す。

・ヒノキ属（*Chamaecyparis*）　ヒノキ科

試料はすべて年輪界で割れている。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、１～15細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus sect. Prinus*）　ブナ科

いずれも小片。環孔材で孔圏部の列数は不明。孔圏外の小道管は漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

試料は年輪界で割れている。年輪界を挟んだ早材部にわずかに残る道管の径から環孔材と判断できる。小道管は漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・シキミ（*Illicium anisatum L.*）　シキミ科シキミ属

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形、単独または２～４個が複合して散在し、分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅰ～Ⅱ型、１～２細胞幅、１～20細胞高。

・イボタノキ属（*Ligustrum*）　モクセイ科

環孔性を帯びた散孔材で、年輪の始めにやや大型の道管が１列に配列した後、急激に管径を減じた道管が均一に分布する。道管は単穿孔を有する。放射組織は異性Ⅱ型、１～２細胞幅、１～20細胞高。

・ヒイラギ（*Osmanthus heterophyllus*（G.Don）P. S. Green）　モクセイ科モクセイ属

紋様孔材で、道管は多数が複合して斜方向にＹ字を描くように配列する。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ型、１～２細胞幅、１～20細胞高。

④考察

炭化材は、針葉樹のヒノキ属が多く、他に５種類の広葉樹材が認められた。炭化材はいずれも住

居中央より壁側で検出されている。また、壁際に近い試料ほど床面から離れて出土している。このことから、これらの炭化材は壁材や壁に近い部分に利用されていた部材が、火災の際に住居中央に向かって倒れたことが推定される。このうち、コナラ節は出土位置が住居北東部に集中することから、本来は一個体に由来する可能性がある。またヒイラギのうち、試料番号1061と1062、シキミの試料番号1052と1053は互いに近接して出土しており、同一個体の可能性がある。ヒノキ属の出土位置を見ると、出土した炭化材のなかでも特に壁に近い試料が多い。ヒノキの材質などを考慮すれば、壁材などに利用されていたことが推定される。その他の広葉樹材は、柱材などに利用されていたと考えられる。

本地域では、これまでにも縄文時代～古墳時代の住居構築材について樹種同定が行われているが、平安時代については本遺跡に近い東畑毛遺跡の結果が知られているのみである（パリノ・サーヴェイ株式会社 1989、1990、能城ほか 1991）。これらの結果を見ると、基本的には広葉樹材の利用が多く、本遺跡の結果とは異なる。ヒノキ属の多い結果は、本遺跡に近接する東畑毛遺跡で確認されている。これらの結果から、ヒノキ属の多用は、時代による用材選択の変化、住居の形態などによる用材選択の違い、本遺跡周辺での局地的な利用等を表している可能性がある。

表６　№12地点ＳＢ１焼矢住居址出土材の樹種同定結果

遺構名	時期	番号	樹種名
SB1	9世紀中頃	1051	ヒノキ属
		1052	シキミ
		1053	シキミ
		1054	ヒイラギ
		1055	ヒノキ属
		1056	ヒイラギ
		1057	ヒノキ属
		1058	ヒノキ属
		1059	ヒノキ属
		1060	ヒノキ属
		1061	ヒイラギ
		1062	ヒイラギ
		1063	広葉樹
		1064	ヒノキ属
		1065	ヒノキ属
		1066	針葉樹
		1068	不明
		1069	広葉樹（散孔材）
		1070	シキミ
		1071	ヒノキ属
		1072	不明
		1073	ヒイラギ
		1074	ヒノキ属
		1081	コナラ属コナラ亜属コナラ節
		1082	樹皮
		1083	コナラ属コナラ亜属コナラ節
		1084	コナラ属コナラ亜属コナラ節
		1085	広葉樹
		1086	コナラ属コナラ亜属コナラ節
		1087	コナラ属コナラ亜属コナラ節
		1088	広葉樹（散孔材）
		1089	ヒノキ属
		1090	イボタノキ属
		1091	クリ
		1092	ヒノキ属
		1096	ヒノキ属

またヒノキ属は、畿内における宮殿や寺院等に多く利用されていたことが知られている（伊東・島地 1979、西岡・小原 1979、島地ほか 1980）。これは、日本書紀の素戔嗚尊の説話でヒノキの用途を宮殿の柱材としていることとも一致している。本遺跡や東畑毛遺跡の結果でヒノキ属が多い背景には、このような畿内地域との関連も考えられる。

今後、周辺地域での資料蓄積や、出土遺物との比較などを行って、詳細を明らかにしたい。

引用文献

天野洋司・太田健・草場敬・中井信 1991「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量」農林水産省農林水産技術会議事務局編『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』pp.28－36.

安藤一男 1990「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42 pp.73－88

Asai, K. and Watanabe,T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10 pp.35－47

Bowen, H.J.M. 1983『環境無機化学－元素の循環と生化学－』浅見輝男・茅野充男訳 297p 博友社
［Bowen, H.J.M.（1979）Environmental Cemistry of Elements］

Bolt, G.H. and Bruggenwert,M.G.M.（1980）『土壌の化学』岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳 309p 学会出版センター［Bolt, G.H. and Bruggenwert, M.G.M.（1976）SOIL CHEMISTRY］pp.235－236

土壌養分測定法委員会編 1981『土壌養分分析法』440p 養賢堂

伊藤良永・堀内誠示 1991「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6 pp.23－45

伊東隆夫・島地謙 1979「古代における建造物柱材の使用樹種」『木材研究・資料』14 pp.49－76 京都大学木材研究所

川崎弘・吉田澪・井上恒久 1991「九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量」農林水産省農林水産技術会議事務局編『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』149p : pp.23－27

近藤錬三・佐瀬隆 1986「植物珪酸体分析、その特性と応用」『第四紀研究』25 pp.31－64

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1986）Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag

Krammer, K. and Lange-Bertalot,H.（1988）Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1991a）Bacillariophyceae, Teil 3,Centrales, Fragilariaceae Eunotiaceae. Band 2/3 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag

Krammer, K. and Lange-Bertalot,H.（1991b）Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula（Lineolatae）und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag

Krammer, K.（1992）PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26, pp.1－353., BERLIN・STUTTGART.

Lange-Bertalot, H. unter Mitarbeit von A. Steindorf（1995）Rote Liste der Kieselalgen（Bacillariophyceae）Deutschlands. Schr.-R.f.Vegetationskde.H.28 000－000 BfN, Bonn-Bad Godesberg pp.1－31

町田洋・新井房夫 1978「南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰」『第四紀研究』17 pp.143－163

町田洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦 1984「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」渡辺直経編『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』pp.865－928

西岡常一・小原二郎 1979「法隆寺を支えた木」『NHKブックス318』226p 日本放送出版協会

農林省農林水産技術会議事務局監修 1967『新版標準土色帖』

能城修一・車崎正彦・鈴木三男・石川治夫 1991「静岡県沼津市雌鹿塚遺跡出土木製品の用材」『金沢大学教養部論集・人文科学編28（２）』pp.43－63

パリノ・サーヴェイ株式会社 1989「炭化材同定」『豆生田遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 第44集 pp.146－147 沼津市教育委員会

パリノ・サーヴェイ株式会社 1990「雌鹿塚遺跡の自然科学分析結果」『雌鹿塚遺跡発掘調査報告書Ⅰ 遺構編』－狩野川西部流域下水道事業処理場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ 沼津市文化財調査報告書第51集 pp.153－170 沼津市教育委員会

ペドロジスト懇談会編 1984『土壌調査ハンドブック』156p 博友社

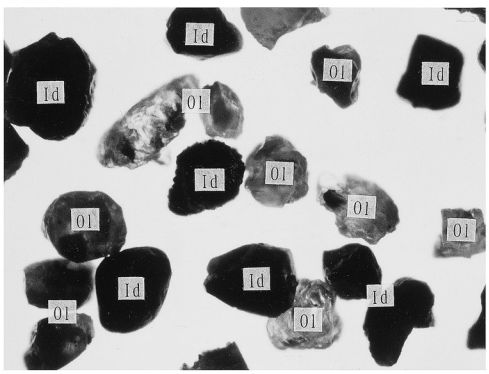
島地謙・伊東隆夫・林昭三 1980「古代における宮殿・官衙の使用樹種」古文化財編集委員会編『考古学・美術史の自然科学的研究』pp.249－260 日本学術振興会

高橋敦・植木真吾 1994「樹種同定からみた住居構築材の用材選択」PALYNO 2 pp.5－18. Vos,P.C. & de Wolf, H.（1993）Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environ-ments in costal wetlands ; methodological aspects. Hydrobiologica, 269/270, pp.285－296

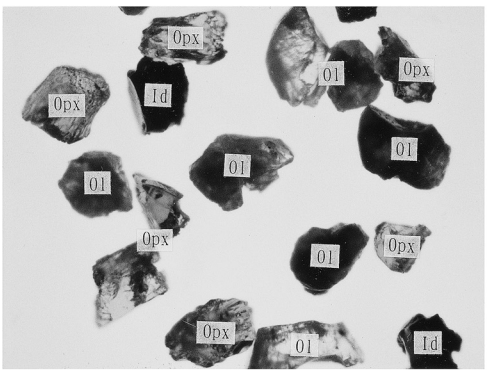
山崎晴雄 1978「立川断層とその第四紀後期の運動」『第四紀研究』16 pp.231－246

由井将雄 1995「愛鷹火山と箱根火山の形成と愛鷹ローム層」『静岡県考古学会シンポジウムⅣ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』予稿集 pp.360－362 静岡県考古学会

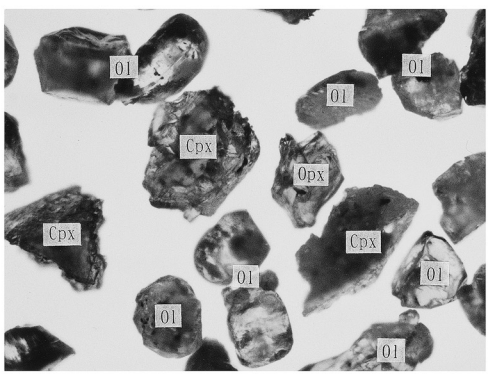
図版 1　重鉱物・火山ガラス



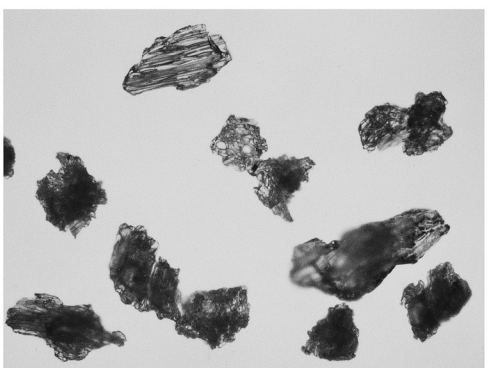
1.重鉱物（EW3；22）



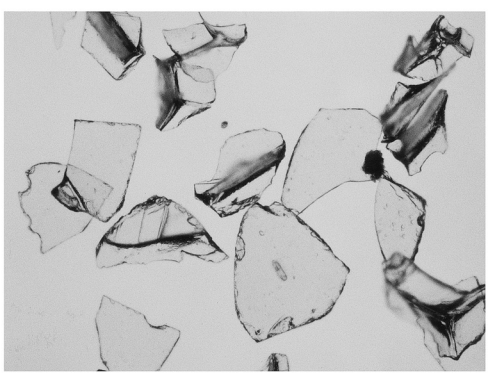
2.重鉱物（EW3；36）



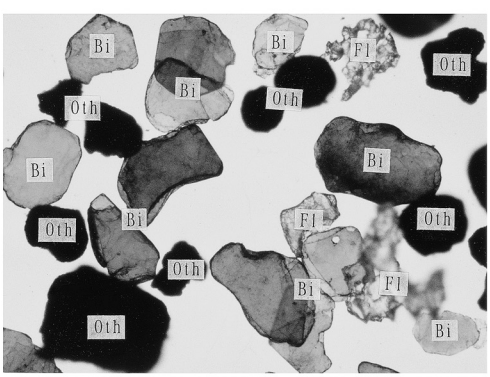
3.重鉱物（EW3；85）



4.UG の火山ガラス（EW3；17）



5.AT の火山ガラス（EW3；28）



6.Gr の黒雲母（EW3；98）

Ol:カンラン石．　Opx:斜方輝石．　Cpx:単斜輝石．　Bi:黒雲母．
Id:イディングサイト．　Fl:長石．　Oth:その他．

0　0.5 mm

3．蛍光Ｘ線分析法による八兵衛洞遺跡の黒曜石産地推定

池　谷　信　之

はじめに

沼津市文化財センターでは、第二東名高速自動車道路関係の整理事業において取り扱う膨大な黒曜石製石器に対応することを目的として、平成17年度に島津製作所製エネルギー分散型蛍光X線分析装置EDX-900HSを導入した。これ以降、黒曜石製石器の産地推定を独自に行っている。

（1）分析方法

①原産地推定法

原子の周囲には内側から順にＫ殻・Ｌ殻・M殻……と呼ばれる軌道（電子殻）があり、外殻側は内殻側に比べより高いエネルギーを有している。原子に照射された一次Ｘ線は原子核の内殻側の電子をはじき飛ばすが、空席となった場所（空孔）には、外殻側の電子がエネルギーを放出しながら落ちてくる。このエネルギーが二次Ｘ線（蛍光Ｘ線）である。軌道間のエネルギー差は原子によって固有であるため、発生した蛍光Ｘ線も元素ごとに固有のエネルギー（波長）を有することになる。試料に含まれる元素Ａの濃度が高ければ、より多くの蛍光Ｘ線ａが生じるため（強度として示される）、試料中の元素Ａの濃度を求めることが可能となる。

こうした原理を用いた分析法が蛍光Ｘ線分析法であり、用いられる機器には「波長分散型」と「エネルギー分散型」がある。後者のエネルギー分散型は波長分散型に比べて分解能が低いものの、装置がコンパクトかつ比較的安価であり、測定が簡便であるという利点がある。

（2）分析資料

分析に供した資料は八兵衛洞遺跡Ｅ地区（№９～11地点）出土石器309点と、と八兵衛洞遺跡Ｄ地区（№12地点）出土石器41点である。縄文時代石器については製品としての石器を対象とし、旧石器時代石器については、分析可能なすべての石器を剥片も含めて対象とした。

（3）分析方法

分析方法は1994年に望月明彦と筆者が示した方法（望月・池谷他 1994）を基本的に踏襲している。

①測定条件

測定機器　島津製作所製蛍光X線分析装置EDX-900HS（エネルギー分散型）
Ｘ線管球　Rhターゲット
電圧　　軽元素側（～K）側：15kVA　重元素側（Ti～）：50kVA
電流　　自動（1000μA）
照射径　10㎜
検出器　シリコンドリフトチャンバー半導体検出器（SSD検出器）
雰囲気　真空
測定時間　軽元素側（～K）側：200秒　重元素側（Ti～）：200秒

励起効率を考慮して、カリウム（K）より軽い元素については低い電圧（15kVA）で測定し、チタン（Ti）より重い元素については高い電圧（50kVA）で測定している。

②原産地試料

和田（WD）エリア：小深沢・鷹山・東餅屋・土屋橋北・土屋橋東・土屋橋西・丁字御領
芙蓉ライト・古峠・鷲ヶ峰・ウツギ沢・土屋橋南
和田（WO）エリア：ブドウ沢・牧ヶ沢下・牧ヶ沢上・高松沢・本沢下
諏訪エリア：星ヶ塔・星ヶ台・水月霊園
蓼科エリア：麦草峠・麦草峠東・渋ノ湯・冷山・双子池
天城エリア：柏峠
箱根エリア：畑宿・芦ノ湯・黒岩橋・甘酒橋・鍛冶屋・上多賀
神津島エリア：恩馳島・砂糠崎・長浜・沢尻湾
高原山エリア：甘湯沢

③原産地推定方法

上記の測定条件のもと、まず遺跡出土石器の対比資料となる原産地黒曜石の測定を行った。その結果、珪素（Si）・カルシウム（Ca）・カリウム（K）・チタン（Ti）・クロム（Cr）・マンガン（Mn）・鉄（Fe）・亜鉛（Zn）・ルビジウム（Rb）・ストロンチウム（Sr）・イットリウム（Y）・ジルコニウム（Zr）・ニオブ（Nb）・スズ（Sn）が検出された。

〈判別図による推定〉

測定された元素の強度にもとづいて、以下の指標を計算し、判別図を作成する。

Rb強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）　→　図１左のＸ軸
Mn強度×100/Fe強度　→　図１左のＹ軸
Sr強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）　→　図１右のＸ軸
log（Fe強度/K強度）　→　図１右のＹ軸

図１・図２は以上の指標を用いた判別図に中部･関東地方の黒曜石産地原石をプロットしたものである。図１左・図２左を用いて和田（WD）エリア、和田（WO）エリア、諏訪エリア、神津島エリア、高原山エリア内の各群の判別を行う。さらに図１右・図２右を用いて図１左・図２右では分離できなかった箱根エリアを、畑宿（HNHJ）、鍛冶屋（HNKJ）、上多賀（HNKT）、黒岩橋（HNKI）、芦ノ湯（HNAY）の５群に細分する。この図では天城エリア柏峠群（AGKT）と高原山エリア甘湯沢群（TKAY）が一部で重複するが、図１左・図２左では分離されている。

２つの判別図上に、さらに遺跡出土黒曜石の測定結果をプロットし（●印）、その分布範囲の重なりから産地を判断する。

〈判別分析（多変量解析）による推定〉

判別図法の判断を検証するために多変量解析の一手法である判別分析を行い、マハラノビス距離と帰属確率を求めている（表３～８）。マハラノビス距離は原産地の原石群の中心（重心）と石器との三次元的な距離を計算したもので、距離が０に近いほどその原石群に帰属する確率は高くなる。

全体

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	3	7.5
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	1	2.5
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	1	2.5
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	13	32.5
蓼科	冷山	TSTY	1	2.5
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	12	30.0
箱根	畑宿	HNHJ	4	10.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	5	12.5
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			40	100.0

不可	1	
総計	41	

縄文時代

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	9	60.0
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	2	13.3
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	4	26.7
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			15	100.0

不可	1	
総計	16	

旧石器時代

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	3	12.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	1	4.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	1	4.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	4	16.0
蓼科	冷山	TSTY	1	4.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	10	40.0
箱根	畑宿	HNHJ	4	16.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	1	4.0
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			25	100.0

不可	0	
総計	25	

表１　Ｅ地区（№９～11地点）黒曜石産地推定結果集計表

（４）推定結果

１点ごとの推定結果を表３～８に示した。また推定結果は各時期・各地点の石器観察表の属性にも加えた。さらに全体の集計結果を表１・表２に示した。なお、表中の産地名略号については、凡例に示している。

今回分析対象としたもののなかでは、Ｄ地区の旧石器時代BBⅡ層・Ⅲ層（文化層としてはBBⅢ層下部）が最もまとまった資料である。その分析結果は211点中202点（99.0％）が天城柏峠産であった。またその直下の層準であるSCⅢb1層・同b2層（文化層としてはSCⅢb2層）では、56点中37点（66.1％）が諏訪星ヶ台産であり、18点（32.1％）が天城柏峠産、１点（1.8％）が蓼科冷山産であった。

愛鷹・箱根山麓ではBBⅢ層段階に多数の陥穴が敷設され、陥穴を用いた狩猟が盛行したと考えられている。その直前の段階では遠隔地を含む多方面の原産地黒曜石が用いられるが、陥穴猟が開始されるBBⅢ層段階には、近在の原産地である天城柏峠産や箱根畑宿産が圧倒的多数を占めるようになる。この変化は、その敷設に対して大量でしかも集中的な労働力の投下を必要とし、また猟期には定期的な巡視や回収・補修といった日常的なメンテナンスが不可欠な陥穴猟の登場と連動していると考えられている（池谷 2009 pp.79-80）。

本遺跡におけるBBⅡ層・Ⅲ層とSCⅢb1層・同b2層の産地推定結果も、いま述べた陥穴出現を挟んだ原産地黒曜石の変化と同調するものである。

引用文献・参考文献

池谷信之 2009「旧石器時代における陥穴猟と石材獲得・石器製作行動－愛鷹・箱根山麓BBⅢ層期を中心として－」駿台史学2009

望月明彦・池谷信之他 1994「遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について－沼津市土手上遺跡BBⅤ層の原産地推定から－」静岡県考古学研究26

全体

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	3	1.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	1	0.3
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	52	17.9
蓼科	冷山	TSTY	2	0.7
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	225	77.6
箱根	畑宿	HNHJ	2	0.7
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	5	1.7
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			290	100.0

不可	19	
総計	309	

縄文時代

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	3	42.9
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	0	0.0
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	4	57.1
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			7	100.0

不可	0	
総計	7	

旧石器時代(YL)

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	2	8.7
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	1	4.3
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	11	47.8
蓼科	冷山	TSTY	1	4.3
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	5	21.7
箱根	畑宿	HNHJ	2	8.7
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	1	4.3
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			23	100.0

不可	1	
総計	24	

旧石器時代(BBⅡ・Ⅲ)

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	1	0.5
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	1	0.5
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	202	99.0
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	0	0.0
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			204	100.0

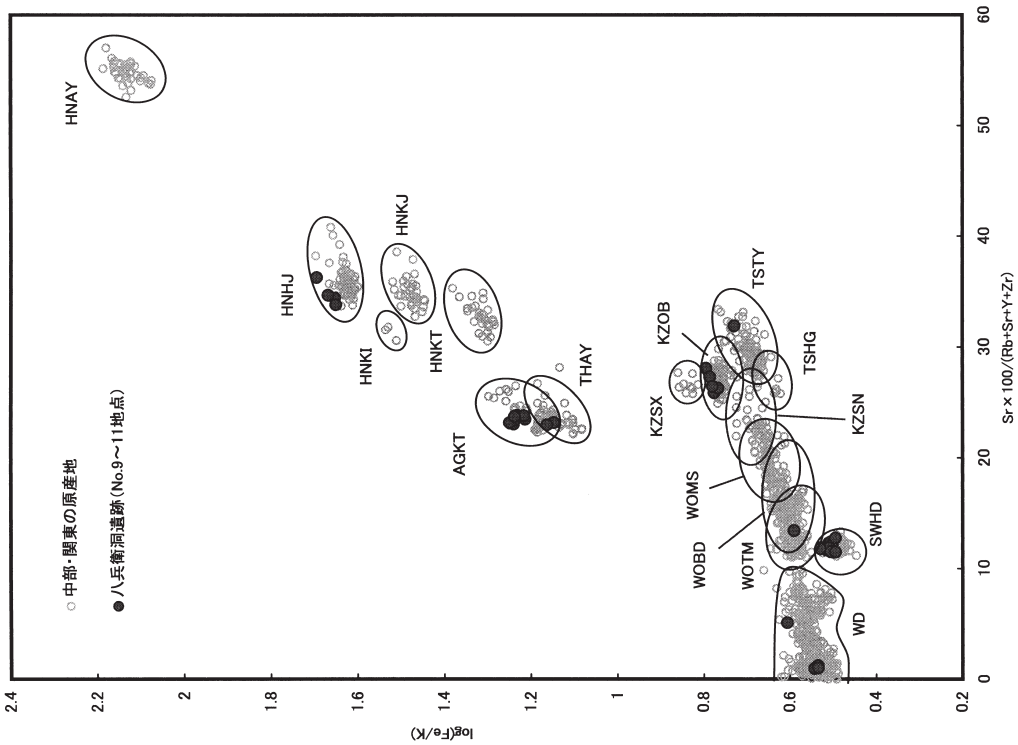
不可	7	
総計	211	

旧石器時代(SCⅢb1・b2)

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	37	66.1
蓼科	冷山	TSTY	1	1.8
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	18	32.1
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	0	0.0
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			56	100.0

不可	11	
総計	67	

表２　Ｄ地区（№12地点）黒曜石産地推定結果一覧表



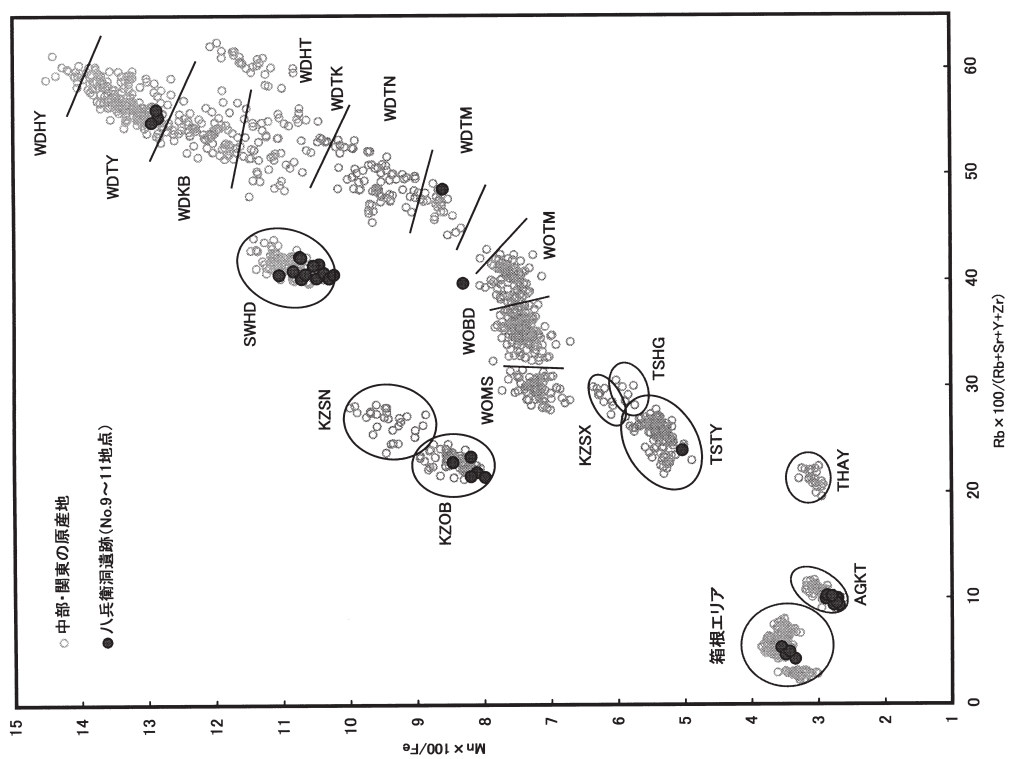


図１　Ｅ地区（No.９～11地点）黒曜石産地判別図

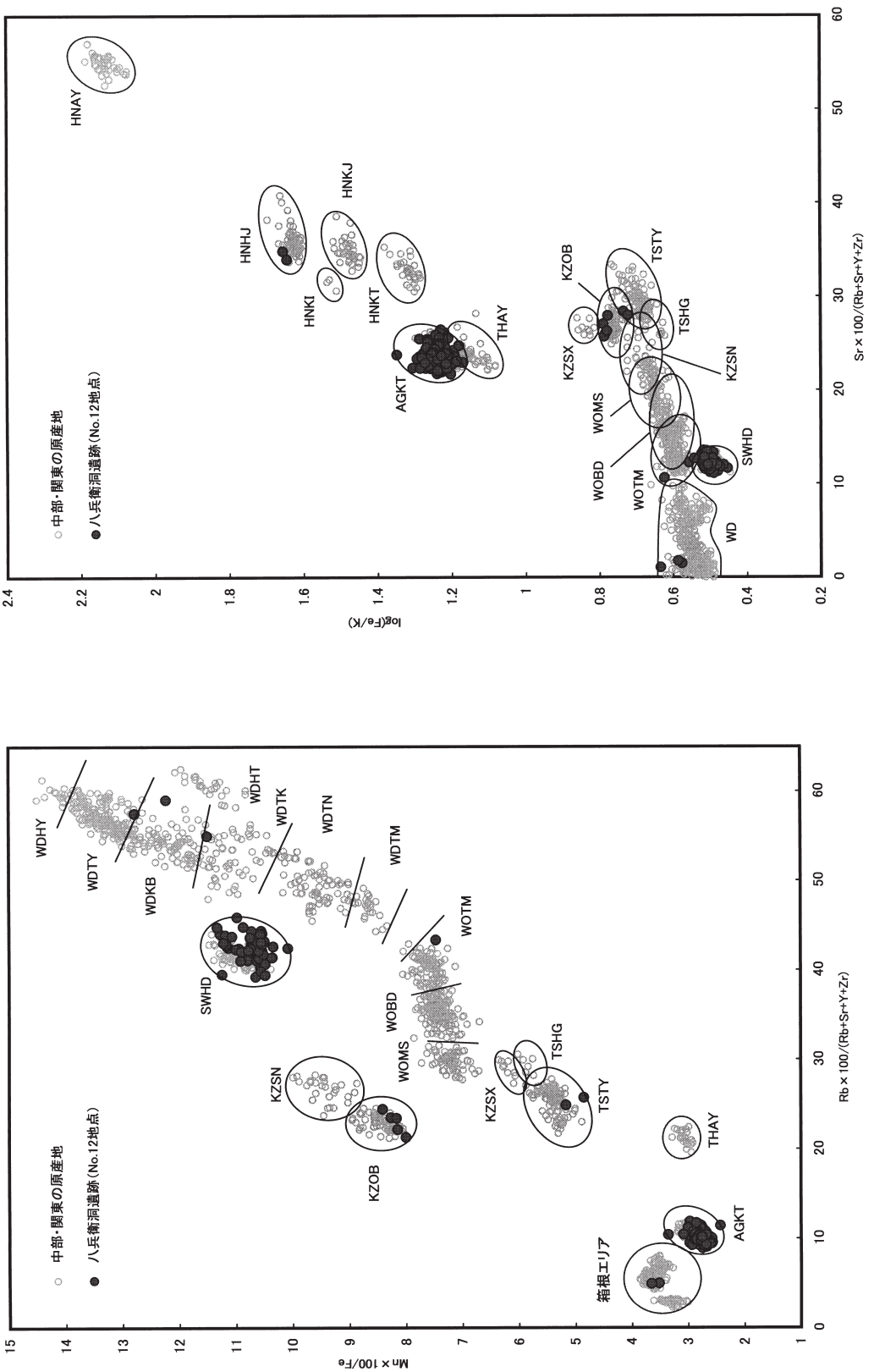


図２　Ｄ地区（No.12地点）黒曜石産地判別図

表３　Ｅ地区（No.９～11地点）分析結果

分析番号	遺物番号	器種	時代	推定産地	判別図判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
No.9～11地点 01	259	石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	5.30	1.00	WDTK	90.73	0.00
No.9～11地点 02	231	石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	6.53	1.00	WDTK	95.22	0.00
No.9～11地点 03	1050	石鏃	縄文	AGKT	AGKT	AGKT	1.45	1.00	HNKT	91.53	0.00
No.9～11地点 04	5092	石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	5.88	1.00	WDTK	79.67	0.00
No.9～11地点 05	2161	石鏃	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	3.11	1.00	KZSN	35.09	0.00
No.9～11地点 06	181	石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	1.86	1.00	WDTK	99.73	0.00
No.9～11地点 07	487	石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	5.50	1.00	WDTK	87.36	0.00
No.9～11地点 08	594	削器	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	1.22	1.00	WDTK	91.62	0.00
No.9～11地点 09	3116	Rフレイク	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	7.20	1.00	WDTN	91.84	0.00
No.9～11地点 10	2596	Rフレイク	縄文	AGKT	AGKT	AGKT	7.45	1.00	HNKT	69.92	0.00
No.9～11地点 11	2634	楔形石器	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	4.38	1.00	KZSN	43.86	0.00
No.9～11地点 12	2604	楔形石器	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	1.62	1.00	KZSN	31.26	0.00
No.9～11地点 13		石核	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	1.14	1.00	KZSN	27.17	0.00
No.9～11地点 14	2836	石核	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	3.19	1.00	WDTK	73.99	0.00
No.9～11地点 15	613	Uフレイク	縄文	不可	不可	SWHD	15.89	1.00	WDTK	55.84	0.00
No.9～11地点 16	2600	Uフレイク	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	1.38	1.00	WDTK	103.72	0.00
No.9～11地点 17		ナイフ形石器	YL	SWHD	SWHD	SWHD	3.13	1.00	WDTK	78.87	0.00
No.9～11地点 18	2946	ナイフ形石器	YL	WDTM	WDTM	WDTM	5.34	0.99	WDTN	17.45	0.01
No.9～11地点 19		ナイフ形石器	YL	WDTY	WDTY	WDTY	4.21	1.00	WDKB	14.39	0.00
No.9～11地点 20	2039	ナイフ形石器	YL	AGKT	AGKT	AGKT	5.57	1.00	HNKT	88.18	0.00
No.9～11地点 21		ナイフ形石器	YL	SWHD	SWHD	SWHD	2.64	1.00	WDTK	90.71	0.00
No.9～11地点 22	2412	ナイフ形石器	YL	WDTY	WDTY	WDTY	4.63	0.99	WDKB	13.03	0.01
No.9～11地点 23	3068	ナイフ形石器	YL	WOTM	WOTM	WOTM	13.54	1.00	WOBD	26.70	0.00
No.9～11地点 24	320	尖頭器	YL	WDTY	WDTY	WDTY	4.11	1.00	WDKB	19.37	0.00
No.9～11地点 25	3061	楔形石器	YL	KZOB	KZOB	KZOB	5.39	1.00	KZSN	46.10	0.00
No.9～11地点 26	324	Uフレイク	YL	SWHD	SWHD	SWHD	9.12	1.00	WDTN	83.77	0.00
No.9～11地点 27	3196	Uフレイク	BBⅡ	TSTY	TSTY	TSTY	5.37	1.00	TSHG	28.01	0.00
No.9～11地点 28	3250	Uフレイク	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	7.02	1.00	HNKT	88.60	0.00
No.9～11地点 29	3251	Uフレイク	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	1.89	1.00	HNKT	74.70	0.00
No.9～11地点 30	3253	Uフレイク	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	4.43	1.00	HNKT	94.42	0.00
No.9～11地点 31	1737	剥片	YL	SWHD	SWHD	SWHD	1.75	1.00	WDTK	71.54	0.00
No.9～11地点 32	2330	剥片	YL	HNHJ	HNHJ	HNHJ	5.04	1.00	HNKI	64.77	0.00
No.9～11地点 33	2481	剥片	YL	HNHJ	HNHJ	HNHJ	23.44	1.00	HNKI	130.72	0.00
No.9～11地点 34	3063	剥片	YL	AGKT	AGKT	AGKT	8.30	1.00	HNKT	76.20	0.00
No.9～11地点 35	3294	剥片	YL	HNHJ	HNHJ	HNHJ	10.70	1.00	HNKI	78.51	0.00
No.9～11地点 36	3016	剥片	BB0	HNHJ	HNHJ	HNHJ	8.17	1.00	HNKI	57.53	0.00
No.9～11地点 37	3291	剥片	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	2.09	1.00	HNKT	82.33	0.00
No.9～11地点 38	3292	剥片	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	6.18	1.00	HNKT	81.48	0.00
No.9～11地点 39	3293	剥片	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	1.87	1.00	HNKT	91.79	0.00
No.9～11地点 40	3252	ナイフ形石器	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	3.93	1.00	HNKT	79.05	0.00
No.9～11地点 41	3200	掻器	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	2.79	1.00	HNKT	86.77	0.00

表４　Ｄ地区（No.12地点）分析結果（１）

分析番号	遺物番号	器種	時代	推定産地	判別図判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
No.12地点 001	38	ナイフ形石器	YL	WDKB	WDKB	WDKB	20.59	0.91	WDHT	23.16	0.09
No.12地点 002	616	ナイフ形石器	YL	TSTY	TSTY	TSTY	8.05	1.00	TSHG	19.64	0.00
No.12地点 003	1523	ナイフ形石器	YL	SWHD	SWHD	SWHD	1.96	1.00	WDTK	81.07	0.00
No.12地点 004	1706	削器	YL	SWHD	SWHD	SWHD	2.82	1.00	WDTK	67.73	0.00
No.12地点 005	1724	Rフレイク	YL	SWHD	SWHD	SWHD	1.35	1.00	WDTK	77.50	0.00
No.12地点 006	504	Rフレイク	YL	SWHD	SWHD	SWHD	11.97	1.00	WDTK	68.41	0.00
No.12地点 007	1853	石核	YL	SWHD	SWHD	SWHD	2.10	1.00	WDTK	76.15	0.00
No.12地点 008	658	石核	YL	不可	不可	WDTM	37.61	0.94	WOTM	46.02	0.06
No.12地点 009		剥片	YL	HNHJ	HNHJ	HNHJ	4.98	1.00	HNKI	56.20	0.00
No.12地点 010	505	剥片	YL	SWHD	SWHD	SWHD	4.59	1.00	WDTK	96.24	0.00
No.12地点 011	1465	剥片	YL	HNHJ	HNHJ	HNHJ	12.06	1.00	HNKI	61.07	0.00
No.12地点 012	1729	剥片	YL	KZOB	KZOB	KZOB	2.32	1.00	KZSN	30.27	0.00
No.12地点 013	2028	剥片	YL	AGKT	AGKT	AGKT	8.15	1.00	HNKT	101.93	0.00
No.12地点 014	2031	剥片	YL	SWHD	SWHD	SWHD	2.90	1.00	WDTK	73.17	0.00
No.12地点 015	2032	剥片	YL	AGKT	AGKT	AGKT	5.15	1.00	HNKT	85.30	0.00
No.12地点 016	2033	剥片	YL	WDKB	WDKB	WDKB	9.90	0.61	WDTK	10.23	0.39
No.12地点 017	2036	剥片	YL	AGKT	AGKT	AGKT	11.12	1.00	HNKT	81.99	0.00
No.12地点 018	2037	剥片	YL	AGKT	AGKT	AGKT	2.01	1.00	HNKT	80.24	0.00
No.12地点 019	2040	剥片	YL	SWHD	SWHD	SWHD	7.92	1.00	WDTK	95.70	0.00
No.12地点 020	2044	剥片	YL	WOTM	WOTM	WOTM	10.15	1.00	WDTM	28.42	0.00
No.12地点 021	2047	剥片	YL	AGKT	AGKT	AGKT	8.65	1.00	HNKT	88.81	0.00
No.12地点 022	2048	剥片	YL	SWHD	SWHD	SWHD	0.60	1.00	WDTK	86.29	0.00
No.12地点 023	2049	剥片	YL	SWHD	SWHD	SWHD	3.50	1.00	WDTK	75.77	0.00
No.12地点 024	2051	剥片	YL	SWHD	SWHD	SWHD	0.59	1.00	WDTK	86.96	0.00
No.12地点 025	1858	剥片	BBⅡ	AGKT	AGKT	AGKT	1.62	1.00	HNKT	100.46	0.00
No.12地点 026	1959	剥片	BBⅢ	不可	不可	AGKT	31.32	0.97	HNKT	37.27	0.03
No.12地点 027	1927	ナイフ形石器	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	10.98	1.00	HNKT	87.94	0.00
No.12地点 028	2164	ナイフ形石器	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.21	1.00	HNKT	69.49	0.00
No.12地点 029	1987	ナイフ形石器	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.36	1.00	HNKT	76.29	0.00
No.12地点 030	2488	Rフレイク	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.93	1.00	HNKT	96.11	0.00
No.12地点 031	1860	石核	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	9.75	1.00	HNKT	73.46	0.00
No.12地点 032	1867	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	9.28	1.00	HNKT	73.83	0.00
No.12地点 033	1976	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.96	1.00	HNKT	78.13	0.00
No.12地点 034	1967	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.48	1.00	HNKT	89.81	0.00
No.12地点 035	2329	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.45	1.00	HNKT	80.61	0.00
No.12地点 036	1915	剥片	BBⅢ	WDKB	WDKB	WDKB	15.89	0.67	WDTY	16.18	0.33
No.12地点 037	1920	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.70	1.00	HNKT	82.30	0.00
No.12地点 038	1921	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.98	1.00	HNKT	84.18	0.00
No.12地点 039	1935	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.80	1.00	HNKT	80.46	0.00
No.12地点 040	1936	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	11.91	1.00	HNKT	89.19	0.00
No.12地点 041	1937	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.65	1.00	HNKT	81.05	0.00
No.12地点 042	1938	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.40	1.00	HNKT	90.71	0.00
No.12地点 043	1939	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	10.66	1.00	HNKT	86.55	0.00
No.12地点 044	1944	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.13	1.00	HNKT	75.21	0.00
No.12地点 045	1942	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.80	1.00	HNKT	72.37	0.00
No.12地点 046	1946	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.67	1.00	HNKT	68.34	0.00
No.12地点 047	1949	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.77	1.00	HNKT	75.95	0.00
No.12地点 048	1950	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.82	1.00	HNKT	80.00	0.00
No.12地点 049	1952	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	10.19	1.00	HNKT	90.47	0.00
No.12地点 050	1953	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.08	1.00	HNKT	72.81	0.00
No.12地点 051	1961	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.66	1.00	HNKT	86.74	0.00
No.12地点 052	1963	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.79	1.00	HNKT	83.84	0.00
No.12地点 053	1964	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	11.96	1.00	HNKT	84.80	0.00
No.12地点 054	1965	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.61	1.00	HNKT	80.58	0.00
No.12地点 055	1966	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.73	1.00	HNKT	96.02	0.00
No.12地点 056	1972	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.45	1.00	HNKT	69.84	0.00
No.12地点 057	2160	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	0.79	1.00	HNKT	77.37	0.00
No.12地点 058	2159	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.19	1.00	HNKT	83.15	0.00
No.12地点 059	2158	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.69	1.00	HNKT	76.74	0.00
No.12地点 060	2157	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.25	1.00	HNKT	79.18	0.00
No.12地点 061	2150	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.63	1.00	HNKT	90.40	0.00
No.12地点 062	2147	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.79	1.00	HNKT	86.55	0.00
No.12地点 063	2132	剥片	BBⅢ	不可	不可	AGKT	28.21	1.00	HNKT	121.38	0.00
No.12地点 064	2127	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.19	1.00	HNKT	87.82	0.00

表５　Ｄ地区（No.12地点）分析結果（２）

分析番号	遺物番号	器種	時代	推定産地	判別図判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
No.12地点 129	2468	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.04	1.00	HNKT	66.40	0.00
No.12地点 130	2467	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.18	1.00	HNKT	74.23	0.00
No.12地点 131	2449	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	13.28	1.00	HNKT	71.37	0.00
No.12地点 132	2435	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.72	1.00	HNKT	76.61	0.00
No.12地点 133	2434	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.18	1.00	HNKT	64.39	0.00
No.12地点 134	2433	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.06	1.00	HNKT	85.22	0.00
No.12地点 135	2429	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.53	1.00	HNKT	89.98	0.00
No.12地点 136	2426	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.29	1.00	HNKT	61.72	0.00
No.12地点 137	2422	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.70	1.00	HNKT	79.71	0.00
No.12地点 138	2410	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.02	1.00	HNKT	85.30	0.00
No.12地点 139	2155	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.14	1.00	HNKT	92.07	0.00
No.12地点 140	2119	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.00	1.00	HNKT	77.02	0.00
No.12地点 141	1971	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.99	1.00	HNKT	81.12	0.00
No.12地点 142	2107	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.65	1.00	HNKT	74.06	0.00
No.12地点 143	2193	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.98	1.00	HNKT	67.78	0.00
No.12地点 144	2204	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.12	1.00	HNKT	85.70	0.00
No.12地点 145	2235	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.11	1.00	HNKT	67.30	0.00
No.12地点 146	2257	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.57	1.00	HNKT	94.28	0.00
No.12地点 147	2342	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.13	1.00	HNKT	74.95	0.00
No.12地点 148	2352	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.36	1.00	HNKT	75.93	0.00
No.12地点 149	2363	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.71	1.00	HNKT	77.74	0.00
No.12地点 150	2365	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.33	1.00	HNKT	87.19	0.00
No.12地点 151	2366	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.85	1.00	HNKT	92.27	0.00
No.12地点 152	2373	砕片	BBⅢ	不可	不可	AGKT	26.55	1.00	HNKT	98.83	0.00
No.12地点 153	2382	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.09	1.00	HNKT	73.45	0.00
No.12地点 154	2404	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.89	1.00	HNKT	73.46	0.00
No.12地点 155	2627	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.76	1.00	HNKT	70.49	0.00
No.12地点 156	2248	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	15.49	1.00	HNKT	99.02	0.00
No.12地点 157	2575	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.68	1.00	HNKT	72.08	0.00
No.12地点 158	1968	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	13.91	1.00	HNKT	108.14	0.00
No.12地点 159	1970	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.03	1.00	HNKT	75.60	0.00
No.12地点 160	2647	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.95	1.00	HNKT	78.37	0.00
No.12地点 161	2510	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	9.98	1.00	HNKT	89.26	0.00
No.12地点 162	2144	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	13.26	1.00	HNKT	96.50	0.00
No.12地点 163	1926	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.26	1.00	HNKT	75.37	0.00
No.12地点 164	1922	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.49	1.00	HNKT	92.46	0.00
No.12地点 165	1982	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.18	1.00	HNKT	84.90	0.00
No.12地点 166	1932	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.05	1.00	HNKT	78.39	0.00
No.12地点 167	1934	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	13.70	1.00	HNKT	73.20	0.00
No.12地点 168	2256	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.75	1.00	HNKT	86.46	0.00
No.12地点 169	2501	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	16.23	1.00	HNKT	98.24	0.00
No.12地点 170	1992	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	12.16	1.00	HNKT	74.91	0.00
No.12地点 171	2632	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	9.49	1.00	HNKT	64.94	0.00
No.12地点 172	2268	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.61	1.00	HNKT	88.22	0.00
No.12地点 173	2428	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	25.62	1.00	HNKT	89.01	0.00
No.12地点 174	2936	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	1.10	1.00	WDTK	73.61	0.00
No.12地点 175	2931	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	14.08	1.00	WDTK	63.24	0.00
No.12地点 176	2847	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	20.90	1.00	WDTK	65.05	0.00
No.12地点 177	2860	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	2.92	1.00	WDTK	78.68	0.00
No.12地点 178	2879	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	4.64	1.00	WDTK	79.32	0.00
No.12地点 179	2960	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	7.93	1.00	WDTK	77.14	0.00
No.12地点 180	2061	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	2.44	1.00	WDTK	74.84	0.00
No.12地点 181	2827	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	23.09	1.00	WDTK	61.22	0.00
No.12地点 182	2815	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	13.75	1.00	WDTK	51.47	0.00
No.12地点 183	3012	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	4.12	1.00	WDTK	63.98	0.00
No.12地点 184	2929	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	19.66	1.00	WDTN	55.65	0.00
No.12地点 185	3046	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	4.55	1.00	WDTK	60.47	0.00
No.12地点 186	2829	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	22.66	1.00	WDTK	46.31	0.00
No.12地点 187	2842	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	8.36	1.00	WDTK	65.23	0.00
No.12地点 188	4027	剥片	SCⅢb2	不可	不可	WOTM	74.96	0.99	WOBD	84.49	0.01
No.12地点 189	3018	剥片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	58.12	1.00	WDTN	87.14	0.00
No.12地点 190	3011	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	8.44	1.00	WDTK	55.55	0.00
No.12地点 191	3013	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	4.44	1.00	WDTK	79.65	0.00
No.12地点 192	2966	剥片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	22.32	1.00	WDTK	59.57	0.00

表６　Ｄ地区（No.12地点）分析結果（３）

分析番号	遺物番号	器種	時代	推定産地	判別図判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
No.12地点 065	2123	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.06	1.00	HNKT	94.89	0.00
No.12地点 066	2121	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.34	1.00	HNKT	70.90	0.00
No.12地点 067	2118	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.74	1.00	HNKT	72.65	0.00
No.12地点 068	2116	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.93	1.00	HNKT	70.36	0.00
No.12地点 069	2109	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.80	1.00	HNKT	79.89	0.00
No.12地点 070	2103	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.11	1.00	HNKT	77.91	0.00
No.12地点 071	1999	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.26	1.00	HNKT	83.48	0.00
No.12地点 072	2173	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.09	1.00	HNKT	96.30	0.00
No.12地点 073	2174	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.86	1.00	HNKT	73.27	0.00
No.12地点 074	2188	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.60	1.00	HNKT	71.33	0.00
No.12地点 075	2207	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.16	1.00	HNKT	73.47	0.00
No.12地点 076	1980	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.22	1.00	HNKT	99.13	0.00
No.12地点 077	1983	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	0.35	1.00	HNKT	83.59	0.00
No.12地点 078	1832	剥片	BBⅢ	不可	不可	TSTY	38.47	1.00	TSHG	70.33	0.00
No.12地点 079	1859	剥片	BBⅢ	不可	不可	AGKT	13.40	1.00	HNKT	104.13	0.00
No.12地点 080	1868	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.50	1.00	HNKT	95.16	0.00
No.12地点 081	1979	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.52	1.00	HNKT	90.46	0.00
No.12地点 082	1977	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.52	1.00	HNKT	97.22	0.00
No.12地点 083	1975	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.37	1.00	HNKT	81.53	0.00
No.12地点 084	1974	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.72	1.00	HNKT	86.20	0.00
No.12地点 085	1973	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.08	1.00	HNKT	91.67	0.00
No.12地点 086	2216	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.83	1.00	HNKT	78.06	0.00
No.12地点 087	2219	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	9.57	1.00	HNKT	77.17	0.00
No.12地点 088	2221	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.71	1.00	HNKT	80.47	0.00
No.12地点 089	2223	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.20	1.00	HNKT	81.87	0.00
No.12地点 090	2225	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.34	1.00	HNKT	87.33	0.00
No.12地点 091	2227	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.78	1.00	HNKT	93.35	0.00
No.12地点 092	2228	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.94	1.00	HNKT	86.74	0.00
No.12地点 093	2236	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.01	1.00	HNKT	83.76	0.00
No.12地点 094	2237	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.12	1.00	HNKT	72.94	0.00
No.12地点 095	2246	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	11.28	1.00	HNKT	74.55	0.00
No.12地点 096	2349	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.06	1.00	HNKT	80.25	0.00
No.12地点 097	2263	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.67	1.00	HNKT	80.12	0.00
No.12地点 098	2265	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.63	1.00	HNKT	76.08	0.00
No.12地点 099	2395	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.68	1.00	HNKT	90.99	0.00
No.12地点 100	2388	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.24	1.00	HNKT	90.98	0.00
No.12地点 101	2282	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	10.18	1.00	HNKT	72.39	0.00
No.12地点 102	2283	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.65	1.00	HNKT	79.40	0.00
No.12地点 103	2286	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.51	1.00	HNKT	82.91	0.00
No.12地点 104	2289	剥片	BBⅢ	不可	不可	AGKT	36.71	1.00	HNKT	106.00	0.00
No.12地点 105	2294	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.78	1.00	HNKT	70.75	0.00
No.12地点 106	2340	剥片	BBⅢ	不可	不可	AGKT	20.24	1.00	HNKT	96.92	0.00
No.12地点 107	2350	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.08	1.00	HNKT	78.58	0.00
No.12地点 108	2354	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.18	1.00	HNKT	90.50	0.00
No.12地点 109	2356	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.89	1.00	HNKT	89.69	0.00
No.12地点 110	2358	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.11	1.00	HNKT	72.21	0.00
No.12地点 111	2682	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.46	1.00	HNKT	90.37	0.00
No.12地点 112	2367	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.54	1.00	HNKT	81.65	0.00
No.12地点 113	2370	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.54	1.00	HNKT	69.87	0.00
No.12地点 114	2375	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	12.69	1.00	HNKT	85.80	0.00
No.12地点 115	2376	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.70	1.00	HNKT	74.96	0.00
No.12地点 116	2377	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.38	1.00	HNKT	88.98	0.00
No.12地点 117	2381	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.57	1.00	HNKT	88.01	0.00
No.12地点 118	2386	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.74	1.00	HNKT	88.72	0.00
No.12地点 119	2387	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.55	1.00	HNKT	99.07	0.00
No.12地点 120	2874	剥片	BBⅢ	SWHD	SWHD	SWHD	7.50	1.00	WDTK	66.75	0.00
No.12地点 121	2527	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.62	1.00	HNKT	91.46	0.00
No.12地点 122	2531	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.13	1.00	HNKT	73.11	0.00
No.12地点 123	2588	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.32	1.00	HNKT	96.27	0.00
No.12地点 124	2698	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.76	1.00	HNKT	78.66	0.00
No.12地点 125	2707	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.79	1.00	HNKT	81.35	0.00
No.12地点 126	2515	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.35	1.00	HNKT	71.78	0.00
No.12地点 127	2481	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.79	1.00	HNKT	69.60	0.00
No.12地点 128	2470	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.41	1.00	HNKT	86.72	0.00

表７　Ｄ地区（No.12地点）分析結果（４）

分析番号	遺物番号	器　種	時代	推定産地	判別図判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
No.12地点 193	2880	剥片	SCⅢb2	AGKT	AGKT	AGKT	0.45	1.00	HNKT	83.40	0.00
No.12地点 194	2878	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	5.24	1.00	WDTK	73.81	0.00
No.12地点 195	2951	剥片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	21.60	1.00	WDTK	46.30	0.00
No.12地点 196	2894	剥片	SCⅢb2	TSTY	TSTY	TSTY	3.84	1.00	TSHG	16.13	0.00
No.12地点 197	2857	剥片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	36.85	1.00	WDTN	55.50	0.00
No.12地点 198	2844	剥片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	15.80	1.00	WDTK	49.40	0.00
No.12地点 199	2833	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	2.88	1.00	WDTK	84.68	0.00
No.12地点 200	2823	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	5.92	1.00	WDTK	113.87	0.00
No.12地点 201	1981	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	10.10	1.00	HNKT	70.98	0.00
No.12地点 202	1962	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	9.18	1.00	HNKT	95.27	0.00
No.12地点 203	1929	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.25	1.00	HNKT	89.03	0.00
No.12地点 204	2731	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	2.62	1.00	WDTK	83.02	0.00
No.12地点 205	4006	Rフレイク	SCⅢb2	AGKT	AGKT	AGKT	17.33	1.00	HNKT	94.75	0.00
No.12地点 206	2708	石核	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	6.40	1.00	HNKT	79.53	0.00
No.12地点 207	2901	砕片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	46.30	0.97	WDTK	52.51	0.03
No.12地点 208	2830	砕片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	39.14	1.00	WDTK	49.62	0.00
No.12地点 209	2881	砕片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	15.27	1.00	WDTN	80.20	0.00
No.12地点 210	2730	Uフレイク	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	2.80	1.00	WDTK	80.84	0.00
No.12地点 211	2858	Uフレイク	SCⅢb2	AGKT	AGKT	AGKT	0.62	1.00	HNKT	82.85	0.00
No.12地点 212	2877	Uフレイク	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	5.86	1.00	WDTK	78.59	0.00
No.12地点 213	2709	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	9.78	1.00	HNKT	78.70	0.00
No.12地点 214	2710	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	9.68	1.00	HNKT	97.12	0.00
No.12地点 215	2711	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	3.55	1.00	HNKT	109.14	0.00
No.12地点 216	2719	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	6.54	1.00	HNKT	75.11	0.00
No.12地点 217	2720	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	7.28	1.00	HNKT	88.34	0.00
No.12地点 218	2721	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	3.08	1.00	HNKT	72.33	0.00
No.12地点 219	2727	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	3.68	1.00	HNKT	84.85	0.00
No.12地点 220	2728	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	2.89	1.00	HNKT	87.66	0.00
No.12地点 221	2739	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	1.09	1.00	HNKT	80.95	0.00
No.12地点 222	2759	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	7.31	1.00	WDTK	80.51	0.00
No.12地点 223	2758	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	0.64	1.00	WDTK	77.40	0.00
No.12地点 224	2810	剥片	SCⅢb2	不可	不可	SWHD	20.01	1.00	WDTK	52.32	0.00
No.12地点 225	2813	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	4.04	1.00	WDTK	69.56	0.00
No.12地点 226	2529	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.02	1.00	HNKT	85.78	0.00
No.12地点 227	2378	砕片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.48	1.00	HNKT	80.03	0.00
No.12地点 228	1940	石核	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.92	1.00	HNKT	71.06	0.00
No.12地点 229	2379	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.25	1.00	HNKT	84.23	0.00
No.12地点 230	2152	ナイフ形石器	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.60	1.00	HNKT	101.83	0.00
No.12地点 231	2138	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.54	1.00	HNKT	92.14	0.00
No.12地点 232	2411	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.18	1.00	HNKT	91.79	0.00
No.12地点 233	2162	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	10.19	1.00	HNKT	101.30	0.00
No.12地点 234	1958	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	9.24	1.00	HNKT	92.70	0.00
No.12地点 235	2306	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.87	1.00	HNKT	97.31	0.00
No.12地点 236	2368	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	0.92	1.00	HNKT	81.97	0.00
No.12地点 237	2523	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.21	1.00	HNKT	77.84	0.00
No.12地点 238	2148	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.74	1.00	HNKT	80.89	0.00
No.12地点 239	2406	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.79	1.00	HNKT	80.96	0.00
No.12地点 240	2326	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.32	1.00	HNKT	93.63	0.00
No.12地点 241	1984	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	14.05	1.00	HNKT	84.41	0.00
No.12地点 242	1988	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.10	1.00	HNKT	90.78	0.00
No.12地点 243	2325	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	12.49	1.00	HNKT	88.98	0.00
No.12地点 244	2238	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.97	1.00	HNKT	80.72	0.00
No.12地点 245	2302	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.08	1.00	HNKT	81.61	0.00
No.12地点 246	2335	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	8.26	1.00	HNKT	77.47	0.00
No.12地点 247	2180	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.16	1.00	HNKT	91.20	0.00
No.12地点 248	2156	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.42	1.00	HNKT	78.41	0.00
No.12地点 249	2524	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	23.33	1.00	HNKT	83.90	0.00
No.12地点 250	2364	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.90	1.00	HNKT	78.08	0.00
No.12地点 251	2243	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.02	1.00	HNKT	71.28	0.00
No.12地点 252	2307	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.43	1.00	HNKT	88.04	0.00
No.12地点 253	2846	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	9.38	1.00	WDTK	127.89	0.00
No.12地点 254	1945	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	12.30	1.00	HNKT	49.48	0.00
No.12地点 255	2275	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.16	1.00	HNKT	83.30	0.00
No.12地点 256	2224	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.97	1.00	HNKT	82.58	0.00

表８　Ｄ地区（No.12地点）分析結果（５）

分析番号	遺物番号	器　種	時代	推定産地	判別図判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
No.12地点 257	2601	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.83	1.00	HNKT	71.93	0.00
No.12地点 258	2396	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.12	1.00	HNKT	59.88	0.00
No.12地点 259	2598	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.39	1.00	HNKT	73.01	0.00
No.12地点 260	2926	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	3.33	1.00	WDTK	69.86	0.00
No.12地点 261	2934	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	15.33	1.00	WDTK	53.00	0.00
No.12地点 262	2814	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	6.90	1.00	WDTK	60.21	0.00
No.12地点 263	1985	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	10.23	1.00	HNKT	88.51	0.00
No.12地点 264	1986	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.59	1.00	HNKT	78.36	0.00
No.12地点 265	1917	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.21	1.00	HNKT	83.63	0.00
No.12地点 266	2315	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	12.79	1.00	HNKT	85.64	0.00
No.12地点 267	1997	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.39	1.00	HNKT	86.66	0.00
No.12地点 268	1924	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	12.73	1.00	HNKT	82.62	0.00
No.12地点 269	1919	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.01	1.00	HNKT	78.01	0.00
No.12地点 270	2424	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.04	1.00	HNKT	77.15	0.00
No.12地点 271	2687	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.97	1.00	HNKT	88.41	0.00
No.12地点 272	2385	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.84	1.00	HNKT	89.15	0.00
No.12地点 273	2648	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	3.67	1.00	HNKT	85.84	0.00
No.12地点 274	2423	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.36	1.00	HNKT	74.12	0.00
No.12地点 275	4017	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	7.36	1.00	WDTN	79.37	0.00
No.12地点 276	4018	剥片	SCⅢb2	不可	不可	WDTN	36.57	0.91	WDTM	38.67	0.09
No.12地点 277	2474	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	4.60	1.00	HNKT	81.34	0.00
No.12地点 278	2163	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.58	1.00	HNKT	85.59	0.00
No.12地点 279	1925	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	5.07	1.00	HNKT	76.84	0.00
No.12地点 280	1916	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.56	1.00	HNKT	86.17	0.00
No.12地点 281	1923	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.71	1.00	HNKT	82.91	0.00
No.12地点 282	2229	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.36	1.00	HNKT	78.58	0.00
No.12地点 283	1931	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.95	1.00	HNKT	73.55	0.00
No.12地点 284	2362	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.76	1.00	HNKT	72.68	0.00
No.12地点 285	2681	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	12.38	1.00	HNKT	87.81	0.00
No.12地点 286	2716	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	6.29	1.00	HNKT	76.67	0.00
No.12地点 287	2713	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	4.21	1.00	HNKT	72.79	0.00
No.12地点 288	2853	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	8.89	1.00	WDTK	60.66	0.00
No.12地点 289	2816	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	12.07	1.00	WDTN	61.92	0.00
No.12地点 290	2724	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	2.57	1.00	HNKT	92.54	0.00
No.12地点 291	2722	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	5.01	1.00	HNKT	83.35	0.00
No.12地点 292	2723	剥片	SCⅢb1	AGKT	AGKT	AGKT	13.23	1.00	HNKT	97.25	0.00
No.12地点 293	3048	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	2.67	1.00	WDTK	75.65	0.00
No.12地点 294	2937	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	4.34	1.00	WDTK	88.37	0.00
No.12地点 295	2930	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	18.29	1.00	WDTK	62.92	0.00
No.12地点 296	2971	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	0.49	1.00	WDTK	89.98	0.00
No.12地点 297	2837	剥片	SCⅢb2	SWHD	SWHD	SWHD	8.99	1.00	WDTK	60.47	0.00
No.12地点 298	1978	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	11.55	1.00	HNKT	95.34	0.00
No.12地点 299	1991	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	6.30	1.00	HNKT	85.72	0.00
No.12地点 300	2408	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	1.32	1.00	HNKT	84.91	0.00
No.12地点 301	2390	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	7.09	1.00	HNKT	85.05	0.00
No.12地点 302	2336	剥片	BBⅢ	AGKT	AGKT	AGKT	2.67	1.00	HNKT	92.23	0.00
No.12地点 303	1835	石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	6.64	1.00	WDTN	79.23	0.00
No.12地点 304	680	石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	3.43	1.00	WDTK	101.80	0.00
No.12地点 305	679	石鏃	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	4.56	1.00	KZSN	38.57	0.00
No.12地点 306		石鏃	縄文	SWHD	SWHD	SWHD	6.03	1.00	WDTK	107.88	0.00
No.12地点 307	1785	石核	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	5.73	1.00	KZSN	42.28	0.00
No.12地点 308	551	石核	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	4.20	1.00	KZSN	37.08	0.00
No.12地点 309	1795	石核	縄文	KZOB	KZOB	KZOB	6.22	1.00	KZSN	31.74	0.00

第Ⅵ章　調査成果

遺跡の立地と遺跡群

八兵衛洞遺跡は西久保川と西川に挟まれた尾根上に立地している。この尾根は今回の調査区付近まで貫入した支谷によって、４つの尾根に分けられる（西側から尾根Ａ・尾根B・尾根Ｃ・尾根Ｄ）。尾根Ａは今回の調査区でほぼ終端となるが、尾根Ｂは愛鷹南麓の主幹的尾根の一つとなる。この尾根上には昭和53年に調査が行われた八兵衛洞遺跡Ｃ地区（Ｃ遺跡）や、八兵衛屋敷遺跡などの弥生時代～古墳時代初頭の集落が立地する。尾根Ｃの南側に接して八兵衛洞遺跡Ａ地区（Ａ遺跡）があり、さらに尾根Ｄは八兵衛洞遺跡Ｂ地区（Ｂ遺跡）や尾上Ⅲ橋西遺跡をのせている。

複数の尾根を横断する溝（弥生時代後期～古墳時代初頭）

本調査における最大の成果は、これらの尾根を横断する大規模な溝（第３号溝状遺構）が発見されたことである。この溝は西側は尾根Ｂに始まり、尾根Ｄの東側斜面にまで及んでいる。調査区内における全長は211mで、平均的な幅は1.5m～2.5m程度、深さは1.5m～２mを中心とする大規模なものである。東西とも調査区境界外へと伸びており、さらに複数の尾根を横断している可能性が高い。実際に本遺跡から約３㎞東の二ツ洞遺跡においても同様の溝が発見されており、多少の断絶をはさみながらも少なくとも3.2㎞以上にわたってこの溝が敷設されていたことになる。

この溝の特徴の一つは、愛鷹山麓の複数の尾根が北に向かって収斂する付近に設置されていることである。谷Ｂは本調査区から南に離れると間もなく、浸食を深めて沢となるが、そうした起伏の強い地形の前側にこの溝が存在する。そこには谷筋も含め愛鷹山麓の南北移動を効率よく遮断しようとする意図が感じられる。

溝の継続時期

211mにも及ぶ溝であるが、土器の出土量が少なく下底面に密着した状態のものはほとんどなかったため、所属時期を限定することが困難である。いっぽう溝内に併設された土坑（SDK）の切り合いや土層セクションの観察からは、この溝が何度か掘り返されたことが推定されている。

数少ない出土土器の主体となるのは、弥生時代後期後半であるが、大廓式の構成要素となる二重口縁（第42図１）、頸部が強く屈曲する壺（第42図３）、球胴となる広口壺（第42図９）など、古墳時代初頭ないしその移行的要素を認めることができる。したがってここでは、溝の時期を弥生時代後期後葉～古墳時代初頭として幅をもたせて理解しておきたい。なお、本調査区ではいわゆる「Ｓ字甕」の出土はない。

溝と住居址の関係

八兵衛洞遺跡では第１次調査のＡ地区で21軒、Ｂ地区で50軒、Ｃ地区で13軒、第２次調査で68軒と、多くの住居址が検出されてきたが、本調査区にはわずか５軒の住居址が存在するにすぎない。また第３号溝状遺構の北側には住居址の分布が及んでいないことから、この溝が集落の北限を画しているものと考えられる。

しかしいっぽうで、中見代第Ⅰ遺跡にも弥生時代後期の住居址が41軒存在するが、第３号溝状遺構の延長線上よりも明らかに北側にあり（この部分の溝は未調査）、この溝が愛鷹山麓のどの地区

においても集落の北限を画しているわけではない、という点は留意しておく必要がある。

陥穴と集石（縄文時代早期？）

縄文時代に属する遺構としては、Ｅ地区から土坑７基と集石２基が検出されている。土坑のうち第51号・第65号・第71号土坑は、その形状から陥穴としての機能が考えられるが、これらは他の土坑とは異なって尾根から谷にかかる斜面に構築されており、飲水やヌタ場を求めて斜面を移動する動物を狙ったものと思われる。Ｅ地区の包含層の早・前期の土器としては、押型文土器・鵜ヶ島台式土器・打越式土器・清水ノ上Ⅱ式土器・諸磯ｂ式土器があるが、陥穴の性格上、その構築された時期と出土土器の関係は不明である。

第１号集石の周囲からはほとんど土器が出土していない。第２号集石については周囲から鵜ヶ島台式土器が比較的よく纏まって出土しており、この時期に帰属する可能性が高い。

休場層の遺構と石器

Ｅ地区の休場層からは礫群３基と６か所のブロックなどの遺構､石器としてはナイフ形石器12点、尖頭器１点などが検出された。石器の総点数は163点である。Ｄ地区の休場層からは礫群４基が検出されているが、石器はブロックを形成していなかった。石器としてはナイフ形石器３点、削器３点などがあり、石器の総点数は57点と少ない。両地区とも石器・石片の分布は散漫であり、この時期の愛鷹山麓に共通する状況が認められる。ともにナイフ形石器の特徴から愛鷹・箱根第４期前半に位置づけられる。

第Ⅲ黒色帯の遺構と石器

Ｄ地区の第Ⅲ黒色帯からは愛鷹・箱根第２期の石器群が比較的よく纏まって出土している。合計741点の石器が出土し、５か所のブロックを構成している。石材は黒曜石が684点（92％）と主体を占め、Ｆ.ホルンフェルス45点（６％）がこれに続く。黒曜石については分析可能なサイズのもの全点を蛍光Ｘ線分析法によって産地推定し､204点中202点（99.0％）が天城柏峠産という結果を得た。これまでの愛鷹・箱根山麓出土の産地推定の結果でも、愛鷹・箱根第２期は天城柏峠産・箱根畑宿産という近在の原産地が他を圧倒する状況が示されているが、今回の分析結果もこれに準じる結果となった。

黒曜石製のナイフ形石器は長径3.5㎝以下の比較的小形のものであり、先端に向けてブランティングが弧状に回り込むこの段階に特徴的な形態が認められた。黒曜石製のナイフ形石器はやや小形の石核の単設打面からの縦長剥片を素材としているが、Ｆ.ホルンフェルス製の石核では両設打面から縦長剥片を作出していた。

第Ⅲスコリア帯黒色帯２の遺構と石器

Ｄ地区の第Ⅲスコリア帯黒色帯２からは、２か所のブロックと計364点の石器が検出されている。製品としての剥片石器はナイフ形石器２点のみであるが、第Ⅲ黒色帯出土のものと比べて大形な傾向が認められる。石材は黒曜石が217点（60％）と主体を占め、Ｆ.ホルンフェルスが101点（28％）とこれに続くが、黒曜石原産地は56点中37点（66.1％）が諏訪星ヶ台産となり、第Ⅲ黒色帯とは異なる結果が得られている。

遺 物 観 察 表

第９表　Ｅ地区　休場層礫群・配石一覧表

礫群・配石	遺物No.	層位	石材	礫状態	重量(g)	接合No.	X座標	Y座標	Z座標
第1号礫群	3021	YLM	An	A2	410.0		277.734	12.562	161.473
第1号礫群	3024	YLM	An	A2	347.0		277.642	11.506	161.403
第1号礫群	3025	YLM	An	B12	92.0	R-3	277.383	11.009	161.313
第1号礫群	3026	YLM	An	A1	571.0		277.728	10.936	161.347
第1号礫群	3027	YLM	An	B12	738.0		278.114	10.997	161.403
第1号礫群	3028	YLM	An	A2	383.0		278.069	10.795	161.375
第1号礫群	3029	YLM	An	B12	853.0		277.988	10.663	161.349
第1号礫群	3030	YLM	An	A1	459.0		276.376	11.049	161.256
第1号礫群	3031	YLM	An	B12	76.0	R-3	277.164	11.662	161.320
第1号礫群	3032	YLM	An	A1	353.0		278.221	10.658	161.364
第1号礫群	3033	YLM	An	B2	693.0		278.691	11.007	161.414
第2号礫群	2984	YLM	An	B12	399.0		276.263	7.581	161.260
第2号礫群	2985	YLM	An	A1	333.0		276.172	7.681	161.261
第2号礫群	2986	YLM	An	B11	453.0		275.981	7.898	161.273
第2号礫群	2987	YLM	An	B12	313.0		276.248	7.946	161.279
第2号礫群	2988	YLM	An	A1	376.0		276.526	7.801	161.274
第2号礫群	2989	YLM	An	B12	179.0	R-1	276.077	8.264	161.288
第3号礫群	2990	YLM	An	B12	393.0	R-1	277.860	7.883	161.378
第3号礫群	2991	YLM	An	B11	64.0		277.762	7.855	161.259
第3号礫群	2992	YLM	An	B2	112.0		277.789	7.929	161.392
第3号礫群	2993	YLM	An	B11	327.0	R-2	277.893	8.013	161.380
第3号礫群	2994	YLM	An	B2	6.0		277.772	8.079	161.374
第3号礫群	2995	YLM	An	B11	23.0	R-2	278.194	8.160	161.368
第3号礫群	2996	YLM	An	B11	36.0	R-2	278.489	8.495	161.361
第3号礫群	2997	YLM	An	B2	20.0		278.414	8.439	161.249
第3号礫群	2998	YLM	An	A1	579.0		278.364	8.608	161.369
第3号礫群	2999	YLM	An	A2	324.0		278.344	9.105	161.437
第3号礫群	3017	YLM	An	B2	176.0		279.006	8.035	161.429
第3号礫群	3018	YLM	An	B11	185.0	R-2	279.073	8.090	161.422
第3号礫群	3144	YLM	An	B2	678.0		279.284	8.285	161.441
第1号配石	2901	YLU	An	A2	3432.0		285.368	6.514	161.985
第2号配石	2904	YLU	An	A2	1424.0		285.060	6.541	161.957
第3号配石	3019	YLM	An	A2	1307.0		279.126	8.307	161.417
第4号配石	3020	YLM	An	B12	1984.0		279.091	8.787	161.369
第5号配石	3022	YLM	An	A1	2385.0		278.545	11.366	161.448
第6号配石	3023	YLM	An	B11	1962.0		277.450	11.597	161.378
第7号配石	5003	YL	An	A1	1599.0		104.127	37.104	162.248
第8号配石	5099	YL	An	A1	1684.0		107.560	46.142	162.613

第10表　Ｅ地区　BBⅡ層礫群・配石一覧表（１）

礫群・配石	遺物No.	層位	石材	礫状態	重量(g)	接合No.	X座標	Y座標	Z座標
第1号礫群	3287	BBⅡU	An	B12	78.0		296.096	21.425	160.561
第1号礫群	3288	BBⅡL	An	A2	875.0		294.371	20.842	160.553
第1号礫群	3289	BBⅡL	An	A1	118.0		293.830	19.439	160.741
第1号礫群	3290	BBⅡL	An	B2	55.0		294.497	18.877	160.682

第11表　Ｅ地区　BBⅡ層礫群・配石一覧表（２）

礫群・配石	遺物No.	層位	石材	礫状態	重量(g)	接合No.	X座標	Y座標	Z座標
第2号配石	3236	BBⅡU	An	B12	4207.0	R-7	283.872	23.391	161.174
第3号配石	3237	BBⅡU	Da	B2	1152.0		284.433	20.863	161.109
第4号配石	3238	BBⅡU	An	A1	1167.0		284.825	20.113	161.168
第5号配石	3239	BBⅡU	An	A1	2498.0		285.261	20.381	161.185
第6号配石	3242	BBⅡU	An	B2	1209.0		274.054	23.809	161.183
第7号配石	3243	BBⅡU	An	B2	2775.0	R-8	273.972	23.753	161.185
第8号配石	3244	BBⅡU	An	B2	16840.0	R-8	273.932	23.639	161.152
第9号配石	3245	BBⅡU	An	A1	2013.0		277.302	26.700	161.463
第10号配石	3246	BBⅡU	An	A1	3210.0		277.150	26.502	161.425
第11号配石	3254	BBⅡU	An	B2	904.0	R-9	292.505	11.531	161.066
第12号配石	3256	BBⅡU	An	A2	2518.0		292.251	13.035	161.055
第13号配石	3285	BBⅡU	An	A2	2947.0		290.793	23.282	160.760
第14号配石	3286	BBⅡU	An	B12	5192.0		294.919	23.871	160.451
第15号配石	3299	BBⅡU	An	B2	4334.0		292.872	19.212	160.791

第12表　Ｅ地区　SCⅢb1層礫群・配石一覧表

礫群・配石	遺物No.	層位	石材	礫状態	重量(g)	接合No.	X座標	Y座標	Z座標
第1号礫群	3317	SCⅢb1	An	B2	167.0	R-11	293.950	22.958	160.119
第1号礫群	3353	SCⅢb1	Da	B2	295.0	R-10	292.850	22.249	160.071
第1号礫群	3314	SCⅢb1	An	B2	807.0	R-11	292.772	22.186	160.138
第1号礫群	3312	SCⅢb1	Da	B2	868.0	R-10	293.423	21.277	160.188
第1号配石	3295	SCⅢb1	An	A1	5999.0		284.608	50.864	161.933
第2号配石	3296	SCⅢb1	An	A2	1562.0		285.292	50.120	161.923
第3号配石	3313	SCⅢb1	An	A2	3092.0		292.498	21.980	160.158
第4号配石	3315	SCⅢb1	An	A1	6820.0		292.622	22.505	160.127
第5号配石	3316	SCⅢb1	Da	B2	1292.0	R-10	292.846	22.228	160.137

第13表　E地区　縄文時代出土石器一覧表

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	備考
56-1	792	尖頭器	GBA	KU			10.4	3.1	1.2	35.3	295.811	15.954	161.589	
56-2	2818	尖頭器	GBA	FBL			9.2	2.0	0.8	12.8	278.857	13.473	161.723	
56-3		尖頭器	GBA	表採			3.1	1.8	0.6	2.7	—	—	—	
56-4	316	有茎尖頭器	F.H	KU			5.0	0.8	0.5	2.3	116.402	28.844	159.718	
56-5	2611	有茎尖頭器	GBA	FBL			4.9	1.5	0.7	4.7	284.094	13.828	162.239	
56-6		薄型尖頭器	GBA	表採			3.9	1.7	0.3	2.4	—	—	—	試掘出土
57-7	259	石鏃	Ob	新SC	SWHD	01	2.3	1.6	0.4	1.0	282.902	21.719	162.818	
57-8	231	石鏃	Ob	新SC	SWHD	02	2.9	1.8	0.4	1.5	249.084	54.365	158.543	
57-9		石鏃	Ch	表採			2.6	1.6	0.3	1.2	—	—	—	
57-10	1050	石鏃	Ob	新SC	AGKT	03	2.0	1.5	0.3	0.6	119.098	33.902	158.803	
57-11	2556	石鏃	GBA	FBU			1.7	1.6	0.4	1.1	282.745	10.887	162.230	
57-12	268	石鏃	GBA	新SC			2.0	1.5	0.4	0.8	287.123	14.865	162.753	
57-13	5092	石鏃	Ob	FBL	SWHD	04	1.3	1.3	0.3	0.3	106.746	40.904	162.459	
57-14	2161	石鏃	Ob	FB	KZOB	05	2.0	1.6	0.5	1.2	279.115	16.817	162.362	
57-15	2641	石鏃	GBA	FBU			1.9	1.5	0.2	0.9	283.329	13.821	162.402	
57-16	181	石鏃	Ob	新SC	SWHD	06	2.6	2.1	0.5	2.0	138.651	4.834	157.948	
57-17	487	石鏃	Ob	新SC	SWHD	07	2.3	1.4	0.4	1.0	283.722	23.758	162.587	
57-18	594	削器	Ob	新SC	SWHD	08	2.3	1.3	0.5	1.5	283.895	13.812	162.578	
57-19		削器	F.H	表採			5.5	2.6	1.4	17.4	—	—	—	試掘出土
57-20	3116	Rフレイク	Ob	FBL	SWHD	09	1.3	1.8	0.5	1.0	280.663	30.475	162.586	
57-21	260	Rフレイク	Sl	新SC			3.5	2.5	1.0	8.0	284.778	14.981	162.757	
57-22	2596	Rフレイク	Ob	FBU	AGKT	10	2.4	0.9	0.5	0.9	287.601	13.823	162.505	
57-23	2634	楔形石器	Ob	FBU	KZOB	11	2.3	1.6	0.8	2.3	283.387	12.794	162.210	
57-24	2604	楔形石器	Ob	FBU	KZOB	12	2.1	1.1	0.8	1.8	285.210	13.635	162.454	
58-25	2617	石匙	GBA	FBU			2.4	3.3	0.8	5.2	284.479	12.857	162.426	
58-26	768	石錐	Tu	KU			2.9	2.2	0.6	1.8	280.616	10.236	162.205	
58-27	3185	打製石斧	SS	新SC			12.9	5.9	1.6	153.7	240.905	33.803	156.018	
58-28	2572	打製石斧	SS	FBU			8.3	5.5	1.7	109.5	289.843	10.315	162.293	
58-29	2314	打製石斧	SS	新SC			12.8	7.5	2.0	232.1	281.682	8.240	162.337	
58-30		打製石斧	SS	表採			8.8	4.9	1.7	81.4	—	—	—	
58-31	479	打製石斧	SS	新SC			7.1	4.9	1.5	68.6	280.268	25.688	162.826	
58-32		礫斧	SS	覆土			13.5	9.6	3.3	601.9	—	—	—	SD18出土
59-33		磨石	An	覆土			13.0	8.0	5.4	574.1	—	—	—	SD3出土
59-34	3192	磨石	An	新SC			12.0	8.6	7.1	677.2	242.116	39.224	156.452	
59-35	2173	磨石	An	KU			10.0	9.0	3.9	511.6	281.399	17.963	162.380	
59-36	2052	磨石	An	FB			10.7	9.9	4.4	727.4	285.136	18.749	162.405	
59-37	2820	磨石	An	FBU			7.6	6.2	2.0	147.6	283.477	10.726	162.275	
59-38	2177	磨石	QD	KU			10.5	7.8	3.0	369.4	278.279	25.058	162.529	
59-39	2077 2167	磨石	An	新SC			10.4	8.6	4.7	623.9	283.514 277.023	30.879 24.419	162.494 162.585	
59-40	869	磨石	An	新SC			6.6	5.8	4.3	205.0	285.677	8.614	162.571	
59-41	359	石皿	An	新SC			22.4	30.0	9.6	8600.0	290.328	12.916	162.399	
60-42		石核	Ob	表採	KZOB	13	2.5	2.2	1.6	8.8	110.319	44.596	162.765	試掘出土
60-43	2836	石核	Ob	FBL	SWHD	14	2.9	2.9	0.2	13.1	289.202	8.226	162.284	
60-44	5093	石核	GBA	KU			4.3	3.2	2.7	23.4	110.319	44.596	162.765	
61-45	326	石核	F.H	FB			4.5	4.8	2.7	67.6	107.050	35.584	162.113	
61-46	2168	石核	F.H	KU			5.1	4.9	3.5	102.0	277.833	24.892	162.562	
61-47	2111	石核	F.H	KU			4.6	8.7	3.9	154.4	290.052	16.878	162.168	
61-48	2892	石核	F.H	FBL			7.4	10.5	4.1	386.6	282.776	13.603	162.132	
62-49	2016	石核	F.H	FB			4.2	11.1	6.7	370.9	280.438	23.125	162.451	
62-50		石核	F.H	表採			14.8	7.7	5.3	804.6	—	—	—	
62-51	2893	石核	F.H	FBL			9.9	6.5	3.2	246.9	280.337	12.698	162.069	
63-52	2100	石核	F.H	KU			3.1	7.0	4.6	107.7	287.828	42.971	162.144	
63-53	2174	石核	F.H	FB			7.4	6.9	4.7	297.9	282.038	19.077	162.330	

第14表　E地区　休場層出土石器一覧表（1）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	311	剥片	F.H	YL			3.4	2.0	0.9	6.1			109.772	39.959	161.516
69-13	320	尖頭器	Ob	KU	WDTY	24	3.2	1.3	0.6	2.4			119.885	28.567	159.214
	324	Uフレイク	Ob	YL	SWHD	26	3.0	1.6	0.7	2.6			118.851	28.253	158.541
	1032	剥片	F.H	YL			2.4	2.3	0.4	3.0			109.496	40.539	160.282
	1033	剥片	SSh	YL			2.4	3.3	0.3	4.1	S41		107.773	37.284	160.136
	1034	剥片	SSh	YL			1.1	1.8	0.4	0.8	S41-1		107.480	36.728	160.177
	1037	剥片	F.H	YL			1.1	1.5	0.3	0.6			110.383	36.780	159.653
	1038	剥片	F.H	YL			0.9	3.0	0.6	2.3			112.456	36.574	159.412
	1039	砕片	F.H	YL			1.1	0.5	0.1	0.4			112.382	36.134	159.409
	1040	砕片	F.H	YL			1.0	0.5	0.1	0.3			112.699	36.175	159.305
73-27	1041	剥片	F.H	YL			2.0	1.8	0.3	0.8			112.900	35.802	159.330
68-3	1042	ナイフ形石器	GBA	Zn			3.5	2.4	0.6	2.4			110.048	34.286	159.706
71-21	1084	石核	F.H	YL			5.5	5.1	3.6	117.8			199.492	62.222	165.487
	1085	剥片	F.H	YL			1.9	0.9	0.6	1.5			201.700	58.682	164.971
	1086	剥片	F.H	YL			1.8	3.4	0.8	11.3			201.460	59.341	165.060
	1087	剥片	F.H	YL			2.8	3.2	0.9	11.1			202.372	56.987	164.865
	1737	剥片	Ob	YL	SWHD	31	1.6	1.5	0.3	0.6			—	—	—
68-8	2039	ナイフ形石器	Ob	FB	AGKT	20	2.4	0.9	0.4	1.0			288.112	19.335	162.282
	2330	剥片	Ob	YL	HNHJ	32	1.6	1.0	0.3	0.5			278.752	33.149	162.435
68-10	2412	ナイフ形石器	Ob	FB	WDTY	22	3.9	1.7	0.6	4.3			286.079	26.896	161.918
	2481	剥片	Ob	YL	HNHJ	33	4.0	2.4	0.7	8.0			278.366	24.343	162.201
	2482	砕片	Ob	YL			0.5	0.4	0.1	0.0			278.496	24.255	162.176
	2811	剥片	GBA	YL			3.4	2.5	0.9	6.8		SBL1	280.539	31.379	162.466
68-2	2850 2851	ナイフ形石器	F.H	FBL			6.1	1.8	0.8	9.5			285.319	8.158	162.080
68-4	2946	ナイフ形石器	Ob	YL	WDTM	18	3.4	1.4	0.6	2.5			271.941	9.246	160.505
73-26	2978	剥片	F.H	YLU			3.2	3.6	2.1	30.1	S44	SBL4	282.422	8.873	161.809
	2980	砕片	Ob	YLU			0.6	0.4	0.1	0.0			282.619	19.103	162.100
	3000	剥片	F.H	BB0			3.9	2.7	0.8	9.9		SBL3	278.882	7.494	161.395
	3001	剥片	F.H	YLM			5.4	2.1	1.1	11.6		SBL3	278.818	7.824	161.384
70-16	3002	石核	F.H	YLM			5.4	3.9	3.5	94.4		SBL3	278.918	8.423	161.433
	3003	剥片	F.H	YLM			2.9	1.8	0.8	3.7		SBL3	278.539	8.317	161.457
71-19	3004	石核	F.H	YLM			4.6	4.0	3.3	76.2		SBL3	278.871	8.665	161.418
	3005	剥片	F.H	YLM			3.9	3.0	0.8	10.3		SBL3	278.988	8.997	161.432
	3006	剥片	F.H	YLM			1.8	3.2	0.9	5.3		SBL2	277.902	10.193	161.399
73-27	3007	剥片	F.H	YLM			3.7	2.6	0.6	12.0	S43	SBL2	278.173	10.203	161.425
73-27	3008	剥片	F.H	YLM			2.4	1.8	0.9	3.9	S43	SBL2	277.766	11.068	161.394
	3009	剥片	F.H	YLM			2.0	1.9	0.3	1.3		SBL2	278.508	11.060	161.391
73-27	3010	剥片	F.H	YLM			7.6	6.7	2.7	154.5	S43	SBL2	278.563	11.135	161.427
73-27	3011	剥片	F.H	YLM			2.6	3.4	0.7	9.4	S43	SBL2	278.399	11.324	161.480
71-22 73-27	3012	石核	F.H	YLM			4.8	5.9	4.3	101.1	S43	SBL2	278.382	11.390	161.480
	3014	砕片	F.H	YLU			0.4	0.3	0.1	0.0			274.571	12.955	161.388
	3015	剥片	F.H	YLU			1.4	3.6	0.8	6.4			274.720	13.762	161.465
	3016	剥片	Ob	BB0	HNHJ	36	2.5	1.4	0.4	1.9			275.894	12.073	161.099
	3034	剥片	F.H	YLM			0.6	1.4	0.3	0.2		SBL3	278.486	8.301	161.390
	3042	砕片	GBA	YLM			0.5	0.5	0.1	0.1			281.694	1.271	161.689
73-27	3045	剥片	F.H	YLM			1.7	2.5	0.6	3.0	S43	SBL2	278.376	11.408	161.354
69-14	3061	楔形石器	Ob	YLM	KZOB	25	2.1	1.7	0.9	2.6		SBL5	284.048	13.401	161.713
68-9	3062	ナイフ形石器	F.H	YLU			5.9	2.2	0.8	7.4			290.437	10.441	161.966
	3063	剥片	Ob	YLM	AGKT	34	2.3	1.0	0.5	1.0			286.586	19.482	161.868
73-26	3064	剥片	F.H	YLM			4.8	3.5	1.5	30.3	S44	SBL4	281.806	9.294	161.724
	3066	剥片	F.H	YLM			0.8	2.1	0.7	1.2		SBL6	285.482	7.065	161.919
	3067	剥片	F.H	YLM			4.1	1.9	0.8	8.3		SBL6	285.845	7.386	161.934
69-11	3068	ナイフ形石器	Ob	YLM	WOTM	23	2.5	1.5	0.9	2.6		SBL6	286.271	7.086	161.970

第15表　E地区　休場層出土石器一覧表（2）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
70-18	3071	石核	F.H	YLU			6.4	6.3	5.0	252.6			289.743	8.409	162.111
	3072	剥片	Ob	YLU			1.1	0.6	0.2	0.1			290.068	7.629	162.105
	3076	剥片	F.H	YLM			0.7	1.5	0.5	0.9			283.652	5.894	161.874
	3083	砕片	Ob	YLM			0.5	0.3	0.2	0.0		SBL5	283.790	13.430	161.826
	3084	砕片	Ob	YLM			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL5	283.772	13.498	161.837
	3087	剥片	Ob	YLM			1.8	0.9	0.3	0.3		SBL5	283.947	13.423	161.622
	3089	砕片	Ob	YL			0.3	0.4	0.2	0.0		SBL1	280.118	31.723	162.352
	3092	剥片	Ob	YL			1.5	0.9	0.2	0.2		SBL1	279.919	32.413	162.486
	3107	剥片	F.H	YLU			1.1	1.1	0.5	0.7			279.367	20.796	162.131
	3125	剥片	F.H	YLL			0.9	3.3	1.1	4.1		SBL6	285.607	8.294	161.651
	3126	剥片	F.H	YL			1.3	2.1	0.3	1.1			290.475	11.487	161.695
	3127	剥片	F.H	YLM			3.8	2.0	0.8	6.7			280.125	5.922	161.448
	3130	剥片	F.H	YLM			3.6	4.9	1.3	28.9		SBL3	279.419	8.210	161.472
	3131	砕片	F.H	YLM			0.8	0.4	0.1	0.2		SBL3	279.710	8.702	161.467
	3132	剥片	F.H	YLM			5.9	2.8	0.6	13.1		SBL3	279.658	8.864	161.418
	3133	砕片	SSh	YLM			0.7	0.3	0.3	1.0		SBL3	279.347	9.132	161.527
	3134	剥片	SSh	YLM			3.1	10.2	0.5	2.2		SBL3	279.267	9.170	161.555
73-26	3136	剥片	F.H	YLM			2.5	3.7	1.6	19.7	S44	SBL3	279.951	9.361	161.693
	3173	剥片	F.H	YL			5.4	3.7	0.6	20.3			292.414	20.990	161.731
	3294	剥片	Ob	YL	HNHJ	35	1.5	1.2	0.5	0.7		SBL1	279.344	31.021	162.427
	3298	剥片	SSh	YL			4.0	2.8	1.3	13.2			290.913	19.763	161.935
	5004	剥片	F.H	YL			1.8	4.7	0.9	7.3			104.606	36.202	162.426
	5005	剥片	F.H	YL			2.5	2.0	0.6	4.6			104.880	36.275	162.346
69-15	5011	敲石	F.H	YL			8.3	5.9	2.5	152.7			102.077	37.713	162.254
	5012	剥片	F.H	YL			6.5	2.8	0.6	16.4			100.629	37.688	162.337
	5013	剥片	F.H	YL			4.1	3.2	2.5	27.1			100.622	37.763	162.364
	5014	剥片	F.H	YL			5.9	2.5	1.3	25.6			100.971	38.145	162.369
	5015	剥片	SSh	YL			2.8	1.5	0.3	1.6			101.790	37.782	162.278
	5016	剥片	F.H	YL			2.7	1.5	0.5	2.7	S46		102.646	38.047	162.140
	5017	剥片	F.H	YL			5.9	2.5	1.2	19.1			102.484	39.164	162.228
	5018	剥片	F.H	YL			3.9	3.0	0.7	10.2			103.126	38.767	162.280
72-24	5019	剥片	F.H	YL			4.0	3.0	1.2	19.0	S47		103.075	38.674	162.238
	5020	剥片	F.H	YL			5.1	3.2	1.3	21.2			103.075	38.642	162.229
	5021	剥片	F.H	YL			0.7	1.0	0.4	0.3			103.216	38.632	162.203
	5022	剥片	F.H	YL			1.1	1.1	0.3	0.5			103.271	38.574	162.222
72-24	5023	剥片	F.H	YL			4.3	4.1	1.5	28.9	S47		103.091	38.542	162.283
	5024	剥片	F.H	YL			5.4	4.6	1.0	53.0			103.180	38.413	162.229
72-24	5025	剥片	F.H	YL			6.7	5.8	2.0	85.3	S47		103.110	38.330	162.224
	5026	剥片	F.H	YL			1.5	1.0	0.5	0.7			103.650	39.045	162.208
	5027	砕片	F.H	YL			0.7	0.5	0.1	0.2			103.002	37.871	162.209
73-25	5028	剥片	GBA	YL			5.6	3.5	2.2	42.5	S48		102.747	37.455	162.342
	5029	剥片	F.H	YL			2.0	1.0	0.8	3.6	S49		102.462	36.700	162.181
	5030	剥片	SSh	YL			2.7	3.6	0.7	8.7			103.303	36.257	162.326
	5031	剥片	F.H	YL			3.1	1.8	0.5	3.5			103.371	36.876	162.203
	5032	剥片	F.H	YL			3.3	2.5	0.6	6.9			104.385	37.203	162.179
70-17	5033	石核	F.H	YL			6.2	6.2	5.2	215.0			103.643	37.128	162.175
	5034	剥片	F.H	YL			2.4	1.9	0.4	2.5	S46		103.453	37.621	162.232
	5035	剥片	F.H	YL			1.7	1.0	0.6	1.5	S46		103.370	37.654	162.207
	5036	剥片	F.H	YL			2.7	1.8	0.4	2.9			103.254	37.609	162.103
	5038	剥片	F.H	YL			2.7	1.7	0.6	2.8			103.228	37.871	162.102
	5039	剥片	F.H	YL			3.4	1.1	0.6	2.8			103.637	37.722	162.202
	5040	剥片	SSh	YL			2.5	1.1	0.4	1.2	S41		103.574	38.004	162.274
69-12 73-25	5041	ナイフ形石器	GBA	YL			3.2	1.9	0.4	2.3	S48		103.590	38.348	162.278

第16表　E地区　休場層出土石器一覧表（3）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	5044	剥片	F.H	YL			5.8	1.7	0.5	6.6			103.887	38.186	162.415
	5045	剥片	SSh	YL			5.4	7.2	0.7	27.6	S41		103.863	38.113	162.205
72-24	5046	剥片	F.H	YL			6.8	5.3	3.1	75.0	S47		103.776	38.255	162.223
	5047	剥片	F.H	YL			3.4	1.4	0.5	2.7			103.889	38.292	162.269
	5048	剥片	F.H	YL			4.5	2.3	0.3	4.4			103.987	38.247	162.194
	5049	剥片	F.H	YL			4.2	4.6	1.6	42.3			104.030	38.098	162.187
72-23	5050	剥片	SSh	YL			6.7	7.0	1.9	52.9	S41-2		104.076	38.109	162.181
72-23	5051	剥片	SSh	YL			4.2	4.5	0.5	18.2	S41-2		104.120	38.082	162.167
	5052	剥片	F.H	YL			4.0	4.2	1.6	27.7			104.058	38.040	162.151
72-24	5053	剥片	F.H	YL			1.8	1.7	1.1	4.3	S47		104.066	37.955	162.189
	5054	剥片	F.H	YL			1.0	2.2	0.9	2.8			103.895	37.902	162.296
72-24	5055	剥片	F.H	YL			2.1	3.0	0.9	3.2	S47		104.112	37.471	162.308
	5056	剥片	SSh	YL			6.3	4.3	1.0	42.6	S41		104.213	37.724	162.128
	5057	剥片	GBA	YL			1.1	0.9	0.4	0.5			104.279	37.713	162.090
	5058	剥片	F.H	YL			2.8	1.8	0.5	3.7			104.375	37.233	162.174
72-24	5059	剥片	F.H	YL			1.2	1.6	0.9	2.0	S47		104.829	37.328	162.102
	5060	剥片	F.H	YL			2.5	1.3	0.5	2.0			104.896	37.122	162.074
	5061	剥片	F.H	YL			2.0	1.2	0.5	1.7			104.967	36.896	161.933
72-23	5062	剥片	SSh	YL			1.8	2.7	0.4	2.3	S41-2		104.650	38.149	162.309
	5063	剥片	SSh	YL			1.8	3.6	0.3	2.8	S41		104.744	38.300	162.210
	5064	剥片	GBA	YL			3.7	1.5	0.3	2.5			104.348	38.222	162.103
	5065	剥片	F.H	YL			1.7	2.3	1.0	4.4	S50		104.538	38.308	162.102
72-23	5066	剥片	SSh	YL			1.7	2.1	0.7	1.2	S41-2		104.348	38.222	162.103
72-23	5067	剥片	SSh	YL			2.5	4.4	0.4	7.2	S41-2		104.739	38.753	162.021
	5068	剥片	F.H	YL			4.0	3.4	1.4	22.2	S50		104.270	38.697	162.155
	5069	剥片	F.H	YL			2.8	2.3	1.0	9.4			104.142	38.688	162.242
	5070	剥片	F.H	YL			3.2	1.5	0.4	3.0			105.895	38.200	162.044
	5071	剥片	F.H	YL			2.2	1.1	0.6	1.8			105.966	38.020	162.198
	5072	剥片	F.H	YL			3.1	2.3	1.0	6.8			102.743	34.688	161.934
	5073	剥片	F.H	YL			1.8	1.2	0.5	1.2			102.510	39.158	162.231
	5074	砕片	F.H	YL			0.5	0.3	0.1	0.0			103.225	38.648	162.185
	5075	剥片	F.H	YL			2.5	1.8	0.7	3.1			103.899	38.143	162.338
	5076	剥片	F.H	YL			3.3	5.9	1.1	22.7			103.866	37.919	162.181
	5077	剥片	F.H	YL			2.7	1.4	0.5	2.0			104.679	38.139	162.141
	5078	剥片	F.H	YL			2.5	2.6	0.6	4.3	S49		103.987	38.241	162.190
	5079	剥片	SSh	YL			2.2	1.9	0.9	2.7	S41-1		103.891	37.891	162.136
	5080	剥片	SSh	YL			3.0	1.7	0.3	2.9	S41		104.747	38.574	162.066
	5081	剥片	F.H	YL			3.4	1.1	0.6	2.2			104.019	38.126	162.156
	5082	剥片	F.H	YL			4.2	1.1	0.4	2.2			115.346	52.336	163.247
	5083	剥片	F.H	YL			5.1	1.8	0.7	9.7			115.052	51.683	163.129
	5084	剥片	GBA	YL			4.7	1.9	0.5	7.8			108.683	45.581	162.642
	5085	剥片	F.H	YL			1.5	1.2	0.5	0.8			109.495	45.340	162.503
	5086	剥片	F.H	YL			2.9	2.6	0.5	4.4			106.868	44.168	162.531
	5087	石刃	GBA	YL			7.2	1.8	1.1	13.9			108.444	41.788	161.876
	5088	剥片	F.H	YL			5.5	3.4	1.2	19.4			108.459	41.602	161.979
	5089	剥片	F.H	YL			6.0	3.3	1.0	17.7			107.510	40.927	161.888
71-20	5095	石核	F.H	YL			4.0	3.4	2.1	35.0			108.827	46.230	162.603
	5108	剥片	F.H	YL			3.5	5.3	0.7	16.2			106.459	40.338	161.995
68-1		ナイフ形石器	RC	覆土			6.0	1.9	0.6	7.1		SD3	—	—	—
68-5		ナイフ形石器	Ob	YLM	SWHD	17	2.9	1.6	0.4	1.6			—	—	—
68-6		ナイフ形石器	Ob	KU	WDTY	19	2.8	1.7	0.3	1.7			—	—	—
68-7		ナイフ形石器	Ob	YL	SWHD	21	2.3	1.4	0.5	1.2			—	—	—

第17表　E地区　NL層・BBⅡ層出土石器一覧表

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	3195	剥片	GBA	NL			4.7	4.0	0.9	23.0		SBL1	285.172	21.657	161.298
	3196	Uフレイク	Ob	BBⅡU	TSTY	27	2.2	2.6	0.4	2.1		SBL2	283.681	21.959	161.161
	3197	剥片	GBA	BBⅡU			8.3	4.3	1.1	29.9		SBL2	283.743	21.425	161.160
	3198	剥片	GBA	BBⅡU			4.3	1.8	1.2	13.1		SBL2	283.088	20.774	161.306
	3199	剥片	GBA	BBⅡU			5.8	3.0	1.0	17.6		SBL2	284.635	20.646	161.096
78-2	3200	掻器	Ob	BBⅡU	AGKT	41	2.6	3.2	0.5	3.7			288.323	24.562	160.992
	3201	剥片	F.H	BBⅡU			0.8	2.0	0.4	0.7			289.773	22.894	160.905
	3202	砕片	F.H	BBⅡU			1.0	0.5	0.2	0.2		SBL3	286.723	18.772	160.998
	3203	剥片	F.H	BBⅡU			2.7	1.3	0.5	2.5		SBL3	286.768	18.583	161.048
	3204	剥片	F.H	BBⅡU			6.7	6.4	1.1	55.9		SBL3	287.022	18.685	161.063
	3205	剥片	F.H	BBⅡU			7.1	3.1	0.9	17.0		SBL3	287.310	18.772	161.060
	3206	砕片	F.H	BBⅡU			1.1	0.7	0.1	0.1		SBL3	287.507	18.754	161.068
	3207	剥片	F.H	BBⅡU			3.6	1.5	0.8	5.5		SBL3	287.416	17.880	161.171
	3208	剥片	GBA	BBⅡU			6.0	2.9	0.6	10.8			295.302	18.202	160.682
78-3	3209	Rフレイク	GBA	BBⅡL			7.7	4.5	1.7	65.6			283.329	17.699	160.812
	3210	剥片	F.H	BBⅡU			2.3	1.3	0.5	1.6		SBL1	273.901	22.412	161.116
	3211	剥片	F.H	BBⅡU			0.9	1.3	0.2	1.0		SBL1	273.842	22.935	161.234
	3212	剥片	F.H	BBⅡU			1.6	2.1	0.5	2.3		SBL1	273.873	23.452	161.145
	3213	砕片	F.H	BBⅡU			0.7	1.0	0.2	0.2		SBL1	274.049	23.635	161.179
	3250	Uフレイク	Ob	BBⅡU	AGKT	28	3.4	2.4	0.7	6.1			292.330	11.524	161.191
	3251	Uフレイク	Ob	BBⅡU	AGKT	29	2.7	2.0	0.9	4.0			298.719	13.260	160.553
78-1	3252	ナイフ形石器	Ob	BBⅡU	AGKT	40	1.9	0.8	0.4	0.4			297.547	12.295	160.720
	3253	Uフレイク	Ob	BBⅡU	AGKT	30	2.2	3.0	0.5	2.1			296.886	12.453	160.736
	3280	剥片	F.H	BBⅡL			4.7	1.9	0.6	6.0			292.036	16.317	160.859
	3281	剥片	Ob	BBⅡU			1.8	1.1	0.1	0.4			292.510	9.982	160.987
78-4	3283	石核	F.H	BBⅡU			4.2	6.0	4.6	68.2			281.499	16.591	160.775
	3284	剥片	F.H	BBⅡU			3.1	1.4	0.8	3.5			290.845	23.505	160.824
	3291	剥片	Ob	BBⅡL	AGKT	37	3.7	3.4	0.4	8.5			293.462	23.465	160.531
	3292	剥片	Ob	BBⅡL	AGKT	38	3.0	2.0	0.5	16.7	S51		293.134	23.653	160.521
	3293	剥片	Ob	BBⅡL	AGKT	39	5.0	3.4	0.7	14.8	S51		292.994	25.214	160.374

第18表　E地区　SCⅢb1層出土石器一覧表

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	3297	剥片	Ob	SCⅢb1			1.8	1.8	0.4	1.4			284.535	50.159	161.981
	3300	剥片	F.H	SCⅢb1			1.2	1.1	0.2	0.3			289.662	29.663	159.426

第19表　D地区　休場層礫群・配石一覧表

礫群・配石	遺物No.	層位	石材	礫状態	重量(g)	接合No.	X座標	Y座標	Z座標
第1号礫群	1474	YL	An	B2	367.0		23.115	38.987	166.480
第1号礫群	1475	YL	An	A2	136.0		23.361	38.914	166.479
第1号礫群	1476	YL	An	A2	235.0		23.178	38.779	166.450
第1号礫群	1477	YL	An	B2	266.0		23.462	38.689	166.503
第1号礫群	1478	YL	An	A1	116.0		23.183	38.419	166.456
第1号礫群	1479	YL	An	A2	97.0		22.686	38.181	166.388
第1号礫群	1480	YL	An	B2	271.0		22.613	37.950	166.517
第1号礫群	1492	YL	An	B2	183.0		24.103	38.121	166.489
第1号礫群	1493	YL	An	B2	131.0		24.200	38.014	166.480
第1号礫群	1824	YL	An	B2	21.0		23.125	37.515	166.462
第1号礫群	1829	YL	An	A2	272.0		23.070	37.481	166.255
第2号礫群	1816	YL	An	A2	180.0		23.313	33.614	166.362
第2号礫群	1817	YL	An	A1	241.0		23.568	33.613	166.282
第2号礫群	1818	YL	An	B2	393.0		23.649	33.573	166.285
第2号礫群	1819	YL	An	B2	56.0		23.686	33.703	166.315
第2号礫群	1820	YL	An	B12	74.0		23.388	33.852	166.322
第3号礫群	2018	YL	An	B12	194.0		21.185	29.096	165.826
第3号礫群	2019	YL	An	A1	147.0		21.160	28.862	165.888
第3号礫群	2020	YL	An	B2	65.0		20.561	28.475	165.707
第3号礫群	2022	YL	An	A2	234.0		20.384	29.244	165.661
第4号礫群	526	YL	An	A2	257.0		18.517	26.982	165.403
第4号礫群	527	YL	An	B2	161.0	R-1	18.010	26.617	165.296
第4号礫群	528	YL	An	B2	87.0		17.540	26.055	165.131
第4号礫群	529	YL	An	B2	243.0		17.653	25.953	165.116
第4号礫群	530	YL	An	B2	69.0		17.432	25.606	164.983
第4号礫群	532	YL	An	B2	164.0		17.537	25.254	164.967
第4号礫群	533	YL	An	B2	92.0		17.966	25.730	165.202
第4号礫群	534	YL	An	A2	169.0		18.063	25.810	165.221
第4号礫群	535	YL	An	B2	226.0		18.494	26.108	165.362
第4号礫群	536	YL	An	A1	146.0		18.096	25.587	165.185
第4号礫群	537	YL	An	A1	195.0		18.174	25.547	165.165
第4号礫群	538	YL	An	B12	53.0		18.493	25.220	165.135
第4号礫群	539	YL	An	A2	215.0		18.143	25.230	165.004
第4号礫群	540	YL	An	B11	57.0		17.962	25.216	165.008
第4号礫群	554	YL	An	B2	12.0		17.897	25.094	165.033
第4号礫群	555	YL	An	A2	177.0		18.106	25.137	164.995
第4号礫群	556	YL	An	A2	93.0		18.149	25.149	165.006
第4号礫群	557	YL	An	A1	83.0		18.360	25.048	165.004
第4号礫群	558	YL	An	A1	124.0		18.349	24.780	164.927
第4号礫群	559	YL	An	B2	9.0		18.264	24.823	164.965
第4号礫群	560	YL	An	A2	278.0		18.206	24.795	164.939
第4号礫群	561	YL	An	B2	139.0		18.141	24.777	164.891
第4号礫群	562	YL	An	B2	156.0		18.139	24.899	164.995
第4号礫群	563	YL	An	B2	131.0		18.045	24.866	164.975
第4号礫群	564	YL	An	B2	155.0		19.050	24.804	165.084
第4号礫群	2068	YL	An	B2	362.0	R-1	17.341	27.794	165.076
第1号配石	2023	YL	An	A2	956.0		22.026	26.678	165.565
第2号配石	1488	YL	An	A1	969.0		21.481	35.648	166.234
第3号配石	1482	YL	An	B12	1073.0		22.471	40.704	166.510
第4号配石	2029	YL	An	A2	1443.0		29.806	22.310	164.944
第5号配石	2030	BB0	An	B12	1866.0		27.797	23.196	164.896
第6号配石	2021	YL	An	A1	2447.0		21.123	27.655	165.674
第7号配石	1481	YL	An	A2	3901.0		20.835	40.406	166.341

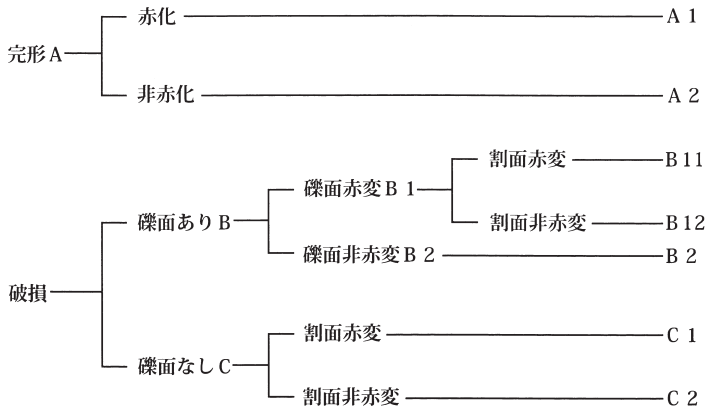
第20表　D地区　BBⅢ層礫群・配石一覧表

礫群・配石	遺物No.	層位	石材	礫状態	重量(g)	接合No.	X座標	Y座標	Z座標
第1号礫群	2165	BBⅢ	An	B2	20.0		27.509	31.785	165.024
第1号礫群	2166	BBⅢ	An	A2	25.0		27.543	33.660	165.059
第1号礫群	2167	BBⅢ	An	B2	31.0		27.334	33.075	165.024
第1号礫群	2168	BBⅢ	An	B2	12.0		26.507	32.962	164.986
第1号礫群	2169	BBⅢ	An	B12	36.0		26.605	33.423	164.996
第1号礫群	2170	BBⅢ	An	B2	10.0		26.794	33.375	165.006
第1号礫群	2171	BBⅢ	An	B2	54.0		26.529	32.992	164.997
第2号礫群	1871	BBⅢ	An	A2	170.0		27.924	26.079	164.808
第2号礫群	1872	BBⅢ	SS	A2	90.0		28.065	26.301	164.799
第2号礫群	1873	BBⅢ	An	B11	193.0	R-2	28.857	27.756	164.878
第2号礫群	1900	BBⅢ	An	B11	75.0	R-2	27.806	26.626	164.837
第1号配石	1874	BBⅢ	An	A2	1359.0		28.034	31.722	164.940

第21表　D地区　SCⅢb2層配石一覧表

礫群・配石	遺物No.	層位	石材	礫状態	重量(g)	接合No.	X座標	Y座標	Z座標
第1号配石	2734	SCⅢb2	An	B2	2734.0		20.919	28.995	164.044
第2号配石	2883	SCⅢb2	An	A2	3781.0		27.439	33.309	164.614

礫一覧表中の略号



第22表　D地区　縄文時代出土石器一覧表

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	備考
93-1	1835	石鏃	FB	Ob	SWHD	303	2.2	1.6	0.4	0.9	30.433	26.460	166.184	
93-2	680	石鏃	KU	Ob	SWHD	304	2.1	1.6	0.5	1.4	35.872	37.854	166.262	
93-3	679	石鏃	KU	Ob	KZOB	305	2.7	1.4	0.6	1.6	35.872	37.854	166.262	
93-4		石鏃	表採	Ob	SWHD	306	1.9	1.7	0.4	1.1	—	—	—	
93-5	208	削器	新SC	Tu			6.0	2.5	0.8	15.7	24.141	39.330	166.901	
93-6	24	削器	新SC	SS			6.7	3.1	0.7	13.7	19.629	40.674	166.613	
93-7	669	Rフレイク	FB	SSh			6.4	3.0	1.6	23.3	23.841	26.021	165.677	
93-8	2052	石匙	FB	F.H			4.8	5.3	0.8	12.2	15.053	27.477	164.817	
94-9	696	打製石斧	KU	SS			11.7	4.6	1.6	114.6	31.191	37.285	166.719	
94-10		礫斧	表採	SS			12.8	10.4	2.2	371.8	—	—	—	
94-11		礫斧	表採	SS			11.3	8.8	3.0	361.3	—	—	—	
94-12		礫斧	表採	F.H			9.8	6.8	3.5	274.1	—	—	—	
94-13		石錘	表採	SS			6.6	6.0	1.9	105.1	—	—	—	
94-14	1838	磨石	KU	An			8.4	7.6	5.0	396.8	30.730	28.347	166.308	
94-15	1732	磨石	FB	SS			8.7	8.0	4.6	457.8	29.570	33.107	166.727	
94-16	531	磨石	YL	An			7.1	4.4	3.7	154.9	17.518	25.372	165.044	
94-17		磨石	表採	An			7.0	6.1	5.9	275.9	—	—	—	
94-18		敲石	表採	An			10.5	4.6	3.8	226.0	—	—	—	
94-19		石皿	表採	An			22.7	29.2	7.3	6220.0	—	—	—	
95-20	791	石核	KU	F.H			2.3	4.9	2.8	32.1	19.058	37.835	166.248	
95-21	971	石核	FB	F.H			2.7	4.5	2.6	39.4	22.391	42.850	166.636	
95-22	609	石核	KU	F.H			3.2	5.6	2.7	39.3	17.128	44.527	166.042	
96-23	1371	石核	KU	F.H			2.2	4.3	2.5	24.5	19.196	38.464	165.982	
96-24	1246	石核	FB	F.H			3.4	4.5	3.0	42.8	22.873	31.965	166.363	
96-25	1785	石核	KU	Ob	KZOB	307	2.4	1.7	1.4	5.8	27.932	30.314	166.477	
96-26	1156	石核	FB	SSh			2.7	2.1	2.6	13.2	17.837	33.921	165.731	
97-27	551	石核	KU	Ob	KZOB	308	2.0	2.0	1.1	4.3	22.898	36.907	166.819	
97-28	1795	石核	FB	Ob	KZOB	309	1.6	3.5	1.5	4.7	20.055	29.983	165.910	
97-29	1379	石核	KU	F.H			5.3	3.9	3.3	71.6	19.160	35.922	165.822	
97-30	1518	石核	KU	F.H			5.7	6.8	5.3	266.1	28.403	38.115	166.621	
97-31	693	石核	KU	F.H			3.1	5.0	3.6	57.0	31.029	39.368	166.538	
98-32	1308	石核	FB	F.H			4.0	5.3	4.1	103.0	29.071	38.251	166.502	
98-33	1384	石核	KU	F.H			5.3	6.6	3.8	172.9	12.295	43.122	164.837	
98-34	1387	石核	KU	F.H			4.4	8.4	3.7	163.2	17.185	41.616	165.938	
99-35		石核	表採	F.H			3.0	7.4	6.9	202.5	—	—	—	
99-36	1826	石核	YL	F.H			4.3	9.1	7.4	403.6	19.324	30.800	165.622	
99-37	123	石核	FB	F.H			5.3	7.7	8.6	444.1	32.258	26.991	166.197	
100-38	801	石核	新SC	F.H			10.3	6.4	4.6	366.0	21.545	39.668	166.768	
100-39	1385	石核	KU	F.H			8.4	6.2	3.6	239.0	12.293	43.396	164.906	
100-40	785	石核	KU	F.H			7.5	7.5	3.1	186.4	15.263	37.866	165.538	

第23表　D地区　休場層出土石器一覧表

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
105-1	38	ナイフ形石器	Ob	KU	WDKB	001	3.4	1.7	0.6	2.9			—	—	—
	105	剥片	F.H	YL			5.3	1.8	0.7	9.5			—	—	—
	106	剥片	SSh	YL			3.8	2.2	0.6	5.5			—	—	—
105-6	504	Rフレイク	Ob	YL	SWHD	006	3.9	1.4	0.5	1.3			18.302	25.265	165.017
	505	剥片	Ob	YL	SWHD	010	3.2	3.6	0.5	5.1			18.485	26.903	165.393
	506	剥片	F.H	YL			4.8	3.2	2.8	36.2			17.792	25.359	164.993
	507	剥片	F.H	YL			5.3	3.5	0.9	22.6			17.322	25.502	164.963
105-7	531	磨石	GBA	YL			7.1	4.4	3.7	154.9			17.518	25.372	165.044
105-2	616	ナイフ形石器	Ob	KU	TSTY	002	3.2	1.7	1.0	4.5			13.984	43.803	165.389
105-8	658	石核	Ob	FB	WDTM	008	3.8	3.0	2.9	29.9			23.635	25.853	165.609
	1461	剥片	F.H	YL			2.7	1.0	0.3	1.2			21.818	38.255	166.324
	1462	剥片	F.H	YL			5.2	2.5	0.8	11.8			22.021	38.402	166.355
	1463	剥片	F.H	YL			5.5	5.2	0.4	55.1			22.495	37.829	166.351
	1464	剥片	F.H	YL			3.1	2.4	0.9	8.3			22.681	38.374	166.463
	1465	剥片	Ob	YL	HNHJ	011	4.5	3.7	1.4	17.9			22.525	38.649	166.439
	1466	剥片	F.H	YL			1.5	0.6	0.3	0.4			23.394	38.487	166.385
	1467	剥片	F.H	YL			2.6	1.6	0.7	3.4			23.245	36.939	166.483
	1468	剥片	F.H	YL			3.0	3.0	1.5	18.4			19.850	38.210	166.106
	1469	剥片	F.H	YL			4.0	3.3	0.9	18.5			20.619	37.258	166.116
	1470	剥片	F.H	YL			4.7	4.0	0.9	35.7			23.231	34.500	166.361
	1472	剥片	F.H	YL			2.6	2.2	0.5	4.2			24.244	35.570	166.323
	1483	剥片	F.H	YL			3.1	2.0	0.8	6.9			23.252	38.794	166.398
	1491	剥片	F.H	YL			2.2	1.8	0.6	2.6			21.467	35.545	166.030
105-3	1523	ナイフ形石器	Ob	FB	SWHD	003	1.7	1.0	0.5	0.7			23.828	35.681	166.445
105-4	1706	削器	Ob	YL	SWHD	004	3.1	4.0	0.9	10.7			23.875	36.595	166.396
	1707	剥片	GBA	YL			4.6	3.2	0.7	15.8			24.466	39.780	166.603
105-5	1724	Rフレイク	Ob	YL	SWHD	005	4.8	2.9	0.9	9.2			23.261	37.092	166.467
	1728	剥片	F.H	YL			3.9	2.3	0.6	7.9			26.633	31.350	166.609
	1729	剥片	Ob	YL	KZOB	012	2.6	2.1	0.3	2.2			26.022	32.189	166.501
	1744	剥片	F.H	YL			5.1	1.9	0.6	13.5			29.699	32.203	166.459
	1745	剥片	F.H	YL			6.1	3.4	3.2	80.5			28.740	31.450	166.438
	1755	剥片	F.H	YL			3.9	3.2	1.7	22.0			24.409	39.875	166.534
	1825	剥片	F.H	YL			7.2	2.3	1.4	22.6			24.099	36.783	166.489
	1827	剥片	F.H	YL			6.5	4.5	1.7	51.5			27.935	30.706	166.405
106-11	1853	石核	Ob	YL	SWHD	007	2.4	2.9	1.9	8.7			30.674	37.223	166.515
	2008	剥片	GBA	YL			5.7	3.7	0.7	19.0			21.217	24.351	165.031
	2028	剥片	Ob	YL	AGKT	013	2.8	1.5	1.1	4.4			28.618	28.031	166.217
	2031	剥片	Ob	YL	SWHD	014	2.6	1.1	0.6	1.3			26.236	23.465	165.169
	2032	剥片	Ob	YL	AGKT	015	1.5	1.7	0.3	0.9			25.125	26.149	165.692
	2033	剥片	Ob	YL	WDKB	016	1.5	0.9	0.3	0.6			25.070	27.939	166.038
105-9	2034	石核	F.H	YL			5.0	4.7	3.6	109.4			25.054	28.277	166.062
	2036	剥片	Ob	YL	AGKT	017	3.9	1.2	0.6	2.5			26.023	29.764	166.299
	2037	剥片	Ob	YL	AGKT	018	1.3	1.7	0.2	0.4			26.887	29.683	166.127
	2040	剥片	Ob	YL	SWHD	019	2.6	1.2	0.6	1.3			22.290	25.717	165.434
	2044	剥片	Ob	YL	WOTM	020	1.9	1.7	0.2	1.5			20.154	25.761	165.175
	2045	剥片	F.H	YL			11.3	4.1	2.9	125.0			19.991	25.966	165.263
	2046	剥片	F.H	YL			3.4	2.4	0.6	5.6			19.944	28.417	165.667
	2047	剥片	Ob	YL	AGKT	021	3.0	1.1	0.4	1.1			17.467	28.550	165.351
	2048	剥片	Ob	YL	SWHD	022	2.5	3.4	0.4	4.6			17.360	27.519	165.151
	2049	剥片	Ob	YL	SWHD	023	2.9	3.9	0.4	4.7			17.715	25.800	164.820
106-10	2050	石核	F.H	YL			4.3	4.7	5.8	161.1			17.520	25.332	164.878
	2051	剥片	Ob	YL	SWHD	024	1.9	1.9	0.6	1.7			14.638	25.982	164.471
106-12	2054	石核	F.H	YL			4.1	8.9	9.1	455.8			14.502	28.082	164.830
		剥片	Ob	YLU	HNHJ	009	1.6	1.4	0.5	1.8			—	—	—

第24表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（1）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	1858	剥片	Ob	BBⅡ	AGKT	025	1.4	1.2	0.8	1.2		SBL3	23.745	37.439	165.509
113-4	136 149	ナイフ形石器	RJa	BBⅢ			4.3	2.0	1.0	7.7	S17		—	—	—
	138	剥片	RJa	BBⅢ			1.9	0.7	0.7	1.0			—	—	—
	139	砕片	RJa	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.1			—	—	—
	140	剥片	RJa	BBⅢ			2.4	0.9	0.3	0.9			—	—	—
	141	剥片	RJa	BBⅢ			1.4	0.5	0.2	0.2			—	—	—
	142	砕片	RJa	BBⅢ			0.5	0.6	0.1	0.0			—	—	—
	143	剥片	Ob	BBⅢ			2.4	4.1	0.8	7.9			—	—	—
	144	剥片	Ob	BBⅢ			3.1	1.2	0.7	3.0			—	—	—
	145	剥片	Ob	BBⅢ			1.7	2.1	0.4	1.8			—	—	—
	146	剥片	F.H	BBⅢ			2.4	1.6	0.4	1.9			—	—	—
	1797	剥片	F.H	BBⅢ			3.1	2.6	0.6	5.9		SBL5	28.111	25.538	164.931
	1798	剥片	F.H	BBⅢ			2.4	2.8	1.1	8.6		SBL5	28.796	27.295	165.020
	1799	砕片	F.H	BBⅢ			0.7	0.9	0.2	0.4		SBL5	28.691	28.160	165.071
	1832	剥片	Ob	BBⅢ	不可	078	2.8	3.0	0.8	8.2			29.041	37.449	165.291
	1859	剥片	Ob	BBⅢ	不可	079	2.2	0.9	0.6	1.2		SBL3	21.897	34.810	165.149
114-11	1860	石核	Ob	BBⅢ	AGKT	031	2.1	1.9	1.5	5.7		SBL2	27.379	38.210	165.398
115-21	1861	剥片	F.H	BBⅢ			4.5	2.6	1.1	14.9	S1	SBL5	24.963	24.987	164.742
115-20	1862	剥片	F.H	BBⅢ			4.1	3.2	1.5	15.7	S2	SBL5	25.971	26.860	165.015
	1863	剥片	F.H	BBⅢ			1.8	1.8	0.3	1.5		SBL5	26.727	26.661	164.975
	1864	剥片	F.H	BBⅢ			1.3	1.1	0.3	5.0		SBL5	28.848	27.379	165.015
	1866	剥片	GCh	BBⅢ			5.1	3.0	1.1	16.6		SBL3	25.092	38.002	165.229
	1867	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	032	2.7	0.9	0.4	1.1	S3	SBL1	24.377	39.944	165.318
	1868	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	080	3.3	2.0	1.1	8.1			23.972	42.285	165.451
	1870	砕片	F.H	BBⅢ			0.6	0.7	0.3	0.1		SBL1	26.270	40.122	165.375
114-9	1875	敲石	An	BBⅢ			11.9	4.8	3.7	294.7		SBL1	25.713	40.356	165.258
	1877	剥片	F.H	BBⅢ			3.9	2.4	0.9	12.4		SBL5	30.334	26.938	164.994
	1878	剥片	F.H	BBⅢ			7.6	5.1	1.5	46.9		SBL5	30.085	26.896	164.910
	1879	剥片	F.H	BBⅢ			9.0	5.5	2.6	107.9		SBL5	29.588	26.907	164.882
	1880	剥片	F.H	BBⅢ			3.1	4.1	1.2	11.5		SBL5	29.029	26.415	164.893
	1881	剥片	F.H	BBⅢ			3.1	1.3	0.4	1.6		SBL5	29.722	27.698	164.856
	1882	剥片	F.H	BBⅢ			1.2	1.1	0.7	0.6		SBL5	29.235	27.779	164.941
	1883	剥片	F.H	BBⅢ			3.4	1.9	0.6	4.1		SBL5	29.427	28.080	164.976
	1884	剥片	F.H	BBⅢ			1.7	1.3	0.4	1.1		SBL5	29.099	27.905	164.997
	1885	剥片	F.H	BBⅢ			1.7	1.8	0.5	1.9		SBL5	28.943	27.724	164.861
115-14	1886	剥片	F.H	BBⅢ			3.0	1.6	0.5	2.0	S4	SBL5	28.923	27.800	164.870
115-14	1887	剥片	F.H	BBⅢ			6.1	6.3	1.5	94.7	S4	SBL5	29.079	28.066	164.938
	1888	剥片	F.H	BBⅢ			3.9	2.0	0.8	7.6		SBL5	28.649	27.713	164.925
115-20	1889	剥片	F.H	BBⅢ			2.4	1.8	1.2	5.4	S2	SBL5	28.378	27.740	164.933
113-6	1890	ナイフ形石器	F.H	BBⅢ			3.5	1.2	0.4	2.6		SBL5	28.741	28.020	164.924
115-14	1891	剥片	F.H	BBⅢ			3.0	4.2	1.3	22.3	S4	SBL5	28.195	28.069	164.906
113-7	1892	ナイフ形石器	F.H	BBⅢ			5.0	3.8	1.0	31.4		SBL5	27.994	28.174	164.905
	1893	剥片	F.H	BBⅢ			1.2	0.9	0.5	0.6		SBL5	28.510	28.232	164.904
	1894	剥片	F.H	BBⅢ			3.5	3.1	0.8	7.6			28.621	29.309	164.987
115-21	1895	剥片	F.H	BBⅢ			4.0	2.5	0.5	4.6	S1	SBL5	28.422	27.115	164.884
	1896	剥片	F.H	BBⅢ			2.0	1.0	0.5	1.4		SBL5	28.359	27.076	164.867
	1897	剥片	F.H	BBⅢ			3.4	2.7	1.5	5.7		SBL5	28.245	26.770	164.893
115-20	1898	剥片	F.H	BBⅢ			2.6	2.1	0.9	5.5	S2	SBL5	28.161	26.790	164.826
115-20	1899	剥片	F.H	BBⅢ			3.7	2.7	1.0	11.5	S2	SBL5	28.255	26.693	164.840
	1901	剥片	F.H	BBⅢ			1.3	1.0	0.2	0.5		SBL5	27.503	26.590	164.878
115-20	1902	剥片	F.H	BBⅢ			2.9	1.4	1.3	5.8	S2	SBL5	28.497	26.248	164.873
115-14	1903	剥片	F.H	BBⅢ			5.0	3.0	1.2	17.1	S4	SBL5	28.151	26.235	164.884
115-20	1904	剥片	F.H	BBⅢ			5.2	3.4	1.9	35.3	S2	SBL5	28.714	25.681	164.860

第25表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（2）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	1907	剥片	F.H	BBⅢ			3.6	2.7	0.7	7.6		SBL5	27.396	23.688	164.724
	1908	剥片	F.H	BBⅢ			6.5	4.8	2.7	94.2		SBL5	26.243	23.544	164.646
	1909	剥片	F.H	BBⅢ			1.5	0.9	0.3	0.6		SBL5	25.937	24.791	164.709
114-13 115-17	1910	石核	RCh	BBⅢ			1.8	4.8	2.4	15.1	S5	SBL5	27.185	23.402	164.649
	1911	剥片	F.H	BBⅢ			4.7	3.5	0.4	16.2		SBL5	25.365	24.852	164.754
114-10 115-20	1912	石核	F.H	BBⅢ			4.0	4.5	3.7	73.6	S2	SBL5	25.764	25.893	164.716
115-14	1913	剥片	F.H	BBⅢ			2.7	2.6	0.7	6.2	S4	SBL5	26.127	26.209	164.707
115-14	1914	剥片	F.H	BBⅢ			3.2	3.4	1.4	15.9	S4	SBL5	26.266	27.224	164.803
	1915	剥片	Ob	BBⅢ	WDKB	036	3.0	2.5	0.5	3.9			25.732	28.337	164.830
	1916	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	280	2.2	1.2	0.5	1.4	S6		21.755	33.878	164.721
115-16	1917	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	265	5.7	2.5	1.8	17.7	S7-1		20.430	35.792	164.725
	1918	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0			20.745	35.816	164.752
115-16	1919	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	269	1.8	1.0	0.4	2.1	S7-1		20.436	35.851	164.741
	1920	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	037	1.3	1.6	0.3	0.5		SBL3	22.574	34.482	164.826
	1921	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	038	1.4	1.2	0.1	0.4		SBL3	22.707	34.633	164.988
	1922	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	164	1.9	3.2	0.6	3.3	S8	SBL3	23.196	35.281	164.954
	1923	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	281	1.2	0.3	0.6	0.6	S6	SBL3	22.554	35.352	164.878
115-16	1924	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	268	4.2	1.8	0.7	6.1	S7-1		22.070	37.393	165.023
	1925	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	279	2.5	3.4	0.7	8.7	S6	SBL3	22.674	35.506	164.899
	1926	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	163	2.9	3.8	0.7	6.5	S8	SBL3	22.251	36.240	164.921
113-2	1927	ナイフ形石器	Ob	BBⅢ	AGKT	027	3.0	1.1	0.5	1.6		SBL3	22.960	35.735	164.930
	1928	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.043	35.802	164.941
	1929	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	203	2.8	1.6	0.7	2.0	S8-1	SBL3	23.063	34.350	164.843
	1930	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	22.977	34.922	164.845
	1931	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	283	1.6	1.2	0.4	0.6	S8-2		23.714	32.404	164.836
	1932	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	166	1.6	1.3	0.6	1.0	S9	SBL3	23.826	34.312	164.876
	1933	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL3	23.520	34.704	164.885
	1934	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	167	2.0	1.3	0.2	0.6	S9	SBL3	23.433	34.947	164.935
	1935	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	039	1.8	1.3	0.2	0.8		SBL3	23.256	35.635	164.969
	1936	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	040	0.8	0.9	0.1	0.1		SBL3	23.529	35.281	164.972
	1937	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	041	1.5	0.8	0.2	0.3		SBL3	23.709	35.153	165.005
	1938	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	042	2.0	1.9	0.3	1.6		SBL3	23.444	35.504	164.992
	1939	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	043	0.9	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.542	35.422	164.974
114-12 115-18	1940	石核	Ob	BBⅢ	AGKT	228	3.4	1.5	1.7	7.6	S9-1	SBL3	23.580	34.747	164.882
	1941	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.3	0.1		SBL3	23.777	34.945	164.950
	1942	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	045	1.6	1.1	0.2	0.4		SBL3	23.916	34.933	164.986
	1943	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.7	0.1	0.1		SBL3	23.930	35.019	164.991
	1944	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	044	1.4	0.8	0.2	0.3		SBL3	24.023	35.057	164.987
	1945	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	254	2.6	2.2	1.1	6.3	S8-3	SBL3	24.127	34.933	164.892
	1946	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	046	1.3	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.142	34.999	164.917
	1947	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.244	34.857	164.949
	1948	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.3	0.1		SBL3	23.822	35.207	164.986
	1949	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	047	1.6	1.2	0.2	0.4		SBL3	23.743	35.270	164.979
	1950	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	048	1.2	1.0	0.3	0.4		SBL3	23.914	35.279	164.985
	1951	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.006	35.228	164.990
	1952	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	049	1.1	1.3	0.2	0.4		SBL3	24.292	35.037	164.955
	1953	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	050	2.0	0.6	0.1	0.2		SBL3	24.493	34.990	164.987
	1954	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.145	35.147	165.017
	1955	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.703	35.017	164.999
	1956	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.080	38.024	165.136
	1957	剥片	RJa	BBⅢ			1.5	2.2	0.1	0.9		SBL2	27.058	38.472	165.210

第26表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（3）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	1958	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	234	3.4	2.1	0.5	5.2	S3	SBL2	27.516	38.419	165.219
	1959	剥片	Ob	BBⅢ	不可	026	3.2	3.8	0.5	7.2		SBL2	27.627	38.437	165.217
	1960	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.2	0.1	0.0		SBL2	27.564	38.633	165.166
	1961	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	051	1.3	0.9	0.5	0.4		SBL2	27.395	38.644	165.180
	1962	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	202	2.6	2.4	0.5	4.6	S8-1	SBL2	27.402	38.792	165.229
	1963	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	052	1.9	1.8	0.9	2.6		SBL2	28.084	38.998	165.226
	1964	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	053	2.8	1.8	1.0	3.9		SBL2	28.650	39.485	165.185
	1965	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	054	2.7	1.4	0.3	1.3		SBL2	27.688	40.423	165.262
	1966	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	055	1.8	1.7	0.7	1.9		SBL2	27.456	40.361	165.307
	1967	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	034	1.2	1.2	0.3	0.6	S3	SBL2	27.004	39.416	165.210
	1968	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	158	1.0	0.8	0.1	0.1		SBL1	26.345	40.477	165.263
	1969	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.1	0.1		SBL1	25.935	40.329	165.242
	1970	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	159	1.1	0.7	0.1	0.2		SBL1	25.821	40.325	165.288
	1971	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	141	1.0	0.6	0.1	0.1		SBL1	25.724	40.513	165.255
	1972	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	056	5.3	2.5	0.4	4.3		SBL1	24.578	40.915	165.319
	1973	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	085	1.3	0.6	0.3	0.3			24.051	41.905	165.324
	1974	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	084	1.6	1.6	0.6	2.3			24.020	42.021	165.338
	1975	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	083	2.4	1.0	0.3	0.5		SBL3	25.079	37.378	165.129
	1976	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	033	1.7	1.0	0.3	0.5	S3	SBL3	25.818	37.266	165.139
	1977	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	082	2.4	1.6	0.6	2.1		SBL3	26.263	37.284	165.181
115-15	1978	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	298	2.4	3.4	1.2	11.5	S8-4	SBL3	26.448	36.983	165.140
	1979	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	081	3.3	2.5	0.4	5.7			27.328	36.623	165.207
	1980	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	076	3.1	2.2	0.5	4.3			27.669	35.837	165.154
	1981	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	201	3.5	3.7	1.3	15.6	S9-2		28.722	36.173	165.141
	1982	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	165	2.2	1.5	0.8	2.2	S8		26.493	35.221	165.080
	1983	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	077	3.2	3.0	0.6	4.2		SBL3	25.868	35.109	165.039
	1984	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	241	2.4	1.4	0.7	2.0	S9-3	SBL3	26.066	35.283	165.055
	1985	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	263	1.3	1.1	0.3	0.7	S10	SBL3	25.235	35.833	165.073
	1986	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	264	0.9	1.4	0.4	0.7	S10	SBL3	24.966	35.872	165.040
113-3	1987	ナイフ形石器	Ob	BBⅢ	AGKT	029	3.7	1.4	0.8	3.0		SBL3	24.885	35.813	165.049
	1988	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	242	1.7	0.9	0.2	0.6	S9-4	SBL3	24.981	36.203	165.100
	1989	剥片	Ob	BBⅢ			1.2	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.870	36.006	165.026
	1990	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.2	0.0		SBL3	25.174	36.595	165.071
115-15	1991	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	299	3.2	3.5	1.5	12.3	S8-4	SBL3	25.086	36.680	165.097
	1992	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	170	1.8	1.2	0.3	0.9	S9	SBL3	25.177	36.670	165.095
	1993	剥片	Ob	BBⅢ			1.1	0.5	0.3	0.1		SBL3	24.799	35.604	165.019
	1994	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.736	35.348	164.969
	1995	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.617	35.373	164.983
	1996	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.582	35.269	164.969
115-16	1997	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	267	1.5	1.4	0.2	0.4	S7-1	SBL3	25.325	34.925	164.961
	1998	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.758	35.894	165.026
	1999	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	071	1.2	1.3	0.3	0.5		SBL3	24.751	36.176	165.062
	2100	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.417	35.261	164.967
	2101	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.502	35.394	164.991
	2102	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.557	35.515	165.030
	2103	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	070	0.8	1.4	0.3	0.3		SBL3	24.568	35.546	165.030
	2104	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.579	35.617	165.010
	2106	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.479	35.716	165.038
	2107	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	142	0.9	0.8	0.1	0.1		SBL3	24.414	35.579	165.002
	2108	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.6	0.4	0.2		SBL3	24.403	35.487	165.011
	2109	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	069	1.2	1.1	0.2	0.3		SBL3	24.430	35.538	165.012
	2110	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.380	35.357	165.001
	2111	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.2	0.1		SBL3	24.650	35.852	165.010
	2112	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.663	35.952	165.021
	2113	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.662	36.113	165.035

第27表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（4）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2115	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.393	36.038	165.009
	2116	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	068	1.3	0.8	0.1	0.1		SBL3	24.394	35.751	165.039
	2117	砕片	Ob	BBⅢ			10.0	0.3	0.2	0.1		SBL3	24.331	35.736	165.034
	2118	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	067	0.8	1.2	0.1	0.2		SBL3	24.694	35.017	164.992
	2119	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	140	0.8	0.9	0.1	0.1		SBL3	24.333	35.584	165.022
	2120	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.7	0.2	0.0		SBL3	24.306	35.538	165.021
	2121	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	066	1.3	0.8	0.2	0.3		SBL3	24.348	35.432	165.038
	2122	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.355	35.256	164.999
	2123	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	065	2.4	0.9	0.6	1.2		SBL3	24.283	35.289	165.032
	2124	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.288	35.353	165.030
	2125	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.211	35.324	165.023
	2126	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.204	35.472	165.017
	2127	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	064	1.5	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.291	35.672	165.043
	2128	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.254	35.697	165.050
	2129	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.7	0.2	0.1		SBL3	24.216	35.619	165.018
	2130	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.210	35.737	164.998
	2131	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.108	35.701	164.999
	2132	剥片	Ob	BBⅢ	不可	063	1.1	0.9	0.3	6.3		SBL3	24.078	35.575	165.018
	2133	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.855	35.570	165.004
	2134	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.084	35.392	165.034
	2135	剥片	Ob	BBⅢ			1.3	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.103	35.313	165.038
	2136	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.933	35.359	165.001
	2137	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.8	0.1	0.0		SBL3	23.949	35.394	165.001
113-5	2138	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	231	0.9	1.4	0.6	0.6	S11	SBL3	23.953	35.451	165.000
	2139	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.7	0.1	0.1		SBL3	23.848	35.391	164.995
	2140	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.6	0.2	0.1		SBL3	23.709	35.535	164.993
	2141	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.1	0.1		SBL3	23.602	35.743	164.997
	2142	剥片	Ob	BBⅢ			1.2	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.577	35.825	164.958
	2143	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.1		SBL3	23.749	35.779	164.960
	2144	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	162	1.0	2.1	0.6	0.9	S8	SBL3	23.789	35.851	164.986
	2145	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.1		SBL3	23.772	35.986	165.018
	2146	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.2	0.0		SBL3	23.923	35.935	165.004
	2147	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	062	0.9	1.6	0.2	0.2		SBL3	23.835	36.048	165.009
	2148	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	238	2.0	1.0	0.2	0.8	S7-2	SBL3	23.990	36.025	165.025
	2149	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.146	35.965	165.032
	2150	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	061	2.5	3.2	0.6	5.0		SBL3	23.947	36.213	165.035
	2151	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.178	36.054	165.026
113-5	2152	ナイフ形石器	Ob	BBⅢ	AGKT	230	3.2	1.8	0.9	3.3	S11	SBL3	24.306	36.438	165.104
	2153	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.704	36.750	165.061
	2154	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.7	0.1	0.1		SBL4	26.308	33.632	165.100
	2155	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	139	0.7	0.9	0.3	0.3		SBL4	27.268	33.396	165.043
	2156	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	248	0.9	1.6	0.2	0.6	S7-3	SBL4	27.346	33.356	165.062
	2157	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	060	0.7	1.2	0.3	0.4		SBL4	27.198	33.173	165.040
	2158	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	059	1.0	0.7	0.1	0.2		SBL4	27.625	33.964	165.082
	2159	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	058	1.4	0.7	0.2	0.2		SBL4	28.368	33.707	165.092
	2160	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	057	2.9	1.2	0.4	1.5		SBL4	28.327	33.438	165.063
	2161	剥片	F.H	BBⅢ			1.6	1.1	0.3	0.7		SBL4	28.599	32.499	165.059
115-19	2162	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	233	2.7	1.9	0.3	3.2	S3	SBL4	26.117	34.010	164.997
	2163	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	278	2.4	2.3	0.6	2.8	S12	SBL4	26.776	34.232	165.098
113-1	2164	ナイフ形石器	Ob	BBⅢ	AGKT	028	3.4	1.3	0.7	3.1		SBL4	25.531	32.887	164.903
	2173	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	072	4.2	3.3	0.9	14.0		SBL4	27.364	33.358	165.008
	2174	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	073	0.8	1.6	0.3	0.4		SBL4	27.233	33.710	164.998
	2175	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL4	27.304	33.747	165.011
	2176	剥片	Ob	BBⅢ			0.6	1.2	0.1	0.2		SBL4	27.354	33.799	165.006

第28表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（5）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2178	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL4	27.371	33.966	165.012
	2179	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.3	0.1	0.0		SBL4	27.382	34.085	165.042
	2180	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	247	0.9	1.7	0.4	0.8	S7-3	SBL4	27.259	33.851	165.014
	2181	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.1	0.0		SBL4	27.268	33.935	165.018
	2182	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.1		SBL4	27.288	33.986	165.021
	2183	砕片	Ob	BBⅢ			1.2	0.5	0.1	0.1		SBL4	27.215	33.945	165.012
	2184	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.1	0.0		SBL4	27.186	33.911	165.011
	2185	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL4	27.143	33.910	165.006
	2186	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.9	0.1	0.0		SBL4	27.312	34.307	165.041
	2187	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.1		SBL4	26.844	33.665	164.995
	2188	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	074	1.3	1.2	0.2	0.2		SBL4	26.660	33.760	164.969
	2189	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0			28.790	36.198	165.121
	2190	砕片	Ob	BBⅢ			1.2	0.3	0.3	0.2			28.806	36.135	165.102
	2191	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.375	34.863	164.905
	2192	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.324	34.934	164.906
	2193	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	143	0.7	0.9	0.1	0.1		SBL3	24.457	34.993	164.915
	2194	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.526	35.052	164.911
	2195	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.348	35.018	164.910
	2196	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.262	34.985	164.893
	2197	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.429	35.099	164.921
	2198	剥片	Ob	BBⅢ			1.1	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.311	35.083	164.922
	2199	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.263	35.044	164.907
	2200	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.7	0.6	0.3		SBL3	24.159	35.025	164.905
	2201	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.314	35.139	164.922
	2202	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.354	35.195	164.920
	2203	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.414	35.215	164.911
	2204	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	144	0.8	0.7	0.2	0.1		SBL3	24.515	35.229	164.928
	2205	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.487	35.165	164.922
	2206	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.645	35.123	164.933
	2207	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	075	0.5	1.4	0.2	0.2		SBL3	24.547	35.112	164.927
	2208	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.556	35.159	164.916
	2209	剥片	Ob	BBⅢ			0.7	1.4	0.3	0.4		SBL3	24.024	34.958	164.903
	2210	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.1		SBL3	24.068	35.035	164.897
	2211	剥片	Ob	BBⅢ			1.4	0.3	0.1	0.1		SBL3	23.881	34.964	164.956
	2212	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL3	23.755	34.866	164.885
	2213	砕片	Ob	BBⅢ			-	-	-	0.0		SBL3	23.675	34.869	164.883
	2214	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	23.725	34.943	164.907
	2215	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.886	35.054	164.957
	2216	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	086	1.3	0.9	0.2	0.4		SBL3	23.989	35.091	164.906
	2217	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.7	0.1	0.1		SBL3	23.956	35.151	164.897
	2218	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	1.2	0.2	0.0		SBL3	23.834	35.057	164.933
	2219	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	087	1.0	0.8	0.2	0.2		SBL3	23.812	35.165	164.954
	2220	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	1.0	0.4	0.2		SBL3	23.674	35.123	164.964
	2221	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	088	1.2	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.771	35.192	164.984
	2222	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.9	0.2	0.1		SBL3	23.664	35.330	164.919
	2223	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	089	1.0	0.8	0.2	0.3		SBL3	23.836	35.239	164.955
	2224	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	256	1.4	1.2	0.1	0.3	S8-5	SBL3	23.506	35.163	164.878
	2225	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	090	1.2	1.2	0.2	0.2		SBL3	23.788	35.329	164.942
	2226	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.7	0.1	0.0		SBL3	23.475	35.438	164.930
	2227	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	091	3.0	1.7	0.6	3.5		SBL3	23.568	35.450	164.928
	2228	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	092	0.9	1.1	0.1	0.2		SBL3	23.630	35.469	164.953
	2229	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	282	1.3	1.3	0.4	0.6	S8-2	SBL3	23.495	35.502	164.932
	2230	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.3	0.1		SBL3	23.407	35.569	164.921
	2231	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.556	35.727	164.954

第29表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（6）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2233	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.869	35.631	164.942
	2234	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.4	0.3	0.1		SBL3	23.825	35.453	164.899
	2235	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	145	0.8	0.8	0.1	0.1		SBL3	24.454	35.837	164.990
	2236	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	093	0.1	1.6	0.2	0.4		SBL3	24.906	36.395	165.014
	2237	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	094	0.7	1.5	0.1	0.1		SBL3	24.082	35.615	164.963
	2238	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	244	0.9	0.8	0.2	0.2	S9-4	SBL3	24.195	35.775	164.963
	2239	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.1		SBL3	24.346	35.722	165.001
	2240	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	23.953	35.997	164.981
	2241	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.617	35.957	164.944
	2242	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.329	35.860	164.972
	2243	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	251	1.0	1.0	0.1	0.2	S9-5	SBL3	23.910	35.284	164.957
	2244	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.8	0.2	0.2		SBL3	23.845	35.346	164.944
	2245	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.8	0.1	0.1		SBL3	23.904	35.431	164.944
	2246	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	095	1.2	1.8	0.2	0.6		SBL3	23.984	35.724	164.961
	2247	剥片	Ob	BBⅢ			1.3	0.5	0.1	0.1		SBL3	23.975	35.961	164.982
	2248	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	156	2.0	2.2	0.6	1.8	S7	SBL3	24.197	35.895	164.963
	2249	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.7	0.1	0.0		SBL3	24.535	35.898	164.957
	2250	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.739	35.899	165.027
	2251	剥片	Ob	BBⅢ			1.5	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.995	35.588	164.959
	2252	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.8	0.3	0.2		SBL3	24.102	35.683	164.975
	2253	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.166	35.603	164.972
	2254	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.827	36.006	164.995
	2255	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.7	0.1	0.0		SBL3	24.001	35.668	164.973
	2256	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	168	1.1	1.9	0.6	0.9	S9	SBL3	23.989	35.366	164.969
	2257	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	146	0.8	0.9	0.1	0.2		SBL3	23.922	35.328	164.951
	2258	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL3	23.998	35.316	164.976
	2259	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.1	0.0		SBL3	23.990	35.284	164.972
	2260	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	1.0	0.0		SBL3	24.042	35.286	164.985
	2261	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.6	0.2	0.1		SBL3	24.073	35.253	164.978
	2262	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.6	0.3	0.2		SBL3	24.069	35.161	164.995
	2263	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	097	2.0	0.7	0.4	0.6		SBL3	24.122	35.220	164.988
	2264	剥片	Ob	BBⅢ			1.3	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.156	35.171	164.994
	2265	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	098	1.6	0.7	0.2	0.3		SBL3	24.201	35.185	164.998
	2266	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.2	0.0		SBL3	24.248	35.259	164.966
	2267	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.171	35.307	164.988
	2268	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	172	1.7	1.1	0.3	0.5	S9	SBL3	24.377	35.296	164.954
	2269	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.327	35.322	165.003
	2270	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.3	0.2	0.0		SBL3	24.316	35.353	165.029
	2271	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.157	35.383	165.005
	2272	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.251	35.454	165.012
	2273	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.171	35.445	165.015
	2274	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.335	35.413	164.991
	2275	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	255	0.6	1.4	0.5	0.7	S8-3	SBL3	24.425	35.420	164.957
	2276	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.570	35.288	164.949
	2277	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	1.0	0.1	0.1		SBL3	24.615	35.221	164.945
	2278	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.713	35.180	164.956
	2279	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.705	35.257	164.955
	2280	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.8	0.1	0.1		SBL3	24.631	35.323	164.962
	2281	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.2	0.0		SBL3	24.813	35.192	164.967
	2282	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	101	1.3	0.8	0.2	0.2		SBL3	24.603	35.420	164.971
	2283	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	102	0.7	1.0	0.1	0.2		SBL3	24.495	35.472	164.991
	2284	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.705	35.353	164.982
	2285	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.766	35.226	164.971
	2286	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	103	1.0	1.0	0.1	0.2		SBL3	24.872	35.214	164.972

第30表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（7）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2288	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.8	0.1	0.0		SBL3	24.875	35.268	164.981
	2289	剥片	Ob	BBⅢ	不可	104	1.1	1.0	0.3	0.3		SBL3	24.844	35.330	164.979
	2290	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.780	35.330	164.979
	2291	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.114	35.512	164.968
	2292	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.215	35.511	165.014
	2293	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.269	35.535	164.984
	2294	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	105	1.0	1.7	0.2	0.5		SBL3	24.238	35.574	164.968
	2295	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.304	35.586	164.986
	2296	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.363	35.600	164.991
	2297	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.349	35.487	164.965
	2298	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.9	0.2	0.1		SBL3	24.406	35.562	164.973
	2299	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.436	35.502	164.995
	2300	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.546	35.515	165.023
	2301	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.572	35.555	165.062
	2302	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	245	0.8	0.7	0.4	0.3	S9-4	SBL3	24.622	35.570	165.012
	2303	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.551	35.572	165.021
	2304	剥片	Ob	BBⅢ			1.3	1.1	0.3	0.2		SBL3	24.514	35.551	165.021
	2305	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.454	35.631	164.986
115-19	2306	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	235	2.0	1.1	0.5	1.0	S3	SBL3	24.536	35.686	165.002
	2307	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	252	1.0	1.5	0.3	0.5	S9-5	SBL3	24.489	35.699	164.997
	2308	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.564	35.718	165.010
	2309	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.529	35.733	165.007
	2310	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.507	35.772	165.004
	2311	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.420	35.732	164.997
	2312	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.7	0.1	0.0		SBL3	24.327	35.671	164.998
	2313	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.7	0.1	0.0		SBL3	24.273	35.660	164.990
	2314	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.9	0.4	0.3		SBL3	24.211	35.633	164.987
115-16	2315	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	266	0.9	1.0	0.3	0.5	S7-1	SBL3	24.233	35.635	164.979
	2316	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.3	0.1		SBL3	24.592	35.475	164.983
	2317	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.681	35.453	164.982
	2318	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.742	35.419	164.984
	2319	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.791	35.413	164.983
	2320	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.880	35.348	164.987
	2321	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.982	35.279	164.987
	2322	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL3	25.016	35.439	164.998
	2323	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.6	0.1	0.0		SBL3	25.334	35.497	165.027
	2324	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.806	35.361	164.986
	2325	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	243	1.1	2.5	0.5	1.9	S9-4	SBL3	25.033	36.109	165.014
	2326	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	240	4.6	1.6	1.2	7.7	S9-3	SBL3	24.773	36.103	165.029
	2327	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.118	35.464	164.980
	2328	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.7	0.2	0.1		SBL3	24.259	35.455	165.004
	2329	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	035	1.5	0.9	0.3	0.5	S3	SBL3	24.670	35.913	164.953
	2330	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.661	35.833	164.952
	2331	砕片	Ob	BBⅢ			1.2	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.554	35.823	164.951
	2332	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.525	35.774	164.948
	2333	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.2	0.1		SBL3	24.498	35.707	164.958
	2334	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.514	35.587	164.957
	2335	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	246	0.5	0.7	0.1	0.4	S9-4	SBL3	24.438	35.435	164.945
115-15	2336	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	302	0.7	0.9	0.3	0.4	S8-4	SBL3	24.363	35.484	164.944
	2337	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.388	35.529	164.950
	2338	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.7	0.3	0.2		SBL3	24.437	35.583	164.945
	2339	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.372	35.621	164.943
	2340	剥片	Ob	BBⅢ	不可	106	1.2	1.3	0.2	0.5		SBL3	24.440	35.713	164.951
	2341	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.390	35.726	164.952

第31表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（8）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2342	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	147	0.8	0.9	0.2	0.2			24.354	35.779	164.944
	2343	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	1.0	0.1	0.0		SBL3	24.252	35.801	164.942
	2344	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.237	35.654	164.971
	2345	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.295	35.661	164.940
	2346	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.328	35.632	164.950
	2347	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.9	0.3	0.1		SBL3	24.276	35.529	164.958
	2348	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.271	35.484	164.941
	2349	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	096	1.2	2.0	0.6	1.5		SBL3	24.298	35.449	164.958
	2350	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	107	1.4	0.8	0.2	0.3		SBL3	24.309	35.342	164.939
	2351	砕片	GBA	BBⅢ			0.4	0.4	0.3	0.0		SBL3	24.284	35.274	164.909
	2352	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	148	0.9	1.0	0.4	0.4		SBL3	24.248	35.281	164.913
	2353	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.3	0.1	0.1		SBL3	24.249	35.306	164.929
	2354	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	108	1.0	0.9	0.2	0.2		SBL3	24.204	35.301	164.967
	2355	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.177	35.358	164.968
	2356	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	109	0.9	0.7	0.2	0.2		SBL3	24.231	35.418	164.972
	2357	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.254	35.456	164.970
	2358	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	110	0.8	1.1	0.1	0.1		SBL3	24.219	35.562	164.954
	2359	剥片	Ob	BBⅢ			1.1	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.194	35.482	164.969
	2360	剥片	Ob	BBⅢ			1.2	0.7	0.3	0.1		SBL3	24.181	35.432	164.968
	2361	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	1.0	0.3	0.1		SBL3	24.313	35.470	164.952
	2362	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	284	0.9	0.8	0.3	0.4	S9-6	SBL3	24.247	35.281	164.911
	2363	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	149	0.7	1.0	0.3	0.2		SBL3	24.190	35.229	164.907
	2364	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	250	1.0	1.5	0.2	0.5	S9-5	SBL3	24.045	35.136	164.892
	2365	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	150	1.0	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.083	35.250	164.894
	2366	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	151	1.0	1.0	0.1	0.1		SBL3	24.123	35.297	164.909
	2367	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	112	0.9	1.3	0.3	0.4		SBL3	24.048	35.296	164.959
	2368	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	236	1.2	0.9	0.1	0.2	S13	SBL3	24.095	35.415	164.930
	2369	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.164	35.536	164.966
	2370	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	113	0.7	1.5	0.2	0.2		SBL3	24.138	35.608	164.936
	2371	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.4	0.2	0.1		SBL3	24.065	35.676	164.921
	2372	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.981	35.755	164.935
	2373	砕片	Ob	BBⅢ	不可	152	1.0	0.8	0.1	0.1		SBL3	23.779	35.922	164.922
	2374	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.9	0.3	0.1		SBL3	23.664	35.616	164.901
	2375	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	114	0.9	1.1	0.3	0.3		SBL3	23.856	35.545	164.900
	2376	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	115	1.7	1.2	0.3	0.7		SBL3	23.988	35.546	164.902
	2377	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	116	1.0	0.7	0.3	0.3		SBL3	24.008	35.387	164.936
	2378	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	227	0.8	2.1	0.4	0.9	S14	SBL3	23.933	35.321	164.940
115-18	2379	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	229	1.9	0.6	0.6	0.6	S9-1	SBL3	23.784	35.366	164.897
	2380	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.7	0.1	0.1		SBL3	23.808	35.306	164.901
	2381	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	117	1.2	0.8	0.4	0.4		SBL3	23.722	35.314	164.897
	2382	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	153	0.9	0.8	0.1	0.1		SBL3	23.625	35.205	164.886
	2383	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.8	0.4	0.3		SBL3	23.778	35.233	164.897
	2384	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.850	35.185	164.903
115-16	2385	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	272	1.4	1.4	0.2	0.3	S7-1	SBL3	23.954	35.193	164.892
	2386	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	118	3.1	1.7	0.7	3.9			32.963	39.337	165.252
	2387	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	119	1.6	0.7	0.1	0.2		SBL3	24.524	35.592	164.943
	2388	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	100	1.1	1.1	0.1	0.3		SBL3	24.450	35.544	164.938
	2389	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.2	0.1		SBL3	24.425	35.424	164.918
115-15	2390	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	301	2.0	0.9	0.4	0.6	S8-4	SBL3	24.403	35.605	164.930
	2391	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.388	35.638	164.933
	2392	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.329	35.650	164.929
	2393	剥片	Ob	BBⅢ			0.5	1.2	0.2	0.2	S14	SBL3	24.337	35.548	164.931
	2394	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.8	0.1	0.1		SBL3	24.360	35.475	164.928
	2395	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	099	0.9	0.9	0.2	0.2		SBL3	24.341	35.366	164.912

第32表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（9）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2396	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	258	0.5	0.4	0.0	0.1	S15	SBL3	24.351	35.285	164.909
	2398	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.9	0.3	0.1		SBL3	24.310	35.493	164.923
	2399	剥片	Ob	BBⅢ			1.1	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.374	35.240	164.907
	2400	剥片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.1		SBL3	24.394	35.308	164.906
	2401	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.307	35.165	164.904
	2402	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.262	35.232	164.908
	2403	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.253	35.277	164.907
	2404	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	154	1.0	0.8	0.1	0.1		SBL3	24.240	35.368	164.908
	2405	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.266	35.423	164.921
	2406	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	239	1.9	0.9	0.2	0.4	S7-2	SBL3	24.256	35.493	164.918
	2407	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.225	35.511	164.921
115-15	2408	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	300	1.5	1.2	0.1	0.4	S8-4	SBL3	24.257	35.561	164.922
	2409	剥片	Ob	BBⅢ			1.5	0.4	0.1	0.2		SBL3	24.238	35.613	164.928
	2410	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	138	1.4	1.2	0.3	0.6		SBL3	24.165	35.511	164.914
113-5	2411	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	232	0.6	1.1	0.7	0.4	S11	SBL3	24.191	35.540	164.914
	2412	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.230	35.141	164.907
	2413	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.202	35.146	164.908
	2414	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.113	35.147	164.906
	2415	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.024	35.165	164.910
	2416	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.181	35.194	164.909
	2417	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.193	35.302	164.914
	2418	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.131	35.418	164.912
	2419	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.910	35.608	164.911
	2420	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.008	35.644	164.920
	2421	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.108	35.200	164.907
	2422	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	137	1.5	1.0	0.1	0.3		SBL3	24.043	35.218	164.905
	2423	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	274	0.5	2.4	0.2	0.3	S16	SBL3	23.817	35.236	164.903
115-16	2424	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	270	1.1	1.2	0.2	0.2	S7-1	SBL3	24.051	35.270	164.901
	2425	砕片	Ob	BBⅢ			1.1	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.098	35.281	164.895
	2426	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	136	1.2	1.0	0.1	0.1		SBL3	24.120	35.329	164.913
	2427	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.056	35.337	164.902
	2428	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	173	1.9	1.1	0.2	0.3	S12	SBL3	23.968	35.340	164.905
	2429	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	135	1.2	1.3	0.3	0.3		SBL3	24.007	35.431	164.901
	2430	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.8	0.3	0.2		SBL3	24.033	35.469	164.903
	2431	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.9	0.1	0.1		SBL3	23.930	35.461	164.903
	2432	剥片	Ob	BBⅢ			1.4	0.4	0.1	0.1		SBL3	23.947	35.527	164.909
	2433	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	134	2.0	1.0	0.3	0.7		SBL3	24.114	35.531	164.915
	2434	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	133	0.9	1.0	0.1	0.2		SBL3	24.145	35.536	164.926
	2435	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	132	1.5	1.3	0.4	1.3		SBL3	24.065	35.612	164.929
	2436	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.175	35.612	164.936
	2437	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.7	0.2	0.1		SBL3	24.199	35.403	164.922
	2438	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.130	35.378	164.913
	2439	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.061	35.532	164.918
	2440	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.4	0.3	0.0		SBL3	24.178	35.697	164.935
	2441	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.145	35.705	164.932
	2442	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.020	35.724	164.932
	2443	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.051	35.691	164.936
	2444	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.7	0.1	0.0		SBL3	24.093	35.764	164.938
	2445	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.8	0.1	0.0		SBL3	24.282	35.534	164.928
	2446	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.118	35.900	164.946
	2447	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.854	34.601	164.874
	2449	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	131	0.8	1.0	0.1	0.2		SBL3	24.133	36.686	165.001
	2450	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.8	0.1	0.1		SBL3	22.424	35.989	164.912
	2451	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.2	0.0		SBL3	23.657	35.825	164.919

第33表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（10）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2452	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.977	35.741	164.926
	2454	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.903	35.526	164.908
	2455	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.1	0.1		SBL3	23.983	35.427	164.900
	2456	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.2	0.0		SBL3	24.055	35.617	164.922
	2457	剥片	Ob	BBⅢ			1.2	0.5	0.4	0.2		SBL3	24.040	35.684	164.927
	2458	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.098	35.895	164.933
	2459	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.160	35.831	164.942
	2460	砕片	Ob	BBⅢ			6.0	1.0	0.1	0.0		SBL3	24.266	35.753	164.937
	2461	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.296	35.643	164.932
	2462	砕片	Ob	BBⅢ			1.1	0.4	0.2	0.1		SBL3	24.434	35.594	164.941
	2463	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.7	0.1	0.0		SBL3	24.539	35.679	164.959
	2464	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.337	35.568	164.935
	2465	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.238	35.614	164.936
	2466	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.207	35.596	164.926
	2467	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	130	1.3	1.4	0.4	0.7		SBL3	24.144	35.546	164.917
	2468	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	129	0.6	1.2	0.2	0.2		SBL3	24.186	35.556	164.921
	2469	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.124	35.451	164.918
	2470	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	128	1.0	0.6	0.2	0.1		SBL3	24.213	35.479	164.912
	2471	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.311	35.443	164.924
	2472	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.341	35.467	164.931
	2473	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.377	35.438	164.931
	2474	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	277	2.3	0.9	0.3	0.8	S12	SBL3	24.295	35.345	164.903
	2475	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.215	35.312	164.906
	2476	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.3	0.1	0.1		SBL3	24.100	35.398	164.898
	2477	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.022	35.311	164.883
	2478	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.125	35.289	164.896
	2479	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.8	0.1	0.0		SBL3	24.151	35.282	164.892
	2480	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.027	35.229	164.899
	2481	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	127	0.8	0.8	0.4	0.4		SBL3	23.863	35.238	164.880
	2482	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.126	35.168	164.898
	2483	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.051	35.091	164.893
	2484	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.8	0.1	0.1		SBL3	23.954	34.975	164.886
	2485	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.5	0.1	0.0		SBL3	23.654	35.014	164.877
	2486	砕片	Ob	BBⅢ			3.0	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.586	35.484	164.935
	2487	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.555	35.609	164.942
113-8	2488	Rフレイク	Ob	BBⅢ	AGKT	030	2.8	1.0	0.5	1.1		SBL3	24.641	35.634	164.940
	2489	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.538	35.718	164.943
	2490	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.566	35.804	164.945
	2491	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	22.609	35.617	164.875
	2492	剥片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.1	0.1		SBL1	25.431	40.276	165.211
	2493	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	5.0	0.1	0.0		SBL1	25.747	40.435	165.232
	2496	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.791	35.739	164.945
	2497	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.3	0.1		SBL3	24.717	35.671	164.948
	2498	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.2	0.0		SBL3	24.635	35.721	164.947
	2499	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.725	35.517	164.927
	2500	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.7	0.1	0.1		SBL3	24.561	35.496	164.928
	2501	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	169	1.4	0.9	0.4	0.5	S9	SBL3	24.547	35.658	164.944
	2502	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.535	35.691	164.945
	2503	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.2	0.1		SBL3	24.465	35.748	164.932
	2504	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.450	35.564	164.939
	2505	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.384	35.651	164.933
	2506	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.308	35.643	164.931
	2507	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.258	35.783	164.932
	2508	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.215	35.740	164.932

第34表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（11）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2509	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.179	35.651	164.924
	2510	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	161	2.1	1.6	0.5	1.7	S7		24.159	35.555	164.907
	2511	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.141	35.702	164.918
	2512	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.069	35.647	164.923
	2513	剥片	Ob	BBⅢ			1.0	1.1	0.2	0.1		SBL3	24.096	35.587	164.910
	2514	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	1.2	0.1	0.1		SBL3	24.094	35.509	164.899
	2515	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	126	1.4	1.3	0.3	0.6		SBL3	24.162	35.442	164.906
	2516	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.8	0.1	0.0		SBL3	24.107	35.361	164.890
	2517	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.015	35.392	164.868
	2518	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.980	35.644	164.909
	2519	剥片	Ob	BBⅢ			1.2	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.000	35.721	164.905
	2520	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL3	23.901	35.548	164.901
	2521	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.5	0.1	0.1		SBL3	23.807	35.569	164.870
	2522	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.726	35.674	164.896
	2523	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	237	2.2	1.0	1.0	0.4	S13	SBL3	23.768	35.533	164.895
	2524	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	249	1.2	1.6	0.3	0.5	S9-5	SBL3	23.752	35.468	164.878
	2525	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	23.937	35.358	164.891
	2526	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.3	0.2	0.1		SBL3	24.006	35.233	164.894
	2527	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	121	0.8	1.0	0.2	0.2		SBL3	23.897	35.244	164.882
	2528	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.789	35.363	164.882
	2529	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	226	3.2	1.9	0.4	5.1	S9-2	SBL3	23.617	35.236	164.868
	2530	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.176	35.322	164.874
	2531	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	122	0.6	1.1	0.2	0.2		SBL3	24.448	35.282	164.881
	2532	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	25.239	36.407	165.008
	2533	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.651	35.711	164.919
	2534	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.698	35.662	164.926
	2535	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.778	35.573	164.920
	2536	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.576	35.725	164.946
	2537	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.614	35.660	164.941
	2538	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.6	0.1	0.1		SBL3	24.719	35.789	164.923
	2539	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.774	35.740	164.913
	2540	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.821	35.658	164.919
	2541	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.658	35.541	164.901
	2542	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.2	0.0		SBL3	24.563	35.556	164.926
	2543	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.8	0.2	0.2		SBL3	24.467	35.653	164.924
	2544	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.405	35.755	164.924
	2545	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.393	35.665	164.920
	2546	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.359	35.825	164.919
	2547	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.320	35.668	164.921
	2548	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.2	0.1		SBL3	24.364	35.621	164.924
	2549	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.305	35.761	164.924
	2550	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.281	35.835	164.925
	2551	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.522	35.518	164.925
	2552	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.434	35.525	164.932
	2553	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.484	35.532	164.922
	2554	剥片	Ob	BBⅢ			1.0	1.1	0.2	0.5		SBL3	24.339	35.581	164.918
	2555	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.457	35.425	164.908
	2556	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.368	35.438	164.910
	2557	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.394	35.586	164.925
	2558	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.369	35.488	164.904
	2559	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.190	35.827	164.909
	2560	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.202	35.732	164.909
	2561	砕片	Ob	BBⅢ			1.1	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.223	35.795	164.905
	2562	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.133	35.797	164.910
	2563	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.275	35.467	164.883

第35表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（12）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2564	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.3	0.1	0.1		SBL3	24.211	35.409	164.870
	2566	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.233	35.474	164.878
	2567	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.2	0.0		SBL3	24.190	35.426	164.873
	2568	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.239	35.556	164.911
	2569	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.333	35.439	164.915
	2570	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.176	35.571	164.907
	2571	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.2	0.1		SBL3	24.160	35.632	164.907
	2572	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.061	35.687	164.885
	2573	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.063	35.721	164.893
	2574	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.088	35.704	164.892
	2575	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	157	0.9	0.7	0.2	0.2		SBL3	24.165	35.620	164.910
	2576	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.047	35.814	164.896
	2577	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.242	35.623	164.914
	2578	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.012	35.734	164.902
	2579	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.229	35.625	164.909
	2580	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.2	0.1		SBL3	24.190	35.497	164.888
	2581	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.939	35.767	164.896
	2582	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.1	0.1	0.0		SBL3	23.978	35.640	164.890
	2583	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.054	35.644	164.890
	2584	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.062	35.593	164.893
	2585	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.117	35.555	164.893
	2586	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.153	35.447	164.879
	2587	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.144	35.415	164.878
	2588	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	123	1.6	0.8	0.2	0.2		SBL3	24.061	35.415	164.881
	2589	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.055	35.444	164.890
	2590	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.042	35.577	164.887
	2591	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.000	35.511	164.879
	2592	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.955	35.482	164.874
	2593	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.021	35.467	164.872
	2594	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL3	23.895	35.373	164.876
	2595	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.7	0.3	0.2		SBL3	24.013	35.408	164.874
	2596	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.2	0.0		SBL3	23.842	35.352	164.881
	2597	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.7	0.4	0.3		SBL3	23.793	35.384	164.889
	2598	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	259	0.4	1.4	0.1	0.2	S15	SBL3	23.779	35.488	164.888
	2599	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	23.785	35.670	164.893
	2600	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL3	23.862	35.571	164.889
	2601	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	257	1.3	1.2	0.2	0.3	S8-5	SBL3	23.308	35.648	164.872
	2602	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.2	0.0		SBL3	24.725	35.681	164.923
	2603	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.718	35.649	164.928
	2604	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.651	35.717	164.902
	2605	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.635	35.720	164.906
	2606	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.649	35.681	164.903
	2607	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.644	35.666	164.903
	2608	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.640	35.669	164.902
	2609	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.713	35.481	164.912
	2610	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.559	35.448	164.896
	2611	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.485	35.815	164.902
	2612	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.512	35.825	164.906
	2613	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.518	35.801	164.906
	2614	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.179	35.898	164.914
	2615	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.145	35.788	164.893
	2616	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.2	0.1		SBL3	24.128	35.766	164.887
	2617	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.536	35.536	164.914
	2618	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.562	35.558	164.931

第36表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（13）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2619	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.585	35.581	164.919
	2621	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.282	35.897	164.921
	2622	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.503	35.789	164.907
	2623	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.538	35.631	164.917
	2624	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.516	35.651	164.925
	2625	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.525	35.621	164.916
	2626	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.499	35.591	164.926
	2627	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	155	0.9	0.9	0.2	0.2		SBL3	24.483	35.638	164.921
	2628	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.340	35.582	164.917
	2629	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.482	35.541	164.921
	2630	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.413	35.566	164.926
	2631	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.458	35.519	164.913
	2632	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	171	1.2	1.5	0.5	0.8	S9	SBL3	24.449	35.486	164.898
	2633	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.453	35.418	164.902
	2634	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.504	35.351	164.890
	2635	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.407	35.380	164.888
	2636	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.405	35.475	164.908
	2637	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.373	35.434	164.914
	2638	砕片	Ob	BBⅢ			1.1	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.332	35.520	164.913
	2639	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.140	35.578	164.861
	2640	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.047	35.684	164.872
	2641	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL3	23.959	35.680	164.871
	2642	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.891	35.683	164.876
	2643	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.2	0.1		SBL3	23.881	35.634	164.871
	2644	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	23.852	35.673	164.874
	2645	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	23.960	35.842	164.892
	2646	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.394	35.511	164.909
	2647	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	160	0.7	0.8	0.2	0.1		SBL3	24.450	35.531	164.914
	2648	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	273	0.8	1.7	0.6	0.6	S16	SBL3	24.497	35.563	164.923
	2649	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.413	35.686	164.883
	2650	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.465	35.659	164.890
	2651	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.359	35.886	164.907
	2652	砕片	Ob	BBⅢ			1.5	0.4	0.4	0.2		SBL3	24.265	35.839	164.902
	2653	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.451	35.833	164.901
	2654	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.4	0.1	0.1		SBL3	24.136	35.821	164.891
	2655	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.175	35.846	164.899
	2656	砕片	Ob	BBⅢ			1.1	0.2	0.1	0.1		SBL3	24.098	35.817	164.892
	2657	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.074	35.772	164.891
	2658	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.189	35.760	164.879
	2659	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.135	35.718	164.869
	2660	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.303	35.654	164.893
	2661	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.295	35.631	164.893
	2662	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.319	35.617	164.905
	2663	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.302	35.578	164.905
	2664	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.372	35.610	164.920
	2665	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.5	0.1	0.1		SBL3	24.463	35.573	164.918
	2666	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.337	35.571	164.909
	2667	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.279	35.524	164.881
	2668	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.219	35.437	164.856
	2669	砕片	Ob	BBⅢ			0.7	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.370	35.514	164.870
	2670	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.440	35.495	164.878
	2671	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.487	35.533	164.882
	2672	砕片	F.H	BBⅢ			0.4	0.2	0.2	0.0		SBL3	24.485	35.555	164.888
	2673	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.475	35.623	164.893

第37表　D地区　BBⅢ層出土石器一覧表（14）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2674	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.516	35.600	164.886
	2676	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.6	0.1	0.0		SBL3	24.604	35.652	164.893
	2677	砕片	Ob	BBⅢ			0.9	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.568	35.621	164.887
	2678	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.534	35.571	164.886
	2679	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL3	24.552	35.556	164.894
	2680	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.591	35.564	164.898
	2681	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	285	1.0	0.9	0.3	0.3	S9-6	SBL3	24.574	35.534	164.897
115-15	2682	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	111	0.9	1.3	0.2	0.2	S8-4	SBL3	24.544	35.508	164.891
	2683	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.122	35.553	164.853
	2684	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL1	25.046	40.193	165.206
	2685	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.2	0.1		SBL1	25.591	40.407	165.223
	2686	砕片	Ob	BBⅢ			0.2	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.433	35.879	164.902
115-16	2687	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	271	0.9	2.2	0.7	1.5	S7-1	SBL3	24.336	35.599	164.893
	2688	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.5	0.2	0.0		SBL3	24.468	35.571	164.908
	2689	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.497	35.604	164.893
	2690	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.438	35.546	164.907
	2691	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL3	24.394	35.588	164.896
	2692	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.347	35.572	164.878
	2693	砕片	Ob	BBⅢ			1.1	0.8	0.2	0.2		SBL3	24.454	35.561	164.898
	2694	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.398	35.531	164.869
	2695	砕片	Ob	BBⅢ			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.443	35.715	164.896
	2696	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.7	0.1	0.0		SBL3	24.323	35.833	164.895
	2697	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.144	35.737	164.880
	2698	剥片	Ob	BBⅢ	AGKT	124	1.0	0.9	0.2	0.3		SBL3	24.535	35.986	164.927
	2699	砕片	Ob	BBⅢ			0.8	0.4	0.3	0.0		SBL3	24.634	36.027	164.935
	2700	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.423	35.286	164.875
	2701	砕片	Ob	BBⅢ			0.6	0.1	0.1	0.0		SBL3	24.442	35.271	164.878
	2702	砕片	Ob	BBⅢ			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL3	24.339	35.116	164.874
	2703	砕片	Ob	BBⅢ			1.0	0.7	0.5	0.3		SBL3	23.864	35.419	164.837
	2704	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.698	35.944	164.918
	2705	砕片	Ob	BBⅢ			1.2	0.5	0.2	0.1		SBL3	24.564	35.772	164.872
	2706	砕片	Ob	BBⅢ			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL3	24.872	35.624	164.892
	2707	砕片	Ob	BBⅢ	AGKT	125	1.8	1.5	0.6	1.0		SBL3	26.270	35.378	164.967
	2874	剥片	Ob	BBⅢ	SWHD	120	1.5	1.3	0.1	0.3		SBL4	26.555	34.247	164.650

第38表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（1）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	1857	剥片	F.H	SCⅡ			1.6	1.9	0.9	2.3			30.423	38.133	165.367
120-6	2708	石核	Ob	SCⅢb1	AGKT	206	3.1	3.1	1.6	11.9			25.521	30.562	164.686
	2709	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	213	2.9	2.4	0.7	5.2		SBL2	27.112	33.258	164.973
	2710	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	214	2.4	1.9	1.0	4.6		SBL2	26.126	34.491	164.928
	2711	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	215	3.4	1.8	0.4	1.8		SBL2	25.842	34.352	164.917
	2712	剥片	F.H	SCⅢb1			2.6	2.1	0.7	5.1			23.895	35.383	164.748
121-11	2713	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	287	2.9	1.6	0.5	2.7	S21		24.377	36.389	164.907
	2714	砕片	F.H	SCⅢb1			0.6	0.4	0.3	0.1			24.041	36.636	164.925
	2715	剥片	F.H	SCⅢb1			0.9	0.7	0.4	0.2			23.934	36.661	164.969
121-11	2716	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	286	2.3	2.0	0.3	2.4	S21		23.422	37.501	164.962
	2717	剥片	RJa	SCⅢb1			0.9	1.0	0.1	0.1			25.005	37.575	165.081
	2718	剥片	RJa	SCⅢb1			1.9	1.2	0.2	0.8			26.165	38.244	165.142

第39表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（2）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2719	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	216	3.9	4.1	0.3	8.9			26.301	39.373	165.142
	2720	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	217	2.7	2.1	0.6	4.1			23.467	39.967	165.113
	2721	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	218	4.5	2.4	0.4	5.3			22.267	36.575	164.914
	2722	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	291	2.0	1.8	1.0	3.4	S22		20.774	35.872	164.579
	2723	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	292	1.0	1.0	1.0	2.1	S22		20.973	35.617	164.603
	2724	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	290	3.5	2.4	1.0	11.9	S22		21.003	35.540	164.609
	2725	剥片	F.H	SCⅢb1			1.6	1.1	0.3	0.7			20.169	34.133	164.333
	2726	剥片	F.H	SCⅢb1			3.3	2.4	0.6	5.3			21.116	32.092	164.430
	2727	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	219	2.7	1.7	0.6	3.0			26.781	40.961	165.218
	2728	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	220	2.4	1.4	1.0	3.0			27.307	41.474	165.258
	2729	剥片	F.H	SCⅢb1			1.8	1.8	1.0	2.9			28.016	36.475	164.863
	2739	剥片	Ob	SCⅢb1	AGKT	221	2.9	1.3	1.1	2.4			27.567	43.413	165.321
	2740	剥片	F.H	SCⅢb1			4.8	1.1	0.6	3.2		SBL1	20.682	46.169	165.330
	150	剥片	F.H	SCⅢb2			5.4	2.9	0.9	12.6			—	—	—
	152	剥片	F.H	SCⅢb2			4.8	1.5	0.9	6.1			—	—	—
	153	剥片	F.H	SCⅢb2			5.6	2.1	0.7	8.5			—	—	—
	2730	Uフレイク	Ob	SCⅢb2	SWHD	210	3.6	2.8	0.9	8.0			29.342	33.579	164.690
	2731	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	204	2.2	1.2	0.4	1.0			29.005	32.679	164.649
119-2	2732	ナイフ形石器	F.H	SCⅢb2			4.8	1.7	0.6	4.8			23.240	29.702	164.330
	2733	剥片	F.H	SCⅢb2			2.6	2.0	0.7	4.1			23.023	30.090	164.298
122-17	2741	剥片	F.H	SCⅢb2			4.9	5.9	0.9	30.2	S31	SBL1	21.461	45.916	165.156
	2742	剥片	F.H	SCⅢb2			3.2	2.0	0.3	2.5		SBL1	21.288	45.403	165.134
121-15	2743	剥片	F.H	SCⅢb2			3.7	1.9	0.6	5.0	S32	SBL1	21.492	45.240	165.146
119-3 121-10	2744	Rフレイク	F.H	SCⅢb2			7.5	4.2	2.4	64.5	S33	SBL1	21.809	45.122	165.144
121-10	2745	剥片	F.H	SCⅢb2			7.0	2.0	1.4	20.1	S33	SBL1	21.592	44.787	165.117
121-10	2746	剥片	F.H	SCⅢb2			3.3	2.8	0.6	6.5	S33	SBL1	22.168	45.085	165.152
121-10	2747	剥片	F.H	SCⅢb2			1.2	2.0	0.6	1.9	S33	SBL1	22.199	45.136	165.138
121-10	2748	剥片	F.H	SCⅢb2			3.7	2.7	0.4	5.8	S33	SBL1	22.287	45.061	165.145
121-10	2749	剥片	F.H	SCⅢb2			8.9	5.9	3.6	172.8	S33	SBL1	22.091	44.823	165.095
	2750	剥片	F.H	SCⅢb2			4.5	3.0	0.9	13.4		SBL1	22.138	44.466	165.092
	2751	剥片	F.H	SCⅢb2			2.1	1.3	0.6	1.8	S34	SBL1	22.391	43.922	165.058
	2752	剥片	F.H	SCⅢb2			2.2	1.4	0.5	1.7	S34	SBL1	22.446	43.980	165.058
	2753	剥片	F.H	SCⅢb2			5.5	2.5	0.8	14.3		SBL1	22.523	45.577	165.235
	2754	剥片	F.H	SCⅢb2			1.7	2.0	0.8	0.7	S35	SBL1	22.473	45.552	165.200
119-1	2755	ナイフ形石器	F.H	SCⅢb2			6.7	3.0	1.0	14.6	S36	SBL1	22.544	45.440	165.159
	2756	石刃	F.H	SCⅢb2			3.6	3.3	0.9	12.2	S35	SBL1	22.496	45.588	165.214
	2757	剥片	F.H	SCⅢb2			3.1	1.9	0.5	2.7		SBL1	22.513	43.794	165.082
	2758	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	223	5.8	2.3	1.2	16.3		SBL1	22.346	45.615	165.198
	2759	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	222	1.5	1.3	0.2	0.8		SBL1	21.951	45.100	165.154
	2760	剥片	F.H	SCⅢb2			3.8	2.1	1.2	7.0			23.274	25.690	164.257
	2761	剥片	F.H	SCⅢb2			1.5	1.1	0.4	0.7		SBL1	22.574	43.755	165.046
	2762	剥片	F.H	SCⅢb2			3.0	1.5	0.5	1.5		SBL1	22.602	43.733	165.030
	2763	剥片	F.H	SCⅢb2			1.3	2.0	0.3	0.6		SBL1	22.571	43.720	165.029
	2764	剥片	F.H	SCⅢb2			1.7	1.4	0.2	0.7		SBL1	22.524	43.722	165.052
121-10	2765	剥片	F.H	SCⅢb2			2.5	5.3	0.5	12.0	S33	SBL1	22.570	43.685	165.041
121-10	2766	剥片	F.H	SCⅢb2			1.9	1.2	0.9	1.8	S33	SBL1	22.521	43.501	165.034
	2767	剥片	F.H	SCⅢb2			2.1	1.8	0.4	1.8		SBL1	22.456	43.536	165.040
121-10	2768	剥片	F.H	SCⅢb2			2.0	1.1	0.6	1.4	S33	SBL1	22.401	43.544	165.037
	2769	剥片	F.H	SCⅢb2			1.1	0.6	0.3	0.2		SBL1	22.337	43.522	165.035
	2770	剥片	F.H	SCⅢb2			1.8	1.0	0.3	0.7		SBL1	22.352	43.501	165.036
121-15	2771	剥片	F.H	SCⅢb2			2.6	3.6	0.8	9.5	S32	SBL1	22.358	43.395	165.054
	2772	剥片	F.H	SCⅢb2			2.3	1.8	0.5	2.7		SBL1	22.856	43.818	165.081
	2773	剥片	F.H	SCⅢb2			2.2	2.1	0.4	2.0	S34	SBL1	22.870	43.674	165.076

第40表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（3）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2774	剥片	F.H	SCⅢb2			1.7	1.7	0.3	1.4		SBL1	22.835	43.607	165.067
	2775	砕片	F.H	SCⅢb2			0.7	0.4	0.1	0.2		SBL1	22.877	44.381	165.108
	2777	剥片	F.H	SCⅢb2			4.3	1.8	0.4	4.1		SBL1	23.338	44.705	165.129
	2778	剥片	F.H	SCⅢb2			2.1	1.0	0.3	0.7		SBL1	23.315	44.738	165.115
121-10	2779	剥片	F.H	SCⅢb2			2.7	3.6	0.6	29.3	S33	SBL1	23.508	44.405	165.139
121-10	2780	剥片	F.H	SCⅢb2			7.4	4.6	1.1	30.8	S33	SBL1	23.789	44.483	165.115
	2781	剥片	F.H	SCⅢb2			4.9	1.2	0.3	2.1	S36	SBL1	23.610	44.113	165.100
120-8 121-10	2783	石核	F.H	SCⅢb2			5.4	5.4	4.7	103.0	S33	SBL1	23.360	43.999	165.095
121-10	2784	剥片	F.H	SCⅢb2			2.9	1.9	0.5	3.2	S33	SBL1	23.349	43.528	165.119
121-10	2785	剥片	F.H	SCⅢb2			3.0	3.5	1.0	14.5	S33	SBL1	23.304	42.558	165.045
121-10	2786	剥片	F.H	SCⅢb2			4.2	3.2	0.5	8.8	S33	SBL1	23.616	43.079	165.057
	2787	剥片	F.H	SCⅢb2			3.6	2.0	0.8	5.3		SBL1	24.353	43.468	165.033
	2788	剥片	F.H	SCⅢb2			2.9	1.9	1.2	7.5			18.038	39.857	164.425
122-16	2789	剥片	SSh	SCⅢb2			1.0	1.8	0.3	1.6	S37	SBL2	25.385	33.167	164.559
122-16	2790	剥片	SSh	SCⅢb2			0.7	1.0	0.2	0.2	S37	SBL2	25.599	33.302	164.583
122-16	2791	剥片	SSh	SCⅢb2			1.2	1.6	0.3	0.7	S37	SBL2	25.533	33.927	164.621
122-16	2792	剥片	SSh	SCⅢb2			2.5	1.5	1.4	5.1	S37	SBL2	26.097	33.322	164.713
122-16	2793	剥片	SSh	SCⅢb2			1.9	1.8	0.3	12.8	S37	SBL2	26.253	33.310	164.613
	2794	剥片	F.H	SCⅢb2			6.8	2.0	0.9	12.7		SBL2	26.192	33.506	164.665
	2795	砕片	SSh	SCⅢb2			0.3	0.7	0.1	0.1		SBL2	26.104	34.185	164.690
122-16	2796	剥片	SSh	SCⅢb2			2.5	1.9	0.5	3.6	S37	SBL2	26.133	34.250	164.691
	2797	剥片	F.H	SCⅢb2			3.8	2.4	0.7	6.9		SBL2	26.112	34.334	164.640
122-16	2798	剥片	SSh	SCⅢb2			1.2	0.6	0.2	0.5	S37	SBL2	26.054	34.448	164.700
122-16	2799	剥片	SSh	SCⅢb2			1.2	0.5	0.2	2.6	S37	SBL2	25.995	34.384	164.653
122-16	2800	剥片	SSh	SCⅢb2			1.8	0.6	0.4	0.6	S37	SBL2	26.273	34.403	164.692
122-16	2801	剥片	SSh	SCⅢb2			2.2	2.3	0.3	2.4	S37	SBL2	26.253	34.303	164.682
122-16	2802	剥片	SSh	SCⅢb2			2.6	1.7	0.3	3.8	S37	SBL2	26.291	34.240	164.678
122-16	2803	剥片	SSh	SCⅢb2			2.7	1.6	0.3	1.8	S37	SBL2	25.712	34.330	164.639
122-16	2804	剥片	SSh	SCⅢb2			3.9	2.1	0.7	5.5	S37	SBL2	25.670	34.347	164.647
122-16	2805	剥片	SSh	SCⅢb2			1.4	0.9	0.2	0.3	S37	SBL2	26.095	34.491	164.666
122-16	2806	剥片	SSh	SCⅢb2			2.4	1.5	0.6	2.3	S37	SBL2	26.704	34.072	164.710
122-16	2807	剥片	SSh	SCⅢb2			1.8	0.3	0.3	0.6	S37	SBL2	25.899	34.585	164.662
	2808	剥片	F.H	SCⅢb2			5.8	2.5	0.7	10.5		SBL2	27.144	32.917	164.671
122-16	2809	剥片	SSh	SCⅢb2			1.2	0.7	0.2	0.2	S37	SBL2	25.908	34.670	164.663
	2810	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	224	1.3	0.7	0.1	0.1		SBL2	25.771	34.209	164.638
	2811	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL2	25.852	34.275	164.644
	2812	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	25.851	34.148	164.647
	2813	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	225	2.5	0.9	0.2	0.4		SBL2	25.906	34.274	164.658
121-13	2814	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	262	1.0	0.9	0.3	0.3	S38-1	SBL2	25.974	34.251	164.660
	2815	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	182	0.7	0.7	0.2	0.2	S38	SBL2	26.007	34.254	164.662
121-14	2816	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	289	1.3	2.6	0.3	0.7	S38-2	SBL2	26.072	34.114	164.659
	2817	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.5	0.3	0.1		SBL2	25.860	34.337	164.665
	2818	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL2	25.774	34.382	164.661
	2819	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.2	0.2	0.0		SBL2	25.704	34.373	164.637
	2820	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.4	0.1	0.0		SBL2	25.768	34.416	164.656
	2821	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.837	34.421	164.645
	2822	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.8	0.1	0.0		SBL2	25.894	34.451	164.649
	2823	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	200	3.2	2.1	0.7	3.4		SBL2	25.884	34.504	164.655
	2824	砕片	Ob	SCⅢb2			0.2	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.852	34.528	164.651
	2825	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.8	0.1	0.0		SBL2	25.974	34.536	164.669
	2826	砕片	Ob	SCⅢb2			0.9	0.5	0.1	0.0		SBL2	25.952	34.559	164.666
	2827	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	181	1.1	0.6	0.2	0.1	S38	SBL2	25.959	34.646	164.676
	2828	砕片	Ob	SCⅢb2			1.1	0.4	0.2	0.1		SBL2	25.895	34.740	164.652

第41表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（4）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2829	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	186	1.1	0.7	0.1	0.1	S38	SBL2	25.930	34.762	164.654
	2830	砕片	Ob	SCⅢb2	不可	208	0.7	0.8	0.1	0.1		SBL2	25.935	34.818	164.665
	2832	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.9	0.1	0.0		SBL2	26.012	34.799	164.653
	2833	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	199	2.8	2.7	0.6	4.0		SBL2	26.024	34.726	164.656
	2834	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.020	34.720	164.664
	2835	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.046	34.628	164.669
	2836	砕片	Ob	SCⅢb2			0.9	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.005	34.600	164.687
121-12	2837	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	297	1.1	1.0	0.4	0.3	S38-3	SBL2	26.020	34.561	164.680
	2838	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.7	0.1	0.0		SBL2	26.002	34.513	164.680
	2839	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	1.0	0.1	0.1		SBL2	25.963	34.482	164.677
	2840	砕片	Ob	SCⅢb2			0.9	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.020	34.444	164.671
	2841	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.092	34.380	164.664
	2842	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	187	1.2	1.0	0.3	0.3	S38	SBL2	26.057	34.330	164.651
	2843	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.9	0.1	0.1		SBL2	26.163	34.336	164.661
	2844	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	198	1.0	0.7	0.1	0.1		SBL2	26.023	34.464	164.698
	2845	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.147	34.429	164.679
	2846	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	253	1.2	2.0	0.6	1.3	S38	SBL2	26.143	34.459	164.678
	2847	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	176	0.3	1.0	0.2	0.1	S38	SBL2	26.142	34.515	164.685
	2848	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.8	0.1	0.1		SBL2	26.071	34.527	164.688
	2849	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.7	0.1	0.1		SBL2	26.090	34.601	164.662
	2850	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.128	34.650	164.644
	2851	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.170	34.668	164.647
	2852	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.1	0.1	0.0		SBL2	26.184	34.628	164.649
121-14	2853	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	288	1.8	1.7	0.2	0.7	S38-2	SBL2	26.147	34.594	164.660
	2854	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.158	34.532	164.686
	2855	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.204	34.582	164.657
	2856	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.215	34.535	164.659
	2857	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	197	1.2	0.6	0.1	0.1		SBL2	26.172	34.502	164.656
	2858	Uフレイク	Ob	SCⅢb2	AGKT	211	2.6	3.4	0.7	6.0			23.353	32.551	164.483
	2859	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.344	34.467	164.693
	2860	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	177	1.9	1.3	0.3	0.8	S38	SBL2	26.319	34.496	164.677
	2861	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.303	34.585	164.666
	2862	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.7	0.1	0.0		SBL2	26.267	34.605	164.670
	2863	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.228	34.669	164.670
	2864	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.8	0.1	0.1		SBL2	26.274	34.666	164.658
	2865	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.1	0.1	0.0		SBL2	26.334	34.655	164.650
	2866	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.366	34.631	164.654
	2867	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.1	0.1	0.0		SBL2	26.365	34.601	164.648
	2868	砕片	Ob	SCⅢb2			0.9	0.7	0.1	0.1		SBL2	26.398	34.566	164.652
	2869	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.380	34.519	164.640
	2870	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.382	34.481	164.688
	2871	砕片	F.H	SCⅢb2			0.7	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.401	34.371	164.640
	2872	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.430	34.342	164.661
	2873	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.319	34.314	164.685
122-16	2875	剥片	SSh	SCⅢb2			1.5	2.0	0.2	0.2	S37	SBL2	26.562	34.168	164.654
	2876	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.3	0.1	0.2		SBL2	26.716	34.135	164.707
	2877	Uフレイク	Ob	SCⅢb2	SWHD	212	6.1	2.7	0.6	9.0		SBL2	26.679	34.063	164.716
	2878	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	194	2.2	1.0	0.3	0.6		SBL2	26.643	33.366	164.622
	2879	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	178	2.2	1.5	0.4	1.1	S38	SBL2	25.535	33.519	164.634
	2880	剥片	Ob	SCⅢb2	AGKT	193	6.0	3.0	1.1	16.0			27.089	31.863	164.636
	2881	砕片	Ob	SCⅢb2	不可	209	0.9	0.7	0.4	0.3		SBL1	23.405	43.691	165.100
	2884	剥片	F.H	SCⅢb2			4.3	2.8	1.1	15.9			27.585	24.894	164.372
	2885	剥片	F.H	SCⅢb2			1.2	0.6	0.5	0.5		SBL1	22.464	45.568	165.187
	2886	砕片	F.H	SCⅢb2			0.9	0.6	0.7	0.3		SBL1	22.549	43.773	165.044

第42表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（5）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2887	砕片	F.H	SCⅢb2			0.8	0.7	0.1	0.1		SBL1	22.488	43.660	165.032
	2888	砕片	F.H	SCⅢb2			0.6	0.5	0.2	0.1		SBL1	22.485	43.594	165.030
	2890	剥片	F.H	SCⅢb2			1.8	1.1	0.4	1.1		SBL1	22.550	43.464	165.013
	2891	砕片	F.H	SCⅢb2			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL1	22.670	43.657	165.027
	2892	剥片	F.H	SCⅢb2			1.7	0.9	0.3	0.6		SBL1	22.657	43.740	165.027
	2893	剥片	F.H	SCⅢb2			1.6	0.8	0.3	0.6		SBL1	22.840	43.605	165.048
	2894	剥片	Ob	SCⅢb2	TSTY	196	1.6	1.9	0.3	0.8		SBL1	23.330	43.487	165.075
122-16	2895	剥片	SSh	SCⅢb2			2.5	1.7	0.9	3.4	S37	SBL2	25.535	34.104	164.605
122-16	2896	剥片	SSh	SCⅢb2			1.5	1.5	0.2	1.1	S37	SBL2	25.820	34.331	164.644
	2897	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.9	0.1	0.0		SBL2	25.799	34.199	164.635
	2898	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.7	0.1	0.1		SBL2	25.677	34.297	164.630
	2899	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.6	0.1	0.1		SBL2	25.915	34.197	164.643
	2900	砕片	F.H	SCⅢb2			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.740	34.425	164.630
	2901	砕片	Ob	SCⅢb2	不可	207	0.9	0.7	0.1	0.1		SBL2	25.652	34.495	164.625
	2902	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.738	34.501	164.632
	2903	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.4	0.2	0.1		SBL2	25.907	34.538	164.646
	2904	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.7	0.2	0.1		SBL2	25.883	34.438	164.639
	2905	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL2	25.938	34.641	164.647
	2906	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.955	34.508	164.650
	2907	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.050	34.751	164.638
	2908	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.6	0.1	0.0		SBL2	25.999	34.578	164.661
	2909	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.090	34.617	164.648
	2910	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.7	0.1	0.0		SBL2	26.088	34.683	164.642
	2911	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.044	34.608	164.649
	2912	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.1	0.1	0.0		SBL2	26.185	34.655	164.639
	2913	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.143	34.629	164.646
	2914	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.230	34.575	164.648
	2915	砕片	SSh	SCⅢb2			0.9	0.4	0.2	0.1		SBL2	26.144	34.592	164.641
122-16	2916	剥片	SSh	SCⅢb2			1.4	0.9	0.3	0.6	S37	SBL2	26.060	34.554	164.646
	2917	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.026	34.505	164.666
	2918	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.030	34.479	164.662
	2919	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.6	0.1	0.0		SBL2	25.975	34.423	164.639
	2920	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.044	34.429	164.649
	2921	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.6	0.1	0.0		SBL2	25.997	34.383	164.645
	2922	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.084	34.432	164.670
	2923	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.145	34.448	164.644
122-16	2924	剥片	SSh	SCⅢb2			0.7	0.8	0.1	0.2	S37	SBL2	26.083	34.478	164.675
	2925	砕片	SSh	SCⅢb2			0.3	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.219	34.455	164.639
121-13	2926	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	260	2.1	1.5	0.2	0.8	S38-1	SBL2	26.135	34.418	164.644
	2927	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.7	0.1	0.0		SBL2	26.113	34.376	164.644
	2928	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.041	34.339	164.651
	2929	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	184	0.6	1.2	0.3	0.3	S38	SBL2	26.010	34.323	164.646
121-12	2930	剥片	Ob	SCⅢb2	AGKT	295	1.5	1.0	0.3	0.3	S38-3	SBL2	26.072	34.284	164.653
	2931	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	175	0.8	1.4	0.1	0.2	S38	SBL2	26.103	34.331	164.647
	2932	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.9	0.2	0.1		SBL2	26.116	34.316	164.656
	2933	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.3	0.2	0.1		SBL2	26.099	34.288	164.651
121-13	2934	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	261	2.2	0.6	0.2	0.3	S38-1	SBL2	26.080	34.246	164.649
	2935	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	1.3	0.1	0.0		SBL2	26.112	34.262	164.654
	2936	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	174	1.5	1.8	0.3	0.7	S38	SBL2	26.147	34.299	164.639
121-12	2937	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	294	1.3	0.9	0.4	0.7	S38-3	SBL2	26.210	34.246	164.651
	2938	砕片	F.H	SCⅢb2			0.3	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.240	34.254	164.653
	2939	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.279	34.527	164.641
	2940	砕片	Ob	SCⅢb2			0.2	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.215	34.497	164.643
	2941	剥片	F.H	SCⅢb2			3.1	1.9	0.3	2.3		SBL2	26.165	34.766	164.653

第43表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（6）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
	2942	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL2	25.712	34.427	164.623
	2943	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	25.722	34.383	164.625
	2945	砕片	Ob	SCⅢb2			1.1	0.2	0.1	0.0		SBL2	25.694	34.346	164.625
	2946	砕片	Ob	SCⅢb2			0.2	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.930	34.581	164.622
	2947	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	1.2	0.1	0.1		SBL2	25.952	34.513	164.640
	2948	砕片	Ob	SCⅢb2			1.2	0.6	0.1	0.0		SBL2	25.905	34.264	164.642
	2949	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.900	34.354	164.618
	2950	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.945	34.384	164.621
	2951	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	195	1.1	0.8	0.2	0.1		SBL2	25.982	34.325	164.626
	2952	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.2	0.0		SBL2	25.954	34.380	164.622
	2953	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL2	25.989	34.408	164.614
	2954	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.021	34.432	164.616
	2955	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.9	0.2	0.1		SBL2	26.024	34.498	164.649
	2956	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.016	34.524	164.652
	2957	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.067	34.497	164.645
	2958	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.9	0.1	0.0		SBL2	26.134	34.583	164.647
	2959	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.046	34.430	164.618
	2960	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	179	1.5	0.9	0.3	0.4	S38	SBL2	26.271	34.562	164.641
	2961	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	180	1.1	1.0	0.2	0.3	S38	SBL2	26.245	34.720	164.635
	2962	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.216	34.591	164.632
	2963	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.238	34.727	164.641
	2964	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.401	34.569	164.632
	2965	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.430	34.537	164.636
	2966	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	192	2.4	0.8	0.1	0.2		SBL2	25.935	34.206	164.623
	2967	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.7	0.1	0.0		SBL2	26.090	34.469	164.624
	2968	剥片	Ob	SCⅢb2			1.5	0.6	0.3	0.2		SBL2	26.099	34.433	164.625
	2969	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.121	34.387	164.638
	2970	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.3	0.1	0.1		SBL2	26.066	34.325	164.653
121-12	2971	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	296	2.0	1.3	0.5	0.9	S38-3	SBL2	26.097	34.216	164.622
	2972	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.131	34.258	164.629
	2973	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.5	0.1	0.1		SBL2	26.277	34.264	164.647
	2974	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.294	34.196	164.644
	2975	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.201	34.010	164.626
	2976	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.3	0.2	0.1		SBL2	25.888	33.993	164.614
122-16	2977	剥片	SSh	SCⅢb2			3.0	2.9	0.6	8.2	S37	SBL2	25.648	34.285	164.597
122-16	2978	剥片	SSh	SCⅢb2			1.2	1.2	0.2	0.5	S37	SBL2	26.366	34.553	164.627
122-16	2979	剥片	SSh	SCⅢb2			0.7	1.1	0.2	0.1	S37	SBL2	25.935	34.560	164.622
	2980	砕片	SSh	SCⅢb2			0.8	0.9	0.2	0.1		SBL2	26.030	34.408	164.624
	2981	砕片	SSh	SCⅢb2			0.9	0.9	0.1	0.1		SBL2	25.449	34.013	164.598
121-10	2982	剥片	F.H	SCⅢb2			2.7	1.9	0.7	3.2	S33	SBL1	22.370	43.829	165.026
	2983	剥片	F.H	SCⅢb2			2.9	1.7	0.4	1.9		SBL1	22.164	43.877	165.039
	2984	剥片	F.H	SCⅢb2			2.2	1.0	0.7	1.1		SBL1	22.475	43.861	165.056
	2985	剥片	F.H	SCⅢb2			1.0	1.7	0.3	0.8		SBL1	22.757	43.663	165.014
121-15	2986	剥片	F.H	SCⅢb2			2.0	1.8	0.4	1.9	S32	SBL1	22.669	43.834	165.027
	2987	剥片	F.H	SCⅢb2			1.1	0.9	0.3	0.5		SBL1	22.326	43.688	165.018
	2988	砕片	F.H	SCⅢb2			0.8	0.7	0.3	0.2		SBL1	22.525	44.001	165.021
	2989	剥片	F.H	SCⅢb2			3.0	1.0	0.7	2.2		SBL1	22.010	43.967	165.019
121-10	2990	剥片	F.H	SCⅢb2			1.3	1.2	0.2	0.8	S33	SBL1	22.451	43.792	165.023
	2991	剥片	F.H	SCⅢb2			2.3	2.6	0.6	5.2		SBL1	22.496	43.602	165.006
	2992	剥片	F.H	SCⅢb2			2.6	1.2	0.3	1.2		SBL1	21.870	42.639	164.952
122-17	2993	剥片	F.H	SCⅢb2			5.0	2.1	1.8	6.8	S31	SBL1	21.850	42.543	164.944
121-10	2994	剥片	F.H	SCⅢb2			－	2.4	0.5	4.7	S33	SBL1	22.524	42.650	164.972
	2995	剥片	F.H	SCⅢb2			1.7	0.7	0.3	0.6		SBL1	22.393	42.588	164.971
	2996	剥片	F.H	SCⅢb2			3.4	1.8	0.3	1.9		SBL1	22.235	42.658	164.970
119-1	2997	剥片	F.H	SCⅢb2			2.3	1.4	0.4	2.3	S36	SBL1	22.139	42.434	164.962

第44表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（7）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
120-9 122-17	2998	石核	F.H	SCⅢb2			4.0	3.0	2.9	33.5	S31	SBL1	22.068	42.683	164.958
	3000	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.4	0.1	0.0		SBL1	23.342	43.841	165.004
	3001	剥片	F.H	SCⅢb2			4.7	2.4	0.7	5.7		SBL1	25.448	44.453	165.100
122-16	3002	剥片	SSh	SCⅢb2			2.0	0.8	0.1	0.5	S37	SBL2	25.410	34.340	164.587
122-16	3003	剥片	SSh	SCⅢb2			1.6	0.6	0.1	0.1	S37	SBL2	25.671	34.304	164.588
122-16	3004	剥片	SSh	SCⅢb2			1.1	0.4	0.2	0.1	S37	SBL2	25.541	34.233	164.591
122-16	3005	剥片	SSh	SCⅢb2			1.2	0.8	0.1	1.7	S37	SBL2	25.683	34.235	164.587
122-16	3007	剥片	SSh	SCⅢb2			2.2	0.8	0.2	0.5	S37	SBL2	25.320	34.114	164.582
122-16	3008	剥片	SSh	SCⅢb2			1.0	1.0	0.2	0.2	S37	SBL2	25.909	34.243	164.607
	3009	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.6	0.1	0.0		SBL2	25.532	34.202	164.586
	3010	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.556	34.313	164.578
	3011	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	190	1.1	1.6	0.3	0.6		SBL2	25.464	34.133	164.581
	3012	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	183	1.7	0.7	0.2	0.4	S38	SBL2	25.559	34.101	164.540
	3013	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	191	1.9	1.4	0.3	0.6		SBL2	25.205	34.125	164.573
	3014	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.860	33.974	164.588
	3015	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.4	0.1	0.0		SBL2	25.948	34.232	164.609
	3016	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	25.995	34.319	164.593
	3017	砕片	F.H	SCⅢb2			0.4	0.5	0.1	0.1		SBL2	25.957	34.325	164.597
	3018	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	189	0.7	1.0	0.3	0.2		SBL2	25.973	34.422	164.569
	3019	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.9	0.1	0.1		SBL2	26.070	34.431	164.600
	3020	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.073	34.377	164.627
	3021	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.041	34.357	164.637
	3022	砕片	F.H	SCⅢb2			0.6	0.4	0.1	0.1		SBL2	26.142	34.431	164.624
	3023	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.3	0.1	0.1		SBL2	26.108	34.288	164.624
	3024	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.225	34.208	164.624
	3025	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.226	34.278	164.620
	3026	砕片	Ob	SCⅢb2			0.9	0.6	0.1	0.1		SBL2	26.073	34.308	164.626
	3027	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.166	34.298	164.620
	3028	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.191	34.412	164.625
	3029	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.200	34.350	164.613
	3030	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.080	34.357	164.612
	3031	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.8	0.1	0.0		SBL2	26.162	34.334	164.609
	3032	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.7	0.1	0.0		SBL2	26.168	34.395	164.624
	3033	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.4	0.2	0.0		SBL2	26.133	34.368	164.620
	3034	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.3	0.1	0.0		SBL2	26.132	34.403	164.619
	3035	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	26.013	34.573	164.631
	3036	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.8	0.1	0.1		SBL2	26.002	34.524	164.630
	3037	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.7	0.1	0.1		SBL2	26.043	34.513	164.626
	3038	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.8	0.1	0.1		SBL2	26.020	34.482	164.624
	3039	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.8	0.1	0.0		SBL2	25.965	34.499	164.624
	3040	砕片	Ob	SCⅢb2			0.1	0.1	0.1	0.0		SBL2	25.912	34.486	164.601
	3041	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.2	0.1	0.0		SBL2	25.962	34.502	164.624
	3042	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.7	0.1	0.1		SBL2	25.926	34.508	164.624
	3043	砕片	Ob	SCⅢb2			1.0	0.5	0.3	0.2		SBL2	25.881	34.511	164.608
122-16	3044	剥片	SSh	SCⅢb2			1.0	0.9	0.1	0.2	S37	SBL2	25.880	34.564	164.609
	3045	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.4	0.1	0.0		SBL2	25.833	34.527	164.602
	3046	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	185	1.3	0.7	0.4	0.2	S38	SBL2	25.943	34.566	164.612
	3047	砕片	Ob	SCⅢb2			0.2	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.956	34.560	164.610
121-12	3048	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	293	2.3	1.3	0.4	0.7	S38-3	SBL2	26.185	33.790	164.579
122-16	3049	剥片	SSh	SCⅢb2			2.9	1.6	0.5	3.0	S37	SBL2	25.589	33.241	164.565
	3052	砕片	Ob	SCⅢb2			0.6	0.6	0.1	0.0		SBL2	26.132	34.366	164.608
	4001	剥片	F.H	SCⅢb2			1.0	0.6	0.4	0.3		SBL1	22.560	43.875	165.020
	4002	剥片	F.H	SCⅢb2			1.8	0.7	0.1	0.2		SBL1	22.505	43.773	165.030

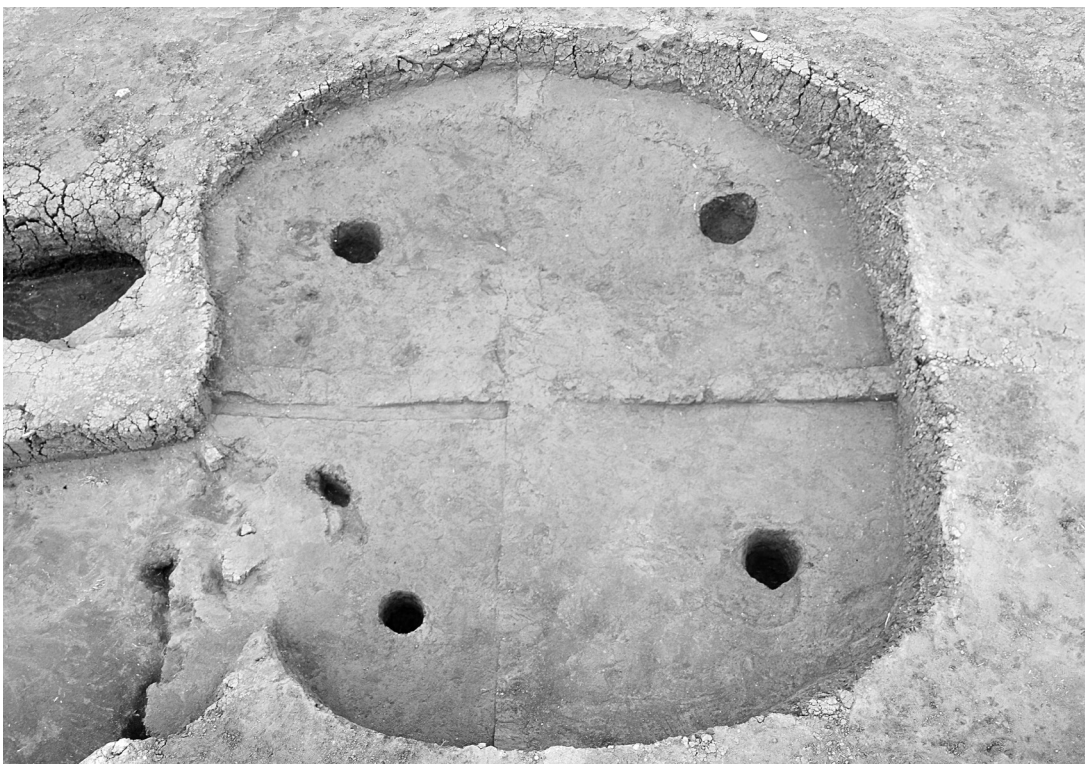
第45表　D地区　SCⅢb1・b2層出土石器一覧表（8）

図No.	遺物No.	器種	石材	層位	黒曜石産地	分析番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合No.	遺構	X座標	Y座標	Z座標
122-17	4003	剥片	F.H	SCⅢb2			1.8	1.1	0.3	1.1	S31	SBL1	22.389	43.841	165.007
121-15	4004	剥片	F.H	SCⅢb2			3.3	2.9	0.6	8.9	S32	SBL1	22.597	43.699	164.995
119-4	4006	Rフレイク	Ob	SCⅢb2	AGKT	205	5.5	3.9	1.3	18.1			24.967	35.183	164.625
	4007	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.5	0.1	0.1		SBL2	25.904	34.471	164.591
	4008	剥片	Ob	SCⅢb2			0.8	1.0	0.3	0.3		SBL2	25.996	34.251	164.581
	4009	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.2	0.1	0.0		SBL2	25.942	34.208	164.579
	4010	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.052	34.279	164.586
	4011	砕片	Ob	SCⅢb2			0.4	0.6	0.1	0.0		SBL2	25.968	34.478	164.605
	4012	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.4	0.1	0.0		SBL2	25.917	34.499	164.596
	4013	砕片	Ob	SCⅢb2			0.5	0.8	0.1	0.0		SBL2	25.987	34.449	164.581
	4014	砕片	Ob	SCⅢb2			0.2	0.4	0.1	0.0		SBL2	26.088	34.359	164.608
	4015	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.6	0.1	0.1		SBL2	25.948	34.551	164.596
	4016	砕片	Ob	SCⅢb2			0.3	0.1	0.1	0.0		SBL2	26.053	34.340	164.613
	4017	剥片	Ob	SCⅢb2	SWHD	275	2.2	1.4	0.2	1.1	S38-4		24.458	33.677	164.502
	4018	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	276	0.9	1.2	0.1	0.2	S38-4		24.232	33.815	164.507
	4019	砕片	Ob	SCⅢb2			0.8	0.3	0.1	0.0		SBL2	25.996	34.569	164.587
	4020	砕片	Ob	SCⅢb2			0.7	0.5	0.1	0.0		SBL2	26.032	34.485	164.577
	4021	砕片	SSh	SCⅢb2			0.7	0.8	0.1	0.2		SBL2	26.019	34.549	164.586
122-16	4022	剥片	SSh	SCⅢb2			1.1	2.0	0.2	0.3	S37	SBL2	25.573	34.255	164.581
122-16	4023	剥片	SSh	SCⅢb2			2.1	0.6	0.6	0.6	S37		24.215	34.316	164.556
120-7 122-16	4024	石核	SSh	SCⅢb2			5.9	6.6	3.5	123.0	S37		24.197	34.243	164.534
119-5	4025	磨石	An	SCⅢb2			12.3	10.0	4.3	698.2			22.884	34.471	164.439
122-16	4026	剥片	SSh	SCⅢb2			1.2	0.8	0.2	1.1	S37	SBL2	25.593	34.229	164.555
	4027	剥片	Ob	SCⅢb2	不可	188	2.7	1.7	0.3	1.8			21.720	33.465	164.344

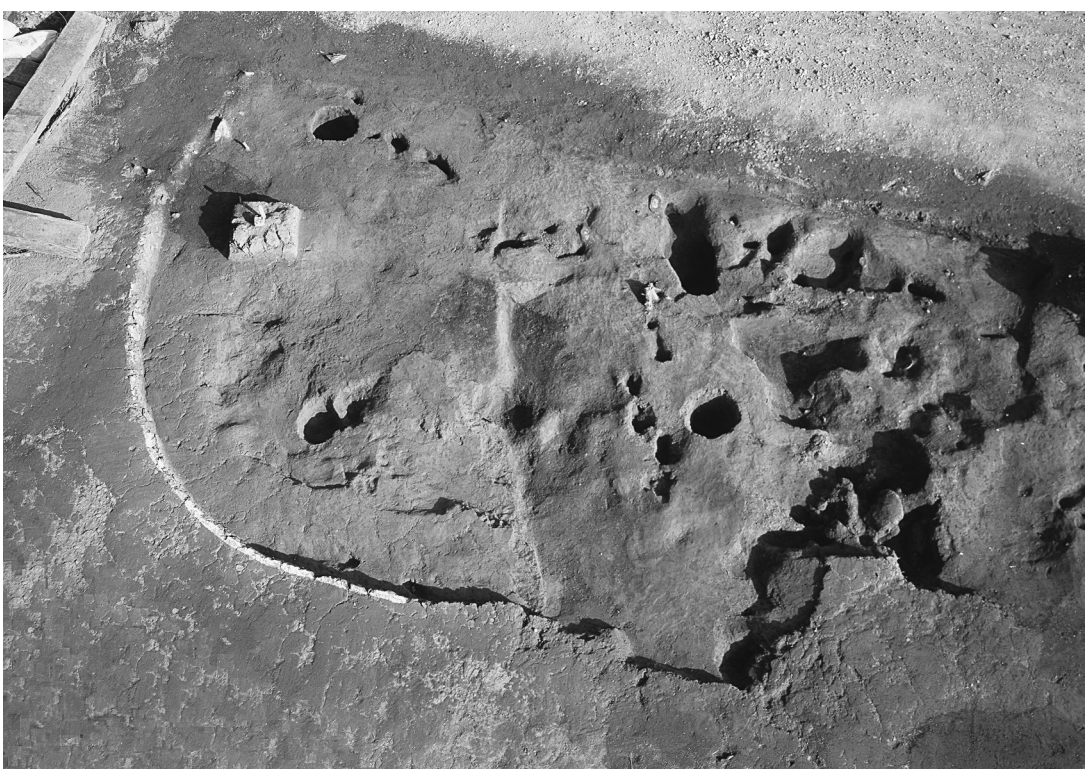
石材略語

岩石名	岩石英名	略語	デイサイト	Dacite	Da	赤玉石	Red Jasper	RJa
黒曜石	Obsidian	Ob	安山岩	Andesite	An	黄玉石	Yellow Jasper	YJa
ガラス質黒色安山岩	Glassy Black Andesite	GBA	玄武岩	Basalt	Ba	石英	Quartz	Qt
チャート	Chert	Ch	石英閃緑岩	Quarts Dirite	QD	水晶	Rock Crystal	RC
赤色チャート	Red Chert	RCh	凝灰岩	Tuff	Tu	メノウ	Agate	Ag
頁岩	Shale	Sh	緑色凝灰岩	Green Tuff	GT	玉髄	Chalcedony	Cha
珪質頁岩	Siliceous Shale	SSh	粘板岩	Slate	Sl	ヒスイ	Jedeite	Je
ホルンフェルス	Hornfels	Hor	泥岩	Mudstone	Mu	碧玉	Jasper	Ja
F.ホルンフェルス	F.Hornfels	F.H	砂岩	Sand Stone	SS	滑石	Talc	Ta
流紋岩	Rhyolite	Rhy	礫岩	Conglomerate	Co	蛇紋岩	Serpentine	Se

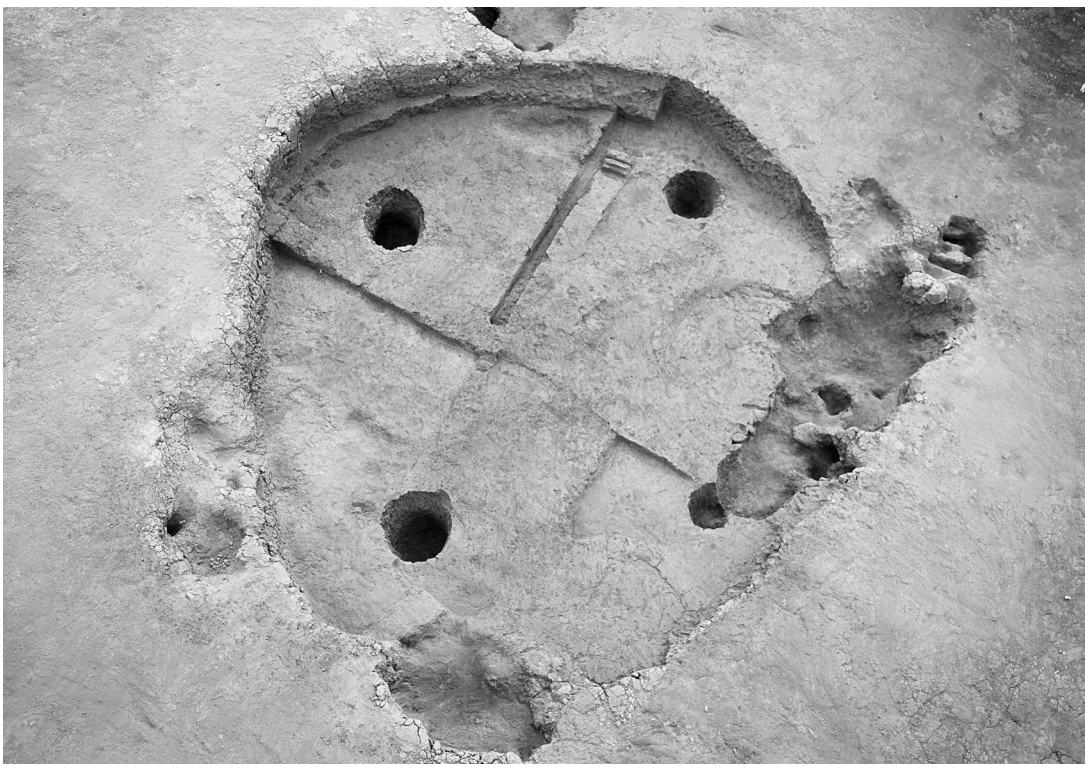
写　真　図　版



E地区（No.9～11地点）第1号住居址



E地区（No.9～11地点）第2号住居址



Ｅ地区（No.9 ～11地点）第３号住居址

Ｅ地区（No.9 ～11地点）第４号住居址

Ｅ地区（No.9 ～11地点）第５号住居址

Ｅ地区（No.9 ～11地点）第44号土坑

Ｅ地区（№9～11地点）第３号溝状遺構（谷Ｃ付近）

Ｅ地区（№9～11地点）第３号溝状遺構土層断面（Ｃ－Ｃ'）

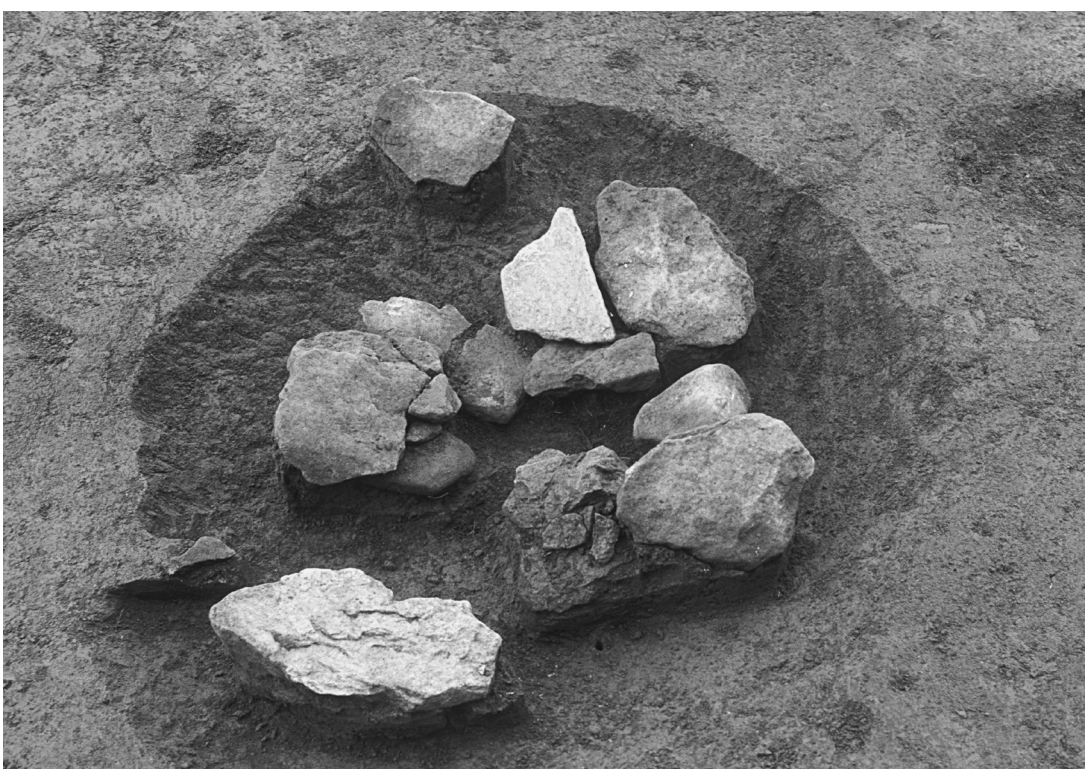
Ｅ地区（№9～11地点）第３号溝状遺構土層断面（Ｅ－Ｅ'）

Ｅ地区（№9～11地点）第３号溝状遺構ＳＤＫ５

Ｅ地区（No.9 ～11地点）第３号溝状遺構ＳＤＫ14

Ｅ地区（No.9 ～11地点）第３号溝状遺構ＳＤＫ23

Ｅ地区（No.９～11地点）第51号土坑



Ｅ地区（No.９～11地点）第２号集石

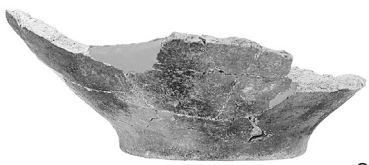
SB1-1

SB2-1

SD3-1

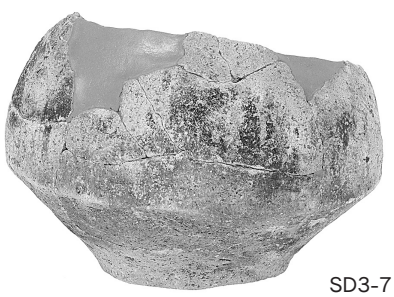
SD3-3

SD3-4



SB3-1

SD3-8

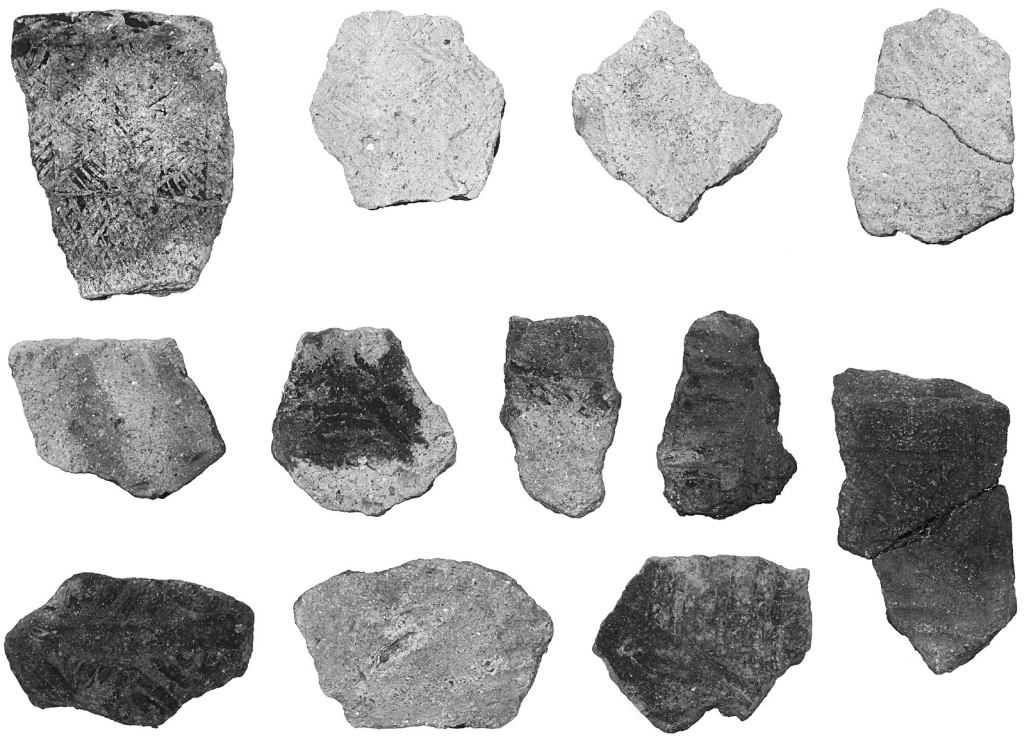


SD3-7

SD3-11

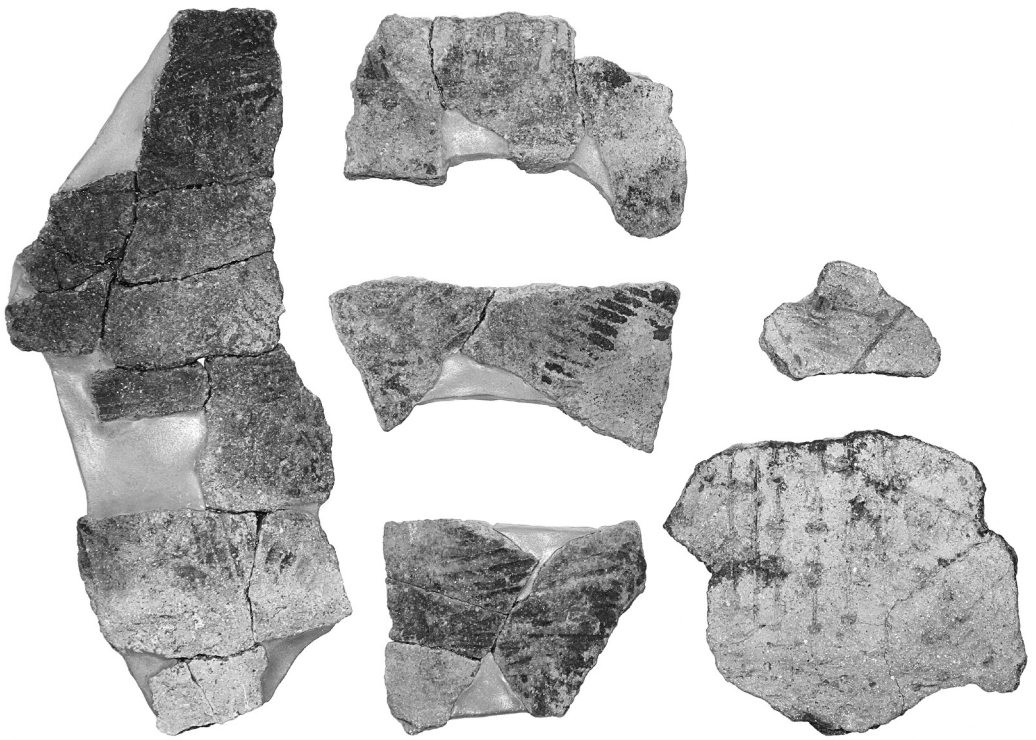
SD3-9

E地区（No.9～11地点）弥生土器



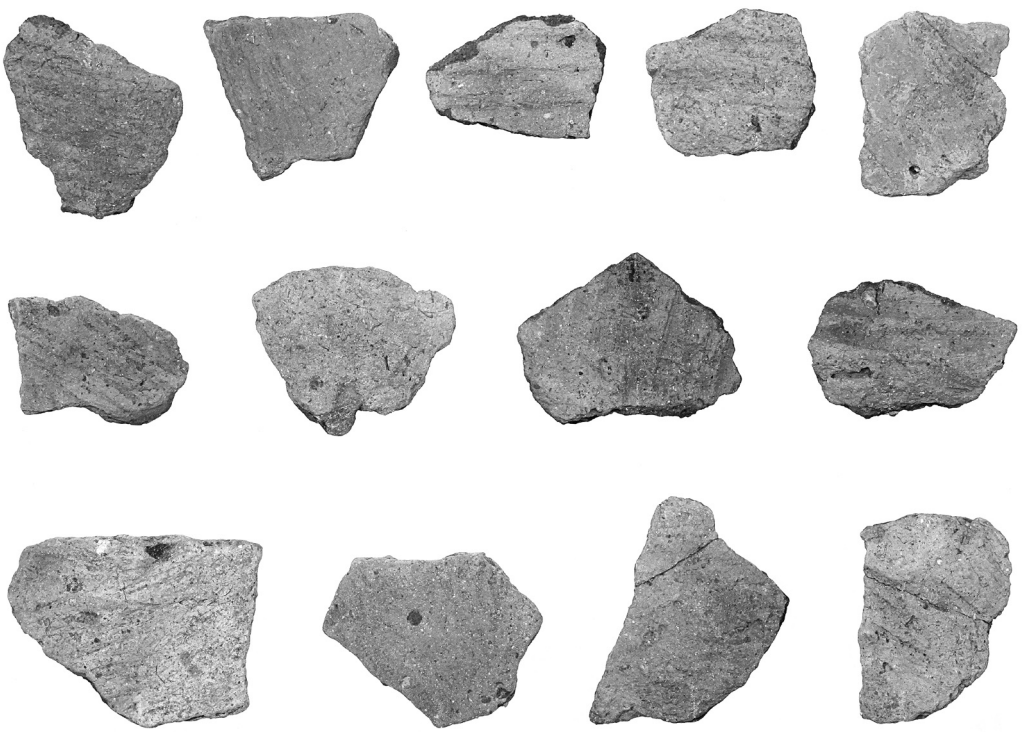
Ｅ地区（No.９～11地点）第Ⅰ群土器（上段）・第Ⅱ群ａ類土器（中～下段）

Ｅ地区（No.９～11地点）第Ⅱ群ａ類土器

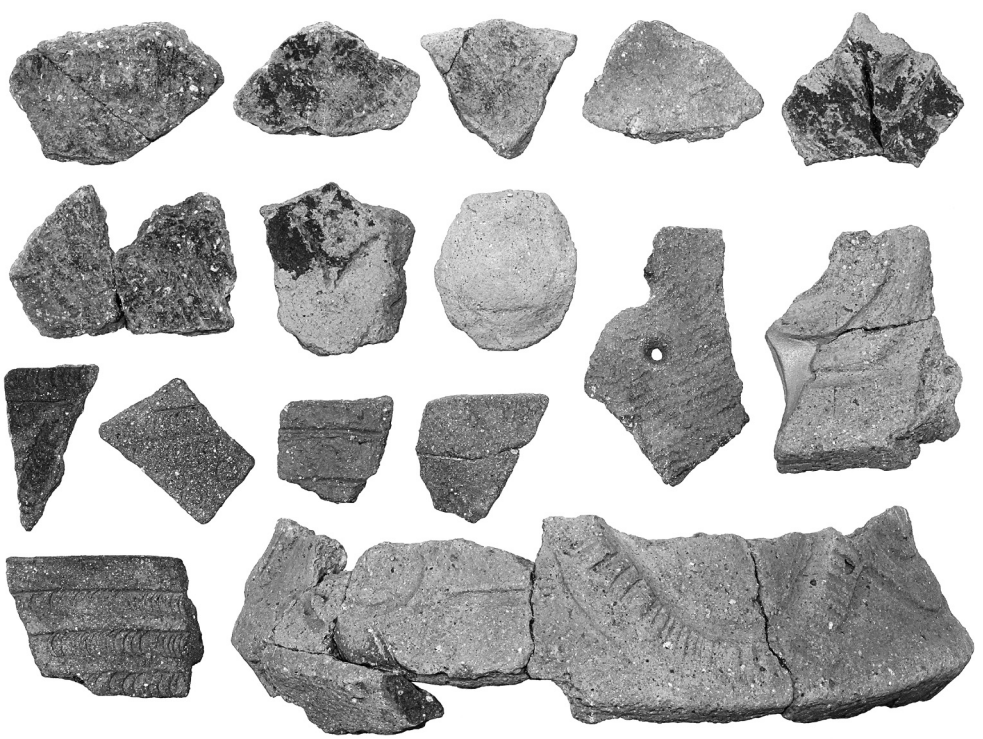


E地区（No.9～11地点）第Ⅱ群a類土器（中央・左）・b類土器（右）

E地区（No.9～11地点）第Ⅱ群c類土器



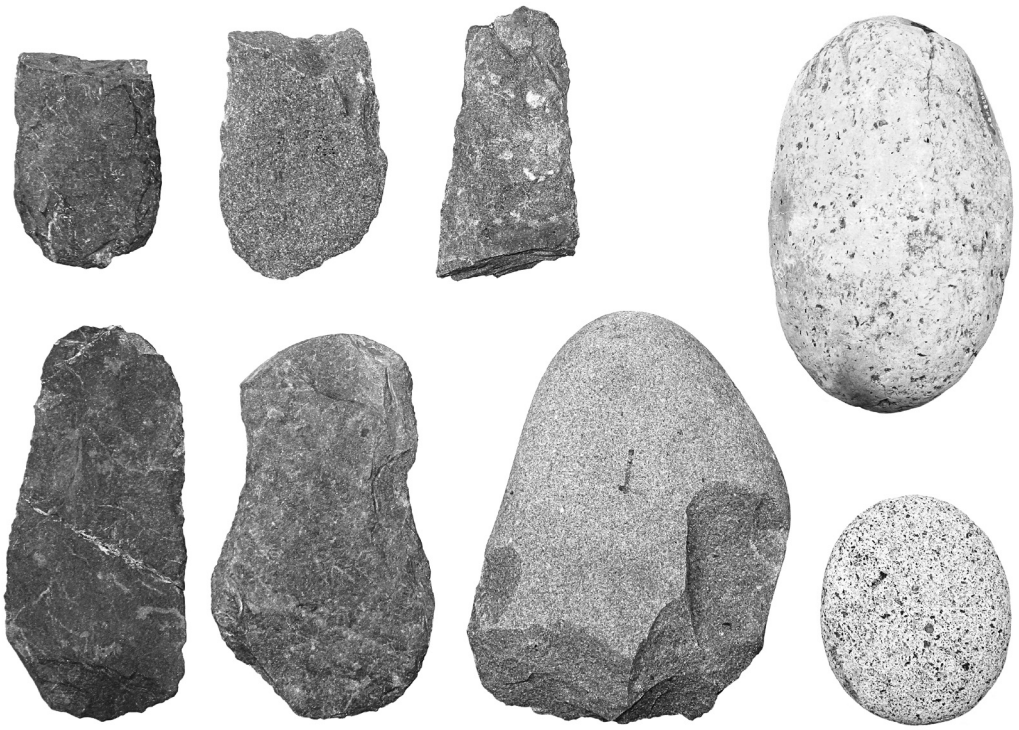
E地区（No.9～11地点）第Ⅱ群ｄ類土器



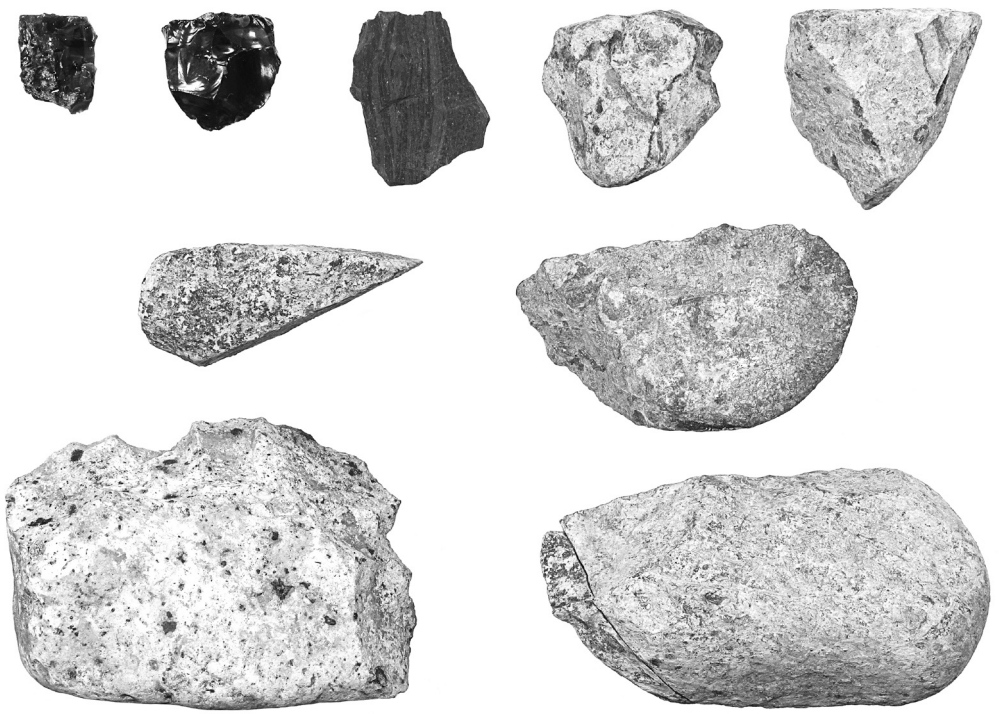
E地区（No.9～11地点）第Ⅲ群・第Ⅳ群・第Ⅴ群土器

E地区（No.9～11地点）縄文時代遺構外出土石器（尖頭器）

E地区（No.9～11地点）縄文時代遺構外出土石器（石鏃・楔形石器・削器・ＲＦ・石匙・石錐）

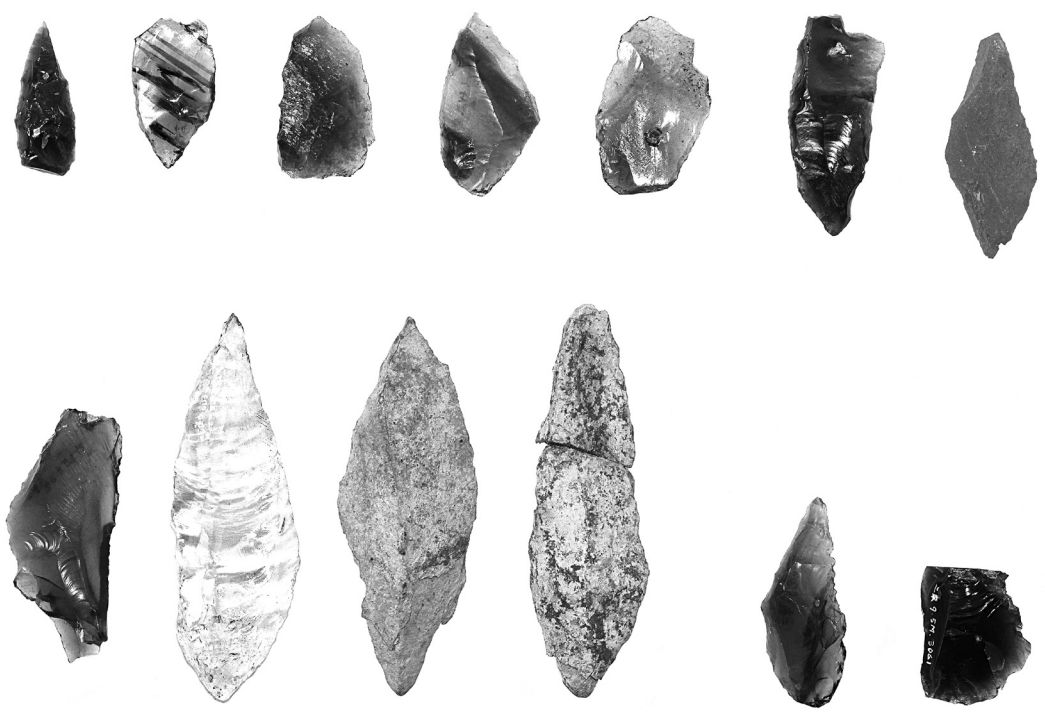


E 地区 （No.9 ～11地点） 縄文時代遺構外出土石器 （打製石斧・礫斧・磨石）

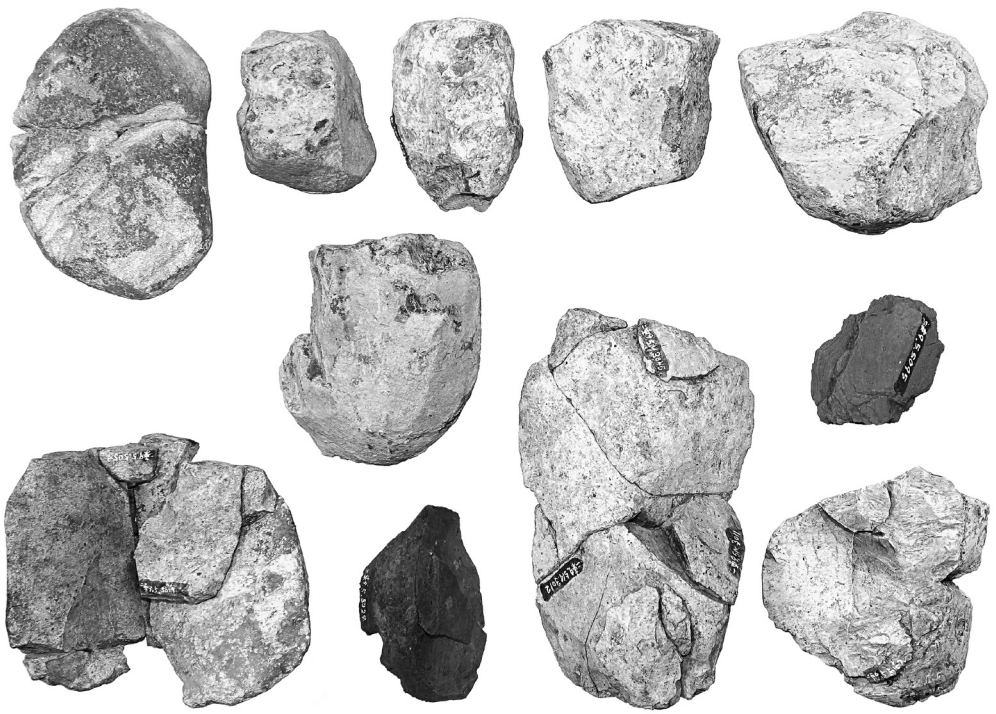


E 地区 （No.9 ～11地点） 縄文時代遺構外出土石器 （石核 Ⅰ 類・ Ⅱ 類）

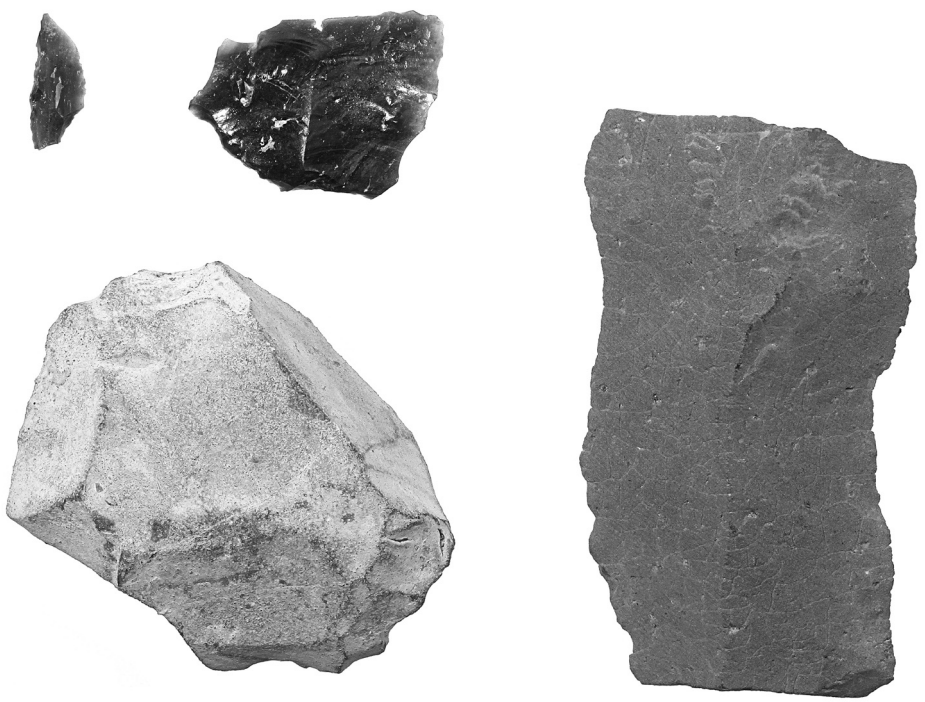
E 地区 （No. 9 ～11地点） 縄文時代遺構外出土石器 （石核 Ⅱ 類）



E 地区 （No. 9 ～11地点） 休場層出土石器 （ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器）



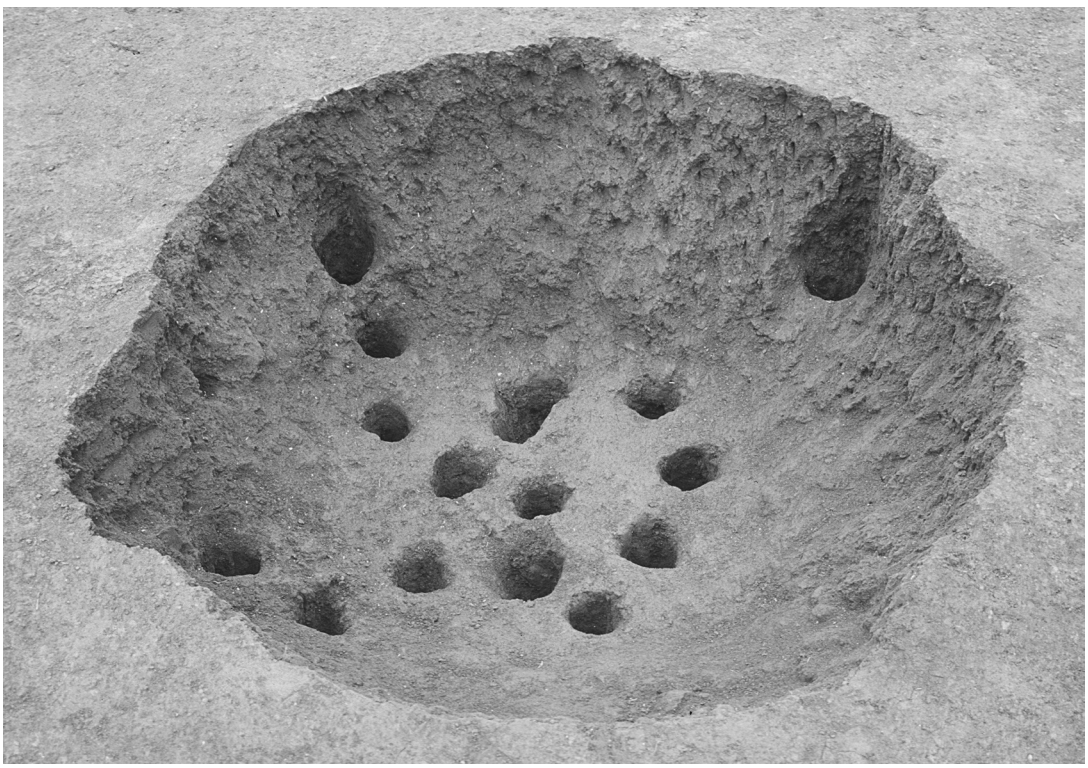
E 地区 （No.9 ～11地点） 休場層出土石器 （敲石・石核・接合資料）



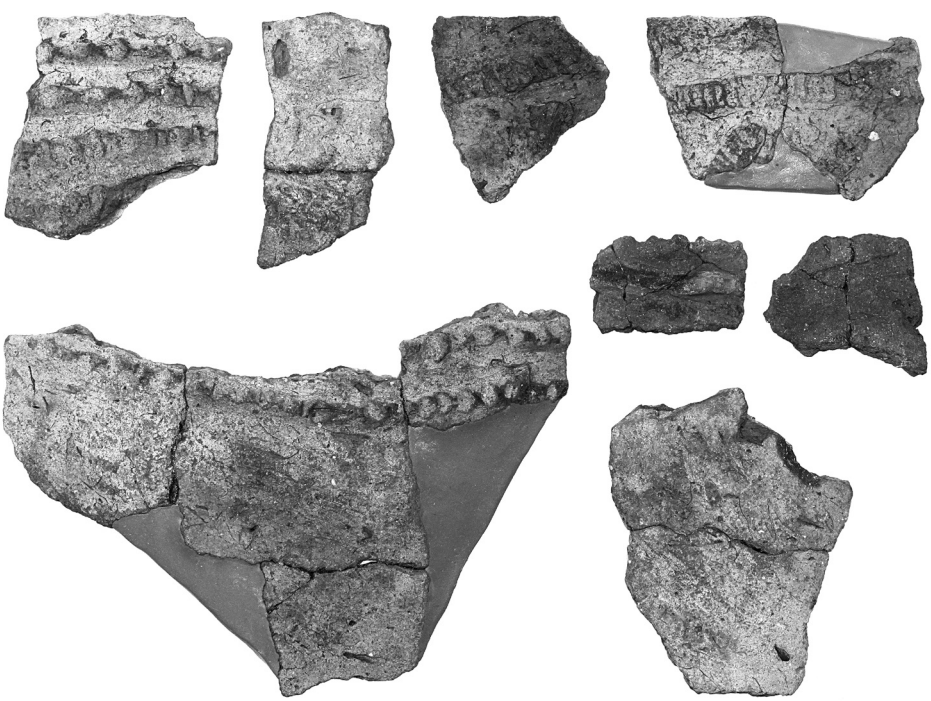
E 地区 （No.9 ～11地点） 第Ⅱ黒色帯出土石器 （ナイフ形石器・掻器・ＲＦ・石核）

Ｄ地区（№12地点）第１号住居址

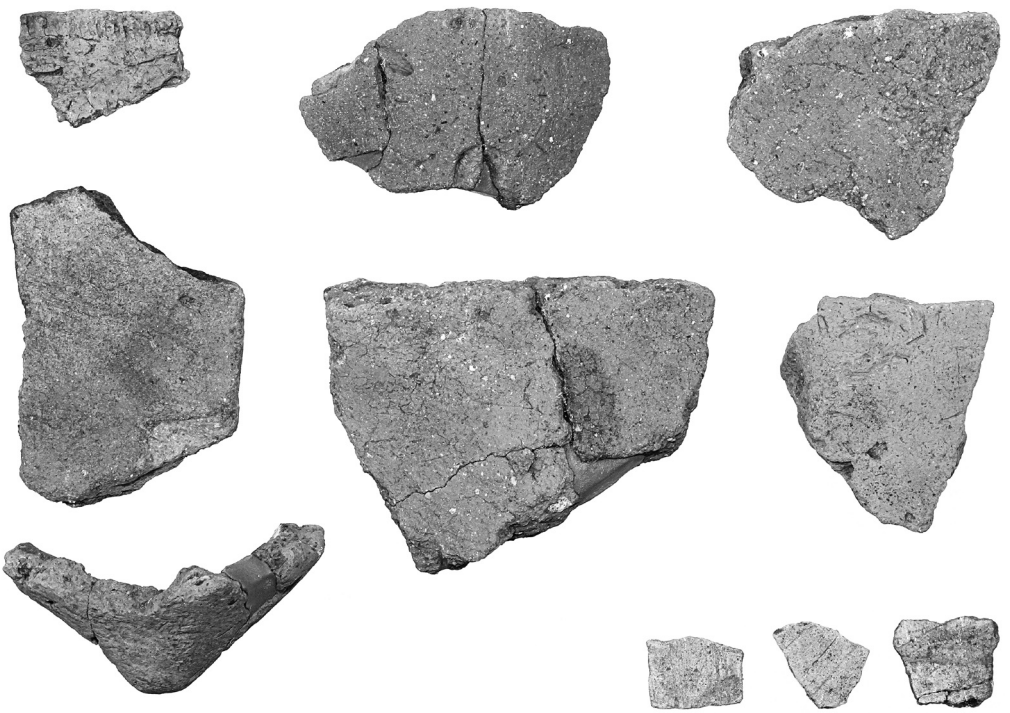
Ｄ地区（№12地点）第１号住居址カマド付近



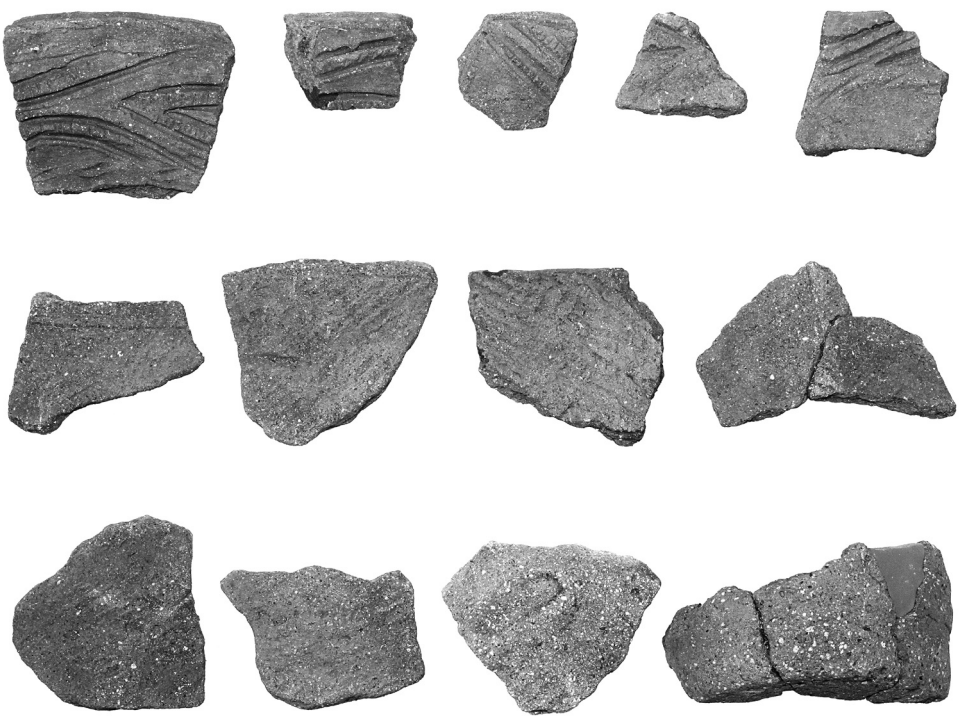
D地区 (No.12地点) 第１号土坑



D地区 (No.12地点) 第Ⅰ群ａ類土器



D地区（No.12地点）第Ⅰ群b類土器（左上端）・c類土器・d類土器（右下）

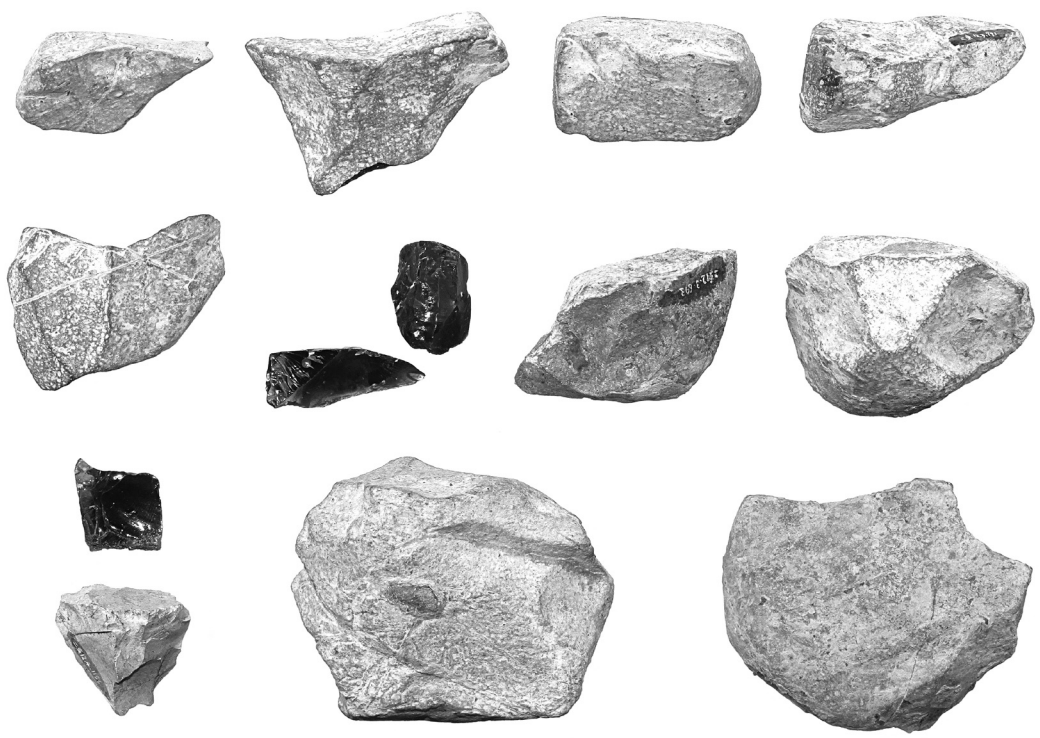


D地区（No.12地点）第Ⅱ群a類土器（上段～中段左）・c類土器（中段右～下段）

Ｄ地区（№12地点）第Ⅱ群ｄ類（左上）・第Ⅲ群土器（右）・第Ⅳ群土器（左下）

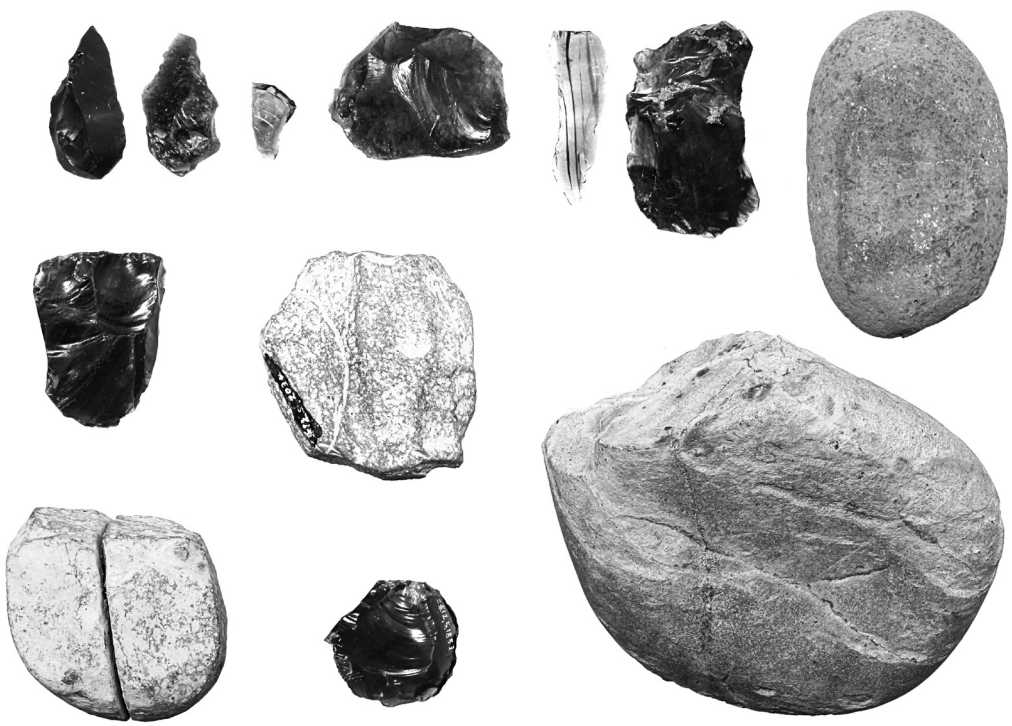
Ｄ地区（№12地点）縄文時代遺構外出土石器（石鏃・削器・ＲＦ・石匙）

D地区（No.12地点）縄文時代遺構外出土石器（石錘・敲石・磨石・打製石斧・礫斧）

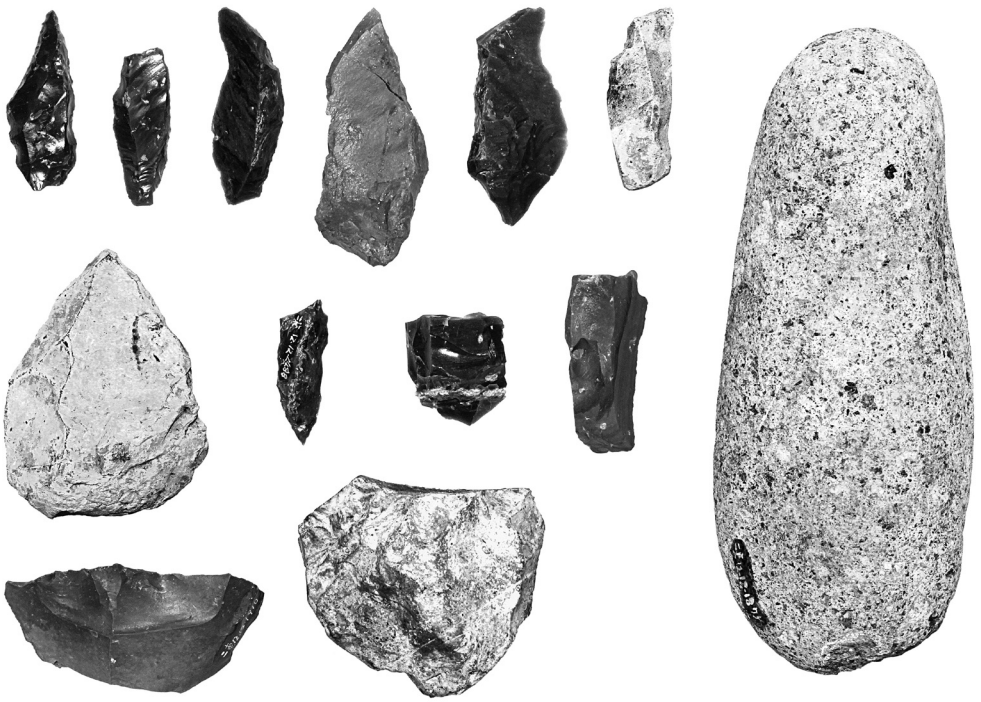


D地区（No.12地点）縄文時代遺構外出土石器（石核Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類）

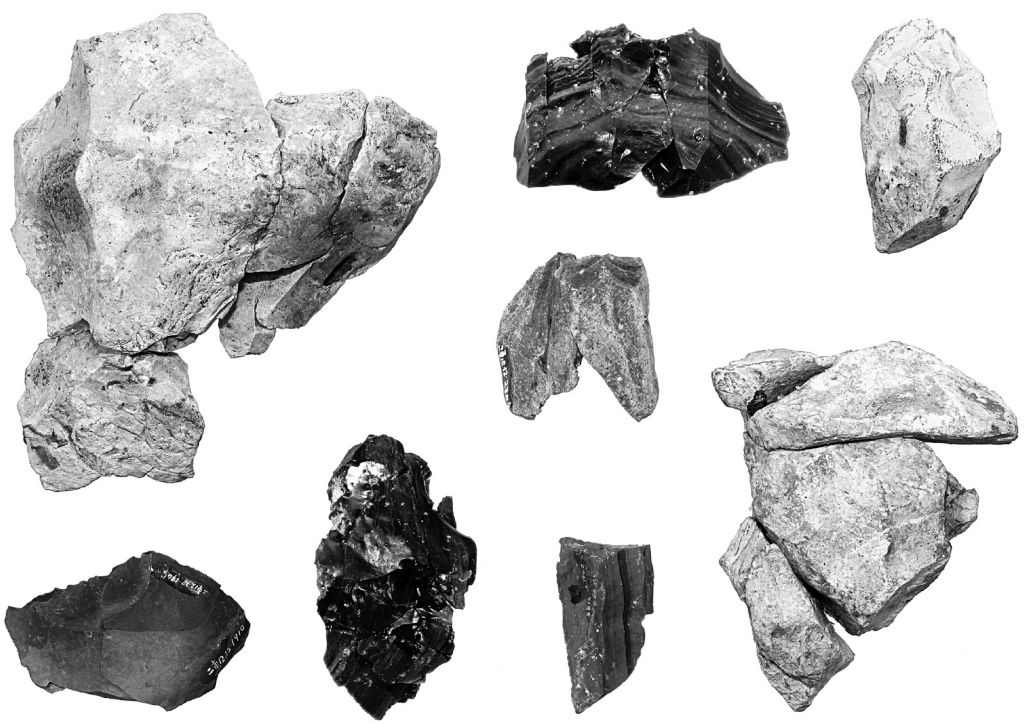
Ｄ地区（№12地点）縄文時代遺構外出土石器（石核Ⅳ類）



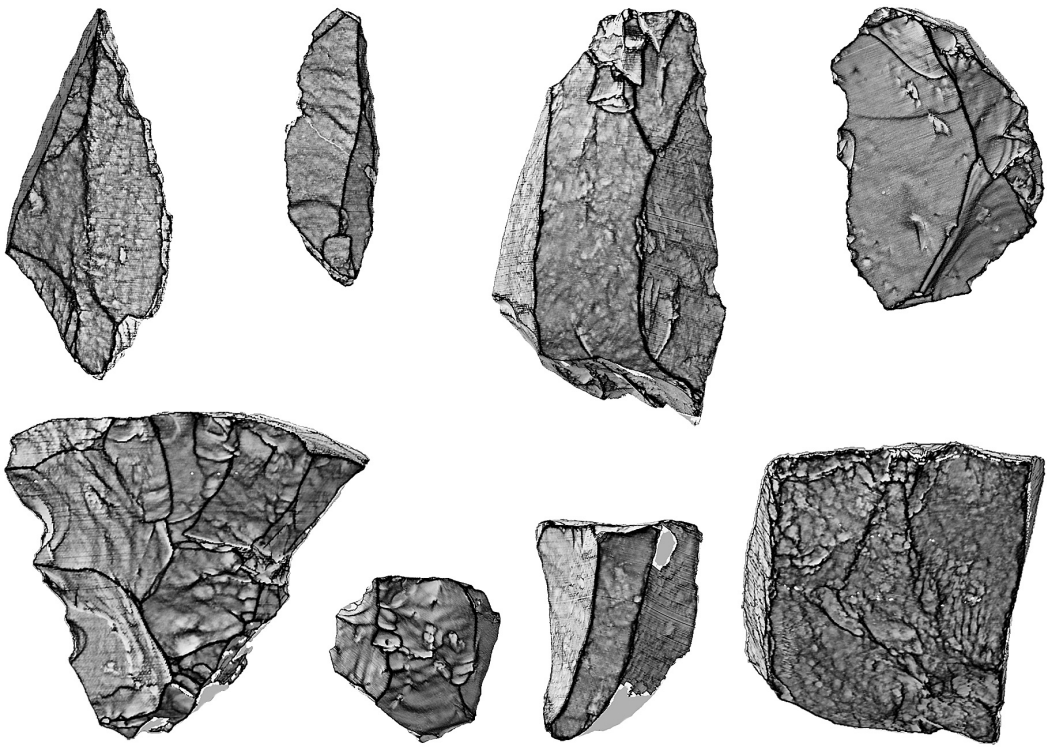
Ｄ地区（№12地点）休場層出土石器（ナイフ形石器・削器・ＲＦ・石核・磨石）



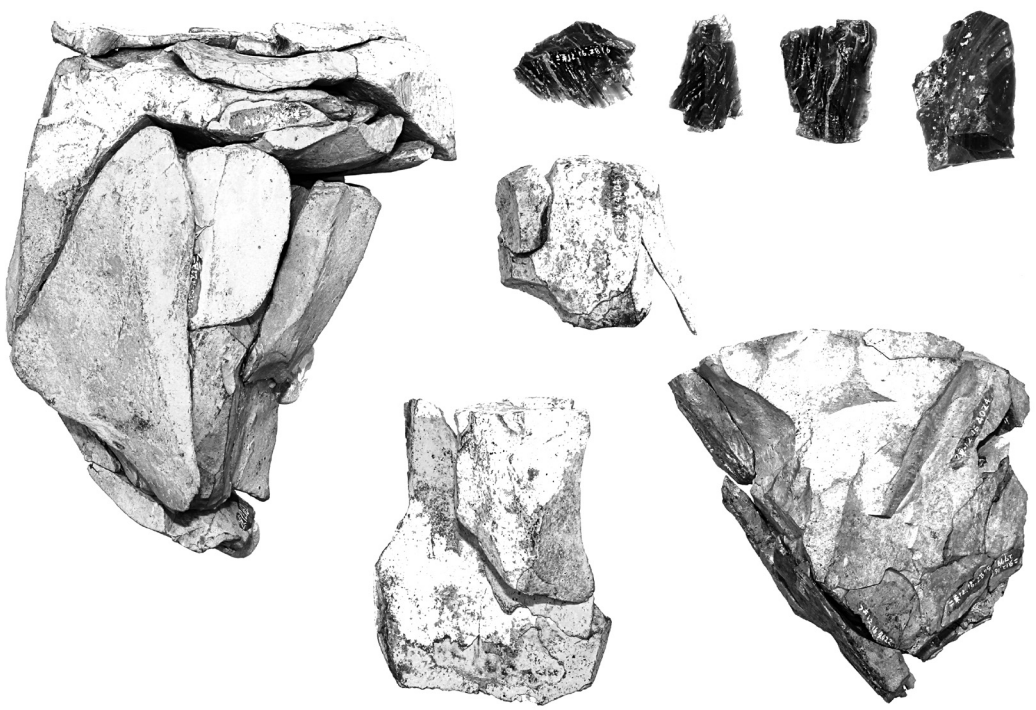
Ｄ地区（No.12地点）第Ⅱ黒色帯出土石器（ナイフ形石器・ＲＦ・石核・敲石）



Ｄ地区（No.12地点）第Ⅱ黒色帯出土石器（接合資料）



Ｄ地区（№12地点）第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（ナイフ形石器・ＲＦ・石核）



Ｄ地区（№12地点）第Ⅲスコリア帯黒色帯２出土石器（接合資料）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	はちべえぼらいせき（だいさんじ） だいにとうめいNo.9・10・11・12 ちてん
書　　名	八兵衛洞遺跡（第3次） 第二東名 No.9・10・11・12 地点
副 書 名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	沼津市－5
シ リ ー ズ 名	沼津市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 99 集
編 著 者 名	池谷信之　北佳奈子
編 集 機 関	沼津市教育委員会
所　在　地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町 16 番1号 TEL 055-931-2500（代）
発 行 年 月 日	西暦 2010 年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査 期間	調査 面積	調査 原因
はちべえぼらいせき 八兵衛洞 遺跡	ぬまづし 沼津市 あしたかおのうえ 足高尾上 46-5 ほか	22203	281	世界測地系 35° 9′ 8″	世界測地系 138° 50′ 42″	19981015 ～ 19990331	10,777 ㎡	第二東名 建設事業
				日本測地系 35° 8′ 56″	日本測地系 138° 50′ 53″	19990412 ～ 19990709		

所収 遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記 事項
八兵衛洞 遺跡 E地区 （No.9～11 地点）	集落址	弥生後期	住居址5基 溝状遺構1本 （土坑 30 基伴う） 土坑1基	弥生時代後期の土器	土坑を伴う 溝状遺構 （SD3）
		縄文	土坑7基 集石2基	早期前葉～中期末葉土器 （鵜ヶ島台式中心） 尖頭器・石鏃・削器・RF・楔形石器・石匙・石錐・石核・打製石斧・礫斧・磨石・石皿	
		旧石器	礫群5基 配石 28 基 石器ブロック9基	ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・掻器・RF・石核・敲石	
八兵衛洞 遺跡 D地区 （No.12 地点）	集落址	古代	住居址1基	土器（9世紀中頃）	火災住居
		縄文	土坑1基	早期末葉～後期初頭土器 （入海式中心） 石鏃・削器・RF・石匙・石核・打製石斧・礫斧・石錘・磨石・敲石・石皿	
		旧石器	礫群6基 配石 10 基 石器ブロック7基	ナイフ形石器・削器・RF・石核・敲石・磨石	SCⅢb2層 石器接合 資料

沼津市文化財調査報告書　第99集
八兵衛洞遺跡（第３次）
第二東名№９・10・11・12地点
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
沼津市－５

平成22年３月26日　印刷
平成22年３月30日　発行

編　集／沼津市教育委員会
　　沼津市御幸町16番1号
発　行／沼津市教育委員会
　　中日本高速道路株式会社
印　刷／文光堂印刷株式会社